

草加市子ども教育の連携に関する アンケート調査報告書

平成28年2月
草加市

目 次

第1部 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の方法	1
3 配付・回収状況	1
4 地域別集計について	2
5 利用にあたって	2
第2部 調査結果報告	3
I 幼稚園・保育園・認定こども園：年長児・5歳児の保護者	5
1 基本情報	5
(1) 幼稚園・保育園の回答割合	5
(2) お子さんの性別	5
(3) 兄弟姉妹の人数	5
(4) 祖父母との同居	6
(5) アンケート回答者の続柄	6
2 お子さんの生活の様子について	7
(1) お子さんの生活の様子について	7
3 家庭での教育について	8
(1) 家庭での教育やしつけの重要性	8
(2) 家庭でのしつけや教育で重視していること	8
(3) 子どもに対するしつけや教育の実践	10
4 小学校入学にあたっての期待や不安について	11
(1) 小学校入学後の生活で楽しみにしていることや期待していること	11
(2) 小学校入学後の不安や心配	13
(3) 不安や心配に対する対応	15
(4) 不安や心配がない理由	16
5 幼稚園・保育園等、小学校、中学校（幼保小中）の連携について	17
(1) 草加市の幼保小中連携に関する取り組みについて	17
(2) 草加市の幼保小中連携の重要性	17
(3) 小学校入学に向けた教育活動の実施	18
(4) 小学校入学に向けて、幼稚園や保育園で取り組んでももらいたいこと	19
6 お子さんの将来像について	21
(1) お子さんの将来像について	21
7 自由記述	23
II 小学校：1年生の保護者	24
1 基本情報	24
(1) お子さんの性別	24
(2) 兄弟姉妹の人数	24
(3) 祖父母との同居	24
(4) アンケート回答者の続柄	24
2 お子さんの生活の様子について	25
(1) お子さんの生活の様子について	25

3 家庭での教育について	26
(1) 家庭での教育やしつけの重要性	26
(2) 家庭でのしつけや教育で重視していること	26
(3) 子どもに対するしつけや教育の実践	27
4 小学校入学後のお子さんの様子について	27
(1) 小学校入学後の生活で楽しんでいること	27
(2) 小学校入学後の不安	28
(3) 不安や心配に対する対応	29
(4) 不安がない理由	29
5 幼稚園・保育園等、小学校、中学校（幼保小中）の連携について	30
(1) 草加市の幼保小中連携に関する取り組みについて	30
(2) 草加市の幼保小中連携の重要性	30
(3) 幼児期からの学びを生かした教育活動の実施	30
(4) 小学校で取り組んでほしいこと	31
6 お子さんの将来像について	32
(1) お子さんの将来像について	32
7 自由記述	33
III 小学校：6年生の保護者	34
1 基本情報	34
(1) お子さんの性別	34
(2) 兄弟姉妹の人数	34
(3) 祖父母と同居	34
(4) アンケート回答者の続柄	34
2 お子さんの生活の様子について	35
(1) お子さんの生活の様子について	35
3 お子さんの学習の様子について	36
(1) 学校の授業の理解度	36
(2) 学校の授業を理解していない理由	36
(3) 1日の平均学習時間	37
4 家庭での教育について	38
(1) 家庭での教育やしつけの重要性	38
(2) 家庭でのしつけや教育で重視していること	38
(3) 子どもに対するしつけや教育の実践	39
5 中学校入学にあたっての期待や不安について	39
(1) 中学校入学後の生活で楽しみにしていることや期待していること	39
(2) 中学校入学後の不安や心配	40
(3) 不安や心配に対する対応	41
(4) 不安や心配がない理由	41
6 幼稚園・保育園等、小学校、中学校（幼保小中）の連携について	42
(1) 草加市の幼保小中連携に関する取り組みについて	42
(2) 草加市の幼保小中連携の重要性	42
(3) 中学校に安心して入学できるようにする教育活動の実施	42
(4) 中学校入学に向けて取り組んでほしいこと	43
7 お子さんの将来像について	44
(1) お子さんの将来像について	44

8 自由記述	45
IV 中学校：1年生の保護者	46
1 基本情報	46
(1) お子さんの性別	46
(2) 兄弟姉妹の人数	46
(3) 祖父母との同居	46
(4) アンケート回答者の続柄	46
2 お子さんの生活の様子について	47
(1) お子さんの生活の様子について	47
3 お子さんの学習の様子について	48
(1) 学校での授業の理解度	48
(2) 学校の授業を理解していない理由	48
(3) 1日の平均学習時間	49
4 家庭での教育について	50
(1) 家庭での教育やしつけの重要性	50
(2) 家庭でのしつけや教育で重視していること	50
(3) 子どもに対するしつけや教育の実践	51
5 中学校入学後のお子さんの様子について	51
(1) 中学校入学後の生活で楽しんでいること	51
(2) 中学校入学後の不安	52
(3) 不安や心配に対する対応	53
(4) 不安がない理由	53
6 幼稚園・保育園等、小学校、中学校（幼保小中）の連携について	54
(1) 草加市の幼保小中連携に関する取り組みについて	54
(2) 草加市の幼保小中連携の重要性	54
(3) 小学校で身に付けたことを生かす教育活動の実施	55
(4) 小中連携の教育のために取り組んでほしいこと	55
7 お子さんの将来像について	56
(1) お子さんの将来像について	56
8 自由記述	57
V 中学校：3年生の保護者	58
1 基本情報	58
(1) お子さんの性別	58
(2) 兄弟姉妹の人数	58
(3) 祖父母との同居	58
(4) アンケート回答者の続柄	58
2 お子さんの生活の様子について	59
(1) お子さんの生活の様子について	59
3 お子さんの学習の様子について	60
(1) 学校での授業の理解度	60
(2) 学校の授業を理解していない理由	60
(3) 1日の平均学習時間	61
4 家庭での教育について	62
(1) 家庭での教育やしつけの重要性	62
(2) 家庭でのしつけや教育で重視していること	62

(3) 子どもに対するしつけや教育の実施	63
5 お子さんの中学校生活の様子について	63
(1) 中学校生活で楽しんでいること	63
(2) 中学校生活での不安	64
(3) 不安や心配に対する対応	65
6 幼稚園・保育園等、小学校、中学校（幼保小中）の連携について.....	65
(1) 草加市の幼保小中連携に関する取り組みについて.....	65
(2) 草加市の幼保小中連携の重要性	65
7 お子さんの将来像について	66
(1) お子さんの将来像について	66
8 自由記述	67
VI 幼稚園・保育園・認定こども園：教員・保育士	68
1 基本情報	68
(1) 幼稚園・保育園の回答割合	68
(2) 職名	68
(3) 教員・保育士歴	68
(4) 園児の就学先小学校（平成27年3月卒園、上位3校）	69
2 幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について.....	70
(1) 他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携の実施状況.....	70
(2) 交流・連携の相手方	71
(3) 交流・連携の参加者	72
(4) 交流・連携の内容	74
(5) 重要な交流・連携の取組	78
(6) 交流・連携の窓口の主な担当者	82
(7) 交流・連携の窓口の担当者の固定化	83
(8) 交流・連携を行って良かった点	84
(9) 交流・連携の課題となる点	86
(10) 交流・連携で改善したい点	88
(11) 他園・校との交流・連携について改善されたこと.....	90
(12) 交流・連携が困難な理由	92
3 就学に向けた取組について	93
(1) 交流・連携以外に小学校教育への接続を意識した幼児教育の取組状況.....	93
(2) 小学校教育への接続を意識して行っている幼児教育.....	94
(3) 重要な小学校教育への接続を意識した幼児教育.....	96
(4) 小学校教育への接続を意識した幼児教育の実施時期.....	98
(5) 就学に向けて行っている具体的な取組	100
(6) 小学校に対して期待すること	104
4 家庭教育への支援について	106
(1) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について.....	106
(2) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由.....	107
(3) 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組	108
(4) 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法.....	109
(5) 家庭との連携・家庭教育への支援での課題.....	110
5 自由記述	112
VII 小学校：教員	113
1 基本情報	113

(1) 職名	113
(2) 教員歴	113
(3) 入学児童の出身園数	114
(4) 入学児童の出身園（平成27年4月入学、上位3園）	114
2 幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について	115
(1) 幼稚園・保育園・他の小学校・中学校との交流・連携の実施状況	115
(2) 交流・連携の相手方	115
(3) 交流・連携の参加者	116
(4) 交流・連携の内容	117
(5) 重要な交流・連携の取組	119
(6) 交流・連携の窓口の主な担当者	123
(7) 交流・連携の窓口の担当者の固定化	123
(8) 交流・連携を行って良かった点	124
(9) 交流・連携の課題となる点	125
(10) 交流・連携で改善したい点	126
(11) 他園・校との交流・連携について改善されたこと	127
(12) 交流・連携が困難な理由	127
3 「小1プロブレム」について	128
(1) 「小1プロブレム」がみられた人数	128
(2) 「小1プロブレム」の発生状況	129
(3) 「小1プロブレム」の要因	129
(4) 「小1プロブレム」への対応	130
(5) 「小1プロブレム」の発生の予防や解消のための対応策	130
(6) 入学に際しての配慮や準備	131
(7) 幼稚園や保育園に対して期待すること	132
4 中学校進学に向けた取組について	133
(1) 中学校進学に向けて行っている具体的な取組	133
(2) 中学校に対して期待すること	134
5 家庭教育への支援について	135
(1) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について	135
(2) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由	135
(3) 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組	136
(4) 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法	136
(5) 家庭との連携・家庭教育への支援での課題	137
6 自由記述	138
VIII 中学校：教員	139
1 基本情報	139
(1) 職名	139
(2) 教員歴	139
2 幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について	140
(1) 幼稚園・保育園・小学校・他の中学校との交流・連携の実施状況	140
(2) 交流・連携の相手方	140
(3) 交流・連携の参加者	141
(4) 交流・連携の内容	142
(5) 重要な交流・連携の取組	144
(6) 交流・連携の窓口の主な担当者	147
(7) 交流・連携の窓口の担当者の固定化	147

(8) 交流・連携を行って良かった点	148
(9) 交流・連携の課題となる点	149
(10) 交流・連携で改善したい点	150
(11) 他園・校との交流・連携について改善されたこと	151
(12) 交流・連携が困難な理由	151
3 「中1ギャップ」について	152
(1) 「中1ギャップ」の発生状況	152
(2) 「中1ギャップ」の状況	152
(3) 「中1ギャップ」の要因	153
(4) 「中1ギャップ」への対応	153
(5) 「中1ギャップ」の発生の予防や解消のための対応策	154
(6) 入学に際しての配慮や準備	155
4 中学校進学に向けた取組について	156
(1) 進学してくる小学生に対して行っている具体的な取組	156
(2) 小学校に対して期待すること	157
5 家庭教育への支援について	157
(1) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について	157
(2) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由	158
(3) 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組	158
(4) 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法	159
(5) 家庭との連携・家庭教育への支援での課題	159
6 自由記述	160
IX 保護者の調査結果の比較	161
1 お子さんの生活の様子について	161
(1) お子さんの生活の様子について	161
2 お子さんの学習の様子について	163
(1) 学校での授業の理解度	163
(2) 学校の授業を理解していない理由	163
(3) 1日の平均学習時間	164
3 家庭での教育について	165
(1) 家庭でのしつけや教育で重視していること	165
(2) 重視するしつけや教育を子どもが実践できているか	166
4 入学にあたっての期待や不安、入学後のお子さんの様子について	167
(1) 入学後の生活で楽しみにしていることや期待していること、楽しんでいること	167
(2) 入学後の不安や心配	168
(3) 不安や心配に対する対応	170
(4) 不安がない理由	171
5 幼稚園・保育園等、小学校、中学校（幼保小中）の連携について	172
(1) 草加市の幼保小中連携に関する取り組みについて	172
(2) 草加市の幼保小中連携の重要性	172
6 お子さんの将来像について	173
(1) お子さんの将来像について	173
X 教員・保育士の調査結果の比較	174
1 幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について	174
(1) 交流・連携の実施状況	174

(2) 交流・連携の相手方	174
(3) 交流・連携の内容	175
(4) 交流・連携を行って良かった点	176
(5) 交流・連携の課題となる点	177
(6) 交流・連携で改善したい点	178
(7) 他園・校との交流・連携について改善されたこと	179
2 就学・進学に向けた取組について	180
(1) 幼稚園・保育園と小学校が相互に期待すること	180
(2) 中学校進学に向けて行っている具体的な取組（小）／ 進学してくる小学生に対して 行っている具体的な取組（中）	181
(3) 小学校と中学校が相互に期待すること	182
3 家庭教育への支援について	183
(1) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について	183
(2) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由	183
(3) 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組	184
(4) 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法	185
(5) 家庭との連携・家庭教育への支援での課題	186
資料編	187
保護者用（年長児・5歳児） 調査票	189
保護者用（小学校1年生） 調査票	190
保護者用（小学校6年生） 調査票	191
保護者用（中学校1年生）	193
保護者用（中学校3年生） 調査票	194
教員・保育士用（幼稚園・認定こども園・保育園） 調査票	196
教員・保育士用（小学校） 調査票	198
教員・保育士用（中学校） 調査票	200

第 1 部 調査の概要

1 調査の目的

市内の幼稚園・保育園・認定こども園・小学校・中学校における、子ども教育の連携についての実態を把握し、その実態を踏まえ、子ども教育の連携推進に関わる施策について検討を行う際の基礎資料とするため、アンケート調査を実施しました。

2 調査の方法

【対象者】

	保護者	教員及び保育士
幼稚園・保育園・認定こども園	年長児又は5歳児の保護者	園長、副園長又は主査、5歳児の担任
小学校	1年生及び6年生の保護者	校長、教頭、主幹教諭又は教務主任、生徒指導主任、各学年主任、特別支援学級の担任
中学校	1年生及び3年生の保護者	

【調査方法】市内の幼稚園・保育園・認定こども園、市立小学校、市立中学校に直接配付・回収

【調査期間】平成27年6月16日～6月29日

3 配付・回収状況

対象者		配付数(件)	回収数(件)	回収率(%)
保護者	幼稚園 年長児	1,310	1,082	82.6
	保育園 5歳児	575	464	80.7
	小学校 1年生	2,098	1,849	88.1
	小学校 6年生	2,245	1,770	78.8
	中学校 1年生	2,081	1,790	86.0
	中学校 3年生	2,126	1,489	70.0
保護者計		10,435	8,444	80.9
教員・保育士	幼稚園・認定こども園 (園長、副園長又は主査、年長児担任)	81	81	100.0
	保育園 (園長、副園長又は主査、5歳児担任)	110	110	100.0
	小学校 (校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、各学年主任、特別支援学級の担任)	231	231	100.0
	中学校 (校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、各学年主任、特別支援学級の担任)	92	92	100.0
教員・保育士計		514	514	100.0
全体合計		10,949	8,958	81.8

※ 保護者のアンケートのうち、お子さんの性別を男女とも選択されている票については、複数人が通学している場合と考え、集計上は男1票、女1票と、1票を延べ2件としてカウントしている。

上記に伴う具体的な集計上の増加件数は、「幼稚園 年長児」が2件、「保育園 5歳児」が1件、小学校1年生が1件、小学校6年生が1件、中学校3年生が2件となっている。

4 地域別集計について

本調査は地域別のクロス集計を行っています。回答のあった園や学校と地域の区分は、次のようになっています。

地域名	幼稚園・認定こども園	保育園	小学校	中学校
北東ブロック	いなり、青徳、草加ひので	しのは、やはた、あおやぎ、 ひかり幼稚園、草加にじいろ、 じょうえん、さくら保育、 こだま	川柳、八幡、稲荷、 八幡北、青柳	川柳、青柳、松江
北西ブロック	新田、清門	あさひ、しんぜん、しんえい、 けやきの森清門町園、 しんでん	新田、新栄、清門、 長栄	新栄、新田
松原ブロック	草加みどり、ひかり、 草加ひまわり、草加藤、 みのべ	さかえ、きたや、こやま、 めえめえこやぎこども園、 さくらんぼ、 草加松原どろんこ、まつばら	栄、花栗南、小山、 松原	栄、花栗
中央ブロック	谷塚、ルミ、かおり、 フラワー	たかさご、きたうら、あずま、 にしまち、せざき、 かおり Putra、さくらの実、 さくらの実分園、 スマイルキッズルーム、 もりまさ草加園、ニコニコ	草加、高砂、瀬崎、 西町	草加、瀬崎
南部ブロック	認定こども園あずま幼稚園、 谷塚おざわ、草加氷川	やつか、やなぎしま、ひかわ、 やつかかみ、草加なかよし、 そうか草花、につさとの森	谷塚、新里、氷川、 両新田	谷塚、両新田

5 利用にあたって

- ① 幼稚園・保育園・認定こども園に関する設問では、幼稚園と認定こども園を併せて「幼稚園」として集計しています。
- ② 集計結果は、原則、割合（％）として、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで示しています。そのため、各選択肢の回答割合（％）をすべて合計しても、100.0％にならない場合があります。
- ③ 回答者数に対する割合（％）を示しているため、複数回答の設問では、各選択肢の回答割合（％）をすべて合計すると100.0％を超えることがあります。
- ④ 選択肢の文が長い場合、集計結果を示す図表の中では、要約していることがあります。
- ⑤ 回答者数が少ない設問では、各選択肢の回答割合（％）は、特定の回答の結果が強く反映される場合があることにご留意ください。

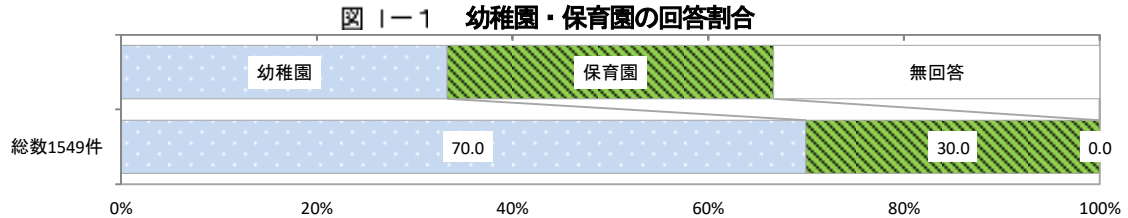
第 2 部 調查結果報告

I 幼稚園・保育園・認定こども園：年長児・5歳児の保護者

1 基本情報

(1) 幼稚園・保育園の回答割合

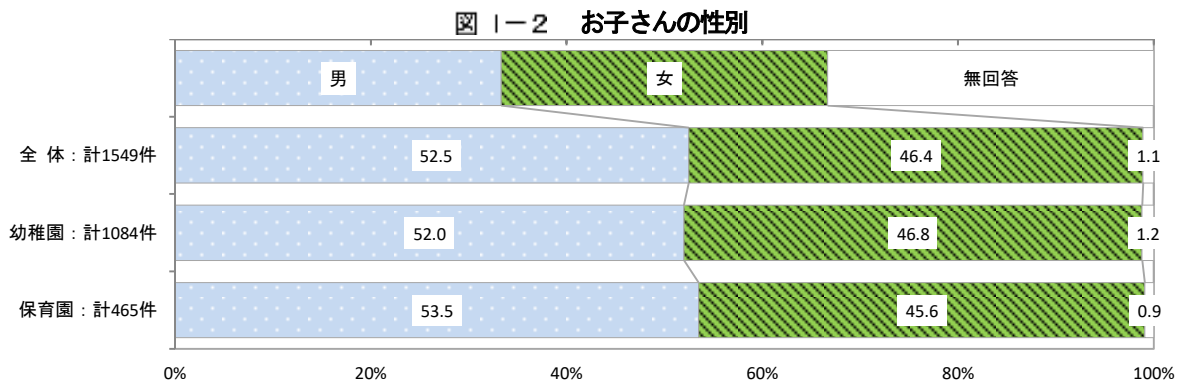
幼稚園・保育園の回答者の割合は、「幼稚園」の割合が70%、「保育園」の割合が30%となっています。



(2) お子さんの性別

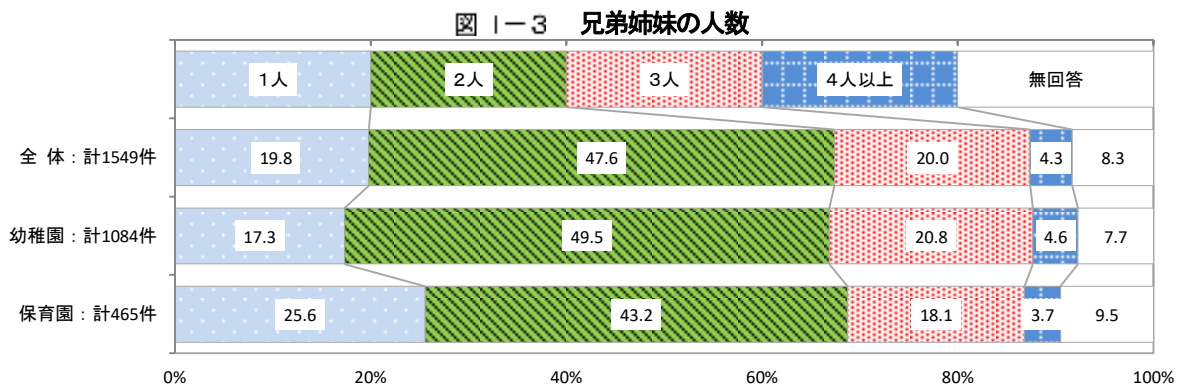
全体では、「男」の割合が52.5%、「女」の割合が46.4%となっています。

幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。



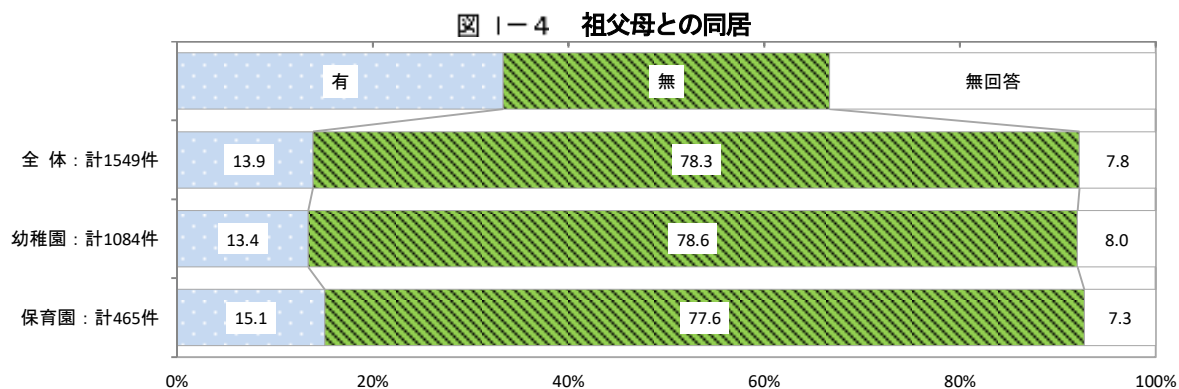
(3) 兄弟姉妹の人数

全体では、「2人」の割合が47.6%と最も高く、次いで「3人」の割合が20.0%、「1人」の割合が19.8%となっています。



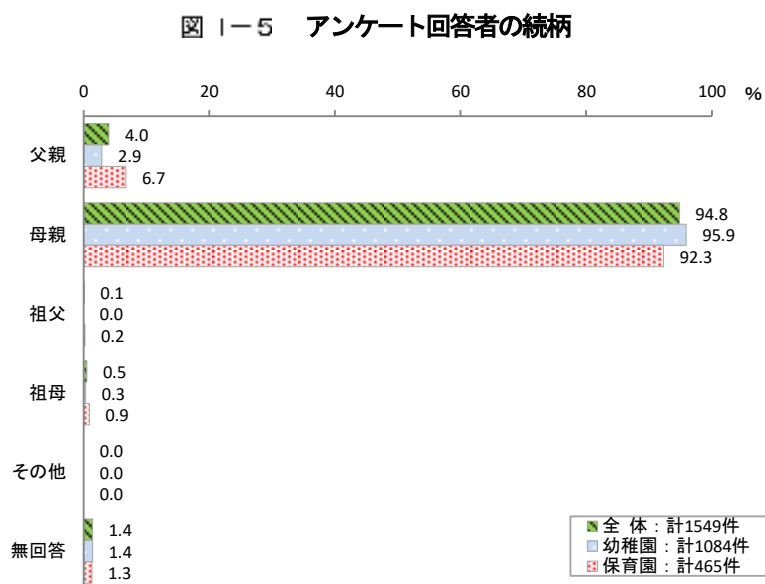
(4) 祖父母との同居

全体では、「有」の割合が13.9%、「無」の割合が78.3%となっています。
幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。



(5) アンケート回答者の続柄

全体では、「母親」の割合が94.8%と大部分を占めています。



2 お子さんの生活の様子について

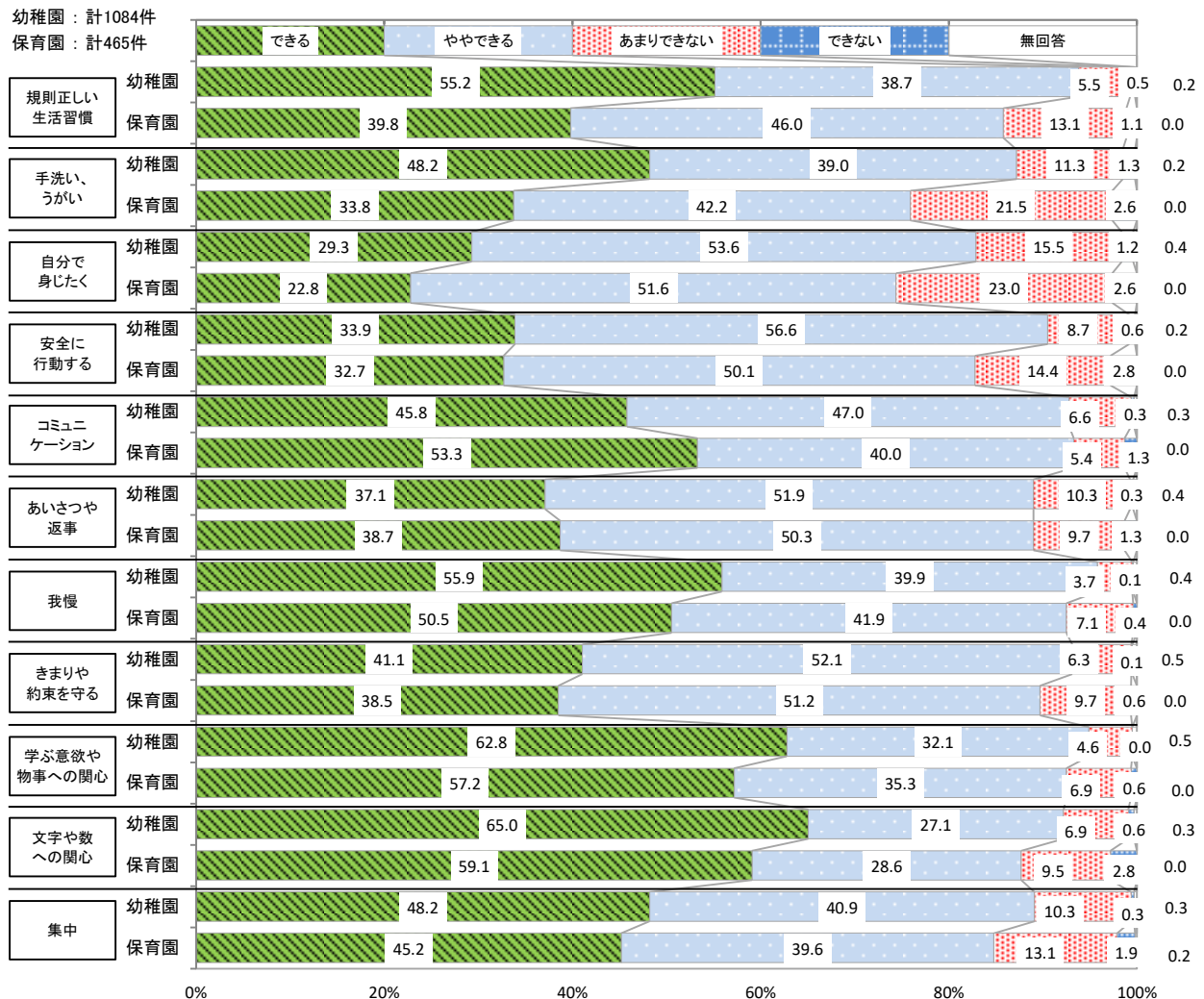
(1) お子さんの生活の様子について

問1 お子さんの生活の様子を教えてください。それぞれあてはまる欄に○を1つだけつけてください。

幼稚園では肯定的な回答（「できる・ややできる」又は「ある・ややある」の合計）の割合が最も高いのは「我慢」（95.8%）で、次いで「学ぶ意欲や物事への関心」（94.9%）、「規則正しい生活習慣」（93.9%）、「きまりや約束を守る」（93.2%）となっています。

また、保育園では肯定的な回答の割合が最も高いのは「コミュニケーション」（93.3%）で、次いで「学ぶ意欲や物事への関心」（92.5%）、「我慢」（92.4%）となっています。

図1-6 お子さんの生活の様子について



〔選択肢の説明〕

- ・規則正しい生活習慣…早寝早起き朝ごはんなど、規則正しく生活を送ることはできますか。
- ・手洗い、うがい…外出後や食事前に、手洗い、うがいを自分からすることはできますか。
- ・自分で身じたく…自分の物を整理整頓する、適切に身じたくをするなど、身の回りのことを自分ですることはできますか。
- ・安全に行動する…危ないことをしない、交通ルールを守るなど、安全に行動することはできますか。
- ・コミュニケーション…友達と一緒に遊ぶ、自分の気持ちを伝えるなど、周囲の人とコミュニケーションをとることはできますか。
- ・あいさつや返事…しっかりとしたあいさつや返事までできますか。
- ・我慢…順番を待つ、友達に譲るなど、我慢をすることはできますか。
- ・きまりや約束を守る…きまりや約束を守ることはできますか。
- ・学ぶ意欲や物事への関心…学習への意欲や、生活・周囲のさまざまな物事への関心はありますか。
- ・文字や数への関心…文章を読もうとする、計算や数量について理解しようとするなど、文字や数への関心はありますか。
- ・集中…人の話を静かに聞く、物事にじっくり取り組むなど、集中して何かをすることはできますか。

〔凡例の説明〕

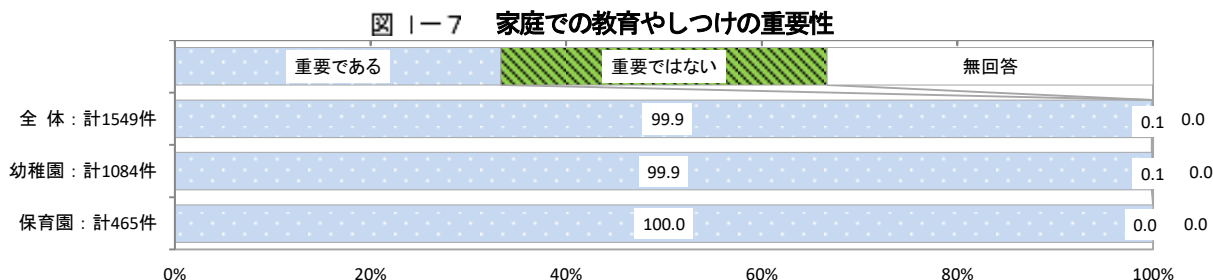
- ・「学ぶ意欲や物事への関心」、「文字や数への関心」、「集中」は「できる」を「ある」、「ややできる」を「ややある」、「あまりできない」を「あまりない」、「できない」を「ない」とそれぞれ読み替える。

3 家庭での教育について

(1) 家庭での教育やしつけの重要性

問2 あなたは、家庭で教育やしつけを行うことは、子どもが健全に育つために、重要だと思いますか。(〇は1つだけ)

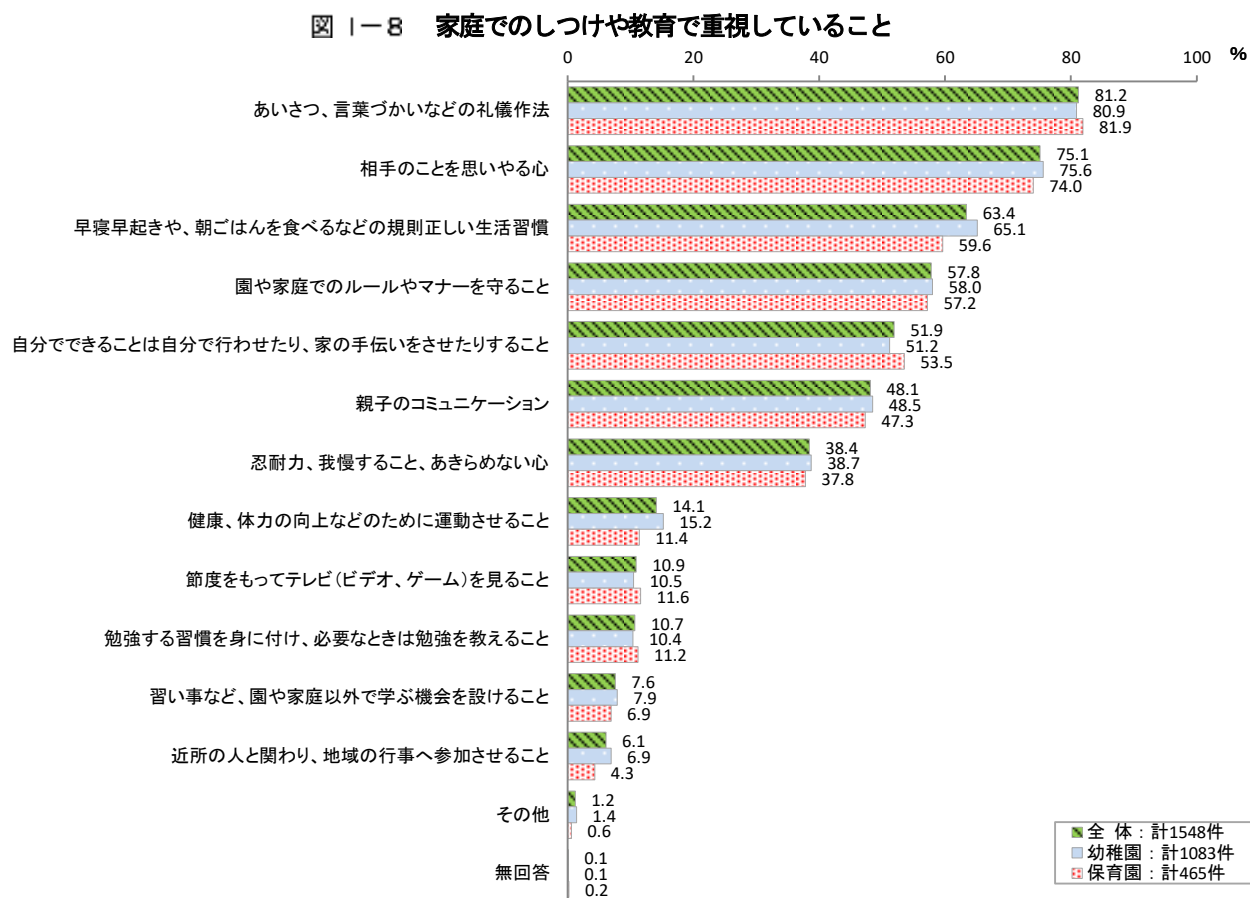
全体では、「重要である」の割合が99.9%となっています。
幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。



(2) 家庭でのしつけや教育で重視していること

問3 問2で「重要である」と答えた保護者が回答 あなたが、家庭でのしつけや教育で特に重視していることは何ですか。(〇は5つまで)

全体では、「あいさつ、言葉づかいなどの礼儀作法」の割合が81.2%と最も高く、次いで「相手のことを思いやる心」の割合が75.1%、「早寝早起きや、朝ごはんを食べるなどの規則正しい生活習慣」の割合が63.4%となっています。
「その他」として、「認めて褒めること」、「うそをつかないこと」、「小さい子や動物に優しくできるように」などの回答があります。



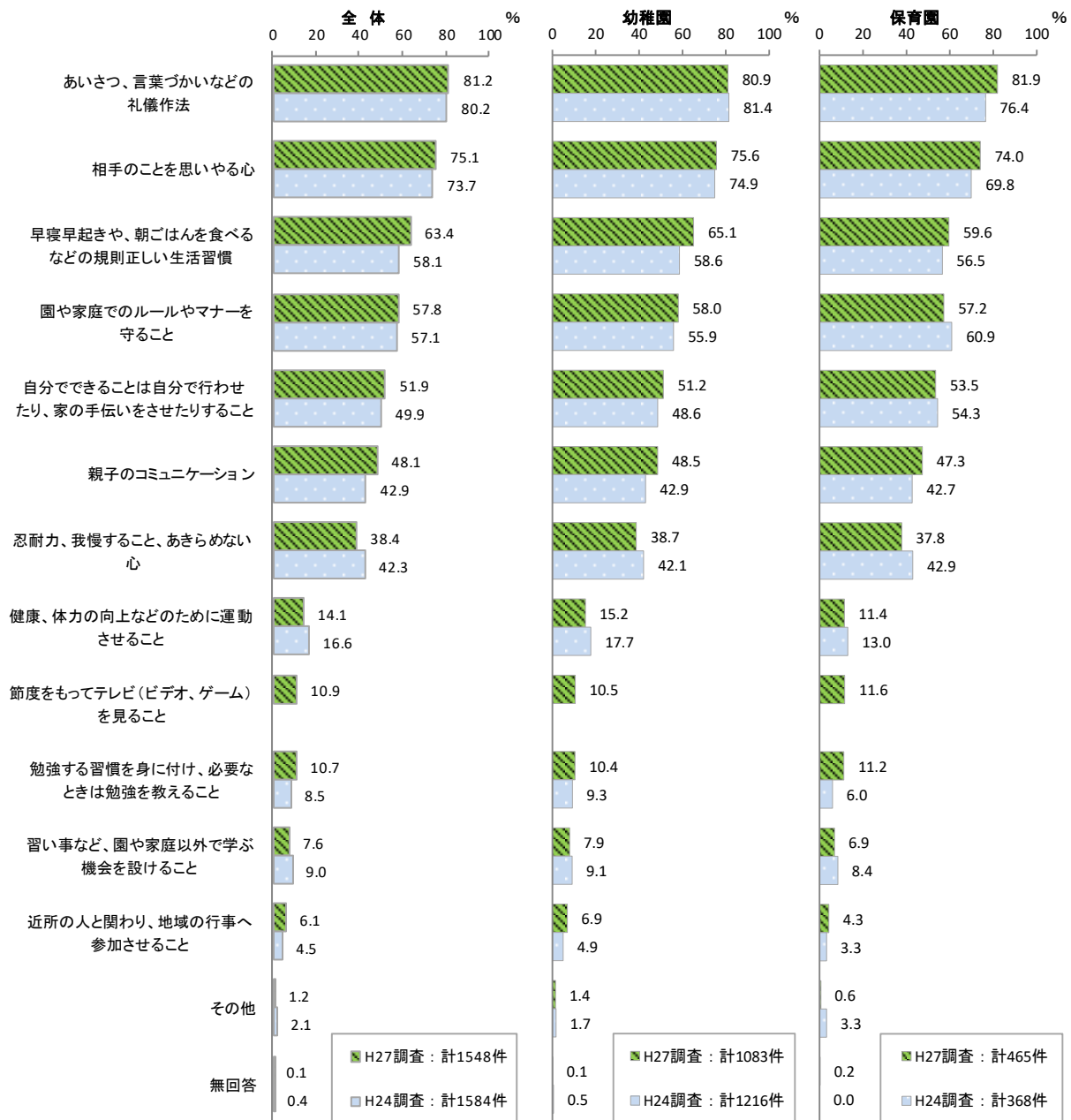
【平成27年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、全体では「早寝早起きや、朝ごはんを食べるなどの規則正しい生活習慣」が5.3ポイント、「親子のコミュニケーション」が5.2ポイント増加しています。

幼稚園では、「早寝早起きや、朝ごはんを食べるなどの規則正しい生活習慣」が6.5ポイント、「親子のコミュニケーション」が5.6ポイント増加し、「忍耐力、我慢すること、あきらめない心」が3.4ポイント減少しています。

保育園では、「あいさつ、言葉づかいなどの礼儀作法」が5.5ポイント増加し、「忍耐力、我慢すること、あきらめない心」が5.1ポイント減少しています。

図 1-9 家庭でのしつけや教育で重視していること
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



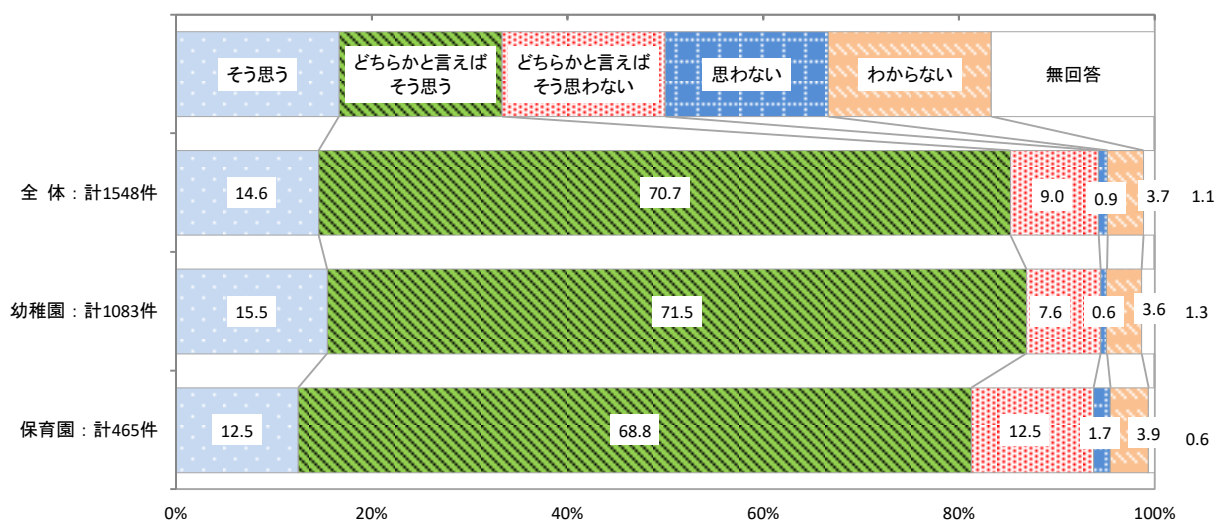
※ 平成24年度調査は、「節度をもってテレビ(ビデオ、ゲーム)を見ること」の項目なし。

(3) 子どもに対するしつけや教育の実践

問4 問2で「重要である」と答えた保護者が回答 家庭でのしつけや教育で特に重視していることを、お子さんは、実際にできていると思いますか。(〇は1つだけ)

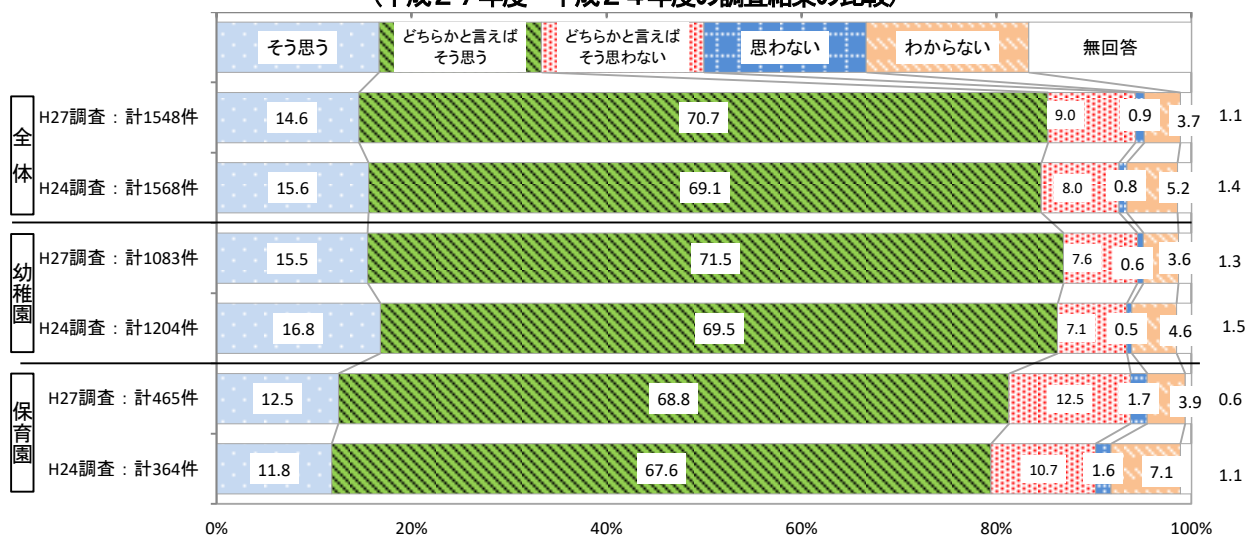
全体では、肯定的な回答(「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計)の割合が85.3%となっています。幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、肯定的な回答の割合が87.0%、保育園では、肯定的な回答の割合が81.3%となっています。

図 1-10 子どもに対するしつけや教育の実践



【平成27年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、全体、幼稚園、保育園ともに、肯定的な回答の割合がわずかながら増加しています。

図 1-11 子どもに対するしつけや教育の実践
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)

4 小学校入学にあたっての期待や不安について

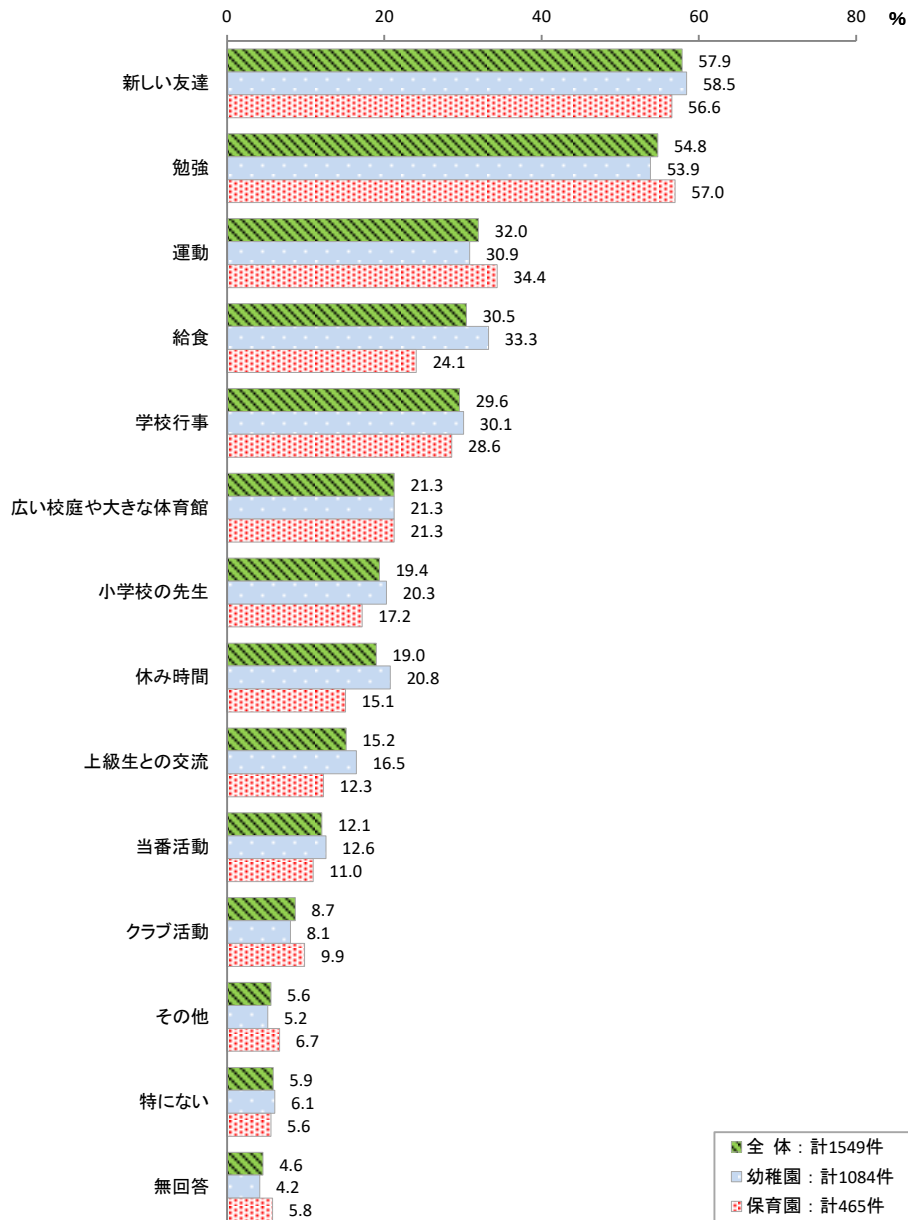
(1) 小学校入学後の生活で楽しみにしていることや期待していること

問5 お子さんが、小学校入学後の生活について、楽しみにしていることや期待していることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「新しい友達」の割合が57.9%と最も高く、次いで「勉強」の割合が54.8%、「運動」の割合が32.0%となっています。

「その他」としては、「ランドセルを背負うこと」、「兄・姉と一緒にいけること」、「学童」などの回答があります。

図 1-12 小学校入学後の生活で楽しみにしていることや期待していること



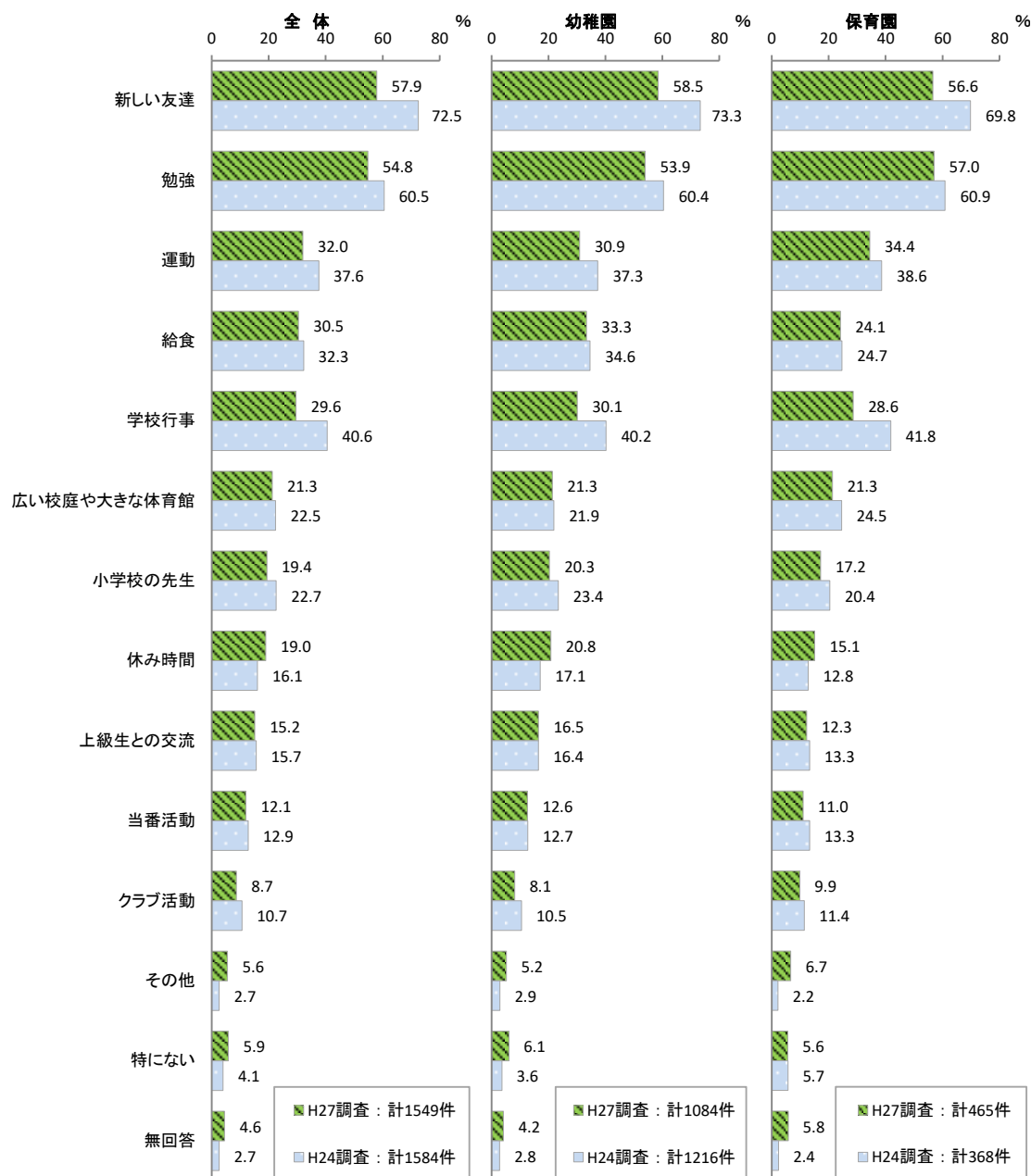
I 幼稚園・保育園・認定こども園：年長児・5歳児の保護者

【平成27年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、全体では多くの項目で割合が減少しています。特に「新しい友達」の割合が14.6ポイント、「学校行事」の割合が11.0ポイント減少しています。

幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。

図 1-13 小学校入学後の生活で楽しみにしていることや期待していること
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 「小学校の先生」は、平成24年度調査の「新しい先生」と比較している。

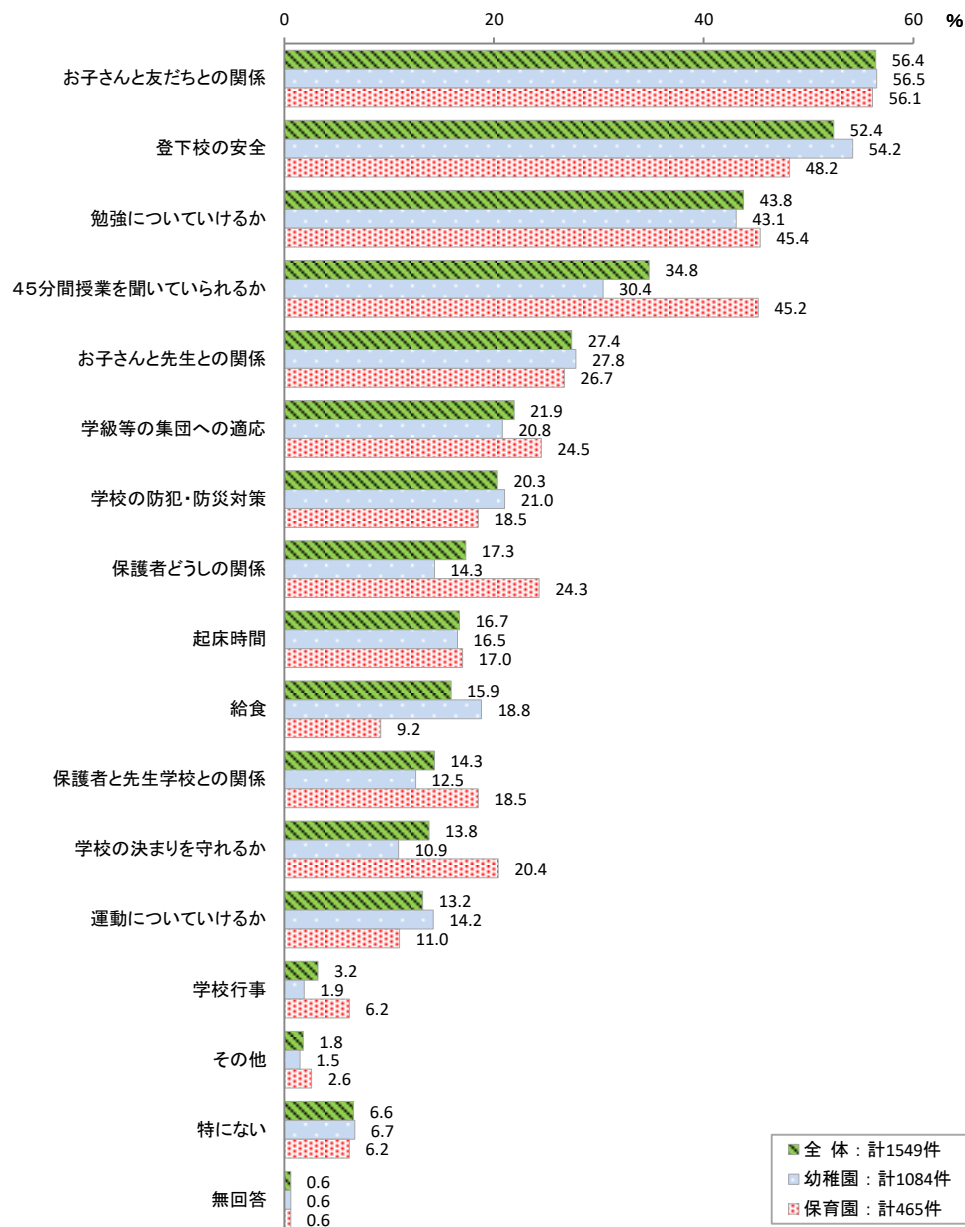
(2) 小学校入学後の不安や心配

問6 あなたが、お子さんの小学校入学後の生活について、不安に感じていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「お子さんと友だちとの関係」の割合が56.4%と最も高く、次いで「登下校の安全」の割合が52.4%、「勉強についていけるか」の割合が43.8%となっています。

「その他」として、「いじめ」、「学童保育」、「PTA活動」などの回答があります。

図 1-14 小学校入学後の不安や心配



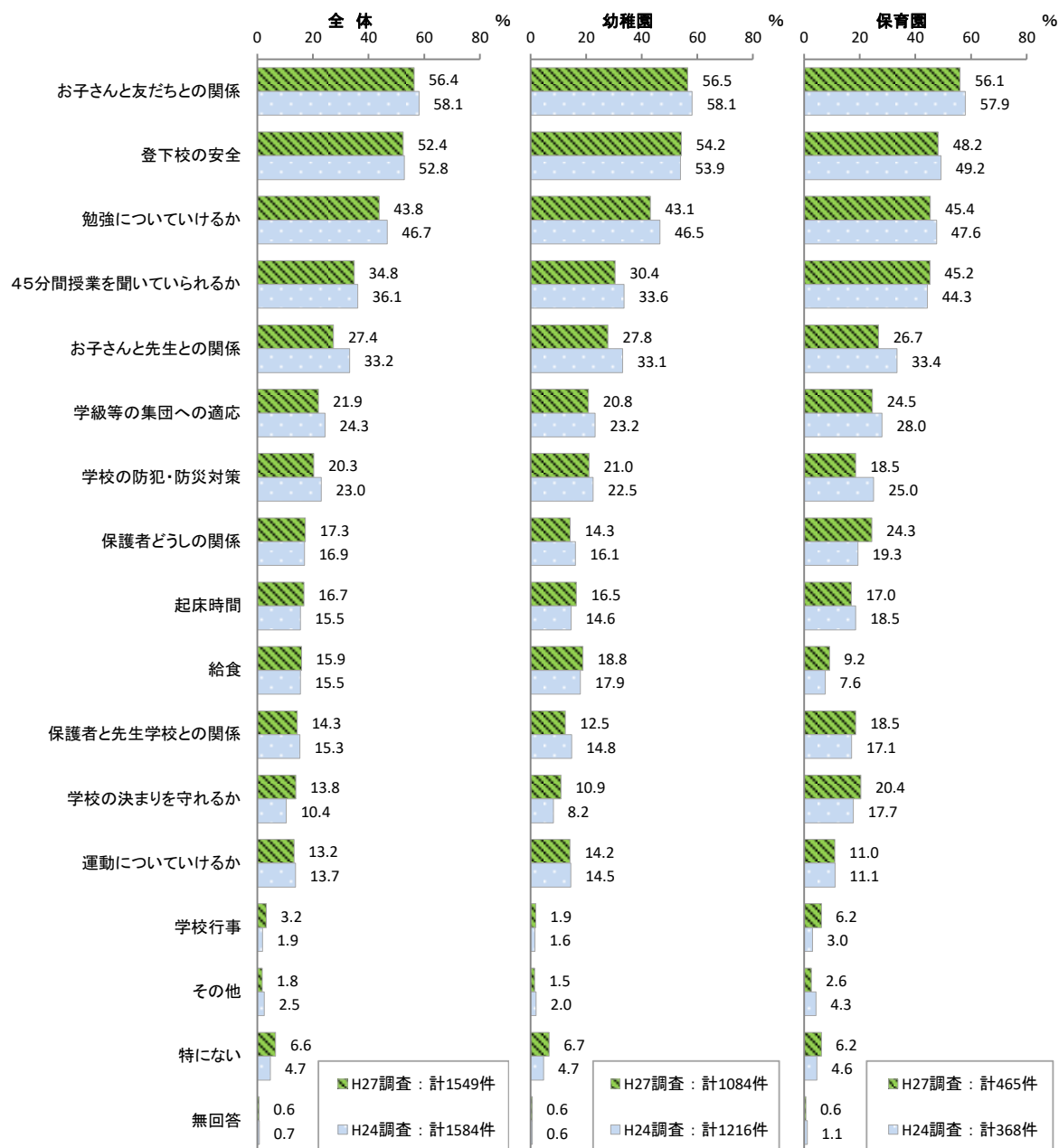
I 幼稚園・保育園・認定こども園：年長児・5歳児の保護者

【平成27年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、全体、幼稚園の回答では、経年変化は特にみられません。

保育園では、「お子さんと先生との関係」の割合が6.7ポイント、「学校の防犯・防災対策」の割合が6.5ポイント減少しています。

図 1-15 小学校入学後の不安や心配
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



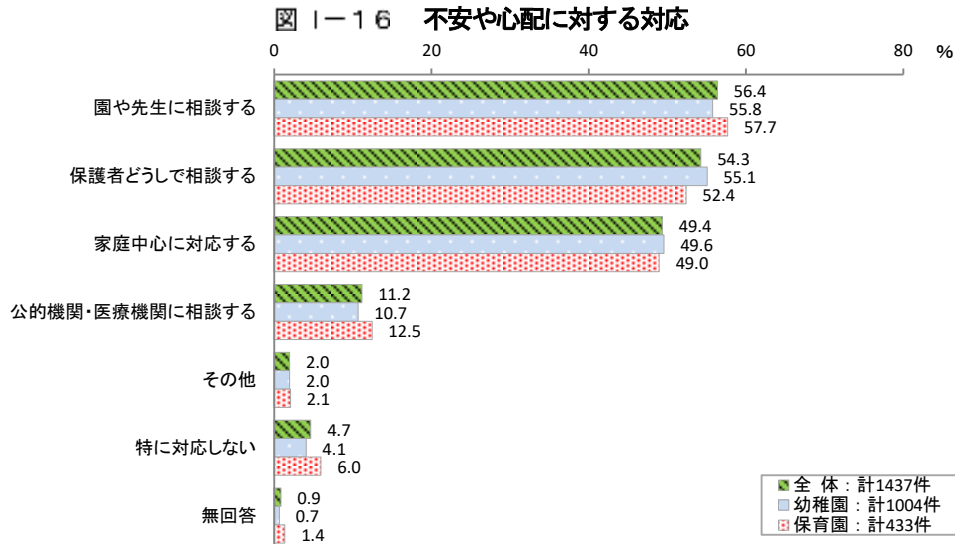
※ 「お子さんと友だちとの関係」は、平成24年度調査の「友達との関係」と比較している。「学級等の集団への適応」は、平成24年度調査の「集団への適応」と比較している。

(3) 不安や心配に対する対応

問7 問6で「特に対応しない」と答えなかった保護者が回答 あなたは、お子さんの小学校入学後の生活に関する不安や心配に対して、どのように対応されますか（対応されましたか）。（あてはまるものすべてに○）

全体では、「園や先生に相談する」の割合が56.4%と最も高く、次いで「保護者どうして相談する」の割合が54.3%、「家庭中心に対応する」の割合が49.4%となっています。

「その他」として、「祖父母に相談する」、「入学してから対応」などの回答があります。
幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。

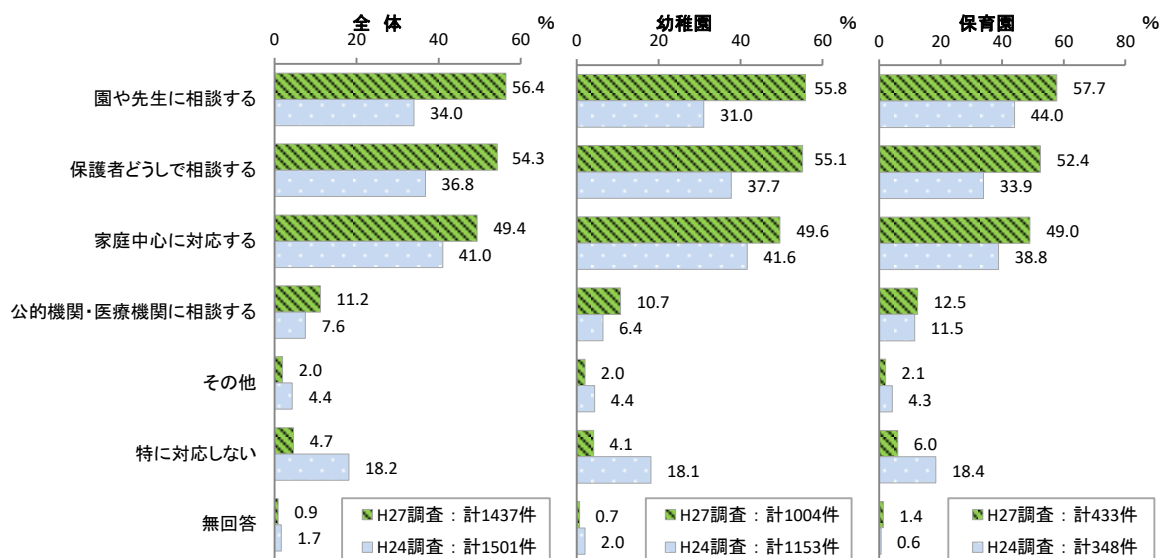


【平成27年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、全体では多くの項目で回答の割合が増加しています。特に「園や先生に相談する」の割合が22.4ポイント、「保護者どうして相談する」の割合が17.5ポイント増加しています。

幼稚園・保育園の回答をみると、全体と同様の傾向となっています。

図 1-17 不安や心配に対する対応
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 「園や先生に相談する」は、平成24年度調査の「園に相談する」と比較している。

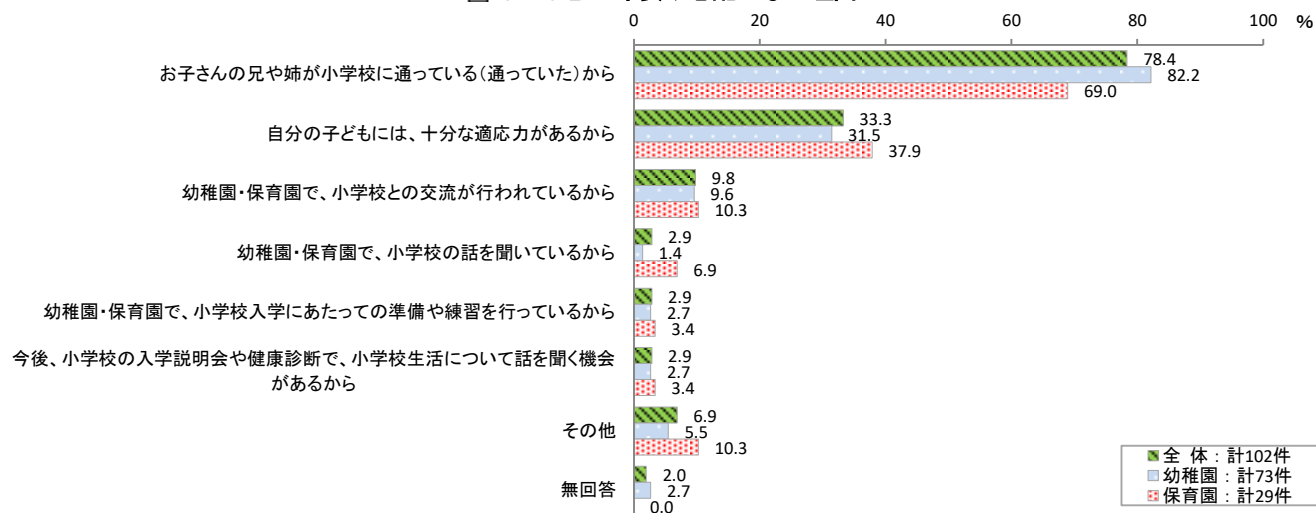
(4) 不安や心配がない理由

問8 問6で「特になし」と答えた保護者が回答 あなたが、お子さんの小学校入学後の生活に関して不安を感じていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「お子さんの兄や姉が小学校に通っている(通っていた)から」の割合が78.4%と最も高く、次いで「自分の子どもには、十分な適応力があるから」の割合が33.3%となっています。

「その他」として、「入学する前から不安に思ってしまうかもしれない」などの回答があります。

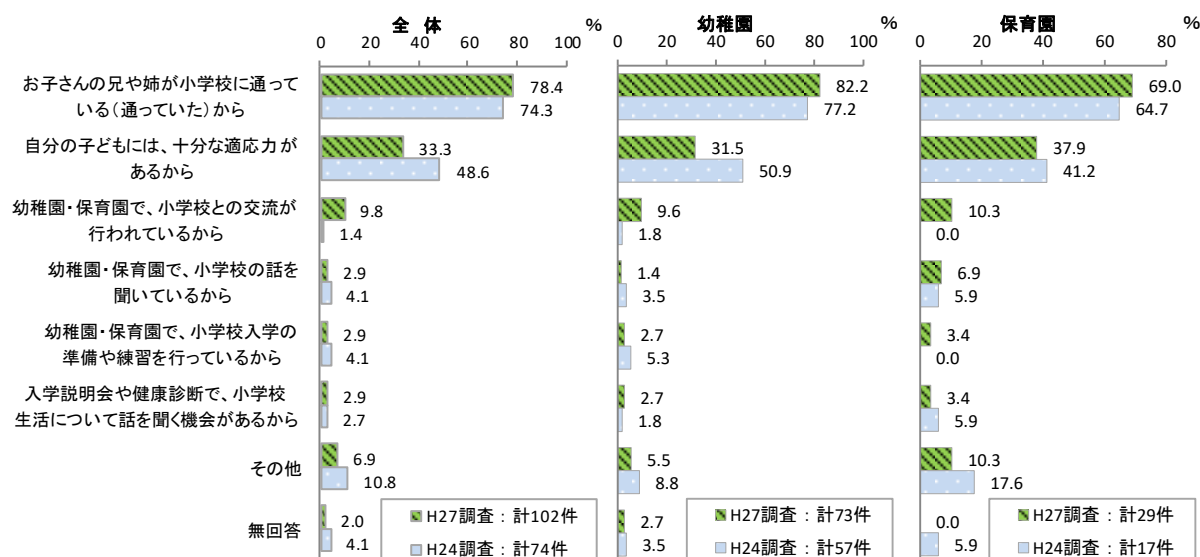
図 1-18 不安や心配がない理由



【平成27年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、全体では「自分の子どもには、十分な適応力があるから」の割合が15.3ポイント減少しています。

幼稚園の回答をみると、「自分の子どもには、十分な適応力があるから」の割合が19.4ポイント減少しています。保育園の回答をみると、「幼稚園・保育園で、小学校との交流が行われているから」の割合が10.3ポイント増加しています。

図 1-19 不安や心配がない理由
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)

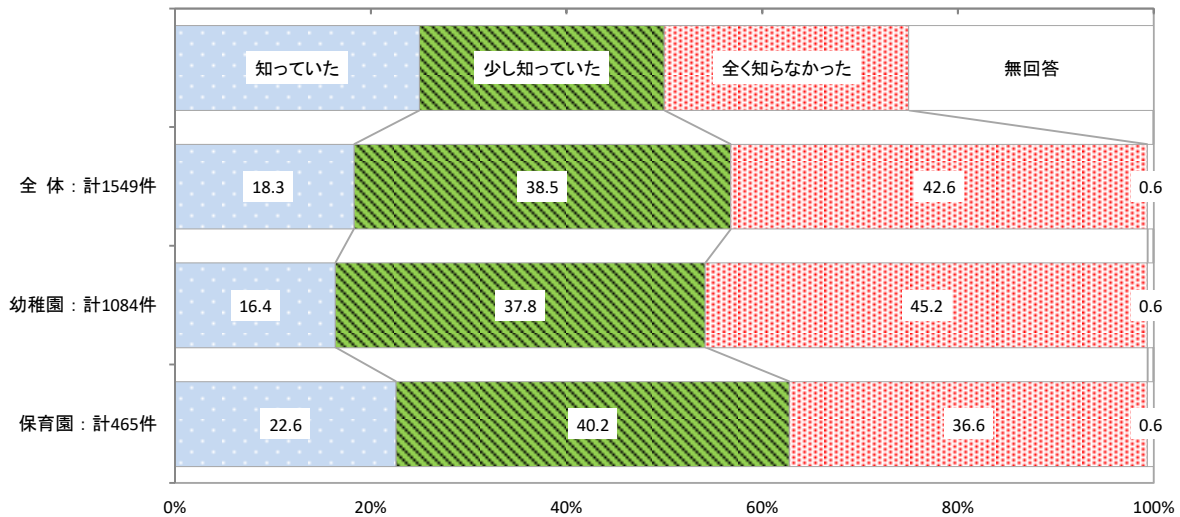
5 幼稚園・保育園等、小学校、中学校（幼保小中）の連携について

（1）草加市の幼保小中連携に関する取り組みについて

問9 あなたは、草加市が幼保小中の連携に力を入れて取り組んでいることを、知っていましたか。（○は1つだけ）

全体では、「知っていた」の割合が18.3%、「少し知っていた」の割合が38.5%、「全く知らなかった」の割合が42.6%となっています。

図 1-20 草加市の幼保小中連携に関する取り組みについて

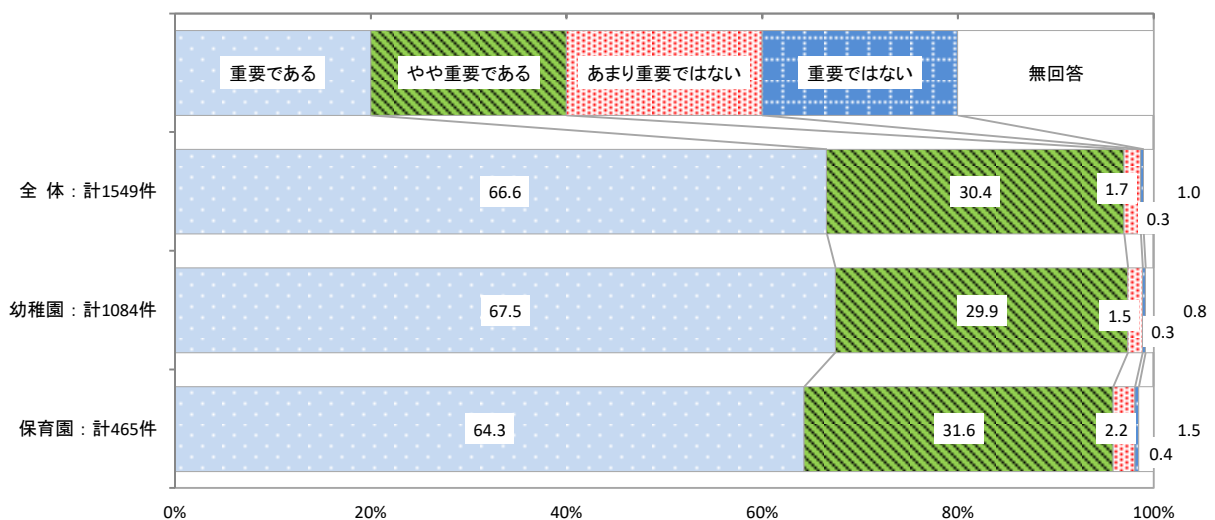


（2）草加市の幼保小中連携の重要性

問10 あなたは、草加市が幼保小中の連携に力を入れることは、子どもが健全に育つために、重要だと思いますか。（○は1つだけ）

全体では、肯定的な回答（「重要である」と「やや重要である」の合計）の割合が97.0%となっています。幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。

図 1-21 草加市の幼保小中連携の重要性

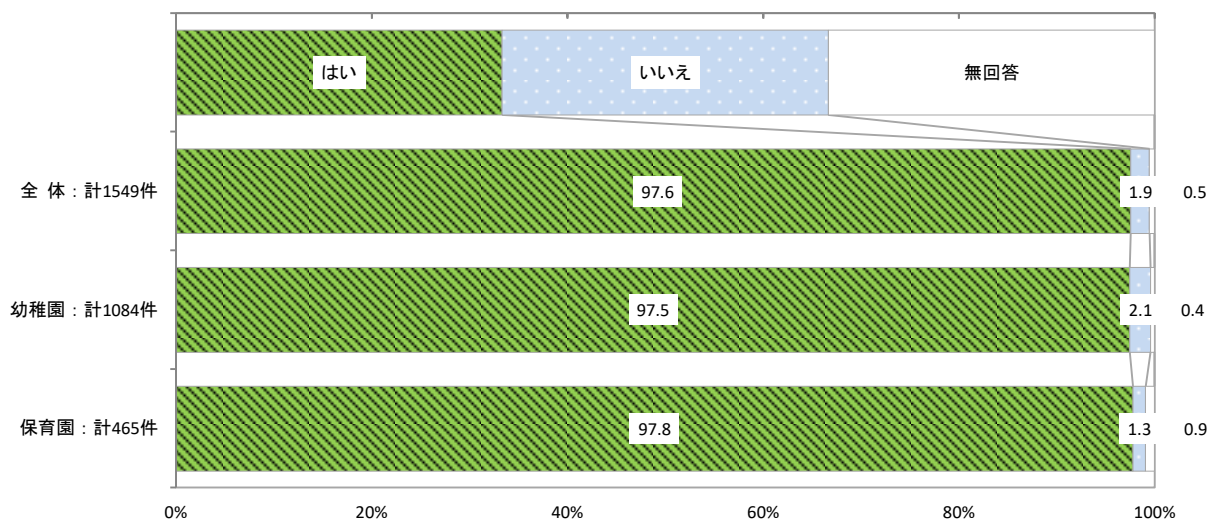


(3) 小学校入学に向けた教育活動の実施

問11 あなたは、幼稚園や保育園等で、子どもが小学校に安心して入学できるようにする活動に取り組んでほしいと思いますか。(〇は1つだけ)

全体では、「はい」の割合が97.6%となっています。
幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。

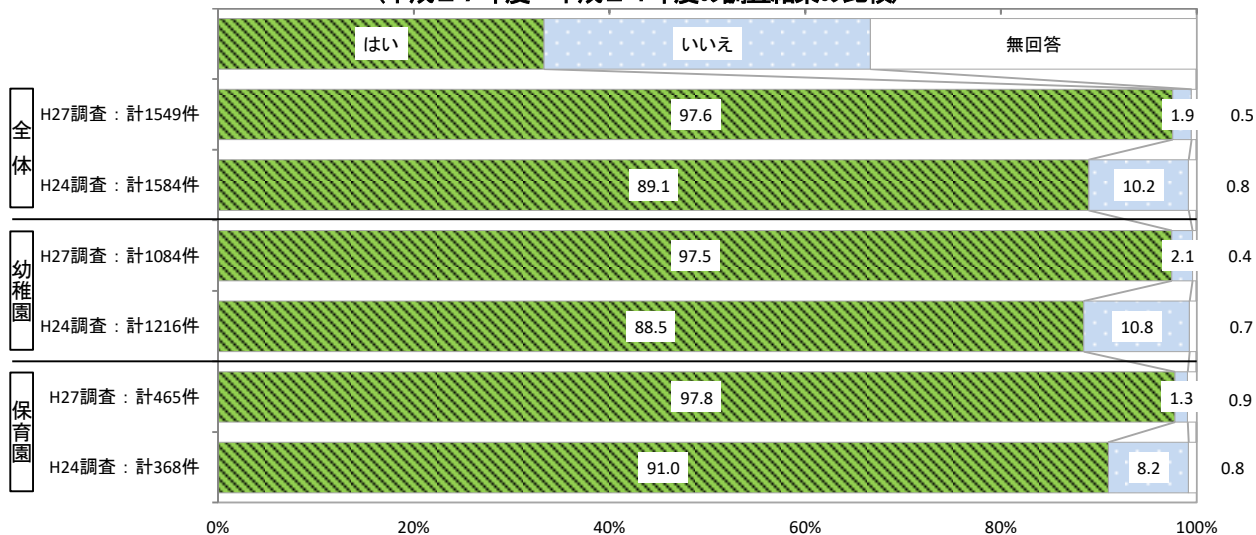
図1-22 小学校入学に向けた教育活動の実施



【平成27年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、全体、幼稚園、保育園ともに、「はい」の割合が増加しています。

図1-23 小学校入学に向けた教育活動の実施
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



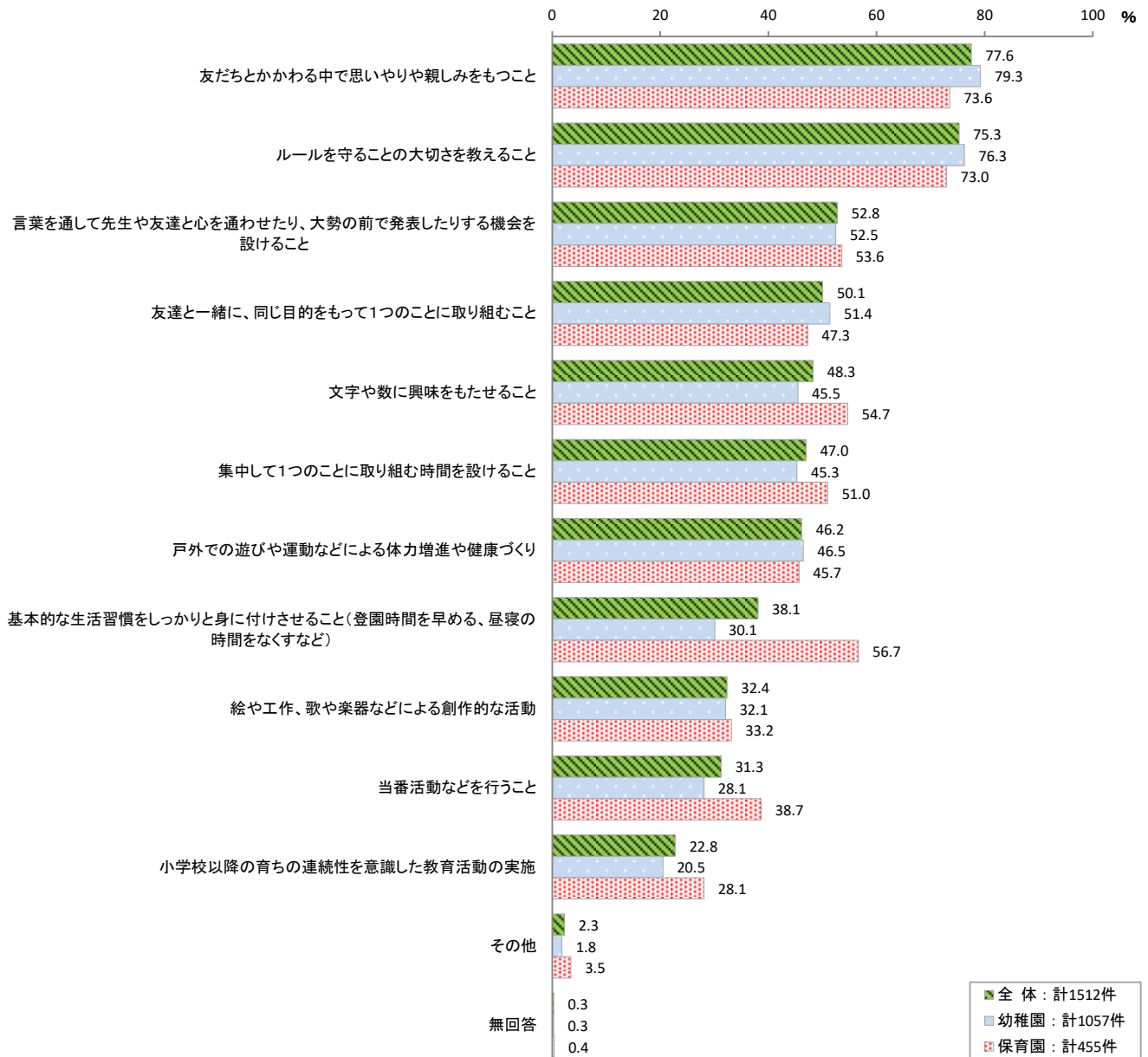
(4) 小学校入学に向けて、幼稚園や保育園で取り組んでもらいたいこと

問12 問11で「はい」と答えた保護者が回答 あなたは、小学校入学に向けて、幼稚園や保育園等でどのようなことに取り組んでほしいですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「友だちとかかわる中で思いやりや親しみをもつこと」の割合が77.6%と最も高く、次いで「ルールを守ることの大切さを教えること」の割合が75.3%、「言葉を通して先生や友達と心を通わせたり、大勢の前で発表したりする機会を設けること」の割合が52.8%、「友達と一緒に、同じ目的をもって1つのことに取り組むこと」の割合が50.1%となっています。

「その他」として、「小学生との交流」、「すでに取り組んでもらっている」などの回答があります。

図 1-24 小学校入学に向けて、幼稚園や保育園で取り組んでもらいたいこと



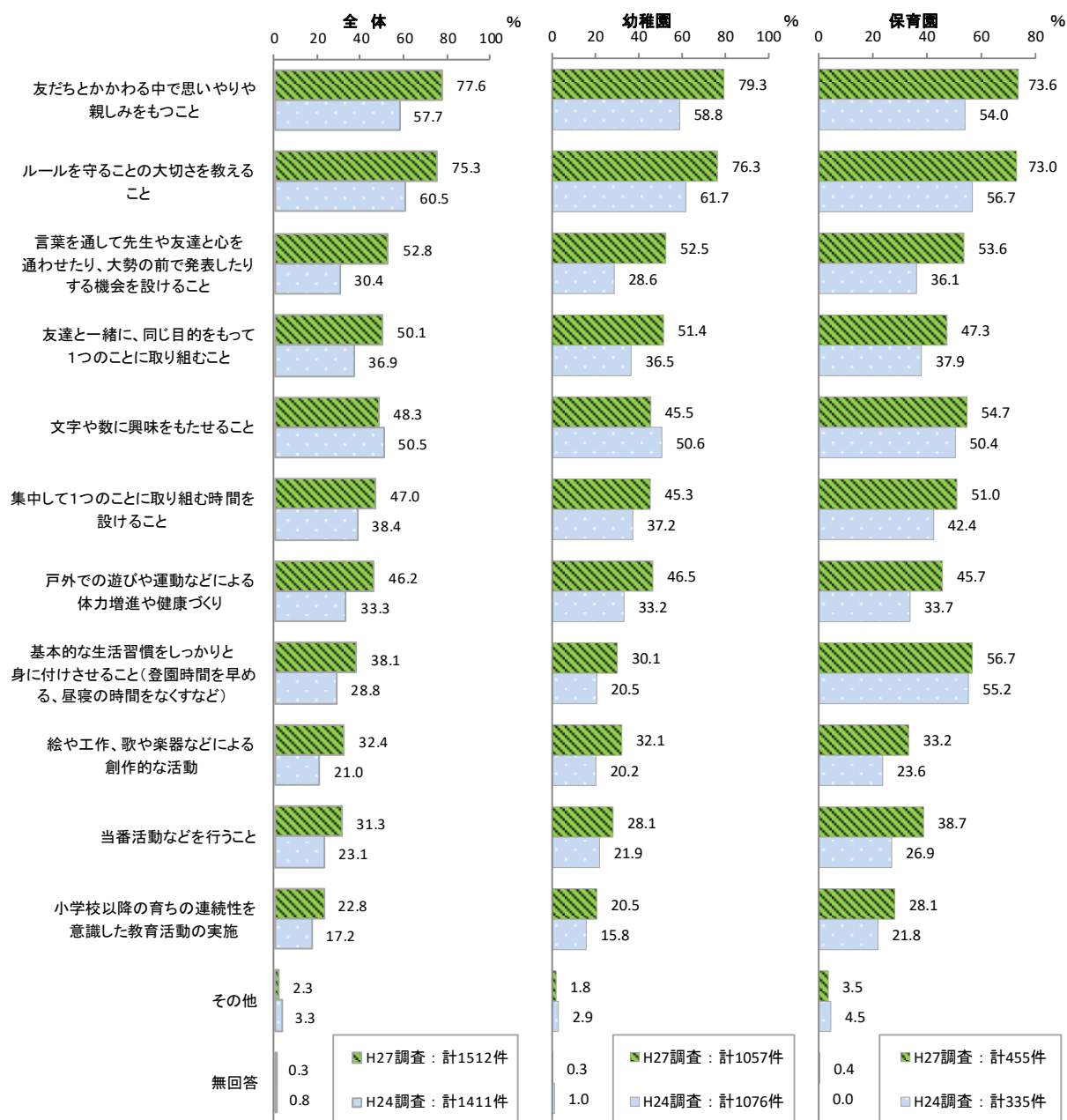
I 幼稚園・保育園・認定こども園：年長児・5歳児の保護者

【平成27年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、全体では多くの項目で回答の割合が増加しています。特に「言葉を通して先生や友達と心を通わせたり、大勢の前で発表したりする機会を設けること」の割合が22.4ポイント、「友だちとかかわる中で思いやりや親しみをもつこと」の割合が19.9ポイント増加しています。

幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。

図 1-25 小学校入学に向けて、幼稚園や保育園で取り組んでもらいたいこと
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 「言葉を通して先生や友達と心を通わせたり、大勢の前で発表したりする機会を設けること」は、平成24年度調査の「大勢の前で発表する機会を設けること」と比較している。「小学校以降の育ちの連続性を意識した教育活動の実施」は、平成24年度調査の「小学校以降の育ちの連続性を意識したカリキュラムの実施」と比較している。

6 お子さんの将来像について

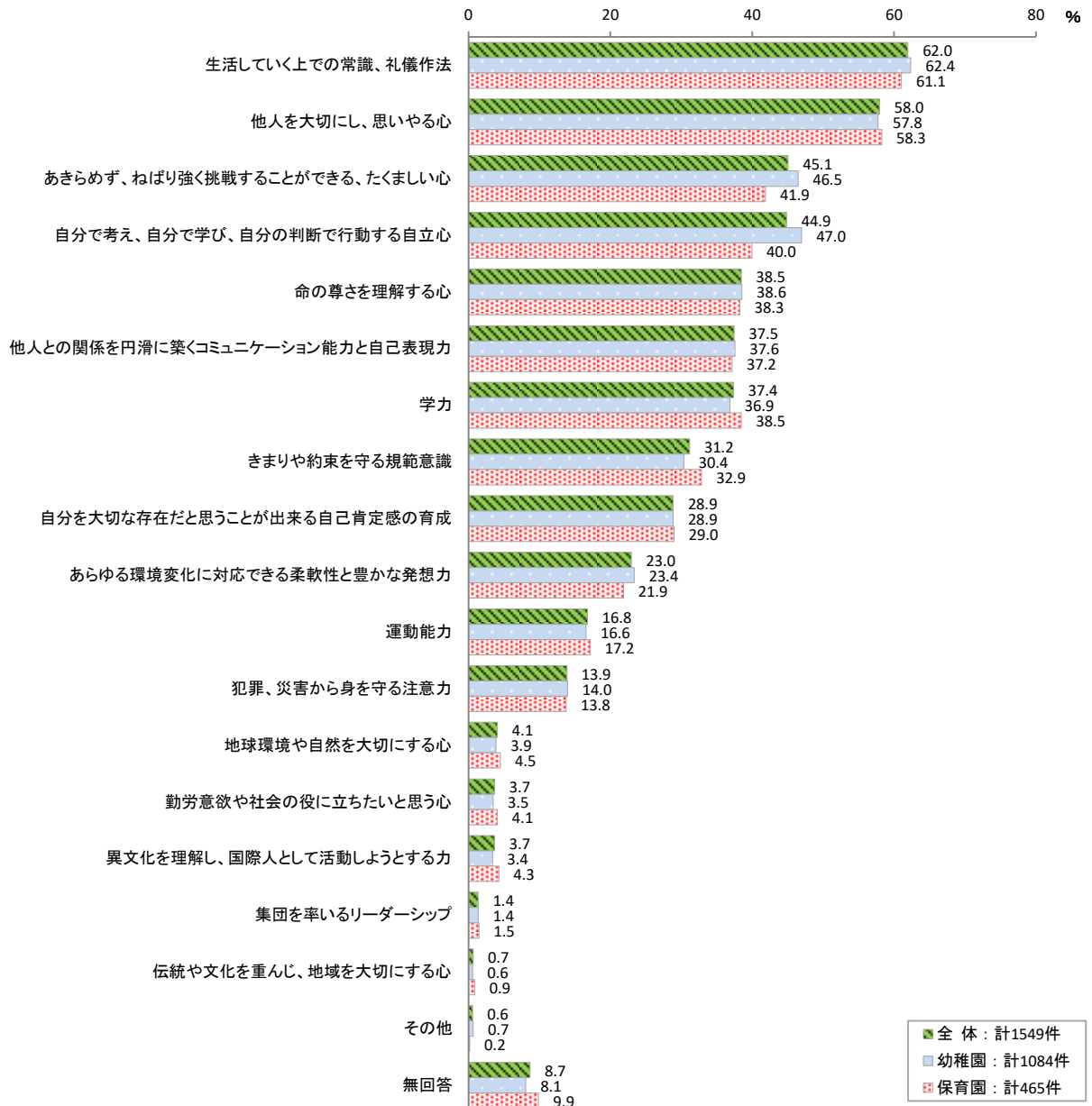
(1) お子さんの将来像について

問13 将来の社会の担い手として、中学校を卒業するまでに、お子さんに身に付けてほしい能力や考え方のうち、特に重要だと思うことは何ですか。（○は5つまで）

全体では、「生活していく上での常識、礼儀作法」の割合が62.0%と最も高く、次いで「他人を大切にし、思いやる心」の割合が58.0%、「あきらめず、ねばり強く挑戦することができる、たくましい心」の割合が45.1%、「自分で考え、自分で学び、自分の判断で行動する自立心」の割合が44.9%となっています。

「その他」として、「すべてあてはまる」などの回答があります。

図1-26 お子さんの将来像について



I 幼稚園・保育園・認定こども園：年長児・5歳児の保護者

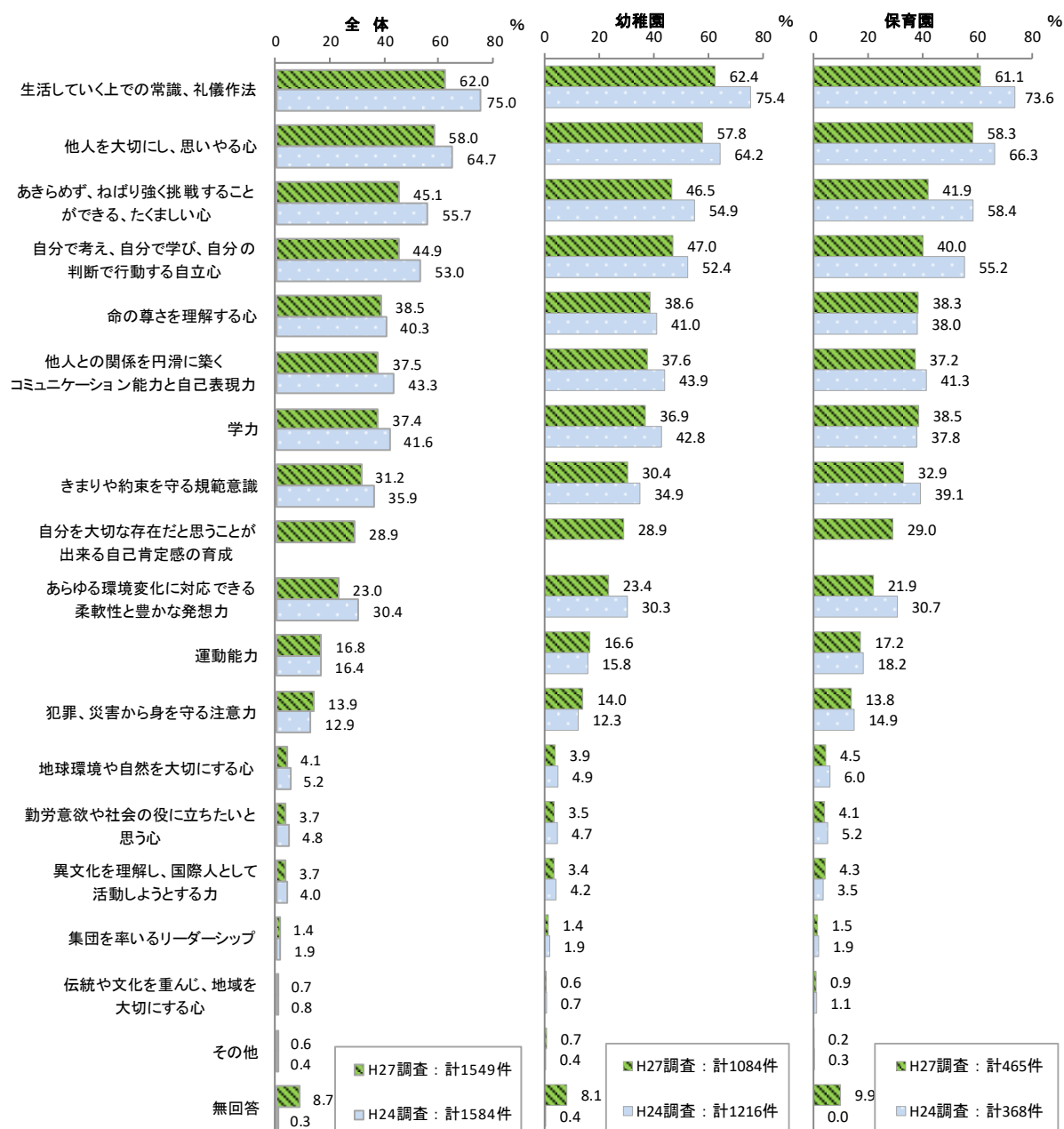
【平成27年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると、全体では多くの項目で回答の割合が減少しています。特に「生活していく上での常識、礼儀作法」の割合が13.0ポイント、「あきらめず、ねばり強く挑戦することができる、たくましい心」の割合が10.6ポイント減少しています。

幼稚園では、全体と同様の傾向となっています。

保育園では、「自分で考え、自分で学び、自分の判断で行動する自立心」の割合が15.2ポイント減少しています。

図1-27 お子さんの将来像について
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は、「自分を大切な存在だと思える自己肯定感の育成」の項目なし。「他人との関係を円滑に築くコミュニケーション能力と自己表現力」は、平成24年度調査の「他人との関係を円滑に築くコミュニケーション能力と自己主張力」と比較している。

7 自由記述

最後に、子ども教育の連携や草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

対象となる回収数 1549 件中、245 件に記述がありました（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 245 件より多くなっています。）

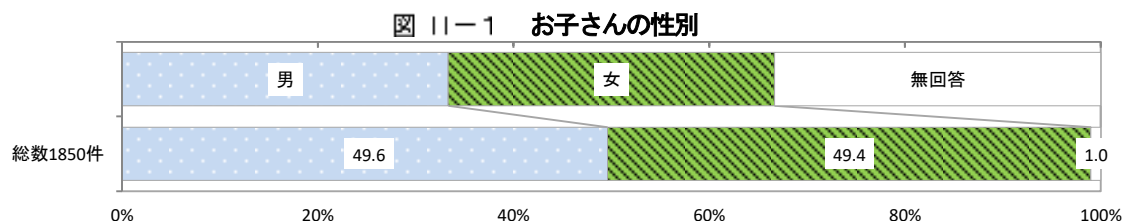
項目	件数
幼稚園に関すること	18
教育内容の改善について	5
小学校との交流の場の拡充について	8
その他	5
保育園に関すること	21
活動内容の改善について	9
子どもたちへの対応について	5
家庭との連携の充実について	0
小学校との交流の場の拡充について	3
その他	4
小中学校に関すること	93
教育内容について	14
教員について	8
子どもたちへの対応について	19
特別支援教育について	2
施設・設備について	3
安心・安全について	17
給食について	0
放課後について	2
家庭・地域との連携について	12
その他	16
学童、放課後子ども教室に関すること	21
学童について	18
その他	3
教育行政に関すること	57
子ども教育の連携推進について	30
教育施策全般について	27
その他	52
子どもの遊び場について	24
その他	28

II 小学校：1年生の保護者

1 基本情報

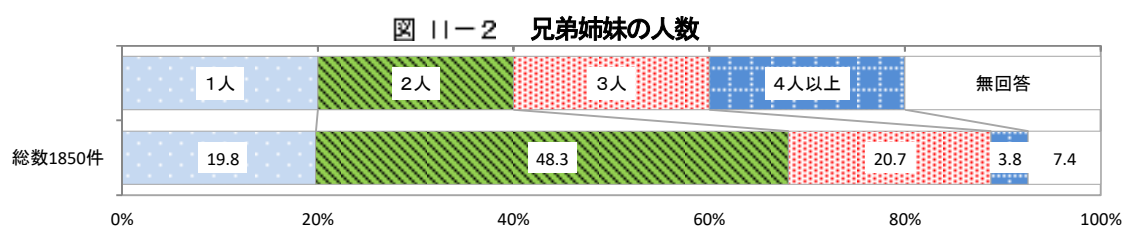
(1) お子さんの性別

「男」の割合が49.6%、「女」の割合が49.4%となっています。



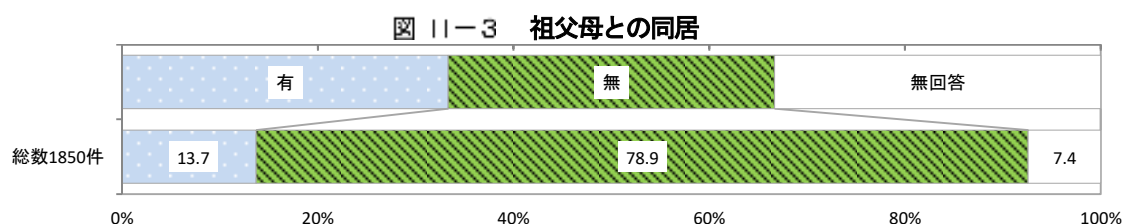
(2) 兄弟姉妹の人数

「2人」の割合が48.3%と最も高く、次いで「3人」の割合が20.7%、「1人」の割合が19.8%となっています。



(3) 祖父母との同居

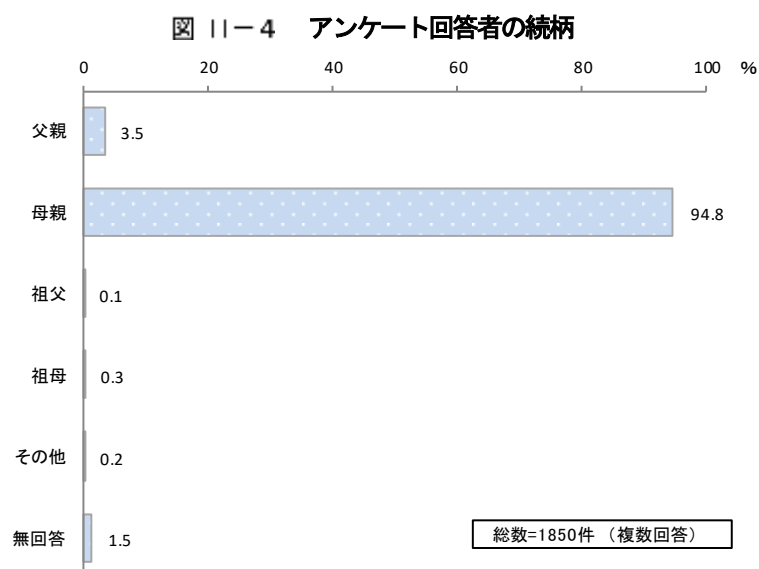
「有」の割合が13.7%、「無」の割合が78.9%となっています。



(4) アンケート回答者の続柄

「母親」の割合が94.8%と大部分を占めています。

「その他」として、「曾祖母」などの回答があります。



2 お子さんの生活の様子について

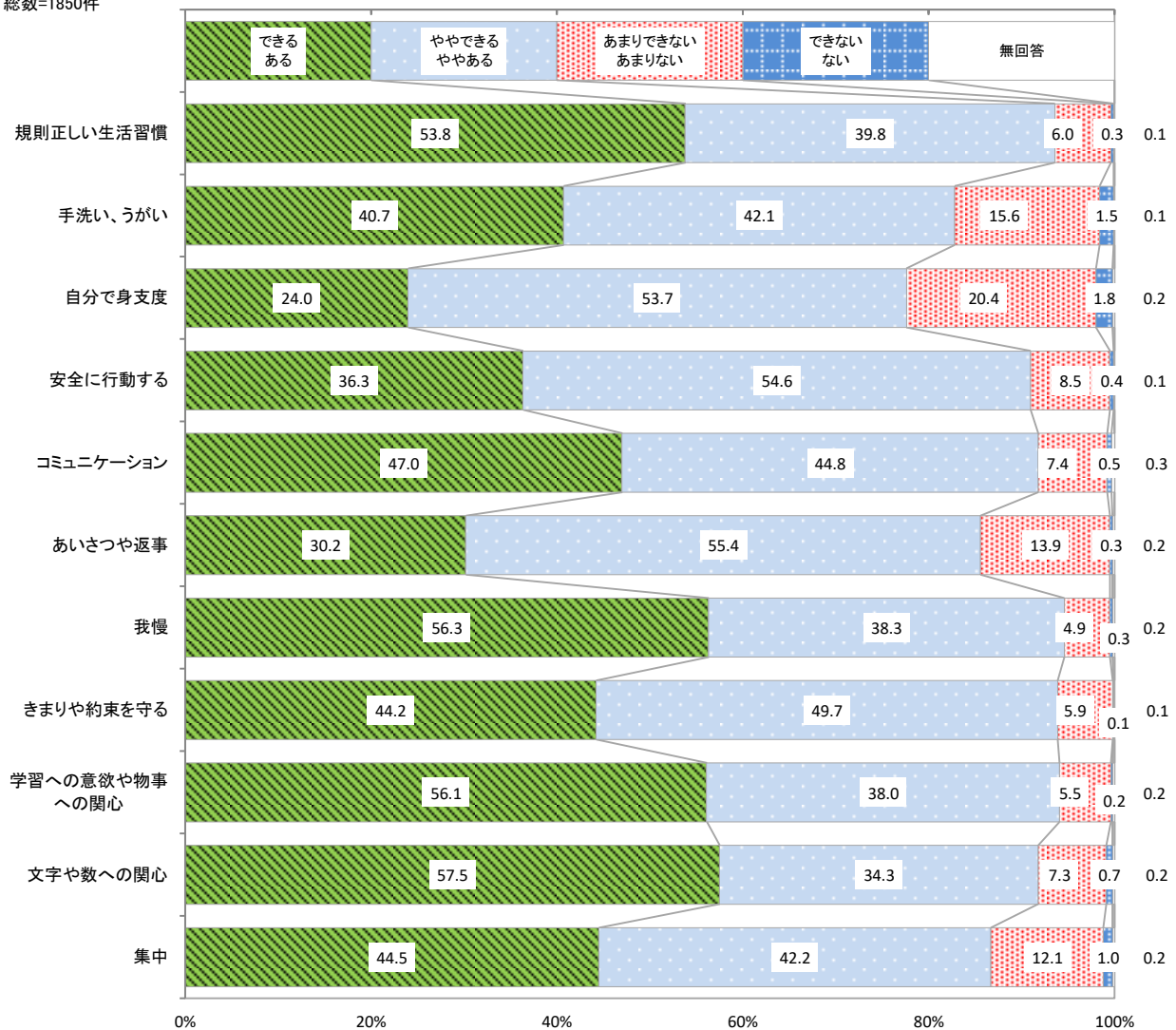
(1) お子さんの生活の様子について

問1 お子さんの生活の様子を教えてください。それぞれあてはまる欄に○を1つだけつけてください。

「できる・ややできる」又は「ある・ややある」を合計した割合が最も高いのは「我慢」(94.6%)で、次いで「学習への意欲や物事への関心」(94.1%)、「きまりや約束を守る」(93.9%)となっています。

図 11-5 お子さんの生活の様子について

総数=1850件



〔選択肢の説明〕

- ・規則正しい生活習慣…早寝早起き朝ごはんなど、規則正しく生活を送ることはできますか。
- ・手洗い、うがい…外出後や食事前に、手洗い・うがいを自分からすることはできますか。
- ・自分で身支度…自分の物を整理整頓する、適切に身じたくをするなど、身の回りのことを自分ですることはできますか。
- ・安全に行動する…危ないことをしない、交通ルールを守るなど、安全に行動することはできますか。
- ・コミュニケーション…友達と一緒に遊ぶ、自分の気持ちを伝えるなど、周囲の人とコミュニケーションをとることはできますか。
- ・あいさつや返事…しっかりとあいさつや返事はできますか。
- ・我慢…順番を待つ、友達に譲るなど、我慢をすることはできますか。
- ・きまりや約束を守る…きまりや約束を守ることができますか。
- ・学ぶ意欲や物事への関心…学習への意欲や、生活・周囲のさまざまな物事への関心はありますか。
- ・文字や数への関心…文章を読もうとする、計算や数量について理解しようとするなど、文字や数への関心はありますか。
- ・集中…人の話を静かに聞く、物事にじっくり取り組むなど、集中して何かをすることはできますか。

〔凡例の説明〕

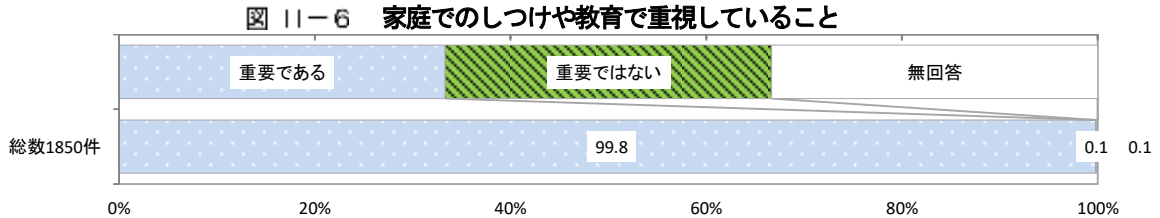
- ・「学ぶ意欲や物事への関心」、「文字や数への関心」、「集中」は「できる」を「ある」、「ややできる」を「ややある」、「あまりできない」を「あまりない」、「できない」を「ない」とそれぞれ読み替える。

3 家庭での教育について

(1) 家庭での教育やしつけの重要性

問2 あなたは、家庭で教育やしつけを行うことは、子どもが健全に育つために、重要だと思いますか。(〇は1つだけ)

「重要である」の割合が99.8%となっています。



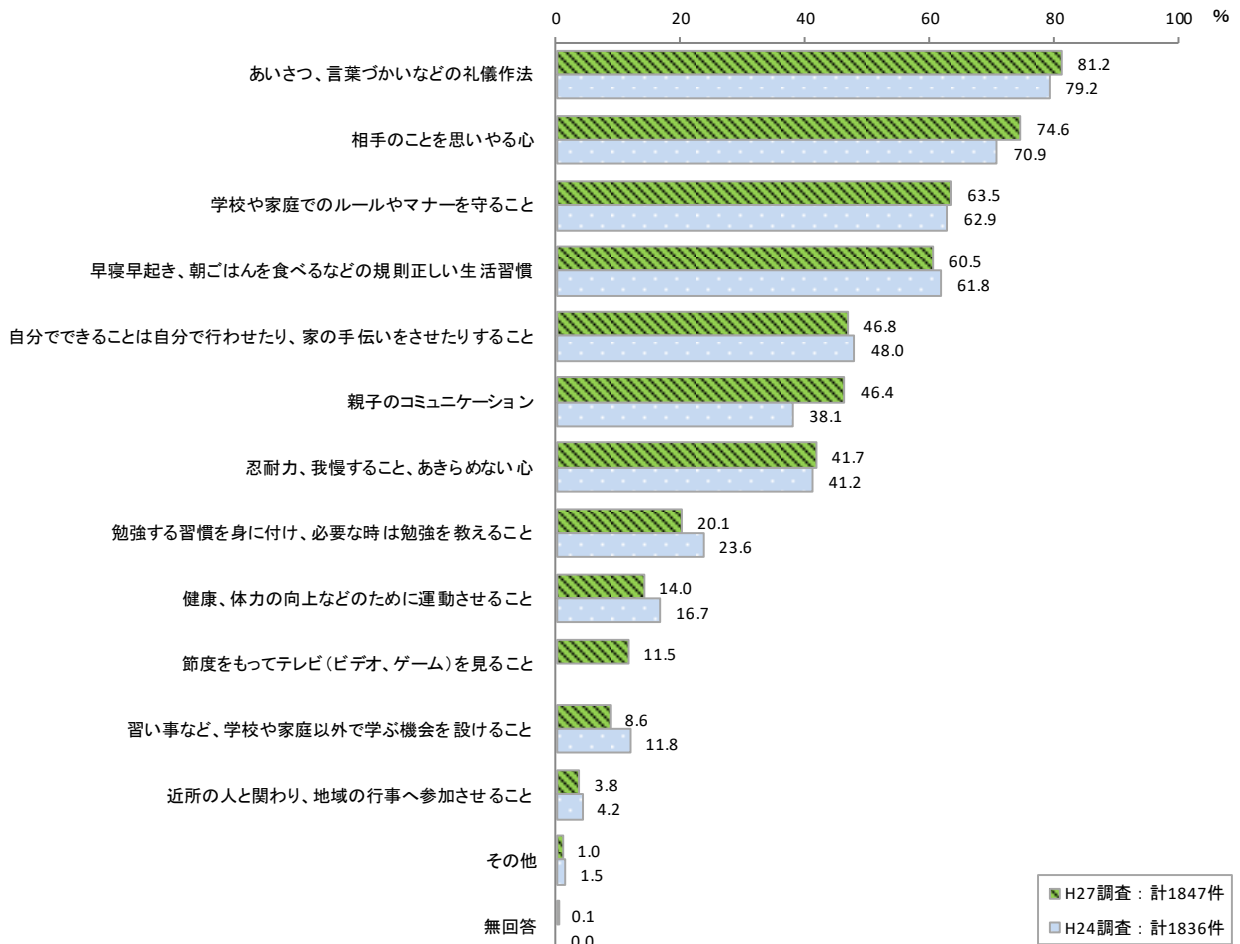
(2) 家庭でのしつけや教育で重視していること

問3 問2で「重要である」と答えた保護者が回答 あなたが、家庭でのしつけや教育で特に重視していることは何ですか。(〇は5つまで)

平成27年度の調査結果をみると、「あいさつ、言葉づかいなどの礼儀作法」の割合が81.2%と最も高く、次いで「相手のことを思いやる心」の割合が74.6%、「学校や家庭でのルールやマナーを守ること」の割合が63.5%、「早寝早起き、朝ごはんを食べるなどの規則正しい生活習慣」の割合が60.5%となっています。

「その他」として、「色々な人達と接すること」、「食事のマナー」などの回答があります。経年変化をみると、「親子のコミュニケーション」の割合が8.3ポイント増加しています。

図 11-7 家庭でのしつけや教育で重視していること
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は、「節度をもってテレビ(ビデオ、ゲーム)を見ること」の項目なし。

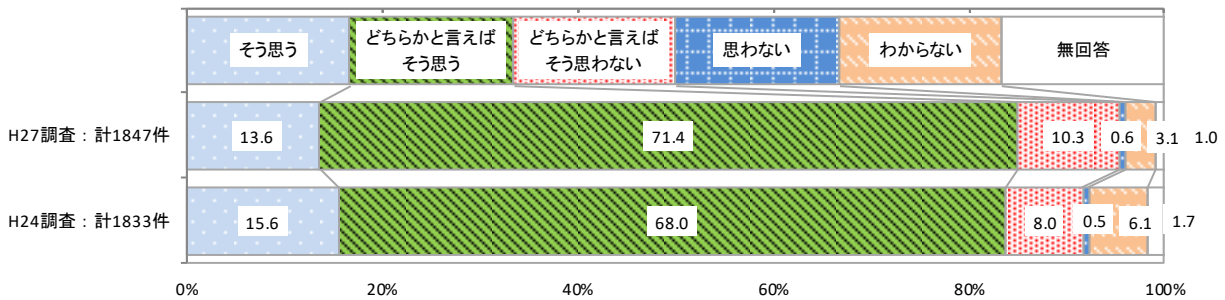
(3) 子どもに対するしつけや教育の実践

問4 問2で「重要である」と答えた保護者が回答 家庭でのしつけや教育で特に重視していることを、お子さんは、実際にできていると思いますか。(〇は1つだけ)

平成27年度の調査結果をみると、肯定的な回答（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計）の割合が85.0%となっています。

経年変化をみると、肯定的な回答と否定的な回答（「思わない」と「どちらかと言えばそう思わない」の合計）の割合が、ともにわずかながら増加し、「わからない」という回答の割合が減少しています。

図 11-8 子どもに対するしつけや教育の実践
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



4 小学校入学後のお子さんの様子について

(1) 小学校入学後の生活で楽しんでいること

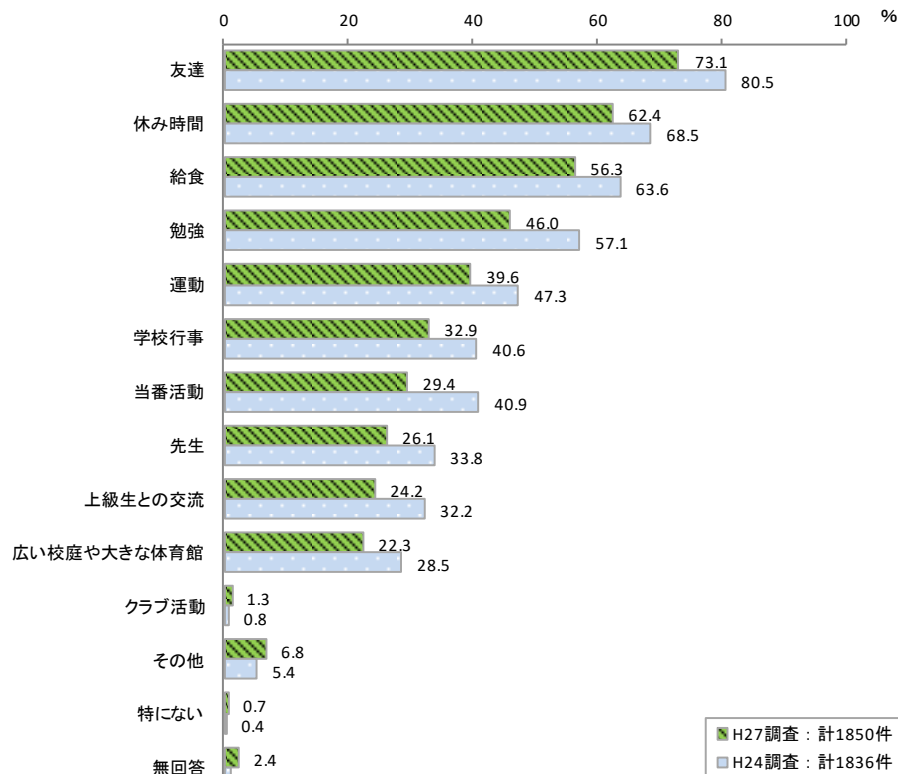
問5 お子さんが現在、小学校入学後の日々の生活で楽しみにしていることは何ですか。(あてはまるものすべてに〇)

平成27年度の調査結果をみると、「友達」の割合が73.1%と最も高く、次いで「休み時間」の割合が62.4%、「給食」の割合が56.3%となっています。

「その他」としては、「学童保育」、「プール」、「図書室」などの回答があります。

経年変化をみると、多くの項目で回答の割合が減少しています。特に「当番活動」の割合が11.5ポイント、「勉強」の割合が11.1ポイント減少しています。

図 11-9 小学校入学後の生活で楽しんでいること
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 「友達」、「先生」は、平成24年度調査の「新しい友達」、「新しい先生」と比較している。

(2) 小学校入学後の不安

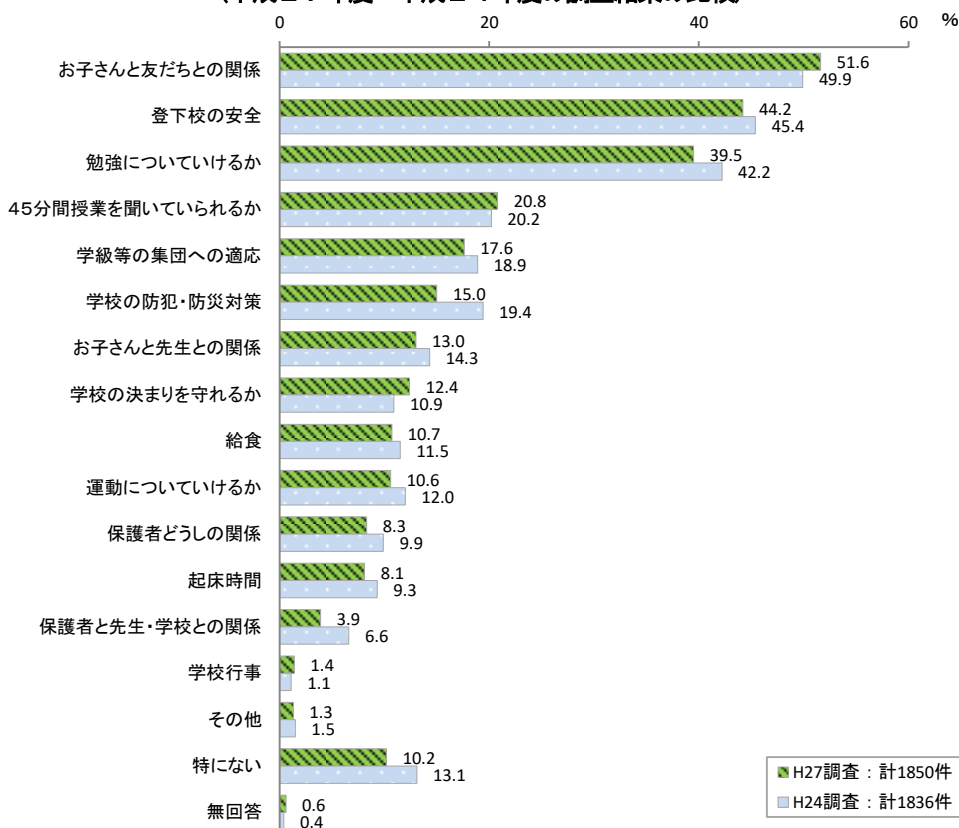
問6 あなたが現在、お子さんの小学校入学後の生活で、不安に感じていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

平成27年度の調査結果をみると、「お子さんと友だちとの関係」の割合が51.6%と最も高く、次いで「登下校の安全」の割合が44.2%、「勉強についていけるか」の割合が39.5%となっています。

「その他」として、「PTA活動」などの回答があります。

経年変化は特にみられません。

図 11-10 小学校入学後の不安
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 「お子さんと友だちとの関係」は、平成24年度調査の「友達との関係」と比較している。「学級等の集団への適応」は、平成24年度調査の「集団への適応」と比較している。

(3) 不安や心配に対する対応

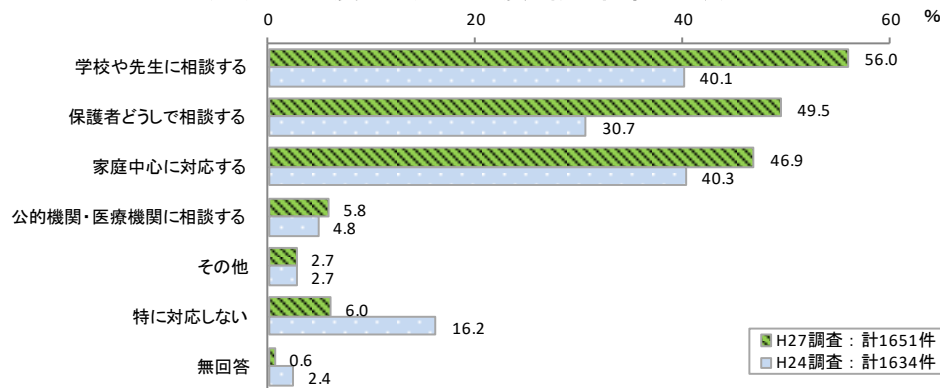
問7 問6で「特にない」と答えなかった保護者が回答 あなたは、お子さんの小学校入学後の生活に関する不安や心配に対して、どのように対応されますか（対応されましたか）。（あてはまるものすべてに○）

平成27年度の調査結果をみると、「学校や先生に相談する」の割合が56.0%と最も高く、次いで「保護者どうして相談する」の割合が49.5%、「家庭中心に対応する」の割合が46.9%となっています。

「その他」として、「祖父母（両親）に相談する」、「子どもと話し合う」、「友人に相談する」などの回答があります。

経年変化をみると、多くの項目で回答の割合が増加しています。特に「保護者どうして相談する」の割合が18.8ポイント、「学校や先生に相談する」の割合が15.9ポイント増加しています。

図 11-11 不安や心配に対する対応
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 「学校や先生に相談する」は、平成24年度調査の「学校に相談する」と比較している。

(4) 不安がない理由

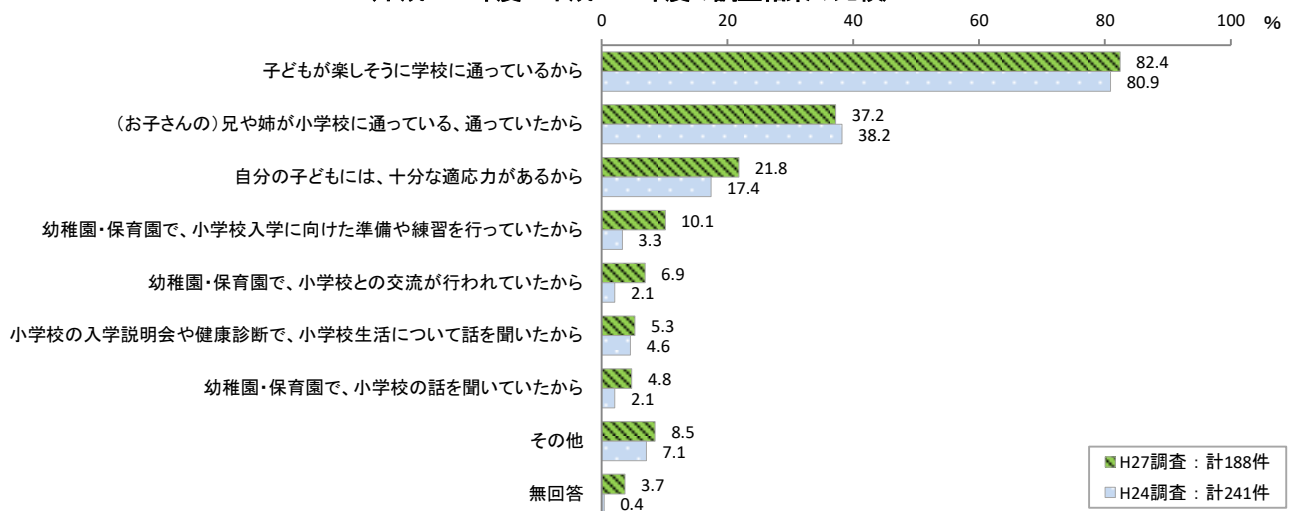
問8 問6で「特にない」と答えた保護者が回答 あなたが、お子さんの小学校入学後の生活に関して不安を感じていない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

平成27年度の調査結果をみると、「子どもが楽しそうに学校に通っているから」の割合が82.4%と最も高く、次いで「(お子さんの) 兄や姉が小学校に通っている、通っていたから」の割合が37.2%、「自分の子どもには、十分な適応力があるから」の割合が21.8%となっています。

「その他」として、「先生とのコミュニケーションが取れているから」、「子どもとのコミュニケーションが取れているから」などの回答があります。

経年変化をみると、「幼稚園・保育園で、小学校入学に向けた準備や練習を行っていたから」の割合が6.8ポイント増加しています。

図 11-12 不安がない理由
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)

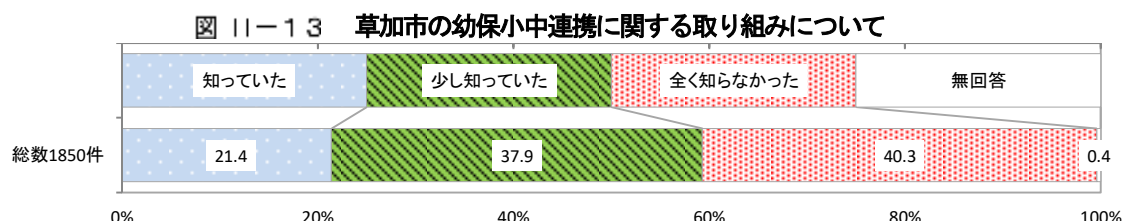


5 幼稚園・保育園等、小学校、中学校（幼保小中）の連携について

（1）草加市の幼保小中連携に関する取り組みについて

問9 あなたは、草加市が幼保小中及び家庭との連携に力を入れて取り組んでいることを、知っていましたか。
（○は1つだけ）

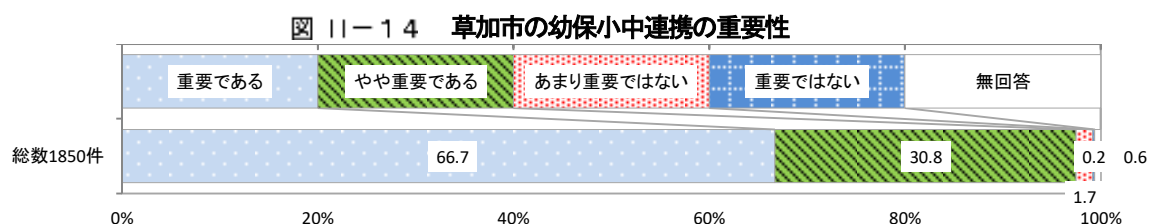
「知っていた」の割合が21.4%、「少し知っていた」の割合が37.9%、「全く知らなかった」の割合が40.3%となっています。



（2）草加市の幼保小中連携の重要性

問10 あなたは、草加市が幼保小中の連携に力を入れることは、子どもが健全に育つために、重要だと思いますか。
（○は1つだけ）

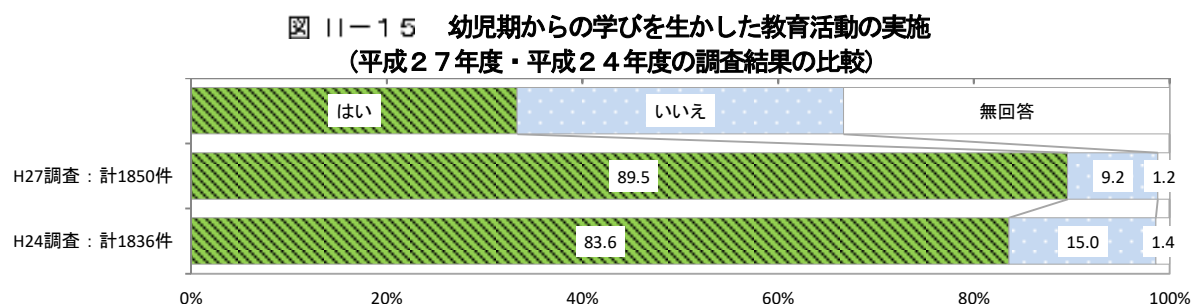
肯定的な回答（「重要である」と「やや重要である」の合計）の割合が97.5%となっています。



（3）幼児期からの学びを生かした教育活動の実施

問11 あなたは、子どもたちが幼稚園や保育園等で身に付けた力を生かすような教育活動を、小学校で行ってほしいと思いますか。（○は1つだけ）

平成27年度の調査結果をみると、「はい」の割合が89.5%となっています。
経年変化をみると、「はい」の割合が5.9ポイント増加しています。



(4) 小学校で取り組んでほしいこと

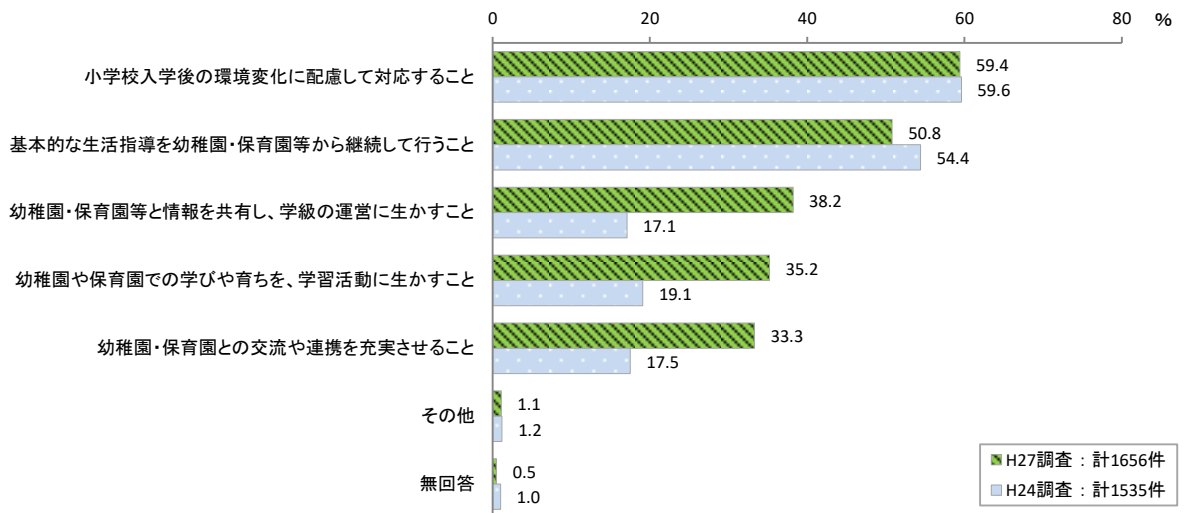
問12 問11で「はい」と答えた保護者が回答 小学校で、幼稚園や保育園等での教育と連携するために、どのようなことに取り組んでほしいですか。(あてはまるものすべてに○)

平成27年度の調査結果をみると、「小学校入学後の環境変化に配慮して対応すること」の割合が59.4%と最も高く、次いで「基本的な生活指導を幼稚園・保育園等から継続して行うこと」の割合が50.8%、「幼稚園・保育園等と情報を共有し、学級の運営に生かすこと」の割合が38.2%となっています。

「その他」として、「教員同士の面談・引継ぎ」などの回答があります。

経年変化をみると、「幼稚園・保育園等と情報を共有し、学級の運営に生かすこと」の割合が21.1ポイント、「幼稚園や保育園での学びや育ちを、学習活動に生かすこと」の割合が16.1ポイント、「幼稚園・保育園との交流や連携を充実させること」の割合が15.8ポイント増加しています。

図 11-16 小学校で取り組んでほしいこと
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 「小学校入学後の環境変化に配慮して対応すること」は、平成24年度調査の「小学校入学後の環境変化に対応した配慮」と比較している。「基本的な生活指導を幼稚園・保育園等から継続して行うこと」は、平成24年度調査の「基本的な生活指導の継続」と比較している。

6 お子さんの将来像について

(1) お子さんの将来像について

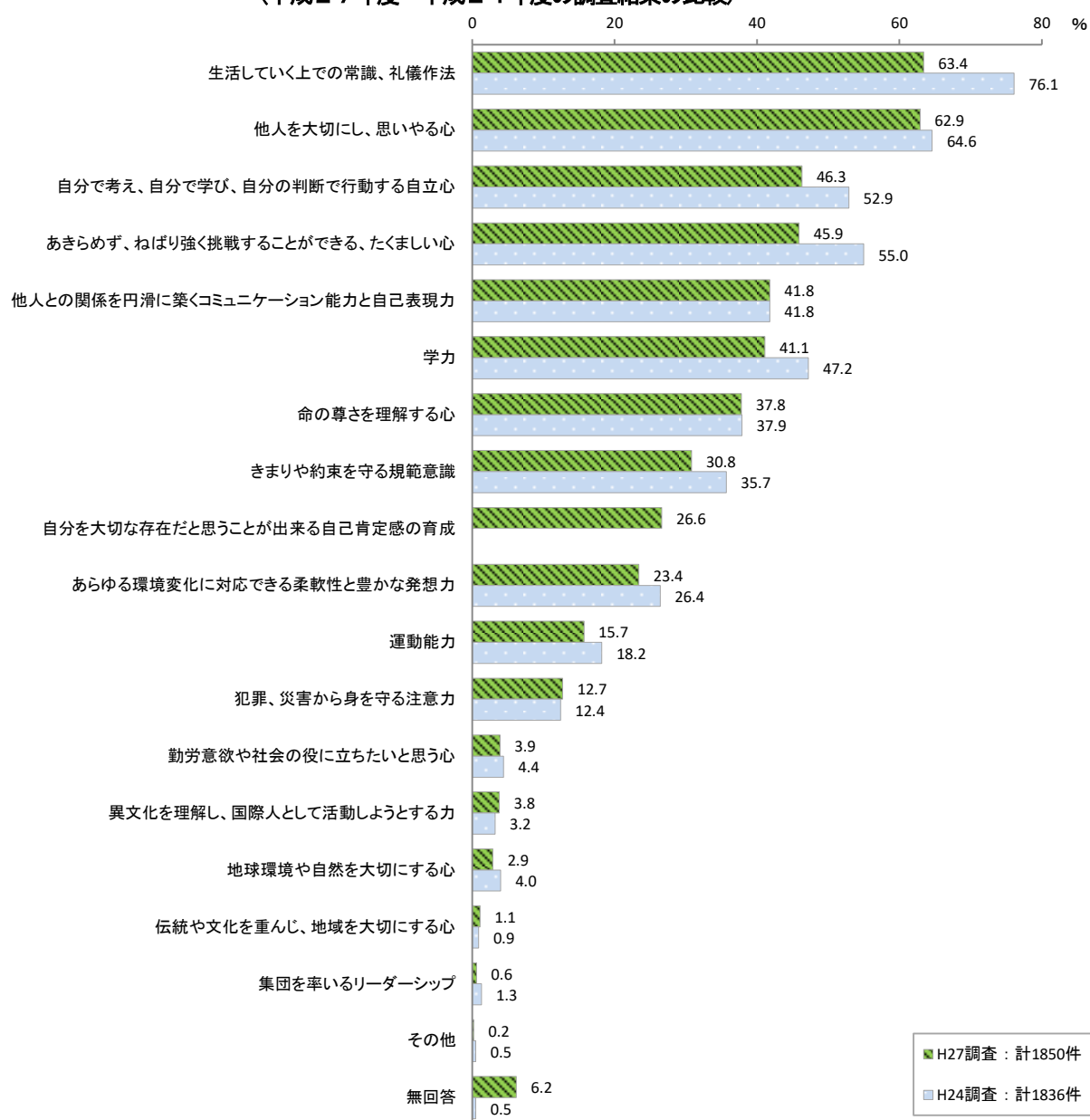
問13 将来の社会の担い手として、中学校を卒業するまでに、お子さんに身に付けてほしい能力や考え方のうち、特に重要だと思うことは何ですか。(〇は5つまで)

平成27年度の調査結果をみると、「生活していく上での常識、礼儀作法」の割合が63.4%と最も高く、次いで「他人を大切にし、思いやる心」の割合が62.9%、「自分で考え、自分で学び、自分の判断で行動する自立心」の割合が46.3%、「あきらめず、ねばり強く挑戦することができる、たくましい心」の割合が45.9%となっています。

「その他」として、「すべてあてはまる」、「素直な心、感謝する心、感謝を感じることでできる人」などの回答があります。

経年変化をみると、多くの項目で回答の割合が減少しています。特に「生活していく上での常識、礼儀作法」の割合が12.7ポイント減少しています。

図 11-17 お子さんの将来像について
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は、「自分を大切な存在だと思える自己肯定感の育成」の項目なし。「他人との関係を円滑に築くコミュニケーション能力と自己表現力」は、平成24年度調査の「他人との関係を円滑に築くコミュニケーション能力と自己主張力」と比較している。

7 自由記述

最後に、子ども教育の連携や草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

対象となる回収数 1850 件中、254 件に記述がありました（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 254 件より多くなっています。）

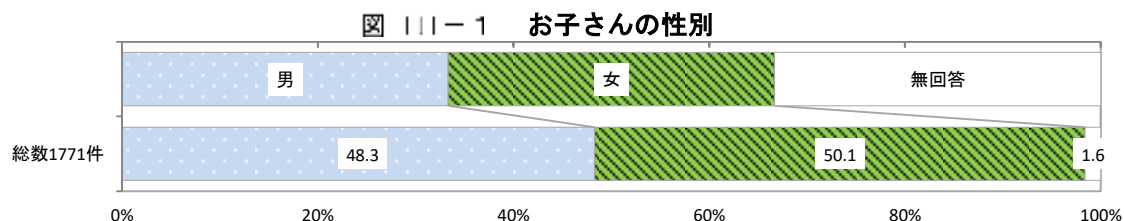
項目	件数
小中学校に関すること	163
教育内容について	53
教員について	19
子どもたちへの対応について	14
特別支援教育について	7
安心・安全について	18
給食、食育について	2
土曜授業について	12
放課後について	1
家庭・地域との連携について	32
その他	5
学童、放課後子ども教室に関すること	18
学童について	10
その他	8
教育行政に関すること	49
子ども教育の連携推進について	25
教育施策全般について	19
その他	5
その他	41
子どもの遊び場について	12
その他	17
幼稚園・保育園について	7
その他	5

Ⅲ 小学校：6年生の保護者

1 基本情報

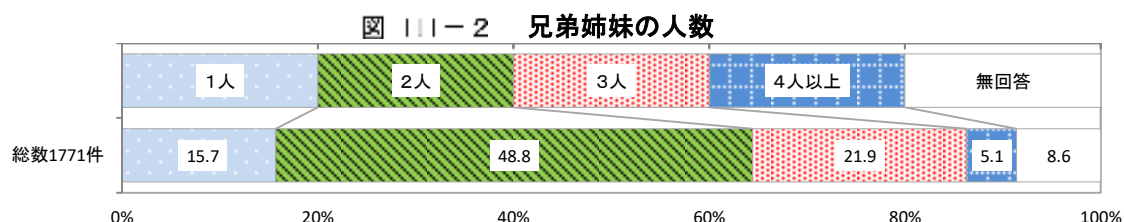
(1) お子さんの性別

「男」の割合が48.3%、「女」の割合が50.1%となっています。



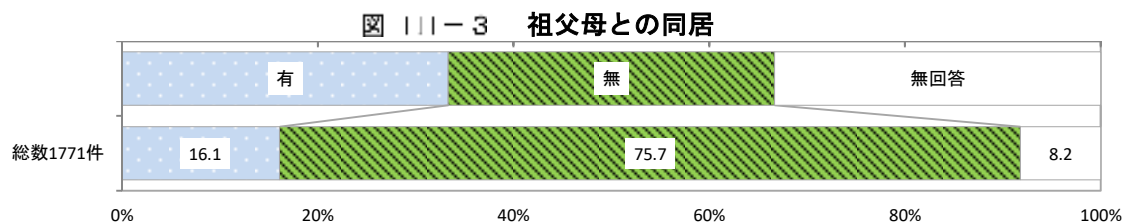
(2) 兄弟姉妹の人数

「2人」の割合が48.8%と最も高く、次いで「3人」の割合が21.9%、「1人」の割合が15.7%となっています。



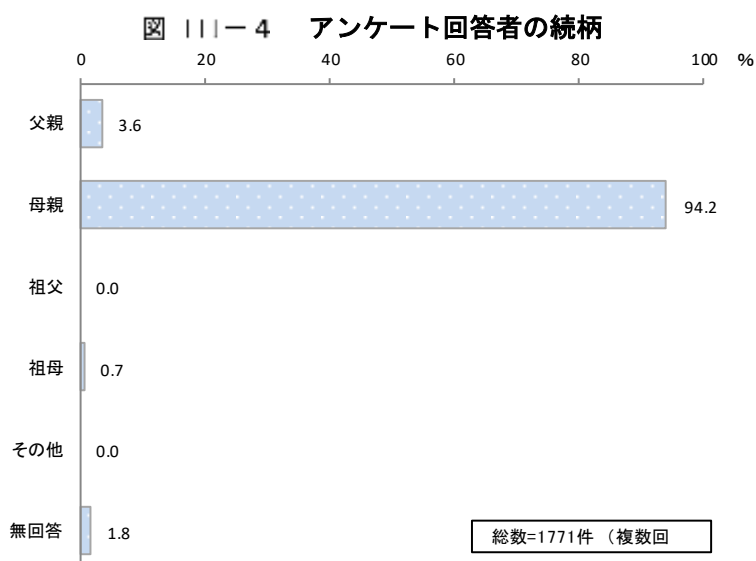
(3) 祖父母と同居

「有」の割合が16.1%、「無」の割合が75.7%となっています。



(4) アンケート回答者の続柄

「母親」の割合が94.2%と大部分を占めています。



2 お子さんの生活の様子について

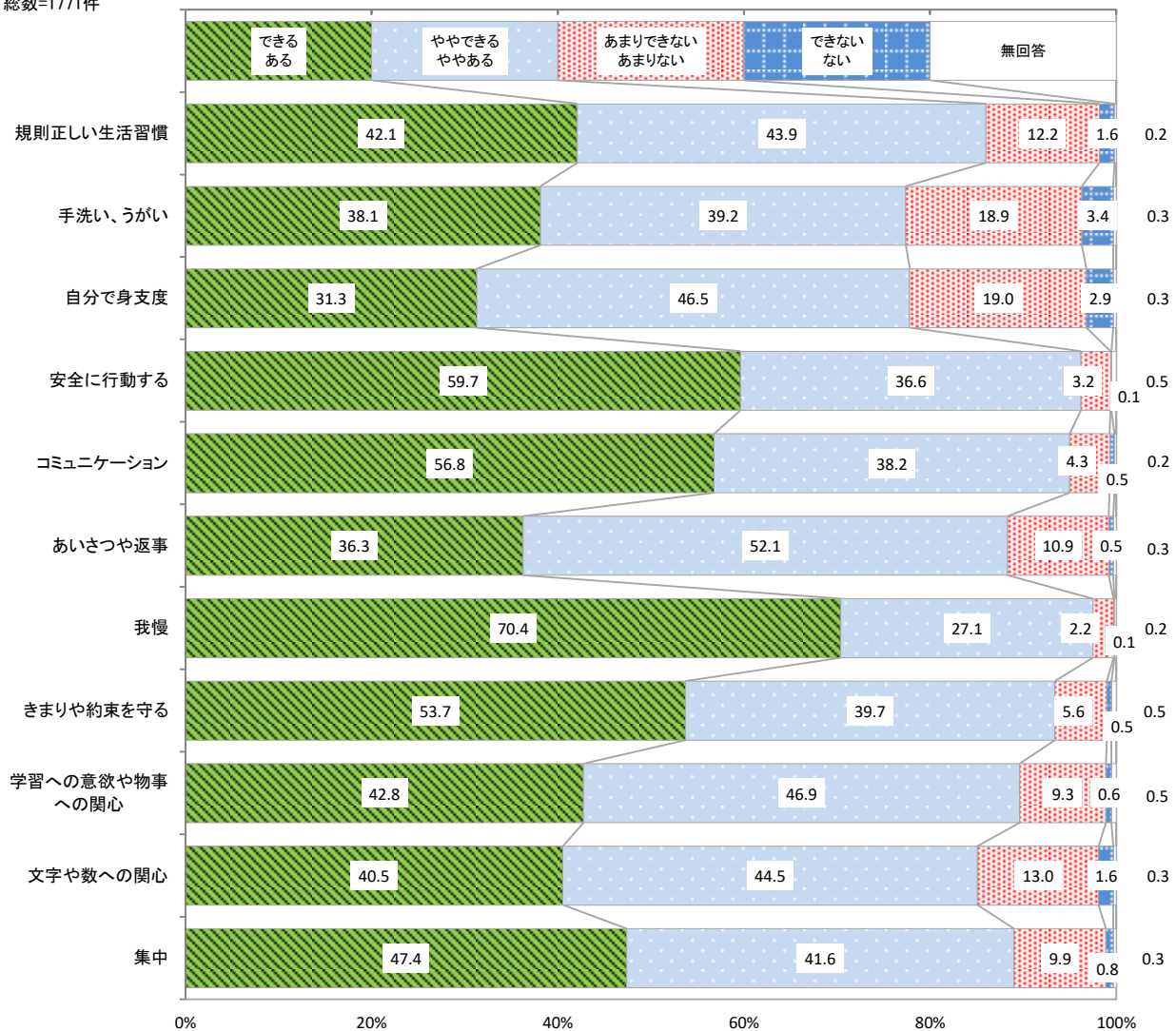
(1) お子さんの生活の様子について

問1 お子さんの生活の様子を教えてください。それぞれあてはまる欄に○を1つだけつけてください。

肯定的な回答の割合が最も高いのは「我慢」(97.5%)で、次いで「安全に行動する」(96.3%)、「コミュニケーション」(95.0%)となっています。

図 111-5 お子さんの生活の様子について

総数=1771件



〔選択肢の説明〕

- ・規則正しい生活習慣…早寝早起き朝ごはんなど、規則正しく生活を送ることはできますか。
- ・手洗い、うがい…外出後や食事前に、手洗い・うがいを自分からすることはできますか。
- ・自分で身支度…自分の物を整理整頓する、適切に身じたくをするなど、身の回りのことを自分ですることはできますか。
- ・安全に行動する…危ないことをしない、交通ルールを守るなど、安全に行動することはできますか。
- ・コミュニケーション…友達と一緒に遊ぶ、自分の気持ちを伝えるなど、周囲の人とコミュニケーションをとることはできますか。
- ・あいさつや返事…しっかりとあいさつや返事はできますか。
- ・我慢…順番を待つ、友達に譲るなど、我慢することはできますか。
- ・きまりや約束を守る…きまりや約束を守ることはできますか。
- ・学ぶ意欲や物事への関心…学習への意欲や、生活・周囲のさまざまな物事への関心はありますか。
- ・文字や数への関心…文章を読もうとする、計算や数量について理解しようとするなど、文字や数への関心はありますか。
- ・集中…人の話を静かに聞く、物事にじっくり取り組むなど、集中して何かをすることはできますか。

〔凡例の説明〕

・「学ぶ意欲や物事への関心」、「文字や数への関心」、「集中」は「できる」を「ある」、「ややできる」を「ややある」、「あまりできない」を「あまりない」、「できない」を「ない」とそれぞれ読み替える。

3 お子さんの学習の様子について

(1) 学校の授業の理解度

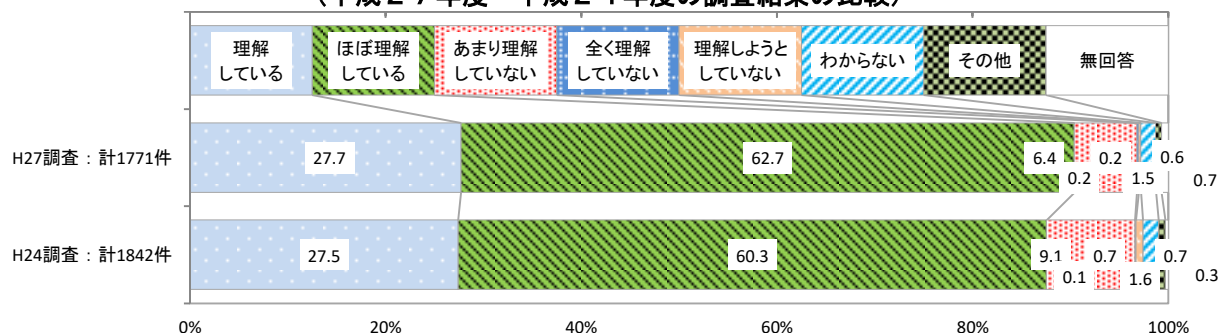
問2 お子さんは、学校での授業を理解している様子ですか。(○は1つだけ)

平成27年度の調査結果をみると、肯定的な回答(「理解している」と「ほぼ理解している」の合計)の割合が90.4%となっています。

「その他」として、「教科・科目による」などの回答があります。

経年変化は特にみられません。

図 Ⅲ-6 学校の授業の理解度
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



(2) 学校の授業を理解していない理由

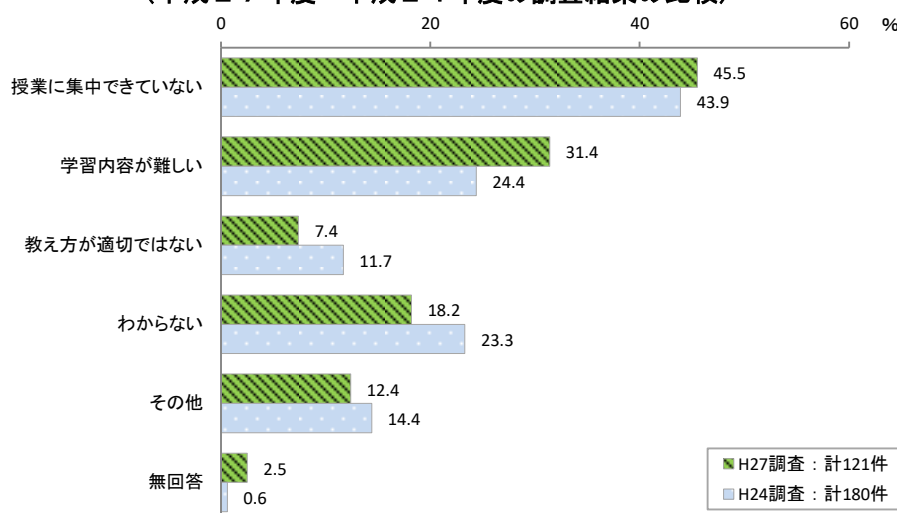
問3 問2で「あまり理解していない」「全く理解していない」「理解しようとしていない」と答えた保護者が回答
お子さんが、学校の授業を理解していない理由や原因は何だと思われますか。(あてはまるものすべてに○)

平成27年度の調査結果をみると、「授業に集中できていない」の割合が45.5%と最も高く、次いで「学習内容が難しい」の割合が31.4%となっています。

「その他」として、「質問をしない」、「やる気がない」などの回答があります。

経年変化をみると、「学習内容が難しい」の割合が7.0ポイント増加しています。

図 Ⅲ-7 学校の授業を理解していない理由
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 「学習内容が難しい」は、平成24年度調査の「授業内容が難しい」と比較している。

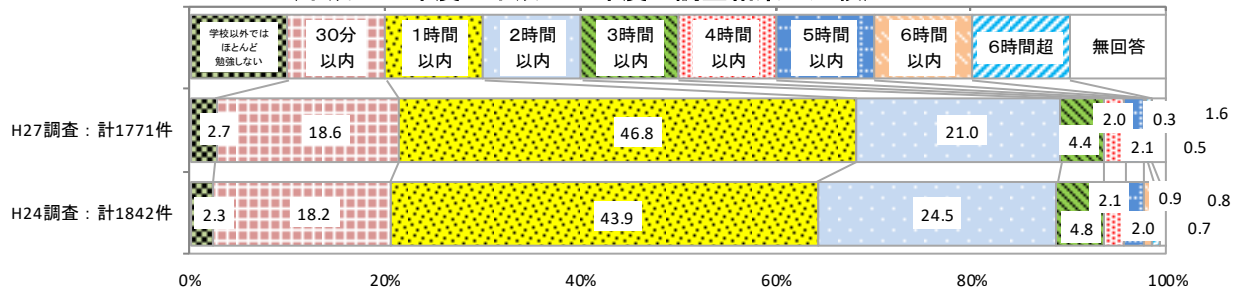
(3) 1日の平均学習時間

問4 お子さんの、学校以外での1日の平均学習時間（塾などでの学習の時間を含む）は、どのくらいですか。（○は1つだけ）

平成27年度の調査結果をみると、「1時間以内」の割合が46.8%と最も高く、次いで「2時間以内」の割合が21.0%、「30分以内」の割合が18.6%となっています。

経年変化は特にみられません。

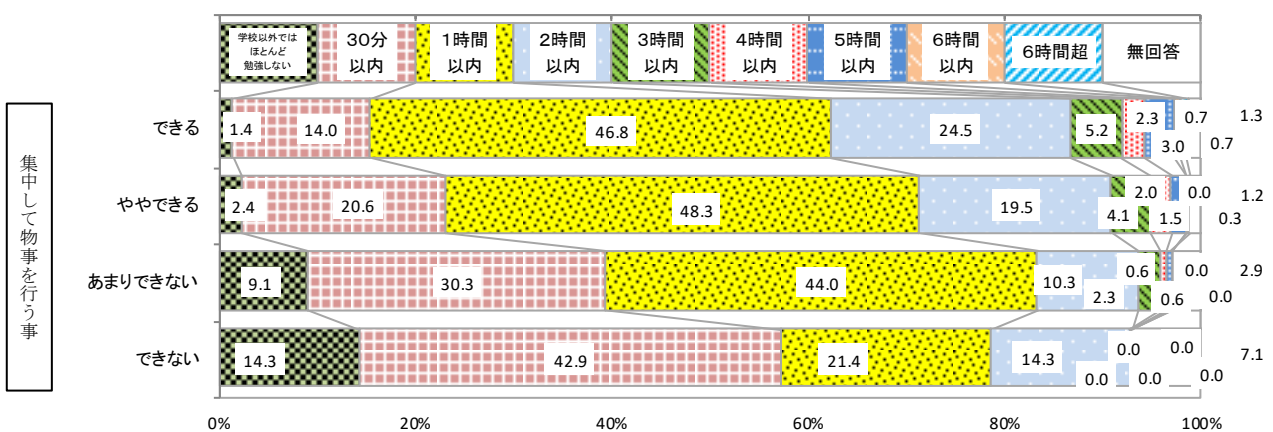
図 III-8 1日の平均学習時間
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



【1日の平均学習時間クロス集計】

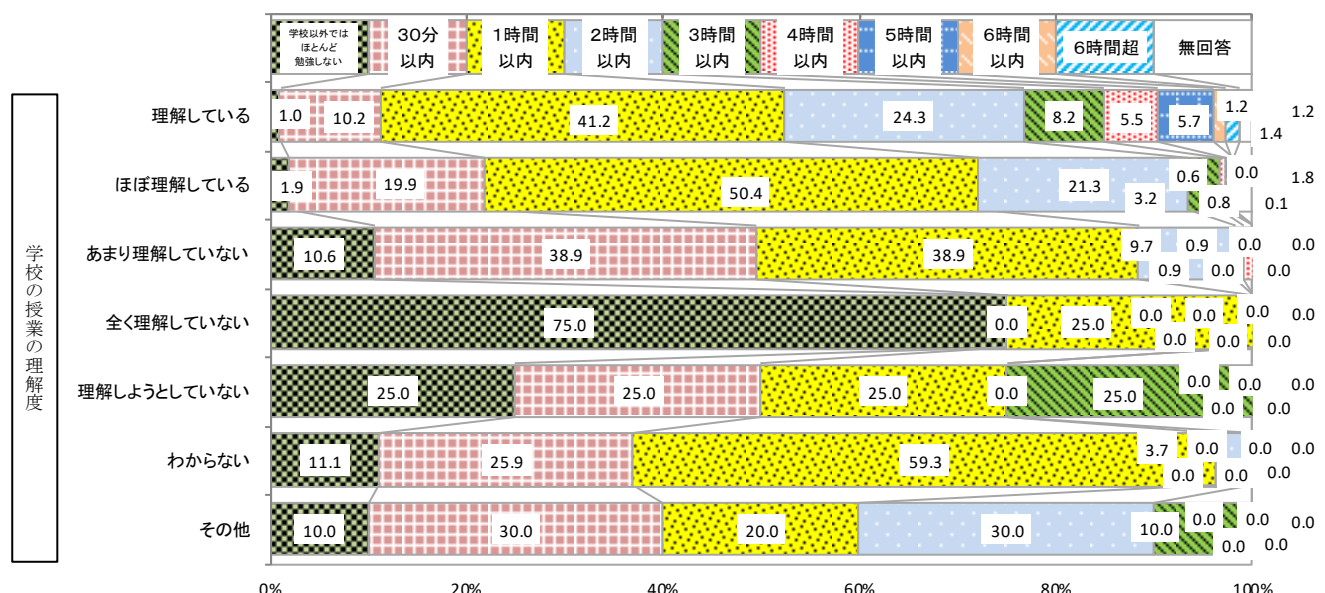
問1の集中して物事を行うことの回答別に1日の平均学習時間をみると、肯定的な回答（「できる」及び「ややできる」）の場合ほど、1日の平均学習時間が長くなる傾向がうかがえます。

図 III-9 集中して物事を行うこと別、1日の平均学習時間



問2の学校での授業の理解度別に1日の平均学習時間をみると、理解度が高まるほど、1日の平均学習時間が長くなる傾向がうかがえます。

図 III-10 学校の授業の理解度別、1日の平均学習時間

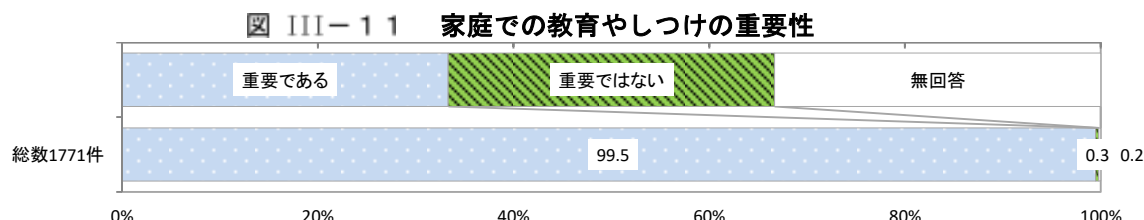


4 家庭での教育について

(1) 家庭での教育やしつけの重要性

問5 あなたは、家庭で教育やしつけを行うことは、子どもが健全に育つために、重要だと思いますか。(○は1つだけ)

「重要である」の割合が99.5%となっています。



(2) 家庭でのしつけや教育で重視していること

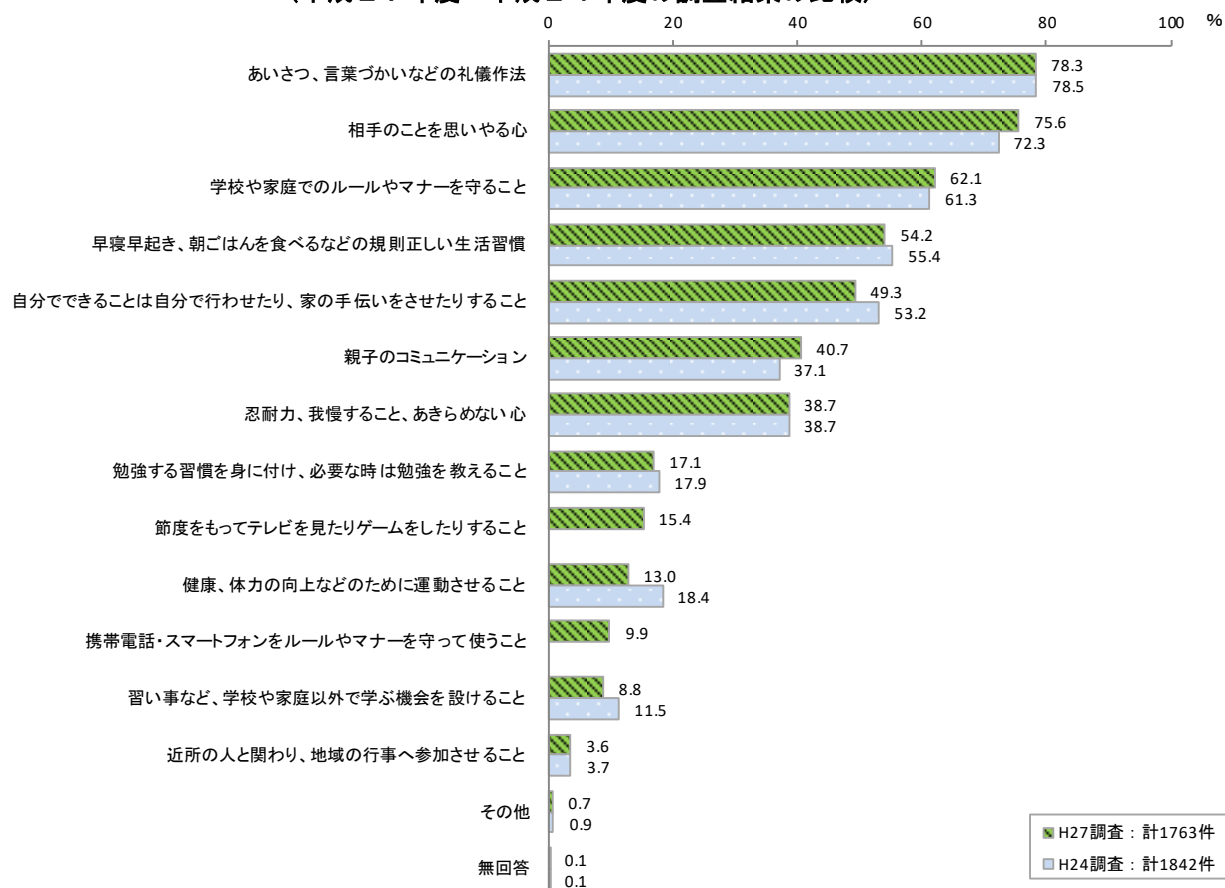
問6 問5で「重要である」と答えた保護者が回答 あなたが、家庭でのしつけや教育で特に重視していることは何ですか。(○は5つまで)

平成27年度の調査結果をみると、「あいさつ、言葉づかいなどの礼儀作法」の割合が78.3%と最も高く、次いで「相手のことを思いやる心」の割合が75.6%、「学校や家庭でのルールやマナーを守ること」の割合が62.1%となっています。

「その他」として、「人に迷惑をかけない」、「嘘をつかない」などの回答があります。

経年変化をみると、「健康、体力の向上などのために運動させること」の割合が5.4ポイント減少しています。

図 III-12 家庭でのしつけや教育で重視していること
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は、「節度をもってテレビを見たりゲームをしたりすること」、「携帯電話・スマートフォンをルールやマナーを守って使うこと」の項目なし。

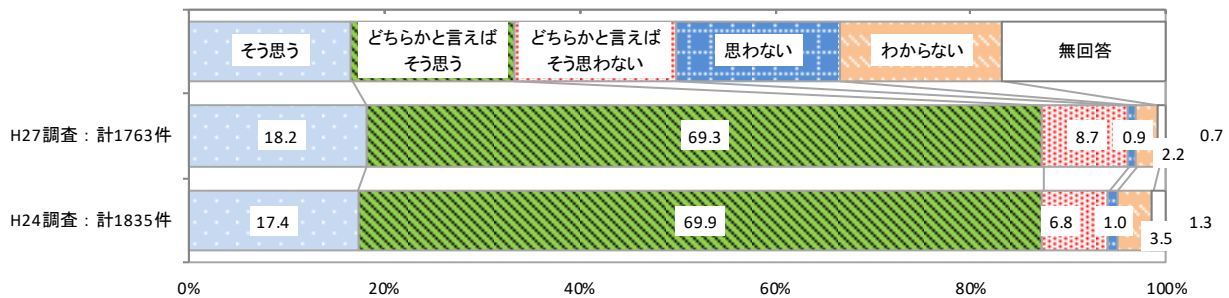
（３）子どもに対するしつけや教育の実践

問７ **問５で「重要である」と答えた保護者が回答** 家庭でのしつけや教育で、特に重視していることを、お子さんは、実際にできていると思いますか。（○は１つだけ）

平成２７年度の調査結果をみると、肯定的な回答（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計）の割合が 87.5%となっています。

経年変化は特にみられません。

図 Ⅲ－１３ 子どもに対するしつけや教育の実践
（平成２７年度・平成２４年度の調査結果の比較）



５ 中学校入学にあたっての期待や不安について

（１）中学校入学後の生活で楽しみにしていることや期待していること

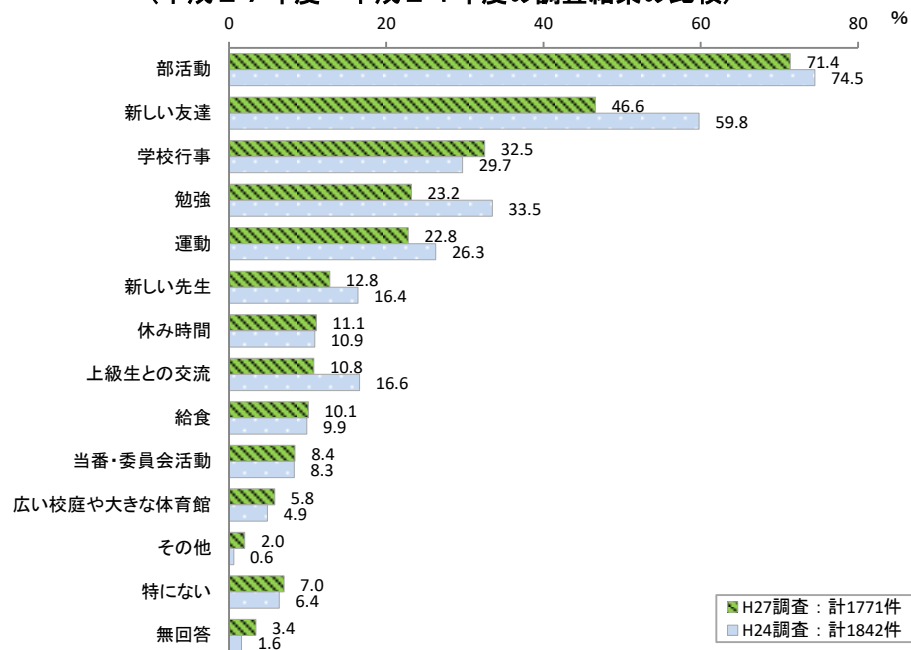
問８ お子さんが、中学校入学後の生活について、楽しみにしていることや期待していることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

平成２７年度の調査結果をみると、「部活動」の割合が 71.4%と最も高く、次いで「新しい友達」の割合が 46.6%、「学校行事」の割合が 32.5%となっています。

「その他」としては、「制服」、「修学旅行」、「図書館・図書室」などの回答があります。

経年変化をみると、多くの項目で回答の割合が減少しています。特に「新しい友達」の割合が 13.2 ポイント、「勉強」の割合が 10.3 ポイント減少しています。

図 Ⅲ－１４ 中学校入学後の生活で楽しみにしていることや期待していること
（平成２７年度・平成２４年度の調査結果の比較）



（２）中学校入学後の不安や心配

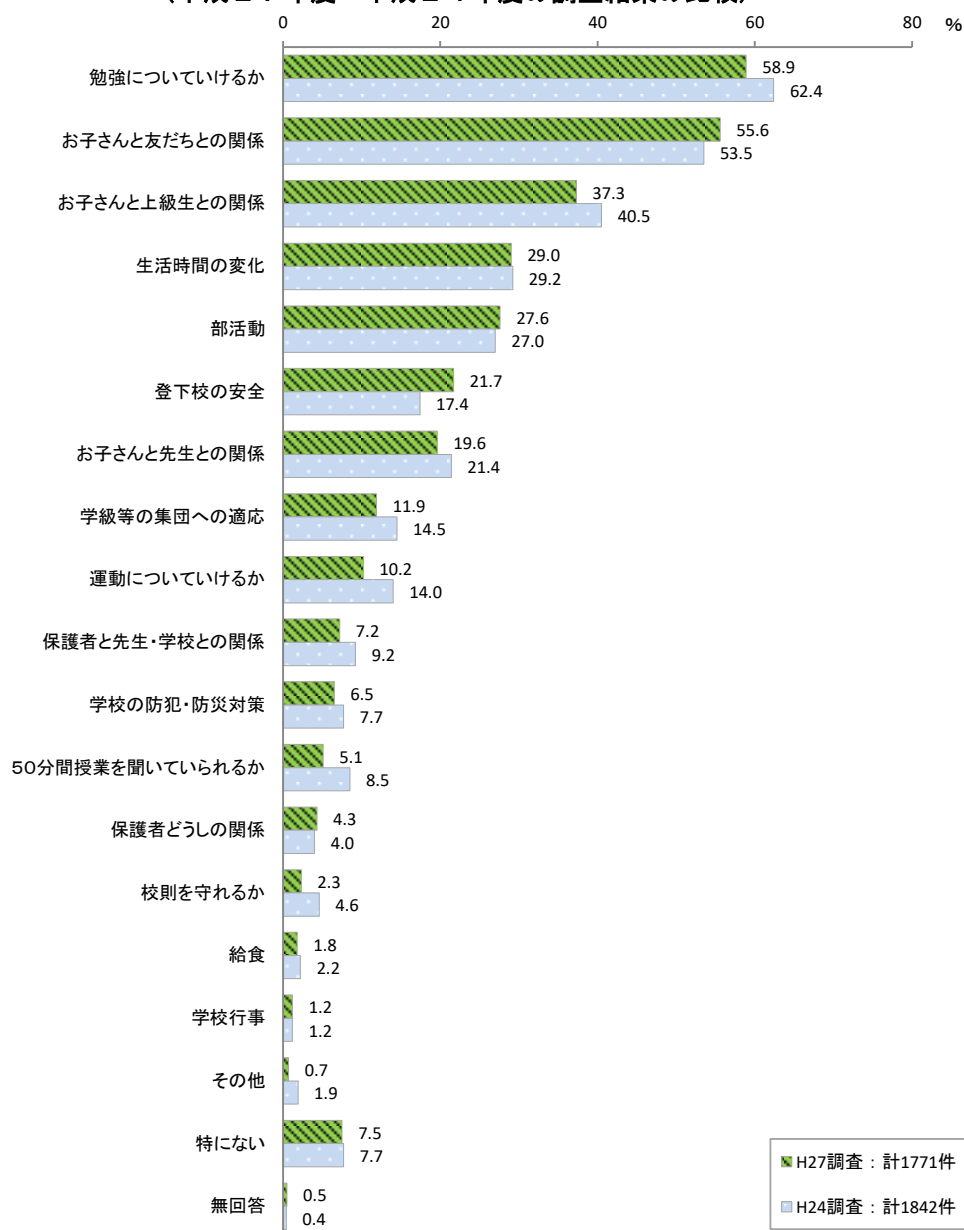
問９ あなたが、お子さんの中学校入学後の生活について、不安に感じていることや心配していることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

平成２７年度の調査結果をみると、「勉強についていけるか」の割合が58.9%と最も高く、次いで「お子さんと友だちとの関係」の割合が55.6%、「お子さんと上級生との関係」の割合が37.3%となっています。

「その他」として、「高校進学」、「いじめ」などの回答があります。

経年変化は特にみられません。

**図 Ⅲ－１５ 中学校入学後の不安や心配
（平成２７年度・平成２４年度の調査結果の比較）**



※ 「お子さんと友だちとの関係」は、平成２４年度調査の「友達との関係」と比較している。「学級等の集団への適応」は、平成２４年度調査の「集団への適応」と比較している。

（３）不安や心配に対する対応

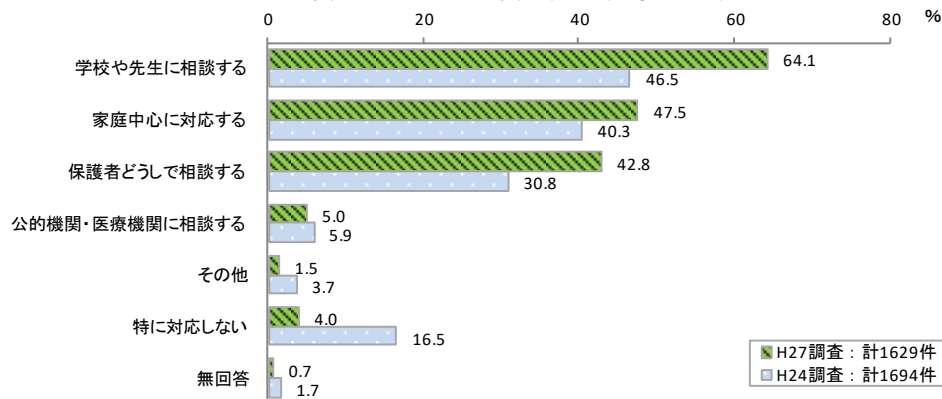
問 10 **問 9 で「特にない」と答えなかった保護者が回答** あなたは、お子さんの中学校入学後の生活に関する不安や心配に対して、どのように対応されますか（対応されましたか）。（あてはまるものすべてに○）

平成 27 年度の調査結果をみると、「学校や先生に相談する」の割合が 64.1%と最も高く、次いで「家庭中心に対応する」の割合が 47.5%、「保護者どうして相談する」の割合が 42.8%となっています。

「その他」として、「内容による」、「様子を見る」などの回答があります。

経年変化をみると、多くの項目で回答の割合が増加しています。特に「学校や先生に相談する」の割合が 17.6 ポイント増加しています。

図 III-16 不安や心配に対する対応
（平成 27 年度・平成 24 年度の調査結果の比較）



※ 「学校や先生に相談する」は、平成 24 年度調査の「学校に相談する」と比較している。

（４）不安や心配がない理由

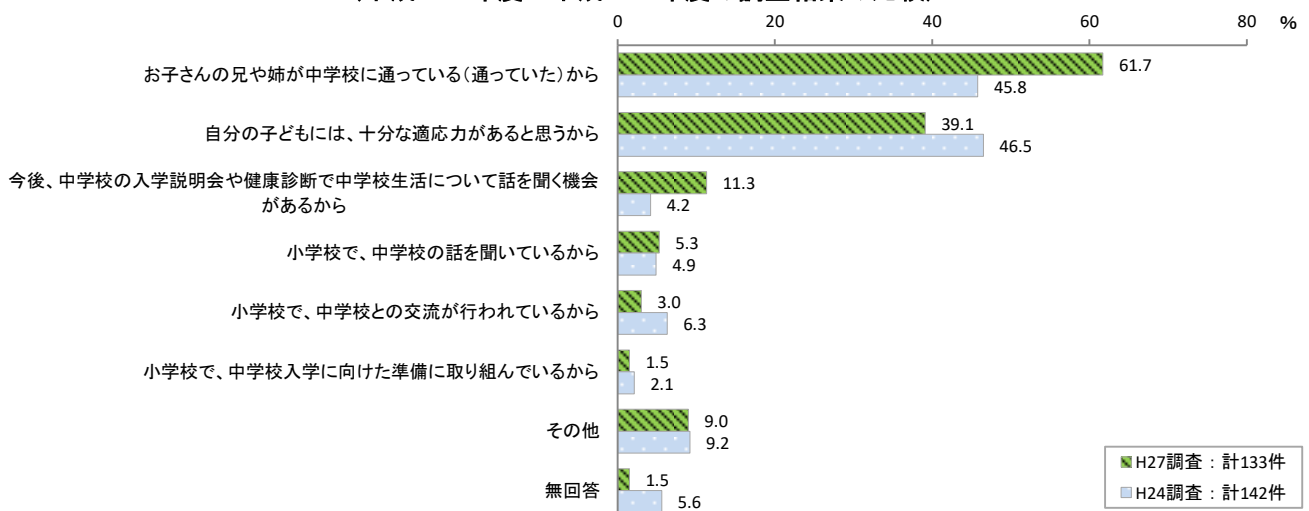
問 11 **問 9 で「特にない」と答えた保護者が回答** あなたが、お子さんの中学校入学後の生活に関して不安を感じていない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

平成 27 年度の調査結果をみると、「お子さんの兄や姉が中学校に通っている（通っていた）から」の割合が 61.7%と最も高く、次いで「自分の子どもには、十分な適応力があると思うから」の割合が 39.1%となっています。

「その他」として、「今のところ思いつかない」などの回答があります。

経年変化をみると、「お子さんの兄や姉が中学校に通っている（通っていた）から」の割合が 15.9 ポイント増加しています。

図 III-17 不安や心配がない理由
（平成 27 年度・平成 24 年度の調査結果の比較）

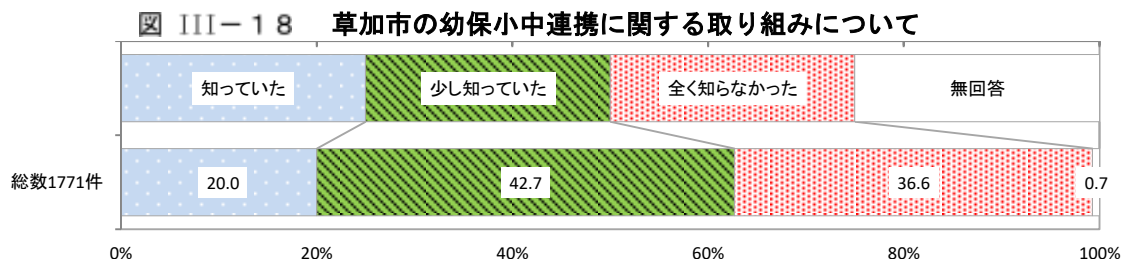


6 幼稚園・保育園等、小学校、中学校（幼保小中）の連携について

（１）草加市の幼保小中連携に関する取り組みについて

問１２ あなたは、草加市が幼保小中の連携に力を入れて取り組んでいることを、知っていましたか。
（○は１つだけ）

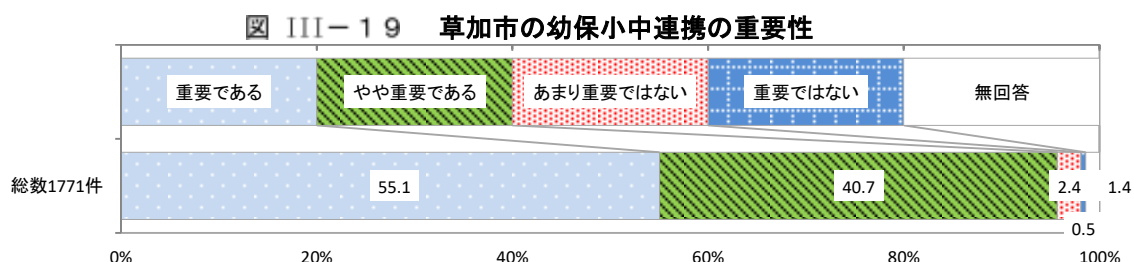
「知っていた」の割合が 20.0%、「少し知っていた」の割合が 42.7%、「全く知らなかった」の割合が 36.6%となっています。



（２）草加市の幼保小中連携の重要性

問１３ あなたは、草加市が幼保小中の連携に力を入れることは、子どもが健全に育つために、重要だと思いますか。（○は１つだけ）

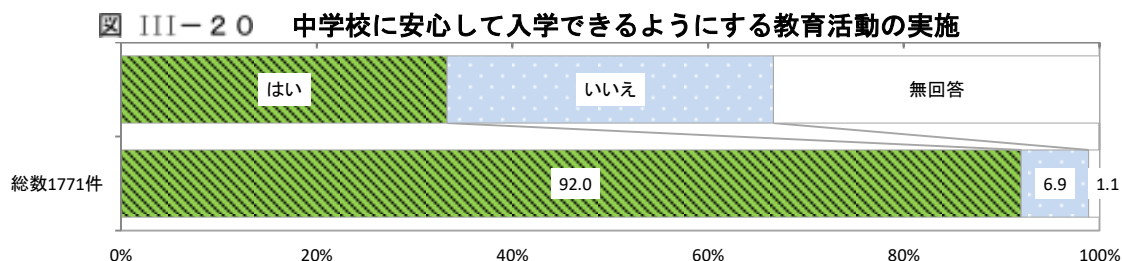
肯定的な回答（「重要である」と「やや重要である」の合計）の割合が 95.8%となっています。



（３）中学校に安心して入学できるようにする教育活動の実施

問１４ あなたは、小学校で、子どもが中学校に安心して入学できるようにする教育活動に取り組んでほしいと思いますか。（○は１つだけ）

「はい」の割合が 92.0%となっています。

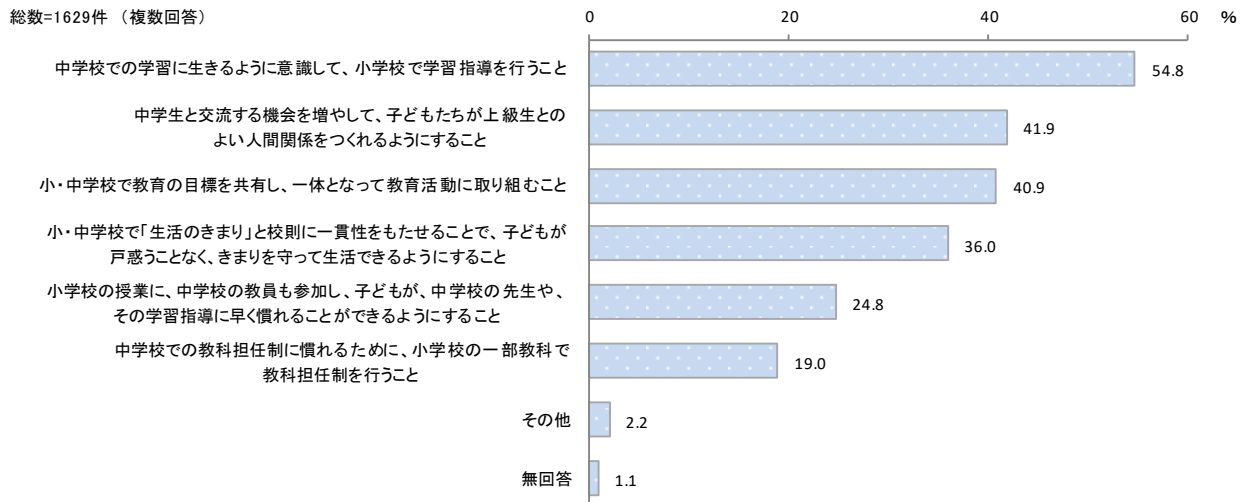


(4) 中学校入学に向けて取り組んでほしいこと

問15 問14で「はい」と答えた保護者が回答 あなたは、中学校入学に向けて、小学校でどのようなことに取り組んでほしいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「中学校での学習に生きるように意識して、小学校で学習指導を行うこと」の割合が54.8%と最も高く、次いで「中学生と交流する機会を増やして、子どもたちが上級生とのよい人間関係をつくれるようにすること」の割合が41.9%、「小・中学校で教育の目標を共有し、一体となって教育活動に取り組むこと」の割合が40.9%となっています。「その他」として、「部活動の体験」、「中学校へ見学や体験に行くなどの機会を増やす」などの回答があります。

図 III-21 中学校入学に向けて取り組んでほしいこと



7 お子さんの将来像について

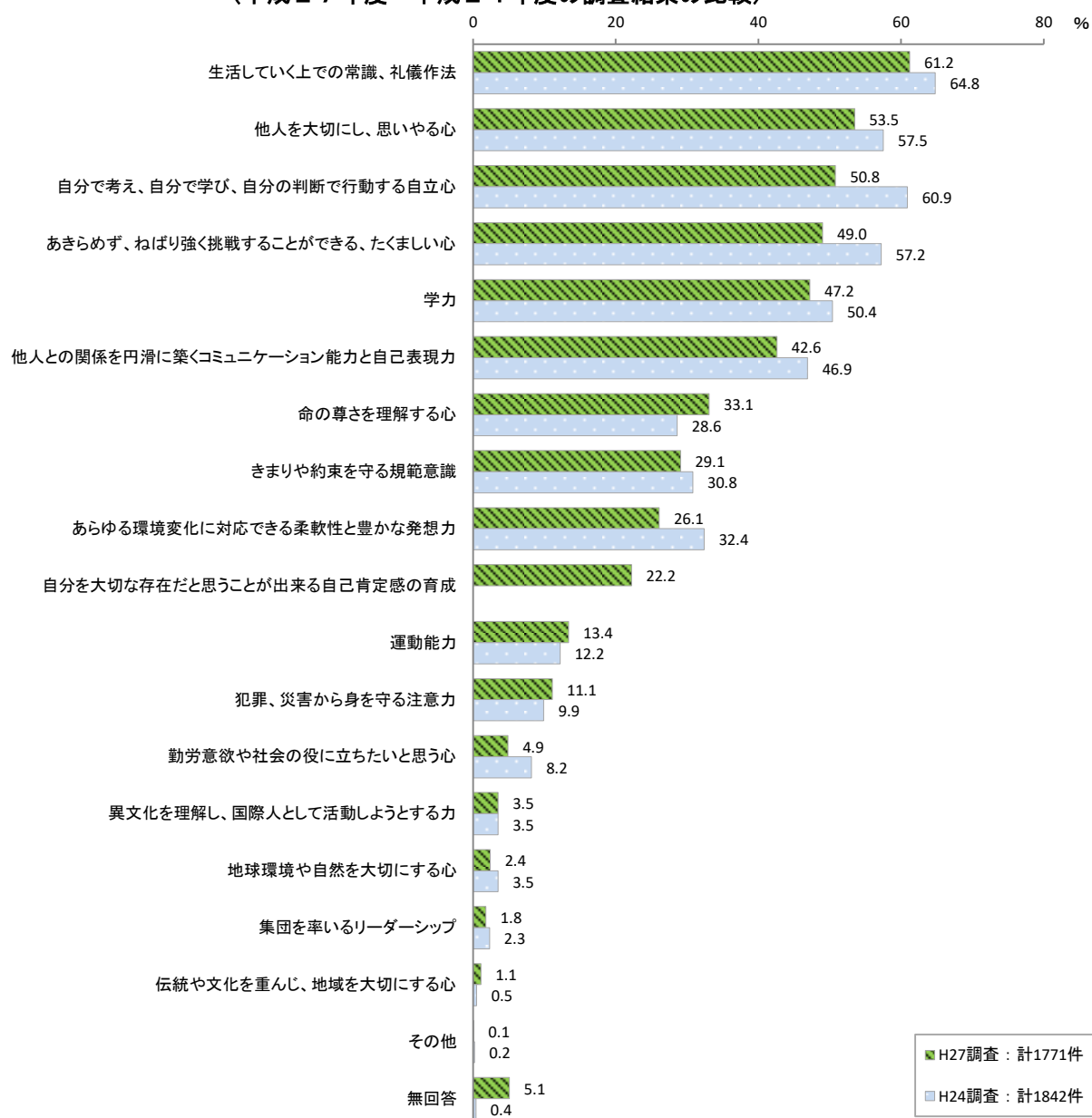
(1) お子さんの将来像について

問16 将来の社会の担い手として、中学校を卒業するまでに、お子さんに身に付けてほしい能力や考え方のうち、特に重要だと思うことは何ですか。(〇は5つまで)

平成27年度の調査結果をみると、「生活していく上での常識、礼儀作法」の割合が61.2%と最も高く、次いで「他人を大切にし、思いやる心」の割合が53.5%、「自分で考え、自分で学び、自分の判断で行動する自立心」の割合が50.8%、「あきらめず、ねばり強く挑戦することができる、たくましい心」の割合が49.0%となっています。

経年変化をみると、多くの項目で回答の割合が減少しています。特に「自分で考え、自分で学び、自分の判断で行動する自立心」の割合が10.1ポイント減少しています。

図 III-22 お子さんの将来像について
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は、「自分を大切な存在だと思える自己肯定感の育成」の項目なし。「他人との関係を円滑に築くコミュニケーション能力と自己表現力」は、平成24年度調査の「他人との関係を円滑に築くコミュニケーション能力と自己主張力」と比較している。

8 自由記述

最後に、子ども教育の連携や草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

対象となる回収数 1771 件中、171 件に記述がありました（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 171 件より多くなっています。）

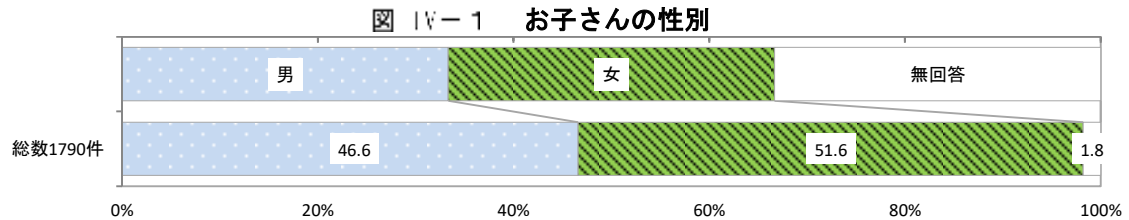
項目	件数
小中学校に関すること	136
教育内容について	44
教員について	18
子どもたちへの対応について	19
特別支援教育について	3
安心・安全について	3
給食、食育について	1
放課後について	6
家庭・地域との連携について	20
放課後について	6
家庭・地域との連携について	20
その他	22
教育行政に関すること	24
子ども教育の連携推進について	10
教育施策全般について	14
その他	27
子どもの遊び場について	1
その他	26

IV 中学校：1年生の保護者

1 基本情報

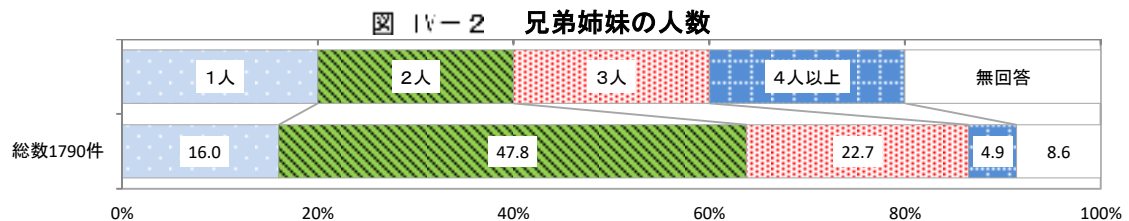
(1) お子さんの性別

「男」の割合が46.6%、「女」の割合が51.6%となっています。



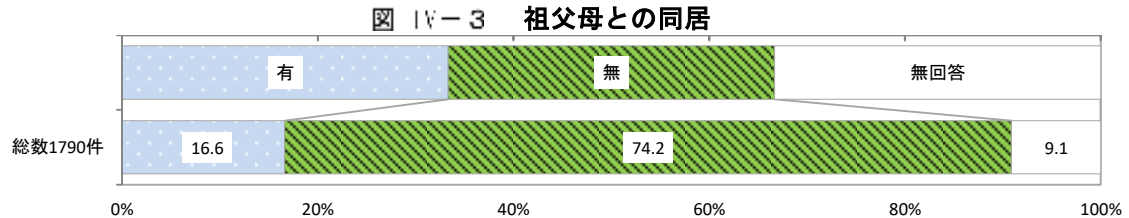
(2) 兄弟姉妹の人数

「2人」の割合が47.8%と最も高く、次いで「3人」の割合が22.7%、「1人」の割合が16.0%となっています。



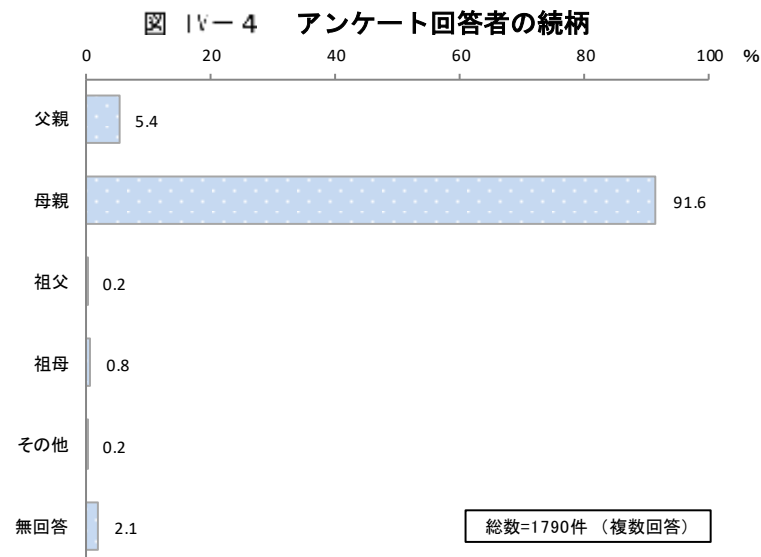
(3) 祖父母との同居

「有」の割合が16.6%、「無」の割合が74.2%となっています。



(4) アンケート回答者の続柄

「母親」の割合が91.6%と最も高く、次いで「父親」の割合が5.4%となっています。
「その他」として、「姉」などの回答があります。



2 お子さんの生活の様子について

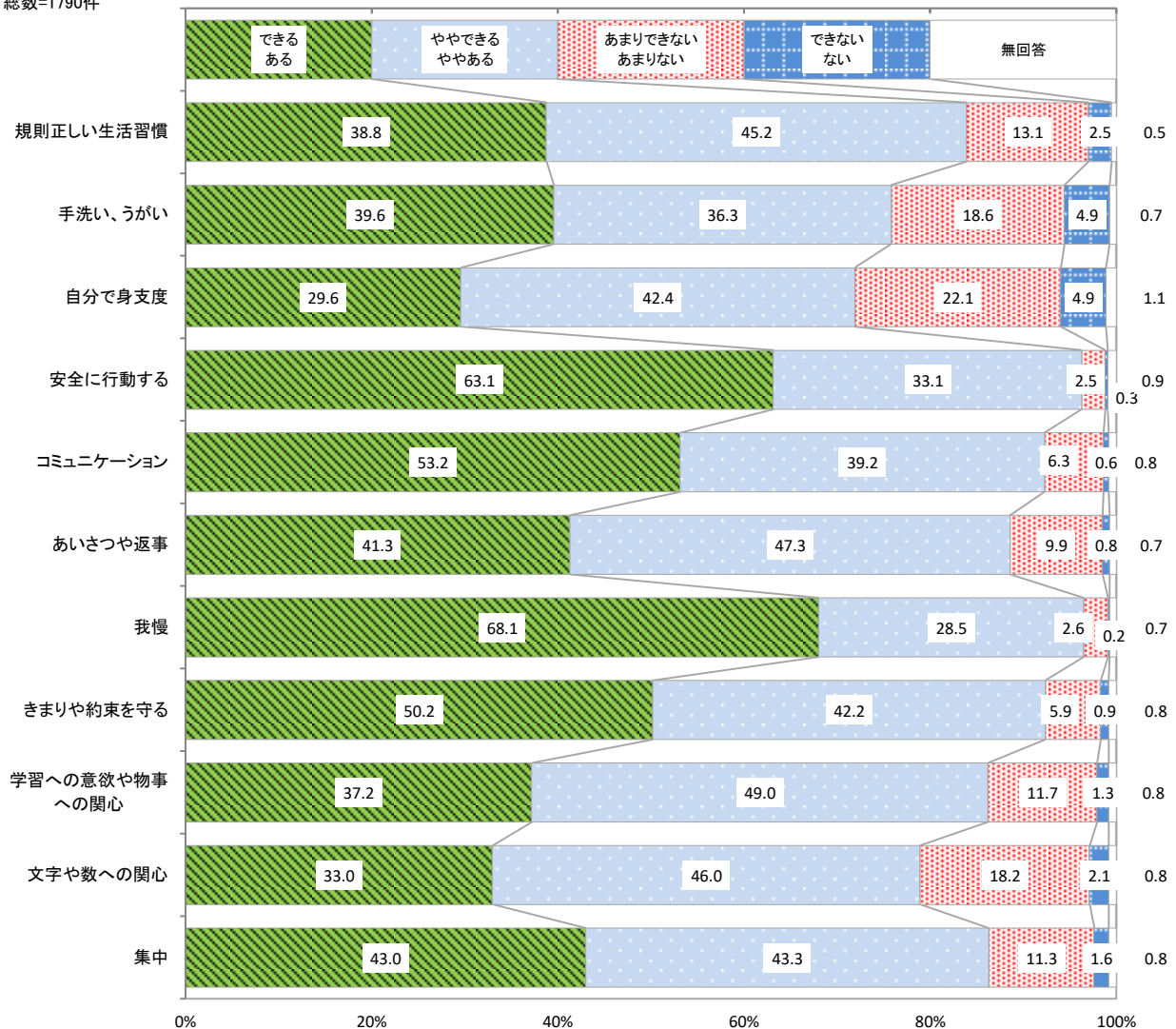
(1) お子さんの生活の様子について

問1 お子さんの生活の様子を教えてください。それぞれあてはまる欄に○を1つだけつけてください。

肯定的な回答(「できる・ややできる」及び「ある・ややある」の合計)の割合が最も高いのは「我慢」(96.6%)で、次いで「安全に行動する」(96.2%)、「きまりや約束を守る」(92.4%)、「コミュニケーション」(92.4%)となっています。

図 Ⅱ-5 お子さんの生活の様子について

総数=1790件



〔選択肢の説明〕

- ・規則正しい生活習慣…早寝早起き朝ごはんなど、規則正しく生活を送ることはできますか。
- ・手洗い、うがい…外出後や食事前に、手洗い・うがいを自分からすることはできますか。
- ・自分で身支度…自分の物を整理整頓する、適切に身じたくをするなど、身の回りのことを自分ですることはできますか。
- ・安全に行動する…危ないことをしない、交通ルールを守るなど、安全に行動することはできますか。
- ・コミュニケーション…友達と一緒に遊ぶ、自分の気持ちを伝えるなど、周囲の人とコミュニケーションをとることはできますか。
- ・あいさつや返事…しっかりとあいさつや返事はできますか。
- ・我慢…順番を待つ、友達に譲るなど、我慢することはできますか。
- ・きまりや約束を守る…きまりや約束を守ることはできますか。
- ・学ぶ意欲や物事への関心…学習への意欲や、生活・周囲のさまざまな物事への関心はありますか。
- ・文字や数への関心…文章を読もうとする、計算や数量について理解しようとするなど、文字や数への関心はありますか。
- ・集中…人の話を静かに聞く、物事にじっくり取り組むなど、集中して何かをすることはできますか。

〔凡例の説明〕

・「学ぶ意欲や物事への関心」、「文字や数への関心」、「集中」は「できる」を「ある」、「ややできる」を「ややある」、「あまりできない」を「あまりない」、「できない」を「ない」とそれぞれ読み替える。

3 お子さんの学習の様子について

(1) 学校での授業の理解度

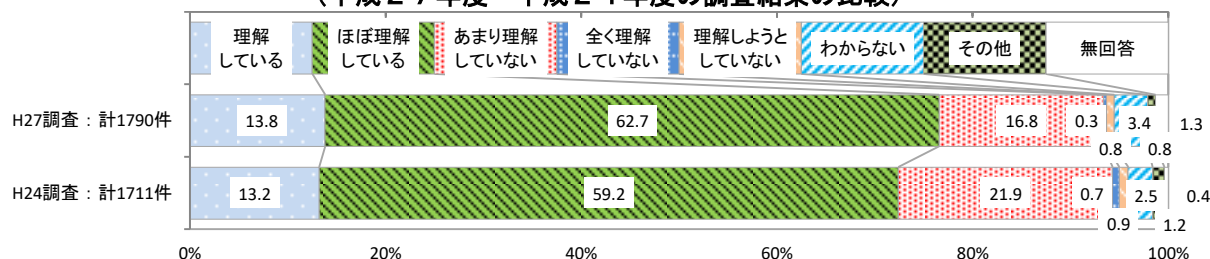
問2 お子さんは、学校での授業を理解している様子ですか。(○は1つだけ)

平成27年度の調査結果をみると、肯定的な回答（「理解している」と「ほぼ理解している」の合計）の割合が76.5%となっています。

「その他」として、「教科・科目による」、「理解しようとはしている」などの回答があります。

経年変化は特にみられません。

図 IV-6 学校での授業の理解度
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



(2) 学校の授業を理解していない理由

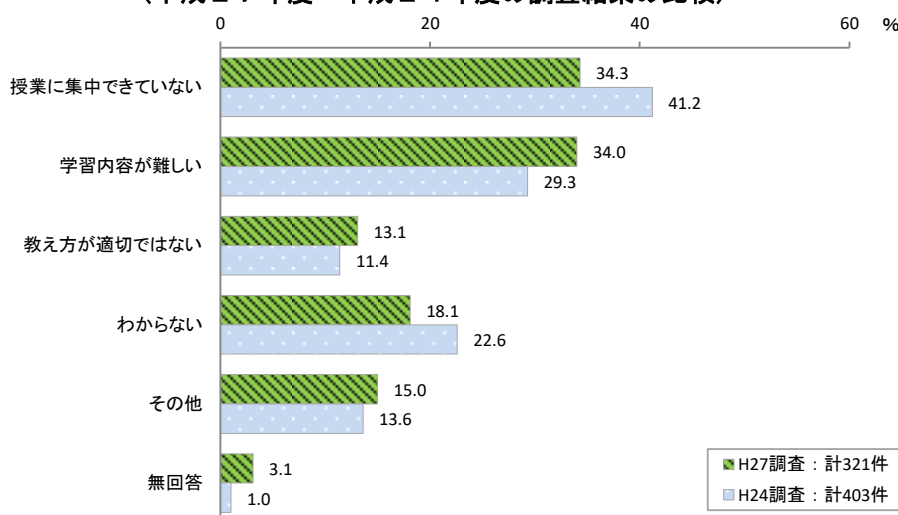
問3 問2で「あまり理解していない」「全く理解していない」「理解しようとしていない」と答えた保護者が回答 お子さんが、学校の授業を理解していない理由や原因は何だと思われますか。(あてはまるものすべてに○)

平成27年度の調査結果をみると、「授業に集中できていない」の割合が34.3%と最も高く、次いで「学習内容が難しい」の割合が34.0%となっています。

「その他」として、「やる気がない」、「理解するまでに時間がかかる」などの回答があります。

経年変化をみると、「授業に集中できていない」の割合が6.9ポイント減少しています。

図 IV-7 学校の授業を理解していない理由
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 「学習内容が難しい」は、平成24年度調査の「授業内容が難しい」と比較している。

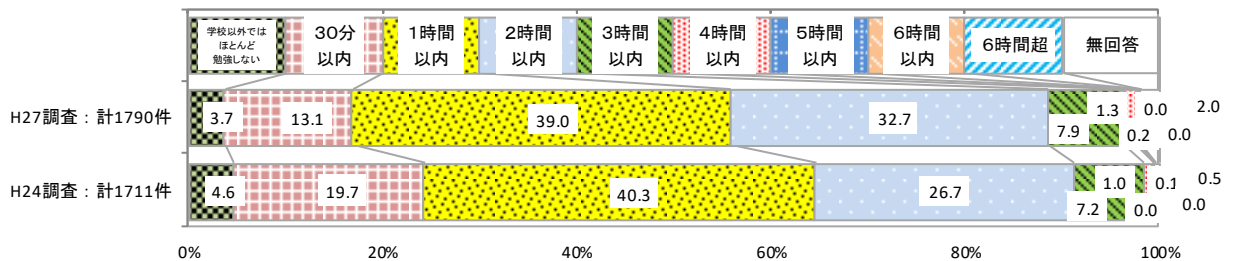
（3）1日の平均学習時間

問4 お子さんの、学校以外での1日の平均学習時間（塾などでの学習の時間を含む）は、どのくらいですか。（○は1つだけ）

平成27年度の調査結果をみると、「1時間以内」の割合が39.0%と最も高く、次いで「2時間以内」の割合が32.7%、「30分以内」の割合が13.1%となっています。

経年変化をみると、「30分以内」の回答の割合が減少し、「2時間以内」の回答の割合が増加しています。

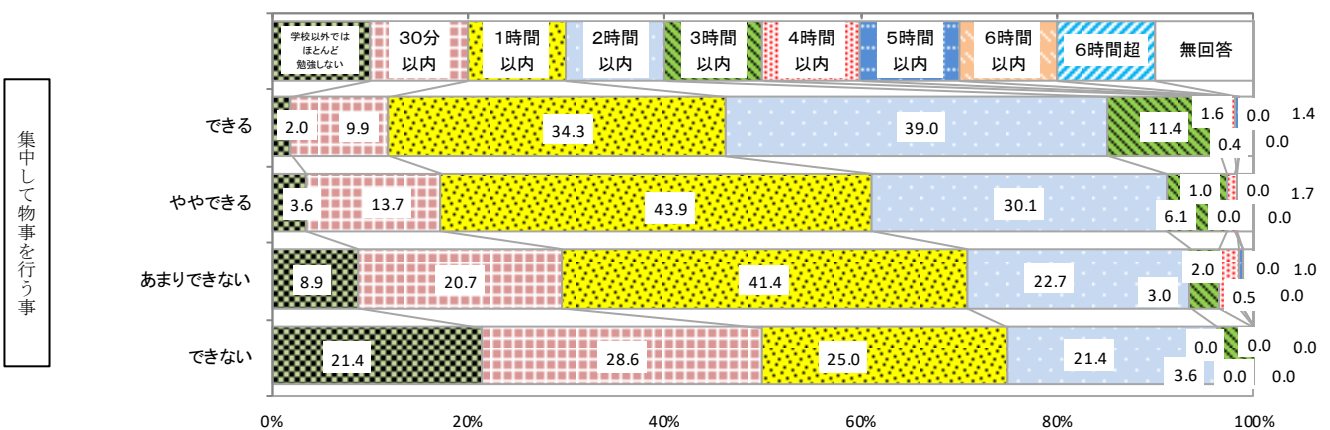
図 IV-8 1日の平均学習時間
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



【1日の平均学習時間クロス集計】

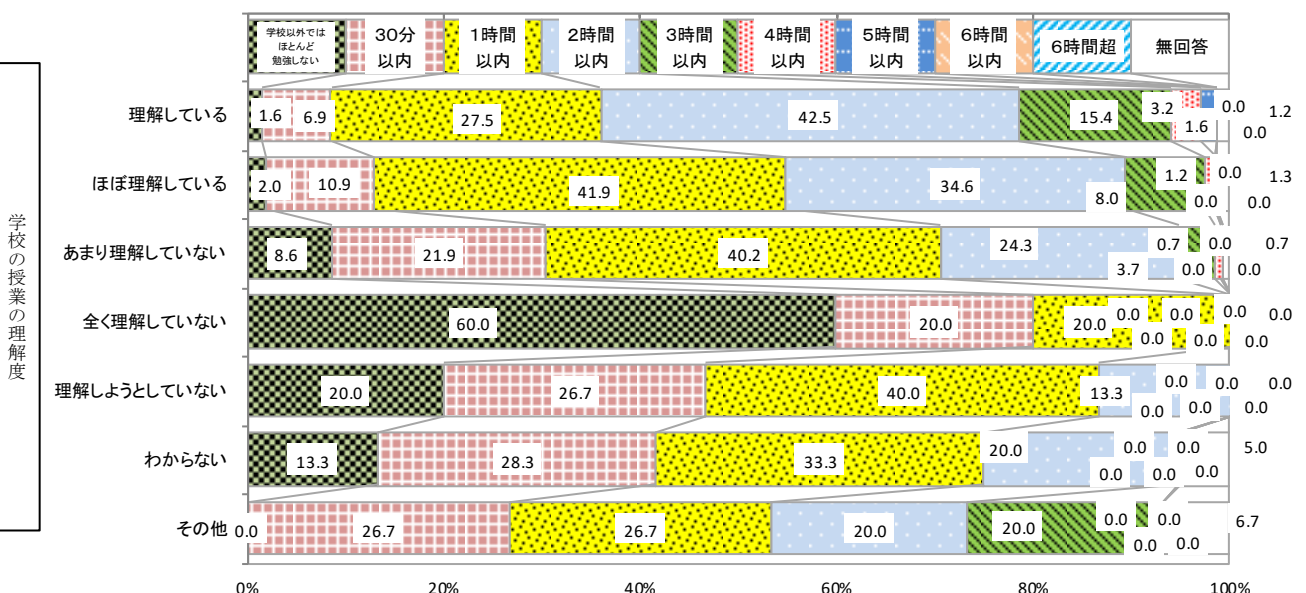
問1の集中して物事を行うことの回答別に1日の平均学習時間をみると、肯定的な回答の場合ほど、1日の平均学習時間が長くなる傾向がうかがえます。

図 IV-9 集中して物事を行うこと別、1日の平均学習時間



問2の学校での授業の理解度別に1日の平均学習時間をみると、理解度が高まるほど、1日の平均学習時間が長くなる傾向がうかがえます。

図 IV-10 学校の授業の理解度別、1日の平均学習時間

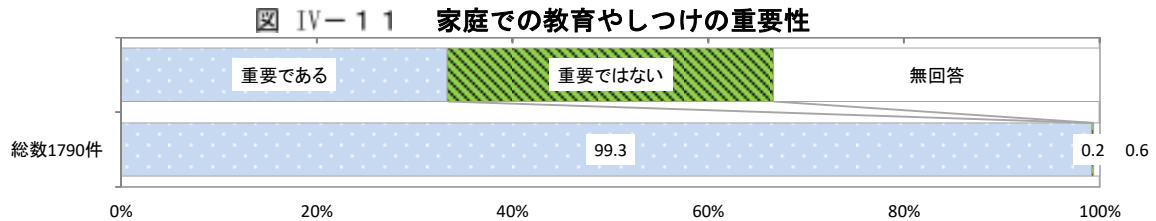


4 家庭での教育について

(1) 家庭での教育やしつけの重要性

問5 あなたは、家庭で教育やしつけを行うことは、子どもが健全に育つために、重要だと思いますか。
(〇は1つだけ)

「重要である」の割合が99.3%となっています。



(2) 家庭でのしつけや教育で重視していること

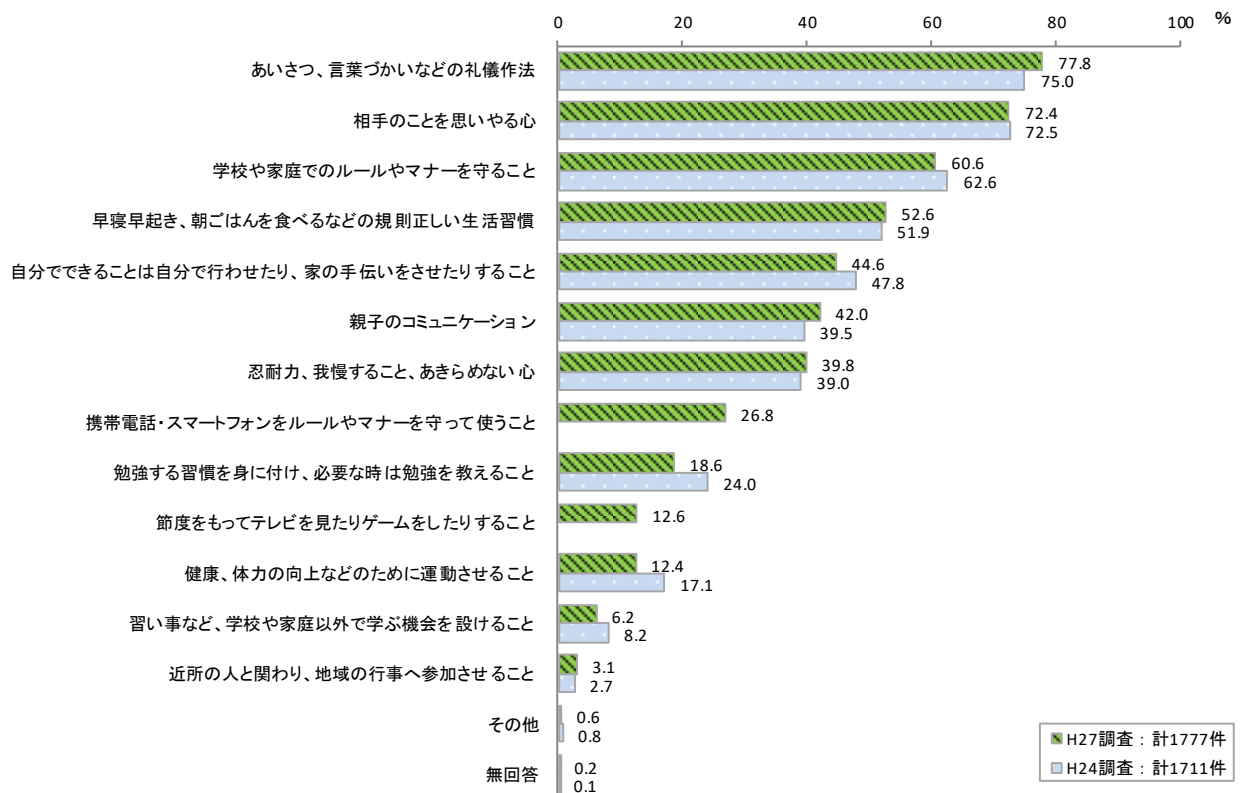
問6 問5で「重要である」と答えた保護者が回答 あなたが、家庭でのしつけや教育で特に重視していることは何ですか。(〇は5つまで)

平成27年度の調査結果をみると、「あいさつ、言葉づかいなどの礼儀作法」の割合が77.8%と最も高く、次いで「相手のことを思いやる心」の割合が72.4%、「学校や家庭でのルールやマナーを守ること」の割合が60.6%、「早寝早起き、朝ごはんを食べるなどの規則正しい生活習慣」の割合が52.6%となっています。

「その他」として、「人に迷惑をかけないこと」、「自己責任を持って行動、生活をする」などの回答があります。

経年変化をみると、「勉強する習慣を身に付け、必要な時は勉強を教えること」の割合が5.4ポイント減少しています。

図 IV-12 家庭でのしつけや教育で重視していること
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は、「携帯電話・スマートフォンをルールやマナーを守って使うこと」、「節度をもってテレビを見たりゲームをしたりすること」の項目なし。

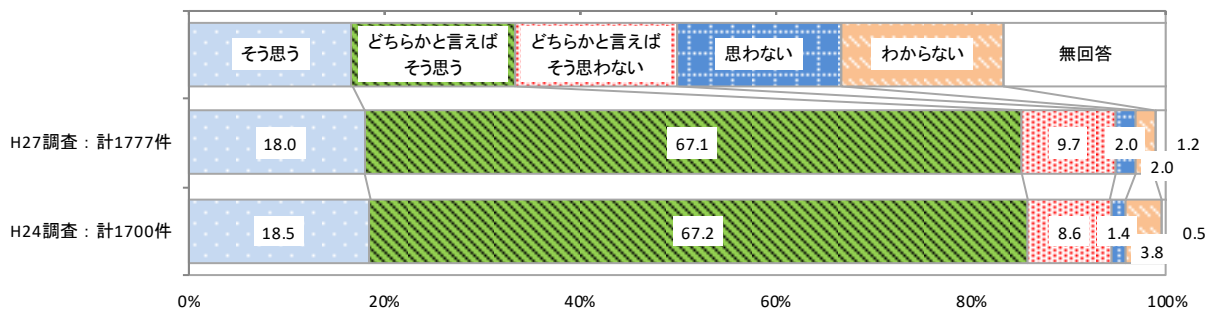
(3) 子どもに対するしつけや教育の実践

問7 問5で「重要である」と答えた保護者が回答 家庭でのしつけや教育で、特に重視していることを、お子さんは、実際にできていると思いますか。(〇は1つだけ)

平成27年度の調査結果をみると、肯定的な回答（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計）の割合が85.1%となっています。

経年変化は特にみられません。

図 IV-13 子どもに対するしつけや教育の実践
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



5 中学校入学後のお子さんの様子について

(1) 中学校入学後の生活で楽しんでいること

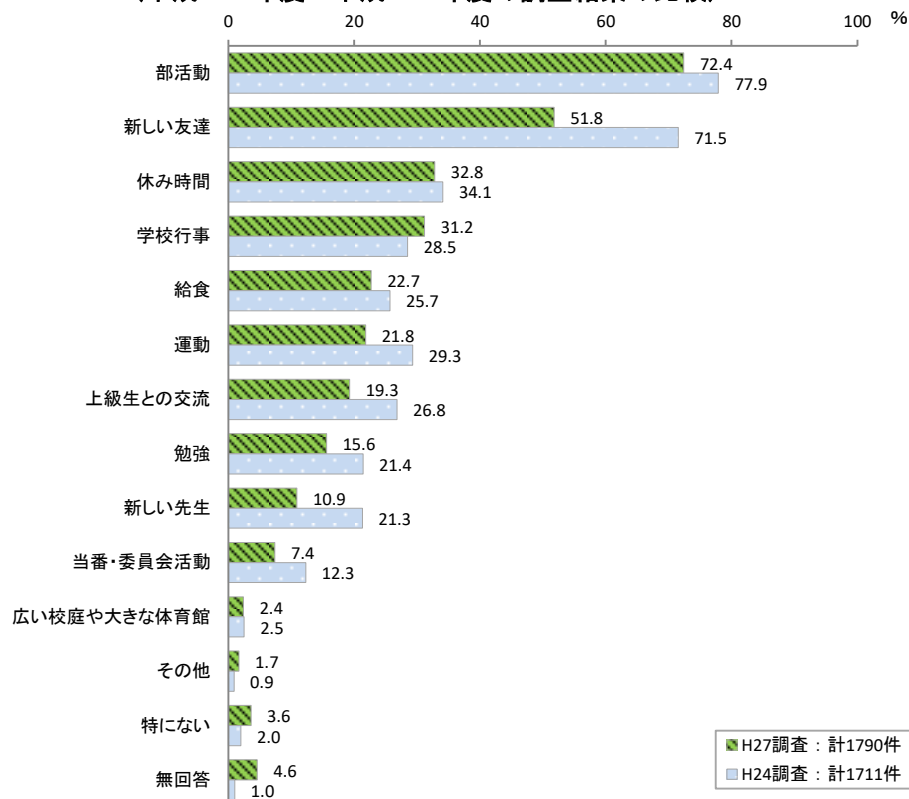
問8 お子さんが現在、中学校生活で、日々楽しみにしていることは何ですか。(あてはまるものすべてに〇)

平成27年度の調査結果をみると、「部活動」の割合が72.4%と最も高く、次いで「新しい友達」の割合が51.8%、「休み時間」の割合が32.8%、「学校行事」の割合が31.2%となっています。

「その他」としては、「図書室・図書館の利用」、「クラブチームでの活動」などの回答があります。

経年変化をみると、多くの項目で回答の割合が減少しています。特に「新しい友達」の割合が19.7ポイント、「新しい先生」の割合が10.4ポイント減少しています。

図 IV-14 中学校入学後の生活で楽しんでいること
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



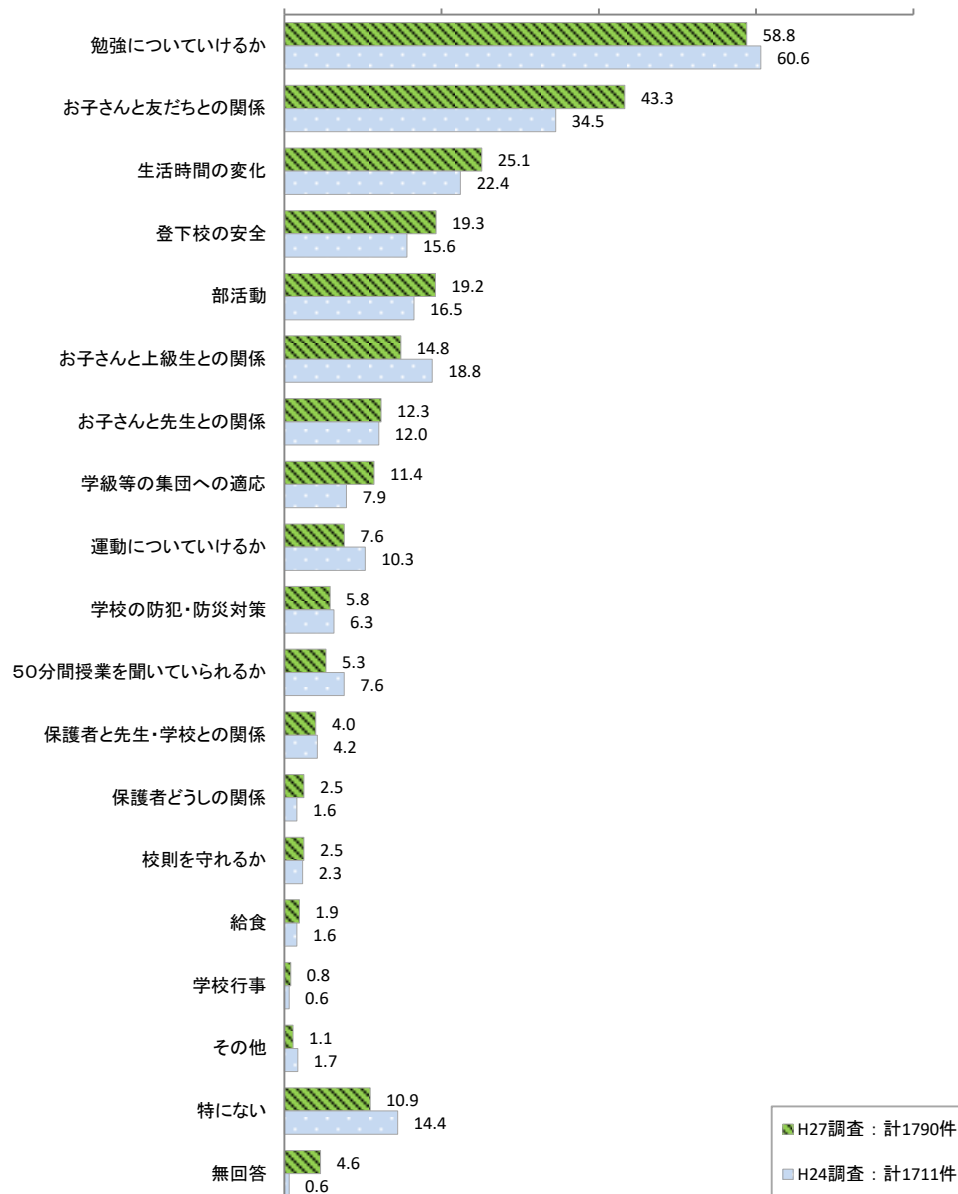
(2) 中学校入学後の不安

問9 あなたが現在、お子さんの中学校生活について、不安に感じていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

平成27年度の調査結果をみると、「勉強についていけるか」の割合が58.8%と最も高く、次いで「お子さんと友だちとの関係」の割合が43.3%、「生活時間の変化」の割合が25.1%となっています。

「その他」として、「携帯電話・スマートフォンの使い方」、「睡眠不足」などの回答があります。経年変化をみると、「お子さんと友だちとの関係」の割合が8.8ポイント増加しています。

図 IV-15 中学校入学後の不安
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 「お子さんと友だちとの関係」は、平成24年度調査の「友達との関係」と比較している。「学級等の集団への適応」は、平成24年度調査の「集団への適応」と比較している。

(3) 不安や心配に対する対応

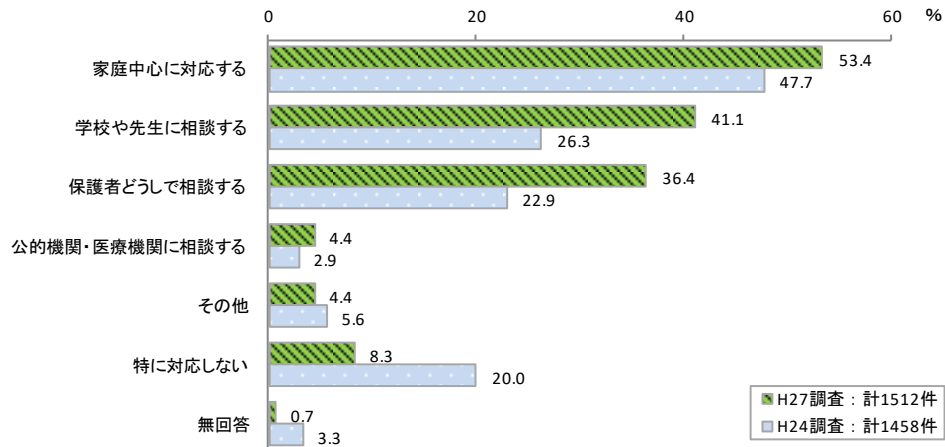
問10 **問9で「特にない」と答えなかった保護者が回答** あなたは、お子さんの中学校生活に関する不安や心配に対して、どのように対応されますか（対応されましたか）。（あてはまるものすべてに○）

平成27年度の調査結果をみると、「家庭中心に対応する」の割合が53.4%と最も高く、次いで「学校や先生に相談する」の割合が41.1%、「保護者どうして相談する」の割合が36.4%となっています。

「その他」として、「子どもと話し合う」、「様子をみる」などの回答があります。

経年変化をみると、多くの項目で回答の割合が増加しています。特に「学校や先生に相談する」の割合が14.8ポイント、「保護者どうして相談する」の割合が13.5ポイント増加しています。

図 IV-16 不安や心配に対する対応
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 「学校や先生に相談する」は、平成24年度調査の「学校に相談する」と比較している。

(4) 不安がない理由

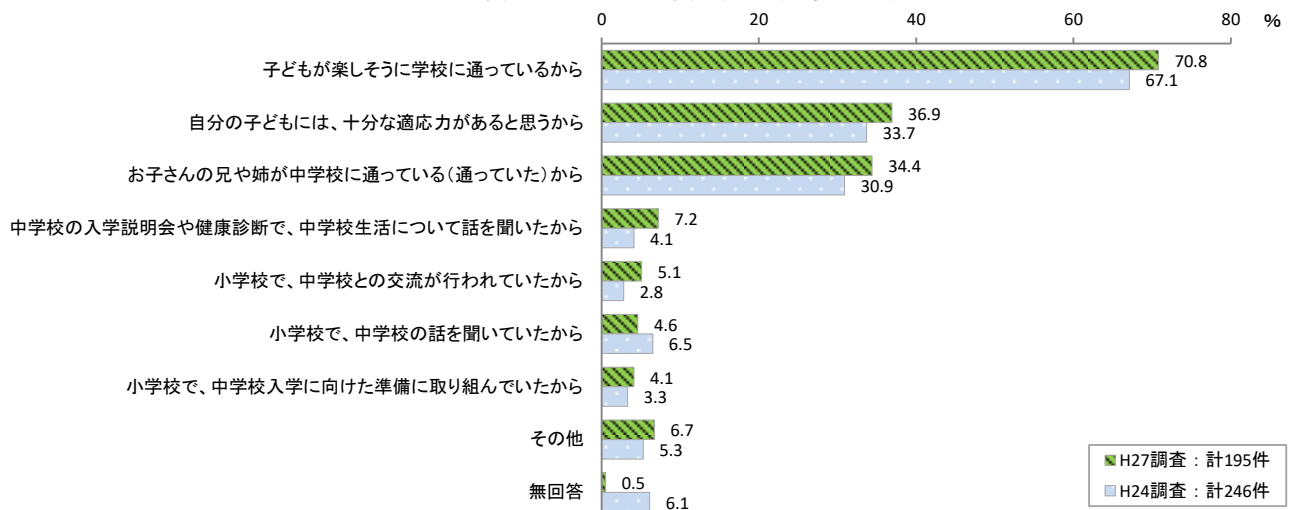
問11 **問9で「特にない」と答えた保護者が回答** あなたが、お子さんの中学校生活に関して不安を感じていない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

平成27年度の調査結果をみると、「子どもが楽しそうに学校に通っているから」の割合が70.8%と最も高く、次いで「自分の子どもには、十分な適応力があると思うから」の割合が36.9%、「お子さんの兄や姉が中学校に通っている（通っていた）から」の割合が34.4%となっています。

「その他」として、「子どもとのコミュニケーションが取れているから」などの回答があります。

経年変化は特にみられません。

図 IV-17 不安がない理由
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)

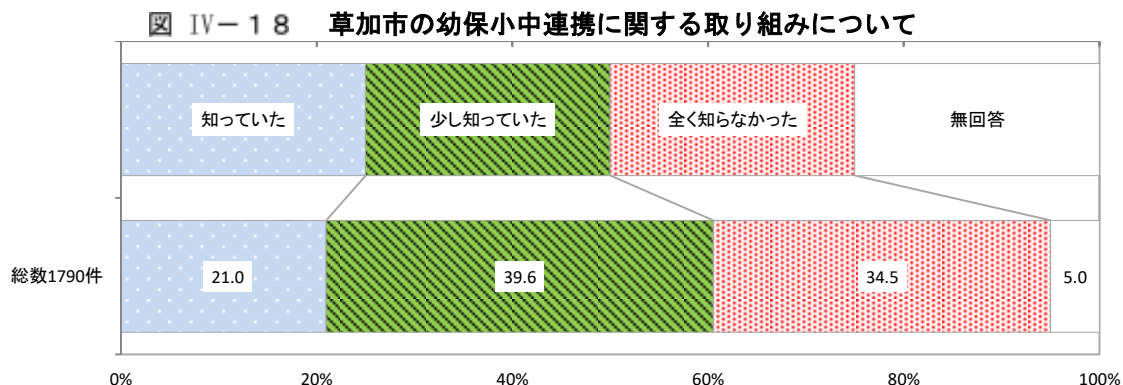


6 幼稚園・保育園等、小学校、中学校（幼保小中）の連携について

（１）草加市の幼保小中連携に関する取り組みについて

問１２ あなたは、草加市が幼保小中の連携に力を入れて取り組んでいることを、知っていましたか。
（○は１つだけ）

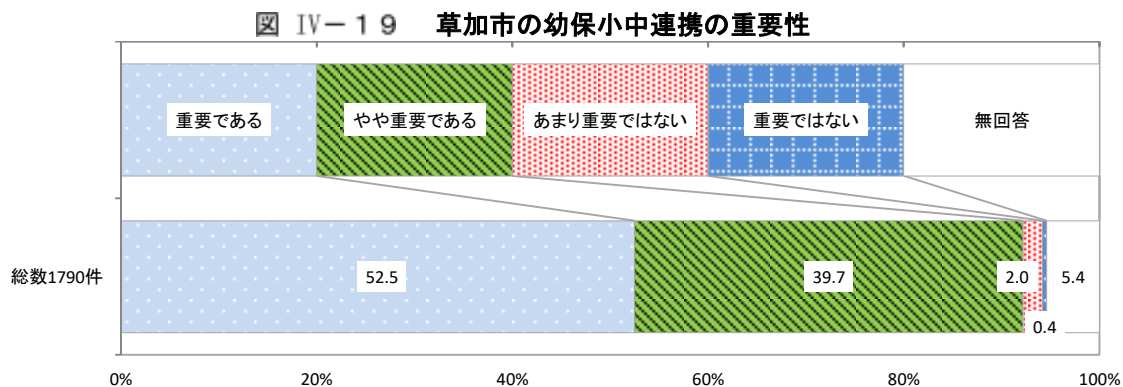
「知っていた」の割合が 21.0%、「少し知っていた」の割合が 39.6%、「全く知らなかった」の割合が 34.5% となっています。



（２）草加市の幼保小中連携の重要性

問１３ あなたは、草加市が幼保小中の連携に力を入れることは、子どもが健全に育つために、重要だと思いますか。（○は１つだけ）

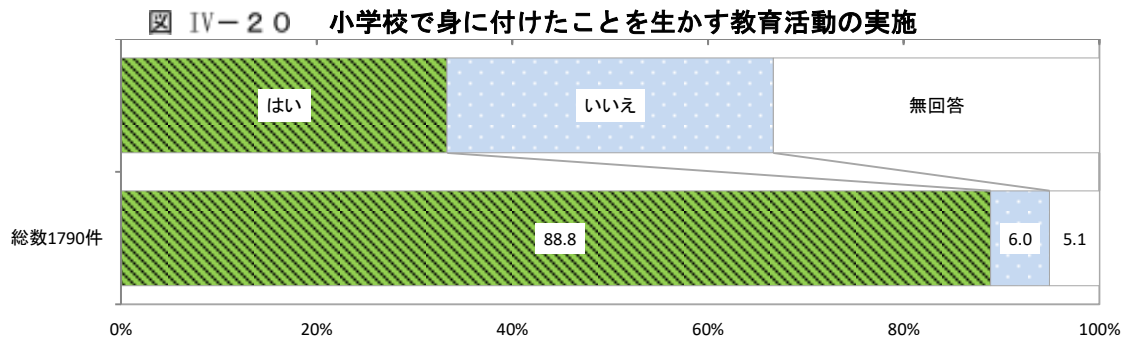
平成 27 年度の調査結果をみると、肯定的な回答（「重要である」と「やや重要である」の合計）の割合が 92.2%となっています。



（３）小学校で身に付けたことを生かす教育活動の実施

問14 あなたは、子どもたちが小学校で身に付けたことを生かすような教育活動を、中学校で行ってほしいですか。

「はい」の割合が88.8%となっています。

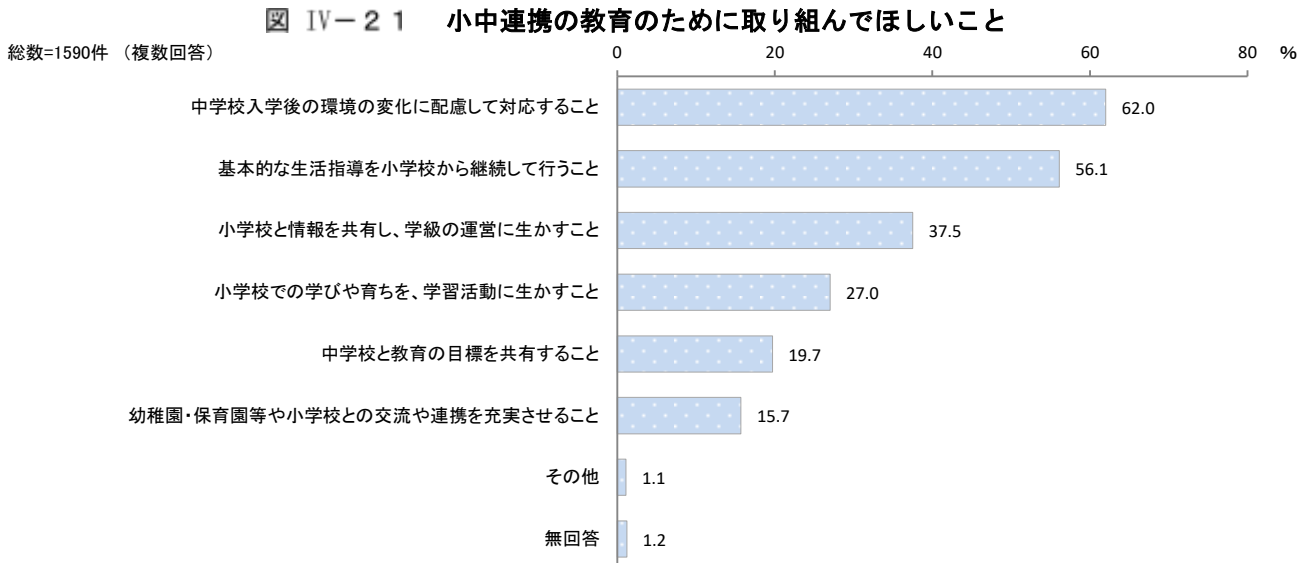


（４）小中連携の教育のために取り組んでほしいこと

問15 問14で「はい」と答えた保護者が回答 あなたは、小学校と中学校が連携して教育を行うために、中学校でどのようなことに取り組んでほしいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「中学校入学後の環境の変化に配慮して対応すること」の割合が62.0%と最も高く、次いで「基本的な生活指導を小学校から継続して行うこと」の割合が56.1%、「小学校と情報を共有し、学級の運営に生かすこと」の割合が37.5%となっています。

「その他」として、「自立に向けて心をきたえる」などの回答があります。



7 お子さんの将来像について

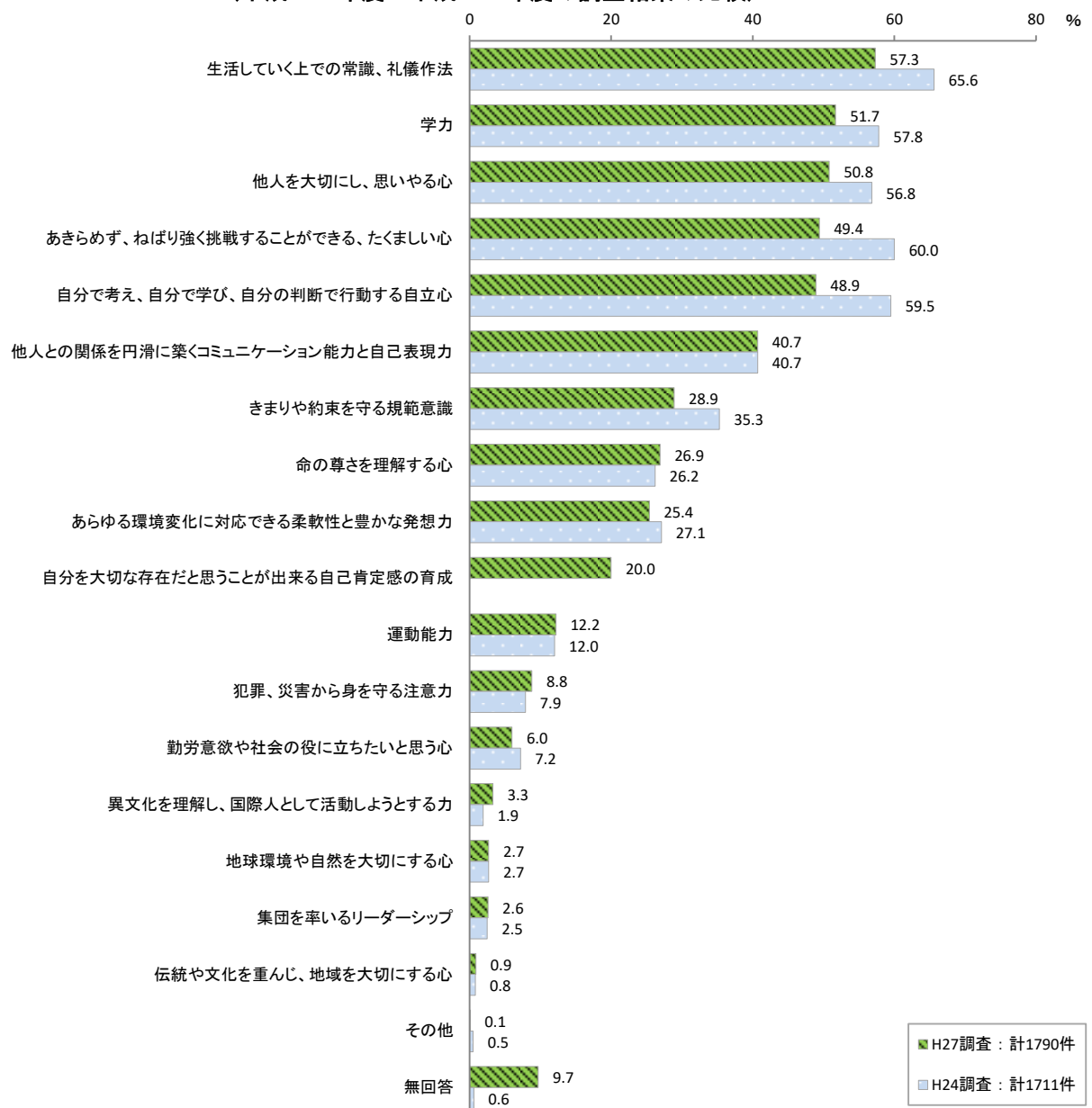
(1) お子さんの将来像について

問16 将来の社会の担い手として、中学校を卒業するまでに、お子さんに身に付けてほしい能力や考え方のうち、特に重要だと思うことは何ですか。(〇は5つまで)

平成27年度の調査結果をみると、「生活していく上での常識、礼儀作法」の割合が57.3%と最も高く、次いで「学力」の割合が51.7%、「他人を大切にし、思いやる心」の割合が50.8%、「あきらめず、ねばり強く挑戦することができる、たくましい心」の割合が49.4%、「自分で考え、自分で学び、自分の判断で行動する自立心」の割合が48.9%となっています。

経年変化をみると、多くの項目で回答の割合が減少しています。特に「あきらめず、ねばり強く挑戦することができる、たくましい心」、「自分で考え、自分で学び、自分の判断で行動する自立心」の割合がそれぞれ10.6ポイント減少しています。

図 IV-22 お子さんの将来像について
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は、「自分を大切な存在だと思える自己肯定感の育成」の項目なし。「他人との関係を円滑に築くコミュニケーション能力と自己表現力」は、平成24年度調査の「他人との関係を円滑に築くコミュニケーション能力と自己主張力」と比較している。

8 自由記述

最後に、子ども教育の連携や草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

対象となる回収数 1790 件中、175 件に記述がありました（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 175 件より多くなっています。）

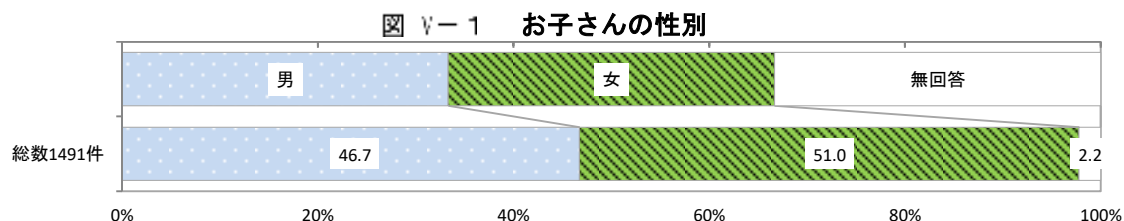
項目	件数
小中学校に関すること	112
教育内容について	31
教員について	22
子どもたちへの対応について	15
特別支援教育について	3
施設・設備について	2
安心・安全について	4
給食、食育について	3
進路相談、受験対策について	1
学区域について	4
土曜授業について	4
放課後について	10
家庭・地域との連携について	13
教育行政に関すること	30
子ども教育の連携推進について	11
教育施策全般について	19
その他	39
子どもの遊び場について	6
その他	33

V 中学校：3年生の保護者

1 基本情報

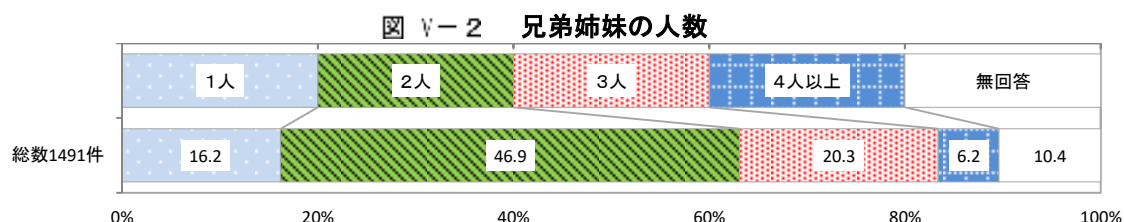
(1) お子さんの性別

「男」の割合が46.7%、「女」の割合が51.0%となっています。



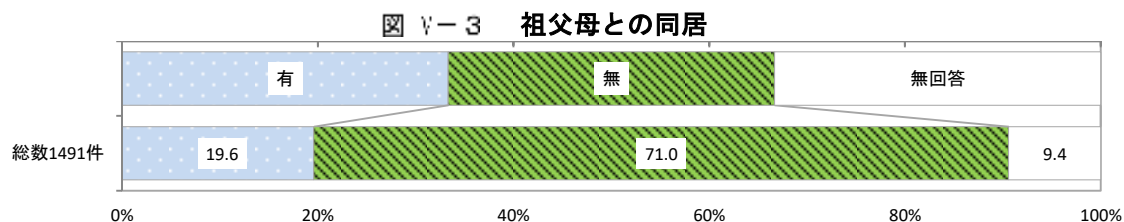
(2) 兄弟姉妹の人数

「2人」の割合が46.9%と最も高く、次いで「3人」の割合が20.3%、「1人」の割合が16.2%となっています。



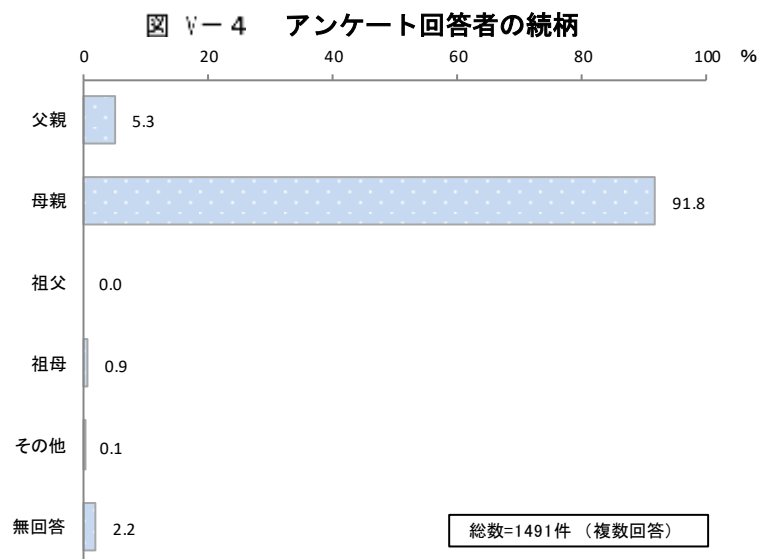
(3) 祖父母との同居

「有」の割合が19.6%、「無」の割合が71.0%となっています。



(4) アンケート回答者の続柄

「母親」の割合が91.8%と最も高く、次いで「父親」の割合が5.3%となっています。
「その他」として、「叔父」、「姉」などの回答があります。



2 お子さんの生活の様子について

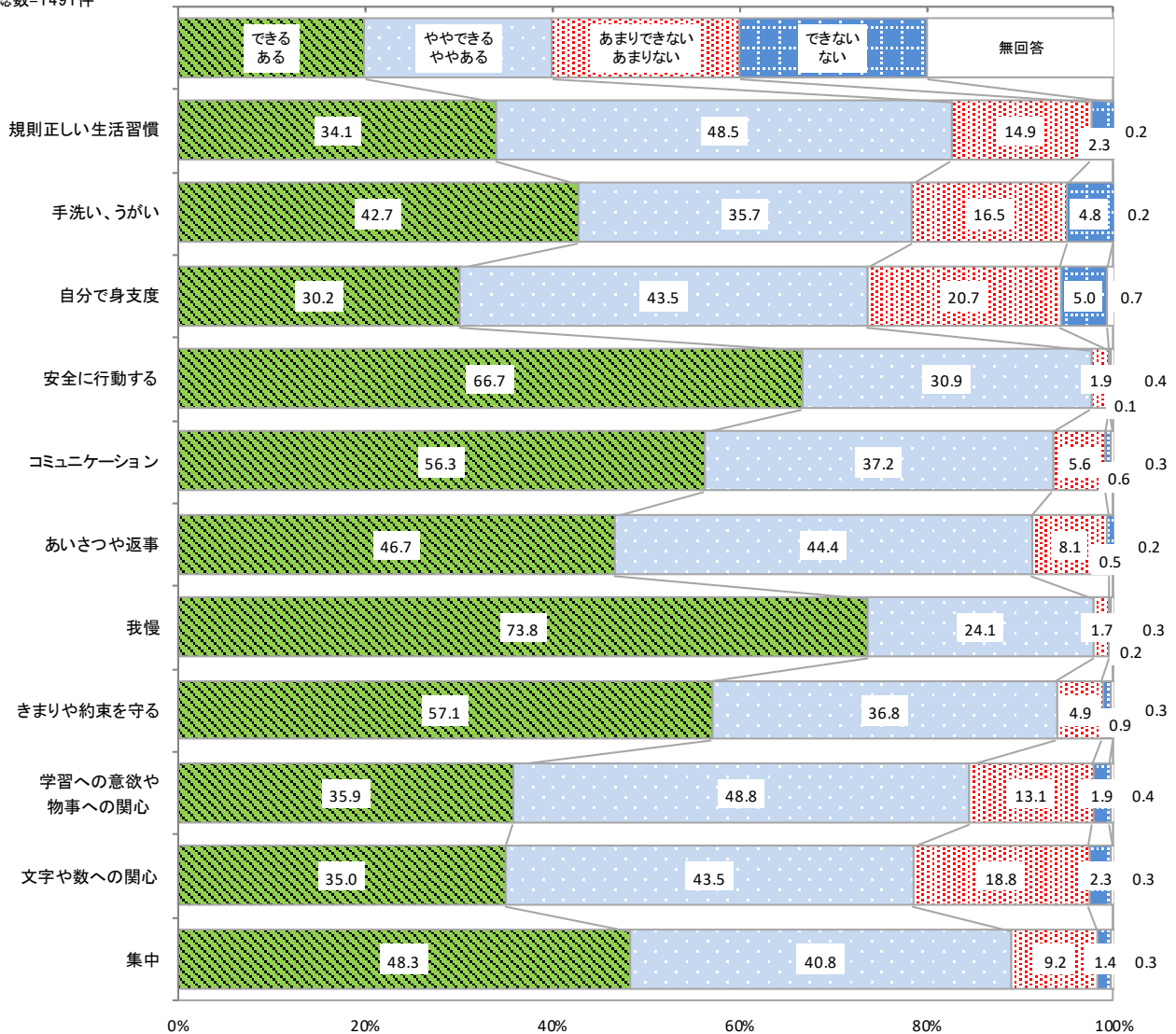
(1) お子さんの生活の様子について

問1 お子さんの生活の様子を教えてください。それぞれあてはまる欄に○を1つだけつけてください。

肯定的な回答(「できる・ややできる」及び「ある・ややある」の合計)の割合が最も高いのは「我慢」(97.9%)で、次いで「安全に行動する」(97.6%)、「きまりや約束を守る」(93.9%)となっています。

図 V-5 お子さんの生活の様子について

総数=1491件



〔選択肢の説明〕

- ・規則正しい生活習慣…早寝早起き朝ごはんなど、規則正しく生活を送ることはできますか。
- ・手洗い、うがい…外出後や食事前に、手洗い・うがいを自分からすることはできますか。
- ・自分で身支度…自分の物を整理整頓する、適切に身じたくをするなど、身の回りのことを自分ですることはできますか。
- ・安全に行動する…危ないことをしない、交通ルールを守るなど、安全に行動することはできますか。
- ・コミュニケーション…友達と一緒に遊ぶ、自分の気持ちを伝えるなど、周囲の人とコミュニケーションをとることはできますか。
- ・あいさつや返事…しっかりとあいさつや返事はできますか。
- ・我慢…順番を待つ、友達に譲るなど、我慢をすることはできますか。
- ・きまりや約束を守る…きまりや約束を守ることはできますか。
- ・学ぶ意欲や物事への関心…学習への意欲や、生活・周囲のさまざまな物事への関心はありますか。
- ・文字や数への関心…文章を読もうとする、計算や数量について理解しようとするなど、文字や数への関心はありますか。
- ・集中…人の話を静かに聞く、物事にじっくり取り組むなど、集中して何かをすることはできますか。

〔凡例の説明〕

・「学ぶ意欲や物事への関心」、「文字や数への関心」、「集中」は「できる」を「ある」、「ややできる」を「ややある」、「あまりできない」を「あまりない」、「できない」を「ない」とそれぞれ読み替える。

3 お子さんの学習の様子について

(1) 学校での授業の理解度

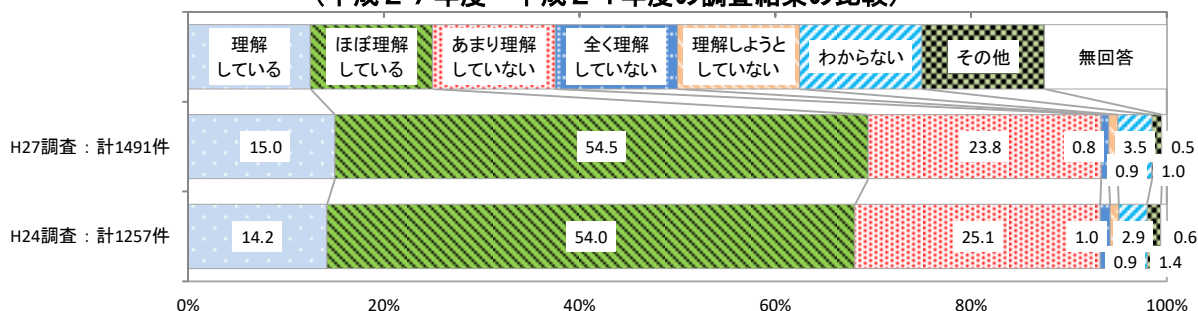
問2 お子さんは、学校での授業を理解している様子ですか。(○は1つだけ)

平成27年度の調査結果をみると、肯定的な回答(「理解している」と「ほぼ理解している」の合計)の割合が69.5%となっています。

「その他」として、「教科・科目による」などの回答があります。

経年変化は特にみられません。

図 V-6 学校での授業の理解度
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



(2) 学校の授業を理解していない理由

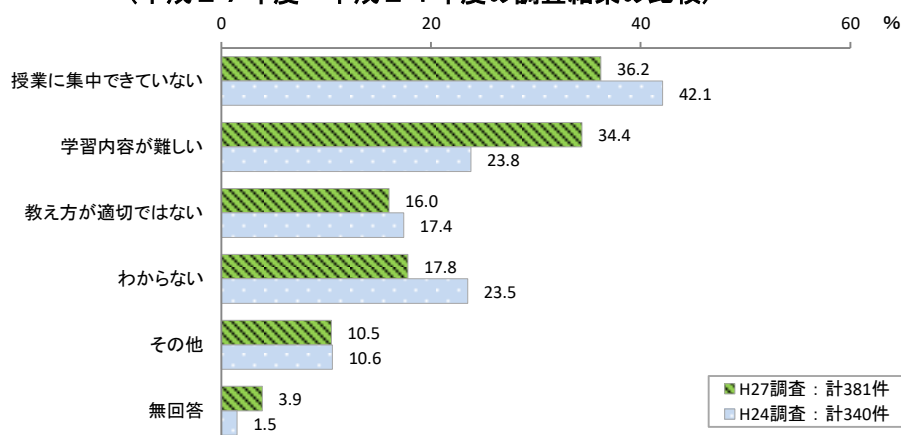
問3 問2で「あまり理解していない」「全く理解していない」「理解しようとしていない」と答えた保護者が回答 お子さんが、学校の授業を理解していない理由や原因は何だと思われますか。(あてはまるものすべてに○)

平成27年度の調査結果をみると、「授業に集中できていない」の割合が36.2%と最も高く、次いで「学習内容が難しい」の割合が34.4%となっています。

「その他」として、「先生との相性」、「理解に時間がかかる」などの回答があります。

経年変化をみると、「学習内容が難しい」の割合が10.6ポイント増加しています。

図 V-7 学校の授業を理解していない理由
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 「学習内容が難しい」は、平成24年度調査の「授業内容が難しい」と比較している。

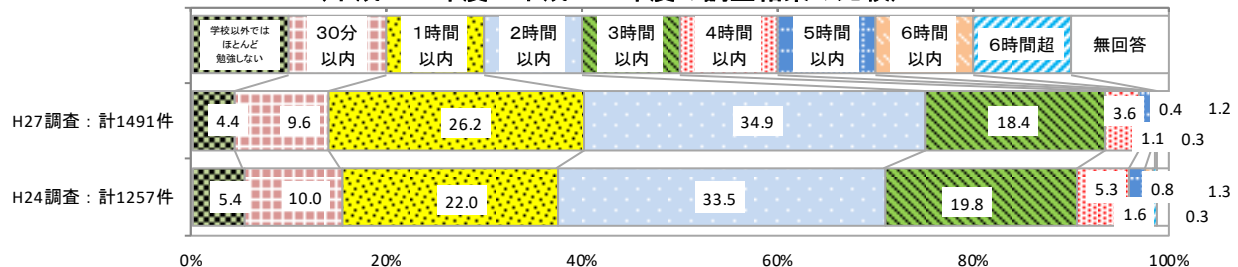
(3) 1日の平均学習時間

問4 お子さんの、学校以外での1日の平均学習時間（塾などでの学習の時間を含む）は、どのくらいですか。（○は1つだけ）

平成27年度の調査結果をみると、「2時間以内」の割合が34.9%と最も高く、次いで「1時間以内」の割合が26.2%、「3時間以内」の割合が18.4%となっています。

経年変化は特にみられません。

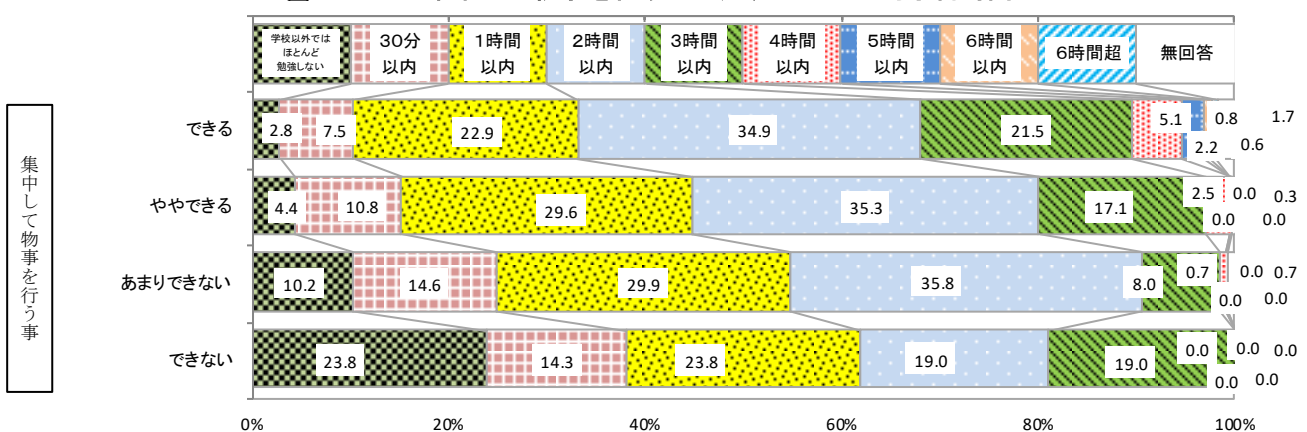
図 V-8 1日の平均学習時間
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



【1日の平均学習時間クロス集計】

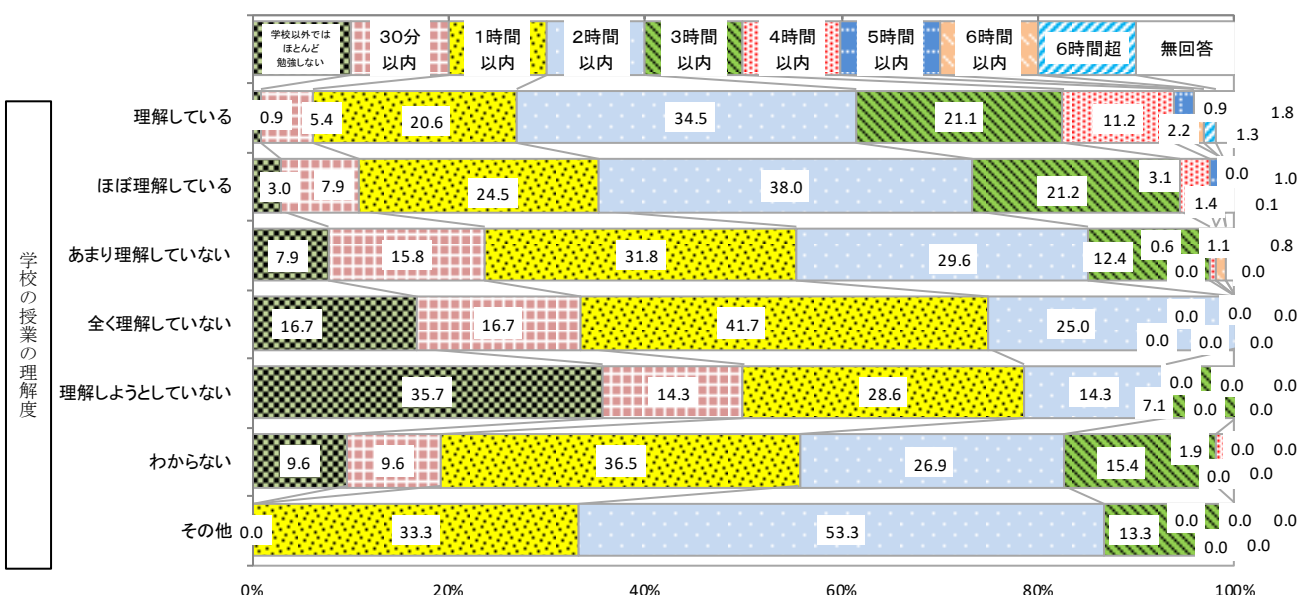
問1の集中して物事を行うことの回答別に1日の平均学習時間をみると、否定的な回答（「できない・ない」と「あまりできない・あまりない」の合計）の場合ほど、「学校以外では勉強しない」と回答する割合が高くなる傾向がうかがえます。

図 V-9 集中して物事を行うこと別、1日の平均学習時間



問2の学校での授業の理解度別に1日の平均学習時間をみると、理解度が高まるほど、1日の平均学習時間が長くなる傾向がうかがえます。

図 V-10 学校の授業の理解度別、1日の平均学習時間

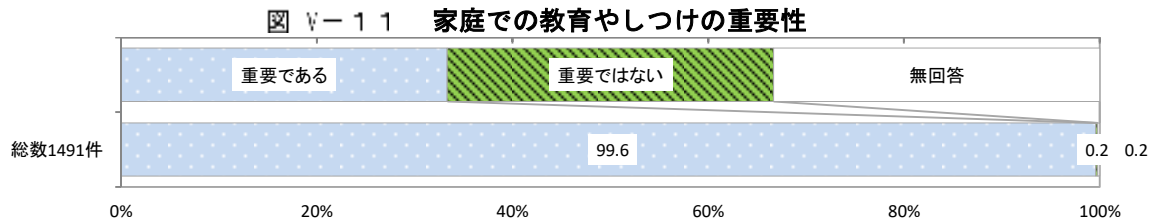


4 家庭での教育について

(1) 家庭での教育やしつけの重要性

問5 あなたは、家庭で教育やしつけを行うことは、子どもが健全に育つために、重要だと思いますか。
(○は1つだけ)

「重要である」の割合が99.6%となっています。



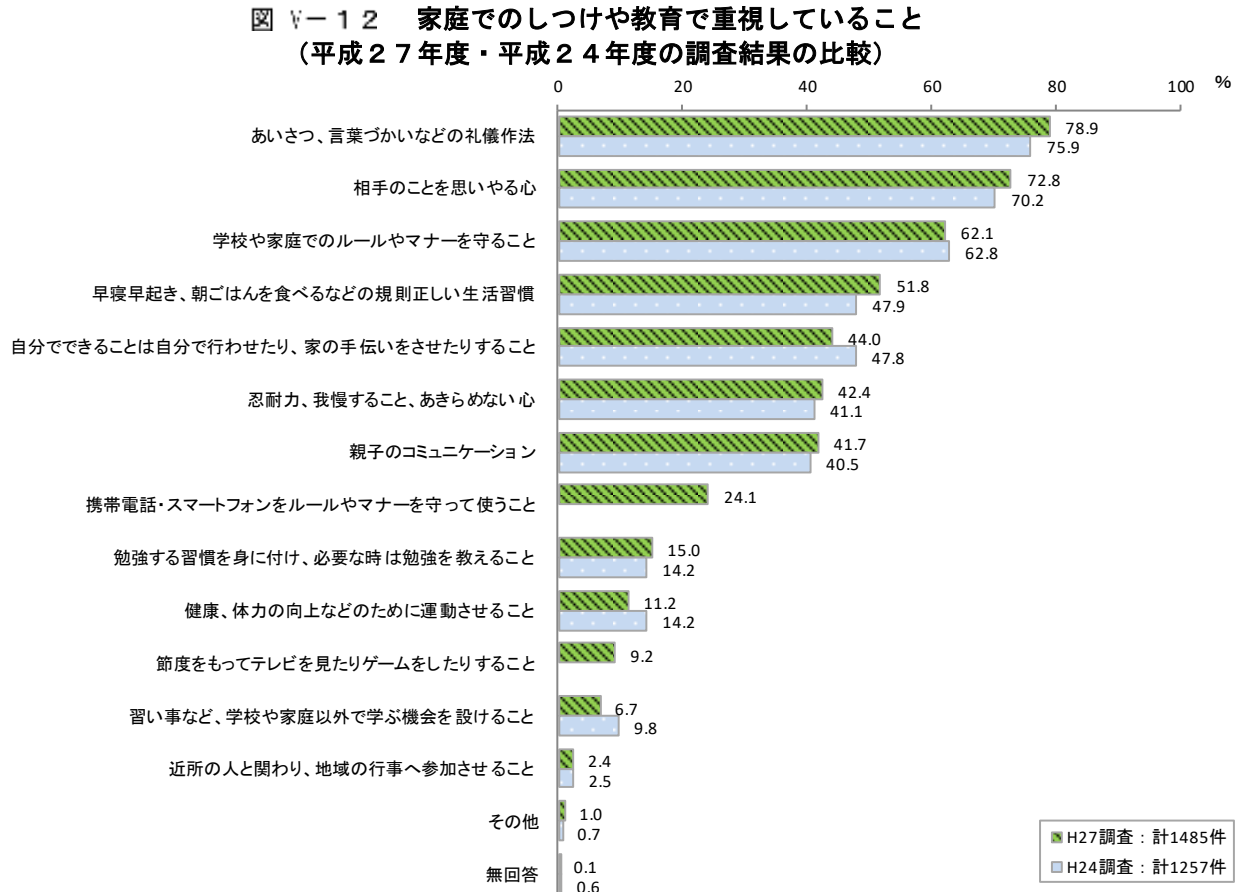
(2) 家庭でのしつけや教育で重視していること

問6 問5で「重要である」と答えた保護者が回答 家庭でのしつけや教育で、特に重視していることは何ですか。(○は5つまで)

平成27年度の調査結果をみると、「あいさつ、言葉づかいなどの礼儀作法」の割合が78.9%と最も高く、次いで「相手のことを思いやる心」の割合が72.8%、「学校や家庭でのルールやマナーを守ること」の割合が62.1%、「早寝早起き、朝ごはんを食べるなどの規則正しい生活習慣」の割合が51.8%となっています。

「その他」として、「人に迷惑をかけない」、「人としてどうなのか、自分で考えること」などの回答があります。

経年変化は特にみられません。



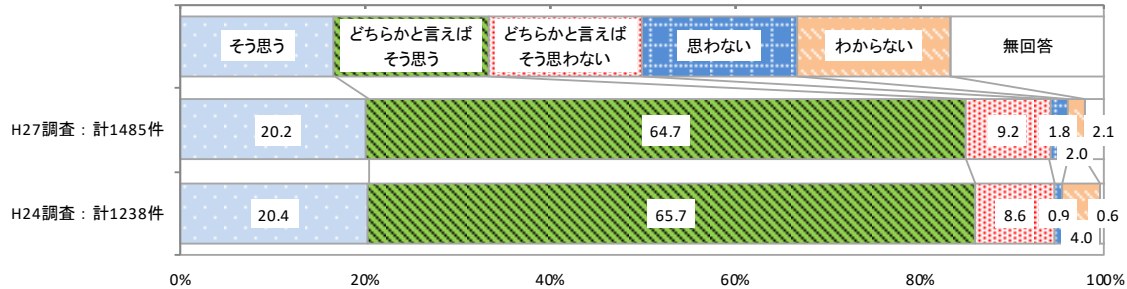
※ 平成24年度調査は、「携帯電話・スマートフォンをルールやマナーを守って使うこと」、「節度をもってテレビを見たりゲームをしたりすること」の項目なし。

(3) 子どもに対するしつけや教育の実施

問7 問5で「重要である」と答えた保護者が回答 家庭でのしつけや教育で、特に重視していることを、お子さんは、実際にできていると思いますか。(〇は1つだけ)

平成27年度の調査結果をみると、肯定的な回答（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計）の割合が84.9%となっています。
経年変化は特にみられません。

図 V-13 子どもに対するしつけや教育の実施
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



5 お子さんの中学校生活の様子について

(1) 中学校生活で楽しんでいること

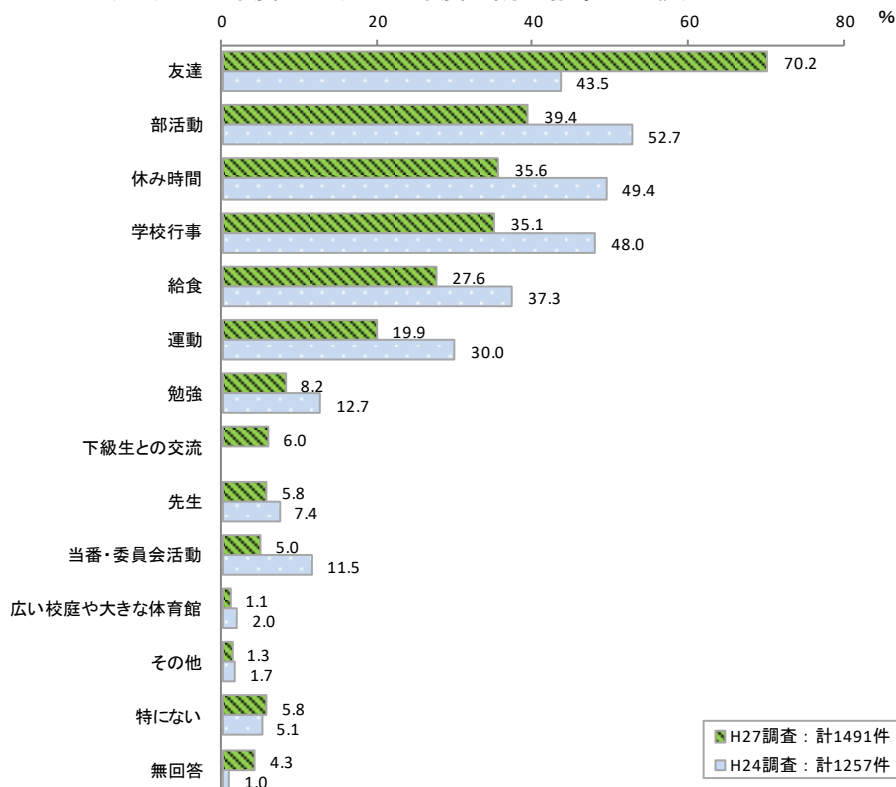
問8 お子さんが現在、中学校生活で、日々楽しみにしていることは何ですか。(あてはまるものすべてに〇)

平成27年度の調査結果をみると、「友達」の割合が70.2%と最も高く、次いで「部活動」の割合が39.4%、「休み時間」の割合が35.6%、「学校行事」の割合が35.1%となっています。

「その他」としては、「図書室での読書」などの回答があります。

経年変化をみると、「友達」の割合が26.7ポイント増加しています。一方、「休み時間」の割合が13.8ポイント、「部活動」の割合が13.3ポイント、「学校行事」の割合が12.9ポイント減少しています。

図 V-14 中学校生活で楽しんでいること
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は、「下級生との交流」の項目なし。「友達」、「先生」は、平成24年度調査の「新しい友達」、「新しい先生」と比較している。

(2) 中学校生活での不安

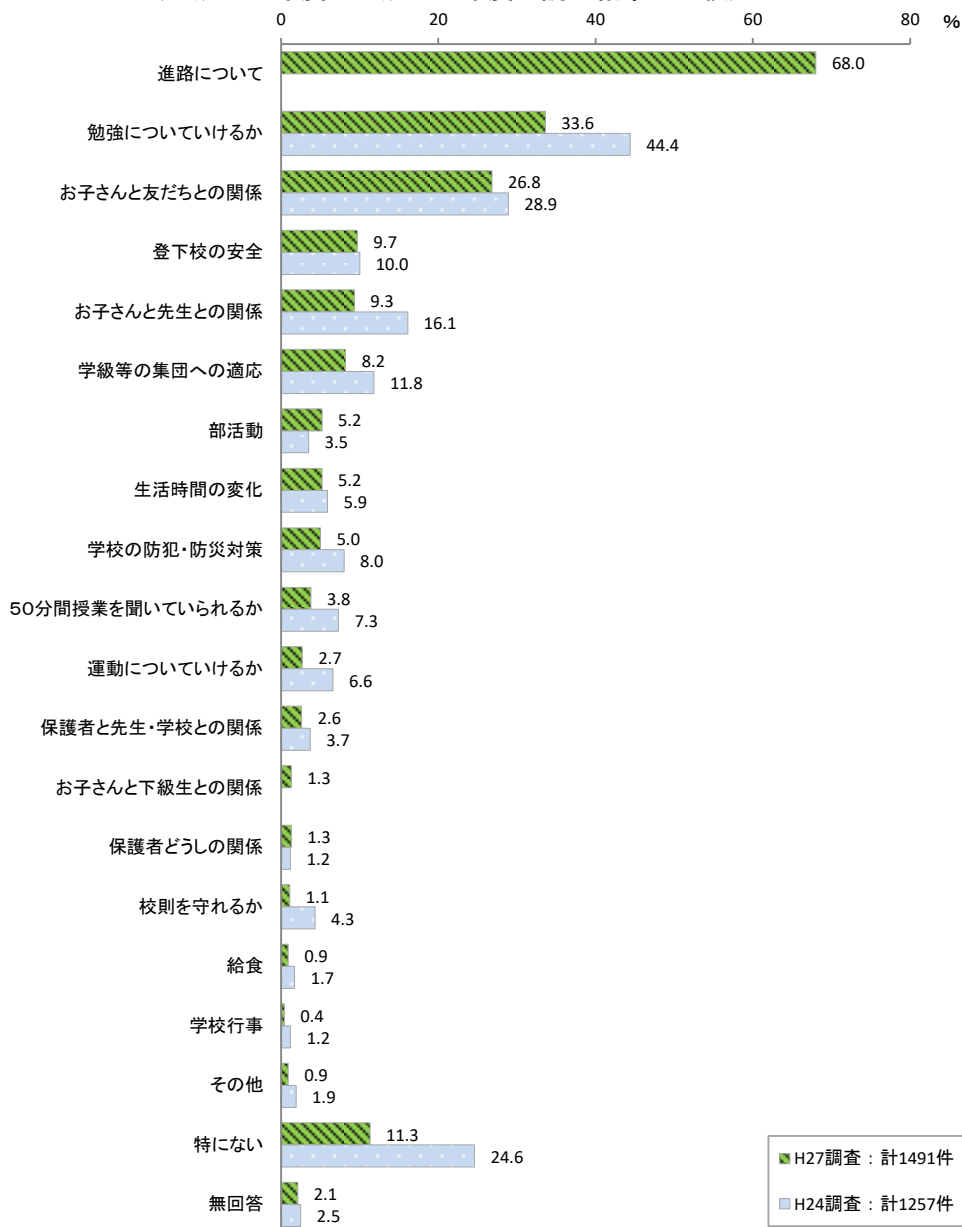
問9 あなたが現在、お子さんの中学校生活について、不安に感じていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

平成27年度の調査結果をみると、「進路について」の割合が68.0%と最も高く、次いで「勉強についていけるか」の割合が33.6%、「お子さんと友だちとの関係」の割合が26.8%となっています。

「その他」として、「携帯電話・スマートフォンの使い方」などの回答があります。

経年変化をみると、「勉強についていけるか」が10.8ポイント減少しています。

**図 V-15 中学校生活での不安
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)**



※ 平成24年度調査は、「進路について」の項目なし。平成24年度調査の「上級生との関係」とは、内容が一部異なるため、比較していない。「お子さんと友だちとの関係」は、平成24年度調査の「友達との関係」と比較している。「お子さんと先生との関係」は、平成24年度調査の「生徒と先生との関係」と比較している。「生活時間の変化」は、平成24年度調査の「生活時間（規則正しく過ごせるか）」と比較している。「学級等の集団への適応」は、平成24年度調査の「集団への適応」と比較している。

（３）不安や心配に対する対応

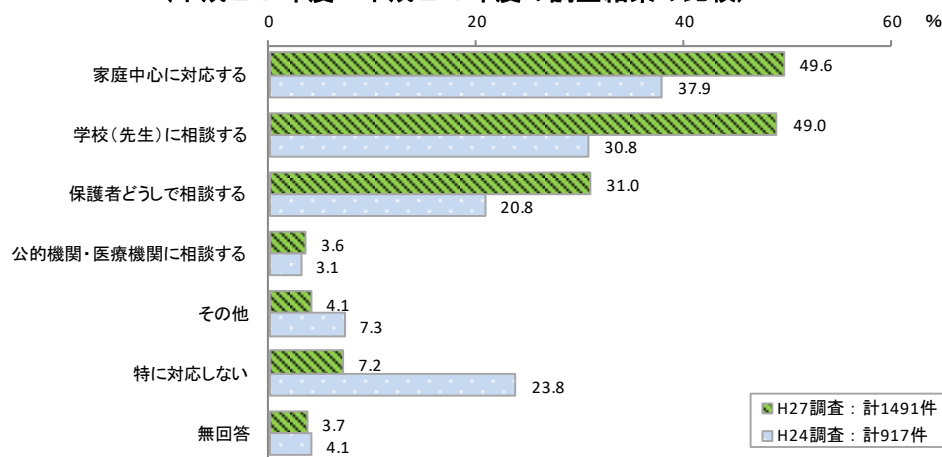
問１０ あなたは、お子さんの中学校生活に関する不安や心配に対して、どのように対応されますか（対応されましたか）。（あてはまるものすべてに○）

平成２７年度の調査結果をみると、「家庭中心に対応する」の割合が49.6%と最も高く、次いで「学校（先生）に相談する」の割合が49.0%、「保護者どうして相談する」の割合が31.0%となっています。

「その他」として、「塾の先生に相談する」、「子どもと話し合う」などの回答があります。

経年変化をみると、多くの項目で回答の割合が増加しています。特に「学校（先生）に相談する」の割合が18.2ポイント、「家庭中心に対応する」の割合が11.7ポイント、「保護者同士で相談する」の割合が10.2ポイント増加しています。

図 V-16 不安や心配に対する対応
（平成２７年度・平成２４年度の調査結果の比較）



※ 「学校（先生）に相談する」は、平成２４年度調査の「学校に相談する」と比較している。

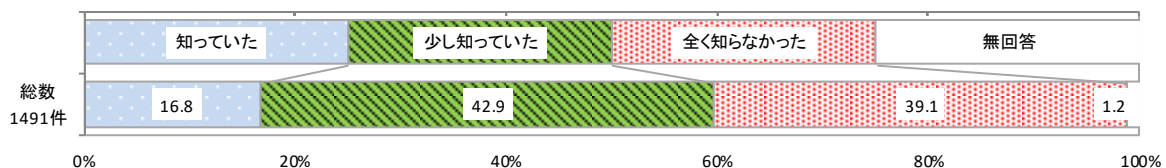
6 幼稚園・保育園等、小学校、中学校（幼保小中）の連携について

（１）草加市の幼保小中連携に関する取り組みについて

問１１ あなたは、草加市が幼保小中の連携に力を入れて取り組んでいることを、知っていましたか。（○は1つだけ）

「知っていた」の割合が16.8%、「少し知っていた」の割合が42.9%、「全く知らなかった」の割合が39.1%となっています。

図 V-17 草加市の幼保小中連携に関する取り組みについて

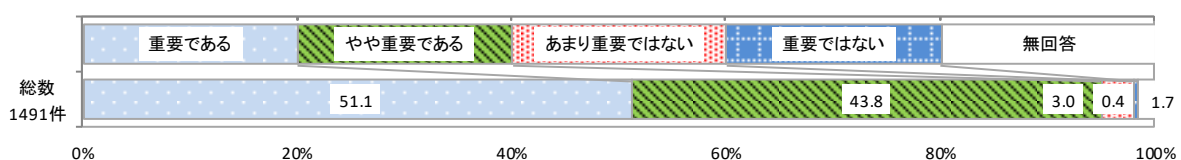


（２）草加市の幼保小中連携の重要性

問１２ あなたは、草加市が幼保小中の連携に力を入れることは、子どもが健全に育つために、重要だと思いますか。（○は1つだけ）

肯定的な回答（「重要である」と「やや重要である」の合計）の割合が94.9%となっています。

図 V-18 草加市の幼保小中連携の重要性



7 お子さんの将来像について

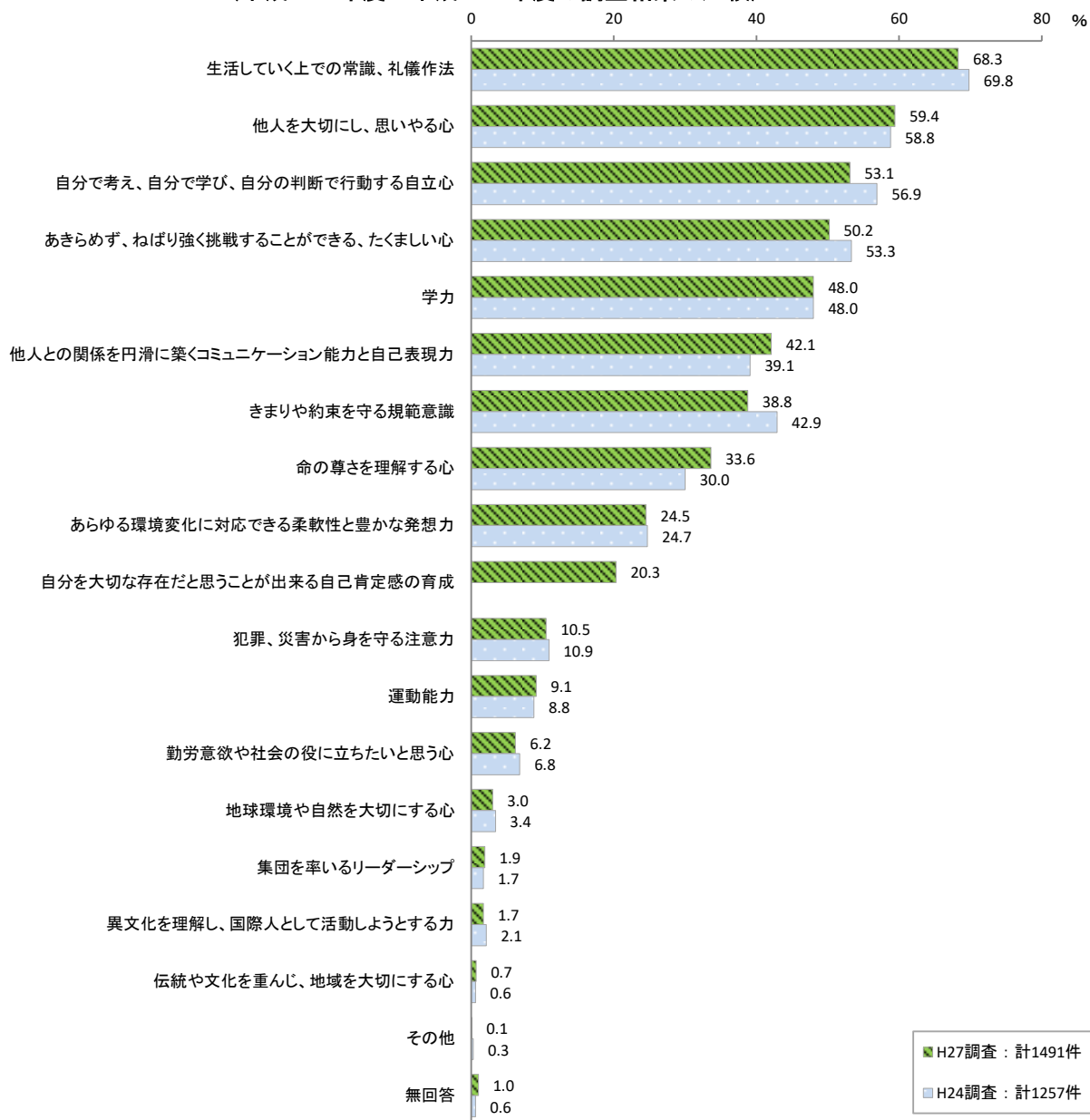
(1) お子さんの将来像について

問13 将来の社会の担い手として、中学校を卒業するまでに、お子さんに身に付けてほしい能力や考え方のうち、特に重要だと思うことは何ですか。(〇は5つまで)

平成27年度の調査結果をみると、「生活していく上での常識、礼儀作法」の割合が68.3%と最も高く、次いで「他人を大切にし、思いやる心」の割合が59.4%、「自分で考え、自分で学び、自分の判断で行動する自立心」の割合が53.1%、「あきらめず、ねばり強く挑戦することができる、たくましい心」の割合が50.2%となっています。

経年変化は特にみられません。

図 V-19 お子さんの将来像について
(平成27年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は、「自分を大切な存在だと思える自己肯定感の育成」の項目なし。「他人との関係を円滑に築くコミュニケーション能力と自己表現力」は、平成24年度調査の「他人との関係を円滑に築くコミュニケーション能力と自己主張力」と比較している。

8 自由記述

最後に、子ども教育の連携や草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

対象となる回収数 1491 件中、112 件に記述がありました（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 112 件より多くなっています。）

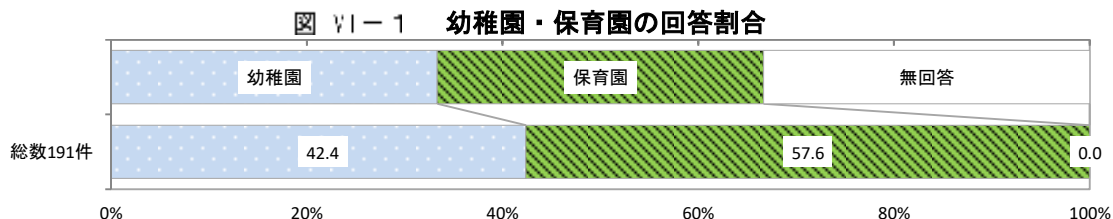
項目	件数
小中学校に関すること	85
教育内容について	20
教員について	24
子どもたちへの対応について	7
特別支援教育について	3
安心・安全について	3
給食、食育について	2
進路相談、指導について	3
家庭・地域との連携について	6
その他	17
教育行政に関すること	17
子ども教育の連携推進について	3
教育施策全般について	14
その他	23
子どもの居場所・遊び場について	5
その他	18

VI 幼稚園・保育園・認定こども園：教員・保育士

1 基本情報

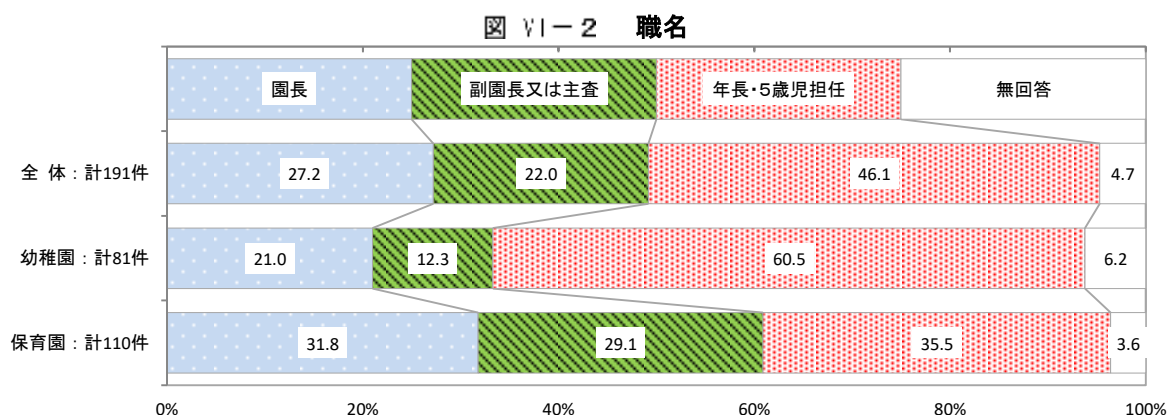
(1) 幼稚園・保育園の回答割合

幼稚園の割合が 42.4%、保育園の割合が 57.6%となっています。



(2) 職名

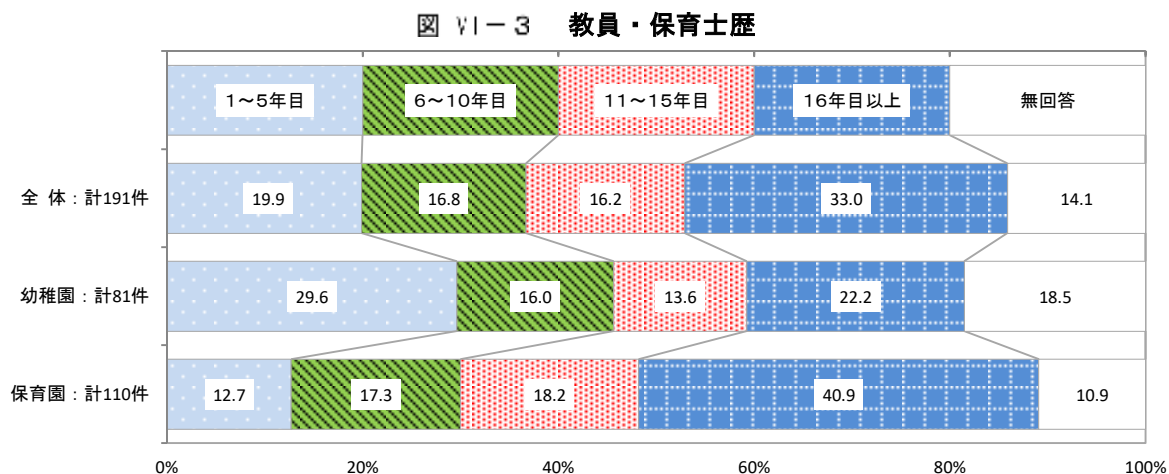
全体では、「年長・5歳児担任」が 46.1%、「園長」が 22.0%となっています。



(3) 教員・保育士歴

全体では、「16年目以上」の割合が 33.0%と最も高く、次いで「1～5年目」の割合が 19.9%、「6～10年目」の割合が 16.8%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「1～5年目」の割合が 29.6%と最も高く、次いで「16年目以上」の割合が 22.2%、「6～10年目」の割合が 16.0%となっています。保育園では、「16年目以上」の割合が 40.9%と最も高く、次いで「11～15年目」の割合が 18.2%、「6～10年目」の割合が 17.3%となっています。



(4) 園児の就学先小学校（平成27年3月卒園、上位3校）

表 VI-1 園児の就学先小学校（平成27年3月卒園、上位3校）

単位：％

幼稚園・保育園名		第1位		第2位		第3位	
幼稚園	認定こども園あずま幼稚園	新里小学校	56.0	両新田小学校	24.0	市外	8.0
	谷塚幼稚園	瀬崎小学校	45.0	谷塚小学校	30.0	高砂小学校	15.0
	ルミ幼稚園	草加小学校	63.0	高砂小学校	27.0	瀬崎小学校	6.0
	いなり幼稚園	稲荷小学校	50.0	市外	25.0	市外	10.0
	かおり幼稚園	草加小学校	50.0	西町小学校	30.0	氷川小学校	20.0
	草加みどり幼稚園	栄小学校	50.0	八幡小学校	25.0	川柳小学校、花栗南小学校	各 6.0
	青徳幼稚園	川柳小学校	47.0	青柳小学校	15.0	八幡北小学校	13.0
	ひかり幼稚園	栄小学校	25.0	八幡小学校	17.0	花栗南小学校	15.0
	草加ひまわり幼稚園	花栗南小学校、松原小学校	各 15.0	栄小学校	13.0	-	-
	草加藤幼稚園	草加小学校	16.7	栄小学校、花栗南小学校、清門小学校	各 12.5	稲荷小学校	8.3
	新田幼稚園	長栄小学校	33.0	新田小学校	25.0	八幡北小学校	16.0
	谷塚おざわ幼稚園	谷塚小学校	35.0	氷川小学校	19.0	高砂小学校	17.0
	草加氷川幼稚園	氷川小学校	28.0	高砂小学校	22.0	西町小学校	10.0
	みのべ幼稚園	清門小学校	26.0	松原小学校	13.0	小山小学校	8.0
	草加ひので幼稚園	八幡小学校	66.1	川柳小学校	11.9	八幡北小学校	8.5
	清門幼稚園	清門小学校	51.0	新栄小学校	22.0	長栄小学校	10.0
	フラワー幼稚園	西町小学校	36.0	小山小学校	34.0	花栗南小学校	8.0
保育園	たかさご保育園	高砂小学校	78.9	草加小学校	10.5	花栗南小学校、青柳小学校	5.3
	きたうら保育園	草加小学校	51.9	西町小学校、花栗南小学校	各 18.5	栄小学校	7.4
	あずま保育園	高砂小学校	75.9	草加小学校	13.8	花栗南小学校、氷川小学校、小山小学校	各 3.4
	やつか保育園	谷塚小学校	83.3	氷川小学校	16.7	-	-
	さかえ保育園	栄小学校	63.9	花栗南小学校、八幡小学校	各 8.3	両新田小学校	5.6
	きたや保育園	花栗南小学校	28.0	栄小学校	16.0	八幡小学校、松原小学校	各 12.0
	しのは保育園	八幡小学校	78.3	八幡北小学校	8.7	高砂小学校、川柳小学校、花栗南小学校	各 4.3
	あさひ保育園	長栄小学校	47.4	新田小学校	31.6	清門小学校	15.8
	やなぎしま保育園	新里小学校	60.0	西町小学校	20.0	草加小学校、氷川小学校、小山小学校、両新田小学校	各 5.0
	にしまち保育園	西町小学校	60.9	氷川小学校、小山小学校	各 13.0	草加小学校	8.7
	せざき保育園	瀬崎小学校	78.6	高砂小学校	17.9	谷塚小学校	3.6
	しんぜん保育園	新田小学校	36.4	青柳小学校	31.8	清門小学校	22.7
	しんえい保育園	新栄小学校	64.0	清門小学校	20.0	長栄小学校	8.0
	やはた保育園	八幡小学校	43.5	八幡北小学校	39.1	川柳小学校、青柳小学校	8.7
	こやま保育園	小山小学校	45.8	草加小学校、清門小学校、松原小学校	各 12.5	花栗南小学校	8.3
	ひかわ保育園	氷川小学校	55.0	高砂小学校、谷塚小学校	各 15.0	花栗南小学校	10.0
	あおやぎ保育園	川柳小学校	54.8	青柳小学校	35.5	八幡北小学校	9.7
	やつかかみ保育園	両新田小学校	56.5	新里小学校	30.4	瀬崎小学校	8.7
	ひかり幼稚舎	稲荷小学校	96.0	八幡小学校、青柳小学校	各 2.0	-	-
	かおり Putra 保育園	西町小学校	42.9	氷川小学校	42.9	新里小学校	7.1
	草加なかよし保育園	谷塚小学校	50.0	両新田小学校	19.0	新里小学校	6.0
	さくらの実保育園	西町小学校、花栗南小学校	各 50.0	-	-	-	-
	さくらの実保育園分園	-	-	-	-	-	-
	そうか草花保育園	瀬崎小学校	50.0	谷塚小学校	40.0	氷川小学校	5.0
	けやきの森保育園清門町園	清門小学校	80.0	新栄小学校、長栄小学校	各 10.0	-	-
	めえめえこやぎこども園	清門小学校	38.5	稲荷小学校	15.4	長栄小学校、青柳小学校	各 7.7
	につさとの森保育園	新里小学校	82.0	清門小学校、両新田小学校	各 6.0	-	-
	草加にじいろ保育園	八幡北小学校	29.0	草加小学校、清門小学校、稲荷小学校、青柳小学校、市外	各 14.2	-	-
	じょうえん保育園	平成27年4月開園のため卒園児なし					
	さくらんぼ保育園	平成27年4月開園のため卒園児なし					
	草加松原どろんこ保育園	平成27年4月開園のため卒園児なし					
	しんでん保育園	市外	100.0	-	-	-	-
	まつばら保育園	-	-	-	-	-	-
	スマイルキッズルーム	草加小学校	-	西町小学校	-	-	-
	さくら保育	稲荷小学校、青柳小学校、市外	各 33.0	-	-	-	-
	もりまさ保育園 草加園	高砂小学校	70.0	草加小学校	25.0	谷塚小学校	5.0
	ニコニコ保育園	-	-	-	-	-	-
	こだま保育園	-	-	-	-	-	-

2 幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について

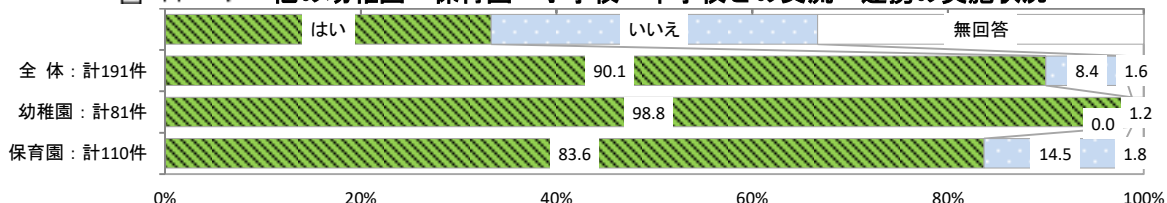
(1) 他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携の実施状況

問1 あなたの園では、昨年度（平成26年度）に、1カ所以上の幼稚園・保育園・小学校・中学校と、問4の選択肢にあるような交流・連携を行いましたか。（○は1つだけ）

全体では、「はい」の割合が90.1%、「いいえ」の割合が8.4%となっています。

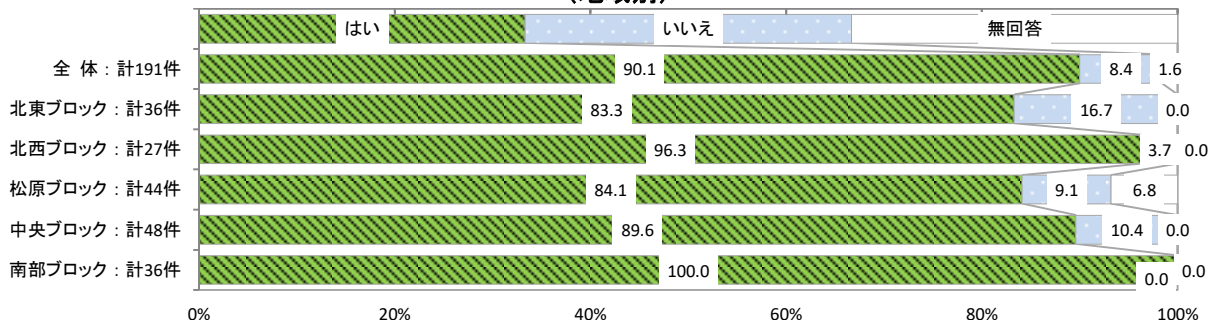
幼稚園・保育園別にみると、幼稚園では、「はい」の割合が98.8%となっています。保育園では、「はい」の割合が83.6%、「いいえ」の割合が14.5%となっています。

図 VI-4 他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携の実施状況



地域別の交流・連携の実施状況は以下のとおりです。

図 VI-5 他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携の実施状況（地域別）

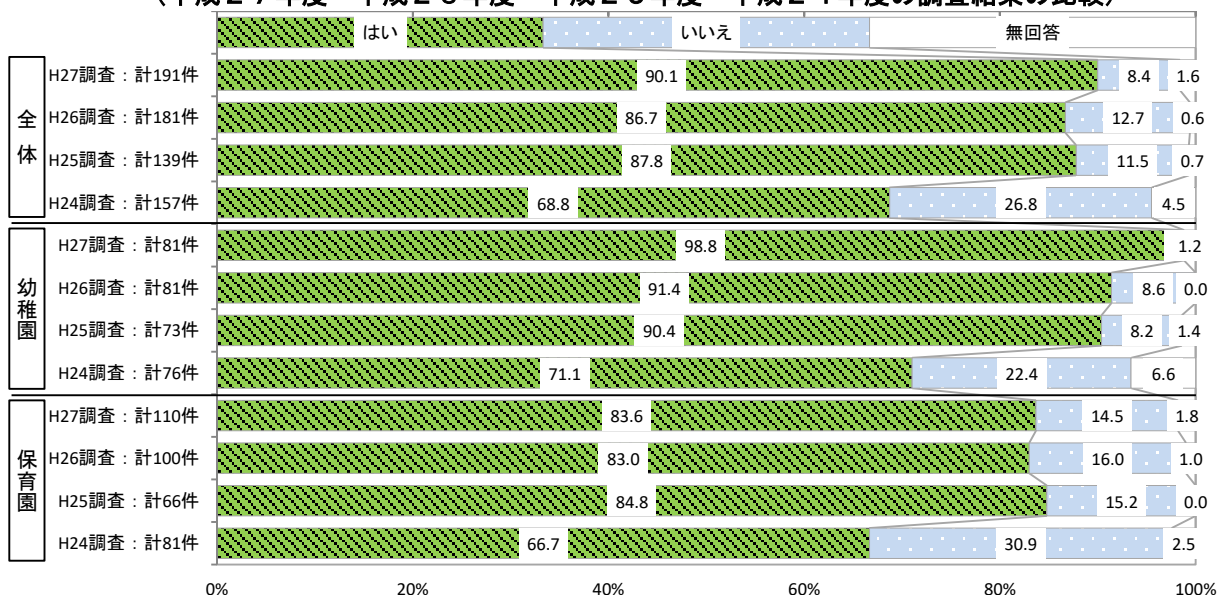


【平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると全体では、「はい」の割合が平成25年度から平成27年度にかけてほぼ横ばいとなっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「はい」の割合が平成25年度から平成27年度の増加傾向となっています。保育園では、「はい」の割合が平成25年度から平成27年度にかけてほぼ横ばいとなっています。

図 VI-6 他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携の実施状況（平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較）

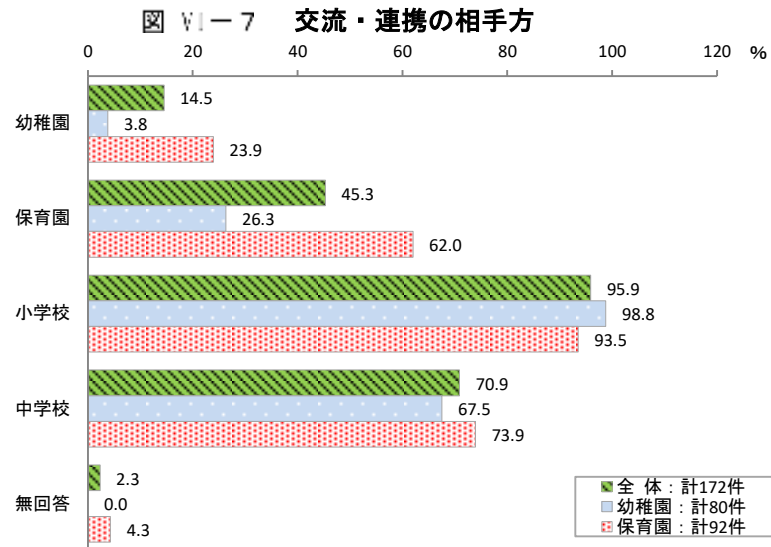


(2) 交流・連携の相手方

問2 問1で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携の相手方はどこでしたか。(あてはまるもの全てに○と相手方の数を記入)

全体では、「小学校」の割合が95.9%と最も高く、次いで「中学校」の割合が70.9%、「保育園」の割合が45.3%となっています。

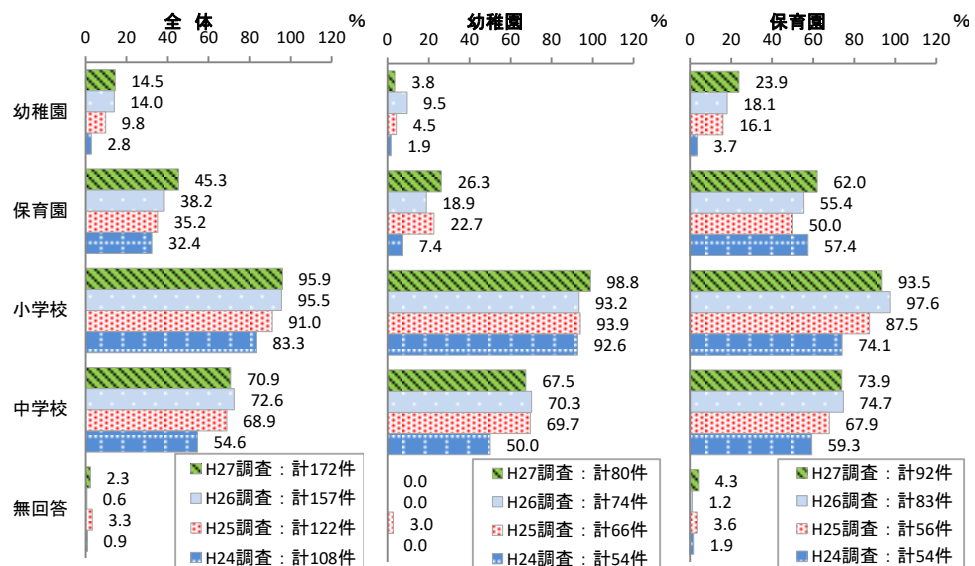
幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「小学校」の割合が98.8%と最も高く、次いで「中学校」の割合が67.5%、「保育園」の割合が26.3%となっています。保育園では、「小学校」の割合が93.5%と最も高く、次いで「中学校」の割合が73.9%、「保育園」の割合が62.0%となっています。



【平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると全体では、保育園の割合が増加傾向となっております。

図 VI-8 交流・連携の相手方
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

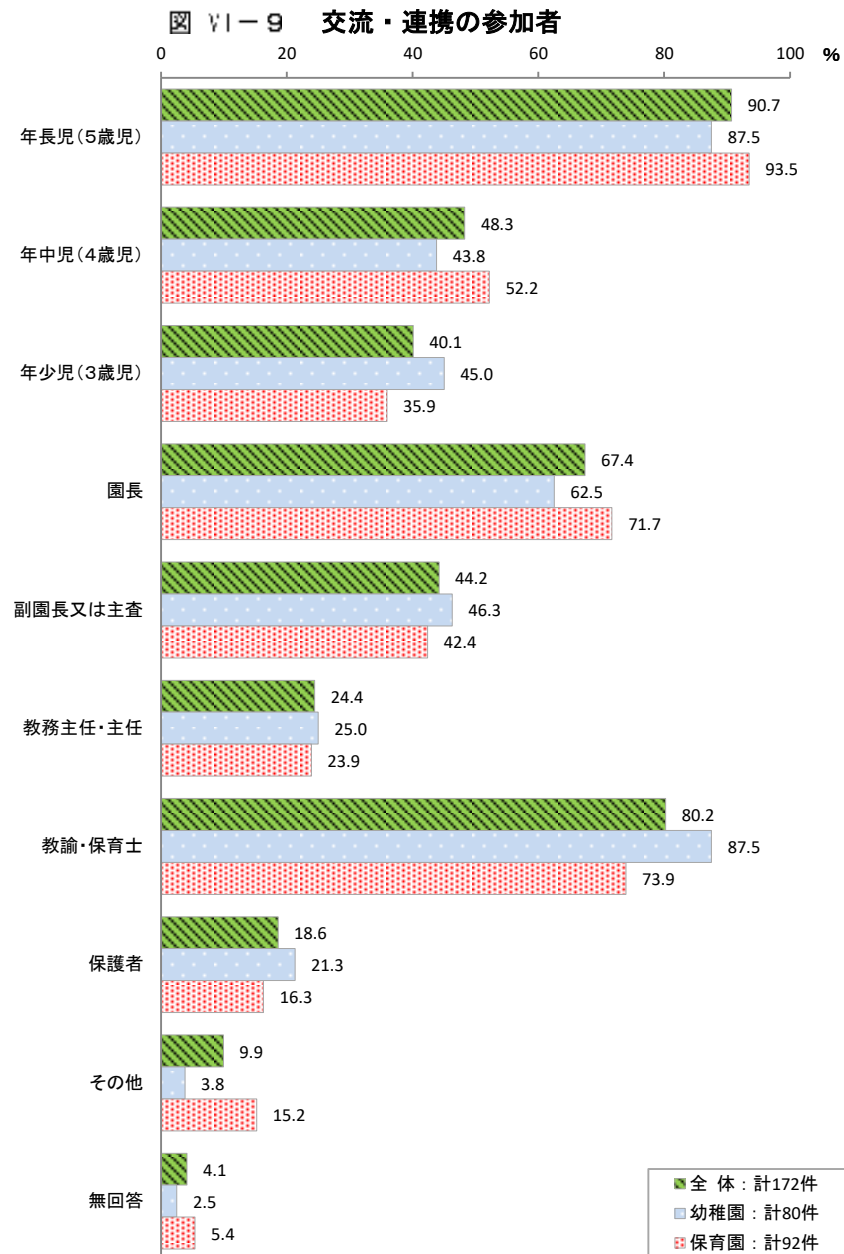


（３）交流・連携の参加者

問３ 問１で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携に参加したのは 次のうち誰でしたか。（あてはまるもの全てに○）

全体では、幼児については「年長児（５歳児）」の割合が 90.7%と最も高く、次いで「年中児（４歳児）」の割合が 48.3%、「年少児（３歳児）」の割合が 40.1%となっています。

教職員等については「教諭・保育士」の割合が 80.2%と最も高く、次いで「園長」の割合が 67.4%、「副園長又は主査」の割合が 44.2%となっています。



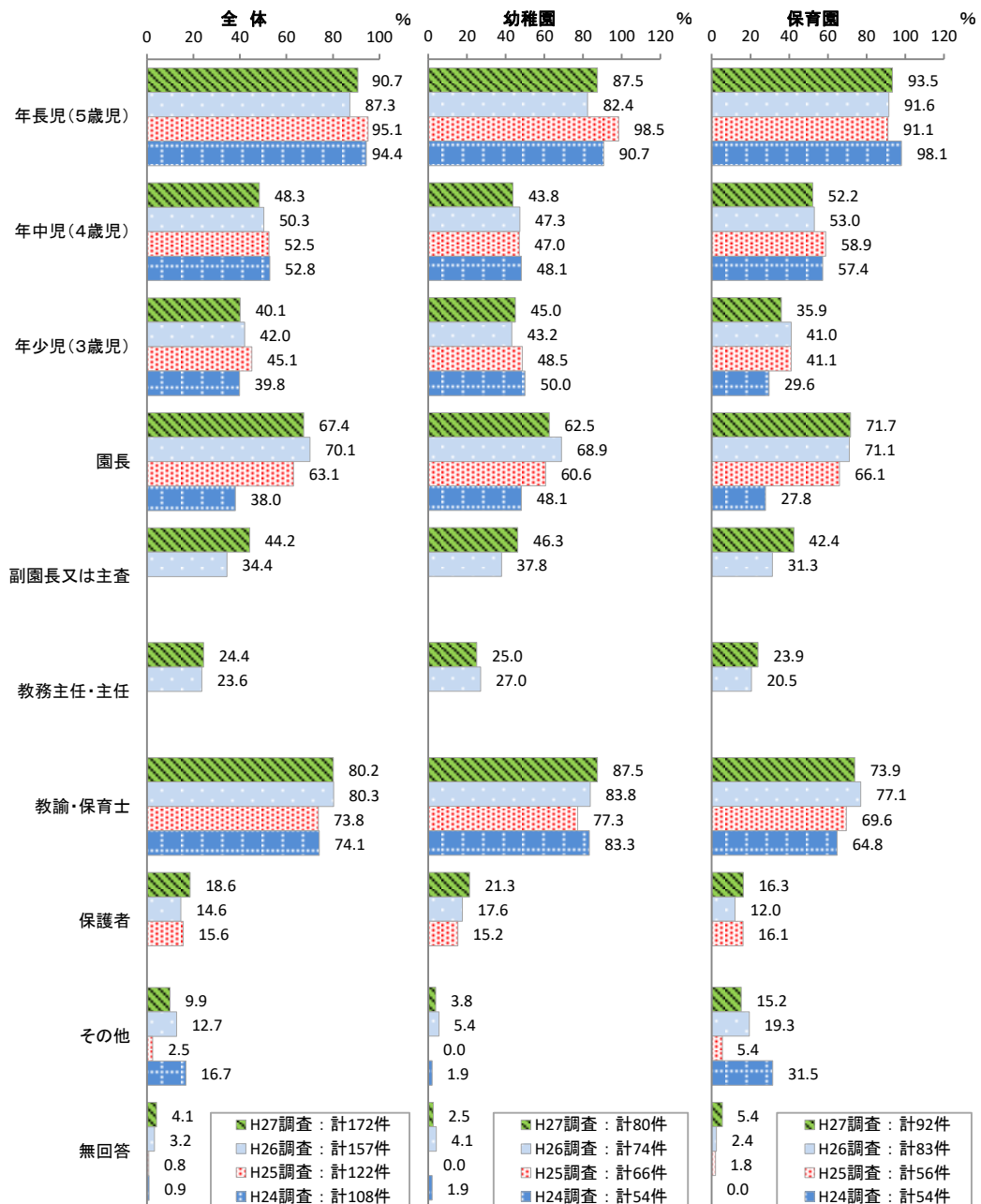
【平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると全体では、幼児については「年長児（5歳児）」、「年中児（4歳児）」、「年少児（3歳児）」ともに割合がほぼ横ばいとなっています。

教職員等については「副園長又は主査」の割合が増加傾向となっています。

幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。

図Ⅵ-10 交流・連携の参加者
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



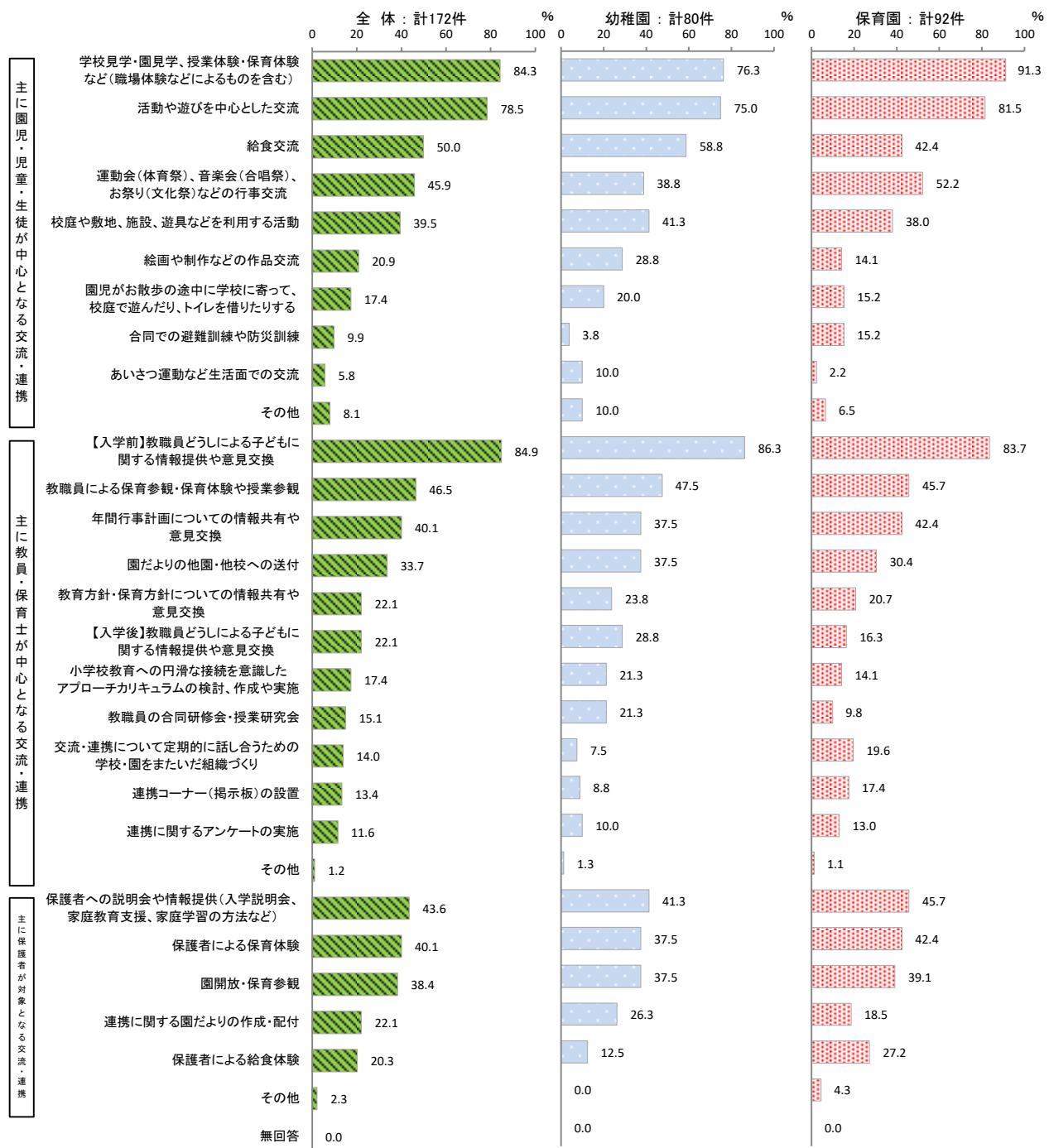
※ 平成25年度調査以前は「副園長又は主査」、「教務主任・主任」の項目なし。平成24年度調査は「保護者」の項目なし。

(4) 交流・連携の内容

問4 **問1で「はい」と答えた教職員が回答** 交流・連携の内容はどのようなものでしたか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」の割合が84.9%と最も高く、次いで「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など(職場体験などによるものを含む)」の割合が84.3%、「活動や遊びを中心とした交流」の割合が78.5%となっています。

図 VI-11 交流・連携の内容

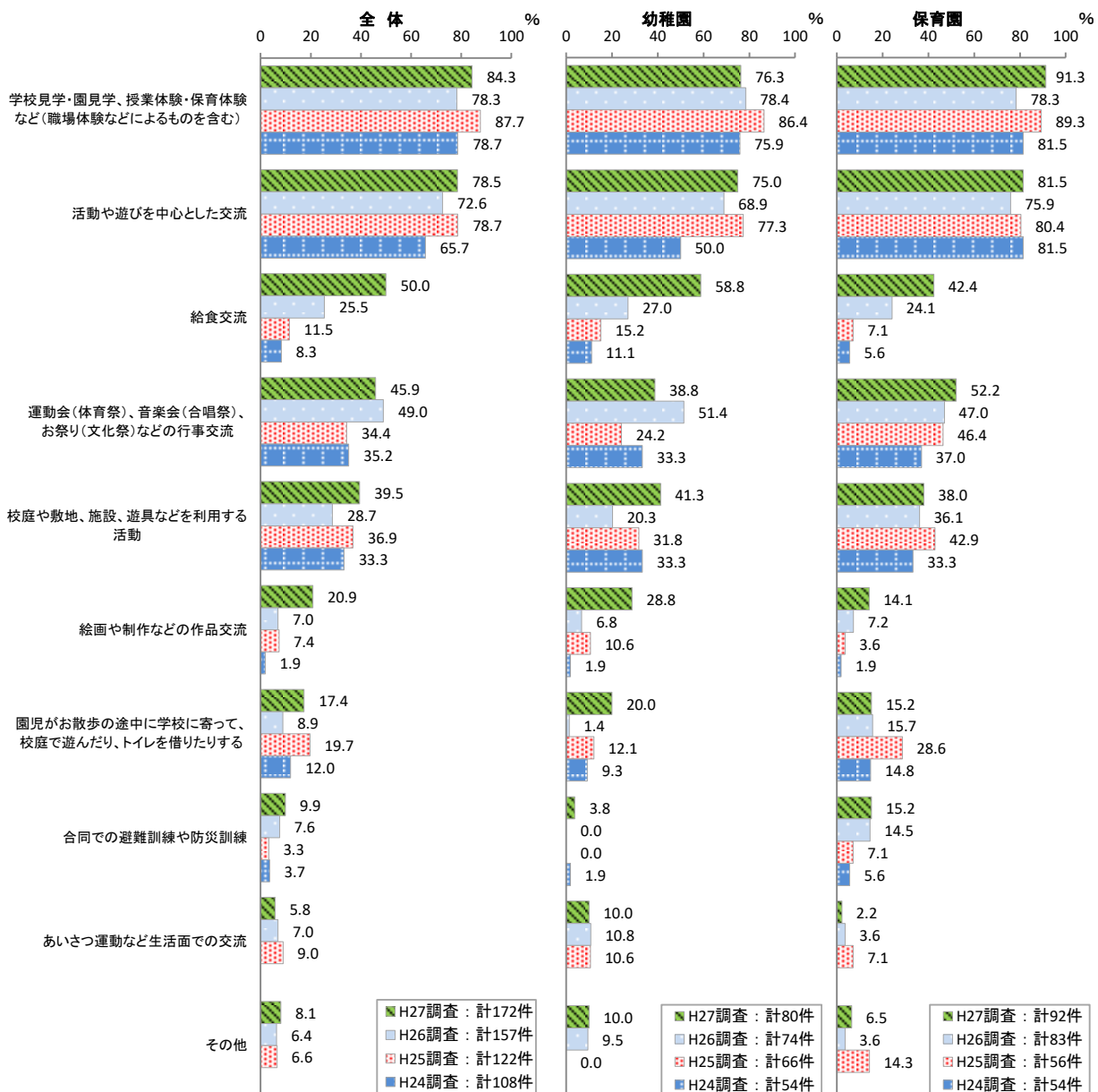


【平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

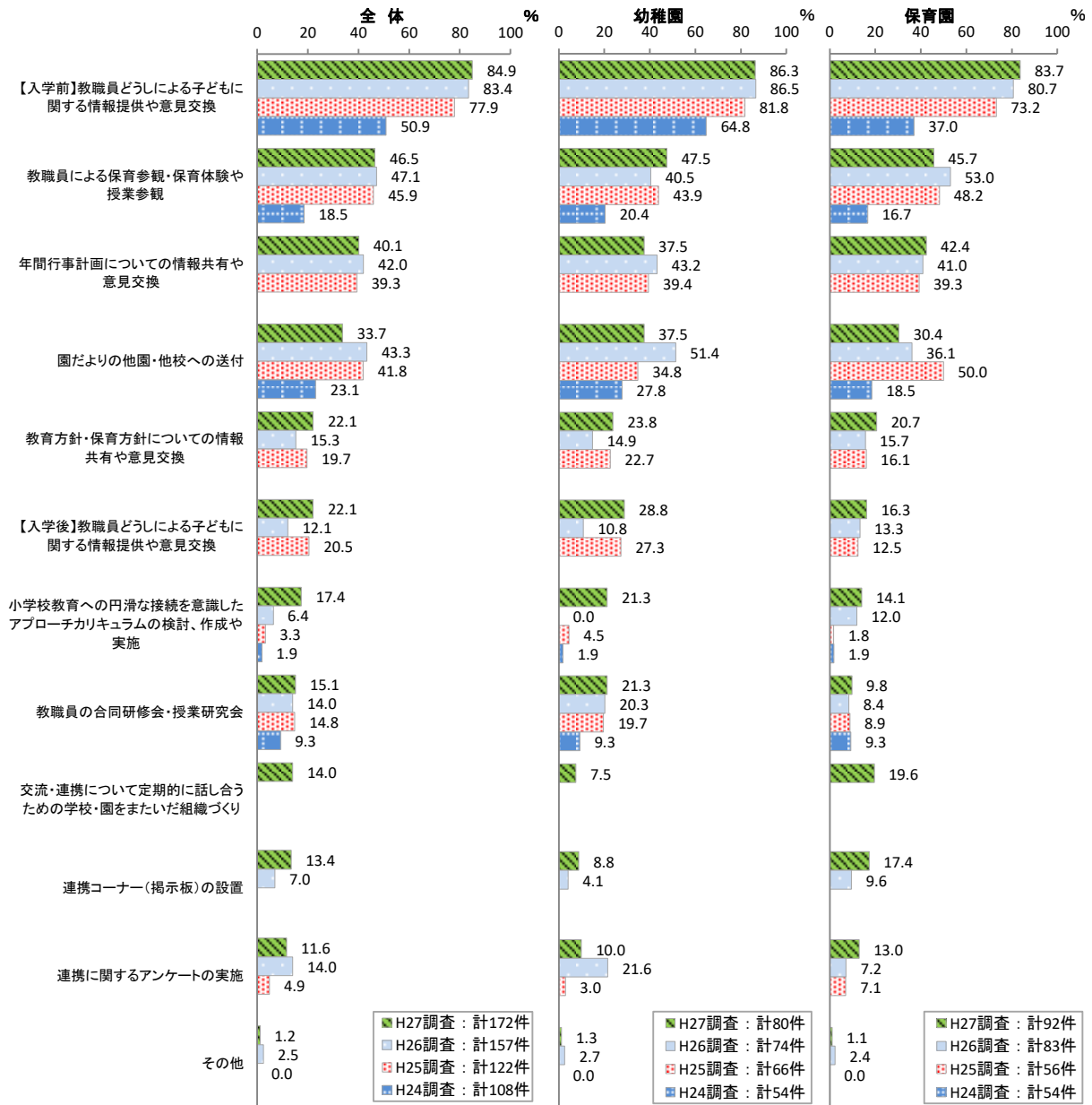
経年変化をみると全体では、「給食交流」の割合が増加傾向となっており、平成27年度は平成26年度から24.5ポイント増加しています。また、「校庭や敷地、施設、遊具などを利用する活動」、「絵画や制作などの作品交流」、「【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」、「小学校教育への円滑な接続を意識したアプローチカリキュラムの検討、作成や実施」の割合が平成27年度は平成26年度から10.0ポイント以上増加しています。一方、「園開放・保育参観」の割合が平成27年度は平成26年度から15.1ポイント減少しています。

図 VI-12 交流・連携の内容
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

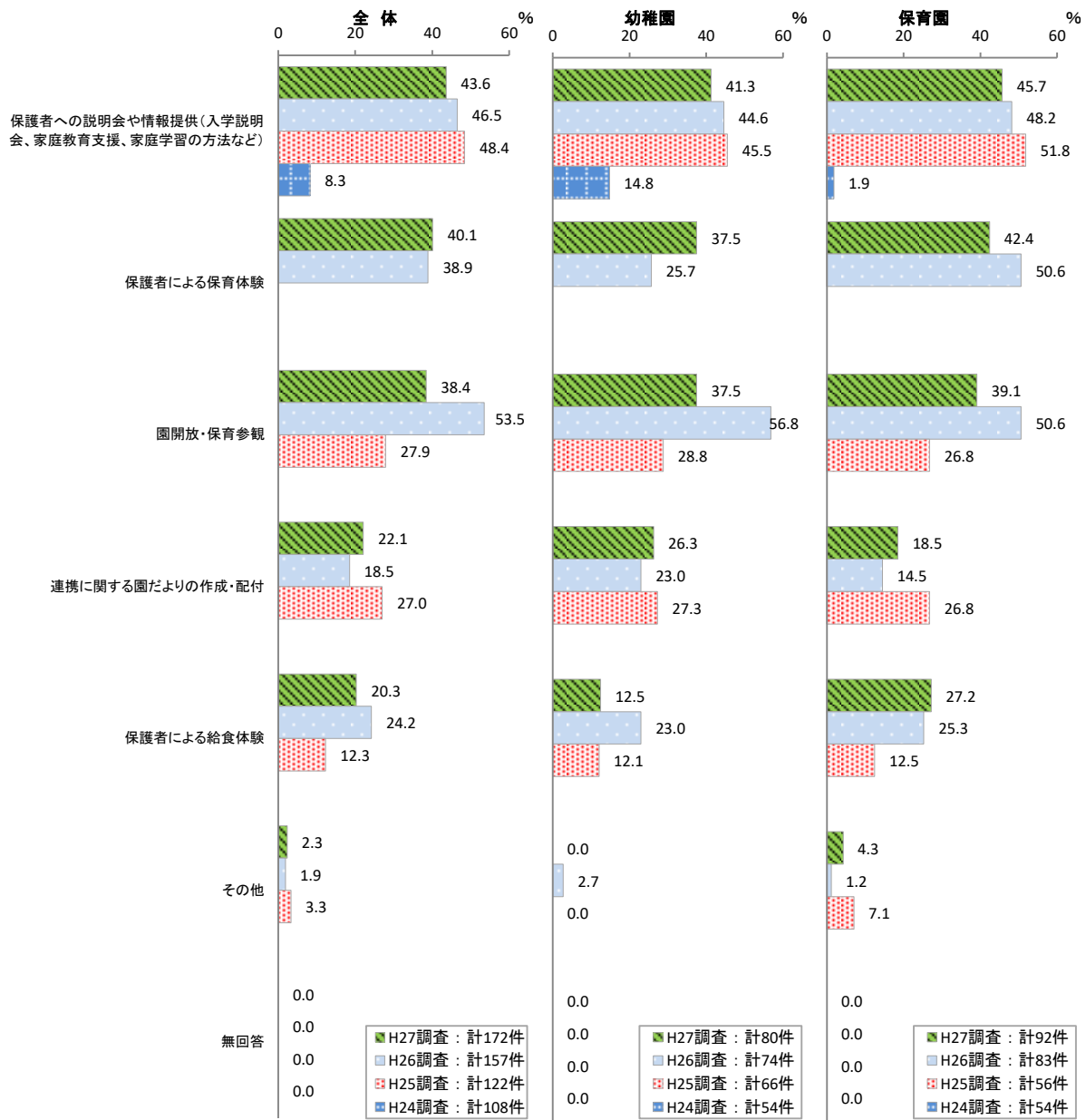
＜主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携＞



＜主に教員・保育士が中心となる交流・連携＞



＜主に保護者が対象となる交流・連携＞



※ 平成26年度調査以前は「交流・連携について定期的に話し合うための学校・園をまたいだ組織づくり」の項目なし。平成25年度調査は「連携コーナー（掲示板）の設置」、「保護者による保育体験」の項目なし。平成25年度調査以前は比較可能な項目を抜粋・比較している。

(5) 重要な交流・連携の取組

問5 **問1で「はい」と答えた教職員が回答** 問4の選択肢に挙げられている交流・連携の内容のうち、特に重要な取組はどれだと思いますか。重要度が高いと考える順に、問4の選択肢番号及び**重要と考える理由**をご記入ください。(5つまで)

主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携では、「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」、「活動や遊びを中心とした交流」、「給食交流」の件数が多くなっています。

主に教員・保育士が中心となる交流・連携では、「【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」、「教職員による保育参観・保育体験や授業参観」、「【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」の件数が多くなっています。

主に保護者が対象となる交流・連携では、「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）」、「保護者による保育体験」、「園開放・保育参観」の件数が多くなっています。

表 VI-2 重要な交流・連携の取組

単位：件

交流・連携の内容		重要度 1	重要度 2	重要度 3	重要度 4	重要度 5	合計
主に園児・児童・生徒が中心となる 交流・連携	1 活動や遊びを中心とした交流	50	8	12	3	4	77
	2 あいさつ運動など生活面での交流	1	1	0	0	0	2
	3 運動会（体育祭）、音楽会（合唱祭）、お祭り（文化祭）などの行事交流	3	5	2	4	4	18
	4 絵画や制作などの作品交流	0	0	3	2	0	5
	5 給食交流	7	19	3	6	1	36
	6 合同での避難訓練や防災訓練	0	2	0	3	0	5
	7 学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）	32	39	19	10	1	101
	8 校庭や敷地、施設、遊具などを利用する活動	0	2	5	2	2	11
	9 園児がお散歩の途中に学校に寄って、校庭で遊んだり、トイレを借りたりする	1	0	1	7	1	10
	10 その他	0	1	0	1	0	2
主に教員・保育士が中心となる 交流・連携	11 教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換	3	1	3	0	2	9
	12 年間行事計画についての情報共有や意見交換	1	5	1	6	3	16
	13 園だよりの他園・他校への送付	0	0	2	1	0	3
	14 連携コーナー（掲示板）の設置	0	0	0	0	0	0
	15 【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換	40	29	23	4	3	99
	16 【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換	3	9	4	0	2	18
	17 教職員による保育参観・保育体験や授業参観	4	5	3	8	1	21
	18 交流・連携について定期的に話し合うための学校・園をまたいだ組織づくり	1	2	5	3	0	11
	19 教職員の合同研修会・授業研究会	0	3	1	2	1	7
	20 連携に関するアンケートの実施	0	0	0	0	0	0
	21 小学校教育への円滑な接続を意識したアプローチカリキュラムの検討、作成や実施	0	4	0	1	8	13
	22 その他	0	0	0	0	0	0
主に保護者が対象となる 交流・連携	23 保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）	1	2	11	3	4	21
	24 園開放・保育参観	0	0	3	2	0	5
	25 保護者による保育体験	4	2	5	3	6	20
	26 保護者による給食体験	0	1	0	0	0	1
	27 連携に関する園だよりの作成・配付	1	0	1	1	0	3
	28 その他	0	0	0	0	0	0

【重要と考える理由】

主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携、主に教員・保育士が中心となる交流・連携、主に保護者が対象となる交流・連携のそれぞれについて、合計件数が多かった上位3位の理由は以下のようになっています。

(主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携)

① 学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）（101件）

記述があったのは98件でした（1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は98件より多くなっています）。

項目	件数
就学に対する期待・意識が高まるから	40
就学に対する不安の解消になるから	27
学校の様子がわかるから	16
体験して交流がもてるから	6
学校の見通しがもてるようになるから	5
子どもにとっていい経験になるから	5
就学へのスムーズな移行が図れるから	3
その他	13

② 活動や遊びを中心とした交流（77件）

記述があったのは72件でした（1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は72件より多くなっています）。

項目	件数
学校への憧れや期待が高まるから	17
就学に対する不安の解消になるから	13
活動や遊びの中で交流を深められるから	13
交流・参加しやすいから	7
学校生活の理解	7
活動や遊びを通して楽しさを味わうため	5
遊びの中から学ぶことが大切だから	5
園児の活動が意欲的になるから	4
学校の様子がわかるから	2
その他	6

VI 幼稚園・保育園・認定こども園：教員・保育士

③ 給食交流（36 件）

記述があったのは 36 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 36 件より多くなっています）。

項目	件数
給食への不安の解消につながるから	11
学校生活の理解	7
学校への期待が高まるから	5
体験して交流がもてるから	4
お互いいい経験になるから	4
学校給食の様子がわかるから	3
その他	3

（主に教員・保育士が中心となる交流・連携）

① 【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（99 件）

記述があったのは 93 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 93 件より多くなっています）。

項目	件数
一人ひとりの園児の実態を伝え理解を深めることができるから	41
配慮していることを引き継ぐことで安定した学校生活が送れるから	18
就学へのスムーズな移行が図れるから	15
個人の発達状況と配慮すべき点の伝達	8
園・校が互いに理解できるから	6
今後の指導の参考になるから	5
保護者の安心につながるから	3
学級編成に役立つから	2
その他	2

② 教職員による保育参観・保育体験や授業参観（21 件）

記述があったのは 18 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 18 件より多くなっています）。

項目	件数
小学校での生活を知ることができるため	7
園での生活を知ってもらうため	6
園・校の互いの理解のため	5
就学へのスムーズな移行が図れるから	3
子どもの成長を理解してもらうため	2
その他	1

③ 【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（18件）

記述があったのは15件でした。

項目	件数
入学後の様子を知ることによって子どもが過ごしやすい環境を整えるため	5
情報交換により、よりよい指導ができるため	5
子どものことをより深く理解することができるため	3
その他	2

（主に保護者が対象となる交流・連携）

① 保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）（21件）

記述があったのは18件でした。

項目	件数
就学に対する不安の解消になるから	6
保護者に子ども・学校を理解してもらうため	5
保護者と連携・協力するため	4
保護者の就学に向けての意識を高めてもらうため	2
保護者を支援するため	1

② 保護者による保育体験（20件）

記述があったのは18件でした（1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は18件より多くなっています）。

項目	件数
子どもの様子を知ってもらうため	10
保護者に園での教育を理解してもらうため	6
保育の仕事を知ってもらうため	2
その他	1

③ 園開放・保育参観（5件）

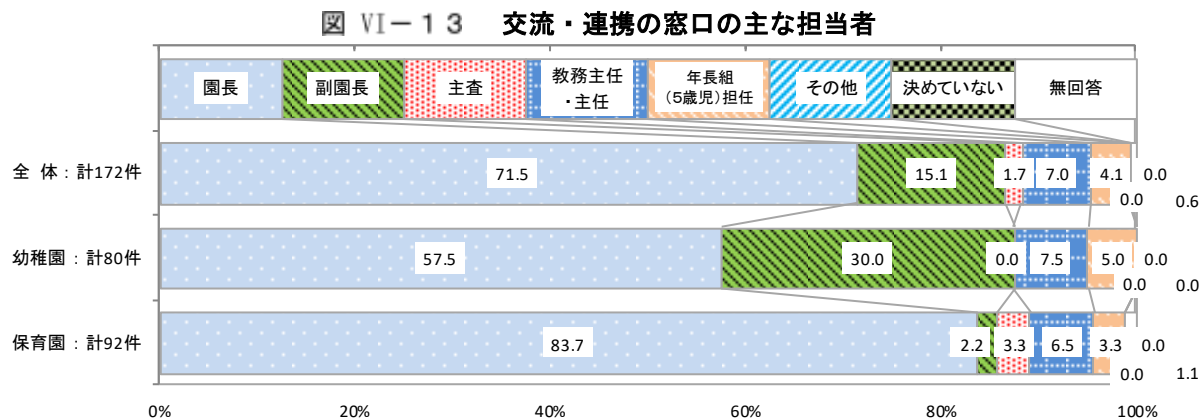
記述があったのは4件でした。

項目	件数
子どもの様子を知ってもらうため	3
保護者に園生活を理解してもらうため	1

(6) 交流・連携の窓口の主な担当者

問6 問1で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携の窓口は、主にどなたが担当していますか。
(〇は1つだけ)

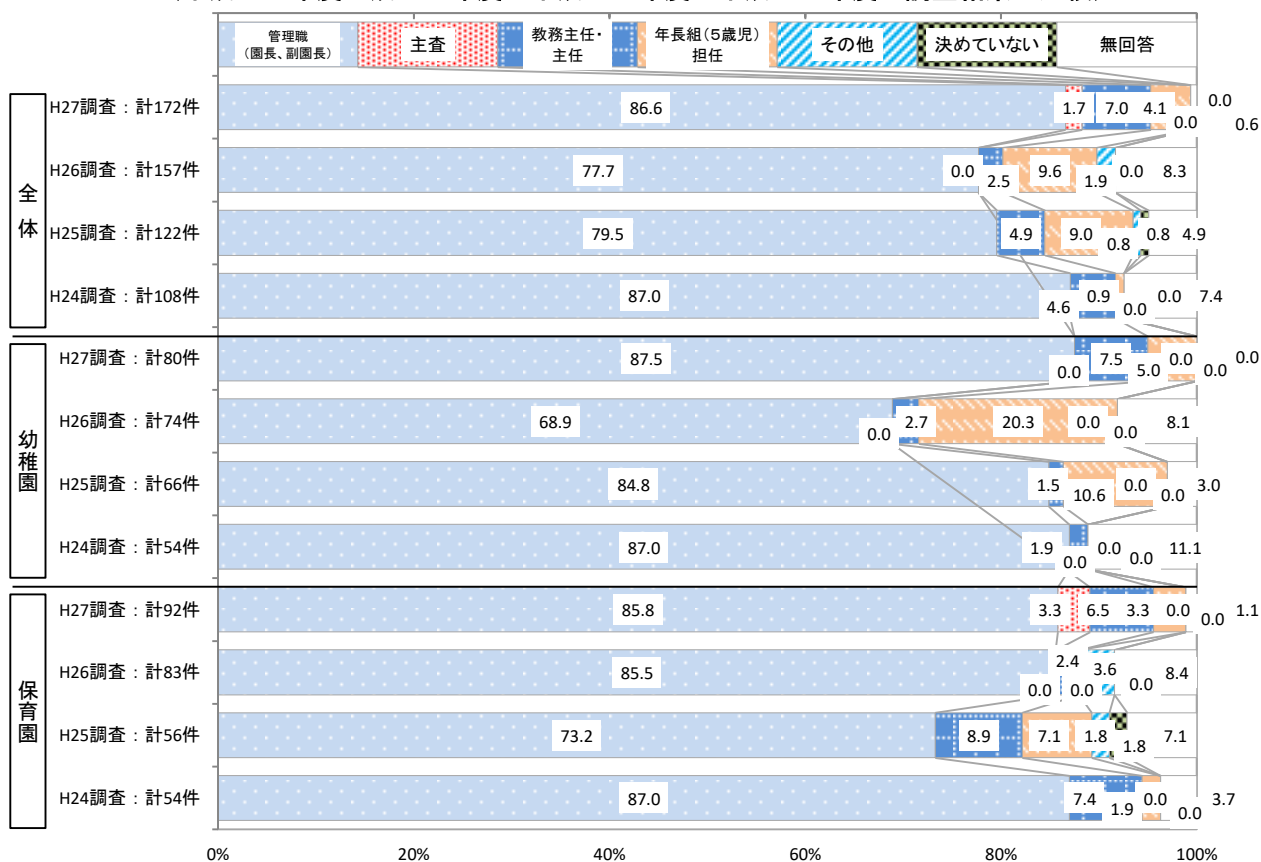
「園長」の割合が71.5%と最も高く、次いで「副園長」の割合が15.1%、「教務主任・主任」の割合が7.0%となっています。



【平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると全体では、「管理職（園長・副園長）」の割合が平成27年度は平成26年度から8.9ポイント増加しています。

図 VI-14 交流・連携の窓口の主な担当者
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 「管理職（園長・副園長）」は、平成27年度調査、平成26年度調査それぞれの「園長」、「副園長」を合わせた値と、平成25年度調査以前の「管理職（園長・副園長）」を比較している。平成25年度調査以前は「主査」の項目なし。

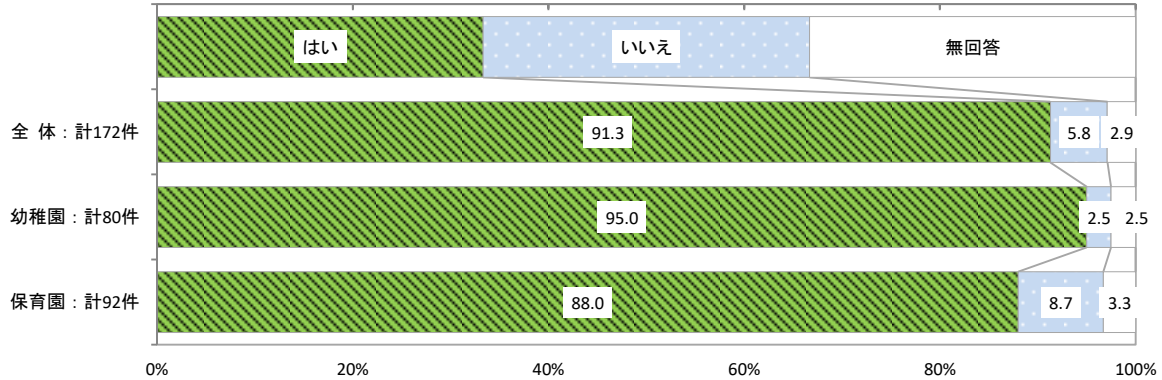
(7) 交流・連携の窓口の担当者の固定化

問7 **問1で「はい」と答えた教職員が回答** 交流・連携の窓口の担当者は、固定して（園内で決まって）いますか。（○は1つだけ）

全体では、「はい」の割合が91.3%、「いいえ」の割合が5.8%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、交流・連携の窓口の担当者が固定されている割合は、幼稚園が95.0%、保育園が88.0%となっています。

図 VI-15 交流・連携の窓口の担当者の固定化

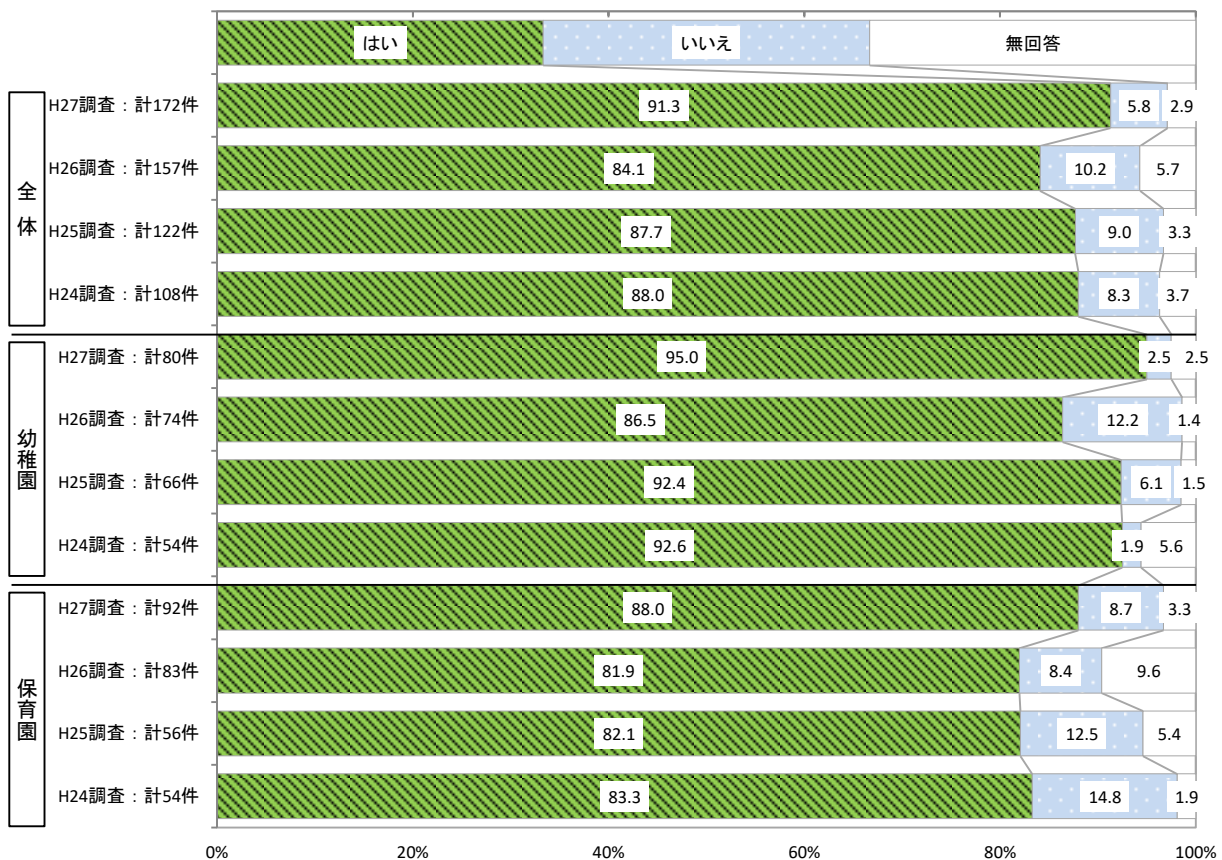


【平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると全体では、交流・連携の窓口の担当者が固定されている割合が平成27年度は平成26年度から7.2ポイント増加しています。

幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。

図 VI-16 交流・連携の窓口の担当者の固定化
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

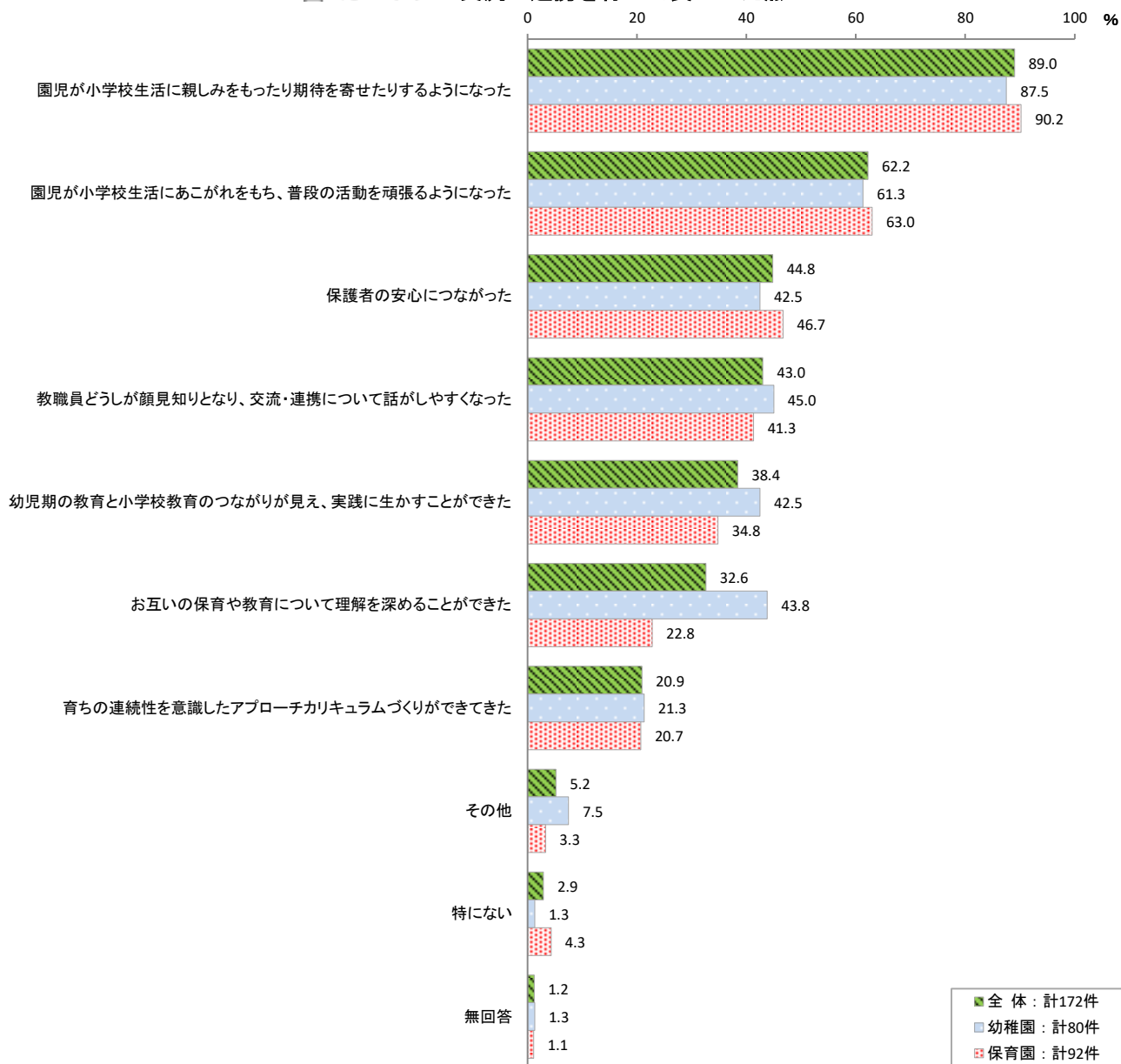


(8) 交流・連携を行って良かった点

問8 **問1で「はい」と答えた教職員が回答** 交流・連携を行って良かった点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「園児が小学校生活に親しみをもったり期待を寄せたりするようになった」の割合が89.0%と最も高く、次いで「園児が小学校生活にあこがれをもち、普段の活動を頑張るようになった」の割合が62.2%、「保護者の安心につながった」の割合が44.8%となっています。

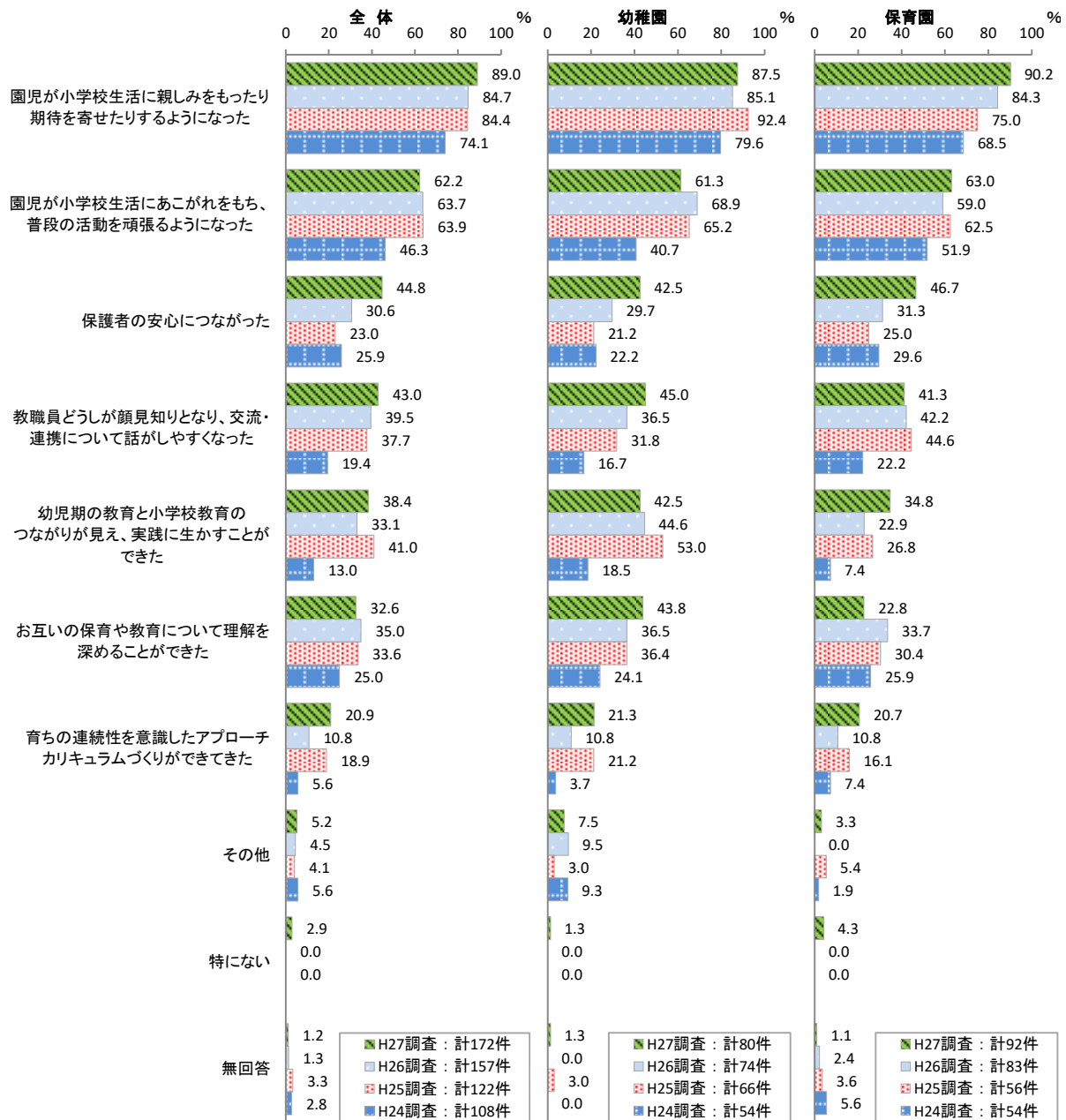
図 VI-17 交流・連携を行って良かった点



【平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると全体では、「保護者の安心につながった」、「教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携について話がしやすくなった」の割合が増加傾向となっています。

図Ⅵ-18 交流・連携を行って良かった点
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



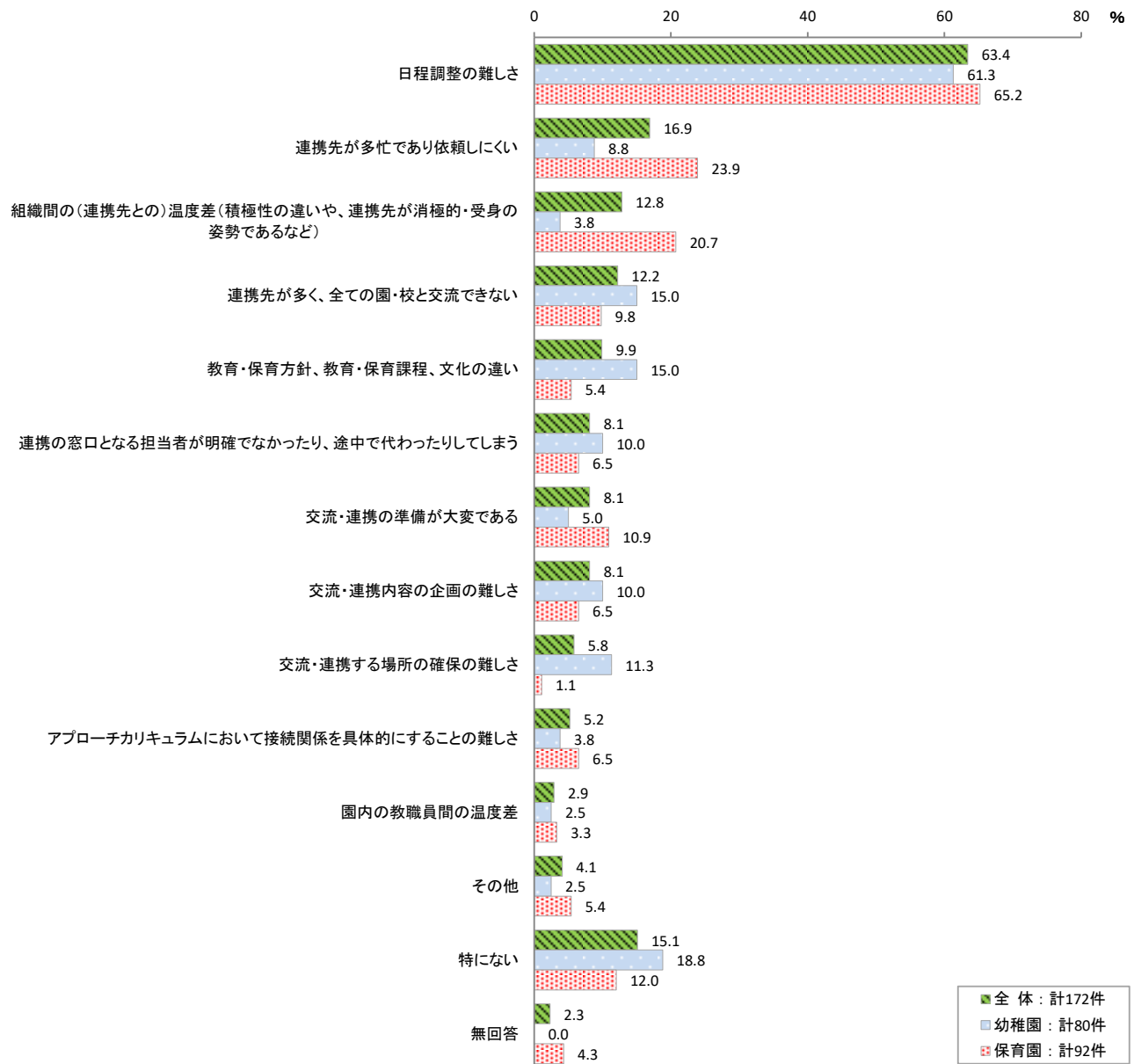
※ 平成24年度調査は「特にない」の項目なし。

(9) 交流・連携の課題となる点

問9 **問1で「はい」と答えた教職員が回答** 交流・連携の実施にあたって課題となる点は何ですか。
(あてはまるものを全てに○)

全体では、「日程調整の難しさ」の割合が63.4%と最も高く、次いで「連携先が多忙であり依頼しにくい」の割合が16.9%、「組織間の（連携先との）温度差（積極性の違いや、連携先が消極的・受身の姿勢であるなど）」の割合が12.8%となっています。

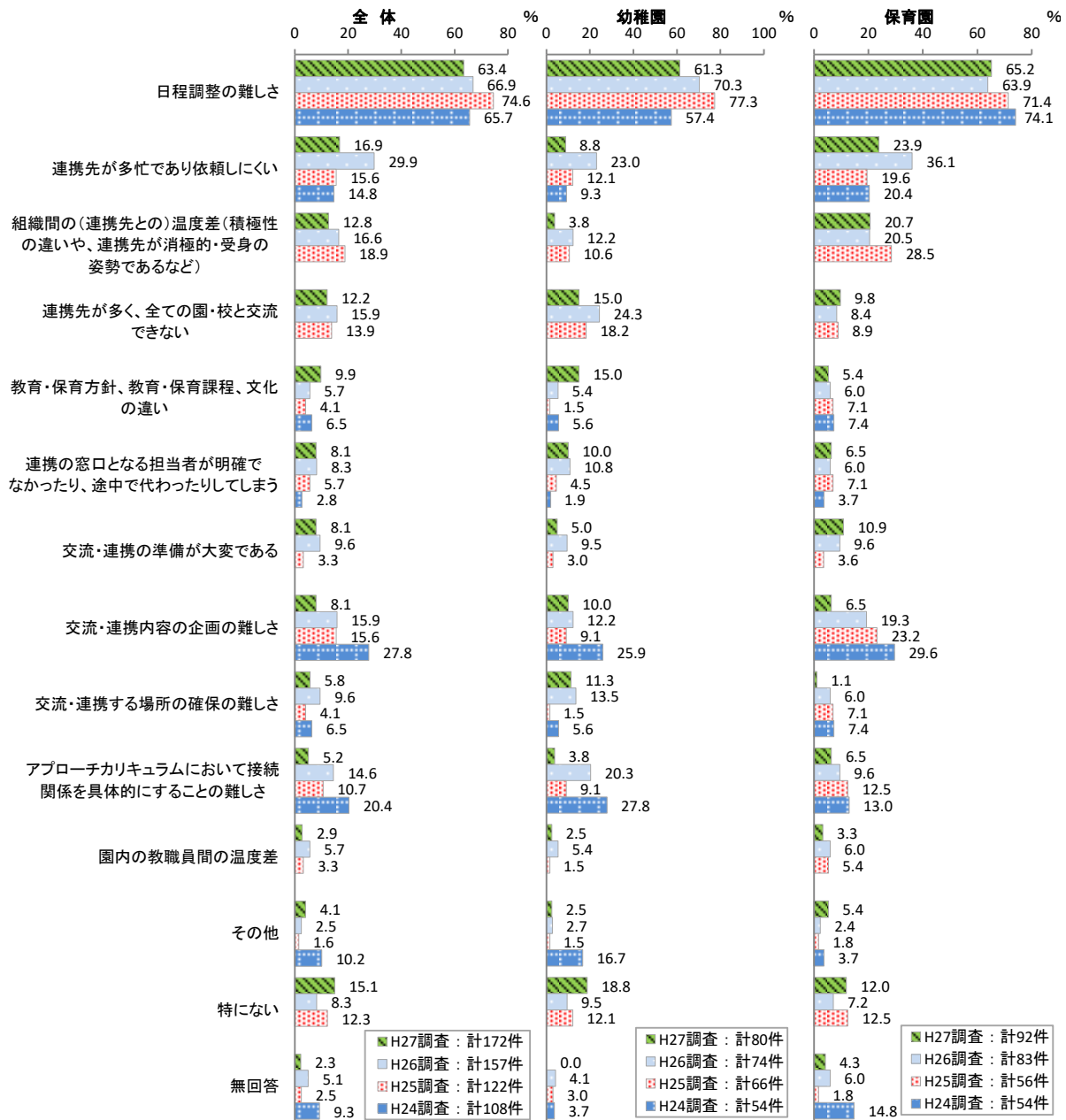
図 VI-19 交流・連携の課題となる点



【平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると全体では、「日程調整の難しさ」の割合が、依然として高い水準であるものの、平成25年度から平成27年度にかけて減少傾向となっています。また、「連携先が多忙であり依頼しにくい」の割合が平成27年度は平成26年度から13.0ポイント減少しています。

図Ⅵ-20 交流・連携の課題となる点
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は、「連携先が多く、全ての園・校と交流できない」、「交流・連携の準備が大変である」、「特になし」の項目なし。

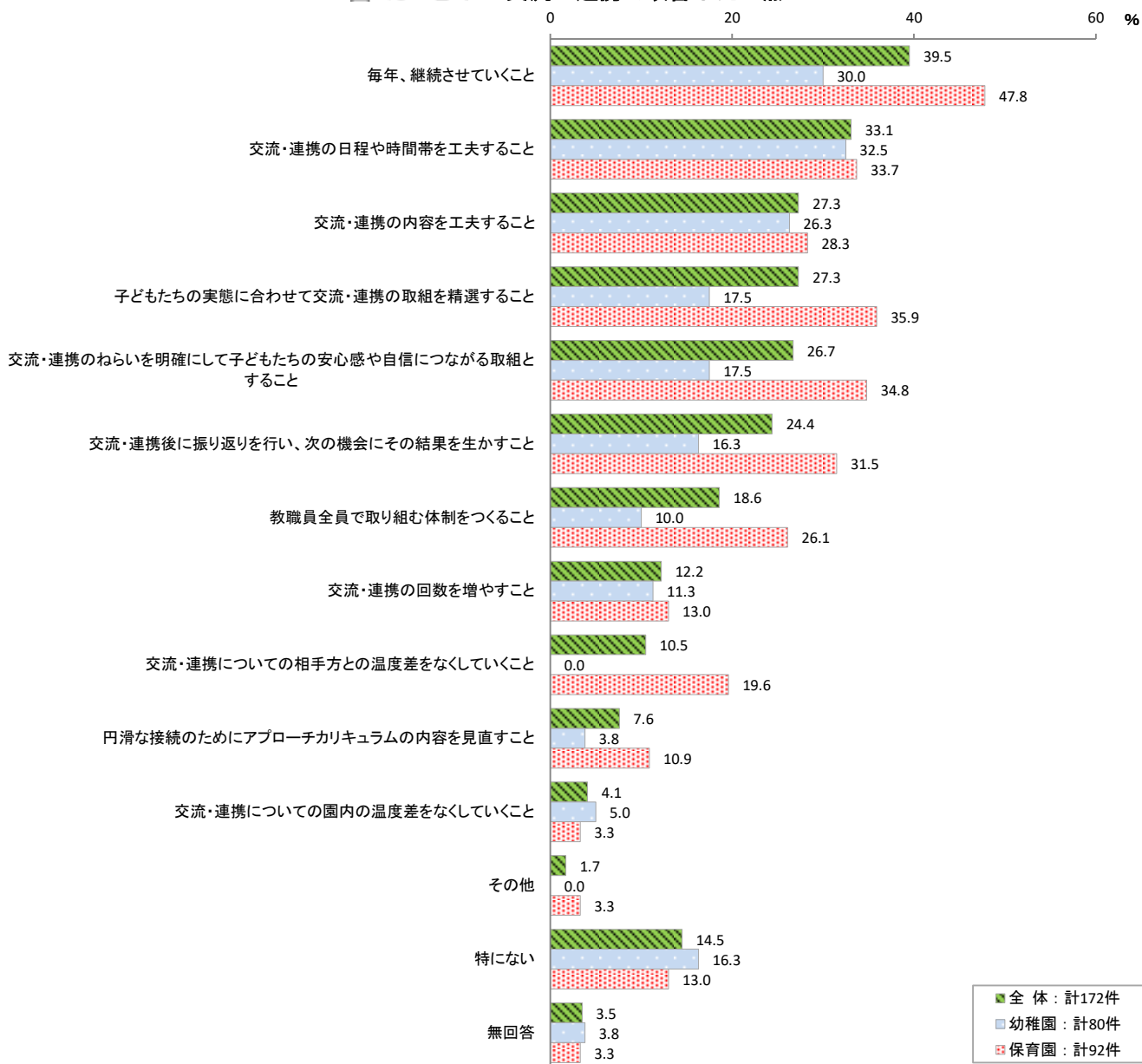
「組織間の(連携先との)温度差(積極性の違いや、連携先が消極的・受身の姿勢であるなど)」は、平成25年度調査の「組織間の温度差」と「連携先が消極的・受身の姿勢である」を合わせた値と比較している。平成24年度調査の「組織・教職員間の温度差」とは、内容が一部異なるため、比較していない。

(10) 交流・連携で改善したい点

問 10 **問 1 で「はい」と答えた教職員が回答** 交流・連携の実施にあたって改善したい点は何ですか。
(あてはまるものを全てに○)

全体では、「毎年、継続させていくこと」の割合が 39.5%と最も高く、次いで「交流・連携の日程や時間帯を工夫すること」の割合が 33.1%、「交流・連携の内容を工夫すること」、「子どもたちの実態に合わせて交流・連携の取組を精選すること」の割合がそれぞれ 27.3%となっています。

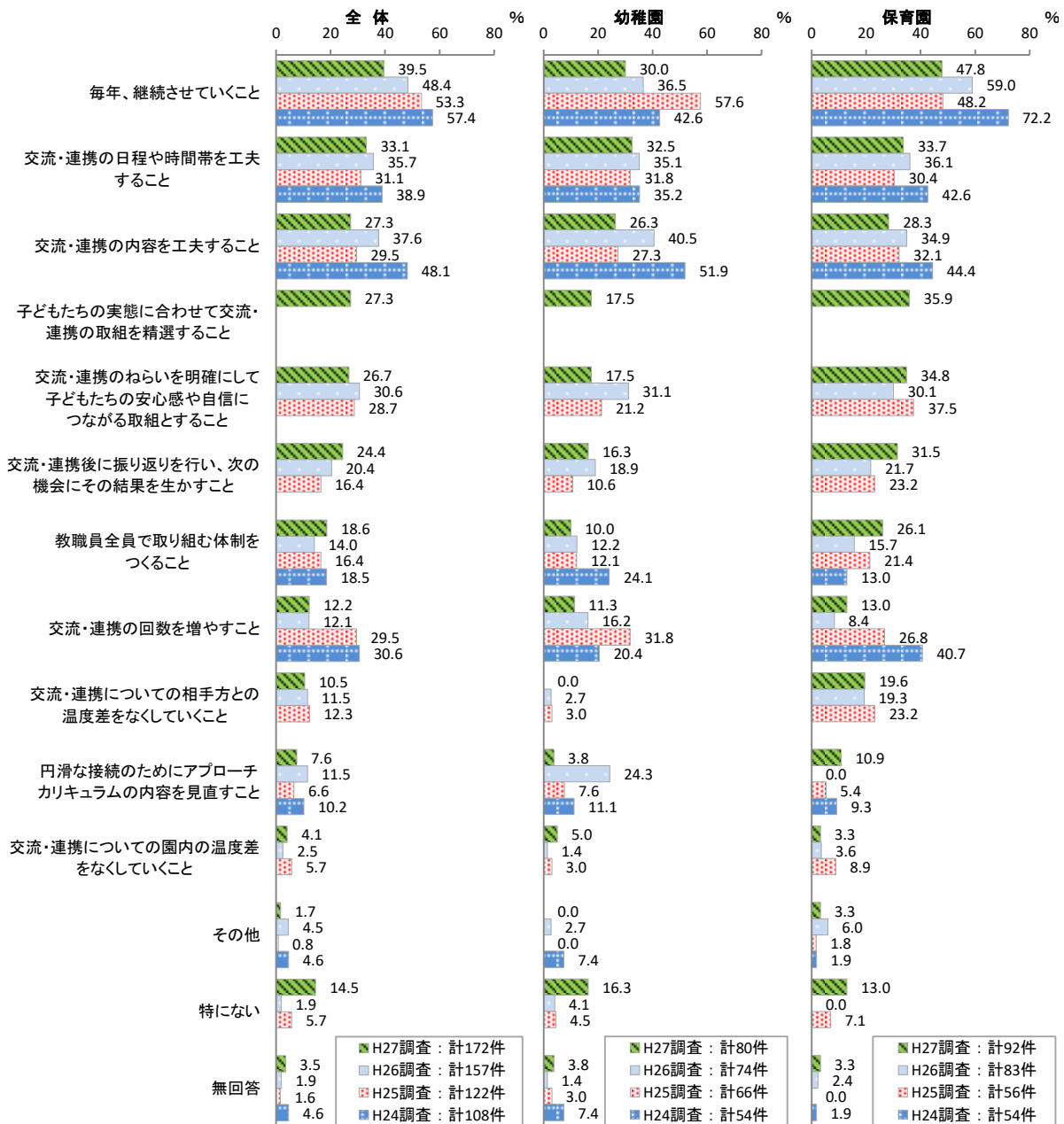
図 VI-21 交流・連携で改善したい点



【平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると全体では、「毎年、継続させていくこと」の割合が減少傾向となっています。
幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。

図 VI-22 交流・連携で改善したい点
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



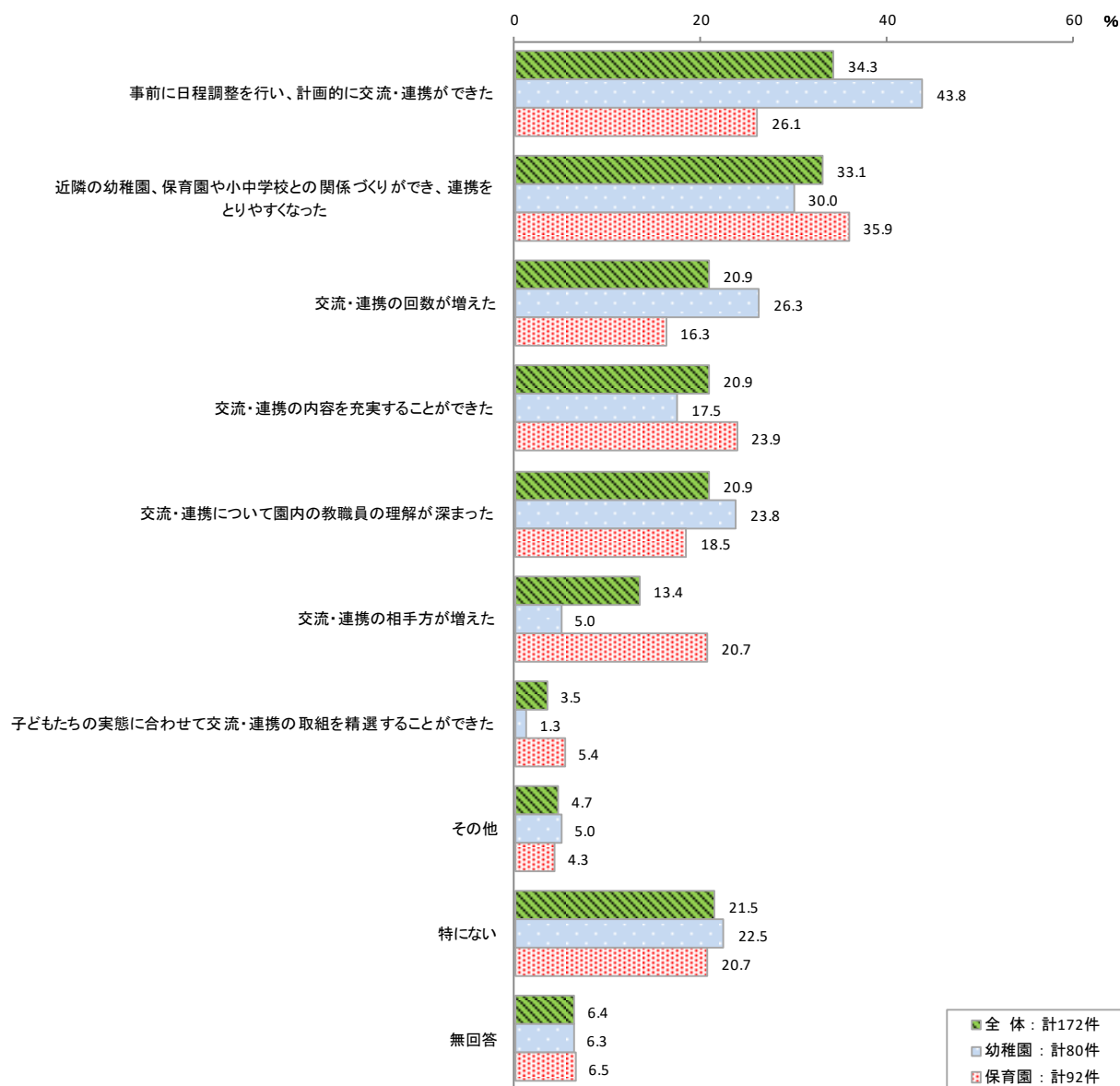
※ 平成26年度調査以前は、「子どもたちの実態に合わせて交流・連携の取組を精選すること」の項目なし。
平成24年度調査は、「交流・連携のねらいを明確にして子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること」、「交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を生かすこと」、「交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと」、「交流・連携についての園内の温度差をなくしていくこと」、「特にない」の項目なし。

(11) 他園・校との交流・連携について改善されたこと

問 11 問 1 で「はい」と答えた教職員が回答 あなたの園において、平成 26 年度当初と現在を比べて、他園・校との交流・連携について改善されたことはありますか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた」の割合が 34.3%と最も高く、次いで「近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった」の割合が 33.1%、「交流・連携の回数が増えた」、「交流・連携の内容を充実することができた」、「交流・連携について園内の教職員の理解が深まった」の割合がそれぞれ 20.9%となっています。

図 VI-23 他園・校との交流・連携について改善されたこと

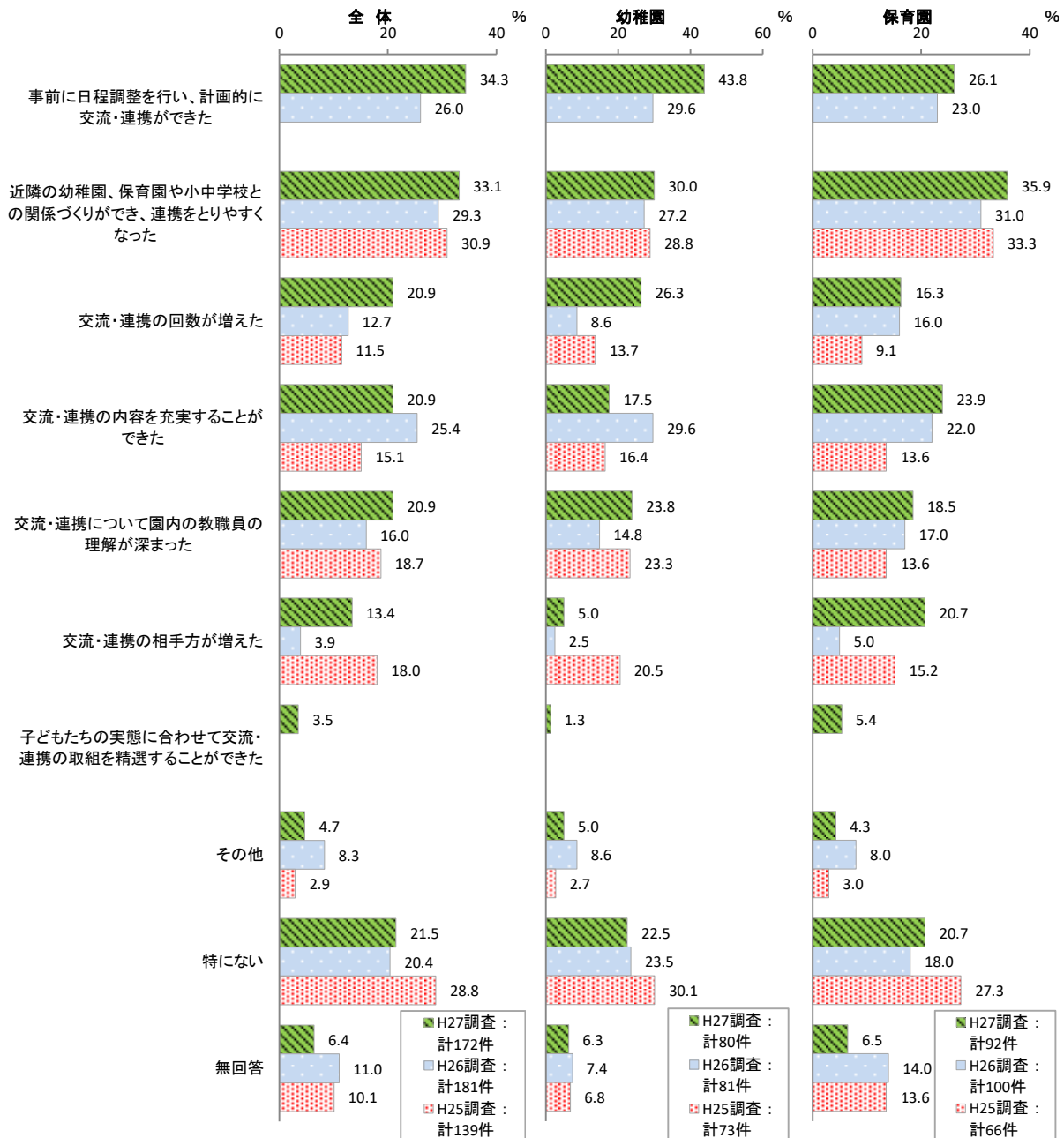


【平成27年度・平成26年度・平成25年度の調査結果の比較】

経年変化をみると全体では、「事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた」の割合が増加傾向となっています。

幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。

図 VI-24 他園・校との交流・連携について改善されたこと
(平成27年度・平成26年度・平成25年度の調査結果の比較)

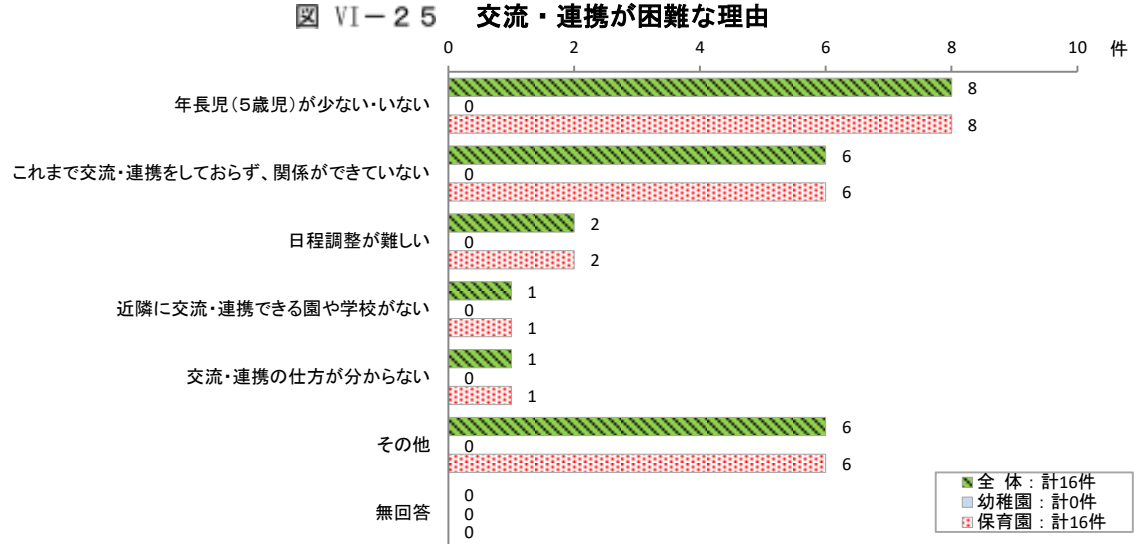


※ 平成26年度調査以前は、「子どもたちの実態に合わせて交流・連携の取組を精選することができた」の項目なし。平成25年度調査は、「事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた」の項目なし。

(12) 交流・連携が困難な理由

問 12 問 1 で「いいえ」と答えた教職員が回答 交流・連携の実施が困難な理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

「年長児（5歳児）が少ない・いない」の件数が8件と最も多くなっています。



【平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】
経年変化をみると「日程調整が難しい」の件数が、減少傾向となっています。

表 VI-3 交流・連携が困難な理由
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

単位：件

		近隣に交流・連携できる園や学校がない	日程調整が難しい	交流・連携の仕方が分からない	これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない	年長児（5歳児）が少ない・いない	その他	無回答
全体	H27 調査：計16件	1	2	1	6	8	6	0
	H26 調査：計23件	2	9	3	9	7	4	2
	H25 調査：計13件	0	8	1	7	-	4	0
	H24 調査：計42件	2	23	5	23	-	12	0
幼稚園	H27 調査：計0件	0	0	0	0	0	0	0
	H26 調査：計7件	0	3	0	4	0	0	1
	H25 調査：計3件	0	2	0	3	-	0	0
	H24 調査：計17件	0	9	3	9	-	6	0
保育園	H27 調査：計16件	1	2	1	6	8	6	0
	H26 調査：計16件	2	6	3	5	7	4	1
	H25 調査：計10件	0	6	1	4	-	4	0
	H24 調査：計25件	2	14	2	14	-	6	0

※ 平成25年度調査以前は、「年長児（5歳児）が少ない・いない」の項目なし。

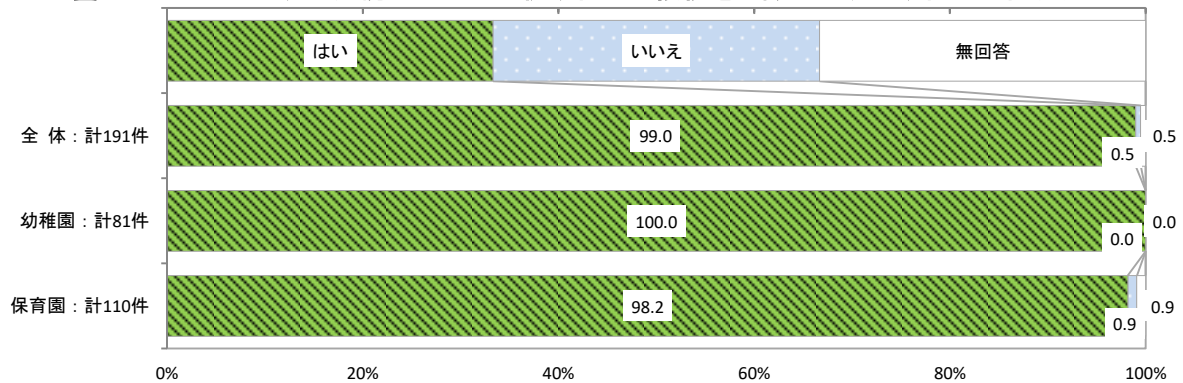
3 就学に向けた取組について

(1) 交流・連携以外に小学校教育への接続を意識した幼児教育の取組状況

問 13 あなたの園では、他の幼稚園・保育園・認定子ども園・小学校・中学校との交流・連携以外に、小学校教育への接続を意識した幼児期の教育を行っていますか。(〇は1つだけ)

全体では、「はい」の割合が 99.0%、「いいえ」の割合が 0.5%となっています。
幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「はい」の割合が 100.0%となっています。

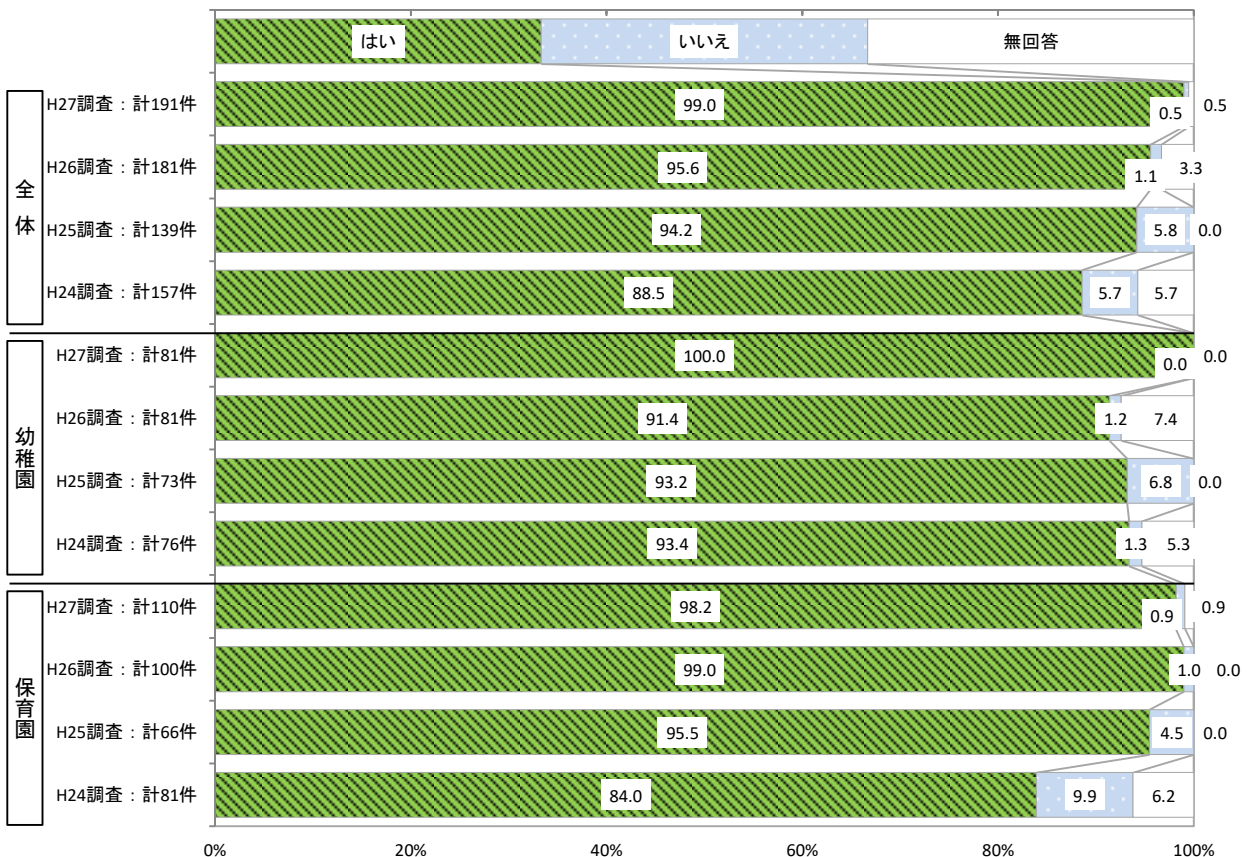
図 VI-26 交流・連携以外に小学校教育への接続を意識した幼児教育の取組状況



【平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると全体では、「はい」の割合が増加傾向となっています。

図 VI-27 交流・連携以外に小学校教育への接続を意識した幼児教育の取組状況
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 「はい」、「いいえ」は、平成26年度調査以前の「行っている」、「行っていない」の項目と比較している。

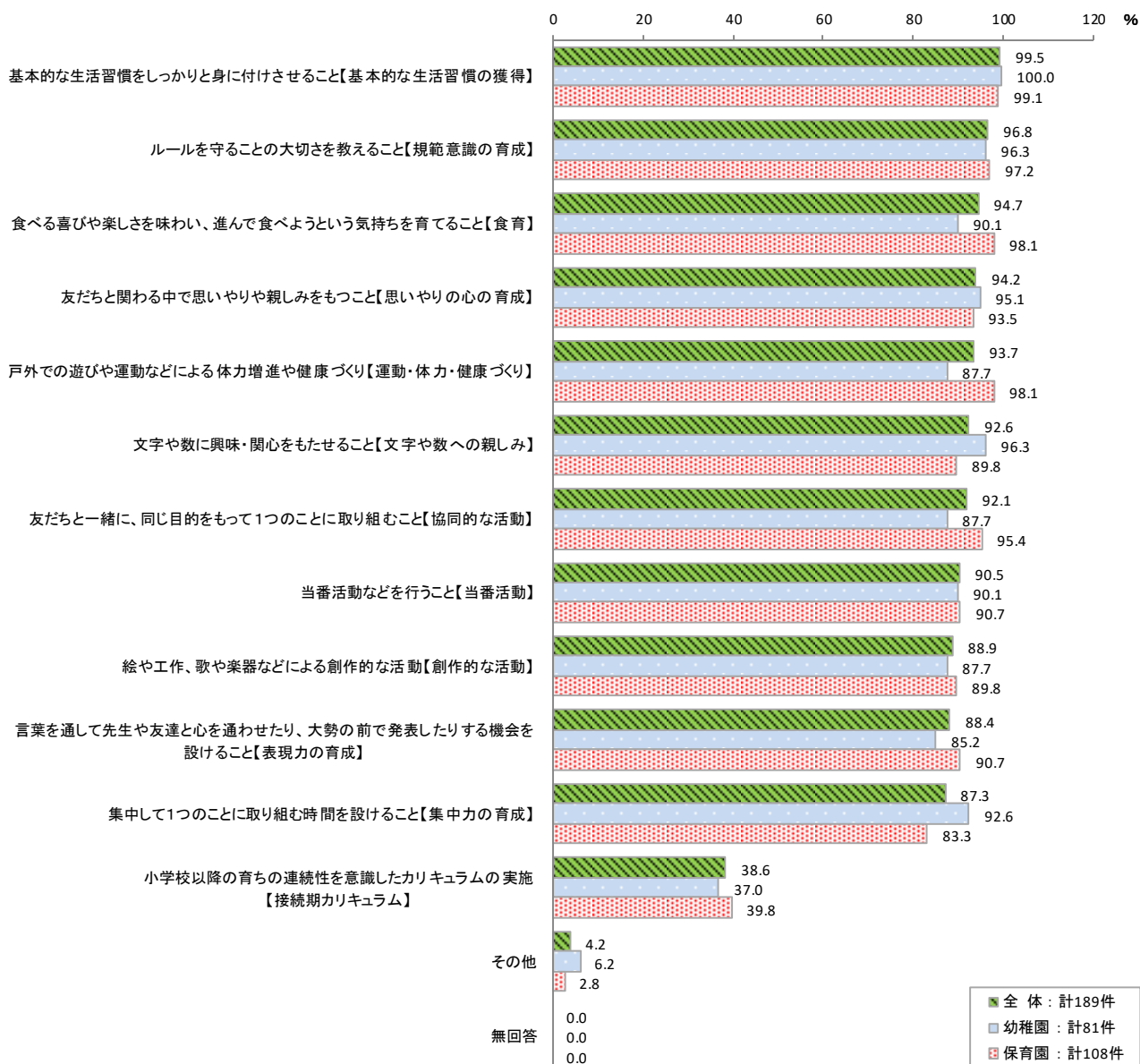
(2) 小学校教育への接続を意識して行っている幼児教育

問 14 問 13 で「はい」と答えた教職員が回答 小学校教育への接続を意識した幼児期の教育として、
どのようなことを行っていますか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせること【基本的な生活習慣の獲得】」の割合が 99.5%と最も高く、次いで「ルールを守ることの大切さを教えること【規範意識の育成】」の割合が 96.8%、「食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようという気持ちを育てること【食育】」の割合が 94.7%となっています。また、その他の項目についても割合は 90%前後となっています。

幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。

図 VI-28 小学校教育への接続を意識して行っている幼児教育

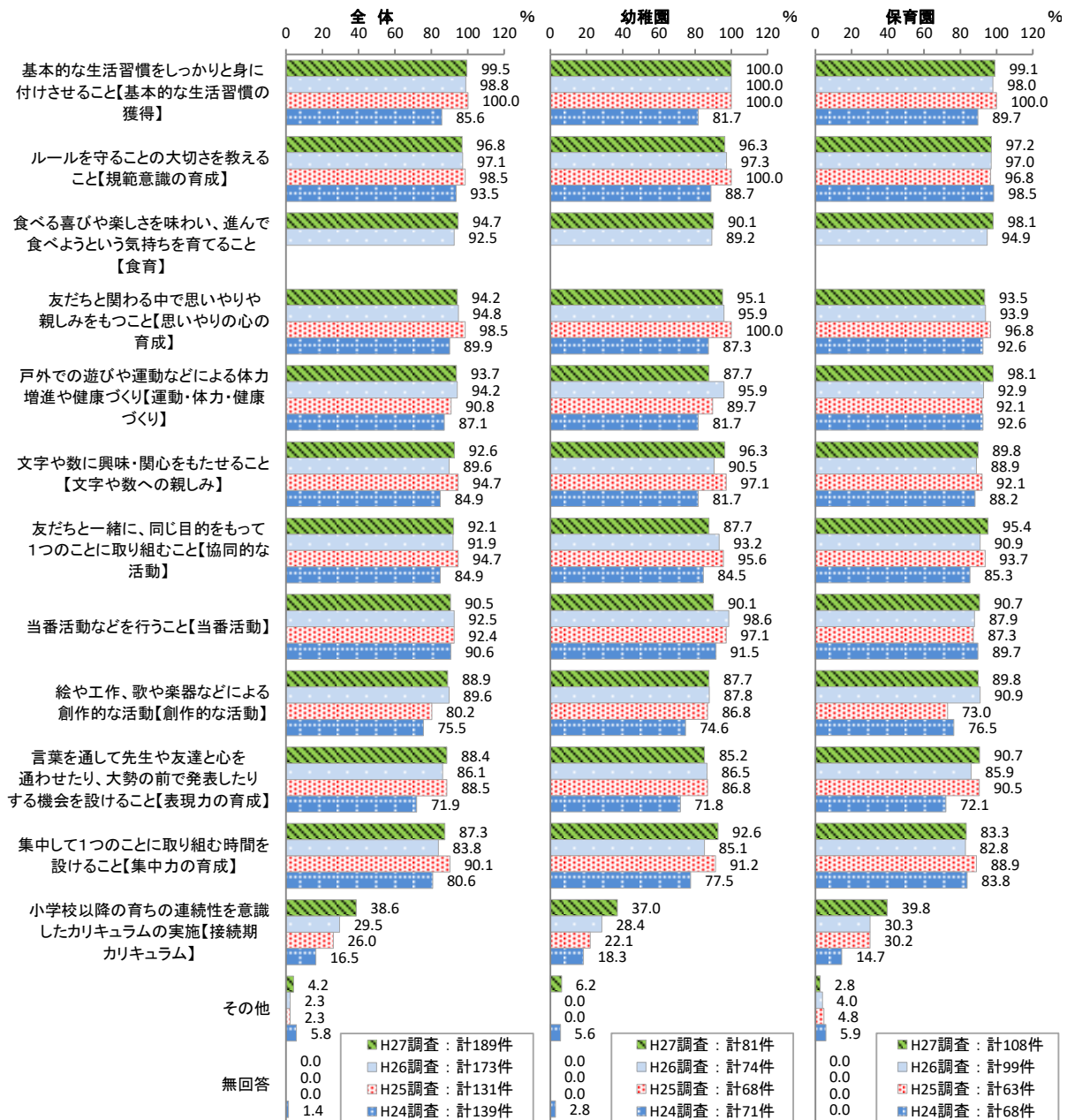


【平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると全体では、「小学校以降の育ちの連続性を意識したカリキュラムの実施【接続期カリキュラム】」の割合が、依然として低い水準であるものの、増加傾向となっています。

幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。

図 VI-29 小学校教育への接続を意識して行っている幼児教育
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



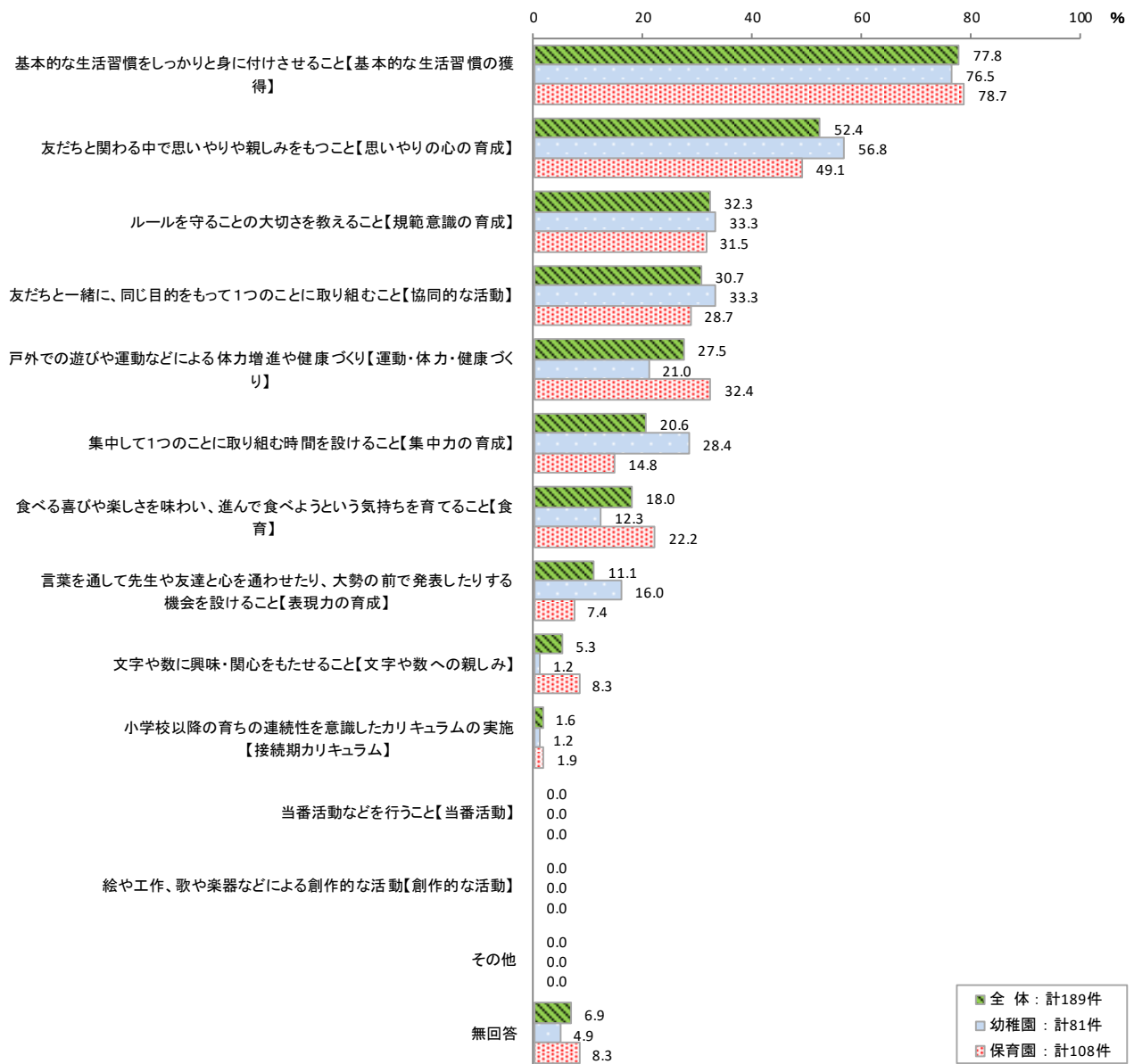
※ 「言葉を通して先生や友達と心を通わせたり、大勢の前で発表したりする機会を設けること【表現力の育成】」は、平成26年度調査以前の「大勢の前で発表する機会を設けること【表現力の育成】」と比較している。平成25年度調査以前は「食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようという気持ちを育てること【食育】」の項目なし。

(3) 重要な小学校教育への接続を意識した幼児教育

問 15 問 13 で「はい」と答えた教職員が回答 問 14 の「小学校教育への接続を意識した幼児期の教育」についての回答の中で、特に重要だと考えるものはどれですか。問 14 の選択肢の番号で 3 つまでお答えください。

全体では、「基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせること【基本的な生活習慣の獲得】」の割合が 77.8%と最も高く、次いで「友だちと関わる中で思いやりや親しみをもつこと【思いやりの心の育成】」の割合が 52.4%、「ルールを守ることの大切さを教えること【規範意識の育成】」の割合が 32.3%となっています。

図 VI-30 重要な小学校教育への接続を意識した幼児教育



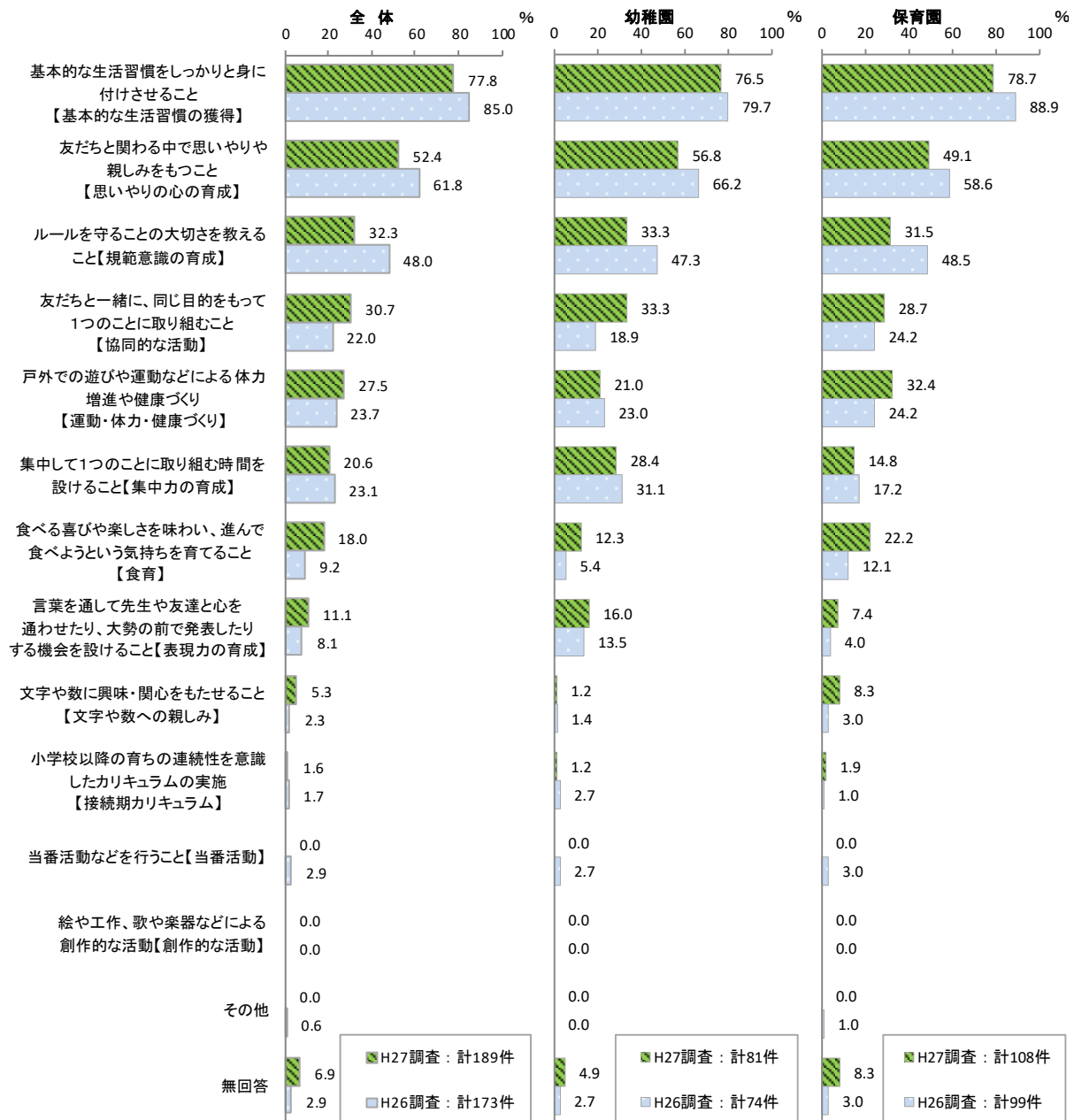
※ 問 15 は 3 つより多い回答が多数のため、複数回答として集計した。

【平成27年度・平成26年度の調査結果の比較】

経年変化をみると全体では、「ルールを守ることの大切さを教えること【規範意識の育成】」の割合が平成27年度は平成26年度より15.7ポイント減少しています。

幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。

図Ⅵ-31 重要な小学校教育への接続を意識した幼児教育
(平成27年度・平成26年度の調査結果の比較)



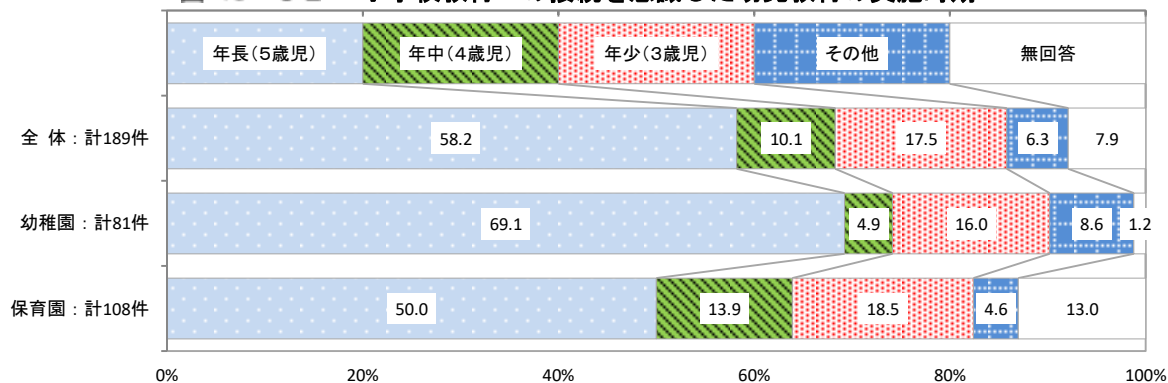
※ 「言葉を通して先生や友達と心を通わせたり、大勢の前で発表したりする機会を設けること【表現力の育成】」は、平成26年度調査の「大勢の前で発表する機会を設けること【表現力の育成】」と比較している。

(4) 小学校教育への接続を意識した幼児教育の実施時期

問 16 問 13 で「はい」と答えた教職員が回答 小学校教育への接続を意識した幼児期の教育を、いつ頃から行っていますか。(〇は1つだけ、何月頃から行っているかを記入)

全体では、「年長（5歳児）」の割合が 58.2%と最も高く、次いで「年少（3歳児）」の割合が 17.5%、「年中（4歳児）」の割合が 10.1%となっています。

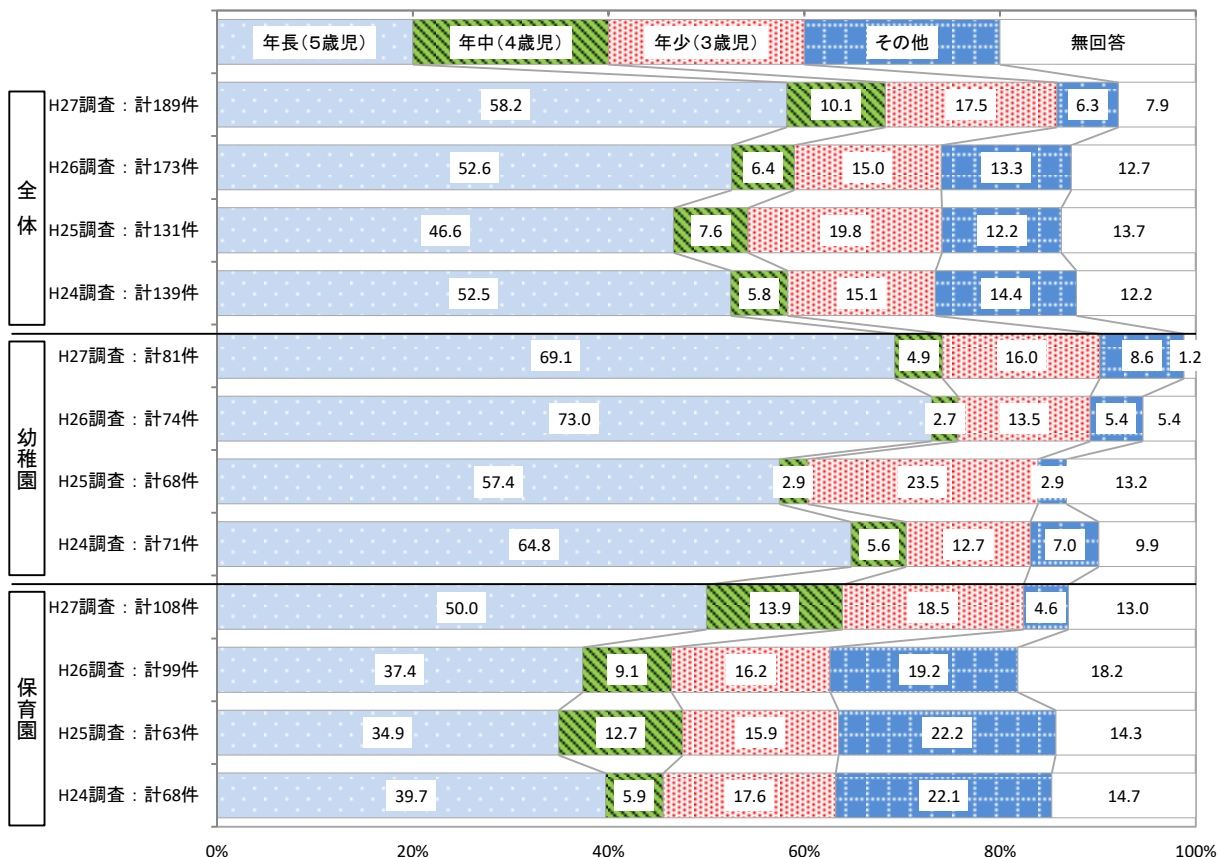
図 VI-32 小学校教育への接続を意識した幼児教育の実施時期



【平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると全体で、「年長（5歳児）」の割合が増加傾向となっています。

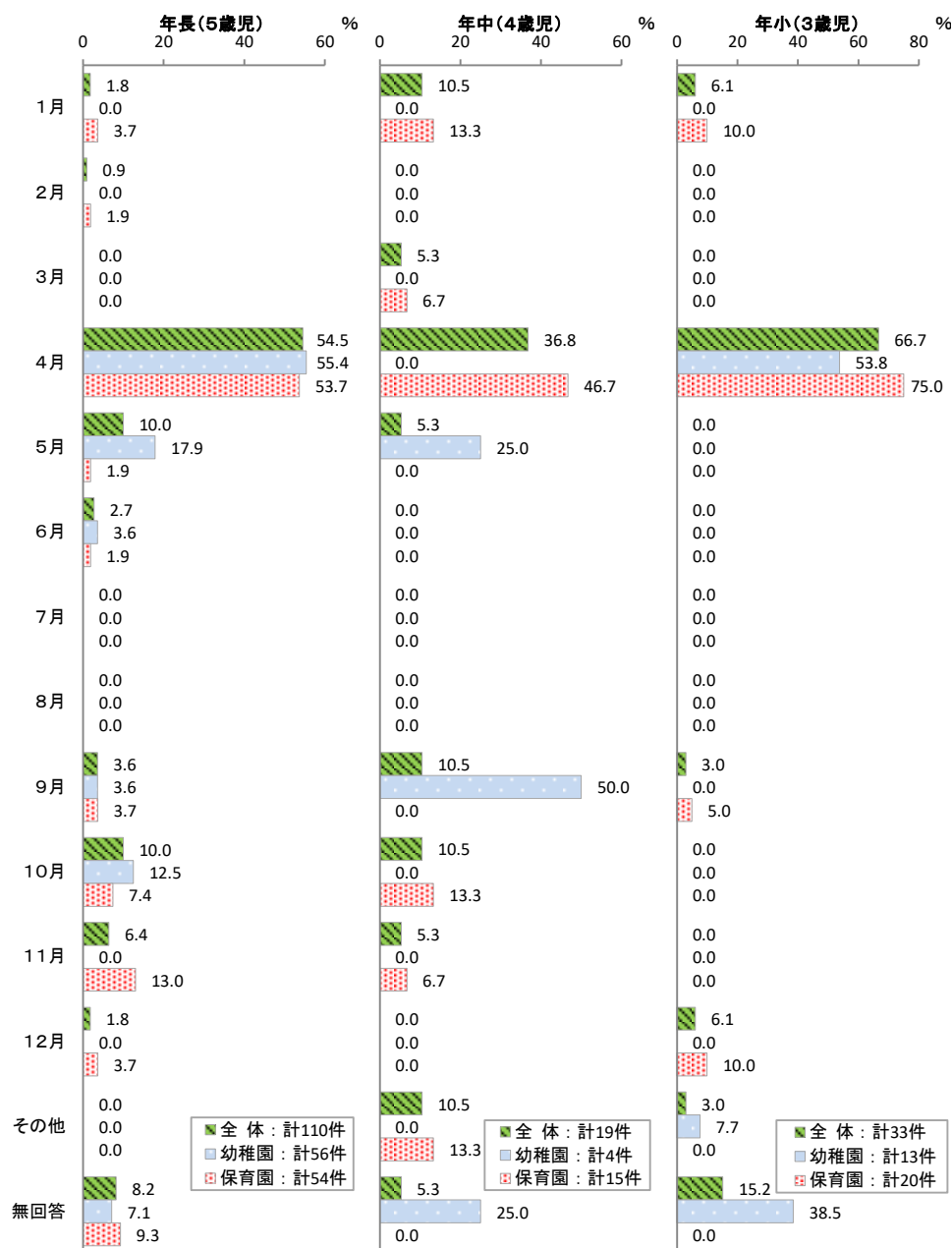
図 VI-33 小学校教育への接続を意識した幼児教育の実施時期
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



【学年ごとの実施時期】

学年ごとの実施時期の割合は以下のとおりです。

図 VI-34 小学校教育への接続を意識した幼児教育の実施時期
(学年ごとの実施時期)

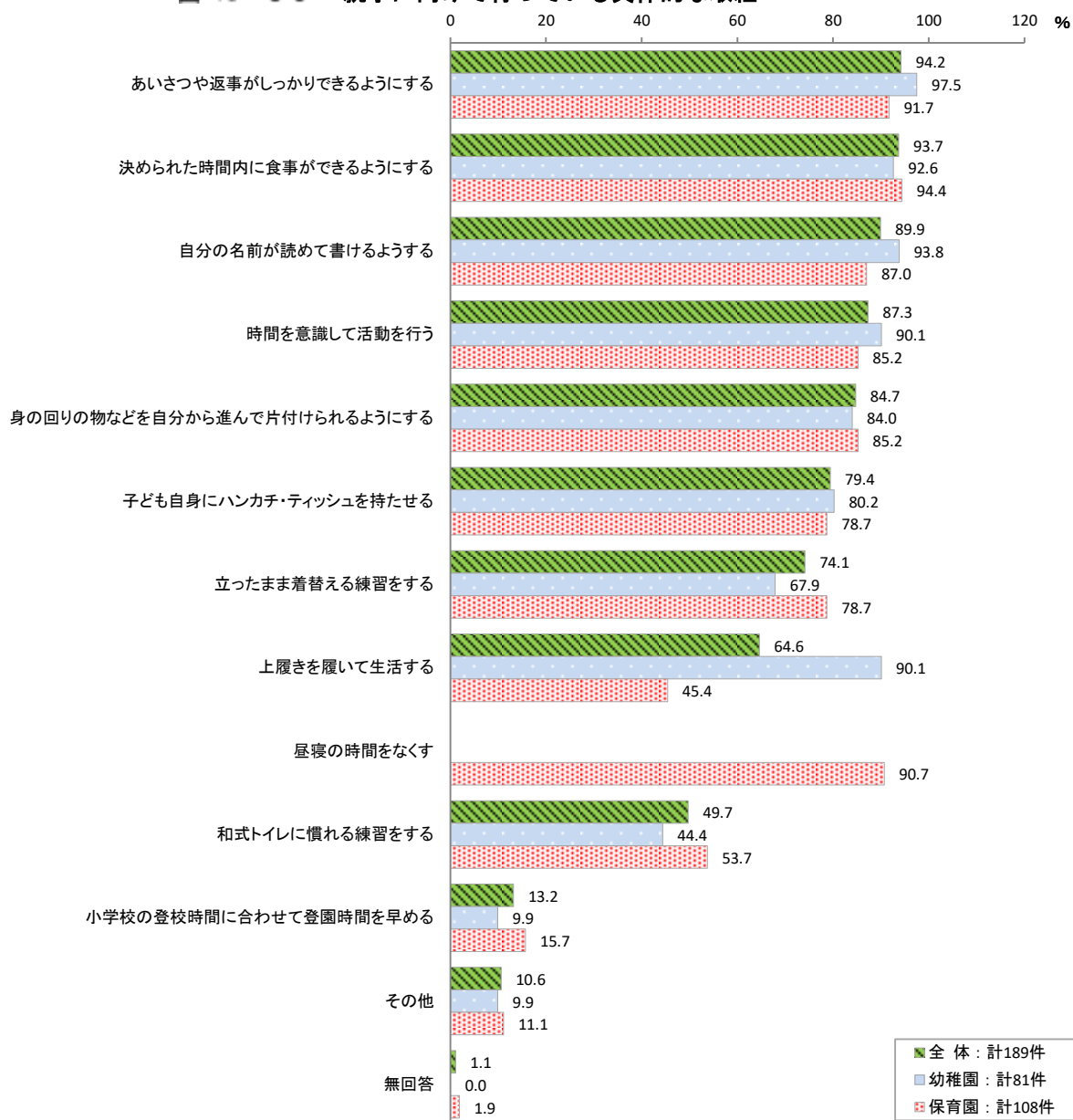


（５）就学に向けて行っている具体的な取組

問 17 問 13 で「はい」と答えた教職員が回答 あなたの園では、就学に向けた具体的な取組として、どのようなことを行っていますか。（あてはまるもの全てに○、開始時期（年長・５歳児、年中・４歳児、年少・３歳児）の何月頃から行っているかを記入）

全体では、「あいさつや返事がしっかりできるようにする」の割合が 94.2%と最も高く、次いで「決められた時間内に食事ができるようにする」の割合が 93.7%、「自分の名前が読めて書けるようする」の割合が 89.9%となっています。

図 VI-35 就学に向けて行っている具体的な取組



※ 幼稚園は昼寝の時間を設定していない園が多いので、幼稚園の「昼寝の時間をなくす」は、集計から除外している。

【開始時期】

それぞれの取組の開始時期は以下のとおりです。なお、「年少（3歳児）」、「年中（4歳児）」、「年長（5歳児）」以外の回答データは省略しているため、各項目の件数の合計が、図VI-34及び図VI-35における件数より少なくなる場合があります。

表 VI-4 就学に向けて行っている具体的な取組（開始時期）
【年少（3歳児）】

単位：件

年少（3歳児）	小学校の登校時間に合わせて登園時間を早める			昼寝の時間をなくす			子ども自身にハンカチ・ティッシュを持たせる			上履きを履いて生活する			立ったまま着替える練習をする			和式トイレに慣れる練習をする			自分の名前が読めて書けるように練習する			決められた時間内に食事ができるようにする			あいさつや返事がしつかりできるようにする			時間を意識して活動を行う			身の回りの物などを自分から進んで片付けられるようにする		
	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園			
4月	6	1	5	-	-	4	50	46	4	72	61	11	26	13	13	8	7	1	2	2	0	31	14	17	64	39	25	14	4	10	25	12	13
5月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
6月	0	0	0	-	-	0	4	4	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	6	1	5	2	0	2	4	1	3	0	0	0
7月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	7	7	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	4	4	0	0	0	0	1	1	0	4	1	3	6	6	0	0	0	0
10月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	3	0	3	0	0	0	3	0	3	1	0	1
11月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	-	-	0	1	1	0	1	1	0	2	0	2	2	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
2月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	-	-	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
その他	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	-	-	1	3	3	0	3	3	0	4	3	1	3	3	0	3	2	1	6	2	4	8	4	4	0	0	0	4	2	2
合計	6	1	5	-	-	5	59	55	4	77	66	11	43	23	20	25	22	3	6	5	1	50	19	31	78	44	34	28	12	16	32	16	16

表 VI-5 就学に向けて行っている具体的な取組（開始時期）
【年中（4歳児）】

単位：件

年中（4歳児）	小学校の登校時間に合わせて登園時間を早める			昼寝の時間をなくす			子ども自身にハンカチ・ティッシュを持たせる			上履きを履いて生活する			立ったまま着替える練習をする			和式トイレに慣れる練習をする			自分の名前が読めて書けるように練習する			決められた時間内に食事ができるようにする			あいさつや返事がしつかりできるようにする			時間を意識して活動を行う			身の回りの物などを自分から進んで片付けられるようにする		
	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園			
4月	0	0	0	-	-	1	0	0	0	1	0	1	16	4	12	16	5	11	6	4	2	20	6	14	12	5	7	30	9	21	10	5	5
5月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
6月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6	0	0	0	1	0	1	2	0	2
7月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	
8月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
9月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	9	0	9	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
10月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	4	0	4	1	0	1	0	0	0	0	0	3	1	2	8	7	1	
11月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
12月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	6	2	4	1	0	1	14	13	1	3	0	3	0	0	0	0	0	0	3	0	3
2月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	
3月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	-	-	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	3	1	2	2	1	1	4	1	3	1	0	1	5	1	4	1	0	1
合計	0	0	0	-	-	2	0	0	0	1	0	1	37	13	24	34	6	28	23	18	5	38	10	28	13	5	8	42	12	30	25	12	13

VI 幼稚園・保育園・認定こども園：教員・保育士

表 VI-6 就学に向けて行っている具体的な取組（開始時期）
【年長（5歳児）】

単位：件

年長（5歳児）	小学校の登校時間に合わせて 登園時間を早める			昼寝の時間をなくす			子ども自身にハンカチ・ ティッシュを持たせる			上履きを履いて生活する			立ったまま着替える練習を する			和式トイレに慣れる練習を する			自分の名前が読めて書ける ように練習する			決められた時間内に食事が できるようにする			あいさつや返事がしつかり できるようにする			時間を意識して活動を行う			身の回りの物などを自分から 進んで片付けられるように する		
	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園	全体	幼稚園	保育園
4月	9	0	9	-	-	2	7	2	5	4	1	3	36	10	26	10	1	9	55	37	18	46	26	20	45	15	30	55	27	28	76	28	48
5月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	1	1	0	1	1	0	9	5	4	0	0	0	9	7	2	1	1	0
6月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	1	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	11	7	4	4	4	0
7月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	5	5	0	-	-	0	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	4	2	2	0	1	0	1	2	0	2	4	0	4
10月	0	0	0	-	-	3	3	0	3	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	-	-	3	2	0	2	2	0	2	0	0	0	1	0	1	3	0	3	3	0	3	2	0	2	1	0	1	0	0	0
12月	0	0	0	-	-	6	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	0	0	0
1月	0	0	0	-	-	23	16	0	16	1	0	1	2	0	2	2	0	2	28	3	25	6	4	2	9	8	1	1	1	0	0	0	0
2月	0	0	0	-	-	33	26	0	26	11	0	11	0	0	0	3	0	3	16	0	16	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	-	-	14	15	0	15	9	0	9	0	0	0	0	0	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1	0	1	0	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0
無回答	3	2	1	-	-	1	5	0	5	2	0	2	3	1	2	2	2	0	10	4	6	6	2	4	3	0	3	3	2	1	3	1	2
合計	17	7	10	-	-	85	79	5	74	29	1	28	48	15	33	28	7	21	131	48	83	77	39	38	63	24	39	85	45	40	89	35	54

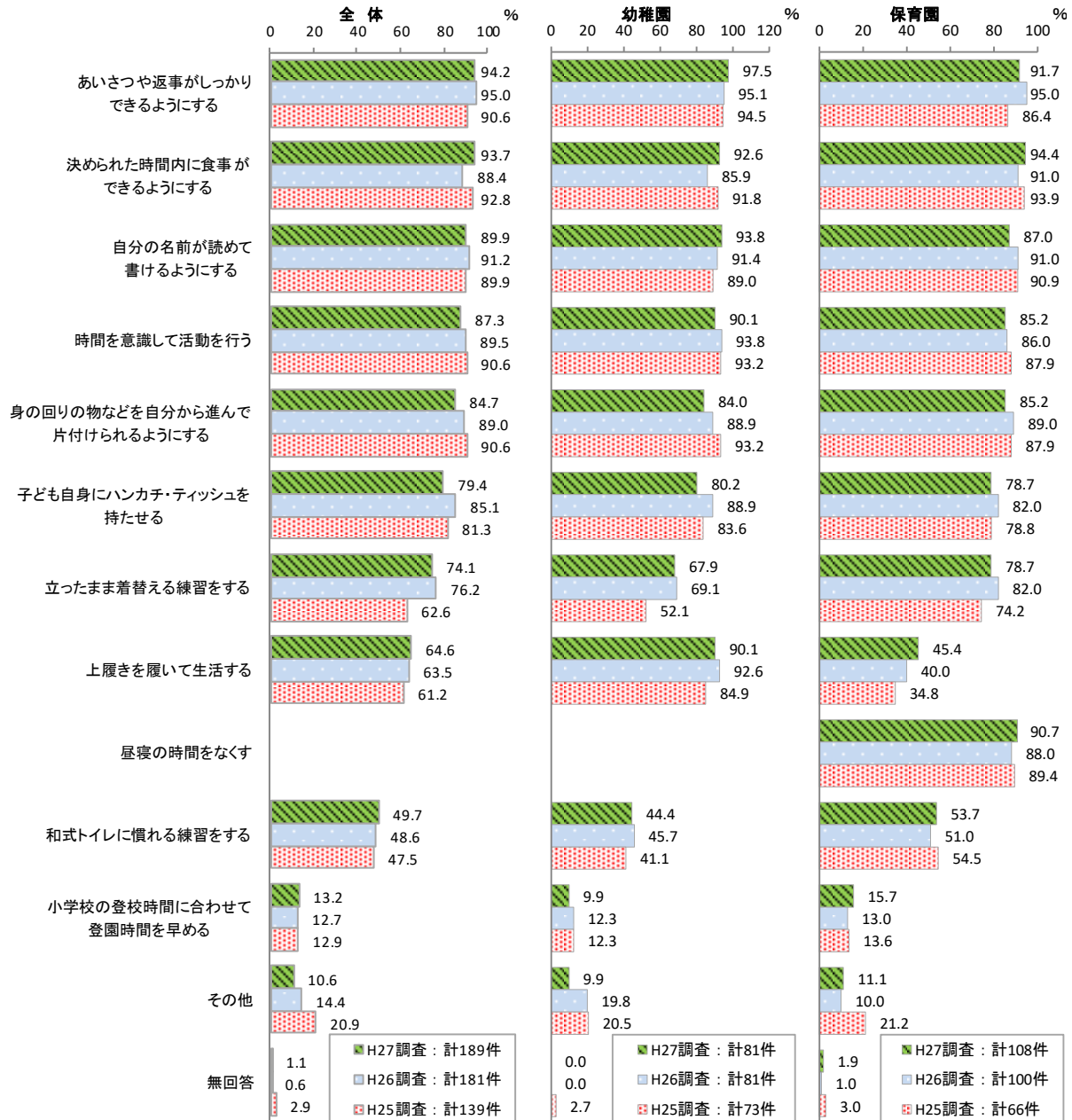
※ 幼稚園は昼寝の時間を設定していない園が多いので、幼稚園の「昼寝の時間をなくす」は、集計から除外している。

【平成27年度・平成26年度・平成25年度の調査結果の比較】

経年変化をみると全体では、すべての項目の割合が平成25年度から平成27年度にかけてほぼ横ばいとなっています。

幼稚園・保育園の別にみても、同様の傾向となっています。

図 VI-36 就学に向けて行っている具体的な取組
(平成27年度・平成26年度・平成25年度の調査結果の比較)



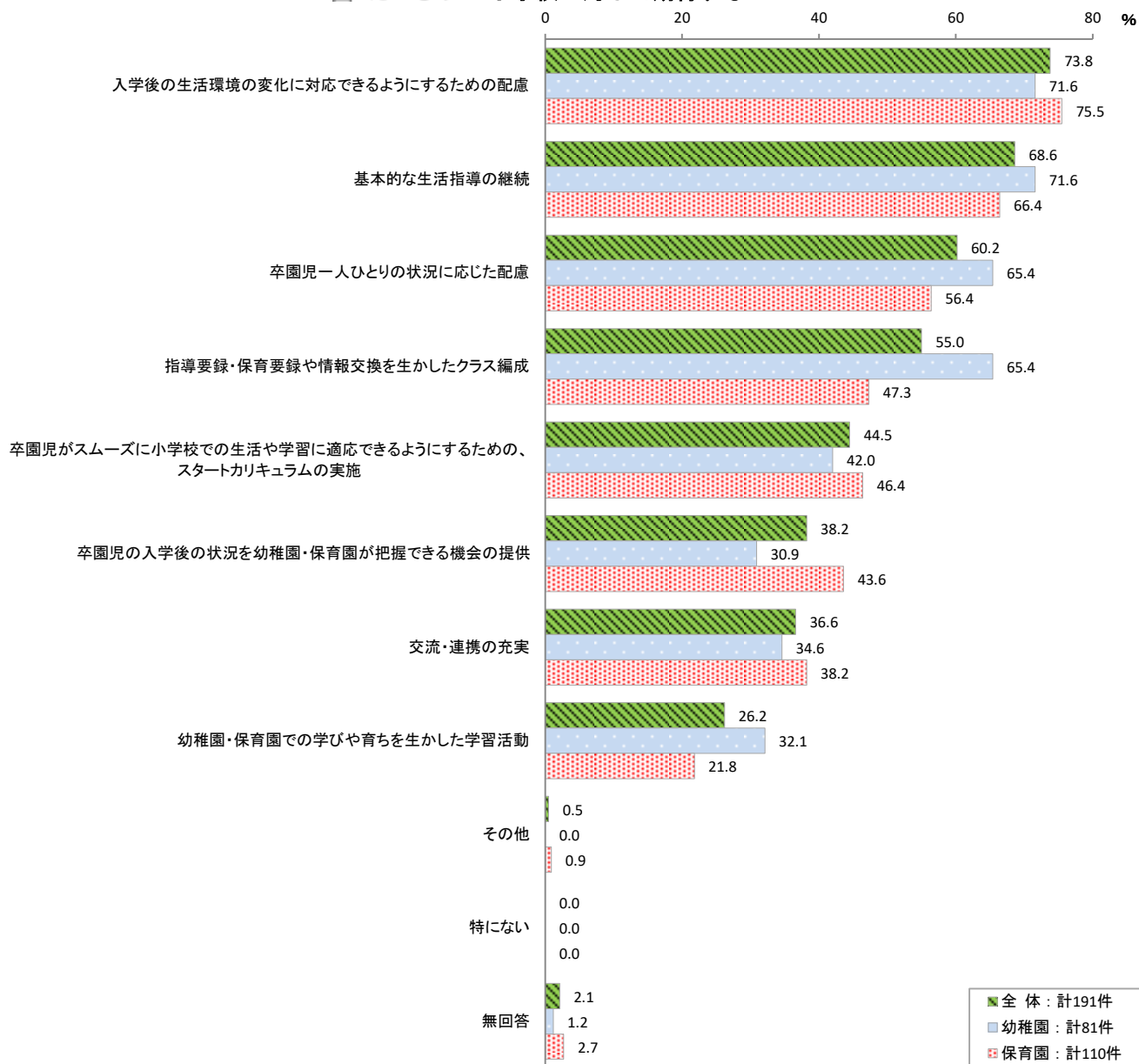
※ 幼稚園は昼寝の時間を設定していない園が多いので、幼稚園の「昼寝の時間をなくす」は、集計から除外している。

(6) 小学校に対して期待すること

問 18 卒園児が就学する小学校に対して、どのようなことを期待しますか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮」の割合が 73.8%と最も高く、次いで「基本的な生活指導の継続」の割合が 68.6%、「卒園児一人ひとりの状況に応じた配慮」の割合が 60.2%となっています。

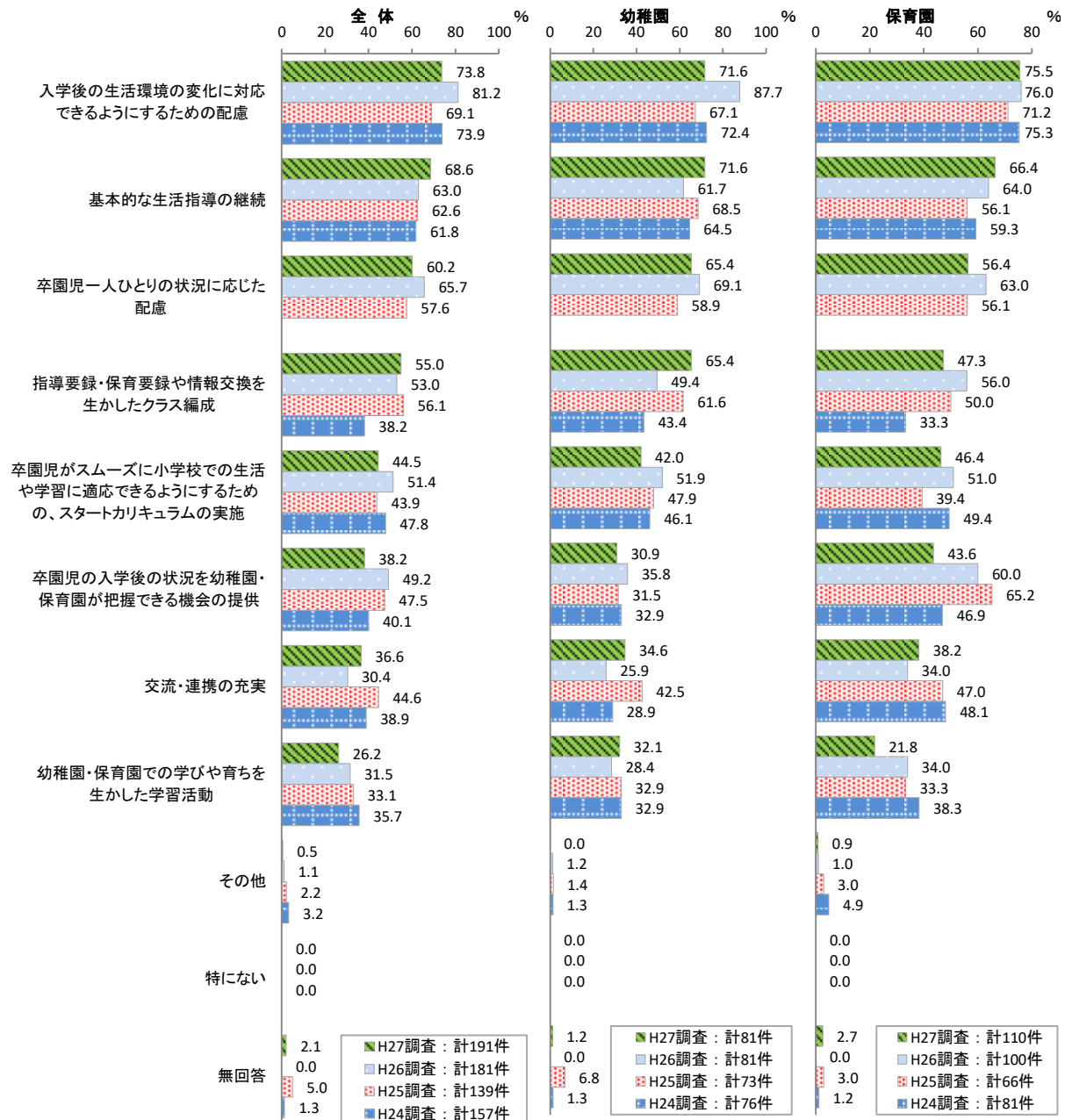
図 VI-37 小学校に対して期待すること



【平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮」の割合が平成27年度は平成26年度より16.1ポイント減少しています。一方、「指導要録・保育要録や情報交換を生かしたクラス編成」の割合が平成27年度は平成26年度より16.0ポイント増加しています。保育園では、「卒園児の入学後の状況を幼稚園・保育園が把握できる機会の提供」の割合が平成27年度は平成26年度より16.4ポイント減少しています。

図Ⅵ-38 小学校に対して期待すること
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は「卒園児一人ひとりの状況に応じた配慮」、「特にない」の項目なし。

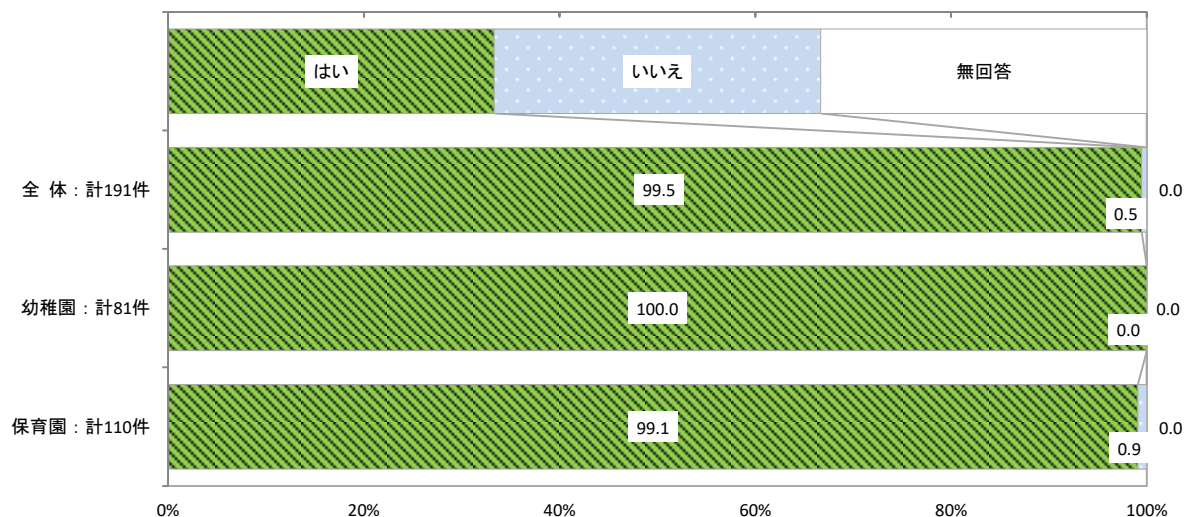
4 家庭教育への支援について

(1) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について

問 19 子どもたちの育ちを支えるために、家庭との連携や、家庭教育を支援する必要性を感じますか。
(○は1つだけ)

全体では、「はい」の割合が 99.5%、「いいえ」の割合が 0.5%となっています。

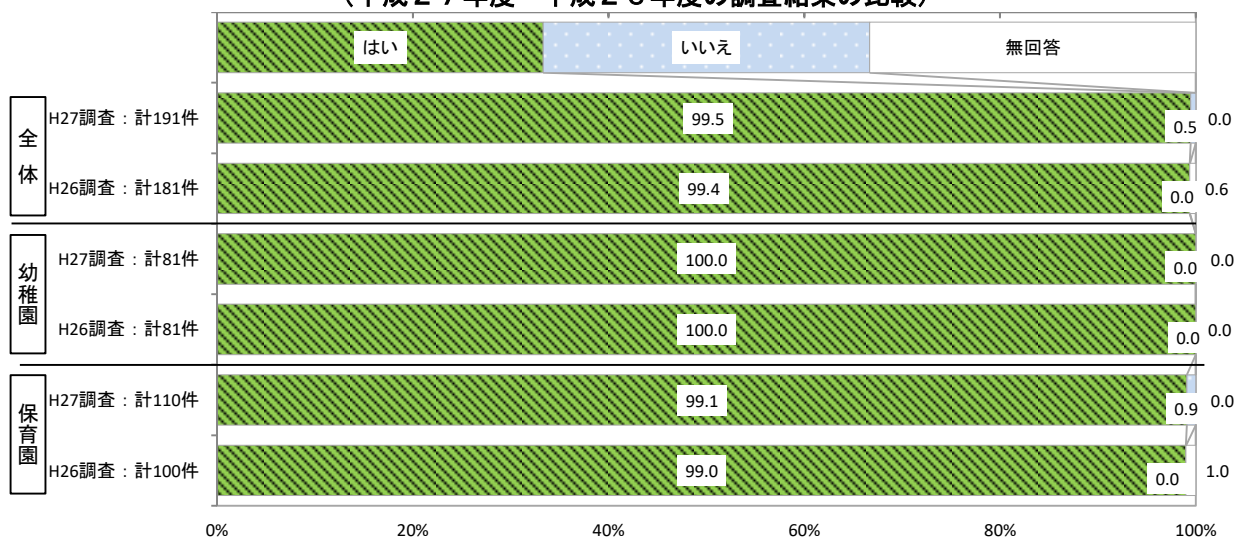
図 VI-39 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について



【平成27年度・平成26年度の調査結果の比較】

経年変化は特にみられません。

図 VI-40 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について
(平成27年度・平成26年度の調査結果の比較)

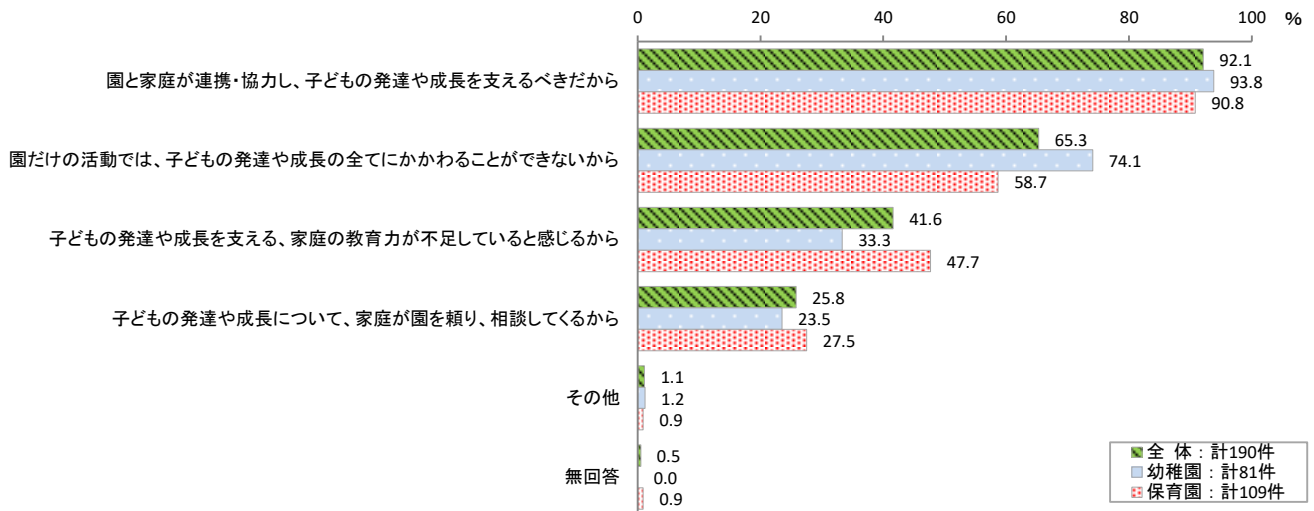


（２）家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由

問 20 問 19 で「はい」と答えた教職員が回答 家庭との連携や家庭教育を支援する必要性を感じる理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

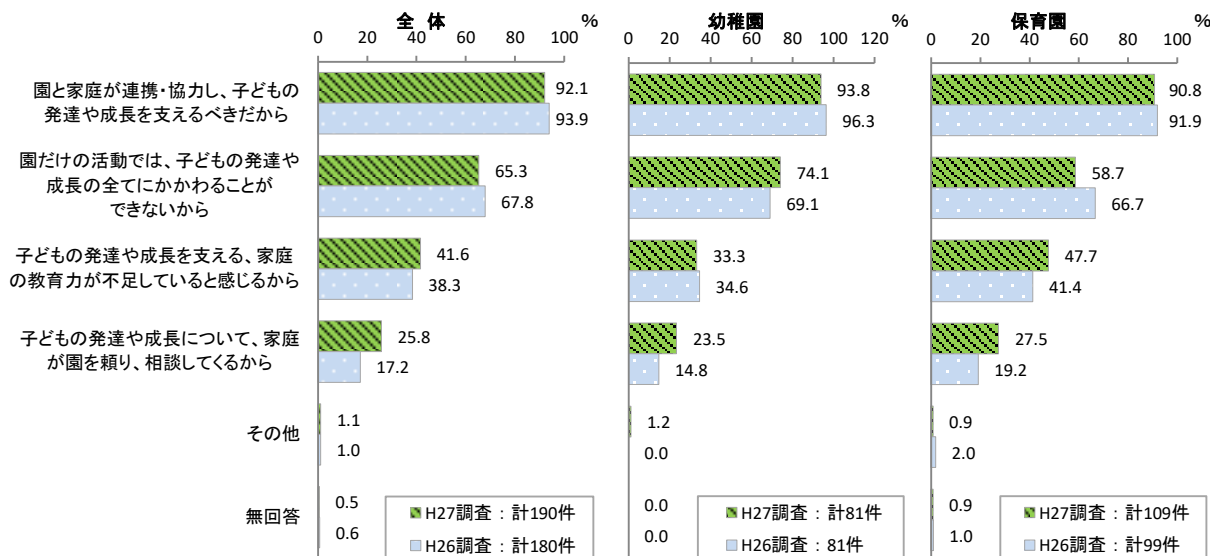
全体では、「園と家庭が連携・協力し、子どもの発達や成長を支えるべきだから」の割合が 92.1%と最も高く、次いで「園だけの活動では、子どもの発達や成長の全てにかかわることができないから」の割合が 65.3%、「子どもの発達や成長を支える、家庭の教育力が不足していると感じるから」の割合が 41.6%となっています。

図 VI-4 1 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由



【平成 27 年度・平成 26 年度の調査結果の比較】
経年変化は特にみられません。

図 VI-4 2 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由
(平成 27 年度・平成 26 年度の調査結果の比較)

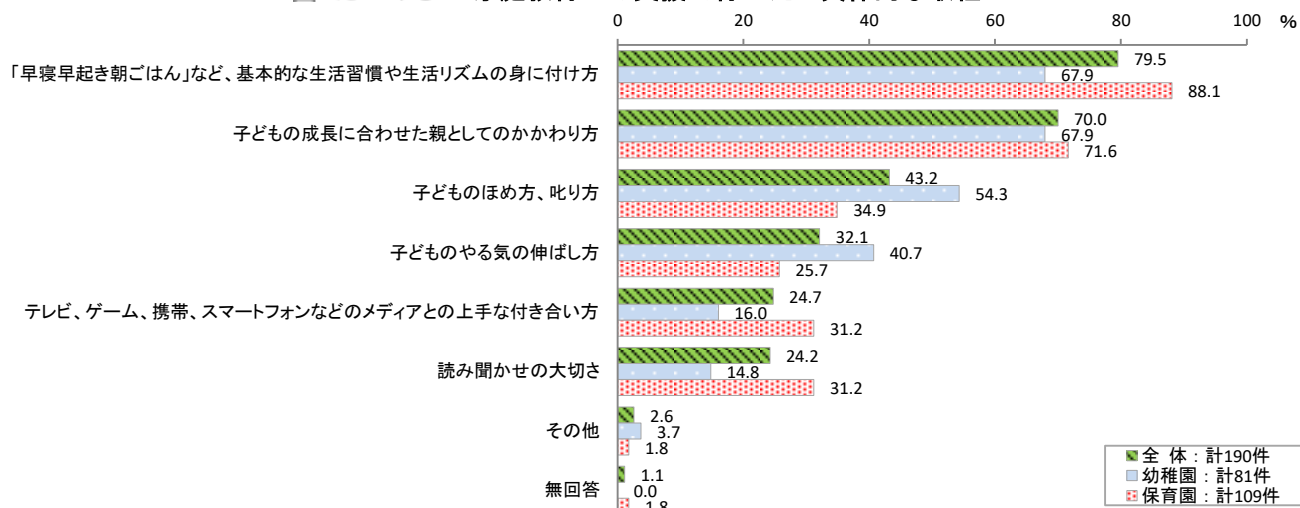


(3) 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組

問 21 問 19 で「はい」と答えた教職員が回答 家庭教育への支援を行う場合、具体的に、特に、どのような内容について、保護者に対し支援を行いたいですか。(〇は3つまで)

全体では、「早寝早起き朝ごはん」など、基本的な生活習慣や生活リズムの身に付け方」の割合が 79.5%と最も高く、次いで「子どもの成長に合わせた親としてのかかわり方」の割合が 70.0%、「子どものほめ方、叱り方」の割合が 43.2%となっています。

図 VI-43 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組

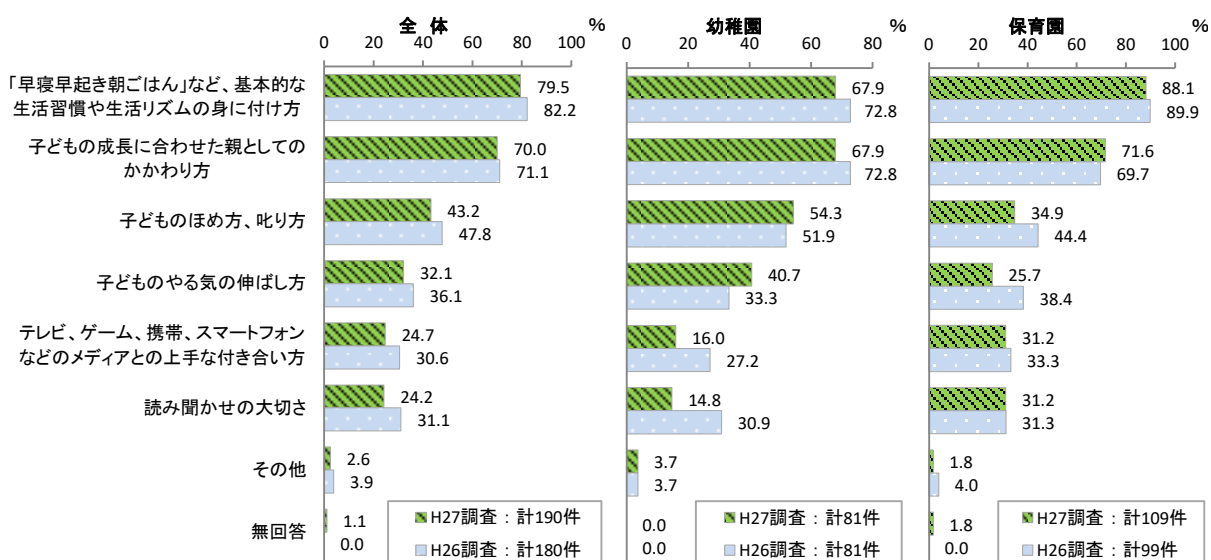


※ 問 21 は 3 つより多い回答が多数のため、複数回答として集計した。

【平成 27 年度・平成 26 年度の調査結果の比較】

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では、「読み聞かせの大切さ」の割合が 16.1 ポイント減少しています。保育園では、「子どものやる気の伸ばし方」が 12.7 ポイント減少しています。

図 VI-44 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組
(平成 27 年度・平成 26 年度の調査結果の比較)

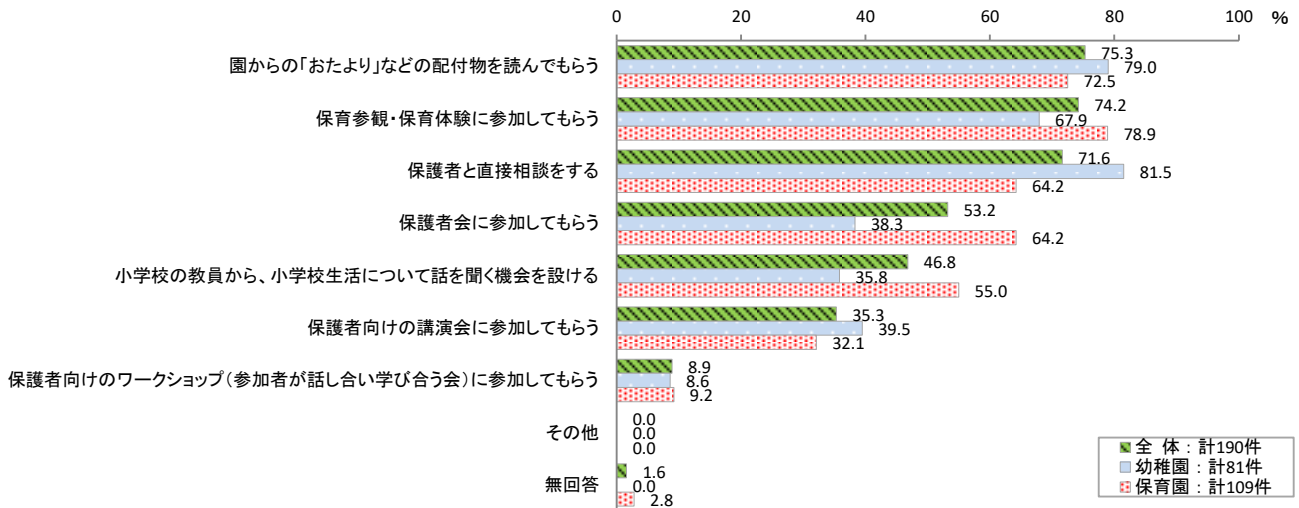


(4) 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法

問 22 問 19 で「はい」と答えた教職員が回答 家庭との連携や家庭教育を支援するために有効だと考える機会や方法などは、何ですか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「園からの『おたより』などの配付物を読んでもらう」の割合が 75.3%と最も高く、次いで「保育参観・保育体験に参加してもらう」の割合が 74.2%、「保護者と直接相談をする」の割合が 71.6%となっています。

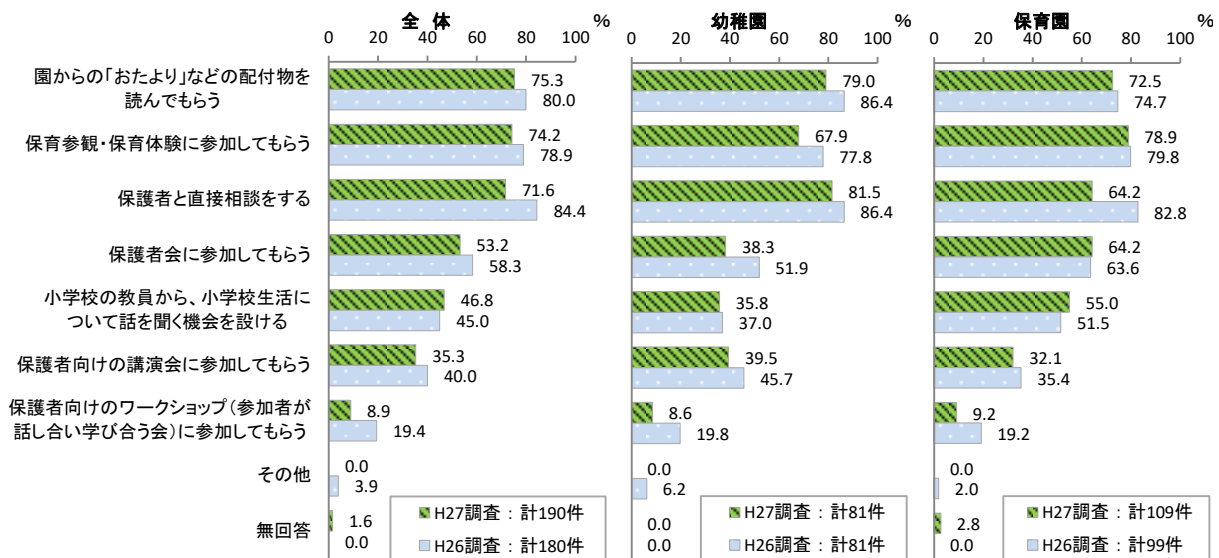
図 VI-45 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法



【平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると全体では、「保護者と直接相談をする」の割合が平成27年度は平成26年度より 12.8ポイント減少しています。

図 VI-46 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

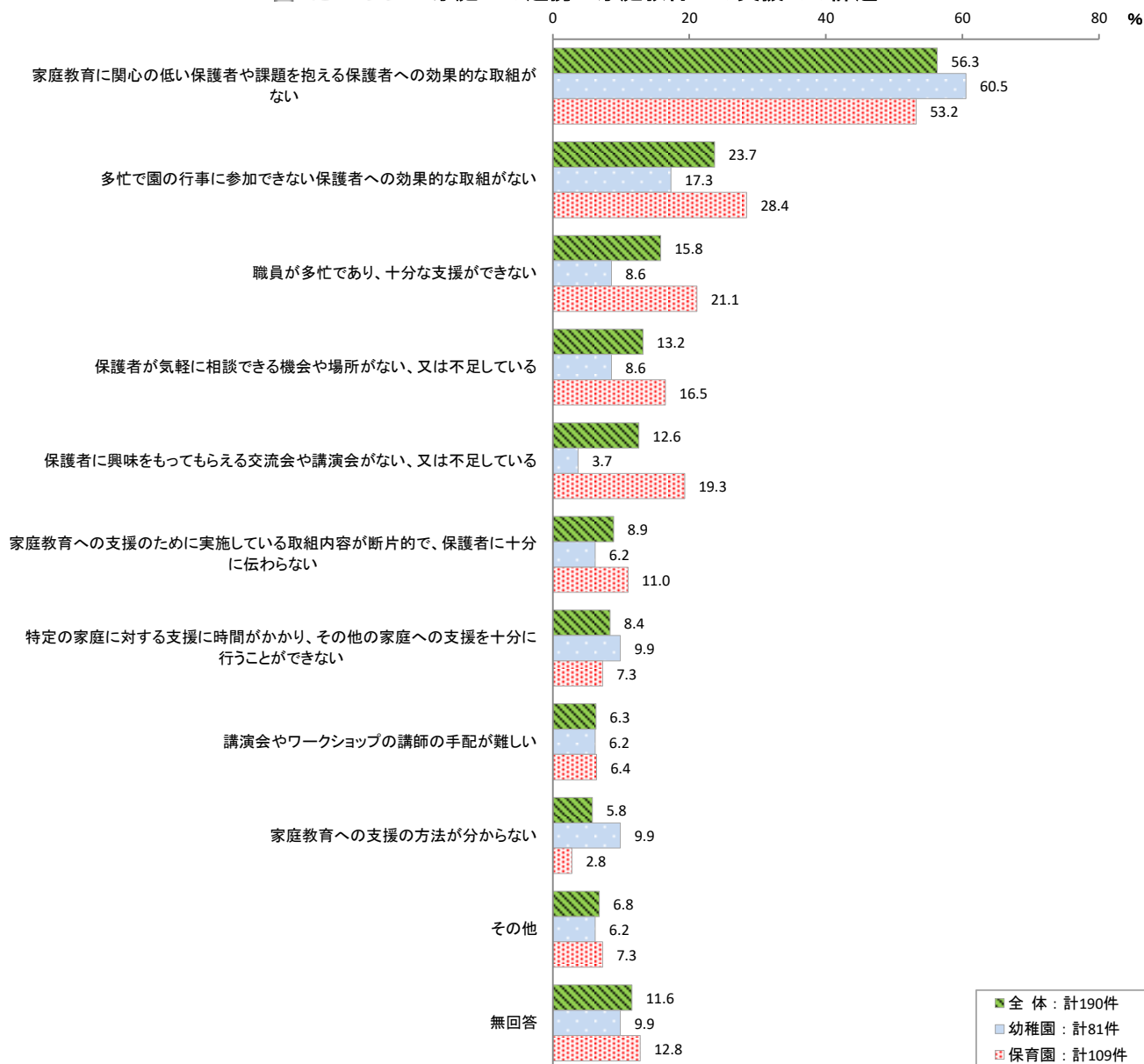


（５）家庭との連携・家庭教育への支援での課題

問 23 問 19 で「はい」と答えた教職員が回答 家庭との連携や家庭教育への支援を行う上での課題は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

全体では、「家庭教育に関心の低い保護者や課題を抱える保護者への効果的な取組がない」の割合が 56.3%と最も高く、次いで「多忙で園の行事に参加できない保護者への効果的な取組がない」の割合が 23.7%、「職員が多忙であり、十分な支援ができない」の割合が 15.8%となっています。

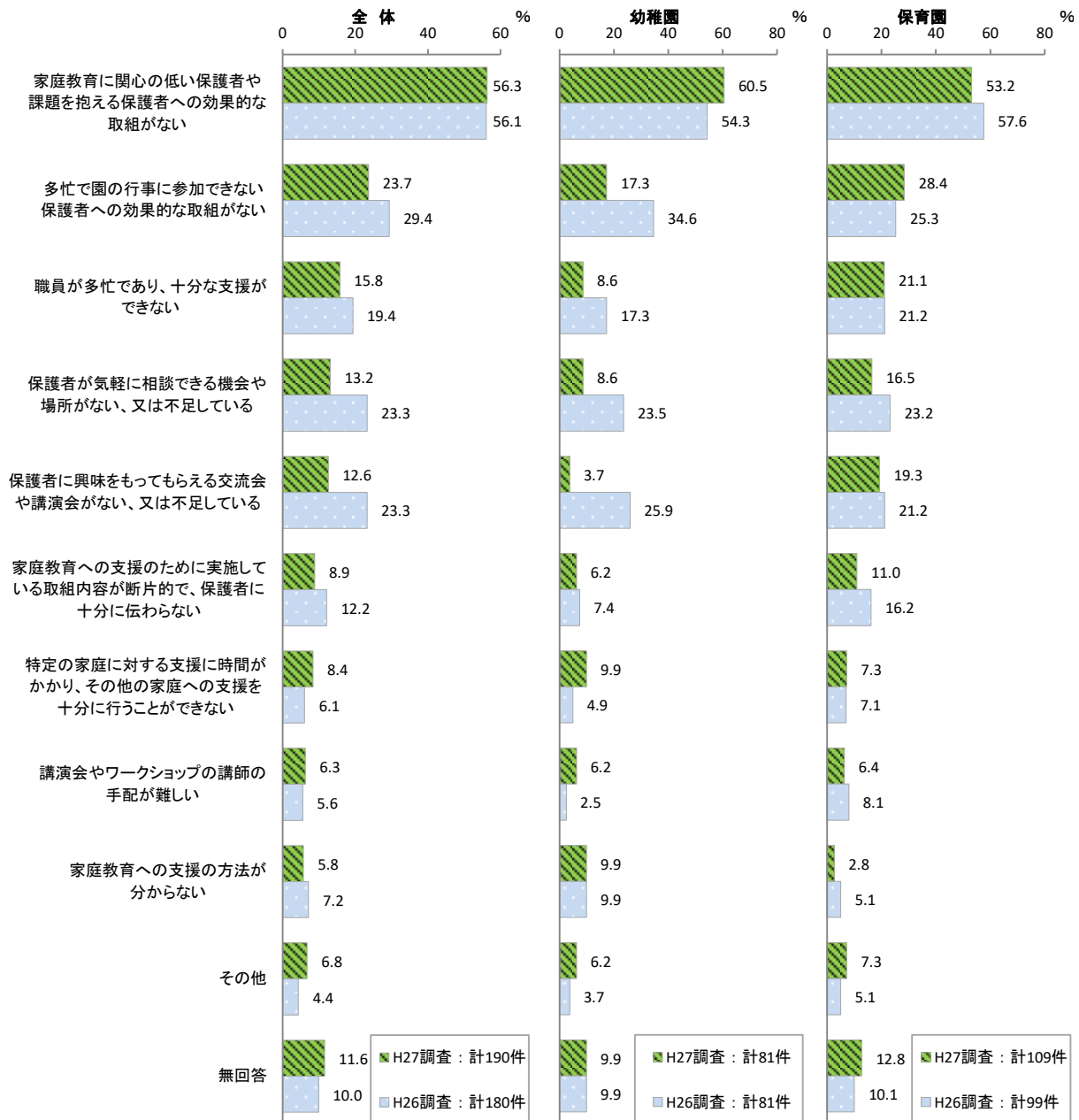
図 VI-47 家庭との連携・家庭教育への支援での課題



【平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較】

経年変化をみると全体では、「保護者が気軽に相談できる機会や場所がない、又は不足している」、「保護者に興味をもってもらえる交流会や講演会がない、又は不足している」の割合が、平成27年度は平成26年度より10.0ポイント以上減少しています。

図 VI-48 家庭との連携・家庭教育への支援での課題
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



5 自由記述

最後に、あなたの園や地域での交流・連携の取組状況、子ども教育の連携推進事業、草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

対象となる回収数 191 件中、44 件に記述がありました（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 44 件より多くなっています。）

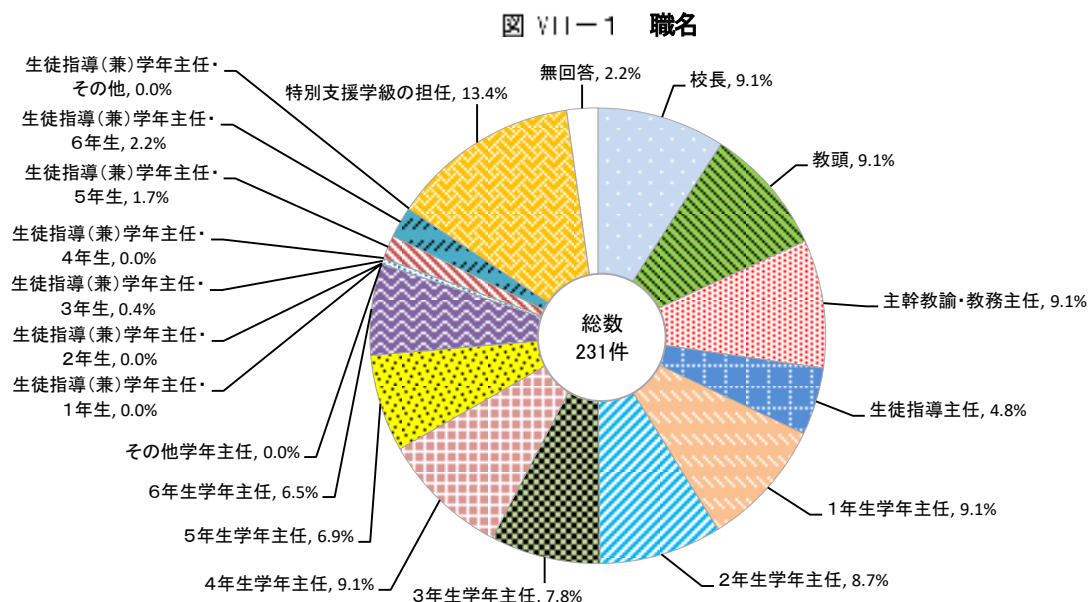
項目	件数
園・校間の連携に関すること	39
交流・連携を継続、充実していくことが大切	12
教員・保育士同士の交流・連携	5
小学校の見学・体験	1
交流・連携により子供の健やかな成長を促したい	1
連携・交流の日程を合わせる 것이 大事	2
中学生の社会体験	1
交流・連携できる園・校が広がるとよい	1
交流・連携に向けて小学校と打ち合わせる時間を確保したい	1
交流・連携で小学校との温度差がある	2
小学校側から積極的な交流・連携の呼び掛けがほしい	3
交流・連携を積極的・継続的に取り組んでいきたい	4
教育に支障が出ないように、無理なく継続できる連携がよい	2
交流・連携がなぜ必要なのか共通理解をすることが大切	1
連携が着実に進められている、効果が出ていると感じている	3
地域との交流・連携が大切	7
家庭・保護者との交流・連携の推進	5
その他（意見だが分類できないもの）	2
その他（意見ではないもの）	2

VII 小学校：教員

1 基本情報

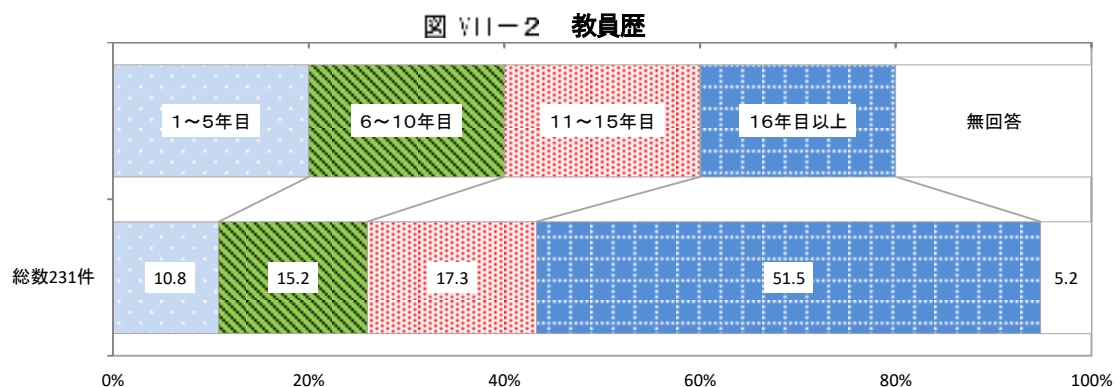
(1) 職名

回答者の職名の割合は以下のとおりです。



(2) 教員歴

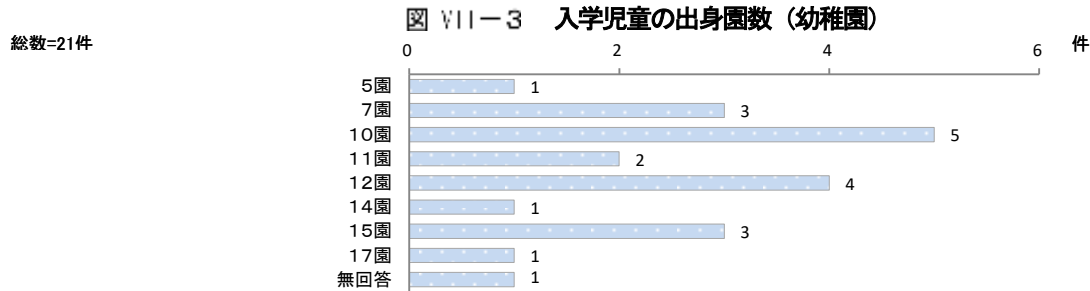
「16年目以上」の割合が51.5%と最も高く、次いで「11～15年目」の割合が17.3%、「6～10年目」の割合が15.2%となっています。



(3) 入学児童の出身園数

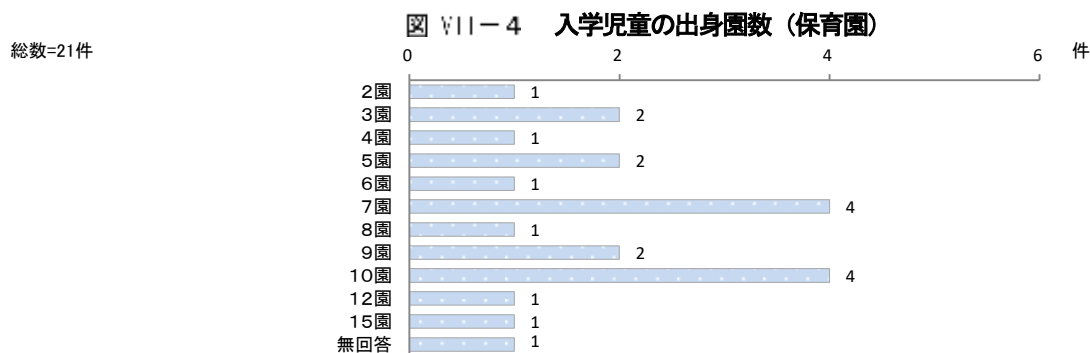
① 幼稚園

「10園」の件数が5件と最も多くなっています。



② 保育園

「7園」、「10園」の件数が4件と最も多くなっています。



(4) 入学児童の出身園（平成27年4月入学、上位3園）

表 VII-1 入学児童の出身園（平成27年4月入学、上位3園）

単位：%

小学校名	第1位		第2位		第3位	
草加小学校	ルミ幼稚園	20.0	きたうら保育園	13.0	かおり幼稚園	12.0
高砂小学校	草加氷川幼稚園	17.0	あずま保育園	13.0	谷塚おざわ幼稚園	11.0
新田小学校	新田幼稚園	45.0	しんぜん保育園	13.0	あさひ保育園	10.0
谷塚小学校	谷塚おざわ幼稚園	27.7	谷塚幼稚園	19.1	やつか保育園	7.6
栄小学校	草加みどり幼稚園	23.0	さかえ保育園	20.0	草加ひまわり幼稚園	17.0
川柳小学校	青徳幼稚園	47.0	あおやぎ保育園	14.0	草加ひので幼稚園	8.0
瀬崎小学校	谷塚幼稚園	34.0	市外	13.0	谷塚おざわ幼稚園	9.0
西町小学校	フラワー幼稚園	21.4	にしまち保育園	13.0	かおり幼稚園	12.1
新里小学校	認定こども園あずま幼稚園	27.0	につさとの森保育園、 やなぎしま保育園	各 11.0	-	-
花栗南小学校	草加ひまわり幼稚園	22.0	みのべ幼稚園	12.0	ひかり幼稚園	10.0
八幡小学校	草加ひので幼稚園	25.0	しのは保育園、 市外	各 10.0	-	-
新栄小学校	清門幼稚園	33.0	しんえい保育園	25.0	市外	20.0
清門小学校	清門幼稚園	32.7	みのべ幼稚園	22.2	けやきの森保育園清門町園	8.2
稲荷小学校	いなり幼稚園	28.0	ひかり幼稚園	18.0	市外	15.0
氷川小学校	草加氷川幼稚園	35.0	谷塚おざわ幼稚園	20.0	ひかり保育園	10.0
八幡北小学校	青徳幼稚園	24.0	新田幼稚園	19.0	市外	17.0
長栄小学校	新田幼稚園	40.0	清門幼稚園	11.0	あさひ保育園	10.0
青柳小学校	青徳幼稚園	29.5	あおやぎ保育園	18.0	市外	13.1
小山小学校	フラワー幼稚園	27.0	こやま保育園、 みのべ幼稚園	各 15.0	-	-
両新田小学校	やつかみ保育園	21.0	認定こども園あずま幼稚園	20.0	市外	14.0
松原小学校	草加ひまわり幼稚園	29.0	みのべ幼稚園	26.0	ひかり幼稚園	4.0

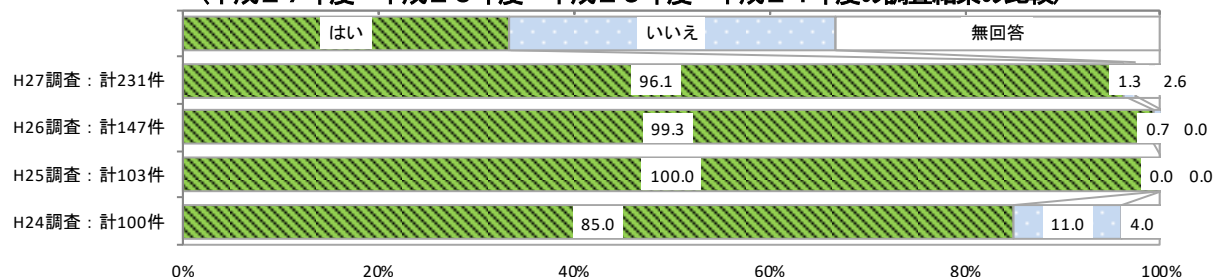
2 幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について

(1) 幼稚園・保育園・他の小学校・中学校との交流・連携の実施状況

問1 あなたの学校では、昨年度（平成26年度）に、1カ所以上の幼稚園・保育園・小学校・中学校と、問4の選択肢にあるような交流・連携を行いましたか。（○は1つだけ）

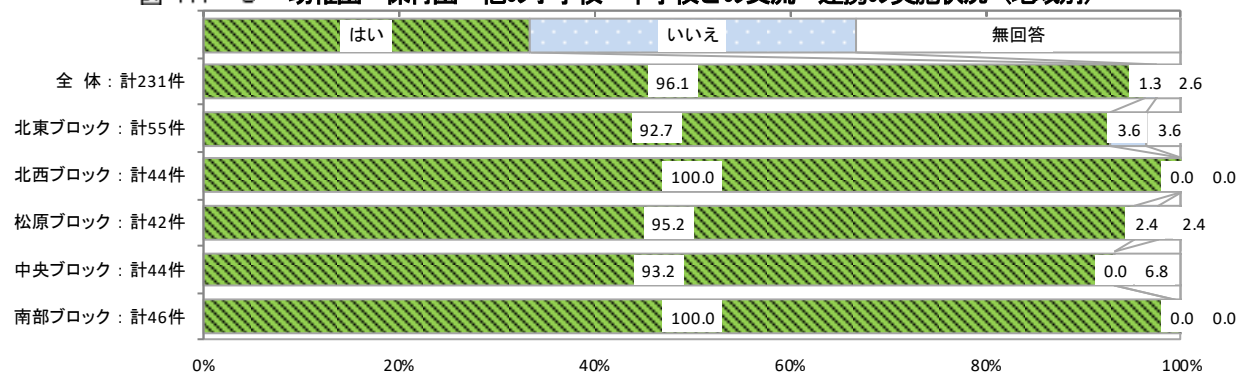
平成27年度の調査結果をみると、「はい」の割合が96.1%、「いいえ」の割合が1.3%となっています。経年変化をみると「はい」の割合が、平成25年度から平成27年度にかけてほぼ横ばいとなっています。

図 VII-5 幼稚園・保育園・他の小学校・中学校との交流・連携の実施状況
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



地域別の交流・連携の実施状況は以下のとおりです。

図 VII-6 幼稚園・保育園・他の小学校・中学校との交流・連携の実施状況（地域別）



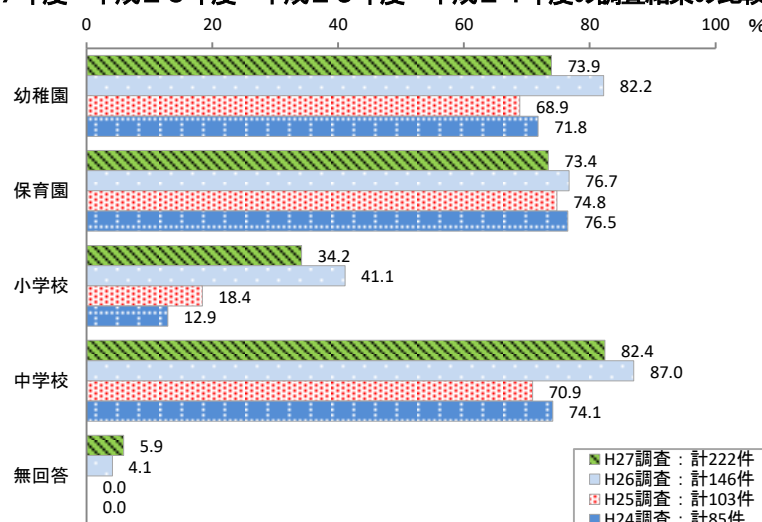
(2) 交流・連携の相手方

問2 問1で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携の相手方はどこでしたか。（あてはまるもの全てに○と相手方の数を記入）

平成27年度の調査結果をみると、「中学校」の割合が82.4%と最も高く、次いで「幼稚園」の割合が73.9%、「保育園」の割合が73.4%となっています。

経年変化をみるとすべての項目の割合が、平成27年度は平成26年度よりやや低くなっています。

図 VII-7 交流・連携の相手方
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



(3) 交流・連携の参加者

問3 問1で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携に参加したのは次のうち誰でしたか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、児童では、「1年生」の割合が81.1%と最も高く、次いで「6年生」の割合が62.6%、「5年生」の割合が55.9%となっています。

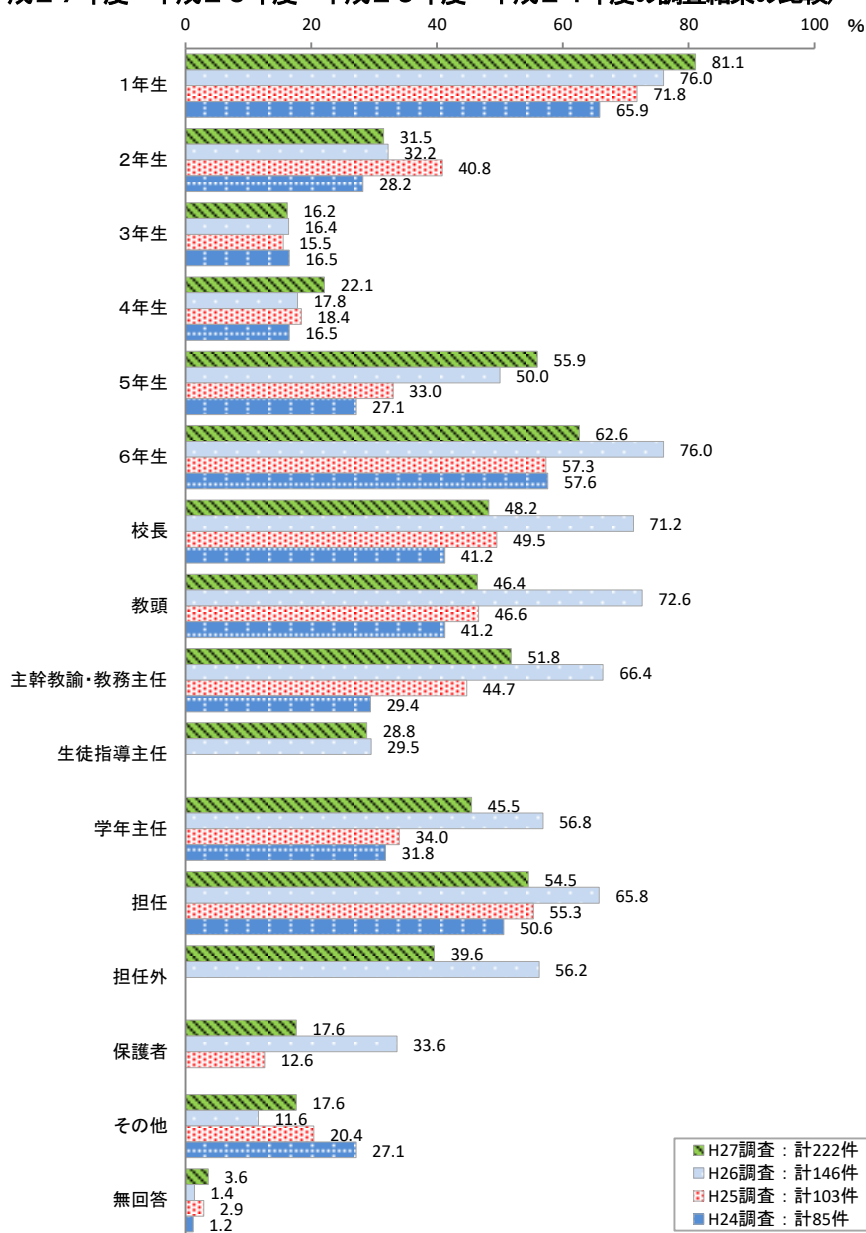
教職員等では、「担任」の割合が54.5%と最も高く、次いで「主幹教諭・教務主任」の割合が51.8%、「校長」の割合が48.2%となっています。

経年変化をみると児童では、「1年生」の割合が平成24年度から平成27年度にかけて増加傾向となっています。一方、「6年生」の割合が平成27年度は平成26年度より13.4ポイント減少しています。

教職員等では、すべての項目の割合が平成27年度は平成26年度より低くなっています。

「その他」として、「全職員」、「音楽主任・体育主任」などの回答があります。

図 VII-8 交流・連携の参加者
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成25年度調査以前は「生徒指導主任」、「担任外」の項目なし。平成24年度調査は「保護者」の項目なし。「主幹教諭・教務主任」は、平成25年度調査以前の「教務主任」と比較している。

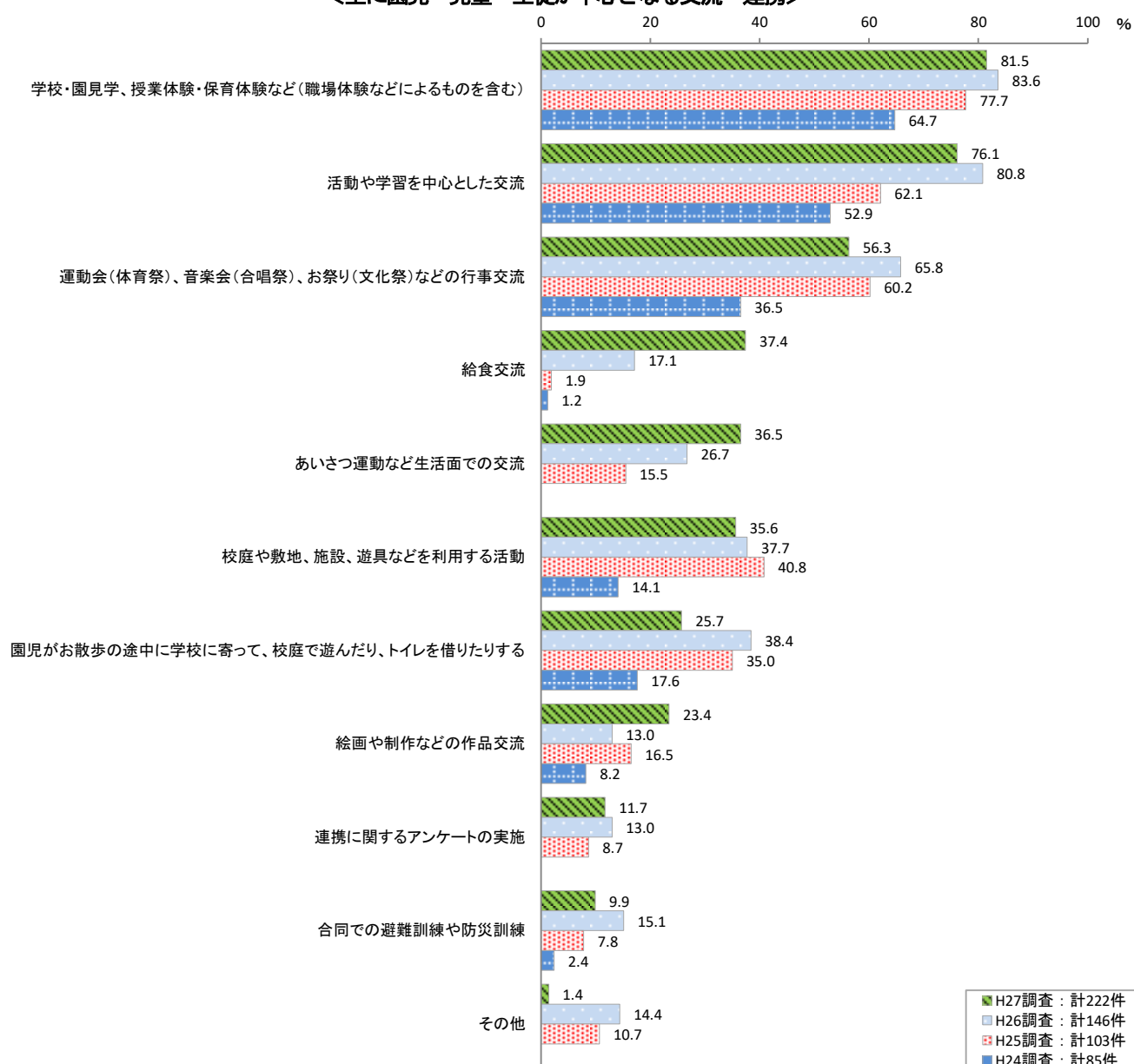
(4) 交流・連携の内容

問4 問1で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携の内容はどのようなものでしたか。(あてはまるものを全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」の割合が83.3%と最も高く、次いで「学校・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」の割合が81.5%、「活動や学習を中心とした交流」の割合が76.1%となっています。

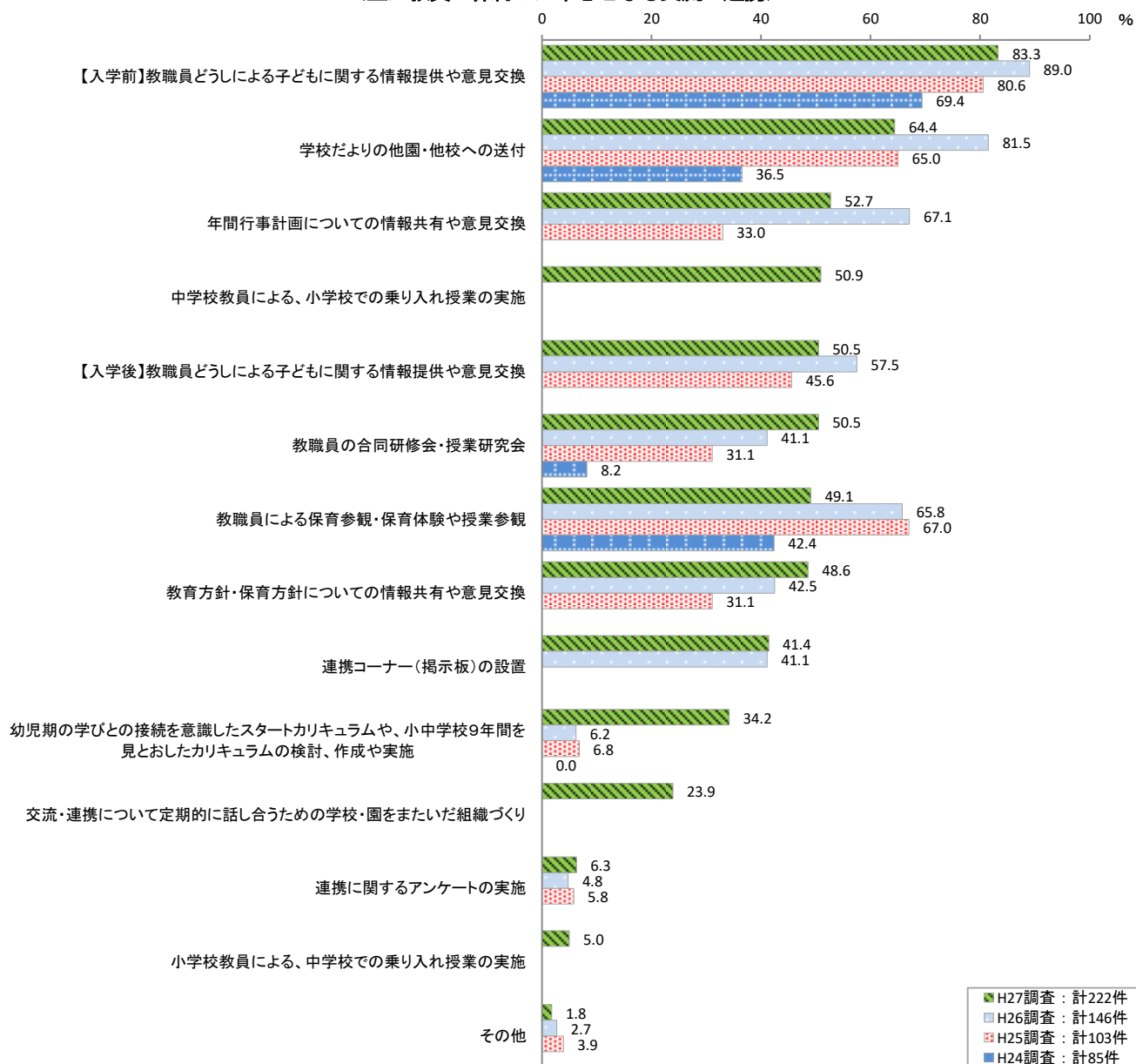
経年変化をみると「給食交流」、「幼児期の学びとの接続を意識したスタートカリキュラムや、小中学校9年間を見とおしたカリキュラムの検討、作成や実施」の割合が、20.0ポイント以上増加しています。一方、「園開放・保育参観、学校公開・授業参観」の割合が、22.4ポイント減少しています。

図 VII-9 交流・連携の内容
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)
＜主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携＞

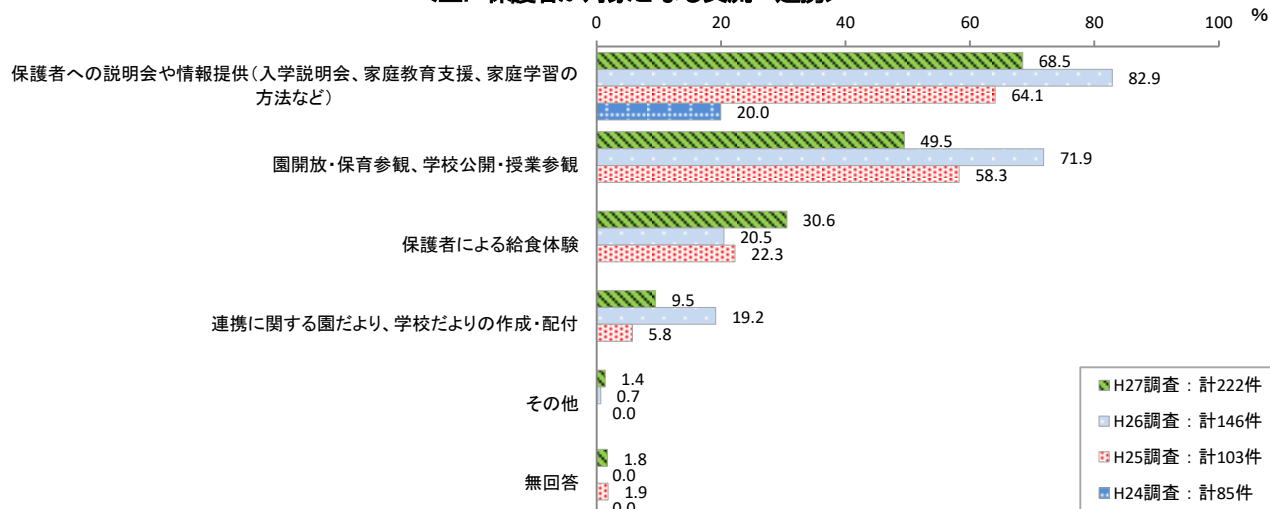


VII 小学校：教員

<主に教員・保育士が中心となる交流・連携>



<主に保護者が対象となる交流・連携>



※ 平成26年度調査以前は「中学校教員による、小学校での乗り入れ授業の実施」、「交流・連携について定期的に話し合うための学校・園をまたいだ組織づくり」、「小学校教員による、中学校での乗り入れ授業の実施」の項目なし。平成25年度調査以前は「連携コーナー（掲示板）の設置」の項目なし。平成25年度調査以前は比較可能な項目を抜粋・比較している。

(5) 重要な交流・連携の取組

問5 **問1で「はい」と答えた教職員が回答** 問4の選択肢に挙げられている交流・連携の内容のうち、特に重要な取組はどれだと思いますか。重要度が高いと考える順に、**問4の選択肢番号**及び重要と考える理由をご記入ください。(5つまで)

主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携では、「活動や学習を中心とした交流」、「学校・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」、「あいさつ運動など生活面での交流」の件数が多くなっています。

主に教員・保育士が中心となる交流・連携では、「【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」、「【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」、「中学校教員による、小学校での乗り入れ授業の実施」の件数が多くなっています。

主に保護者が対象となる交流・連携では、「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）」の件数が多くなっています。

表 VII-2 重要な交流・連携の取組

単位：件

交流・連携の内容			重要度1	重要度2	重要度3	重要度4	重要度5	合計
主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携	1	活動や学習を中心とした交流	43	14	8	11	4	80
	2	あいさつ運動など生活面での交流	7	8	7	1	9	32
	3	運動会（体育祭）、音楽会（合唱祭）、お祭り（文化祭）などの行事交流	9	9	2	6	1	27
	4	絵画や制作などの作品交流	0	2	3	3	1	9
	5	給食交流	1	6	6	2	2	17
	6	合同での避難訓練や防災訓練	1	1	1	0	0	3
	7	学校・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）	20	20	12	9	8	69
	8	連携に関するアンケートの実施	0	0	0	0	0	0
	9	校庭や敷地、施設、遊具などを利用する活動	0	1	3	1	1	6
	10	園児がお散歩の途中に学校に寄って、校庭で遊んだり、トイレを借りたりする	0	1	1	3	1	6
	11	その他	0	0	0	0	1	1
主に教員・保育士が中心となる交流・連携	12	中学校教員による、小学校での乗り入れ授業の実施	12	10	20	3	8	53
	13	小学校教員による、中学校での乗り入れ授業の実施	0	2	0	2	0	4
	14	教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換	10	9	1	1	4	25
	15	年間行事計画についての情報共有や意見交換	1	4	2	6	1	14
	16	学校だよりの他園・他校への送付	0	0	4	0	0	4
	17	連携コーナー（掲示板）の設置	0	1	0	0	2	3
	18	【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換	62	26	23	8	6	125
	19	【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換	0	31	14	6	3	54
	20	教職員による保育参観・授業参観	2	4	8	7	3	24
	21	交流・連携について定期的に話し合うための学校・園をまたいだ組織づくり	3	4	4	6	1	18
	22	教職員の合同研修会・授業研究会	18	6	2	6	6	38
	23	連携に関するアンケートの実施	0	0	0	1	0	1
	24	幼児期の学びとの接続を意識したスタートカリキュラムや、小中学校9年間を見とおしたカリキュラムの検討、作成や実施	9	0	5	2	3	19
	25	その他	1	0	0	0	0	1
主に保護者が対象となる交流・連携	26	保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）	3	17	16	9	11	56
	27	園開放・保育参観、学校公開・授業参観	2	3	4	4	6	19
	28	保護者による給食体験	0	0	0	2	0	2
	29	連携に関する園だより、学校だよりの作成・配付	0	0	0	0	0	0
	30	その他	0	0	0	0	0	0

VII 小学校：教員

【重要と考える理由】

主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携、主に教員・保育士が中心となる交流・連携、主に保護者が対象となる交流・連携のそれぞれについて、合計件数が多かった上位3位の理由は以下のようになっています。

（主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携）

① 活動や学習を中心とした交流（80 件）

記述があったのは76件でした（1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は76件より多くなっています）。

項目	件数
子どもどうしが直接交流できるから	20
幼稚園・保育園と小学校、小学校と中学校が互いの様子を知ることができるから	12
入学・進学への不安を解消し、期待・希望をもたせるため	11
交流することで学びが深められるから	8
子どもにとって活動・学習が重要だから	6
交流を通して体験的な学習ができるから	5
自然な交流・連携ができるから	5
園児にも児童にもメリットがあるから	4
上級生としての自覚や意識が高まるから	3
接続がスムーズになるから	2
特別支援学級の子どもも交流の機会をもてるから	2
「小1プロブレム」・「中1ギャップ」の解消のため	1
その他	6

② 学校・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）（69 件）

記述があったのは65件でした。

項目	件数
実際に体験することが大切だから	14
施設や生活、実際の活動の様子がわかるから	12
入学・進学への不安を解消し、期待・希望をもたせるため	12
互いに実態を理解できるから	7
接続がスムーズになるから	6
「小1プロブレム」・「中1ギャップ」の解消のため	4
学校への興味・関心が促進されるから	3
児童・生徒が自らの成長を見つめられるから	2
その他	5

③ あいさつ運動など生活面での交流（32 件）

記述があったのは 29 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 29 件より多くなっています）。

項目	件数
身近な交流ができるから	10
あいさつは基本的な生活習慣であるから	6
中学生のあいさつが良い手本となるから	6
あいさつができていないのが課題であるため	3
中学校に対する期待・希望をもつことができるから	3
その他	4

（主に教員・保育士が中心となる交流・連携）

① 【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（125 件）

記述があったのは 118 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 118 件より多くなっています）。

項目	件数
学級編成に生かすため	46
入学前の児童の実態を知ることができるから	16
教職員間で情報交換・情報共有ができるから	15
適切な指導ができるから	14
入学後の新 1 年生の生活をスムーズに進めるため	8
子どもの理解を深められるから	8
事前に情報を得ることで対策を講じることができるから	5
児童への支援に役立たせることができるから	5
「小 1 プロブレム」・「中 1 ギャップ」に対応することができるから	5
児童の情報を詳しく提供できるから	3
小学校での教育内容を中学校に引き継ぐことで教育効果が高まるから	3
不安なく学校生活をスタートさせるため	2
その他	3

② 【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（54 件）

記述があったのは 48 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 48 件より多くなっています）。

項目	件数
教職員間で情報交換・情報共有ができるから	17
適切な指導ができるから	9
入学後の情報を得ることで児童への対応を講じることができるから	6
入学後の児童の実態を知ることができるから	6
子どもの理解を深められるから	6
学級編成に生かすため	4
児童の情報を詳しく提供できるから	3
その他	2

VII 小学校：教員

③ 中学校教員による、小学校での乗り入れ授業の実施（53 件）

記述があったのは 53 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 53 件より多くなっています）。

項目	件数
中学校入学への不安を軽減させるため	11
「中 1 ギャップ」の解消のため	9
中学校の雰囲気を実感できるから	9
教職員の間で共通理解を深められ、指導に役立つから	9
中学校への期待をもたせるため	6
児童にとって効果が大きいから	5
小中接続をスムーズにすることができるから	3
その他	2

（主に保護者が対象となる交流・連携）

① 保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）（56 件）

記述があったのは 49 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 49 件より多くなっています）。

項目	件数
就学に対する不安の解消になるから	16
保護者の理解のために説明が必要だから	13
保護者に知っておいてほしいことを伝えられるから	12
保護者と連携・協力するため	7
その他	2

② 園開放・保育参観、学校公開・授業参観（19 件）

記述があったのは 16 件でした。

項目	件数
教育・保育の内容や子どもの様子がわかり、理解してもらえるから	9
保護者との協力・信頼関係が生まれるから	2
学校の様子を知ることが保護者の安心につながるから	2
その他	3

③ 保護者による給食体験（2 件）

記述があったのは 2 件でした。

項目	件数
子どもたちがどんなものを食べているか知ることができるから	1
給食体験によって家庭でも食育について考えてもらえるから	1

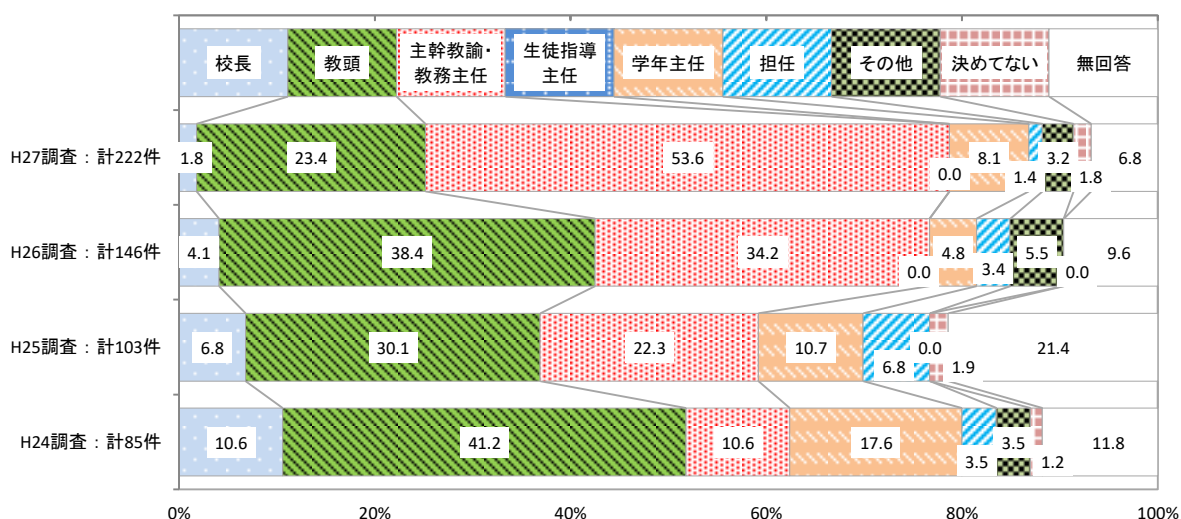
(6) 交流・連携の窓口の主な担当者

問6 問1で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携の窓口は、主にどなたが担当していますか。(〇は1つだけ)

平成27年度の調査結果をみると、「主幹教諭・教務主任」の割合が53.6%と最も高く、次いで「教頭」の割合が23.4%、「学年主任」の割合が8.1%となっています。

経年変化をみると「主幹教諭・教務主任」の割合が、平成27年度は平成26年度より19.4ポイント増加しています。

図 VII-10 交流・連携の窓口の主な担当者
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



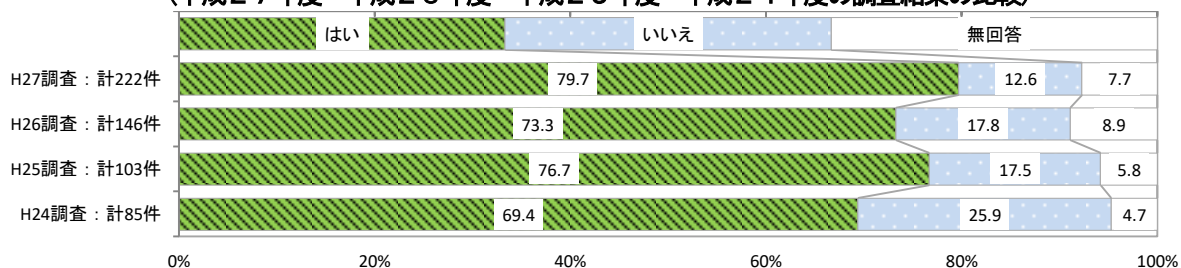
※ 平成25年度調査以前は「生徒指導主任」の項目なし。「主幹教諭・教務主任」は、平成25年度調査以前の「教務主任・主任」と比較している。

(7) 交流・連携の窓口の担当者の固定化

問7 問1で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携の窓口の担当者は、固定して（校内で決まって）いますか。(〇は1つだけ)

平成27年度の調査結果をみると、「はい」の割合が79.7%、「いいえ」の割合が12.6%となっています。
経年変化をみると「はい」の割合が平成27年度は平成26年度より6.4ポイント増加しています。

図 VII-11 交流・連携の窓口の担当者の固定化
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



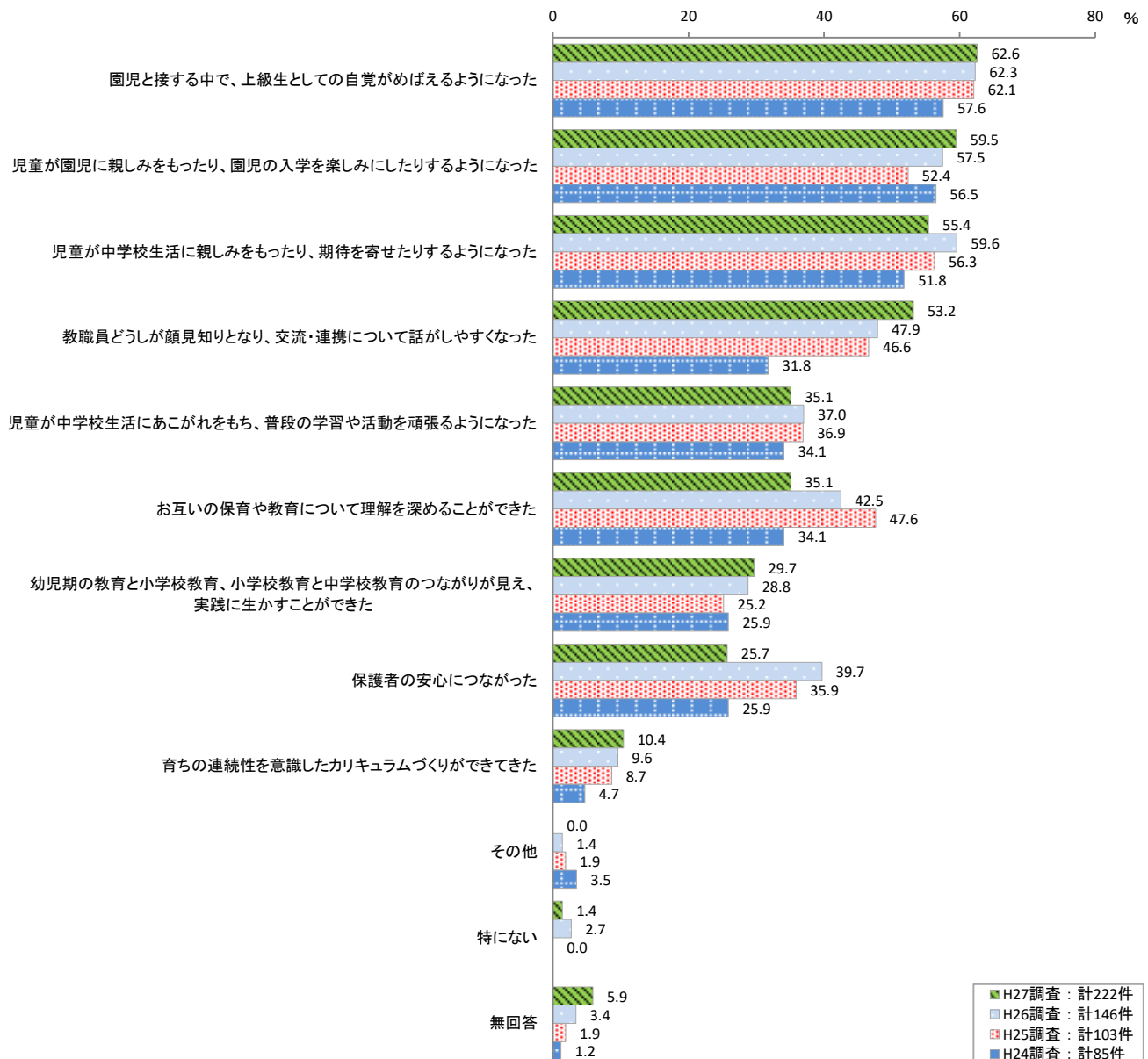
(8) 交流・連携を行って良かった点

問8 問1で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携を行って良かった点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「園児と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった」の割合が62.6%と最も高く、次いで「児童が園児に親しみをもったり、園児の入学を楽しみにしたりするようになった」の割合が59.5%、「児童が中学校生活に親しみをもったり、期待を寄せたりするようになった」の割合が55.4%となっています。

経年変化をみると「教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携について話がしやすくなった」の割合が平成24年度から平成27年度にかけて増加傾向となっています。一方、「お互いの保育や教育について理解を深めることができた」の割合が、平成25年度から平成27年度にかけて減少傾向となっています。

図 VII-12 交流・連携を行って良かった点
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は「特にない」の項目なし。

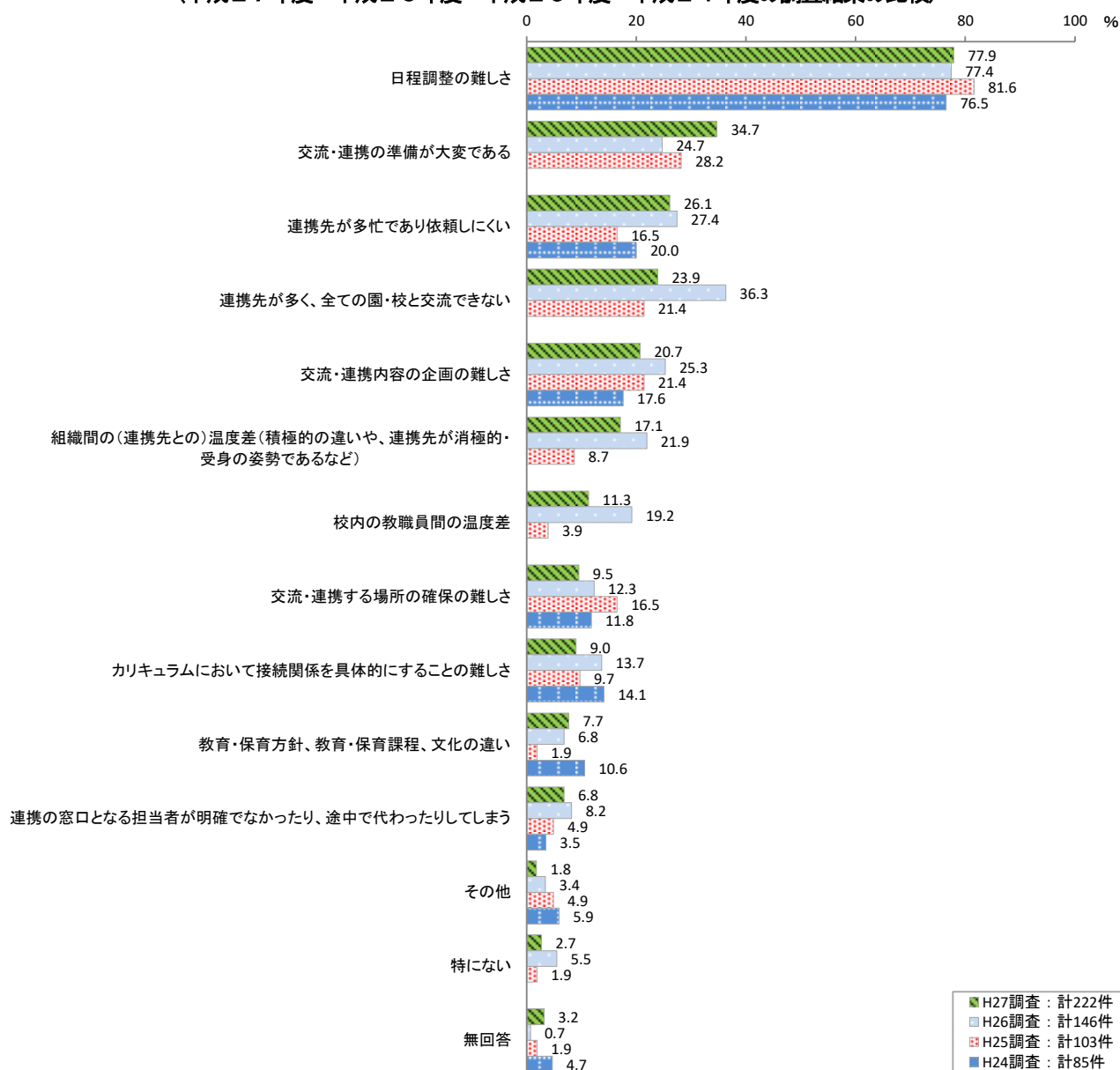
(9) 交流・連携の課題となる点

問9 問1で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携の実施にあたって課題となる点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「日程調整の難しさ」の割合が77.9%と最も高く、次いで「交流・連携の準備が大変である」の割合が34.7%、「連携先が多忙であり依頼しにくい」の割合が26.1%となっています。

経年変化をみると「連携先が多く、全ての園・校と交流できない」の割合が、平成27年度は平成26年度から12.4ポイント減少しています。一方、「交流・連携の準備が大変である」の割合が、平成27年度は平成26年度から10.0ポイント増加しています。

図 VII-13 交流・連携の課題となる点
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



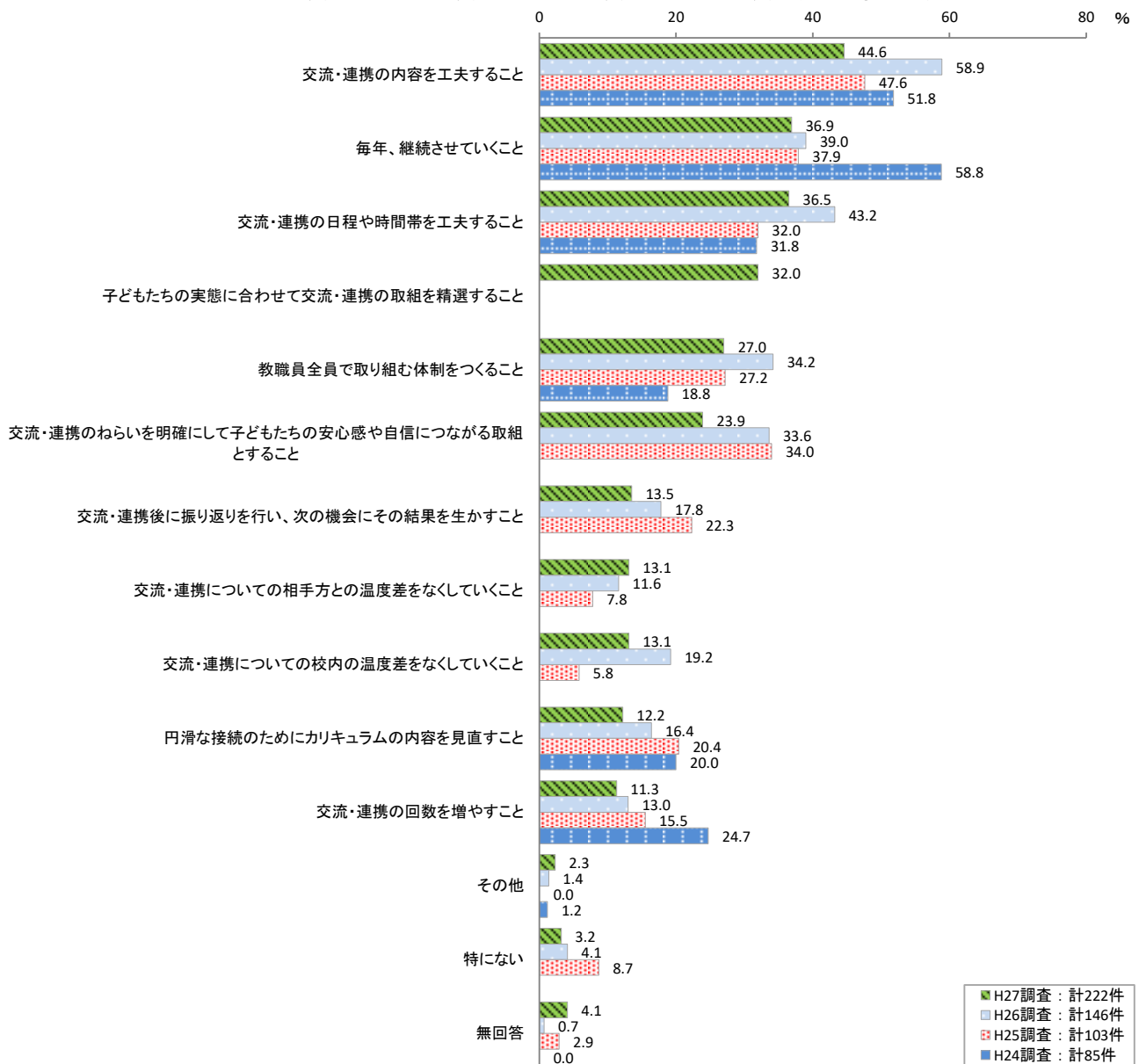
※ 平成24年度調査は「連携先が多く、全ての園・校と交流できない」、「交流・連携の準備が大変である」、「特にない」の項目なし。「組織間の(連携先との)温度差(積極的の違いや、連携先が消極的・受身の姿勢であるなど)」は、平成25年度調査の「組織間の温度差」と「連携先が消極的・受身の姿勢である」を合わせた値と比較している。平成24年度調査の「組織・教職員間の温度差」とは、内容が一部異なるため、比較していない。

(10) 交流・連携で改善したい点

問10 問1で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携の実施にあたって改善したい点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「交流・連携の内容を工夫すること」の割合が44.6%と最も高く、次いで「毎年、継続させていくこと」の割合が36.9%、「交流・連携の日程や時間帯を工夫すること」の割合が36.5%となっています。経年変化をみるとほぼすべての項目の割合が、平成27年度は平成26年度より低くなっています。

図 VII-14 交流・連携で改善したい点
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成26年度調査以前は「子どもたちの実態に合わせて交流・連携の取組を精選すること」の項目なし。平成24年度調査は「交流・連携のねらいを明確にして子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること」、「交流・連携についての校内の温度差をなくしていくこと」、「交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を生かすこと」、「交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと」、「特にない」の項目なし。

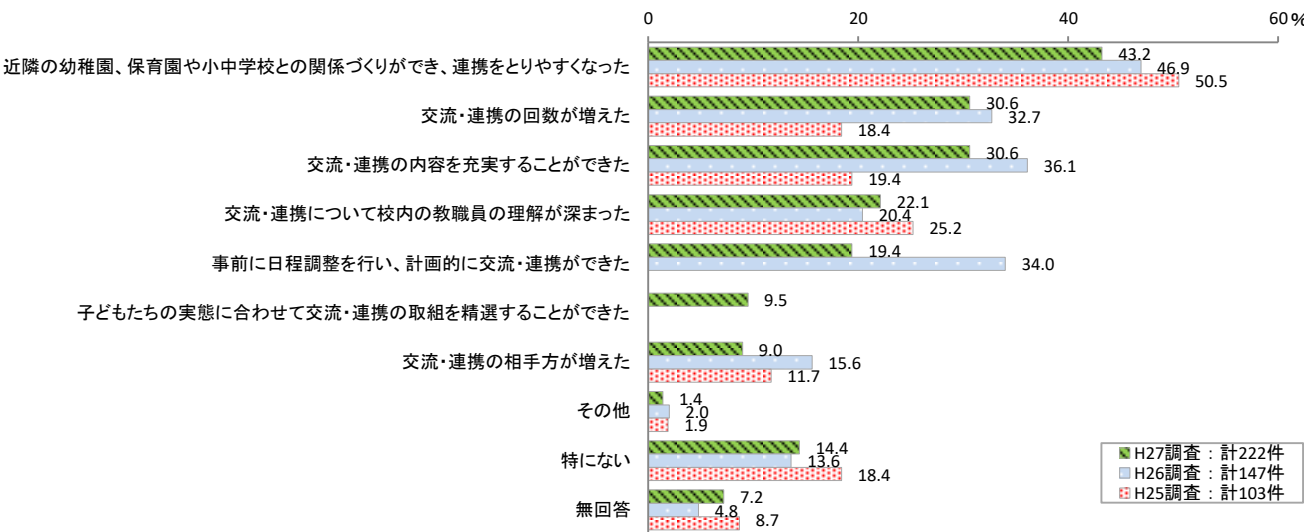
(11) 他園・校との交流・連携について改善されたこと

問 11 問1で「はい」と答えた教職員が回答 あなたの学校において、平成26年度当初と現在を比べて、他園・校との交流・連携について改善されたことはありますか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった」の割合が43.2%と最も高く、次いで「交流・連携の回数が増えた」、「交流・連携の内容を充実することができた」の割合がそれぞれ30.6%、「交流・連携について校内の教職員の理解が深まった」が22.1%となっています。

経年変化をみると「近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった」の割合が、平成25年度から平成27年度にかけて減少傾向となっています。また、「事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた」の割合が、平成27年度は平成26年度より14.6ポイント減少しています。

図 VII-15 他園・校との交流・連携について改善されたこと
(平成27年度・平成26年度・平成25年度の調査結果の比較)



※ 平成26年度調査以前は「子どもたちの実態に合わせて交流・連携の取組を精選することができた」の項目なし。平成25年度調査は「事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた」の項目なし。

(12) 交流・連携が困難な理由

問 12 問1で「いいえ」と答えた教職員が回答 交流・連携の実施が困難な理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「日程調整が難しい」の件数が2件と最も多くなっています。経年変化は特にみられません。

表 VII-3 交流・連携が困難な理由
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

単位：件

	近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができない	日程調整が難しい	交流・連携の仕方が分からない	これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない	その他	無回答
H27 調査：計3件	0	2	1	1	0	0
H26 調査：計1件	0	0	0	1	0	0
H25 調査：計0件	0	0	0	0	0	0
H24 調査：計11件	1	5	1	2	2	1

3 「小1プロブレム」について

「小1プロブレム」とは

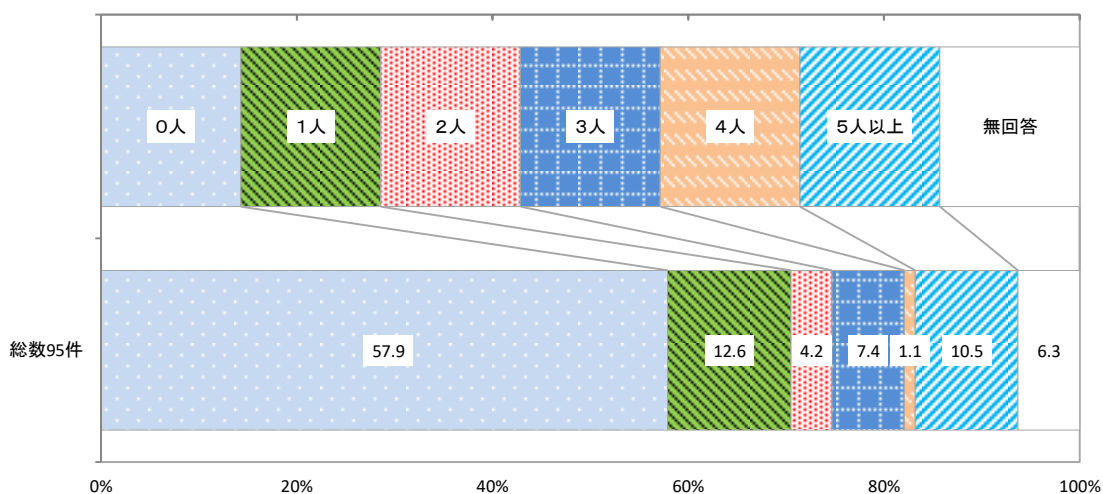
入学したばかりの1年生の教室において、集団行動がとれない、授業中に座ってられない、先生の話を聞かないなど、学校生活にうまく適応できない状態が続き、学級として機能しないことをいいます。

(1) 「小1プロブレム」がみられた人数

問 13 **校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、1年生の学年主任が回答** 現在、あなたの学校に、入学してきてからずっと「集団行動がとれない、授業中に座ってられない、先生の話を聞かない」など、学校生活にうまく適応できない小学校1年生の児童は、何人程度いますか。(いない場合は、0人と回答)

「0人」の割合が57.9%と最も高く、次いで「1人」の割合が12.6%、「5人以上」の割合が10.5%となっています。

図 VII-16 「小1プロブレム」がみられた人数

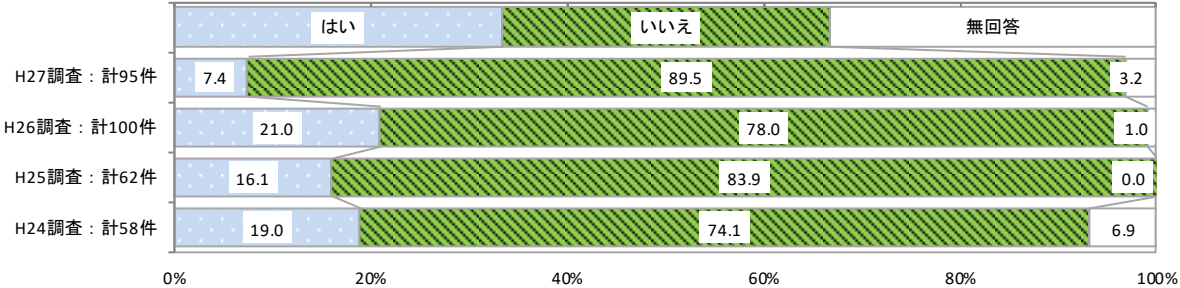


(2) 「小1プロブレム」の発生状況

問 14 **校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、1年生の学年主任が回答** 現在、あなたの学校では、「入学したばかりの1年生の教室において、集団行動がとれない、授業中に座ってられない、先生の話听不懂など、学校生活にうまく適応できない状態が続き、学級として機能しない」などの、「小1プロブレム」といわれる状況がみられますか。(○は1つだけ)

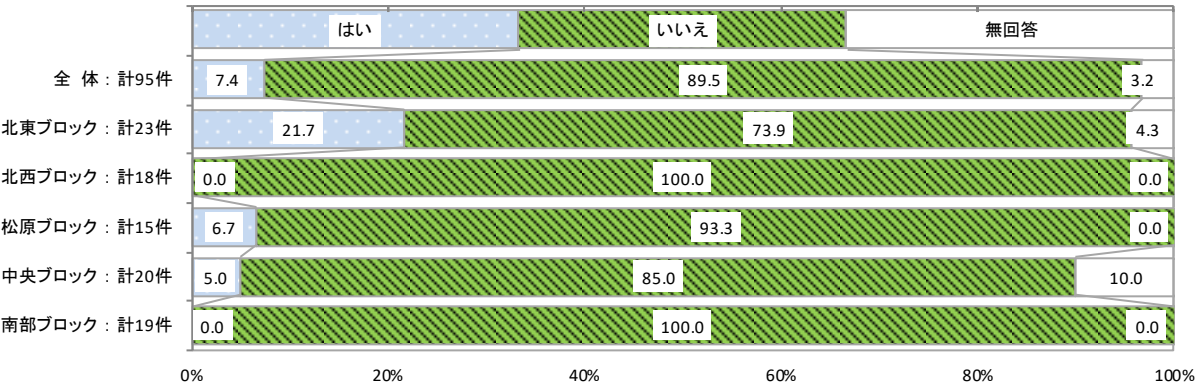
平成27年度の調査結果をみると、「はい」の割合が7.4%、「いいえ」の割合が89.5%となっています。経年変化をみると「小1プロブレム」がみられるとする回答の割合が、平成27年度は平成26年度より13.6ポイント減少しています。

図 VII-17 「小1プロブレム」の発生状況
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



地域別の「小1プロブレム」の発生状況は以下のとおりです。

図 VII-18 「小1プロブレム」の発生状況
(地域別)



(3) 「小1プロブレム」の要因

問 15 **問14で「はい」と答えた校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、1年生の学年主任が回答** 「小1プロブレム」がみられた要因はどのようなことであると考えますか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「児童に耐性が身に付いていなかったこと」の件数が7件と最も多くなっています。経年変化をみると、「児童に基本的な生活習慣が身に付いていなかったこと」、「児童に耐性が身に付いていなかったこと」、「家庭の教育力が低下していること」の変化が、各年度とも大きくなっています。

表 VII-4 「小1プロブレム」の要因
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

	児童に基本的な生活習慣が身に付いていなかったこと	児童に集団生活での経験が不足していたこと	児童に耐性が身に付いていなかったこと	家庭の教育力が低下していること	担任が、個別支援を必要としている児童への指導と、学級全体への指導の両方を適切にできなかったこと	担任が、個別支援を必要としている児童に基本的な指導力が欠けていたこと	個別に支援を必要としている児童に対して、学級としての支援体制が整っていないこと	その他	無回答
H27 調査：計7件	5	2	7	5	1	1	0	1	0
H26 調査：計21件	16	8	19	15	3	0	2	0	0
H25 調査：計10件	10	5	7	6	0	0	1	0	0
H24 調査：計11件	8	4	11	10	3	0	2	1	0

(4) 「小1プロブレム」への対応

問16 問14で「はい」と答えた校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、1年生の学年主任が回答
「小1プロブレム」とみられる状況に、どのように対応していますか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「校長、教頭、主幹教諭・教務主任などと協力体制をとっている」、「学習補助員、学級支援員、小1プロブレム対応職員が補助的に支援している」の件数が6件と最も多くなっています。

経年結果をみると、「校長、教頭、主幹教諭・教務主任などと協力体制をとっている」、「学習補助員、学級支援員、小1プロブレム対応職員が補助的に支援している」の件数が、各年度とも多くなっています。

表 VII-5 「小1プロブレム」への対応
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

単位：件

	担任1人で対応している	学年の教職員で協力体制をとっている	校長、教頭、主幹教諭・教務主任などと協力体制をとっている	校長、教頭、主幹教諭・教務主任などと協力体制をとっている	保護者や地域のボランティアなどとの協力体制を取り入れている	学習補助員、学級支援員、小1プロブレム対応職員が補助的に支援している	保健室や別の教室で個別に対応している	公的機関・医療機関など関係諸機関と協力している	その他	無回答
H27 調査：計7件	1	3	6	0	6	1	0	0	0	0
H26 調査：計21件	1	7	15	0	17	8	6	0	0	0
H25 調査：計10件	0	9	6	0	10	4	3	0	0	0
H24 調査：計11件	0	4	6	2	11	2	1	0	0	0

※ 校長、教頭、主幹教諭・教務主任などと協力体制をとっている」は、平成25年度調査以前の「管理職や教務主任等と協力体制をとっている」と比較している。「学年の教職員で協力体制をとっている」は、平成24年度調査の「学年の先生方で協力体制をとっている」と比較している。

(5) 「小1プロブレム」の発生の予防や解消のための対応策

問17 問14で「はい」と答えた校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、1年生の学年主任が回答
「小1プロブレム」の発生の予防や解消にはどのような対応策が効果的だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「幼稚園・保育園における小学校との接続を見据えた幼児期の教育の充実」、「学級担任の補助となる補助員などの配置」、「1学級の人数の縮小」の件数が5件と最も多くなっています。

経年結果をみると、「学級担任の補助となる補助員などの配置」の件数が、各年度とも多くなっています。

表 VII-6 「小1プロブレム」の発生の予防や解消のための対応策
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

単位：件

	幼稚園・保育園における小学校との接続を見据えた幼児期の教育の充実	幼稚園・保育園と小学校の教職員どうしの合同研修や意見交換などの充実	幼稚園・保育園と小学校の交流活動の充実	学級担任の補助となる補助員などの配置	1学級の人数の縮小	学級担任の指導力の向上にかかわる研修	学校における組織的な協力体制の構築	保護者の協力体制の確立	地域の人の協力体制の確立	その他	わからない	無回答
H27 調査：計7件	5	3	1	5	5	2	4	4	1	0	0	0
H26 調査：計21件	5	12	3	18	12	2	8	6	1	4	1	0
H25 調査：計10件	9	5	3	10	6	2	7	7	2	1	0	0
H24 調査：計11件	5	7	3	11	5	2	5	5	1	1	0	0

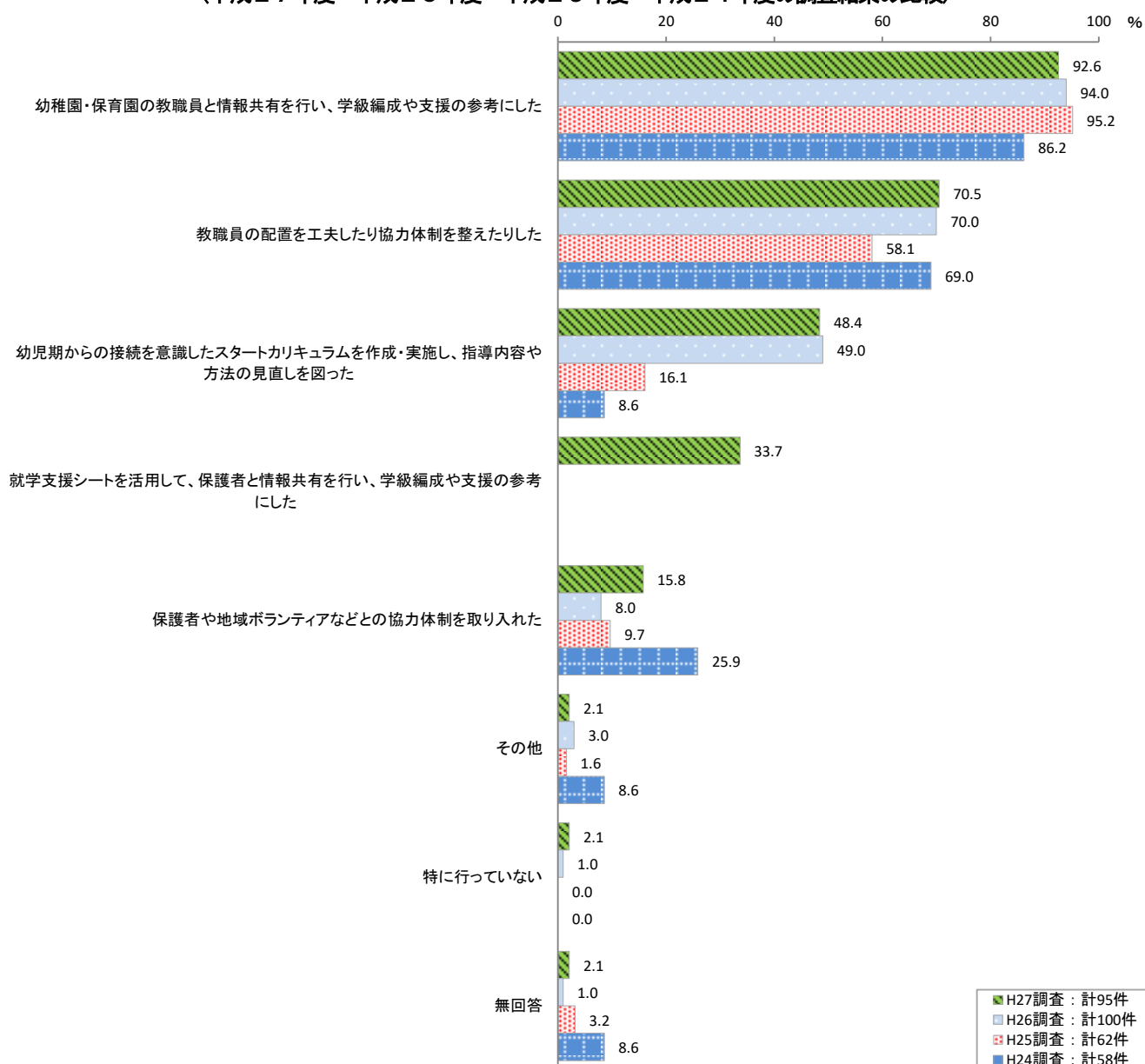
(6) 入学に際しての配慮や準備

問 18 問 14 の回答にかかわらず校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、1 年生の学年主任が回答
あなたの学校では、入学に際し、以下のような配慮や準備を何か行っていますか。(あてはまるもの全てに○)

平成 27 年度の調査結果をみると、「幼稚園・保育園の教職員と情報共有を行い、学級編成や支援の参考にした」の割合が 92.6%と最も高く、次いで「教職員の配置を工夫したり協力体制を整えたりした」の割合が 70.5%、「幼児期からの接続を意識したスタートカリキュラムを作成・実施し、指導内容や方法の見直しを図った」の割合が 48.4%となっています。

経年変化をみると「教職員の配置を工夫したり協力体制を整えたりした」の割合が、平成 25 年度から平成 27 年度にかけて増加傾向となっています。

図 VII-19 入学に際しての配慮や準備
(平成 27 年度・平成 26 年度・平成 25 年度・平成 24 年度の調査結果の比較)



※ 平成 24 年度から平成 26 年度までの調査は、「就学支援シートを活用して、保護者と情報共有を行い、学級編成や支援の参考にした」の項目なし。

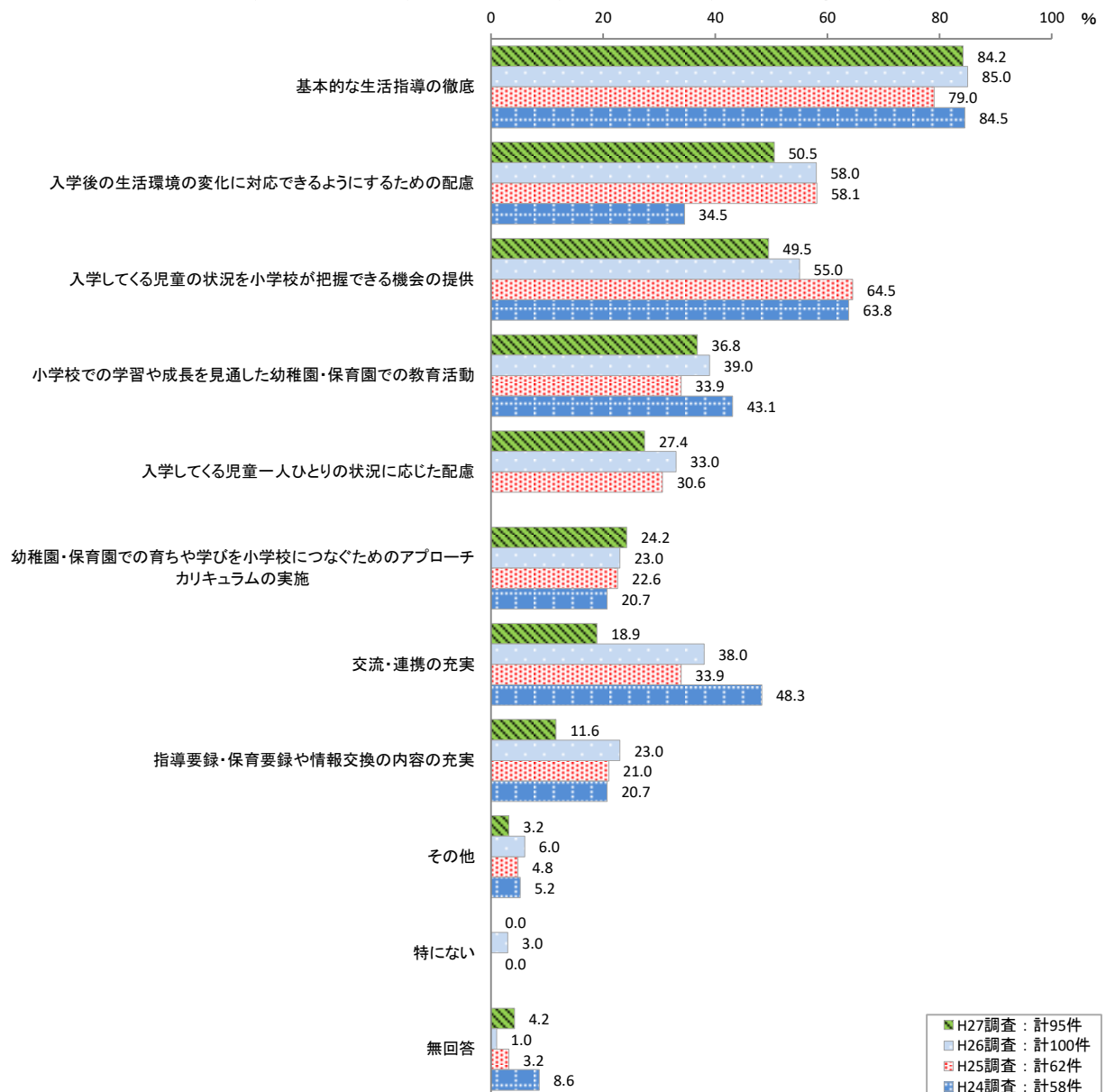
(7) 幼稚園や保育園に対して期待すること

問 19 問 14 の回答にかかわらず校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、1 年生の学年主任が回答
あなたの学校に入学する児童の出身園である幼稚園や保育園に対して、どのようなことを期待しますか。(あてはまるもの全てに○)

平成 27 年度の調査結果をみると、「基本的な生活指導の徹底」の割合が 84.2%と最も高く、次いで「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮」の割合が 50.5%、「入学してくる児童の状況を小学校が把握できる機会の提供」の割合が 49.5%となっています。

経年変化をみると「入学してくる児童の状況を小学校が把握できる機会の提供」の割合が、平成 25 年度から平成 27 年度にかけて減少傾向となっています。また、「交流・連携の充実」の割合が、平成 27 年度は平成 26 年度より 19.1 ポイント減少しています。

図 VII-20 幼稚園や保育園に対して期待すること
(平成 27 年度・平成 26 年度・平成 25 年度・平成 24 年度の調査結果の比較)



※ 平成 24 年度調査は「入学してくる児童一人ひとりの状況に応じた配慮」、「特にない」の項目なし。

4 中学校進学に向けた取組について

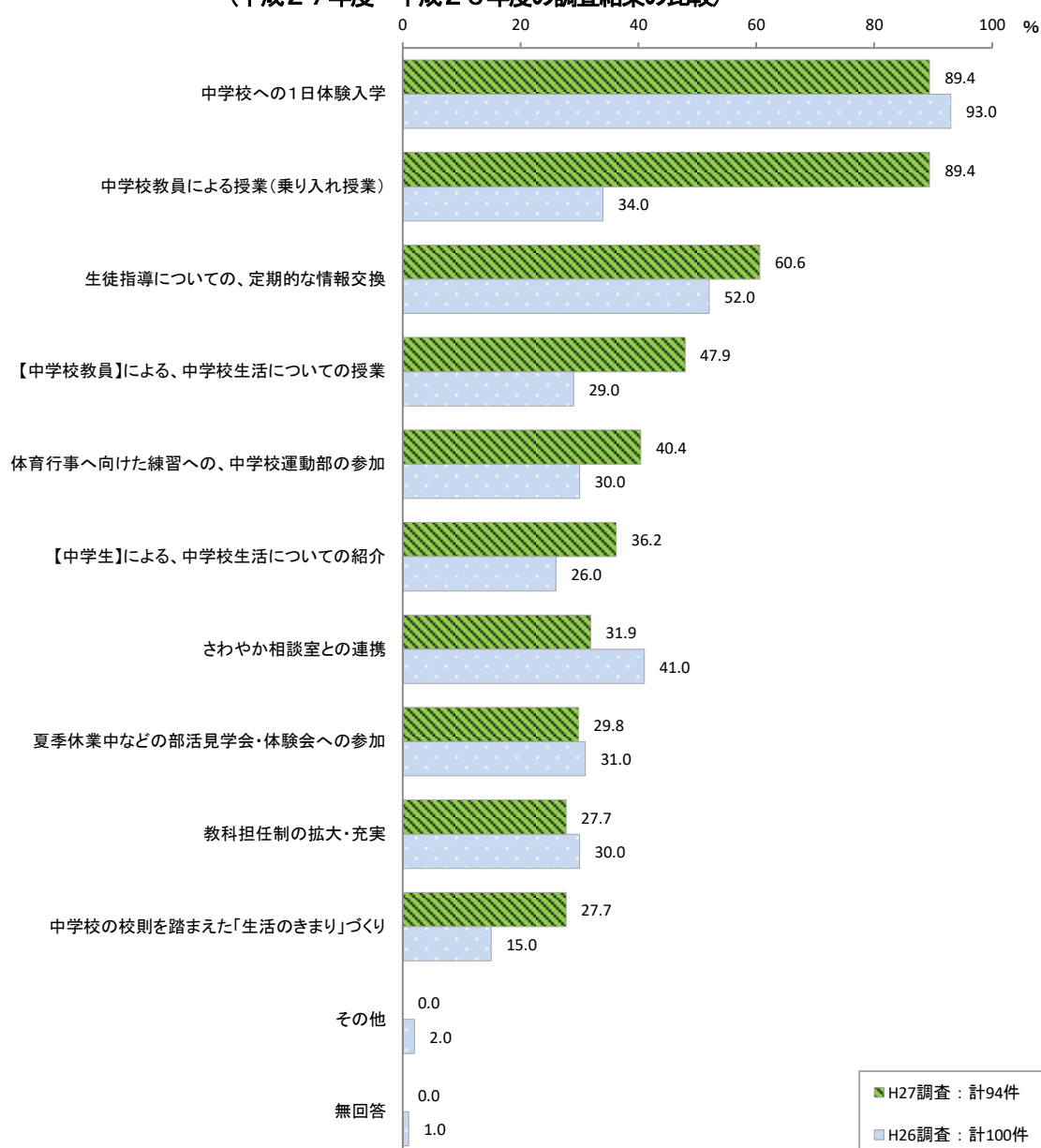
(1) 中学校進学に向けて行っている具体的な取組

問 20 **校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、6年生の学年主任が回答** あなたの学校では、中学校進学に向けて、生徒指導や教科指導などにおける具体的な取組として、どのようなことを行っていますか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「中学校への1日体験入学」、「中学校教員による授業（乗り入れ授業）」の割合がそれぞれ89.4%と最も高く、次いで「生徒指導についての、定期的な情報交換」の割合が60.6%、「【中学校教員】による、中学校生活についての授業」の割合が47.9%となっています。

経年変化をみると「中学校教員による授業（乗り入れ授業）」の割合が、平成27年度は平成26年度より55.4ポイント増加しています。

図 VII-21 中学校進学に向けて行っている具体的な取組
(平成27年度・平成26年度の調査結果の比較)



※ 「中学校教員による授業（乗り入れ授業）」は、平成26年度調査の「中学校教員を迎えてのティームティーチングによる授業」と比較している。

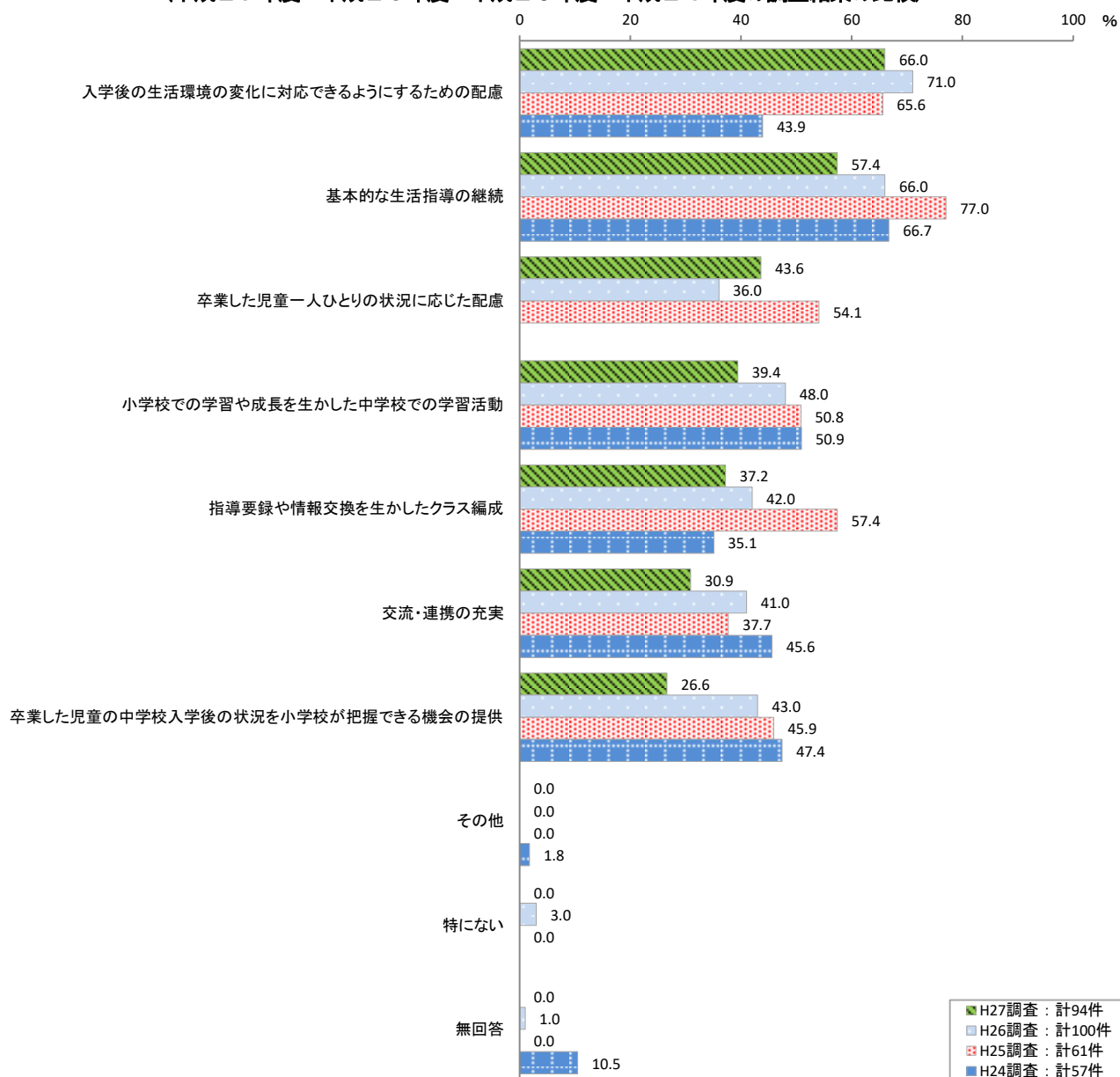
(2) 中学校に対して期待すること

問21 校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、6年生の学年主任が回答 あなたの学校を卒業する児童が進学する中学校に対して、どのようなことを期待しますか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮」の割合が66.0%と最も高く、次いで「基本的な生活指導の継続」の割合が57.4%、「卒業した児童一人ひとりの状況に応じた配慮」の割合が43.6%となっています。

経年変化をみると「基本的な生活指導の継続」、「小学校での学習や成長を生かした中学校での学習活動」、「指導要録や情報交換を生かしたクラス編成」、「小学校での学習や成果を生かした中学校での学習活動」、「卒業した児童の中学校入学後の状況を小学校が把握できる機会の提供」の割合が、平成25年度から平成27年度にかけて減少傾向となっています。

図 VII-22 中学校に対して期待すること
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は「卒業した児童一人ひとりの状況に応じた配慮」、「特にない」の項目なし。

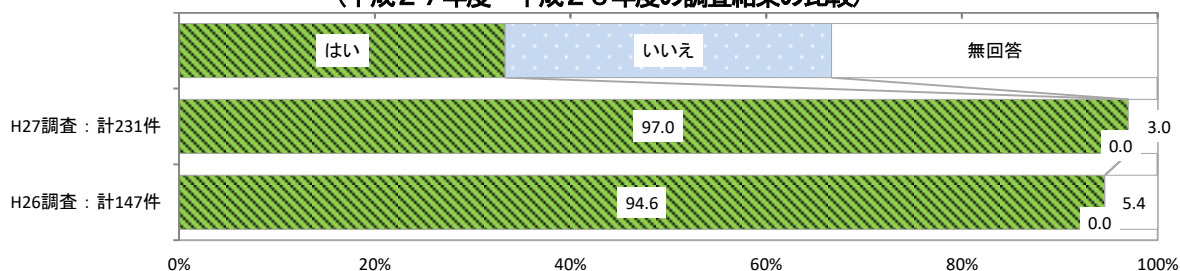
5 家庭教育への支援について

(1) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について

問 22 子どもたちの育ちを支えるために、家庭との連携や、家庭教育を支援する必要性を感じますか。(○は1つだけ)

平成27年度の調査結果をみると、「はい」の割合が97.0%となっています。
経年変化は特にみられません。

図 VII-23 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について
(平成27年度・平成26年度の調査結果の比較)

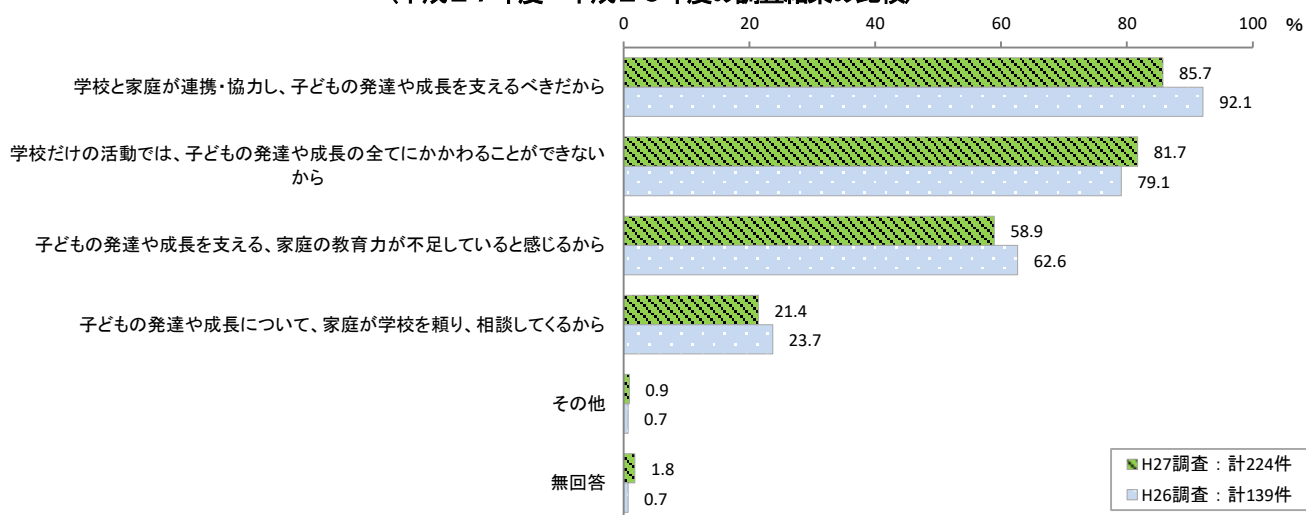


(2) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由

問 23 問22で「はい」と答えた教職員が回答 家庭との連携や家庭教育を支援する必要性を感じる理由は何ですか。
(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「学校と家庭が連携・協力し、子どもの発達や成長を支えるべきだから」の割合が85.7%と最も高く、次いで「学校だけの活動では、子どもの発達や成長の全てにかかわることができないから」の割合が81.7%、「子どもの発達や成長を支える、家庭の教育力が不足していると感じるから」の割合が58.9%となっています。
経年変化は特にみられません。

図 VII-24 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由
(平成27年度・平成26年度の調査結果の比較)



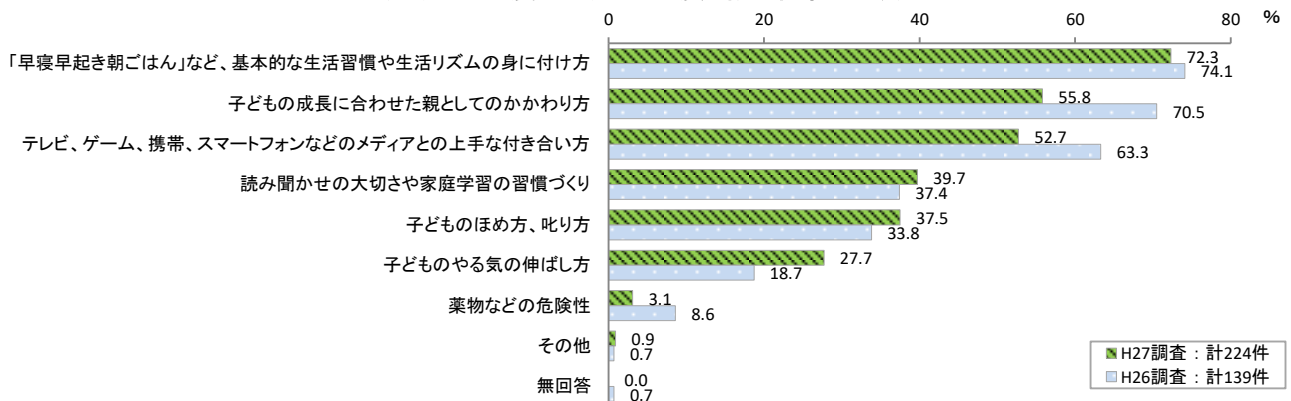
(3) 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組

問 24 問 22 で「はい」と答えた教職員が回答 家庭教育への支援を行う場合、具体的に、特に、どのような内容について、保護者に対し支援を行いたいですか。(○は3つまで)

平成27年度の調査結果をみると、「早寝早起き朝ごはん」など、基本的な生活習慣や生活リズムの身に付け方が72.3%と最も高く、次いで「子どもの成長に合わせた親としてのかかわり方」の割合が55.8%、「テレビ、ゲーム、携帯、スマートフォンなどのメディアとの上手な付き合い方」の割合が52.7%となっています。

経年変化をみると「子どもの成長に合わせた親としてのかかわり方」、「テレビ、ゲーム、携帯、スマートフォンなどのメディアとの上手な付き合い方」の割合が、平成27年度は平成26年度より10.0ポイント以上減少しています。

図 VII-25 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組
(平成27年度・平成26年度の調査結果の比較)



※ 問24は3つより多い回答が多数のため、複数回答として集計した。

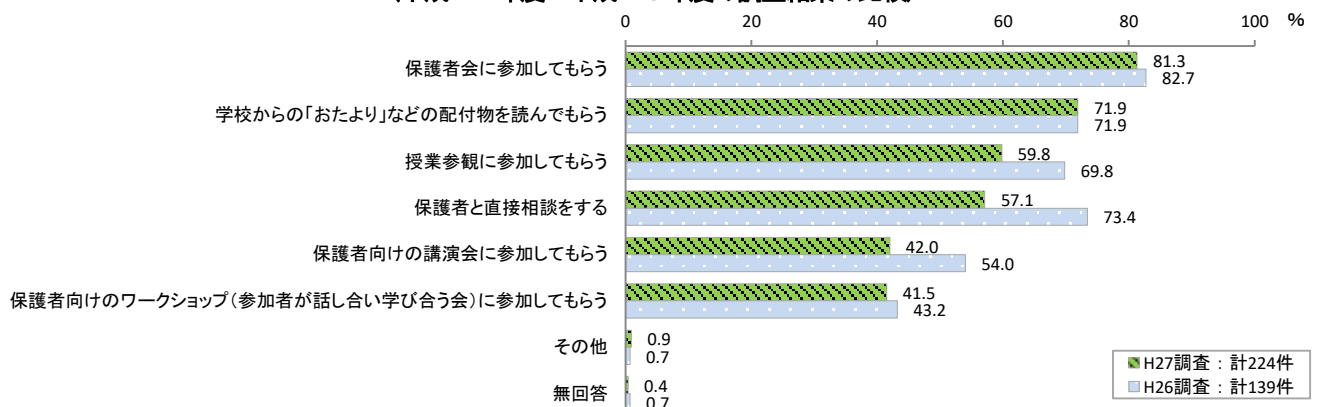
(4) 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法

問 25 問 22 で「はい」と答えた教職員が回答 家庭との連携や家庭教育を支援するために有効だと考える機会や方法などは、何ですか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「保護者会に参加してもらう」の割合が81.3%と最も高く、次いで「学校からの『おたより』などの配付物を読んでもらう」の割合が71.9%、「授業参観に参加してもらう」の割合が59.8%となっています。

経年変化をみると「授業参観に参加してもらう」、「保護者と直接相談をする」、「保護者向けの講演会に参加してもらう」の割合が、平成27年度は平成26年度より10.0ポイント以上減少しています。

図 VII-26 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法
(平成27年度・平成26年度の調査結果の比較)



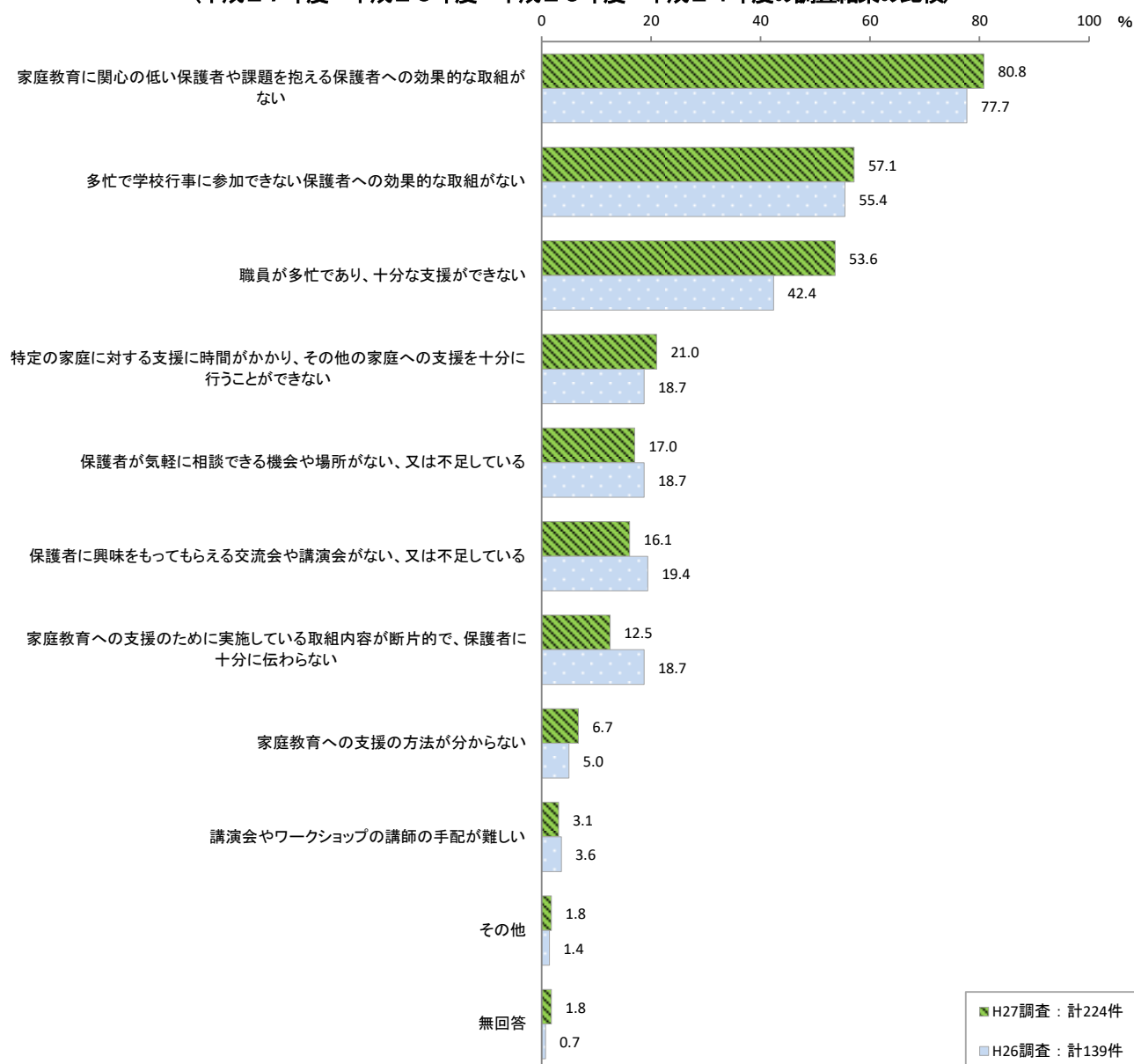
(5) 家庭との連携・家庭教育への支援での課題

問 26 問 2 2 で「はい」と答えた教職員が回答 家庭との連携や家庭教育への支援を行う上での課題は何ですか。
(あてはまるもの全てに○)

平成 2 7 年度の調査結果をみると、「家庭教育に関心の低い保護者や課題を抱える保護者への効果的な取組がない」の割合が 80. 8%と最も高く、次いで「多忙で学校行事に参加できない保護者への効果的な取組がない」の割合が 57. 1%、「職員が多忙であり、十分な支援ができない」の割合が 53. 6%となっています。

経年変化をみると「職員が多忙であり、十分な支援ができない」の割合が、平成 2 7 年度は平成 2 6 年度より 11. 2 ポイント増加しています。

図 VII-27 家庭との連携・家庭教育への支援での課題
(平成 2 7 年度・平成 2 6 年度・平成 2 5 年度・平成 2 4 年度の調査結果の比較)



6 自由記述

最後に、あなたの学校や地域での交流・連携の取組状況、子ども教育の連携推進事業、草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

対象となる回収数 231 件中、42 件に記述がありました（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 42 件より多くなっています。）

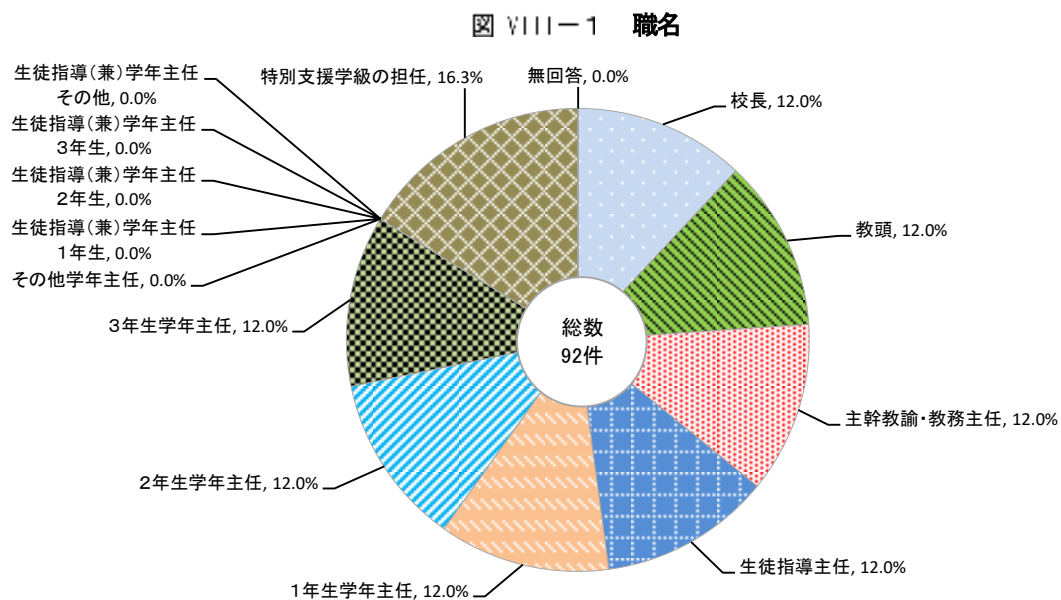
項目	件数
園・校間の連携に関すること	25
交流・連携を継続、充実していくことが大切	6
教員・保育士同士の交流・連携	2
小学校の見学・体験	1
教員・保育士の相互入れ替え交流があるとよい	1
交流・連携で小学校との温度差がある	1
交流・連携を積極的・継続的に取り組んでいきたい	2
教育に支障が出ないように、無理なく継続できる連携がよい	1
行政が交流・連携に積極的に取り組んでほしい	5
中学校への受け渡しがスムーズになるよう連携していきたい	1
交流・連携がなぜ必要なのか共通理解をすることが大切	2
連携が着実に進められている、効果が出ていると感じている	3
地域との交流・連携が大切	1
家庭・保護者との交流・連携の推進	4
少人数クラスにしてほしい	1
特別支援教育の充実	9
教員の負担を軽減してほしい	2
その他	2

VIII 中学校：教員

1 基本情報

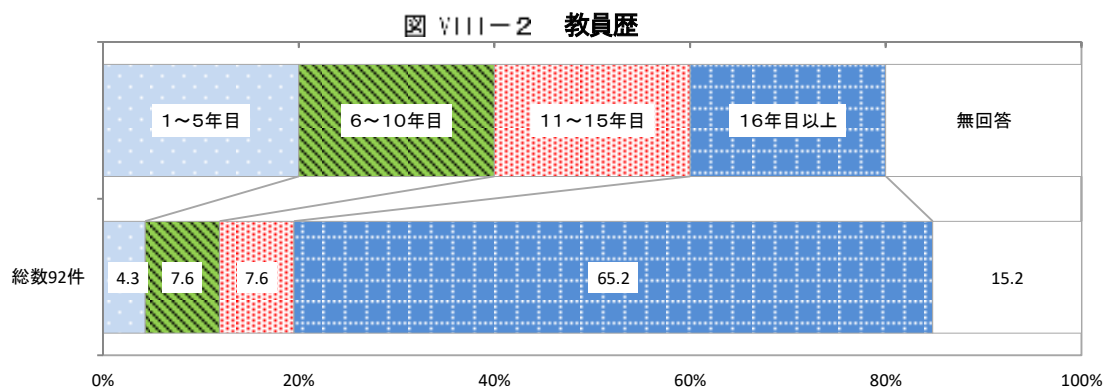
(1) 職名

回答者の職名の割合は以下のとおりです。



(2) 教員歴

「16年目以上」の割合が65.2%と最も高く、次いで「6～10年目」、「11～15年目」の割合がそれぞれ7.6%、「1～5年目」の割合が4.3%となっています。



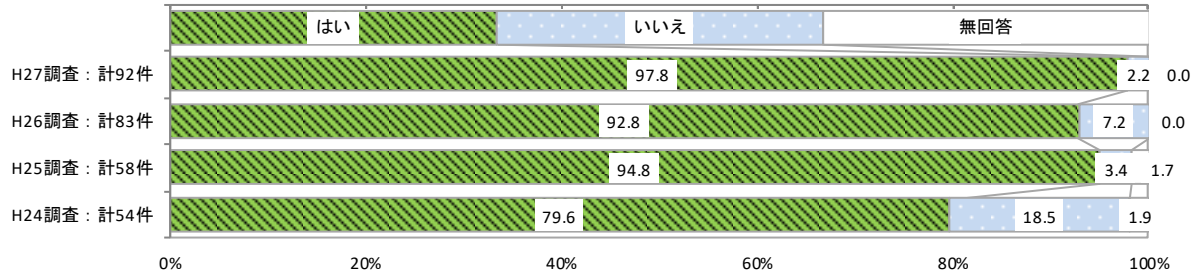
2 幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について

(1) 幼稚園・保育園・小学校・他の中学校との交流・連携の実施状況

問1 あなたの学校では、昨年度（平成26年度）に、1カ所以上の幼稚園・保育園・小学校・中学校と、問4の選択肢にあるような交流・連携を行いましたか。（○は1つだけ）

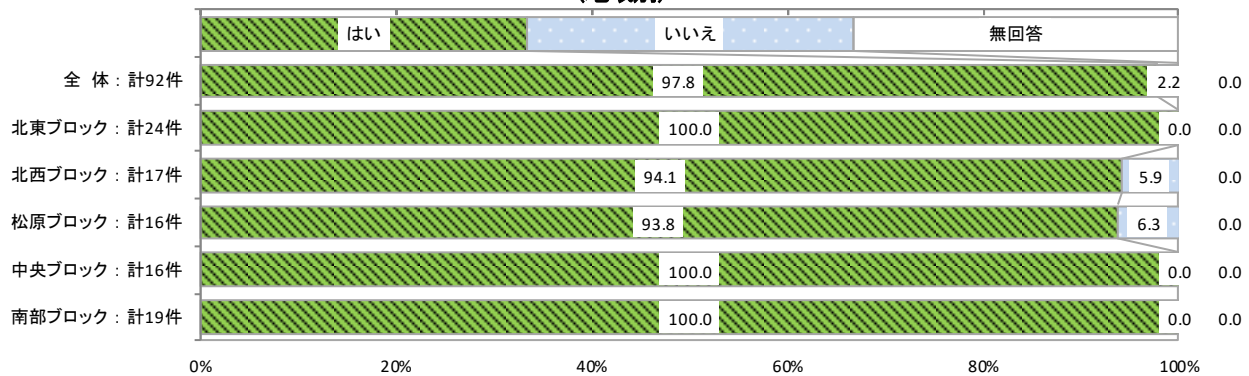
平成27年度の調査結果をみると、「はい」の割合が97.8%、「いいえ」の割合が2.2%となっています。経年変化をみると「はい」の割合が、平成25年度から平成27年度にかけてほぼ横ばいとなっています。

図 VIII-3 幼稚園・保育園・小学校・他の中学校の交流・連携の実施状況
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



地域別の交流・連携の実施状況は以下のとおりです。

図 VIII-4 幼稚園・保育園・小学校・他の中学校との交流・連携の実施状況
(地域別)



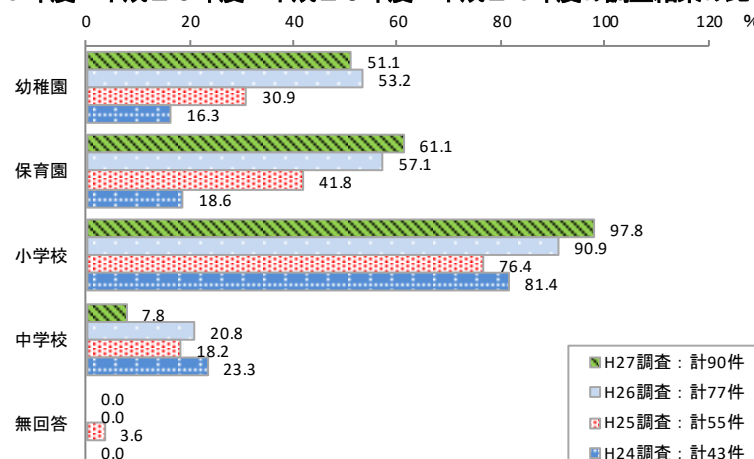
(2) 交流・連携の相手方

問2 問1で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携の相手方はどこでしたか。（あてはまるもの全てに○と相手方の数を記入）

平成27年度の調査結果をみると、「小学校」の割合が97.8%と最も高く、次いで「保育園」の割合が61.1%、「幼稚園」の割合が51.1%となっています。

経年変化をみると「保育園」、「小学校」の割合が、平成25年度から平成27年度にかけて増加傾向となっています。

図 VIII-5 交流・連携の相手方
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



(3) 交流・連携の参加者

問3 問1で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携に参加したのは次のうち誰でしたか。(あてはまるもの全てに○)

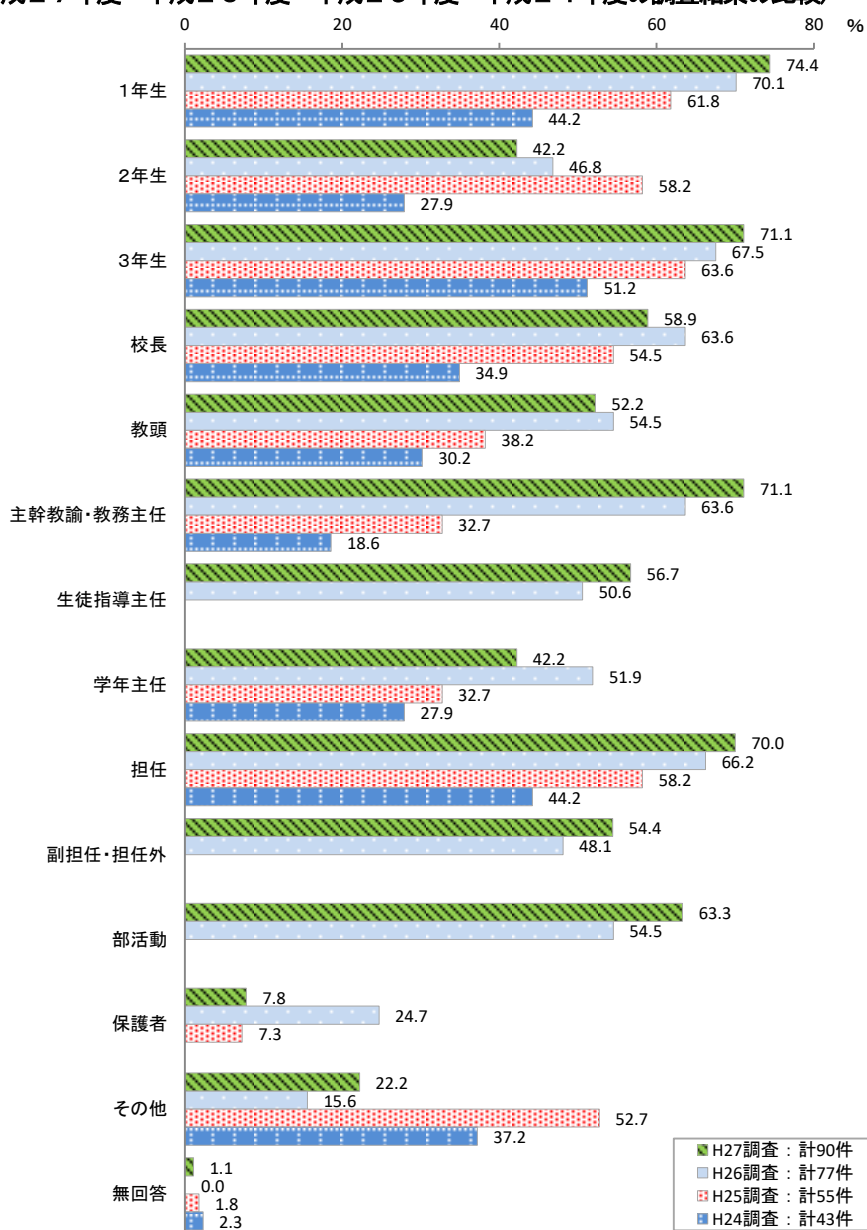
平成27年度の調査結果をみると、児童では、「1年生」の割合が74.4%と最も高く、次いで「3年生」の割合が71.1%、「2年生」の割合が42.2%となっています。

教職員等では、「主幹教諭・教務主任」の割合が71.1%と最も高く、次いで「担任」の割合が70.0%、「部活動」の割合が63.3%となっています。

経年変化をみると児童では、「1年生」、「3年生」の割合が平成24年度から平成27年度にかけて増加傾向となっています。一方、「2年生」の割合が平成25年度から平成27年度にかけて減少傾向となっています。

教職員等では、「主幹教諭・教務主任」、「担任」の割合が平成24年度から平成27年度にかけて増加傾向となっています。一方、「保護者」の割合が、平成27年度は平成26年度より16.9ポイント減少しています。

図 VIII-6 交流・連携の参加者
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成25年度調査以前は「生徒指導主任」、「副担任・担任外」、「部活動」の項目なし。平成24年度調査は「保護者」の項目なし。「主幹教諭・教務主任」は、平成25年度調査以前の「教務主任」と比較している。

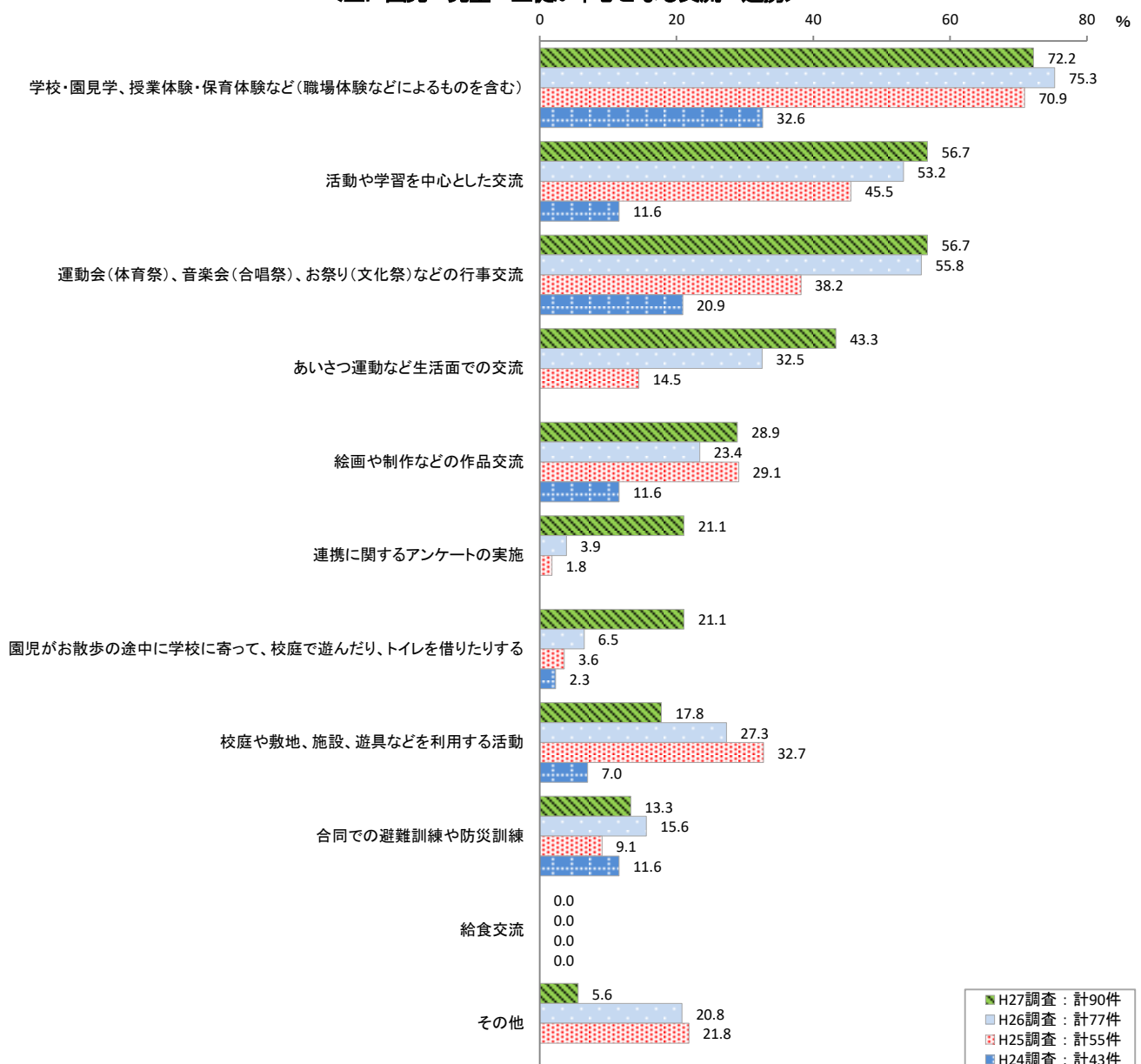
(4) 交流・連携の内容

問4 問1で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携の内容はどのようなものでしたか。(あてはまるもの全てに○)

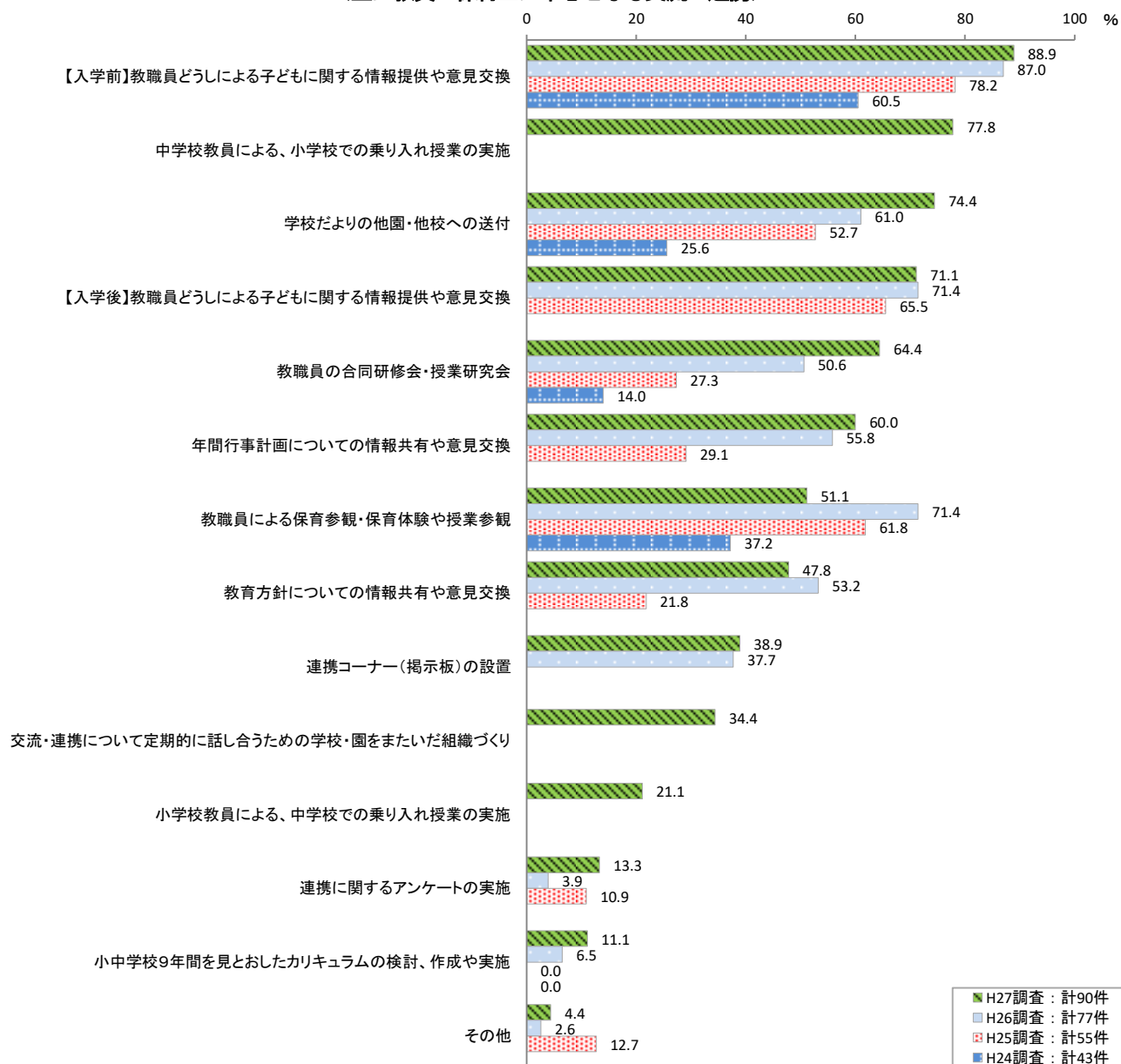
平成27年度の調査結果をみると、「【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」の割合が88.9%と最も高く、次いで「学校公開・授業参観」の割合が80.0%、「中学校教員による、小学校での乗り入れ授業の実施」の割合が77.8%となっています。

経年変化をみると「あいさつ運動など生活面での交流」、「連携に関するアンケートの実施」、「園児がお散歩の途中に学校に寄って、校庭で遊んだり、トイレを借りたりする」、「学校だよりの他園・他校への送付」、「教職員の合同研修会・授業研究会」、「学校公開・授業参観」の割合が、平成27年度は平成26年度より10.0ポイント以上増加しています。特に、「学校公開・授業参観」の割合が、平成27年度は平成26年度より21.6ポイント増加しています。一方、「教職員による保育参観・保育体験や授業参観」の割合が、平成27年度は平成26年度より20.3ポイント減少しています。

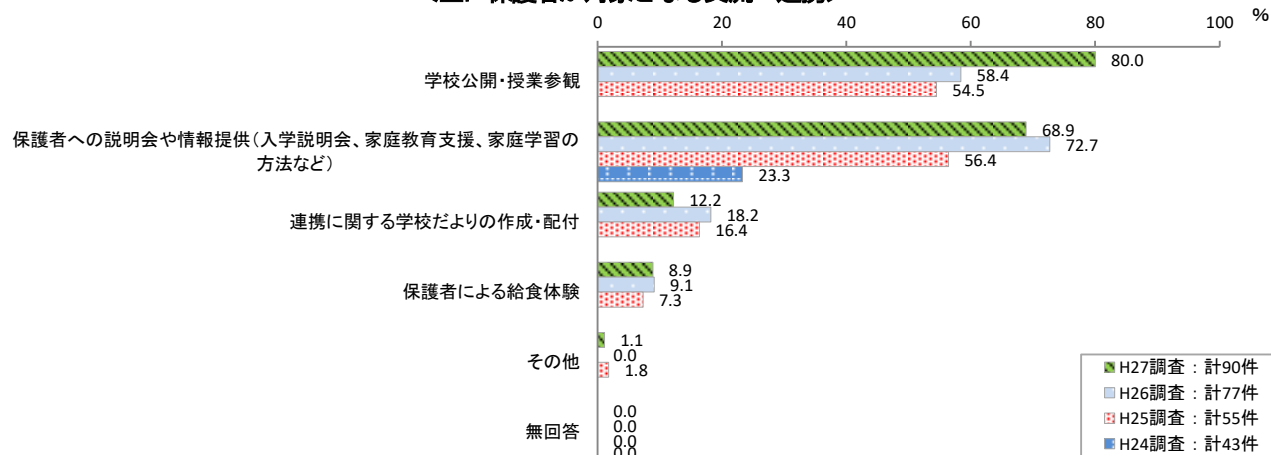
図 VIII-7 交流・連携の内容
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)
＜主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携＞



＜主に教員・保育士が中心となる交流・連携＞



＜主に保護者が対象となる交流・連携＞



※ 平成26年度調査以前は「中学校教員による、小学校での乗り入れ授業の実施」、「交流・連携について定期的に話し合うための学校・園をまたいだ組織づくり」、「小学校教員による、中学校での乗り入れ授業の実施」の項目なし。平成25年度調査以前は「連携コーナー（掲示板）の設置」は項目なし。平成25年度調査以前は比較可能な項目を抜粋・比較している。

(5) 重要な交流・連携の取組

問5 **問1で「はい」と答えた教職員が回答** 問4の選択肢に挙げられている交流・連携の内容のうち、特に重要な取組はどれだと思いますか。重要度が高いと考える順に、**問4の選択肢番号**及び重要と考える理由をご記入ください。(5つまで)

主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携では、「活動や学習を中心とした交流」、「あいさつ運動など生活面での交流」、「学校・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」の件数が多くなっています。

主に教員・保育士が中心となる交流・連携では、「【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」、「教職員の合同研修会・授業研究会」、「中学校教員による、小学校での乗り入れ授業の実施」の件数が多くなっています。

主に保護者が対象となる交流・連携では、「学校公開・授業参観」、「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）」の件数が多くなっています。

表 VIII-1 重要な交流・連携の取組

単位：件

交流・連携の内容			重要度 1	重要度 2	重要度 3	重要度 4	重要度 5	合計
主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携	1	活動や学習を中心とした交流	10	1	4	4	1	20
	2	あいさつ運動など生活面での交流	0	9	3	3	2	17
	3	運動会（体育祭）、音楽会（合唱祭）、お祭り（文化祭）などの行事交流	5	4	2	1	0	12
	4	絵画や制作などの作品交流	0	1	1	0	0	2
	5	給食交流	0	0	0	0	0	0
	6	合同での避難訓練や防災訓練	1	0	0	0	0	1
	7	学校・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）	8	7	1	0	0	16
	8	連携に関するアンケートの実施	0	0	0	0	0	0
	9	校庭や敷地、施設、遊具などを利用する活動	0	1	3	0	0	4
	10	園児がお散歩の途中に学校に寄って、校庭で遊んだり、トイレを借りたりする	0	0	1	0	0	1
	11	その他	1	0	0	0	1	2
主に教員・保育士が中心となる交流・連携	12	中学校教員による、小学校での乗り入れ授業の実施	10	7	5	3	0	25
	13	小学校教員による、中学校での乗り入れ授業の実施	1	3	3	1	0	8
	14	教育方針についての情報共有や意見交換	1	1	4	2	1	9
	15	年間行事計画についての情報共有や意見交換	1	4	0	2	1	8
	16	学校だよりの他園・他校への送付	0	0	1	2	2	5
	17	連携コーナー（掲示板）の設置	0	0	0	0	1	1
	18	【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換	29	6	5	4	0	44
	19	【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換	1	10	4	3	2	20
	20	教職員による保育参観・保育体験や授業参観	1	1	0	0	0	2
	21	交流・連携について定期的に話し合うための学校・園をまたいだ組織づくり	5	1	3	7	1	17
	22	教職員の合同研修会・授業研究会	9	8	5	5	9	36
	23	連携に関するアンケートの実施	0	0	0	0	2	2
	24	小中学校9年間を見とおしたカリキュラムの検討、作成や実施	0	2	4	1	1	8
	25	その他	0	0	0	0	0	0
主に保護者が対象となる交流・連携	26	保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）	2	2	1	0	3	8
	27	学校公開・授業参観	0	3	4	1	5	13
	28	保護者による給食体験	0	0	0	0	0	0
	29	連携に関する学校だよりの作成・配付	0	0	0	0	0	0
	30	その他	0	0	0	0	0	0

【重要と考える理由】

主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携、主に教員・保育士が中心となる交流・連携、主に保護者が対象となる交流・連携のそれぞれについて、合計件数が多かった上位3位の理由は以下のようになっています。

(主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携)

① 活動や学習を中心とした交流 (20 件)

記述があったのは18件でした。

項目	件数
児童生徒が直接交流でき、つながりができるから	7
それぞれの学齢の行動や接し方を学ぶ良い機会となるから	3
部活動について関心をもっている児童が多いから	3
「中1ギャップ」解消のため	1
その他	4

② あいさつ運動など生活面での交流 (17 件)

記述があったのは15件でした (1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は15件より多くなっています)。

項目	件数
異年齢集団との交流により自己肯定感を高められるから	3
中学生への憧れをもてるようになるから	3
実現可能で取り組みやすいから	3
それぞれの学齢の行動や接し方を学ぶ良い機会となるから	3
日常生活の基本であるあいさつで連携が推進されるから	3
その他	2

③ 学校・園見学、授業体験・保育体験など (職場体験などによるものを含む) (16 件)

記述があったのは16件でした (1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は16件より多くなっています)。

項目	件数
実際に体験することが良い経験になるから	6
子どもどうしの交流が深まるため	4
子ども理解のため	3
生徒の様子が把握できるから	2
キャリア教育の一環としているから	1
その他	2

(主に教員・保育士が中心となる交流・連携)

① 【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換 (44 件)

記述があったのは41件でした (1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は41件より多くなっています)。

項目	件数
情報共有・共通理解ができるから	9
学級編成に生かすため	8
適切な指導ができるから	8
入学前の児童の実態を知ることができるから	7
生徒の理解を深められるから	3
「中1ギャップ」の解消のため	3
一人ひとりの生徒の支援に役立たせることができるから	2
その他	4

VIII 中学校：教員

② 教職員の合同研修会・授業研究会（36 件）

記述があったのは 34 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 34 件より多くなっています）。

項目	件数
お互いを理解し、共通認識をもつことが必要だから	16
教員どうしの交流ができ、より連携体制が強くなるから	11
教員の授業力向上につながるから	3
9 年間を一貫した教育活動とするため	2
情報共有ができるから	2
その他	3

③ 中学校教員による、小学校での乗り入れ授業の実施（25 件）

記述があったのは 23 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 23 件より多くなっています）。

項目	件数
入学前の生徒の実態を知ることができるから	8
中学校入学への不安を軽減させるため	7
中学校の様子を知ることができるから	4
「中 1 ギャップ」の解消のため	3
その他	3

（主に保護者が対象となる交流・連携）

① 学校公開・授業参観（13 件）

記述があったのは 12 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 12 件より多くなっています）。

項目	件数
学校の様子を知ってもらうため	6
保護者の学校理解を図るため	5
その他	3

② 保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）（8 件）

記述があったのは 8 件でした。

項目	件数
保護者と連携を図るため	2
中学校の様子を知ってもらうため	2
保護者の不安を解消するため	2
保護者の学校理解を図るため	1
その他	1

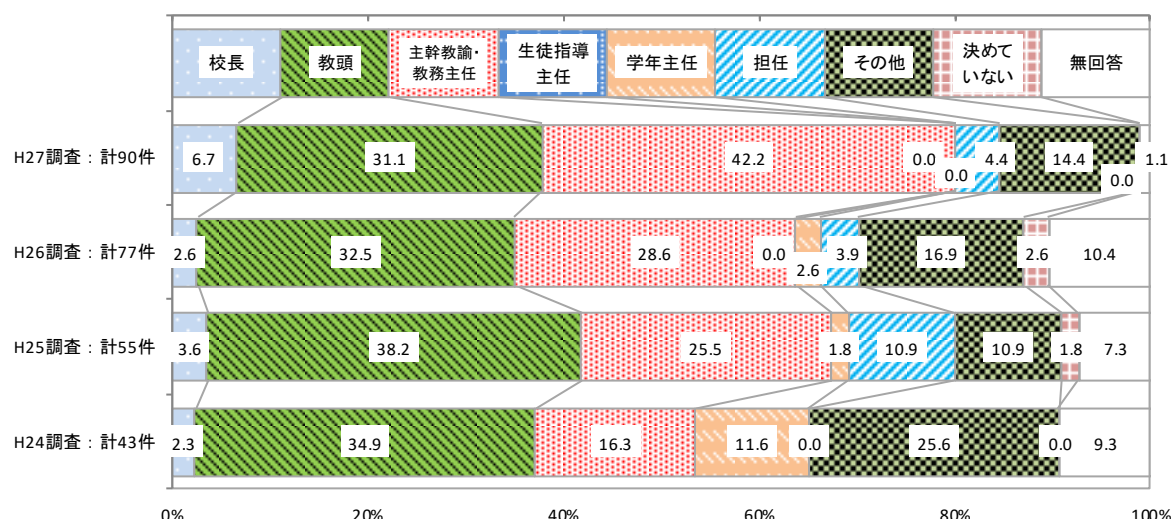
(6) 交流・連携の窓口の主な担当者

問6 問1で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携の窓口は、主にどなたが担当していますか。(〇は1つだけ)

平成27年度の調査結果をみると、「主幹教諭・教務主任」の割合が42.2%と最も高く、次いで「教頭」の割合が31.1%、「校長」の割合が6.7%となっています。

経年変化をみると「主幹教諭・教務主任」の割合が、平成27年度は平成26年度より13.6ポイント増加しています。一方、「学年主任」の割合が、平成24年度から平成27年度にかけて減少傾向となっています。

図 VIII-8 交流・連携の窓口の主な担当者
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



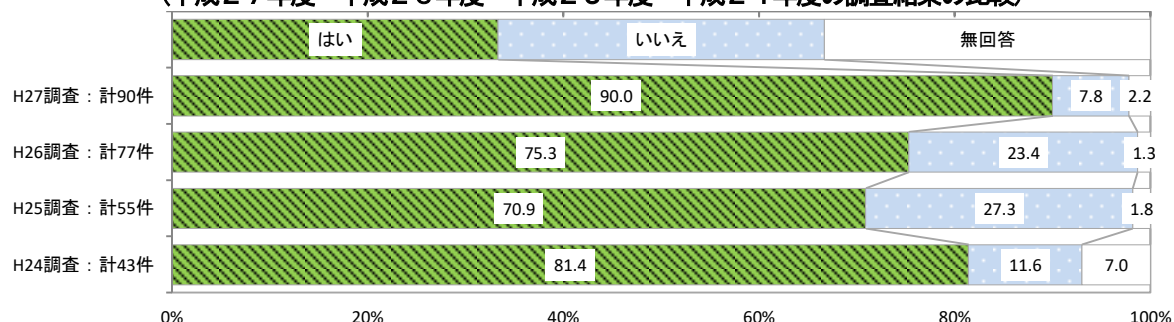
※ 平成25年度調査以前は「生徒指導主任」の項目なし。「主幹教諭・教務主任」は、平成25年度調査以前の「教務主任・主任」と比較している。

(7) 交流・連携の窓口の担当者の固定化

問7 問1で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携の窓口の担当者は、固定して（校内で決まって）いますか。(〇は1つだけ)

平成27年度の調査結果をみると、「はい」の割合が90.0%、「いいえ」の割合が7.8%となっています。経年変化をみると「はい」の割合が、平成25年度から平成27年度にかけて増加傾向となっています。

図 VIII-9 交流・連携の窓口の担当者の固定化
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



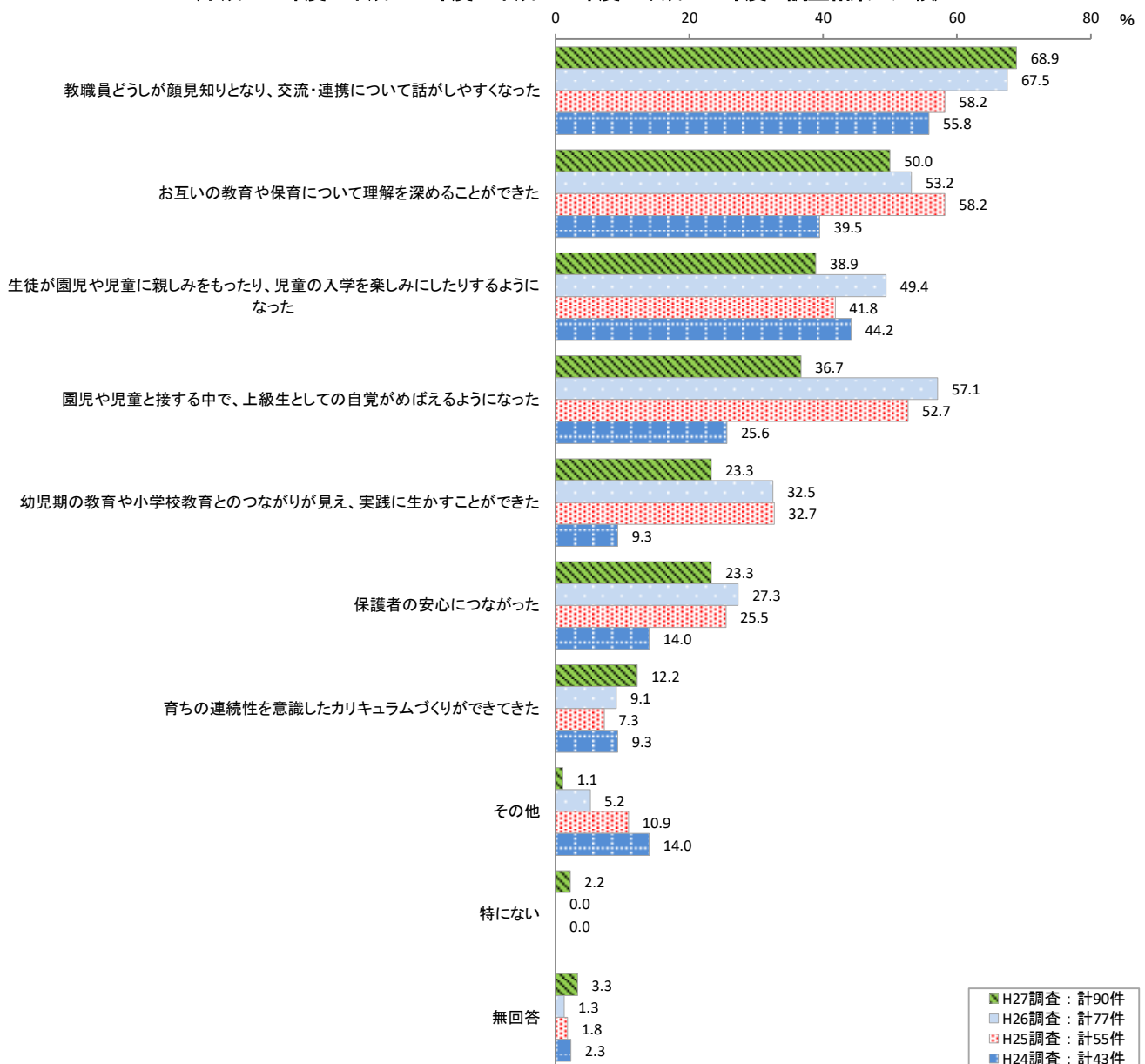
(8) 交流・連携を行って良かった点

問8 問1で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携を行って良かった点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携について話がしやすくなった」の割合が68.9%と最も高く、次いで「お互いの教育や保育について理解を深めることができた」の割合が50.0%、「生徒が園児や児童に親しみをもったり、児童の入学を楽しみにしたりするようになった」の割合が38.9%となっています。

経年変化をみると「教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携について話がしやすくなった」の割合が、平成24年度から平成27年度にかけて増加傾向となっています。一方、「お互いの教育や保育について理解を深めることができた」の割合が、平成25年度から平成27年度にかけて減少傾向となっています。また、「園児や児童と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった」の割合が、平成27年度は平成26年度より20.4ポイント減少しています。

図 VIII-10 交流・連携を行って良かった点
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は「特にない」の項目なし。

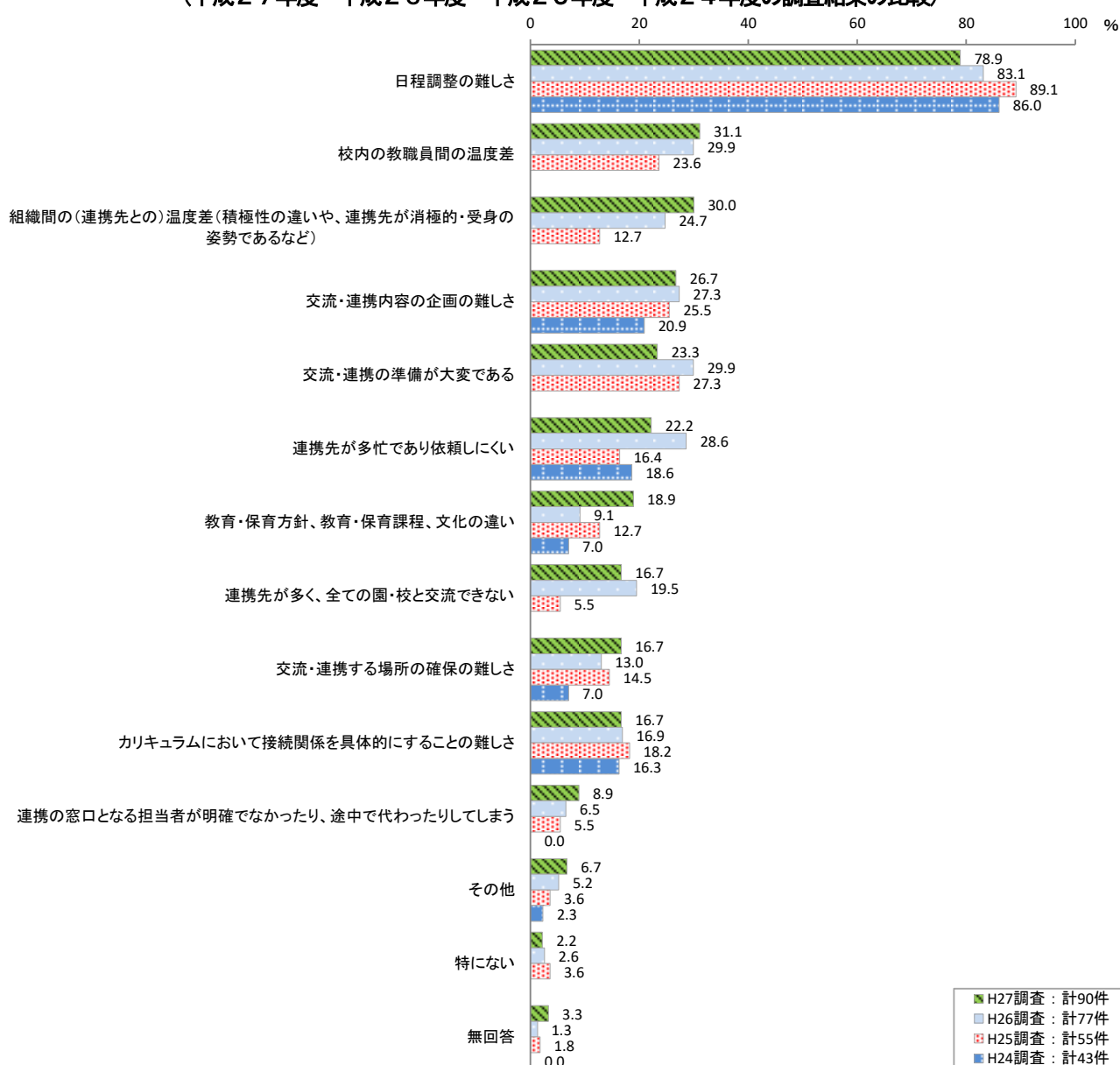
(9) 交流・連携の課題となる点

問9 問1で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携の実施にあたって課題となる点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「日程調整の難しさ」の割合が78.9%と最も高く、次いで「校内の教職員間の温度差」の割合が31.1%、「組織間の（連携先との）温度差（積極性の違いや、連携先が消極的・受身の姿勢であるなど）」の割合が30.0%となっています。

経年変化をみると全体では、「日程調整の難しさ」の割合が、依然として高い水準であるものの、平成25年度から平成27年度にかけて減少傾向となっています。一方、「組織間の（連携先との）温度差（積極性の違いや、連携先が消極的・受身の姿勢であるなど）」の割合が、平成25年度から平成27年度にかけて増加傾向となっています。

図 VIII-11 交流・連携の課題となる点
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は「連携先が多く、全ての園・校と交流できない」、「交流・連携の準備が大変である」、「特になし」の項目なし。

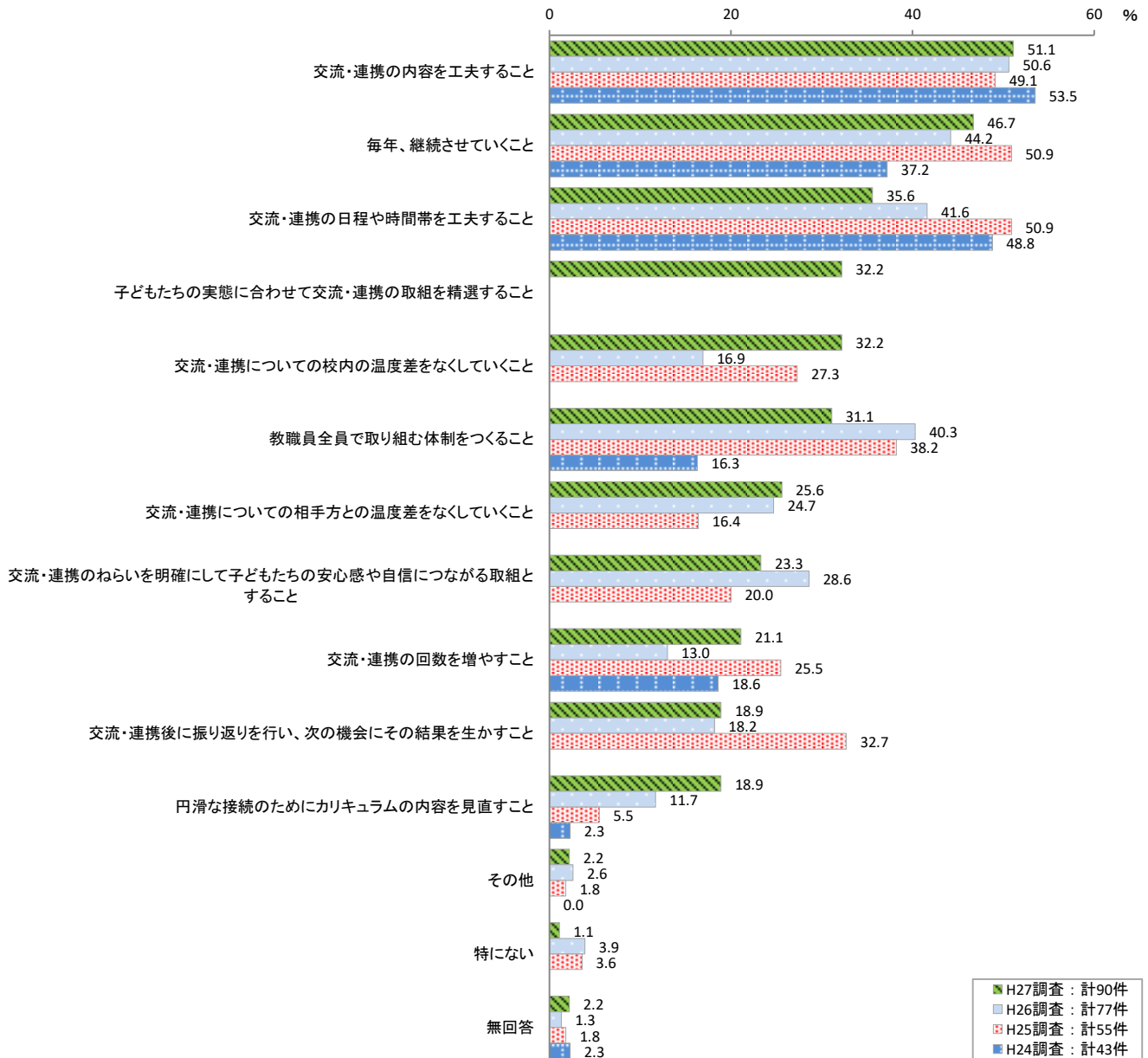
「組織間の（連携先との）温度差（積極性の違いや、連携先が消極的・受身の姿勢であるなど）」は、平成25年度調査の「組織間の温度差」と「連携先が消極的・受身の姿勢である」を合わせた値と比較している。平成24年度調査の「組織・教職員間の温度差」とは、内容が一部異なるため、比較していない。

(10) 交流・連携で改善したい点

問10 問1で「はい」と答えた教職員が回答 交流・連携の実施にあたって改善したい点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「交流・連携の内容を工夫すること」の割合が51.1%と最も高く、次いで「毎年、継続させていくこと」の割合が46.7%、「交流・連携の日程や時間帯を工夫すること」の割合が35.6%となっています。経年変化をみると「交流・連携の日程や時間帯を工夫すること」の割合が、平成25年度から平成27年度にかけて減少傾向となっています。一方、「交流・連携についての校内の温度差をなくしていくこと」の割合が、平成27年度は平成26年度より15.3ポイント増加しています。

図 VIII-12 交流・連携で改善したい点
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成26年度調査以前は「子どもたちの実態に合わせて交流・連携の取組を精選すること」の項目なし。平成24年度調査は「交流・連携のねらいを明確にして子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること」、「交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと」、「交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を生かすこと」、「交流・連携についての校内の温度差をなくしていくこと」、「特にない」の項目なし。

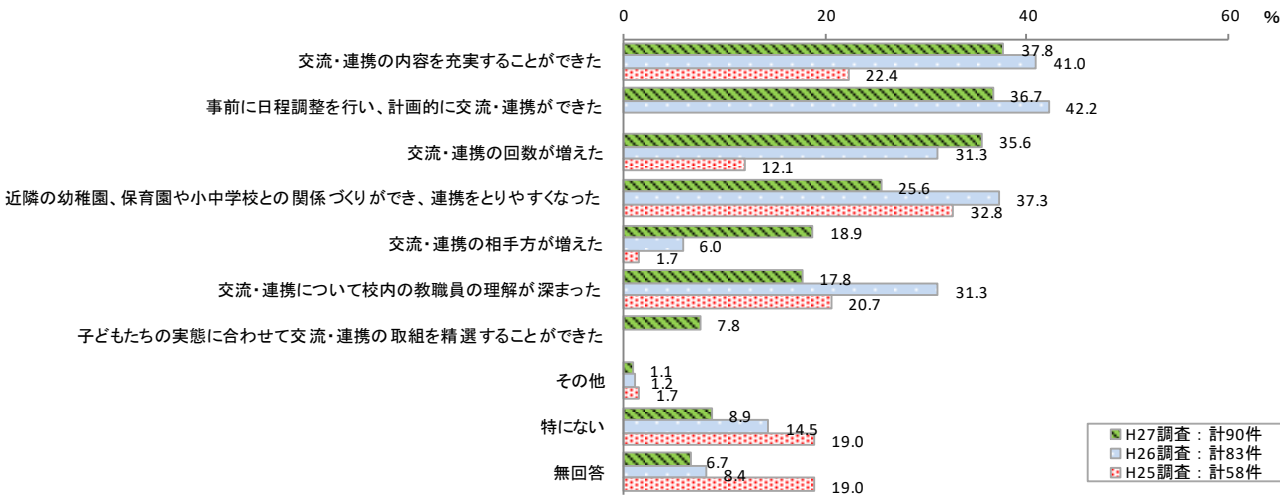
(11) 他園・校との交流・連携について改善されたこと

問 11 問 1 で「はい」と答えた教職員が回答 あなたの学校において、昨年度（平成 26 年度）当初と現在を比べて、他園・校との交流・連携について改善されたことはありますか。（あてはまるもの全てに○）

平成 27 年度の調査結果をみると、「交流・連携の内容を充実することができた」の割合が 37.8%と最も高く、次いで「事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた」の割合が 36.7%、「交流・連携の回数が増えた」の割合が 35.6%となっています。

経年変化をみると「交流・連携の回数が増えた」、「交流・連携の相手方が増えた」の割合が、平成 25 年度から平成 27 年度にかけて増加傾向となっています。一方、「近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった」、「交流・連携について校内の教職員の理解が深まった」の割合が、平成 27 年度は平成 26 年度より 11.0 ポイント以上減少しています。

図 VIII-13 他園・校との交流・連携について改善されたこと
(平成 27 年度・平成 26 年度・平成 25 年度の調査結果の比較)



※ 平成 26 年度調査以前は「子どもたちの実態に合わせて交流・連携の取組を精選することができた」の項目なし。平成 25 年度調査は「事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた」の項目なし。

(12) 交流・連携が困難な理由

問 12 問 1 で「いいえ」と答えた教職員が回答 交流・連携の実施が困難な理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

平成 27 年度の調査結果をみると、「これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない」の件数が 2 件と最も多くなっています。

経年変化は特にみられません。

表 VIII-2 交流・連携が困難な理由
(平成 27 年度・平成 26 年度・平成 25 年度・平成 24 年度の調査結果の比較)

	単位：件					
	近隣に交流・連携できる園や学校がない	日程調整が難しい	交流・連携の仕方が分からない	これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない	その他	無回答
H27 調査：計 2 件	0	1	0	2	0	0
H26 調査：計 6 件	0	3	2	3	1	0
H25 調査：計 2 件	0	0	0	1	1	0
H24 調査：計 10 件	0	7	0	3	2	1

3 「中1ギャップ」について

「中1ギャップ」とは

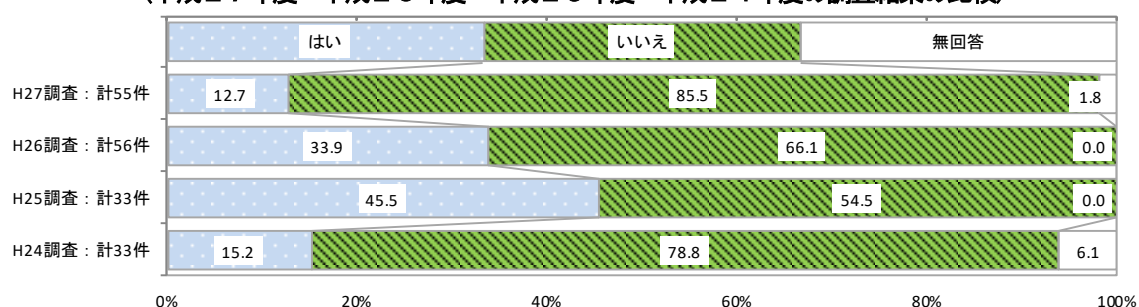
授業内容の高度化や、先輩・後輩といった上下関係など、小学校にはなかった新しい環境になじめず、不登校になったり、生活の乱れがみられたり、学習を放棄したりなどしてしまう生徒が中学生になって急増することをいいます。

(1) 「中1ギャップ」の発生状況

問13 **校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、1年生の学年主任が回答** あなたの学校では、平成27年度に「授業内容の高度化や、先輩・後輩といった上下関係など、小学校にはなかった新しい環境になじめず、不登校になったり、生活の乱れがみられたり、学習を放棄したりなどしてしまう生徒が中学生になって急増する」などの、「中1ギャップ」といわれる状況がみられますか。(○は1つだけ)

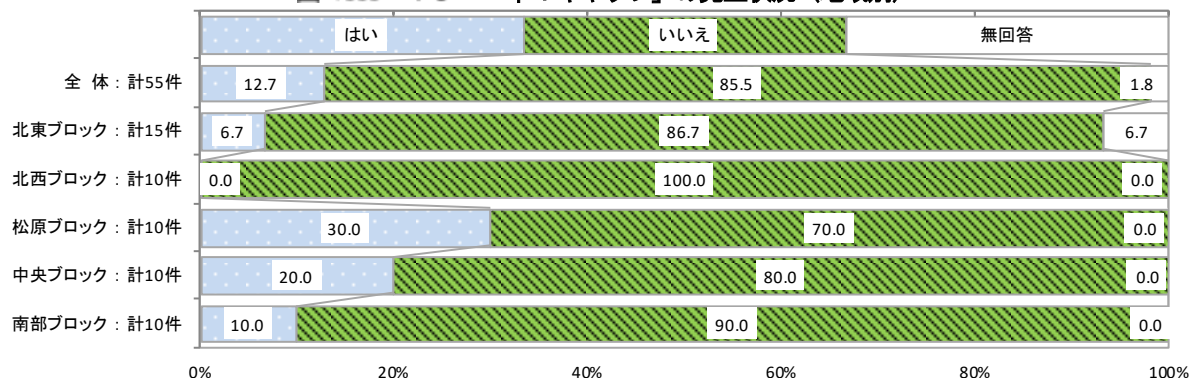
平成27年度の調査結果をみると、「はい」の割合が12.7%、「いいえ」の割合が85.5%となっています。
経年変化をみると「中1ギャップ」がみられるとする回答の割合が、平成27年度は平成26年度より21.2ポイント減少しています。

図 VIII-14 「中1ギャップ」の発生状況
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



地域別の「中1ギャップ」の発生状況は、以下のとおりとなっています。

図 VIII-15 「中1ギャップ」の発生状況（地域別）

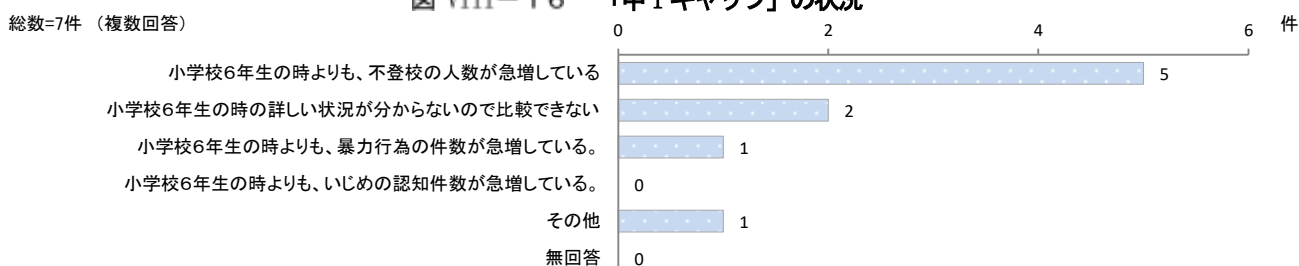


(2) 「中1ギャップ」の状況

問14 **問13で「はい」と答えた校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、1年生の学年主任が回答**
問13の「はい」という回答の理由として、平成27年度の中学校1学年の生徒にあてはまる（「中1ギャップ」が発生している）状況はどれですか。（あてはまるもの全てに○）

「小学校6年生の時よりも、不登校の人数が急増している」の件数が5件と最も多くなっています。

図 VIII-16 「中1ギャップ」の状況



(3) 「中1ギャップ」の要因

問 15 問 13で「はい」と答えた校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、1年生の学年主任が回答
「中1ギャップ」がみられる要因はどのようなことであると考えますか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「家庭の教育力が低下していること」の件数が6件と最も多くなっています。
経年結果をみると、「生徒のコミュニケーション能力が不足していたこと」、「生徒に耐性が身に付いていなかったこと」の件数が、平成27年度は平成26年度より10件以上少なくなっています。

表 VIII-3 「中1ギャップ」の要因
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

単位：件

	生徒に基本的な生活習慣が身に付いていなかったこと	生徒のコミュニケーション能力が不足していたこと	生徒に耐性が身に付いていなかったこと	生徒に、自分から物事に取り組んだり、自分で善悪を判断したりできる、自主性がまだ十分に身に付いていなかったこと	家庭の教育力が低下していること	小学校での指導方法や生徒指導が不十分であったこと	担任が、個別に支援を必要としている生徒への指導と、学級全体への指導の両方を適切にできなかったこと	担任に基本的な指導力が欠けていたこと	個別に支援を必要としている生徒に対して、学校としての支援体制が整っていないかったこと	その他	無回答
H27 調査：計7件	4	4	5	3	6	1	2	0	0	0	0
H26 調査：計19件	4	16	15	10	9	3	2	0	3	0	1
H25 調査：計15件	7	11	8	9	7	3	4	0	1	1	0
H24 調査：計5件	0	2	4	3	3	0	2	0	0	0	0

(4) 「中1ギャップ」への対応

問 16 問 13で「はい」と答えた校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、1年生の学年主任が回答
「中1ギャップ」とみられる状況に、どのように対応していますか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「学年の教職員で協力体制をとっている」の件数が7件と最も多くなっています。
経年結果をみると、「学年の教職員で協力体制をとっている」、「校長、教頭、主幹教諭・教務主任などと協力体制をとっている」の件数が、各年度とも多くなっています。

表 VIII-4 「中1ギャップ」への対応
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

単位：件

	担任1人で対応している	学年の教職員で協力体制をとっている	校長、教頭、主幹教諭・教務主任などと協力体制をとっている	保護者や地域のボランティアなどの協力体制を取り入れている	学習補助員が補助的に支援している	保健室や別の教室（さわやか相談室を含む）などで個別に対応している	公的機関・医療機関など関係諸機関と協力している	その他	無回答
H27 調査：計7件	0	7	5	0	3	5	1	0	0
H26 調査：計19件	2	18	15	1	4	13	4	0	0
H25 調査：計15件	3	14	10	1	0	8	6	1	0
H24 調査：計5件	0	4	2	0	0	1	0	0	1

(5) 「中1ギャップ」の発生の予防や解消のための対応策

問17 問13で「はい」と答えた校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、1年生の学年主任が回答
「中1ギャップ」の発生の予防や解消にはどのような対応策が効果的だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「小学校と中学校の教職員どうしの合同研修や意見交換などの充実」、「小学校と中学校の交流活動の充実（授業、部活動など）」、「1学級の人数の縮小」、「学校における組織的な協力体制の構築」の件数が4件と最も多くなっています。

経年結果をみると、「小学校における中学校との接続を見据えた教育の充実」、「小学校と中学校の教職員どうしの合同研修や意見交換などの充実」、「1学級の人数の縮小」の件数が、各年度とも多くなっています。

表 VIII-5 「中1ギャップ」の発生の予防や解消のための対応策
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)

単位：件

	小学校における中学校との 接続を見据えた教育の充実	小学校と中学校の教職員 どうしの合同研修や 意見交換などの充実	小学校と中学校の交流活動 の充実（授業、部活動など）	学級担任の補助となる 補助員などの配置	1学級の人数の縮小	学級担任の指導力の向上に かかる研修	学校における組織的な 協力体制の構築	保護者の協力体制の確立	地域の人の協力体制の確立	その他	わからない	無回答
H27 調査：計7件	3	4	4	2	4	2	4	3	1	0	0	0
H26 調査：計19件	13	12	10	6	13	7	8	7	7	1	0	0
H25 調査：計15件	10	8	12	5	12	4	9	11	2	3	0	0
H24 調査：計5件	2	2	2	1	2	0	2	0	0	1	0	2

※ 「小学校と中学校の交流活動の充実（授業、部活動など）」は、平成24年度調査の「小学校と中学校の交流活動の充実」と比較している。

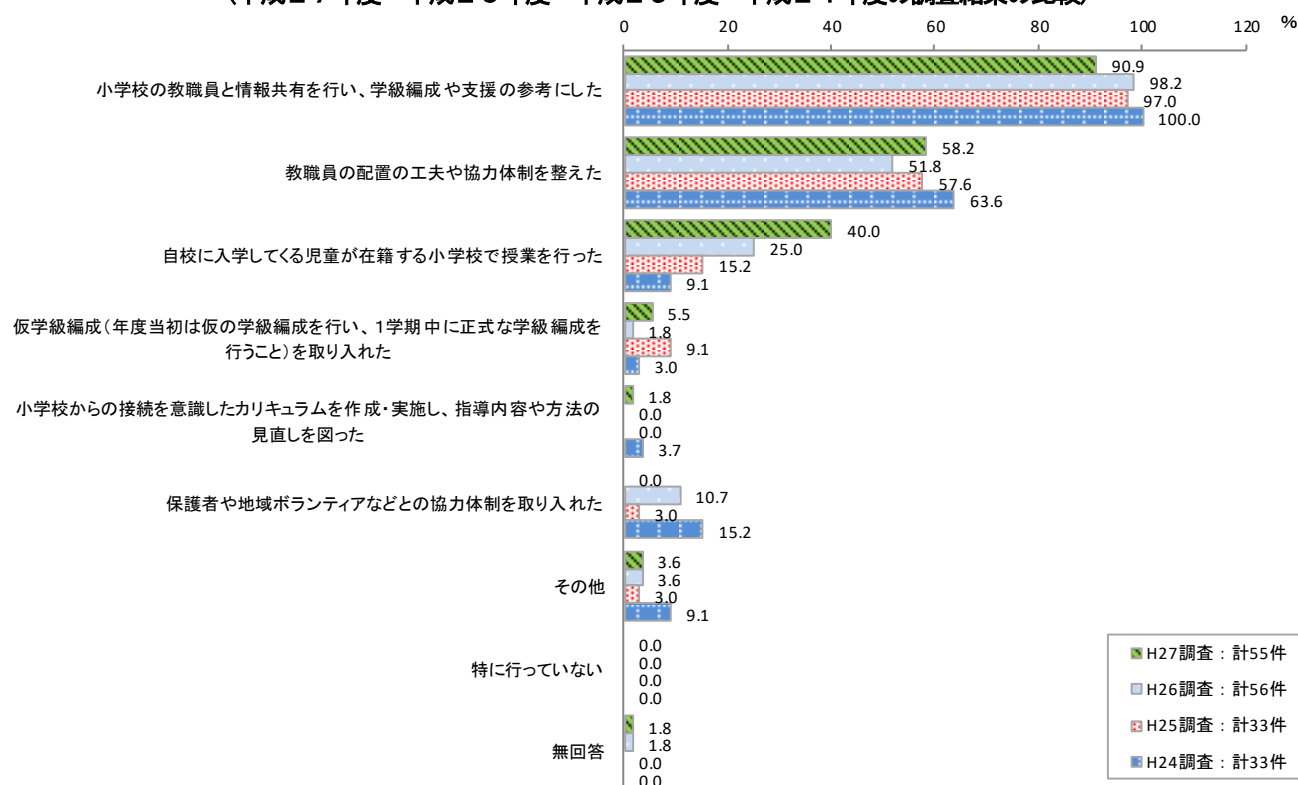
(6) 入学に際しての配慮や準備

問 18 問 13 の回答にかかわらず校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、1 年生の学年主任が回答
あなたの学校では、入学に際し、以下のような配慮や準備を何か行っていますか。(あてはまるもの全てに○)

平成 27 年度の調査結果をみると、「小学校の教職員と情報共有を行い、学級編成や支援の参考にした」の割合が 90.9%と最も高く、次いで「教職員の配置の工夫や協力体制を整えた」の割合が 58.2%、「自校に入学してくる児童が在籍する小学校で授業を行った」の割合が 40.0%となっています。

経年変化をみると「自校に入学してくる児童が在籍する小学校で授業を行った」の割合が、平成 24 年度から平成 27 年度にかけて増加傾向となっています。

図 VIII-17 入学に際しての配慮や準備
(平成 27 年度・平成 26 年度・平成 25 年度・平成 24 年度の調査結果の比較)



※ 「仮学級編成(年度当初は仮の学級編成を行い、1学期中に正式な学級編成を行うこと)を取り入れた」は、平成 25 年度調査以前の「仮学級編成を取り入れた」と比較している。

4 中学校進学に向けた取組について

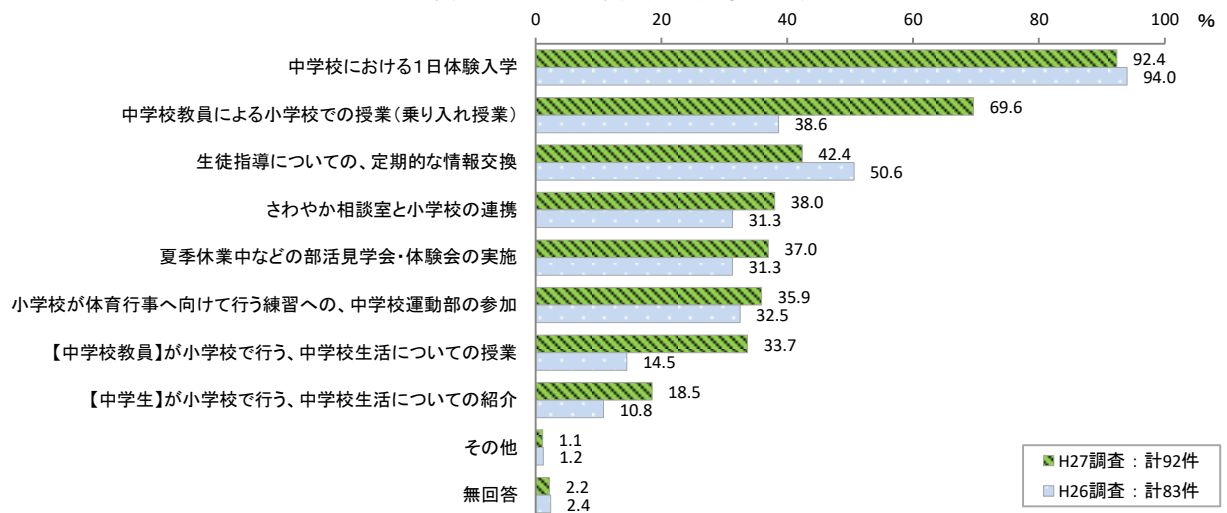
(1) 進学してくる小学生に対して行っている具体的な取組

問 19 あなたの学校では、進学してくる小学生に対する、生徒指導や教科指導などにおける具体的な取組として、どのようなことを行っていますか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「中学校における1日体験入学」の割合が92.4%と最も高く、次いで「中学校教員による小学校での授業(乗り入れ授業)」の割合が69.6%、「生徒指導についての、定期的な情報交換」の割合が42.4%となっています。

経年変化をみると「中学校教員による小学校での授業(乗り入れ授業)」の割合が、平成27年度は平成26年度より31.0ポイント増加しています。また、「【中学校教員】が小学校で行う、中学校生活についての授業」の割合が、平成27年度は平成26年度より19.2ポイント増加しています。

図 VIII-18 進学してくる小学生に対して行っている具体的な取組
(平成27年度・平成26年度の調査結果の比較)



※ 「中学校教員による小学校での授業(乗り入れ授業)」は、平成26年度調査の「中学校教員を小学校へ派遣して行う、チームティーチングによる授業」と比較している。

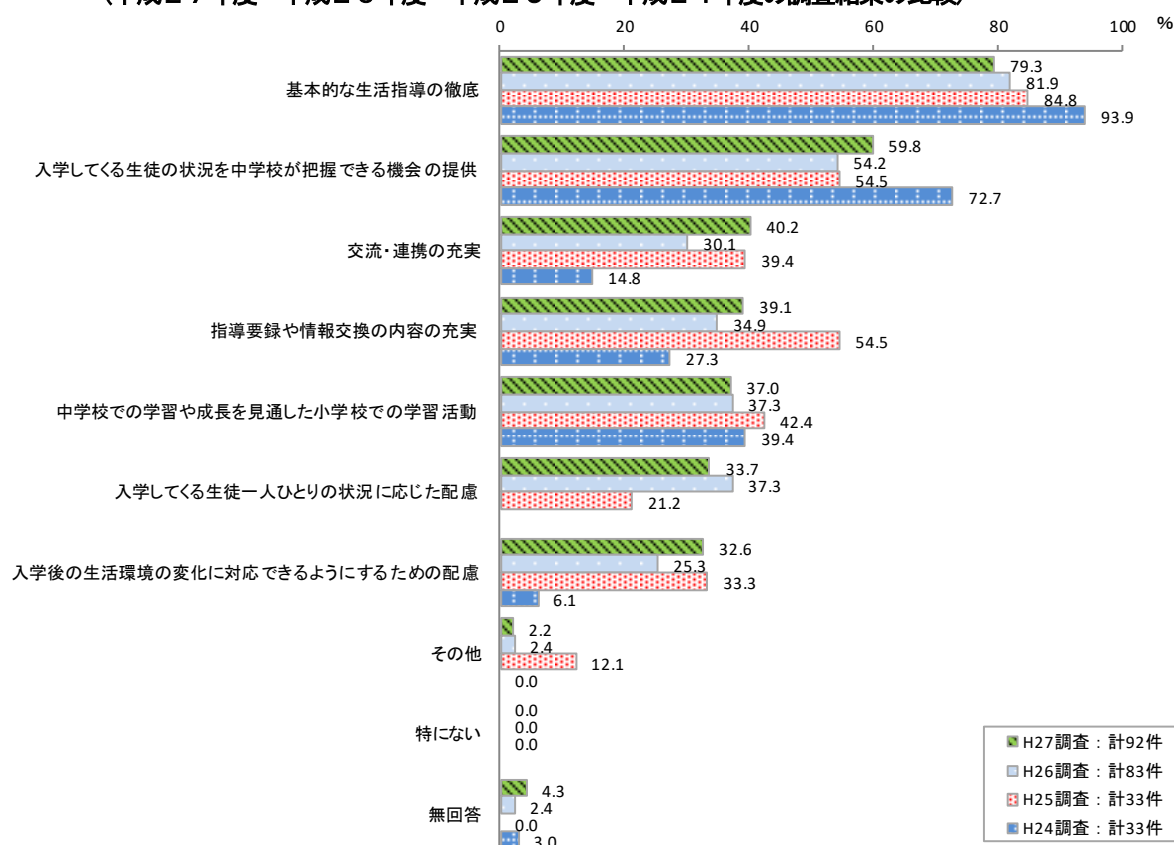
(2) 小学校に対して期待すること

問 20 あなたの学校に入学する生徒の出身校である小学校に対して、どのようなことを期待しますか。(あてはまるもの全てに○)

平成27年度の調査結果をみると、「基本的な生活指導の徹底」の割合が79.3%と最も高く、次いで「入学してくる生徒の状況を中学校が把握できる機会の提供」の割合が59.8%、「交流・連携の充実」の割合が40.2%となっています。

経年変化をみると「基本的な生活指導の徹底」の割合が、平成24年度から平成27年度にかけて減少傾向となっています。一方、「交流・連携の充実」の割合が、平成27年度は平成26年度より10.1ポイント増加しています。

図 VIII-19 小学校に対して期待すること
(平成27年度・平成26年度・平成25年度・平成24年度の調査結果の比較)



※ 平成24年度調査は「入学してくる生徒一人ひとりの状況に応じた配慮」、「特になし」の項目なし。

5 家庭教育への支援について

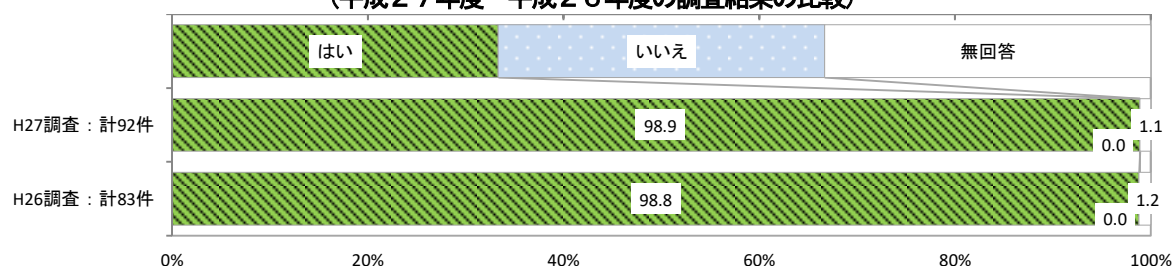
(1) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について

問 21 子どもたちの育ちを支えるために、家庭との連携や、家庭教育を支援する必要性を感じますか。(○は1つだけ)

平成27年度の調査結果をみると、「はい」の割合が98.9%となっています。

経年変化は特にみられません。

図 VIII-20 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について
(平成27年度・平成26年度の調査結果の比較)



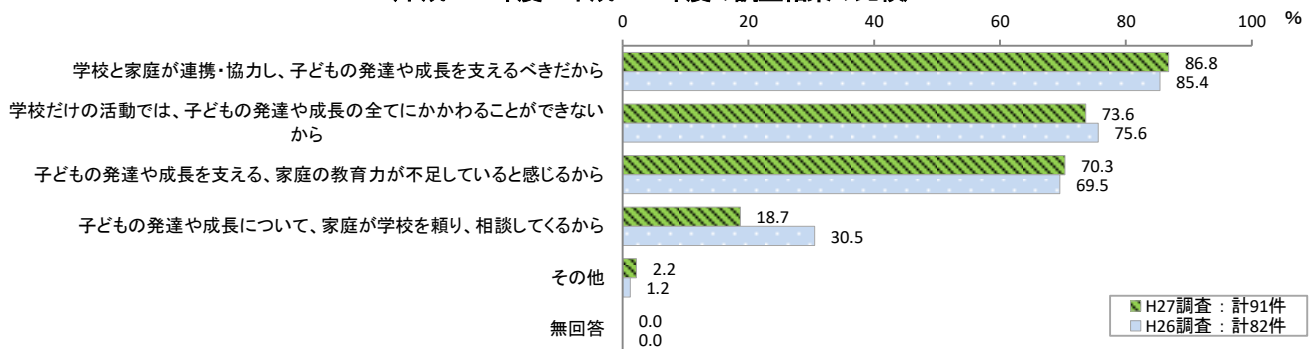
(2) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由

問 22 問 2 1 で「はい」と答えた教職員が回答 家庭との連携や家庭教育を支援する必要性を感じる理由は何ですか。
(あてはまるもの全てに○)

平成 2 7 年度の調査結果をみると、「学校と家庭が連携・協力し、子どもの発達や成長を支えるべきだから」の割合が 86.8%と最も高く、次いで「学校だけの活動では、子どもの発達や成長の全てにかかわることができないから」の割合が 73.6%、「子どもの発達や成長を支える、家庭の教育力が不足していると感じるから」の割合が 70.3%となっています。

経年変化をみると「子どもの発達や成長について、家庭が学校を頼り、相談してくるから」の割合が、平成 2 7 年度は平成 2 6 年度より 11.8 ポイント減少しています。

図 VIII-21 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由
(平成 2 7 年度・平成 2 6 年度の調査結果の比較)



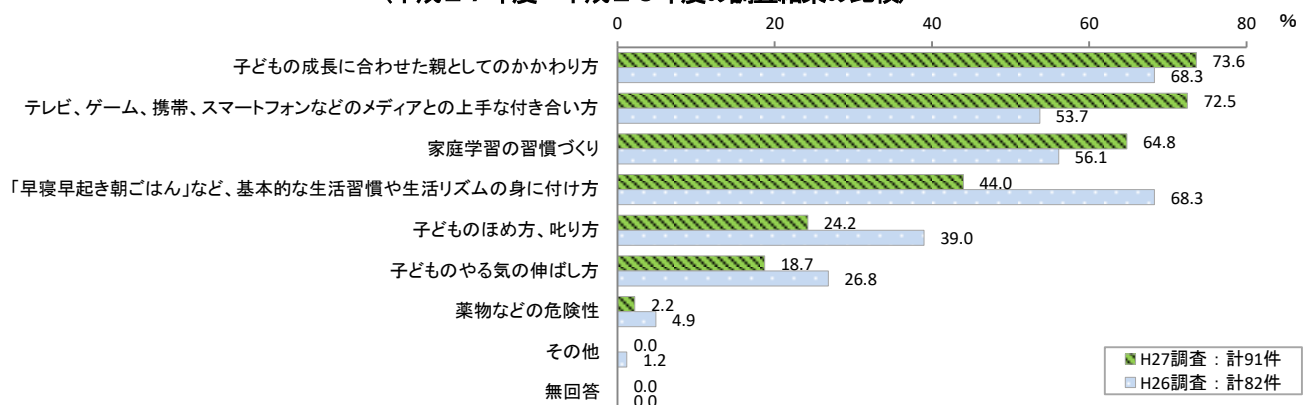
(3) 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組

問 23 問 2 1 で「はい」と答えた教職員が回答 家庭教育への支援を行う場合、具体的に、特に、どのような内容について、保護者に対し支援を行いたいですか。(○は3つまで)

平成 2 7 年度の調査結果をみると、「子どもの成長に合わせた親としてのかわり方」の割合が 73.6%と最も高く、次いで「テレビ、ゲーム、携帯、スマートフォンなどのメディアとの上手な付き合い方」の割合が 72.5%、「家庭学習の習慣づくり」の割合が 64.8%となっています。

経年変化をみると「テレビ、ゲーム、携帯、スマートフォンなどのメディアとの上手な付き合い方」の割合が、平成 2 7 年度は平成 2 6 年度より 18.8 ポイント増加しています。一方、『早寝早起き朝ごはん』など、基本的な生活習慣や生活リズムの身に付け方」の割合が、平成 2 7 年度は平成 2 6 年度より 24.3 ポイント減少しています。

図 VIII-22 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組
(平成 2 7 年度・平成 2 6 年度の調査結果の比較)



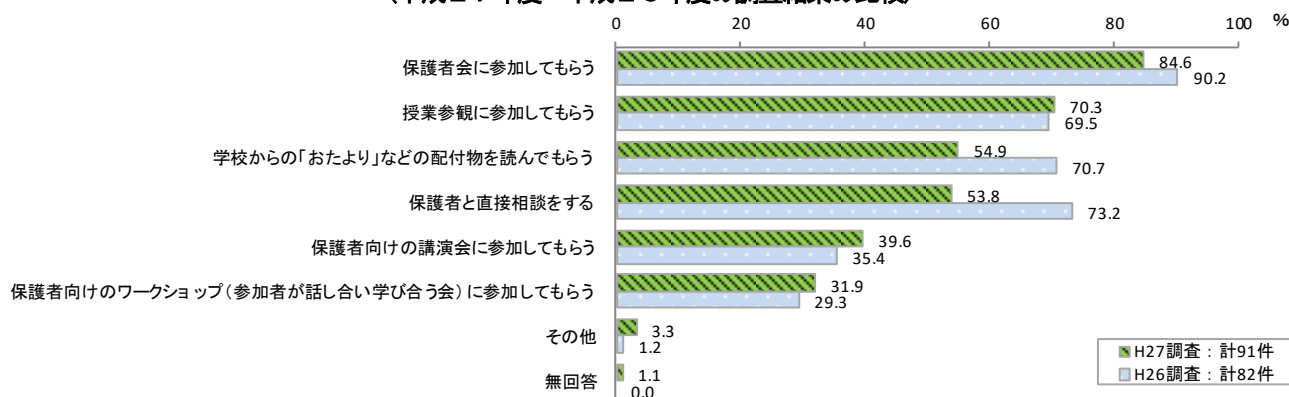
(4) 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法

問 24 問 2 1 で「はい」と答えた教職員が回答 家庭との連携や家庭教育を支援するために有効だと考える機会や方法などは、何ですか。(あてはまるもの全てに○)

平成 2 7 年度の調査結果をみると、「保護者会に参加してもらう」の割合が 84.6%と最も高く、次いで「授業参観に参加してもらう」の割合が 70.3%、「学校からの『おたより』などの配付物を読んでもらう」の割合が 54.9%となっています。

経年変化をみると「学校からの『おたより』などの配付物を読んでもらう」、「保護者と直接相談をする」の割合が、平成 2 7 年度は平成 2 6 年度より 15.0 ポイント以上減少しています。

図 VIII-23 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法
(平成 2 7 年度・平成 2 6 年度の調査結果の比較)



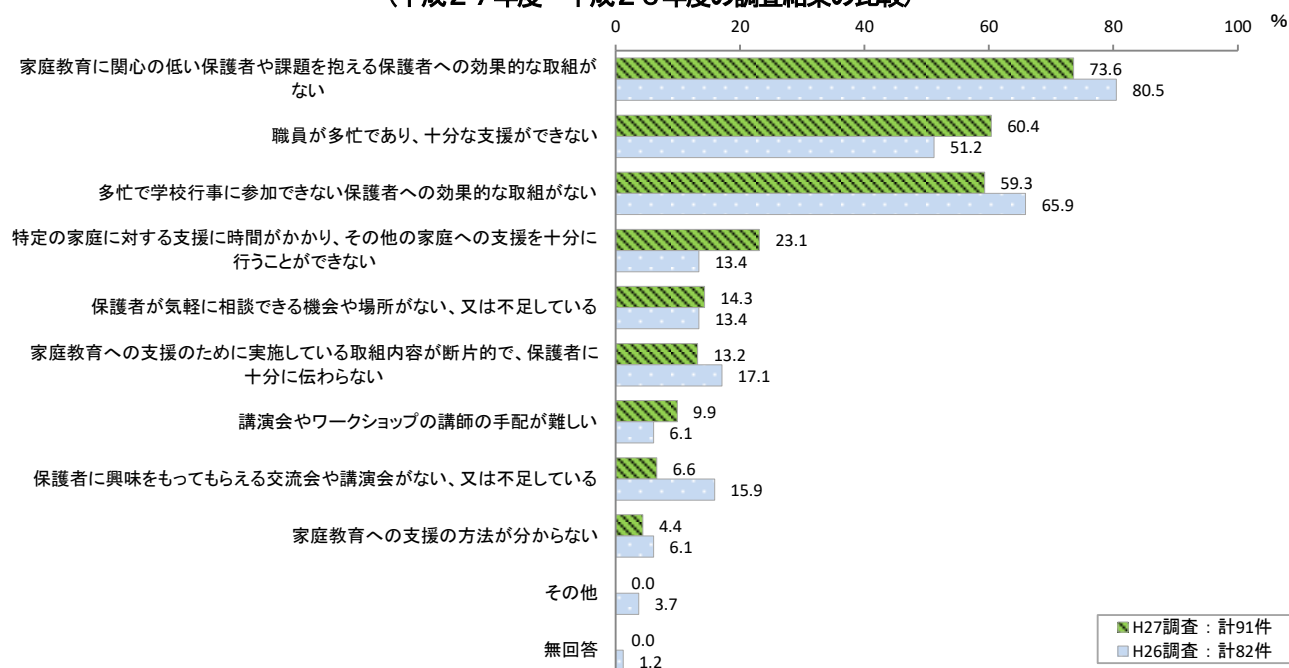
(5) 家庭との連携・家庭教育への支援での課題

問 25 問 2 1 で「はい」と答えた教職員が回答 家庭との連携や家庭教育への支援を行う上での課題は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

平成 2 7 年度の調査結果をみると、「家庭教育に関心の低い保護者や課題を抱える保護者への効果的な取組がない」の割合が 73.6%と最も高く、次いで「職員が多忙であり、十分な支援ができない」の割合が 60.4%、「多忙で学校行事に参加できない保護者への効果的な取組がない」の割合が 59.3%となっています。

経年変化をみると「家庭教育に関心の低い保護者や課題を抱える保護者への効果的な取組がない」、「多忙で学校行事に参加できない保護者への効果的な取組がない」、「保護者に興味をもってもらえる交流会や講演会がない、又は不足している」の割合が、平成 2 7 年度は平成 2 6 年度より 6.0 ポイント以上減少しています。

図 VIII-24 家庭との連携・家庭教育への支援での課題
(平成 2 7 年度・平成 2 6 年度の調査結果の比較)



6 自由記述

最後に、あなたの学校や地域での交流・連携の取組状況、子ども教育の連携推進事業、草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

対象となる回収数 92 件中、21 件に記述がありました。

項目	件数
園・校間の連携に関すること	9
交流・連携を継続、充実していくことが大切	2
交流・連携を積極的・継続的に取り組んでいきたい	1
教育に支障が出ないように、無理なく継続できる連携がよい	1
行政が交流・連携に積極的に取り組んでほしい	1
生徒・家庭を十分に支援するための時間の確保が難しい	1
連携が着実に進められている、効果が出ていると感じている	3
家庭・保護者との交流・連携の推進	2
少人数クラスにしてほしい	1
特別支援教育の充実	1
教員の負担を軽減してほしい	3
その他	5

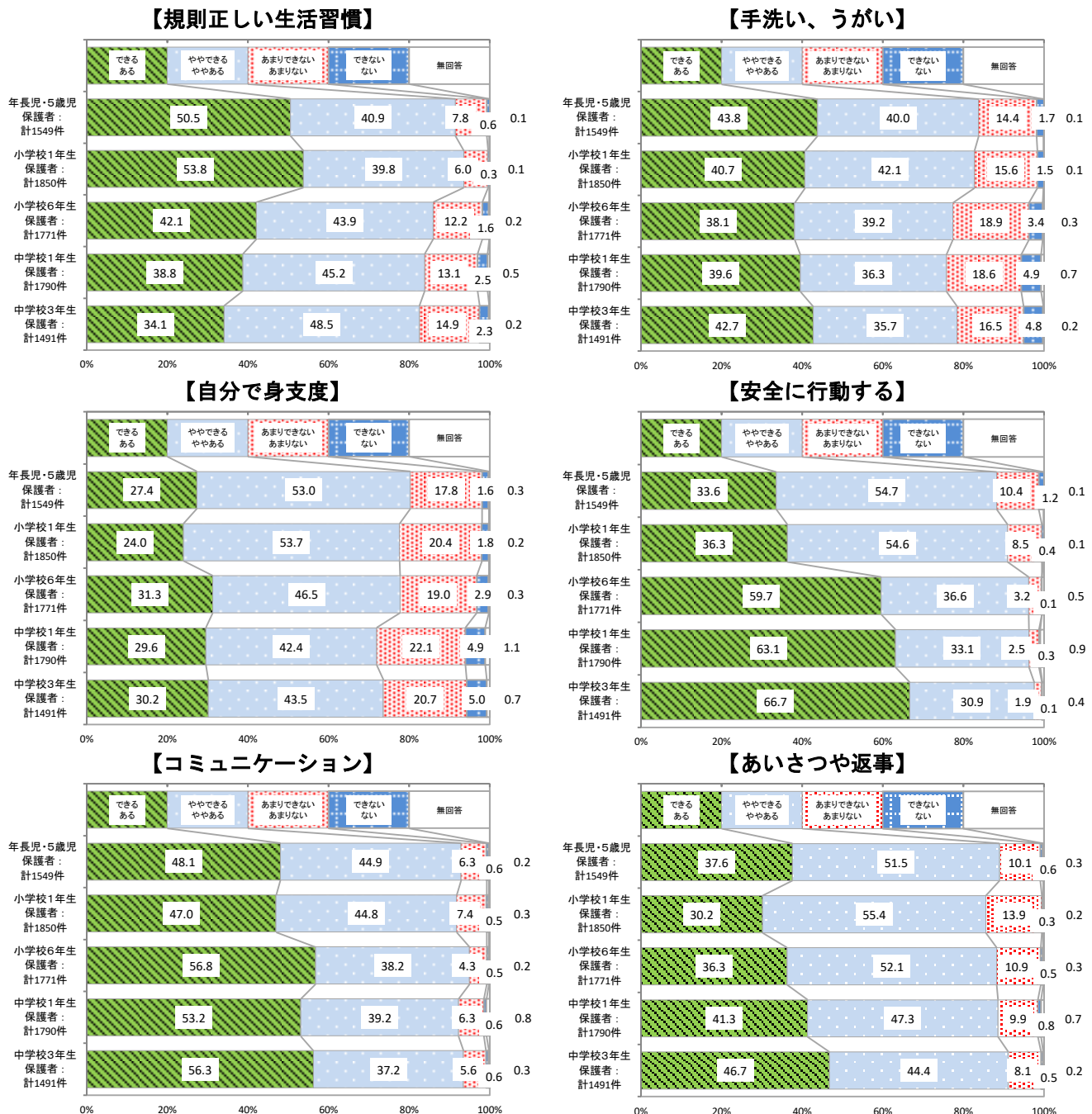
IX 保護者の調査結果の比較

1 お子さんの生活の様子について

(1) お子さんの生活の様子について

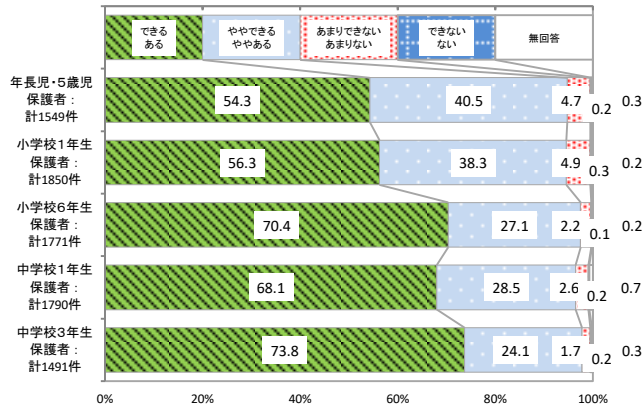
お子さんの生活の様子について回答結果をみると、「安全に行動する」、「我慢」、「きまりや約束を守る」の肯定的な回答（「できる・ある」、「ややできる・ややある」の合計）の割合は、学年が上がるにつれて増加傾向となっています。一方、「学ぶ意欲や物事への関心」、「文字や数への関心」の肯定的な回答の割合は、学年が上がるにつれて減少傾向となっています。

図 IX-1 お子さんの生活の様子について
(保護者比較)

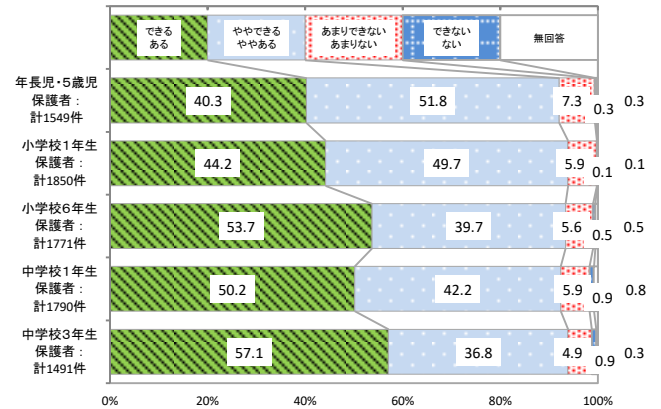


IX 保護者の調査結果の比較

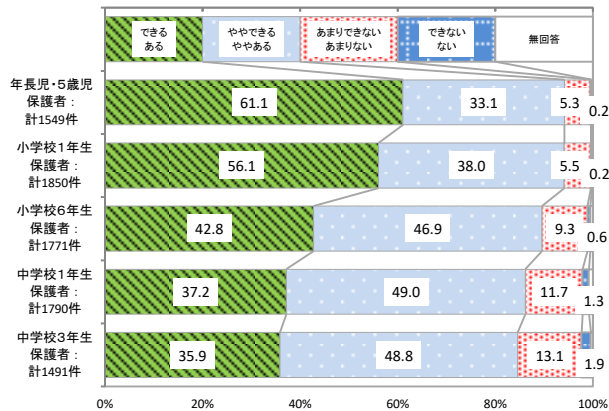
【我慢】



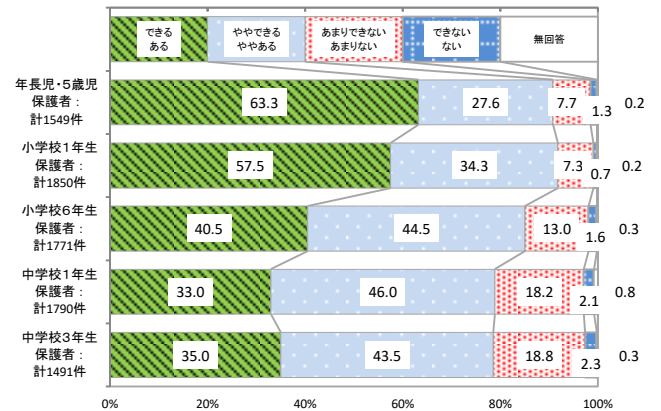
【きまりや約束を守る】



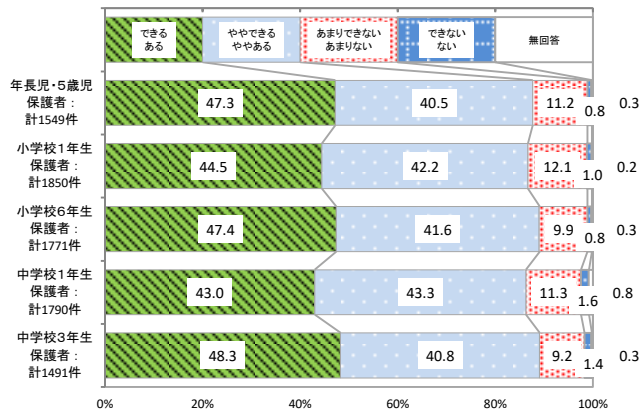
【学ぶ意欲や物事への関心】



【文字や数への関心】



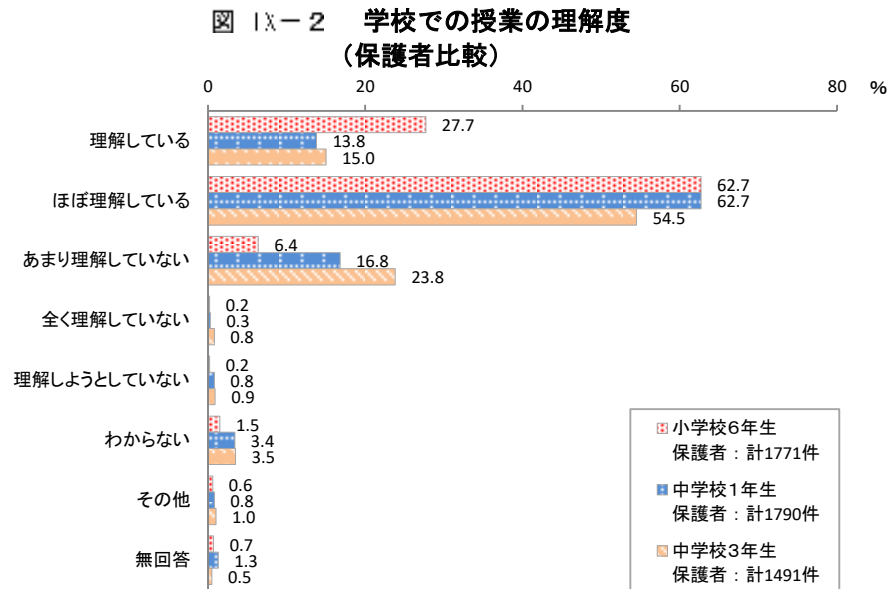
【集中】



2 お子さんの学習の様子について

(1) 学校での授業の理解度

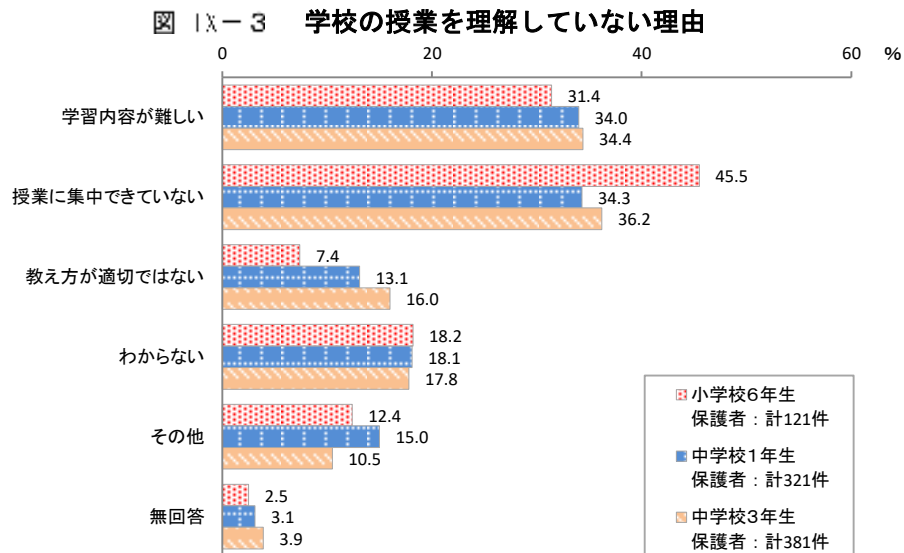
学校での授業の理解度について回答結果をみると、どの学年でも「ほぼ理解している」の割合が最も高くなっています。また、「理解している」、「ほぼ理解している」の割合は、学年が上がるにつれて減少傾向となっています。一方、「あまり理解していない」の割合は、学年が上がるにつれて増加傾向となっています。



(2) 学校の授業を理解していない理由

学校の授業を理解していない理由について回答結果をみると、小学校6年生では「授業に集中できていない」の割合が45.5%と最も高く、中学校1年生、中学校3年生では「授業に集中できていない」、「学習内容が難しい」の割合が高くなっています。

また、「わからない」の割合は、各学年共通して約20%となっています。

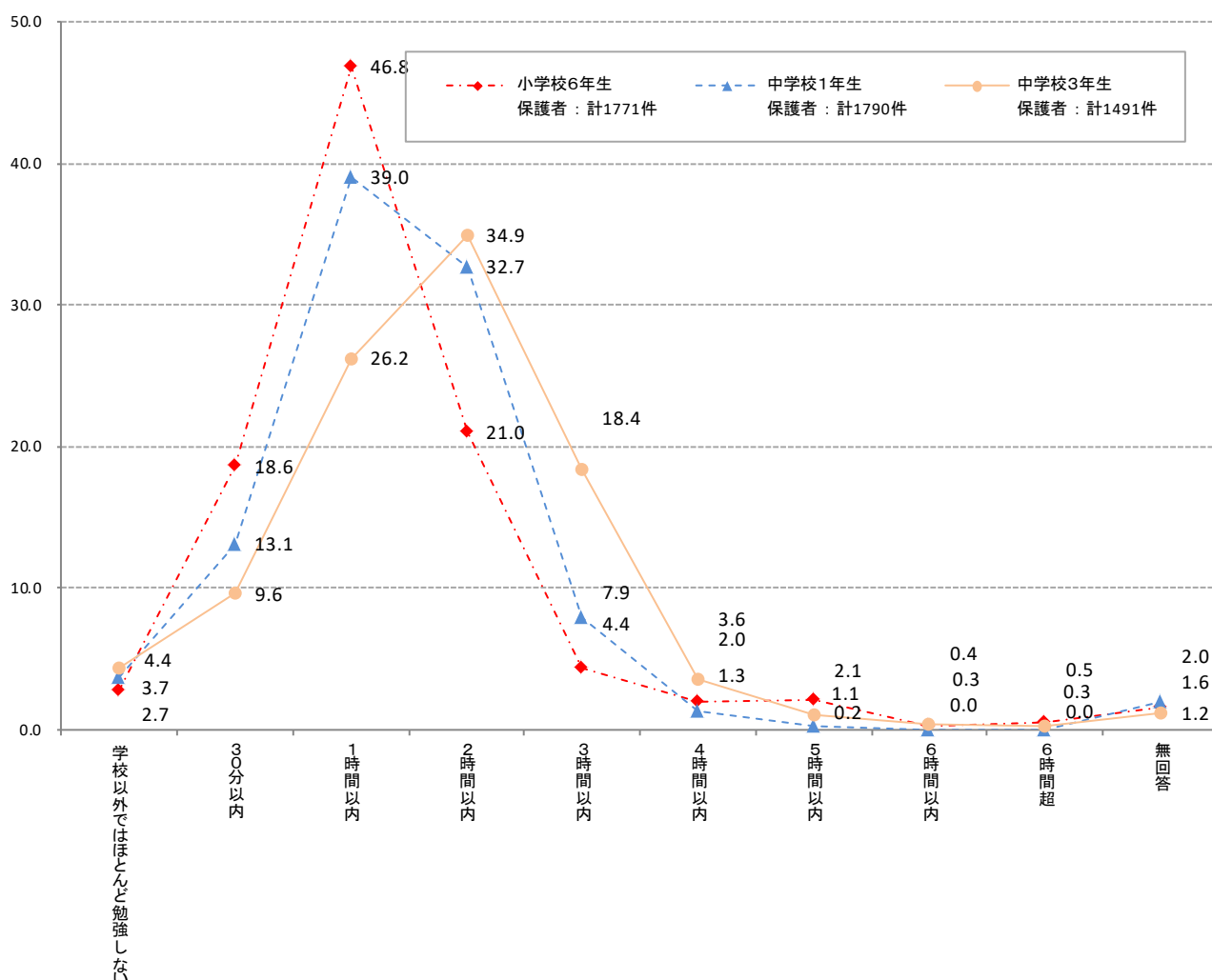


(3) 1日の平均学習時間

1日の平均学習時間について回答結果をみると、学年が上がるにつれて1日の平均学習時間は増加傾向となっています。学年別にみると小学校6年生、中学校1年生では、「1時間以内」の割合が最も高く、次いで「2時間以内」の割合が高くなっています。中学校3年生では、「2時間以内」の割合が最も高く、次いで「1時間以内」の割合が高くなっています。

一方、「学校以外ではほとんど勉強しない」の割合が、学年が上がるにつれてやや増加傾向となっています。

図 IX-4 1日の平均学習時間



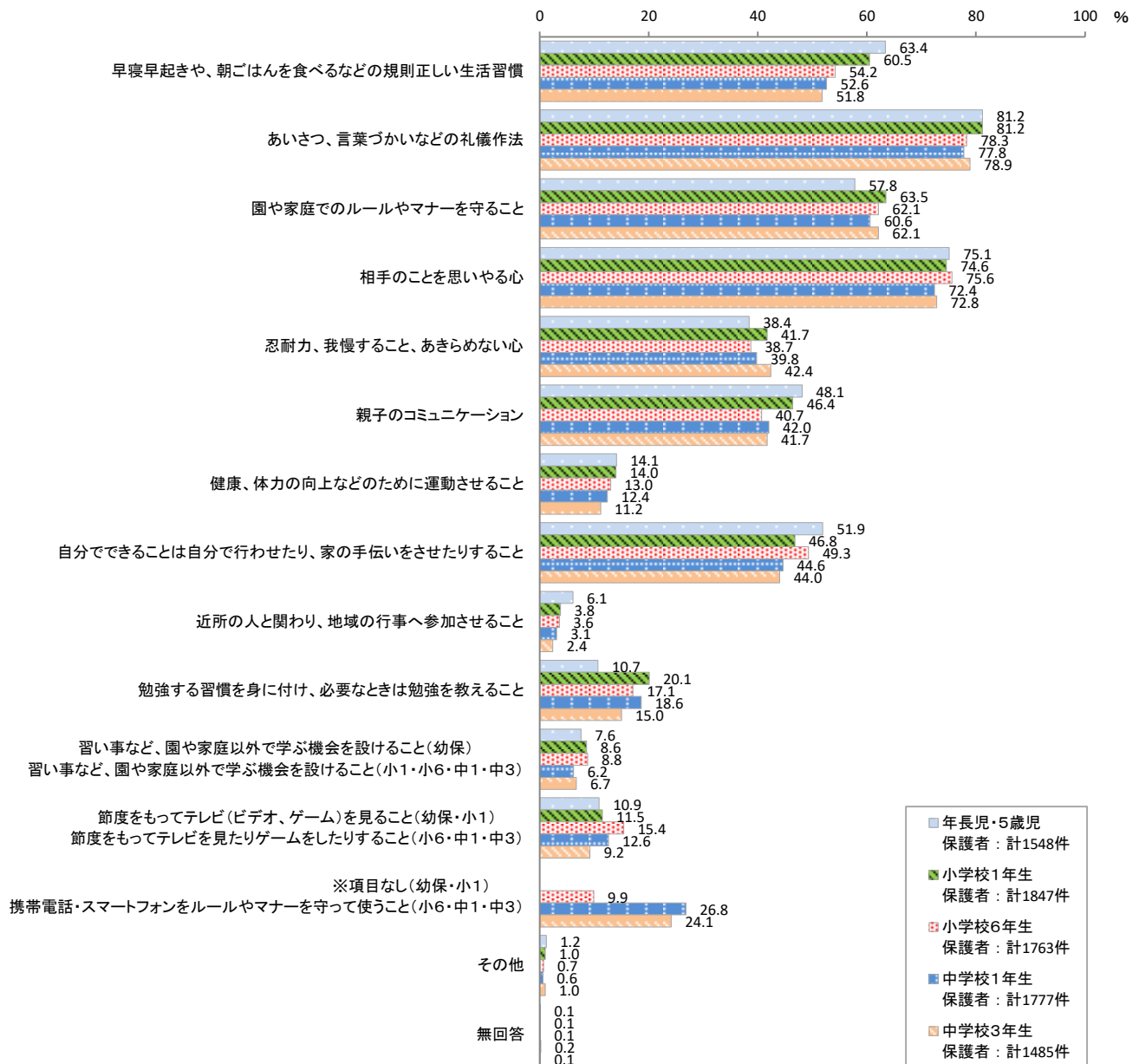
3 家庭での教育について

(1) 家庭でのしつけや教育で重視していること

家庭でのしつけや教育で重視していることについて回答結果をみると、どの学年でも「あいさつ、言葉づかいなどの礼儀作法」の割合が最も高く、次いで「相手のことを思いやる心」の割合が高くなっています。

また、「早寝早起きや、朝ごはんを食べるなどの規則正しい生活習慣」の割合は、学年が上がるにつれて減少傾向となっています。

図 IX-5 家庭でのしつけや教育で重視していること
(保護者比較)

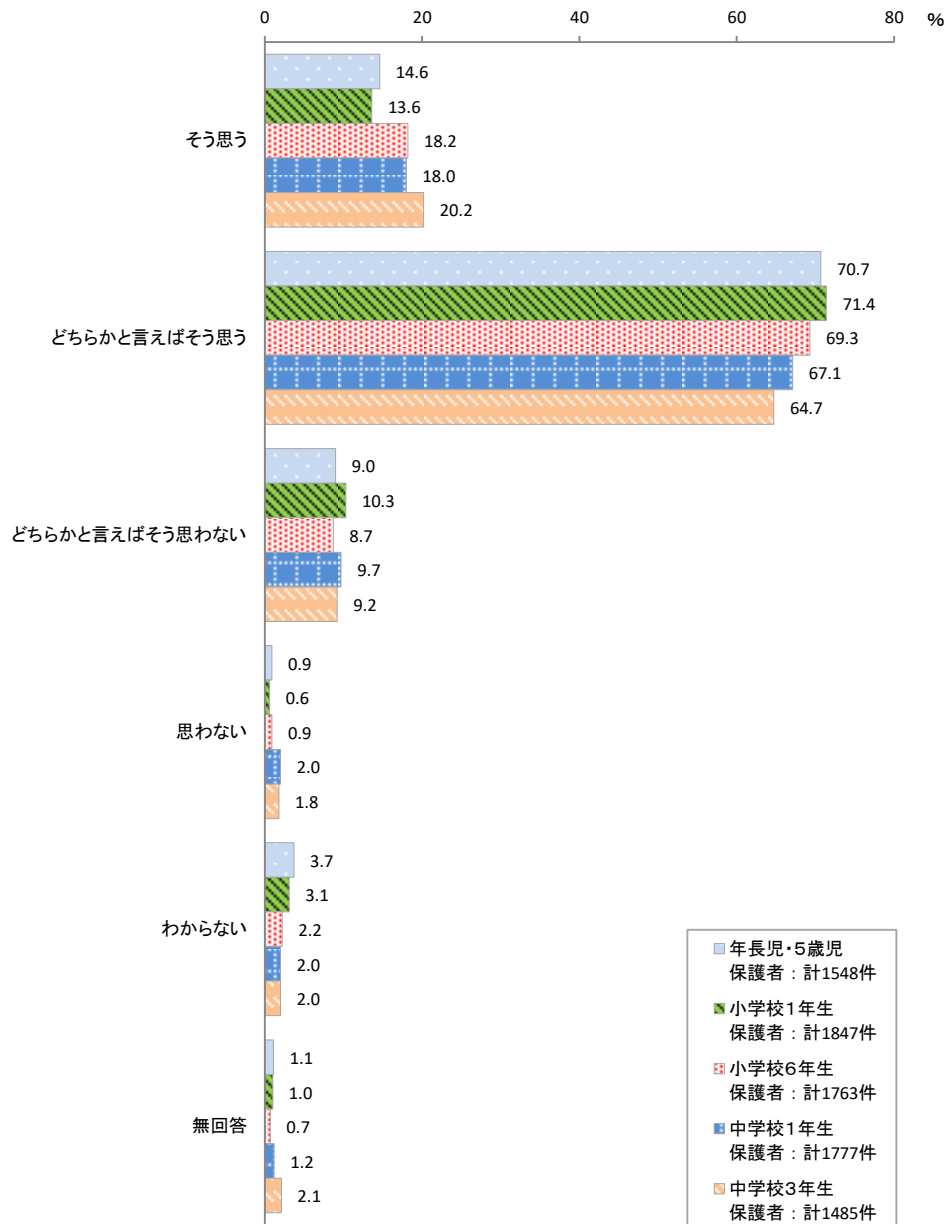


※ 年長児・5歳児保護者、小学校1年生保護者は「携帯電話・スマートフォンをルールやマナーを守って使うこと」の項目なし。

(2) 重視するしつけや教育を子どもが実践できているか

しつけや教育で特に重視していることをお子さんが実践できているかどうかについて回答結果をみると、どの学年でも「どちらかといえばそう思う」の割合が最も高く、次いで「そう思う」が高くなっています。また、「そう思う」の割合は、学年が上がるにつれてやや増加傾向となっています。

図 IX-6 子どもに対するしつけや教育の実践
(保護者比較)



4 入学にあたっての期待や不安、入学後のお子さんの様子について

(1) 入学後の生活で楽しみにしていることや期待していること、楽しんでいること

入学後の生活で楽しみにしていることや期待していること、楽しんでいることについて回答結果をみると、年長児・5歳児保護者と小学校1年生保護者の比較では、年長児・5歳児、小学校1年生ともに「新しい友達」の割合が最も高くなっています。また、「給食」、「休み時間」の割合が、小学校1年生は年長児・5歳児より高くなっています。

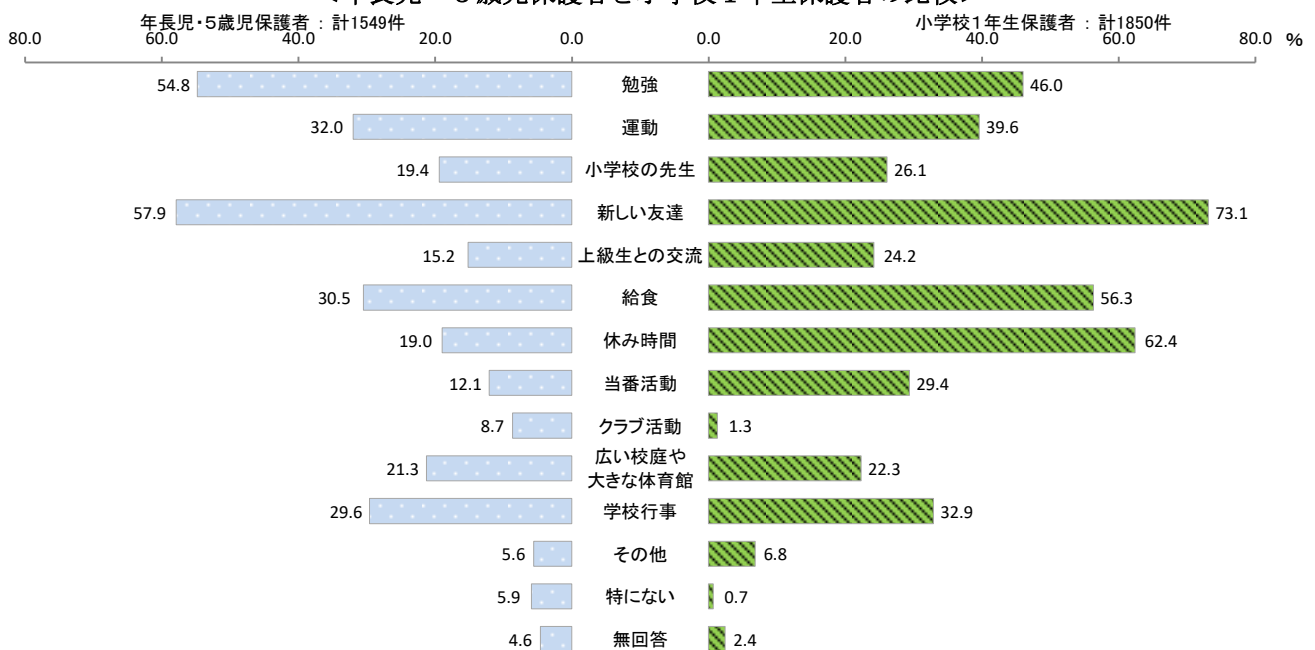
小学校6年生保護者と中学校1年生保護者の比較では、小学校6年生、中学校1年生ともに「部活動」の割合が最も高く、次いで「新しい友達」の割合が高くなっています。

中学校1年生保護者と中学校3年生保護者の比較では、中学校1年生は「部活動」の割合が最も高く、次いで「新しい友達」、「休み時間」の割合が高くなっています。一方、中学校3年生は「友達」の割合が最も高く、次いで「部活動」、「休み時間」の割合が高くなっています。

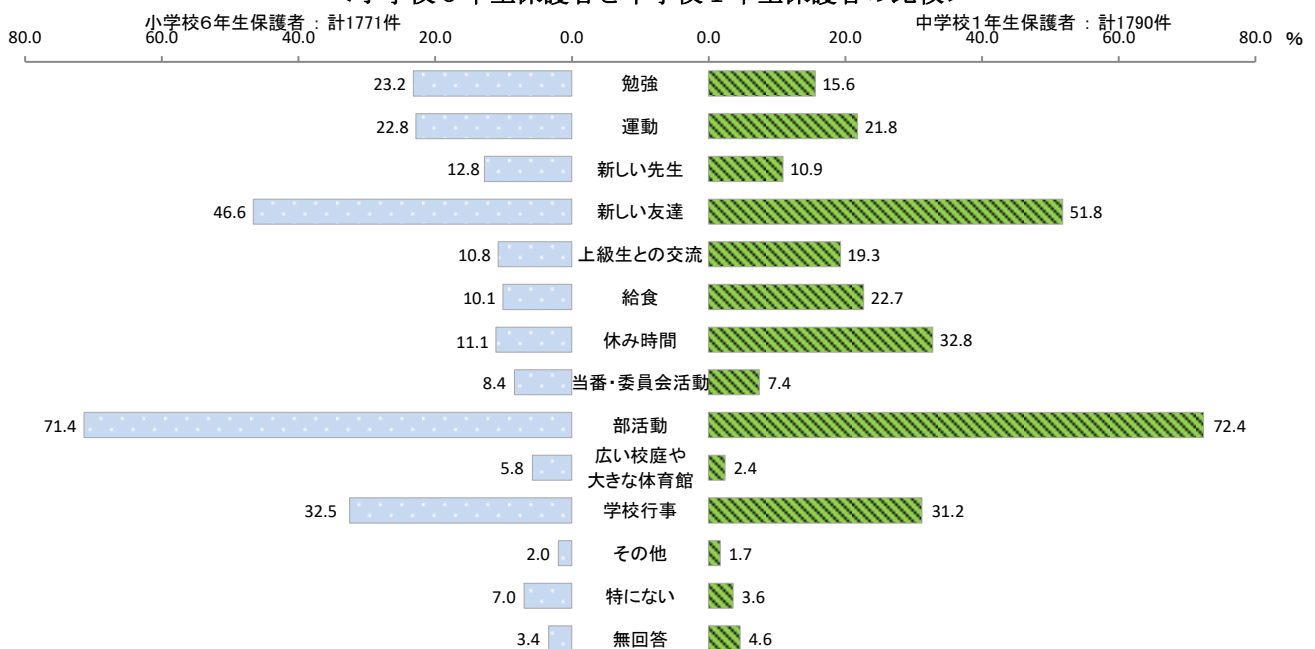
また、どの学年でも「新しい友達（または友達）」の割合が高くなっています。

図 IX-7 入学後の生活で楽しみにしていることや期待していること、楽しんでいること
(保護者比較)

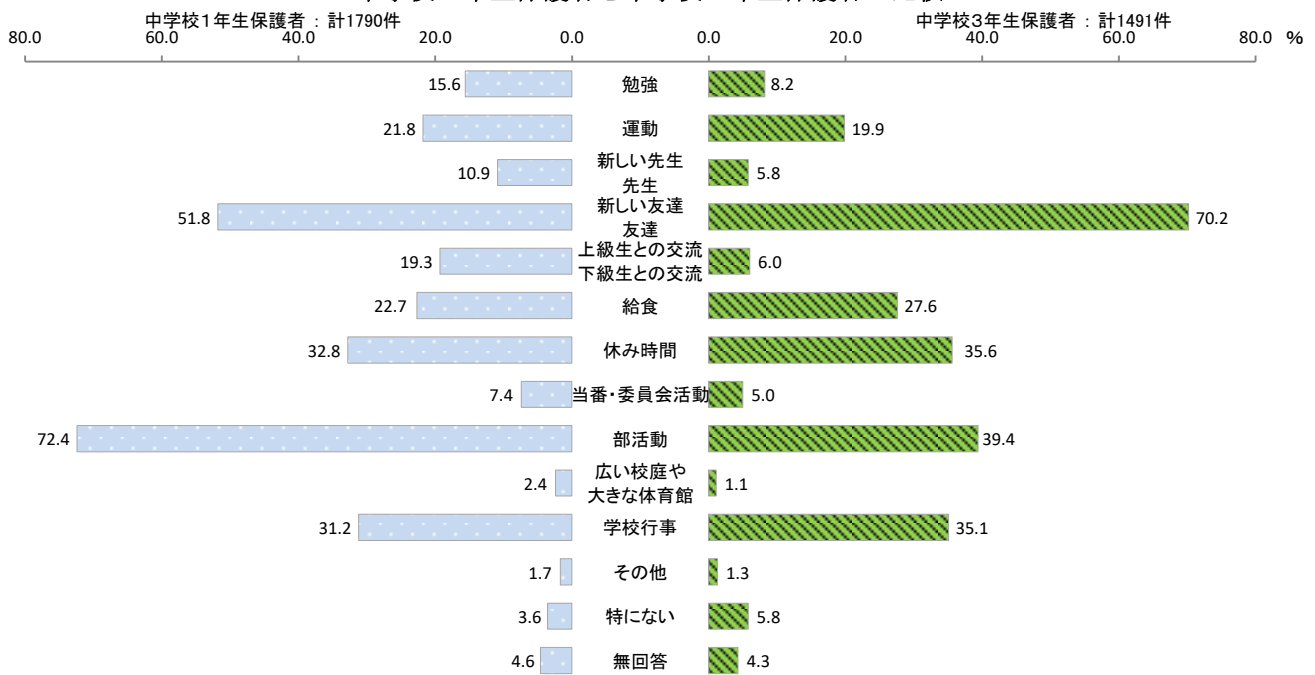
<年長児・5歳児保護者と小学校1年生保護者の比較>



<小学校6年生保護者と中学校1年生保護者の比較>



<中学校1年生保護者と中学校3年生保護者の比較>



(2) 入学後の不安や心配

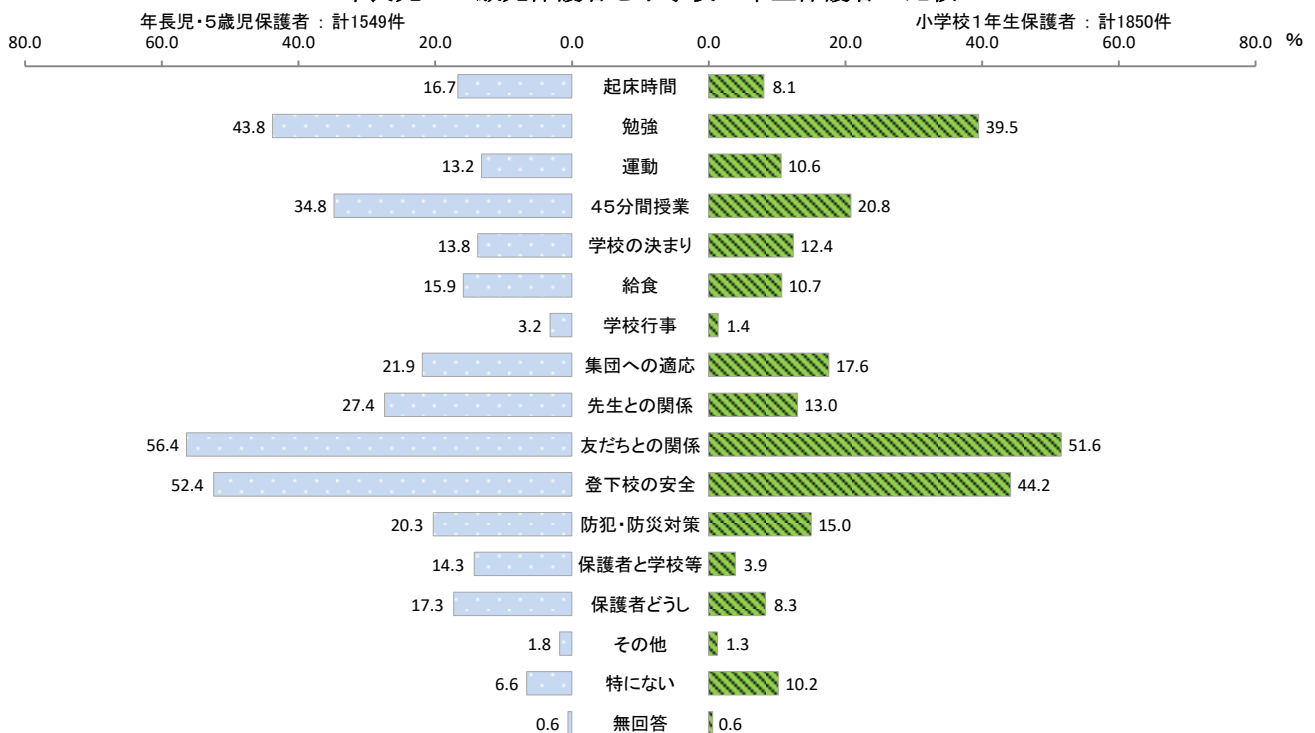
入学後の不安や心配について回答結果をみると、年長児・5歳児保護者と小学校1年生保護者の比較では、年長児・5歳児、小学校1年生ともに「友達との関係」の割合が最も高く、次いで「登下校の安全」、「勉強」の割合が高くなっています。

小学校6年生保護者と中学校1年生保護者の比較では、小学校6年生、中学校1年生ともに「勉強」が最も高く、次いで「友だちとの関係」が高くなっています。また、「上級生との関係」の割合が、中学校1年生は小学校6年生より低くなっています。

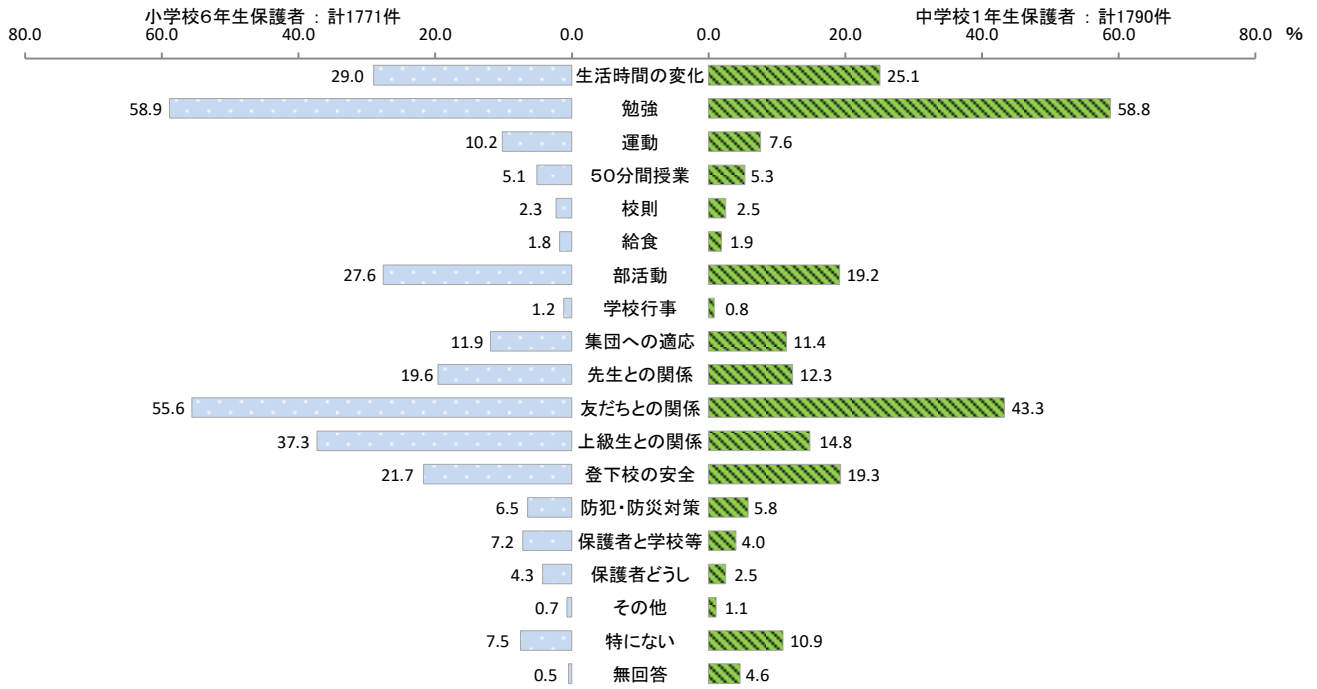
中学校1年生保護者と中学校3年生保護者の比較では、中学校1年生、中学校3年生ともに「勉強」が最も高く、次いで「友だちとの関係」が高くなっています。

図 IX-8 入学後の不安や心配
(保護者比較)

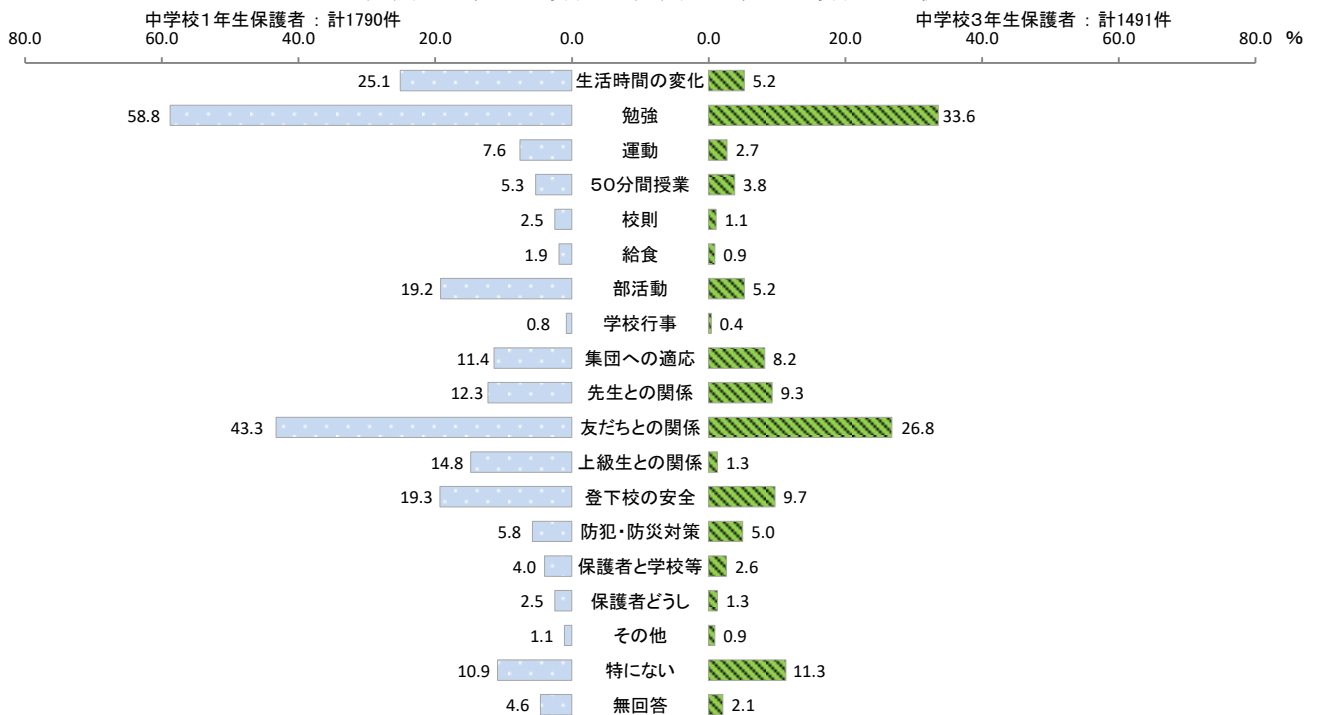
<年長児・5歳児保護者と小学校1年生保護者の比較>



＜小学校6年生保護者と中学校1年生保護者の比較＞



＜中学校1年生保護者と中学校3年生保護者の比較＞

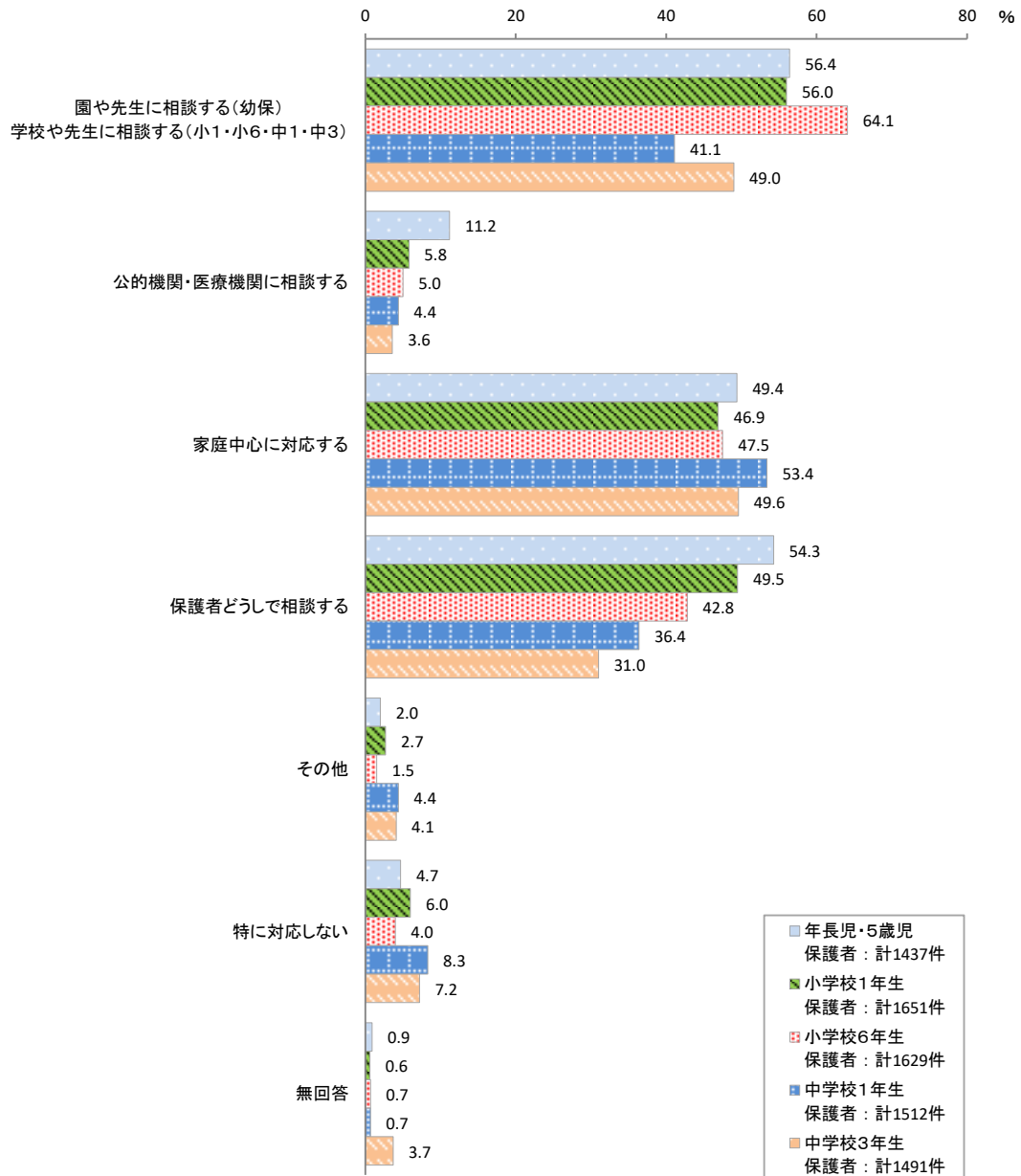


(3) 不安や心配に対する対応

不安や心配に対する対応について回答結果をみると、年長児・5歳児、小学校1年生、小学校6年生では「園や先生に相談する（幼保）／学校や先生に相談する（小1・小6・中1・中3）」の割合が高くなっていますが、中学校1年生、中学校3年生では年長児・5歳児、小学校1年生、小学校6年生より低くなっています。

また、「保護者どうしで相談する」の割合は、学年が上がるにつれて減少傾向となっています。

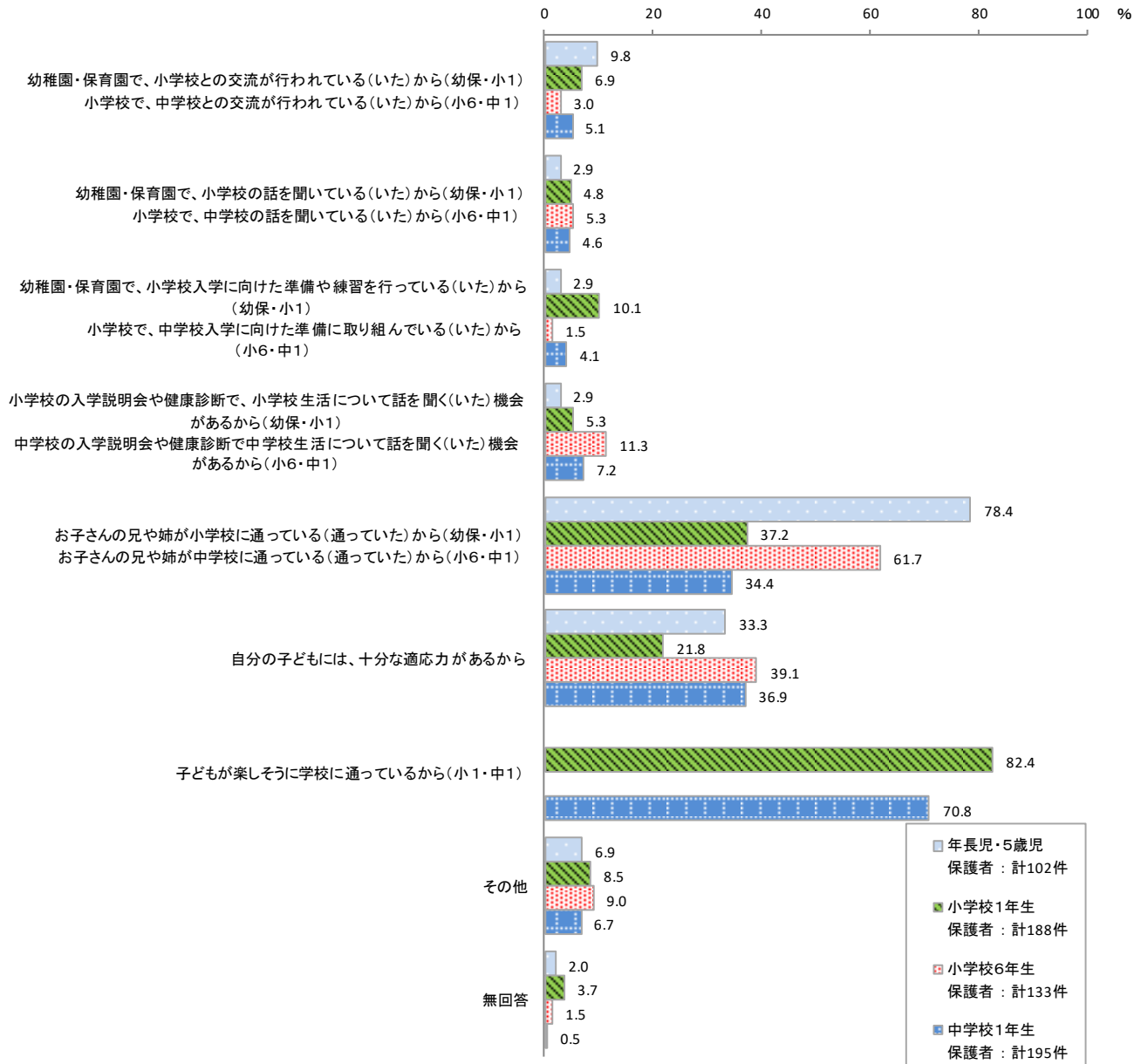
図 IX-9 不安や心配に対する対応
(保護者比較)



(4) 不安がない理由

不安がない理由について回答結果をみると、年長児・5歳児、小学校6年生では「お子さんの兄や姉が小学校に通っている（通っていた）から（幼保・小1）」の割合が最も高くなっています。小学校1年生、中学校1年生では「子どもが楽しそうに学校に通っているから（小1・中1）」の割合が最も高くなっています。

図 IX-10 不安がない理由
(保護者比較)



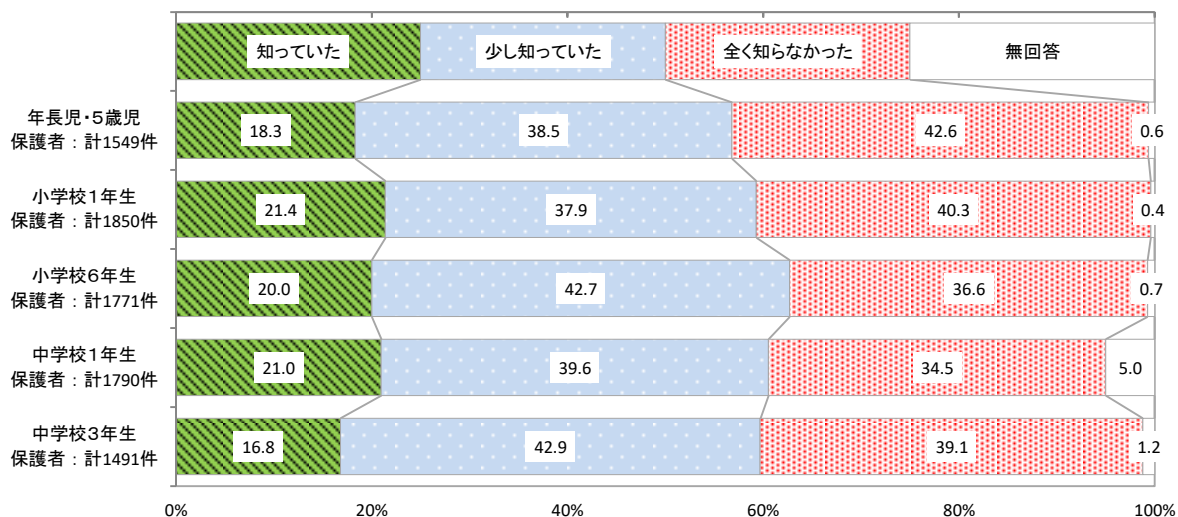
※ 年長児・5歳児保護者、小学校1年生保護者は「子どもが楽しそうに学校に通っているから」の項目なし。

5 幼稚園・保育園等、小学校、中学校（幼保小中）の連携について

（１）草加市の幼保小中連携に関する取り組みについて

草加市の幼保小中連携に関する取り組みについて回答結果をみると、どの学年でも認知していたという回答（「知っていた」、「少し知っていた」の合計）の割合が、50%を超えています。

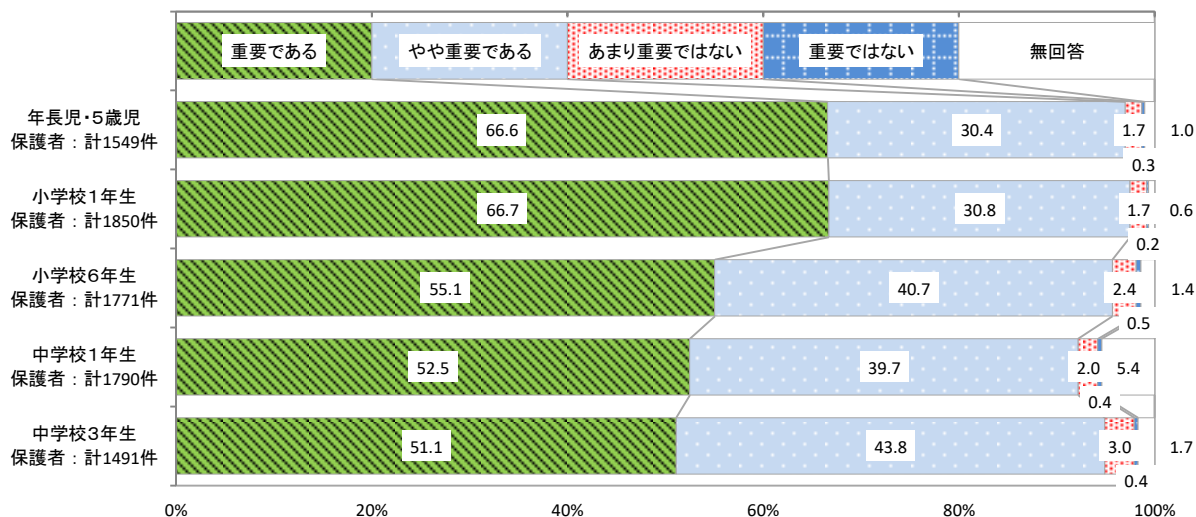
図 IX-1 1 草加市の幼保小中連携に関する取り組みについて
（保護者比較）



（２）草加市の幼保小中連携の重要性

草加市の幼保小中連携の重要性について回答結果をみると、どの学年でも重要だと思う回答（「重要である」、「やや重要である」の合計）の割合が、90%を超えています。一方、「重要である」の割合は、学年が上がるにつれて減少傾向となっています。

図 IX-1 2 草加市の幼保小中連携の重要性
（保護者比較）

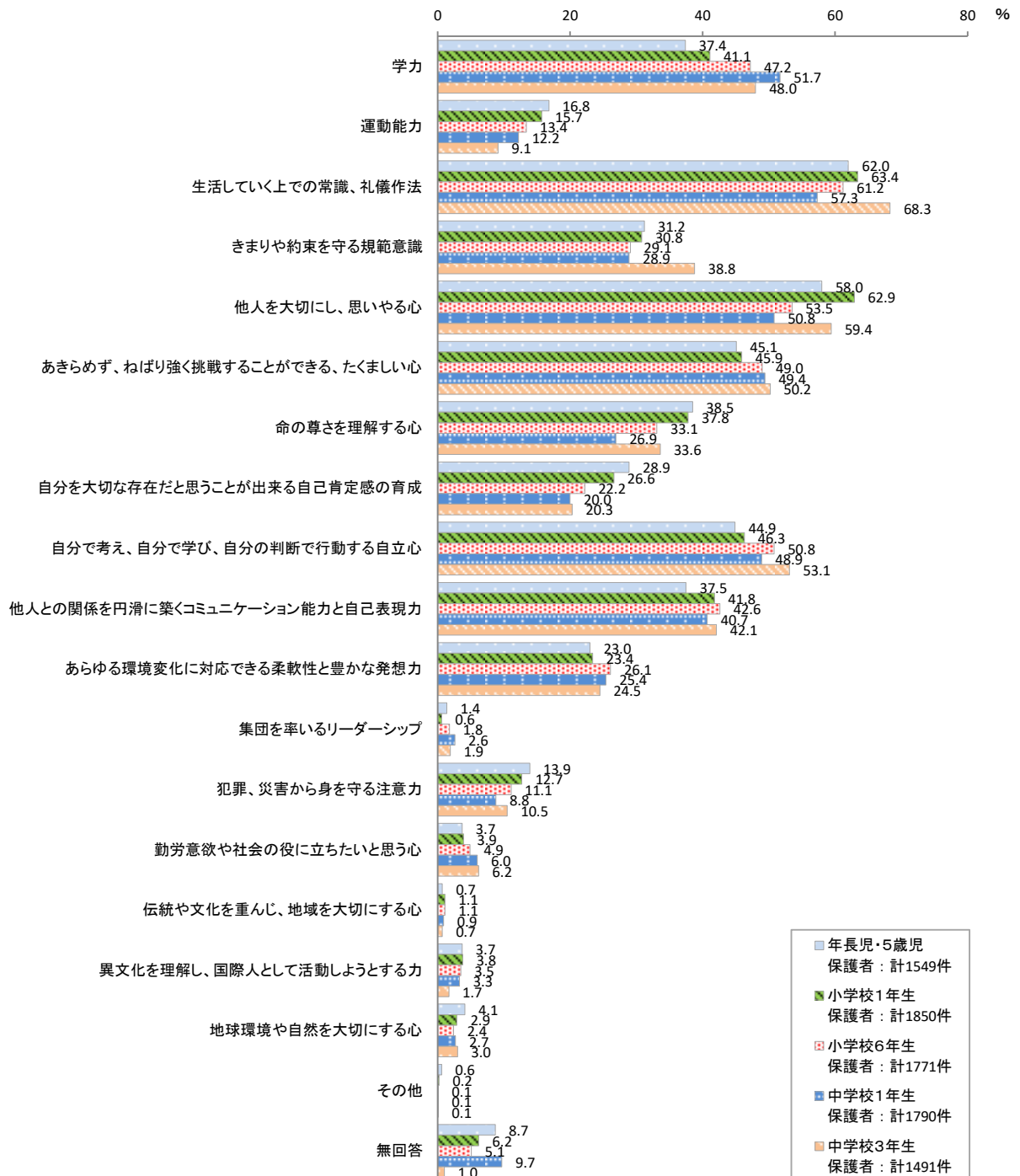


6 お子さんの将来像について

(1) お子さんの将来像について

お子さんの将来像について回答結果をみると、どの学年でも「生活していく上での常識、礼儀作法」が最も高く、「他人を大切にし、思いやる心」も高くなっています。また、「学力」の割合は、年長児・5歳児から中学校1年生にかけて増加傾向となっています。一方、「運動能力」の割合は、学年が上がるにつれて減少傾向となっています。

図 IX-13 お子さんの将来像について
(保護者比較)



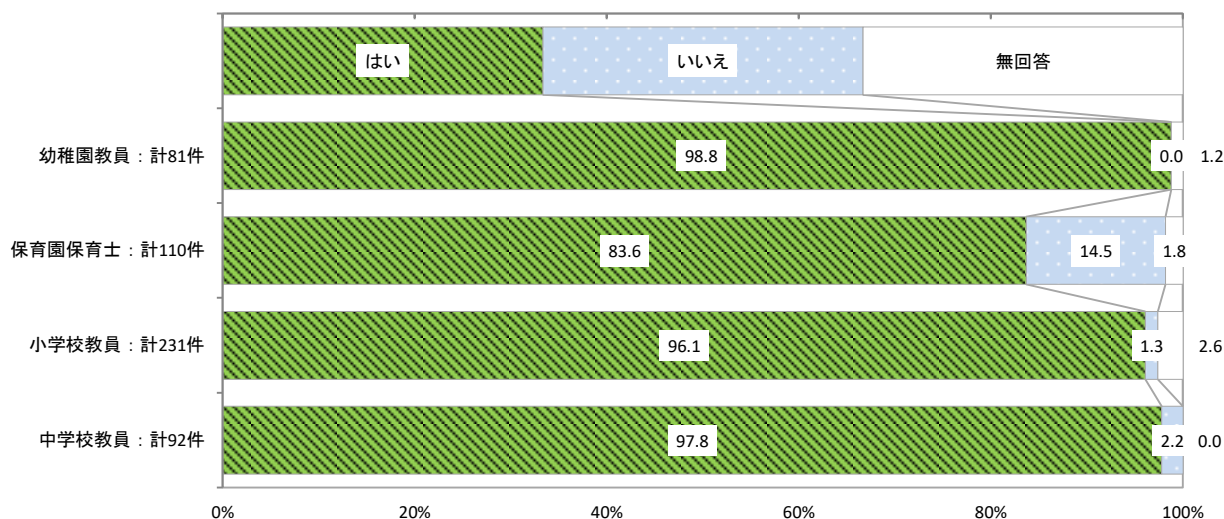
X 教員・保育士の調査結果の比較

1 幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について

(1) 交流・連携の実施状況

交流・連携の実施状況について回答結果をみると、幼稚園、小学校、中学校では「はい」の割合が90%を超えており、保育園では80%程度となっています。

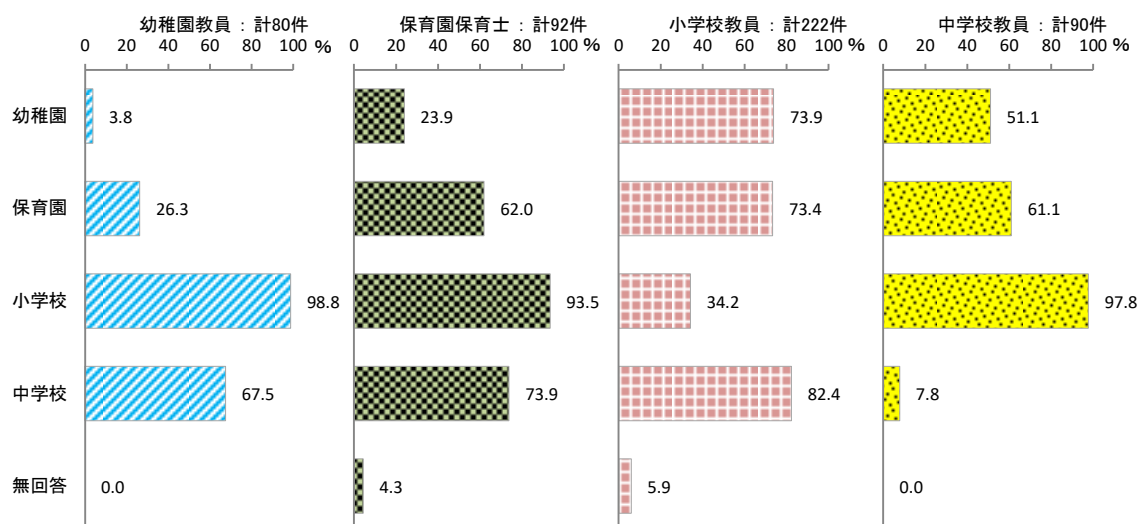
図 X-1 交流・連携の実施状況
(教員・保育士比較)



(2) 交流・連携の相手方

交流・連携の相手方について回答結果をみると、幼稚園、保育園、中学校では「小学校」の割合が最も高くなっています。小学校では、「幼稚園」、「保育園」、「中学校」の割合が70%を超えています。

図 X-2 交流・連携の相手方
(教員・保育士比較)

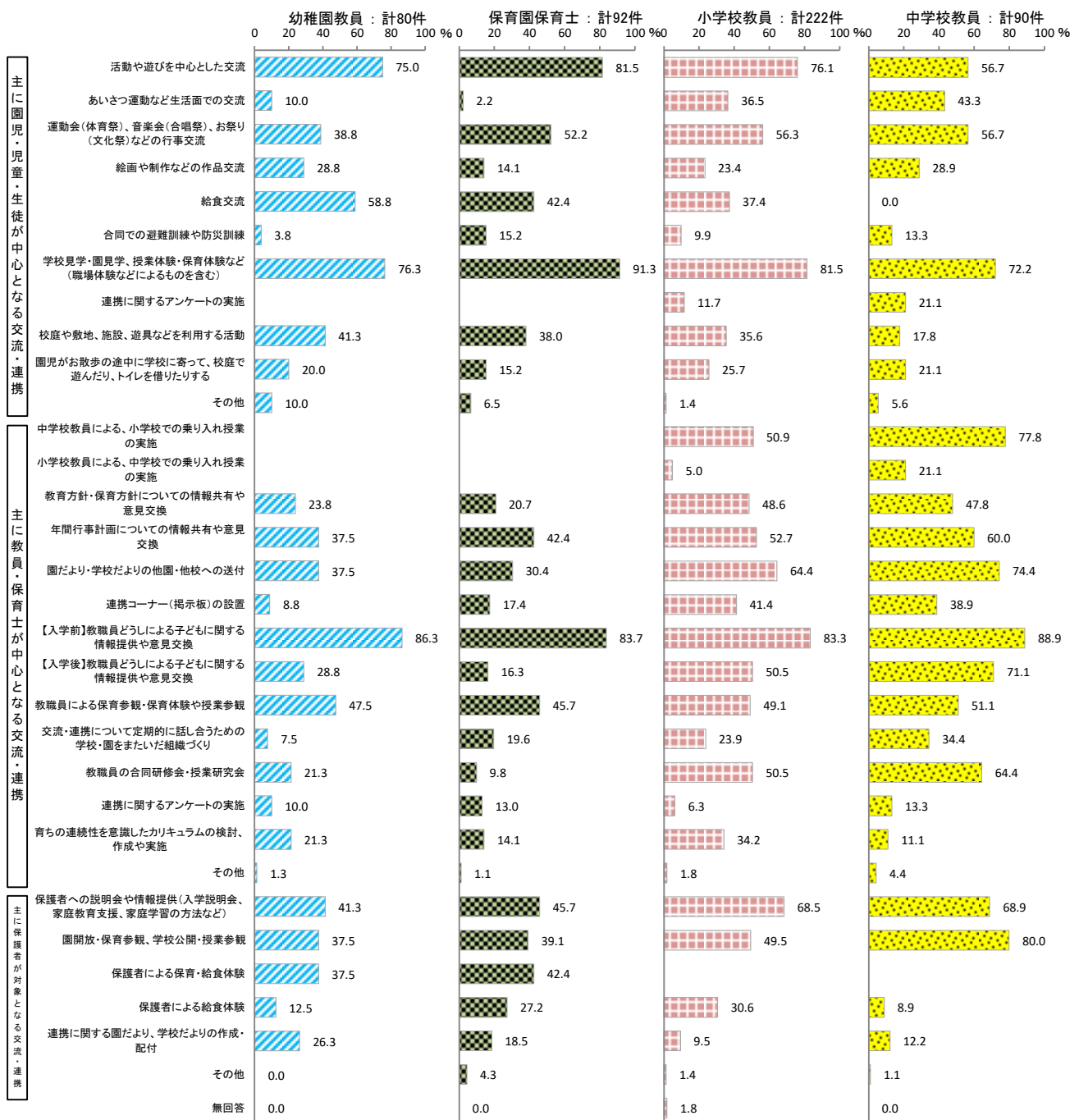


(3) 交流・連携の内容

交流・連携の内容について回答結果をみると、どの校種でも「【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」の割合が80%を超えており、「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」の割合が70%を超えています。

また、「あいさつ運動など生活面での交流」、「教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換」、「園だより・学校だよりの他園・他校への送付」、「連携コーナー（掲示板）の設置（主に教員・保育士が中心となる交流・連携）」、「【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」、「教職員の合同研修会・授業研究会」、「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）」の割合が、小学校は幼稚園、保育園それぞれより20ポイント以上高くなっています。中学校でも同様の傾向となっています。

図 X-3 交流・連携の内容
(教員・保育士比較)



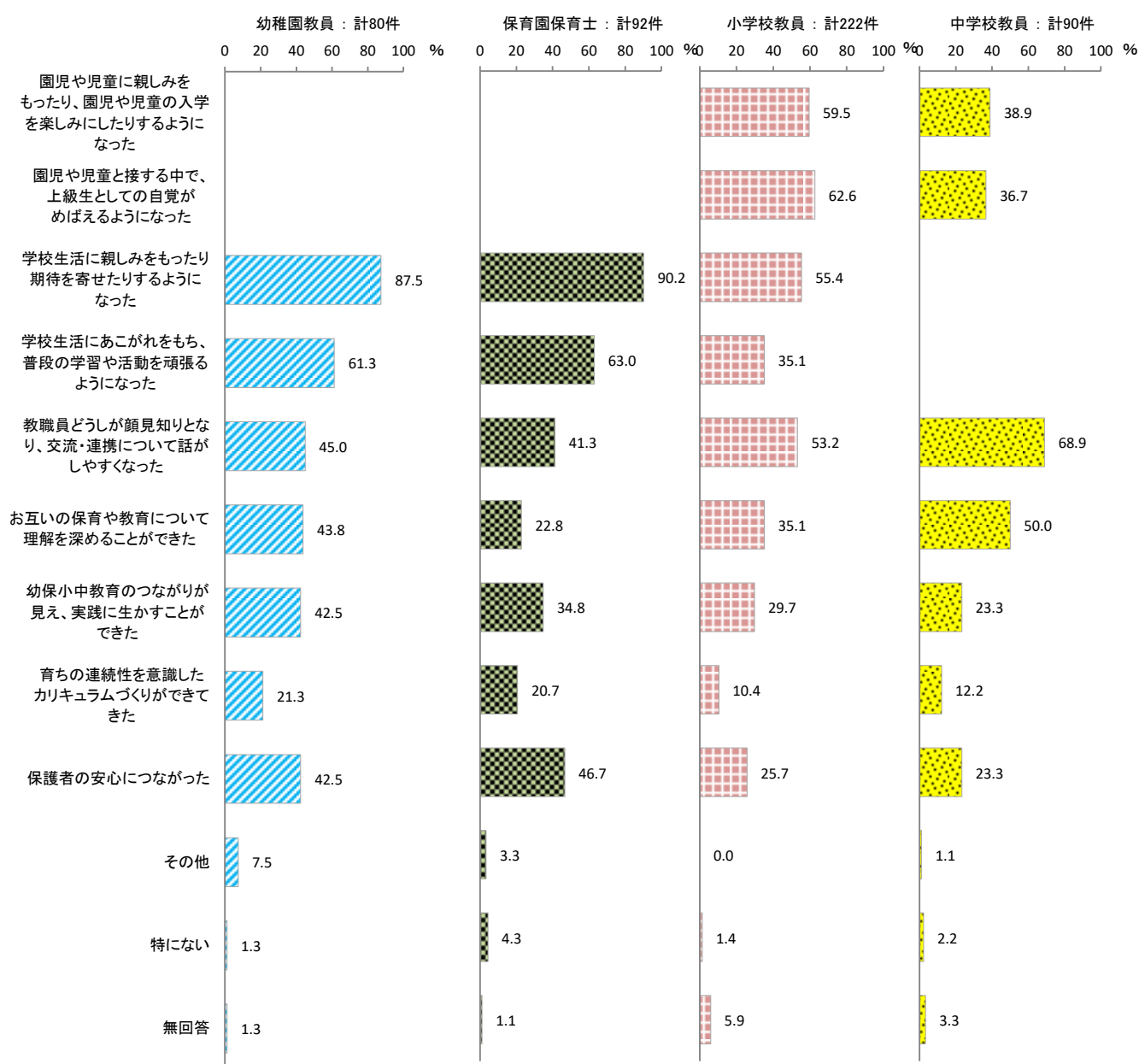
※ 幼稚園教員、保育園保育士は「連携に関するアンケートの実施（主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携）」、「中学校教員による、小学校での乗り入れ授業の実施」、「小学校教員による、中学校での乗り入れ授業の実施」の項目なし。小学校教員、中学校教員は「保護者による保育体験」の項目なし。

(4) 交流・連携を行って良かった点

交流・連携を行って良かった点について回答結果をみると、幼稚園、保育園では「学校生活に親しみをもったり期待を寄せたりするようになった」の割合が最も高く、小学校では「園児や児童と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった」の割合が最も高くなっており、園児と児童に良い影響があったという回答となっています。

中学校では、「教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携について話がしやすくなった」の割合が最も高くなっており、教職員及び組織間に良い影響があったという回答となっています。

図 X-4 交流・連携を行って良かった点
(教員・保育士比較)

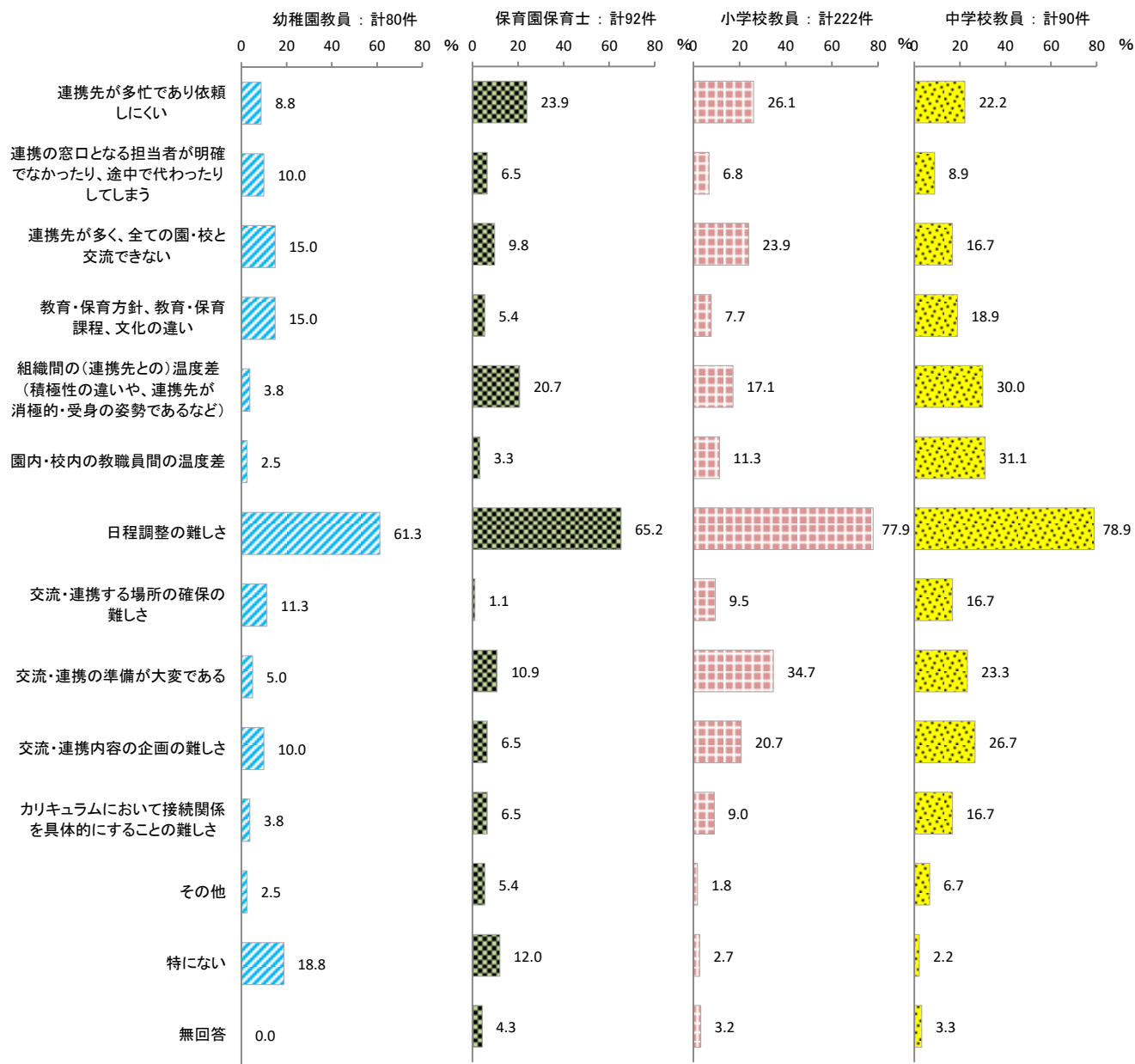


※ 幼稚園教員、保育園保育士は「園児や児童に親しみをもったり、園児や児童の入学を楽しみにしたりするようになった」、「園児や児童と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった」の項目なし。中学校教員は「学校生活に親しみをもったり期待を寄せたりするようになった」、「学校生活にあこがれをもち、普段の学習や活動を頑張るようになった」の項目なし。

(5) 交流・連携の課題となる点

交流・連携の課題となる点について回答結果をみると、どの校種でも「日程調整の難しさ」の割合が最も高くなっています。また、「連携先が多く、全ての園・校と交流できない」、「交流・連携の準備が大変である」の割合は、小学校が他の校種より高くなっています。

図 X-5 交流・連携の課題となる点
(教員・保育士比較)



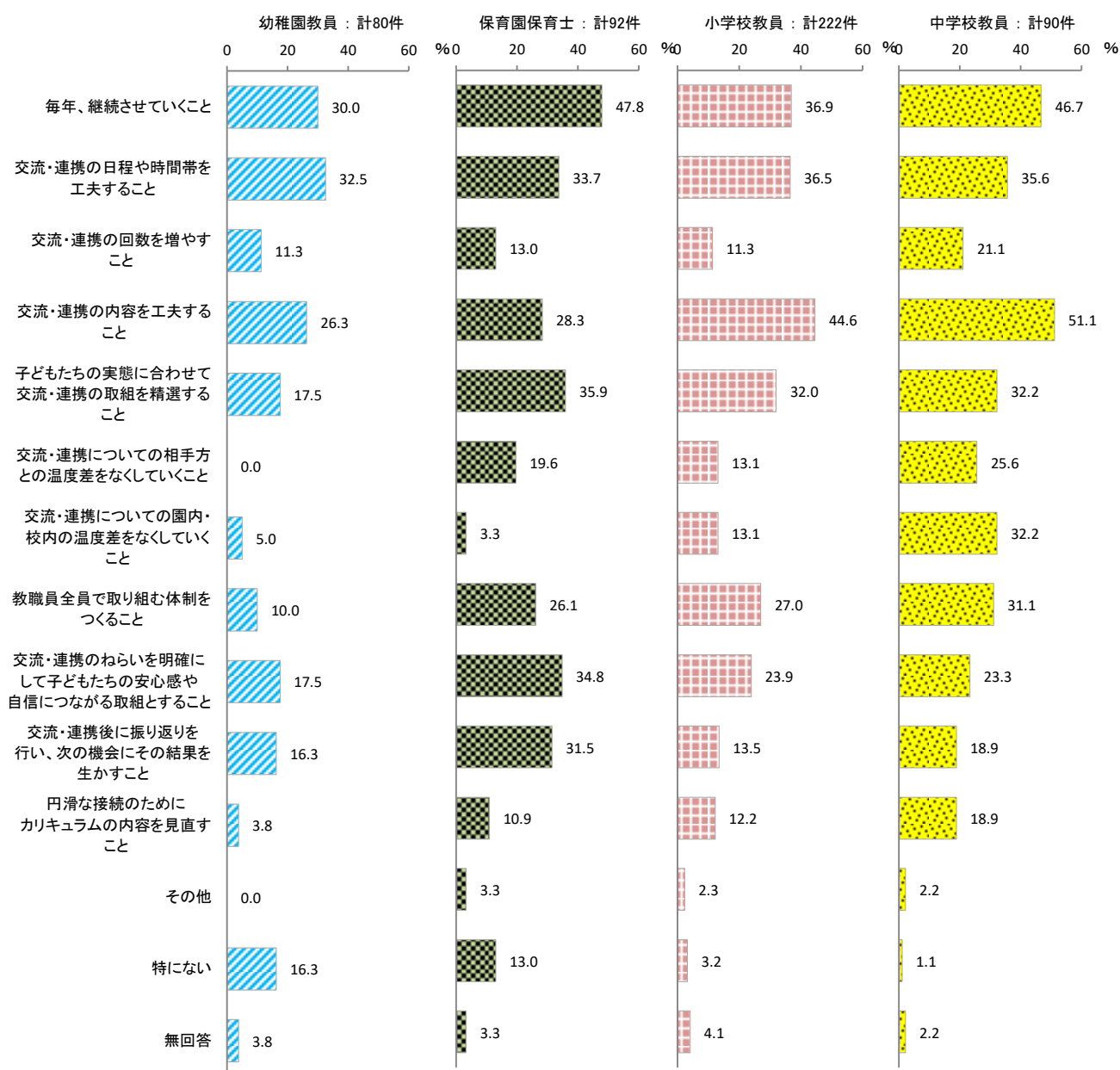
(6) 交流・連携で改善したい点

交流・連携で改善したい点について回答結果をみると、幼稚園では「交流・連携の日程や時間帯を工夫すること」の割合が最も高く、保育園では「毎年、継続させていくこと」の割合が最も高くなっており、交流・連携の機会を重視する回答となっています。

小学校、中学校では、「交流・連携の内容を工夫すること」の割合が最も高くなっており、交流・連携の内容を重視する回答となっています。

また、「交流・連携についての園内・校内の温度差をなくしていくこと」の割合は、中学校が他の校種より高くなっています。

図 X-6 交流・連携で改善したい点
(教員・保育士比較)

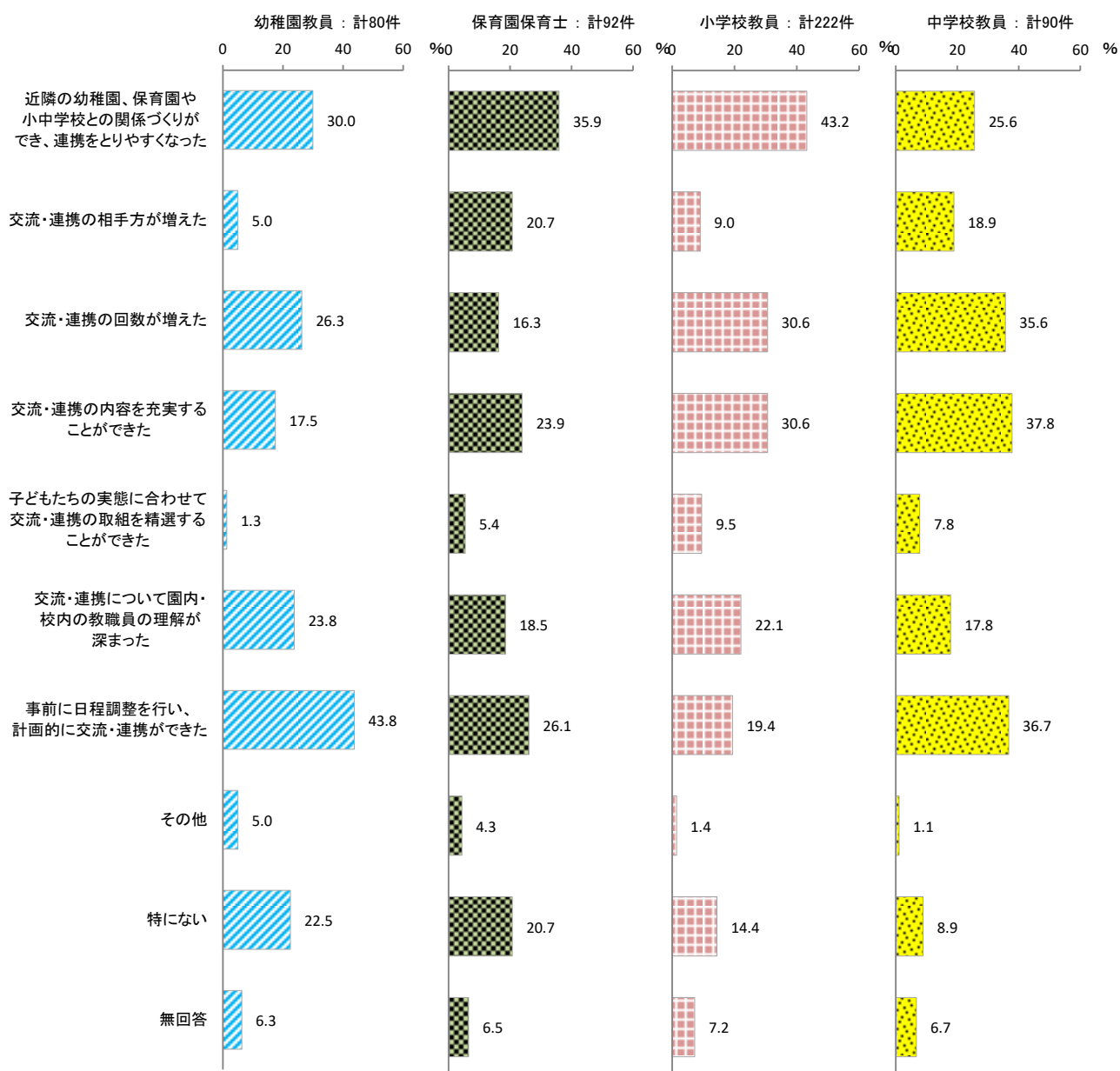


(7) 他園・校との交流・連携について改善されたこと

他園・校との交流・連携について改善されたことについて回答結果をみると、幼稚園では「事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた」の割合が最も高く、保育園、小学校では「近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった」の割合が最も高くなっており、交流・連携を円滑に実施する関係が構築できたという回答となっています。

中学校では「交流・連携の内容を充実することができた」の割合が最も高くなっており、交流・連携の内容を改善したという回答となっています。

図 X-7 他園・校との交流・連携について改善されたこと
(教員・保育士比較)



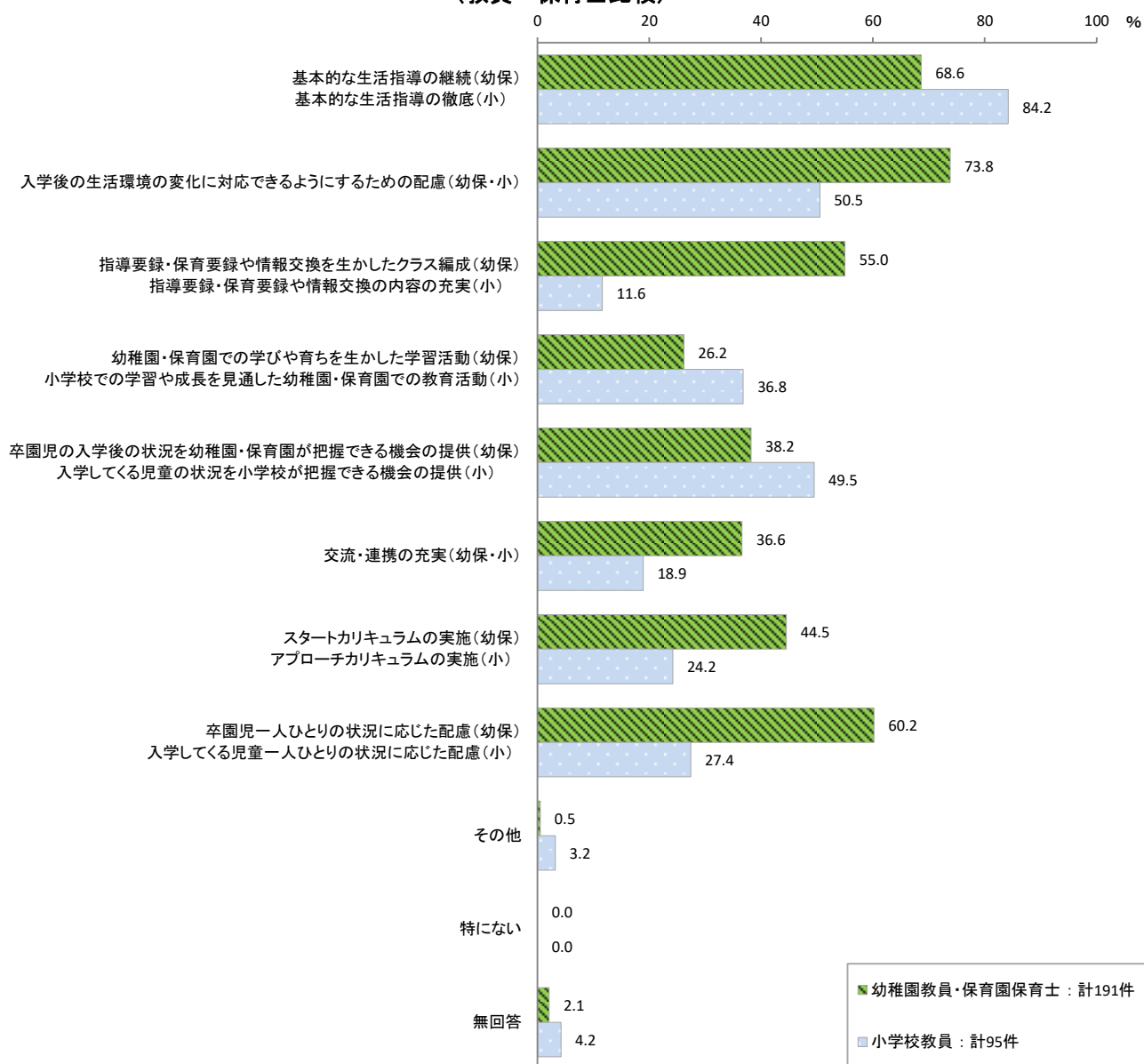
2 就学・進学に向けた取組について

(1) 幼稚園・保育園と小学校が相互に期待すること

幼稚園・保育園と小学校が相互に期待することについて回答結果をみると、「基本的な生活指導の継続（幼保）／基本的な生活指導の徹底（小）」の割合が、小学校は幼稚園、保育園より 15.6 ポイント高くなっています。

一方、「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮（幼保・小）」、「指導要録・保育要録や情報交換を生かしたクラス編成（幼保）／指導要録・保育要録や情報交換の内容の充実（小）」、「スタートカリキュラムの実施（幼保）／アプローチカリキュラムの実施（小）」、「卒園児一人ひとりの状況に応じた配慮（幼保）／入学してくる児童一人ひとりの状況に応じた配慮（小）」の割合が、幼稚園、保育園は小学校より 20.0 ポイント以上高くなっています。特に、「指導要録・保育要録や情報交換を生かしたクラス編成（幼保）／指導要録・保育要録や情報交換の内容の充実（小）」の割合が、幼稚園、保育園は小学校より 43.4 ポイント高くなっています。

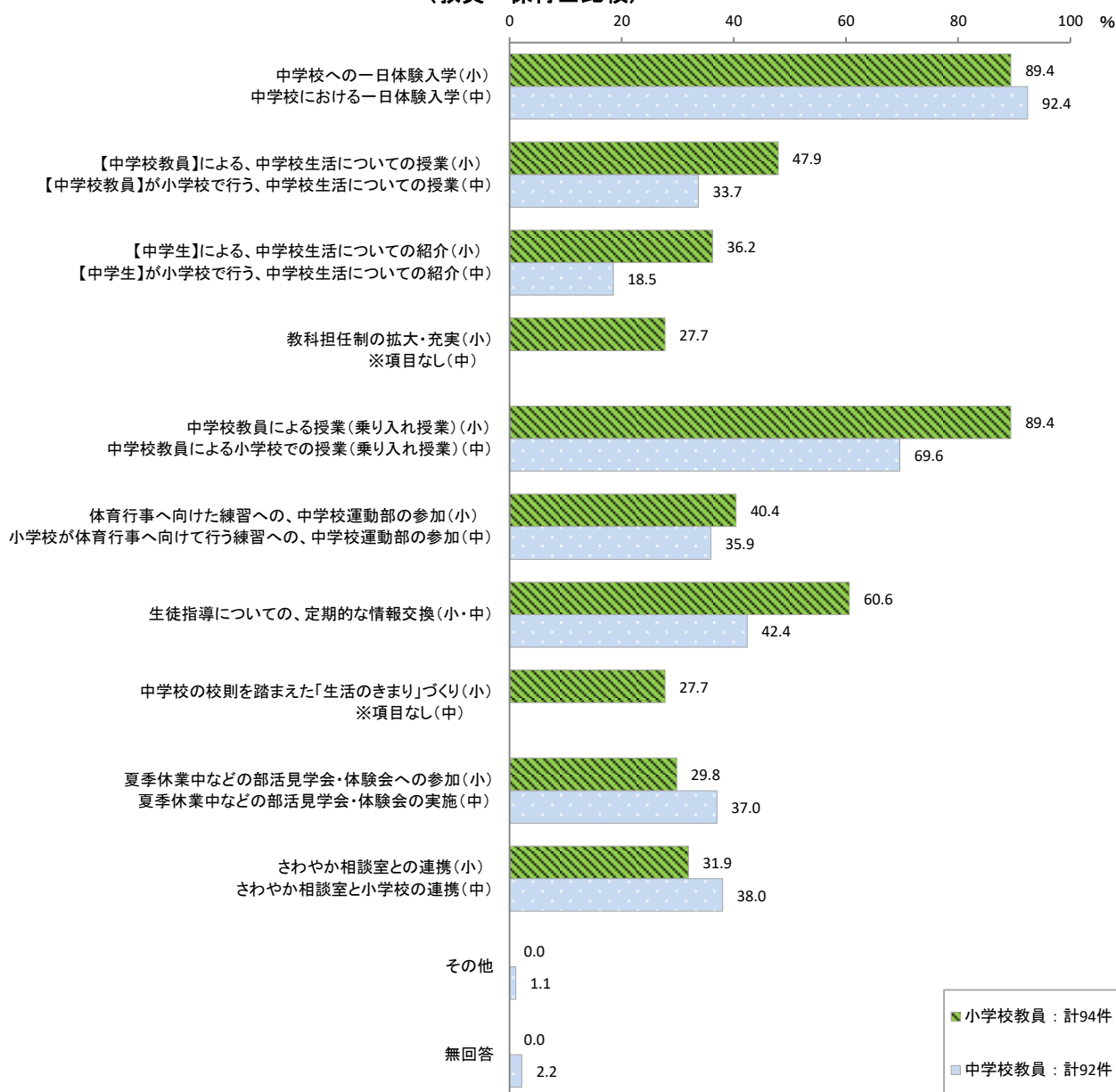
図 X-8 幼稚園・保育園と小学校が相互に期待すること
(教員・保育士比較)



(2) 中学校進学に向けて行っている具体的な取組（小）／進学してくる小学生に対して行っている具体的な取組（中）

中学校進学に向けて行っている具体的な取組について回答結果をみると、「【中学校教員】による、中学校生活についての授業（小）／【中学校教員】が小学校で行う、中学校生活についての授業（中）」、「【中学生】による、中学校生活についての紹介（小）／【中学生】が小学校で行う、中学校生活についての紹介（中）」、「中学校教員による授業（乗り入れ授業）（小）／中学校教員による小学校での授業（乗り入れ授業）（中）」、「生徒指導についての、定期的な情報交換（小・中）」の割合が、小学校は中学校より 14.0 ポイント以上高くなっています。

図 X-9 中学校進学に向けて行っている具体的な取組
(教員・保育士比較)



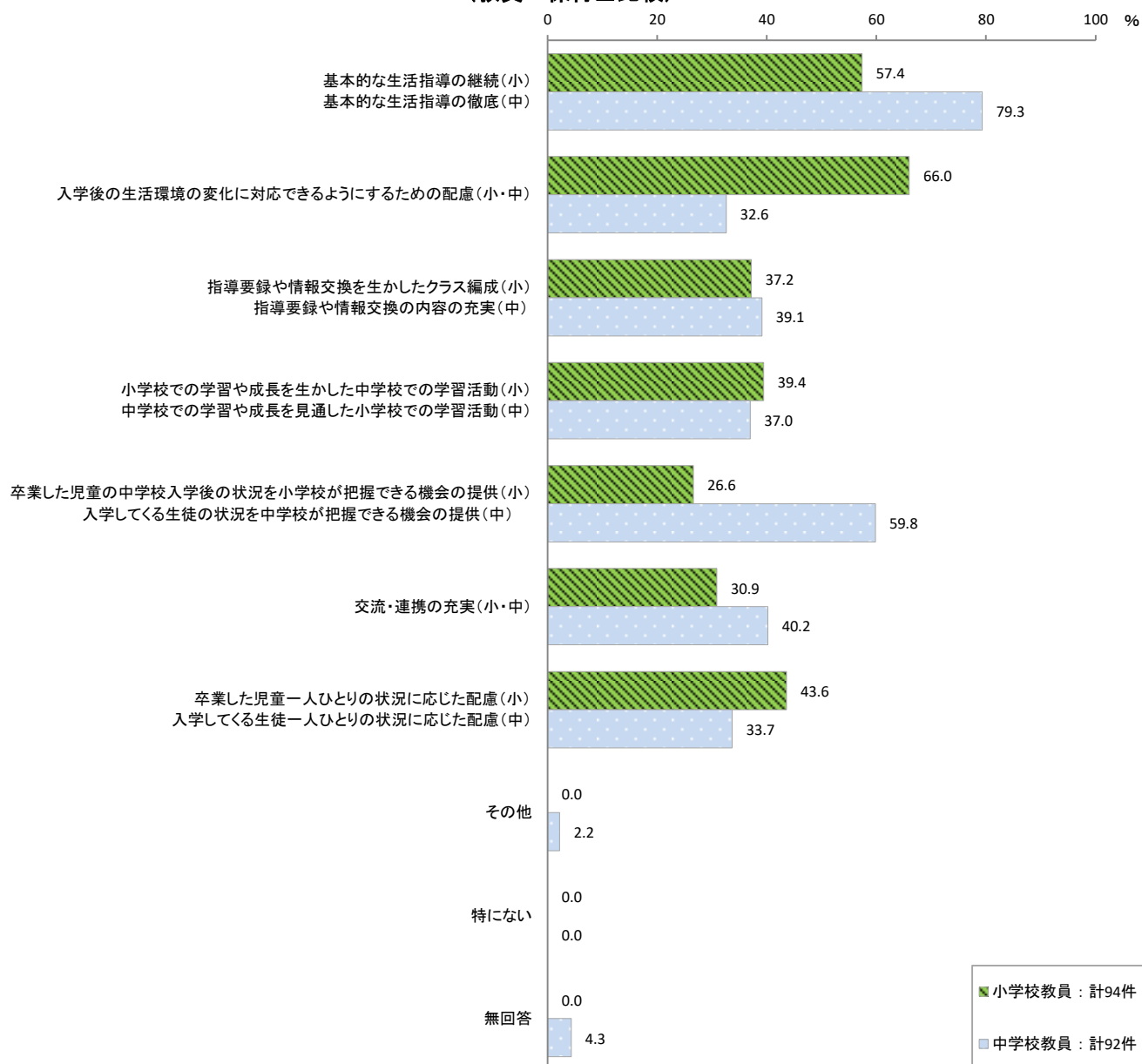
※ 中学校教員は「教科担任制の拡大・充実（小）」、「中学校の校則を踏まえた「生活のきまり」づくり（小）」と比較可能な項目なし。

(3) 小学校と中学校が相互に期待すること

小学校と中学校が相互に期待することについて回答結果をみると、「基本的な生活指導の継続（小）／基本的な生活指導の徹底（中）」、「卒業した児童の中学校入学後の状況を小学校が把握できる機会の提供（小）／入学してくる生徒の状況を中学校が把握できる機会の提供（中）」の回答の割合が、中学校は小学校より 21.0 ポイント以上高くなっています。

一方、「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮（小・中）」の割合が、小学校は中学校より 33.4 ポイント高くなっています。

図 Ⅹ-10 小学校と中学校が相互に期待すること
(教員・保育士比較)

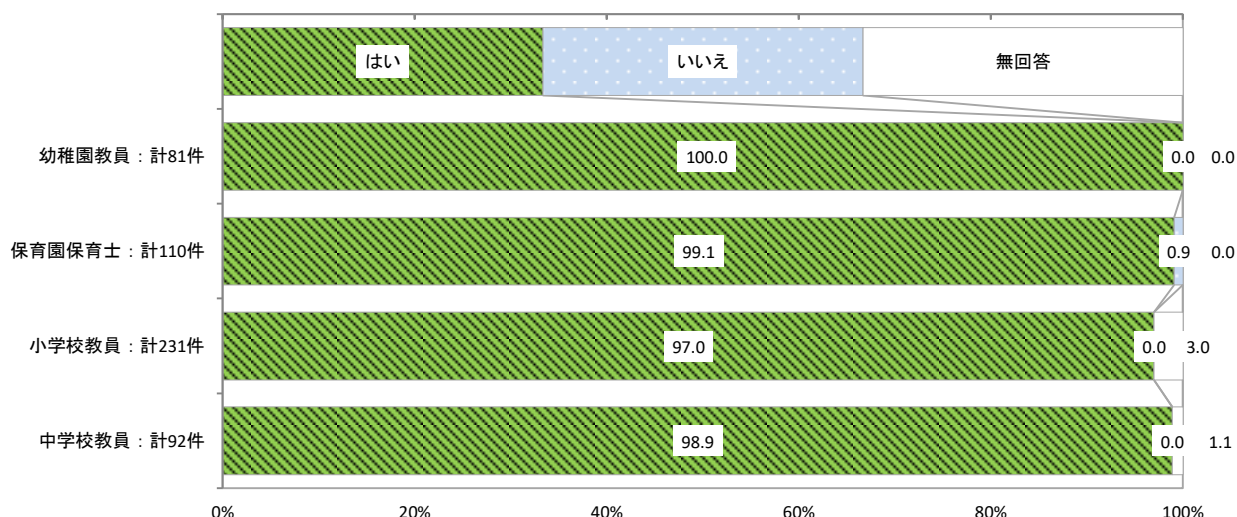


3 家庭教育への支援について

(1) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について

家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について回答結果をみると、どの校種でも「はい」の割合がほぼ 100%となっています。

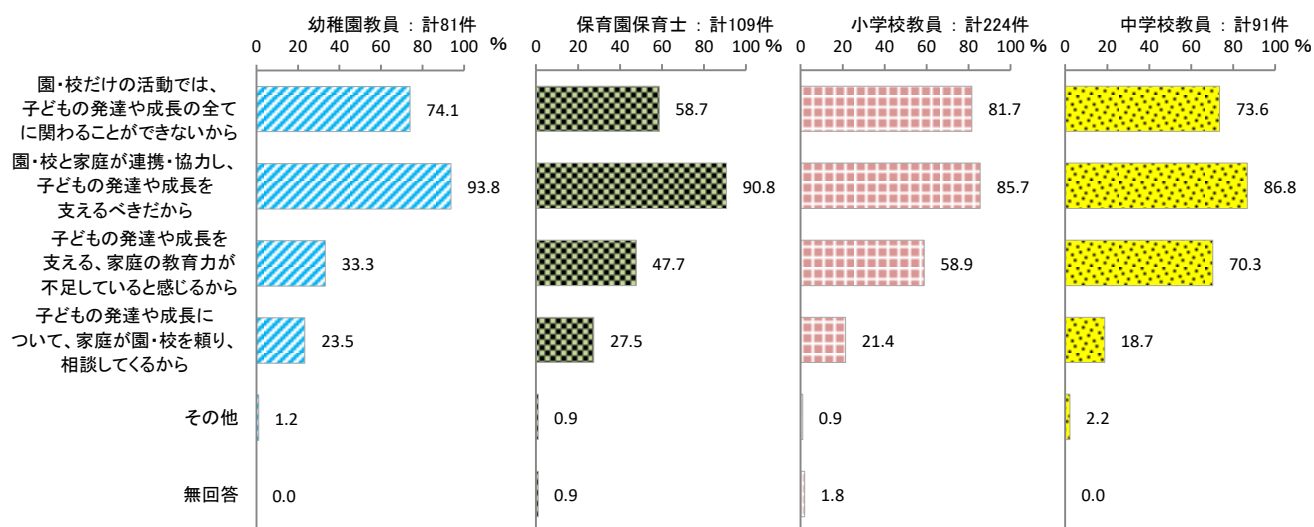
図 X-11 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性について
(教員・保育士比較)



(2) 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由

家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由について回答結果をみると、どの校種でも「園・校と家庭が連携・協力し、子どもの発達や成長を支えるべきだから」の割合が最も高く、次いで「園・校だけの活動では、子どもの発達や成長の全てに関わることができないから」が高くなっています。

図 X-12 家庭との連携・家庭教育への支援の必要性を感じる理由
(教員・保育士比較)



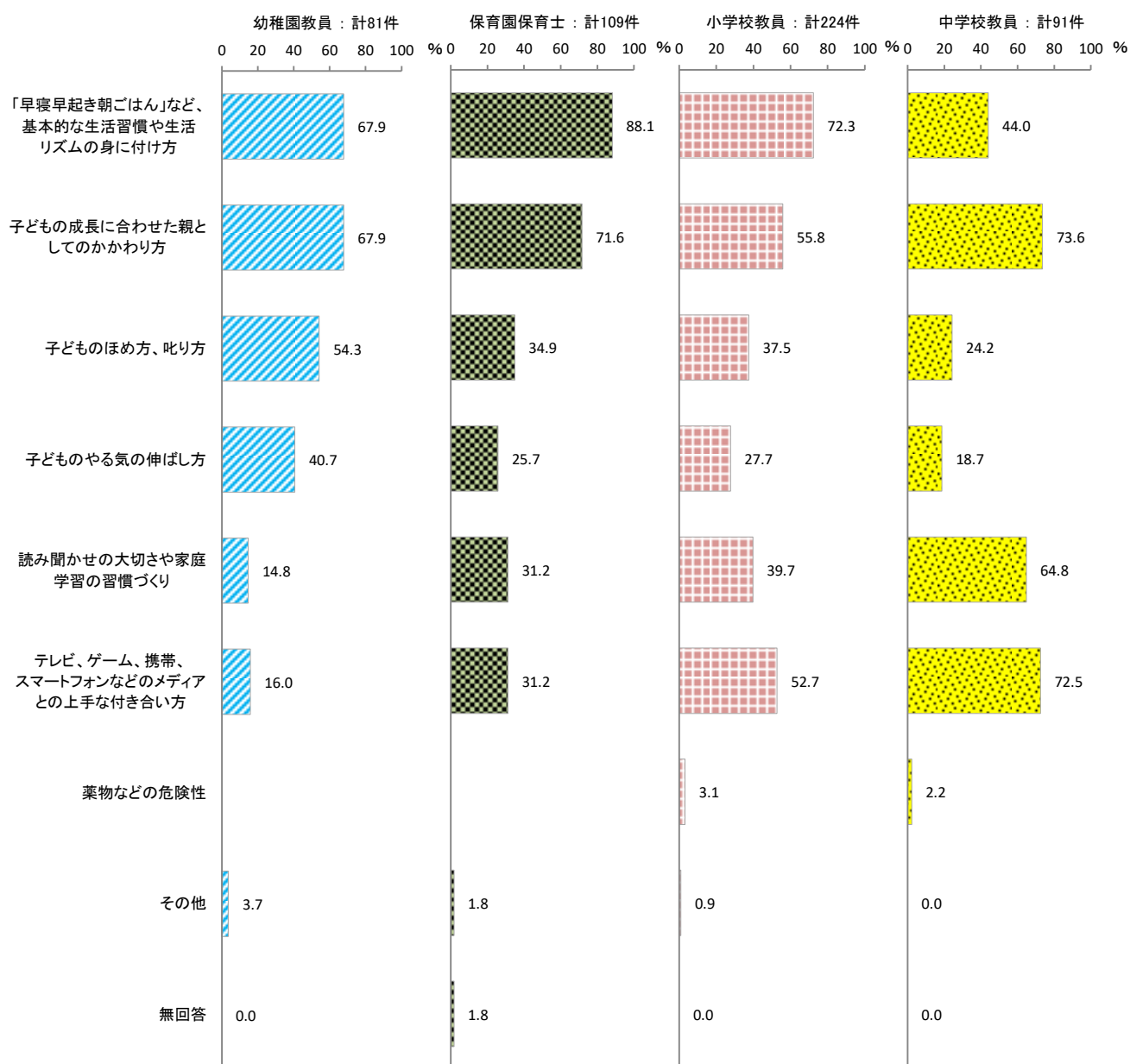
（３）家庭教育への支援で行いたい具体的な取組

家庭教育への支援で行いたい具体的な取組について回答結果をみると、幼稚園、保育園、小学校では「早寝早起き朝ごはん」など、基本的な生活習慣や生活リズムの身に付け方」の割合が最も高く、次いで「子どもの成長に合わせた親としてのかかわり方」の割合が高くなっており（幼稚園は同率）、生活習慣や成長へのかかわり方を重視する回答となっています。

中学校では、「子どもの成長に合わせた親としてのかかわり方」の割合が最も高く、次いで「テレビ、ゲーム、携帯、スマートフォンなどのメディアとの上手な付き合い方」の割合が高くなっており、成長へのかかわり方の他にメディアとの付き合い方を重視する回答となっています。

また、「読み聞かせの大切さや家庭学習の習慣づくり」、「テレビ、ゲーム、携帯、スマートフォンなどのメディアとの上手な付き合い方」の割合は、学年が上がるにつれて増加傾向となっています。

図 X-13 家庭教育への支援で行いたい具体的な取組
(教員・保育士比較)



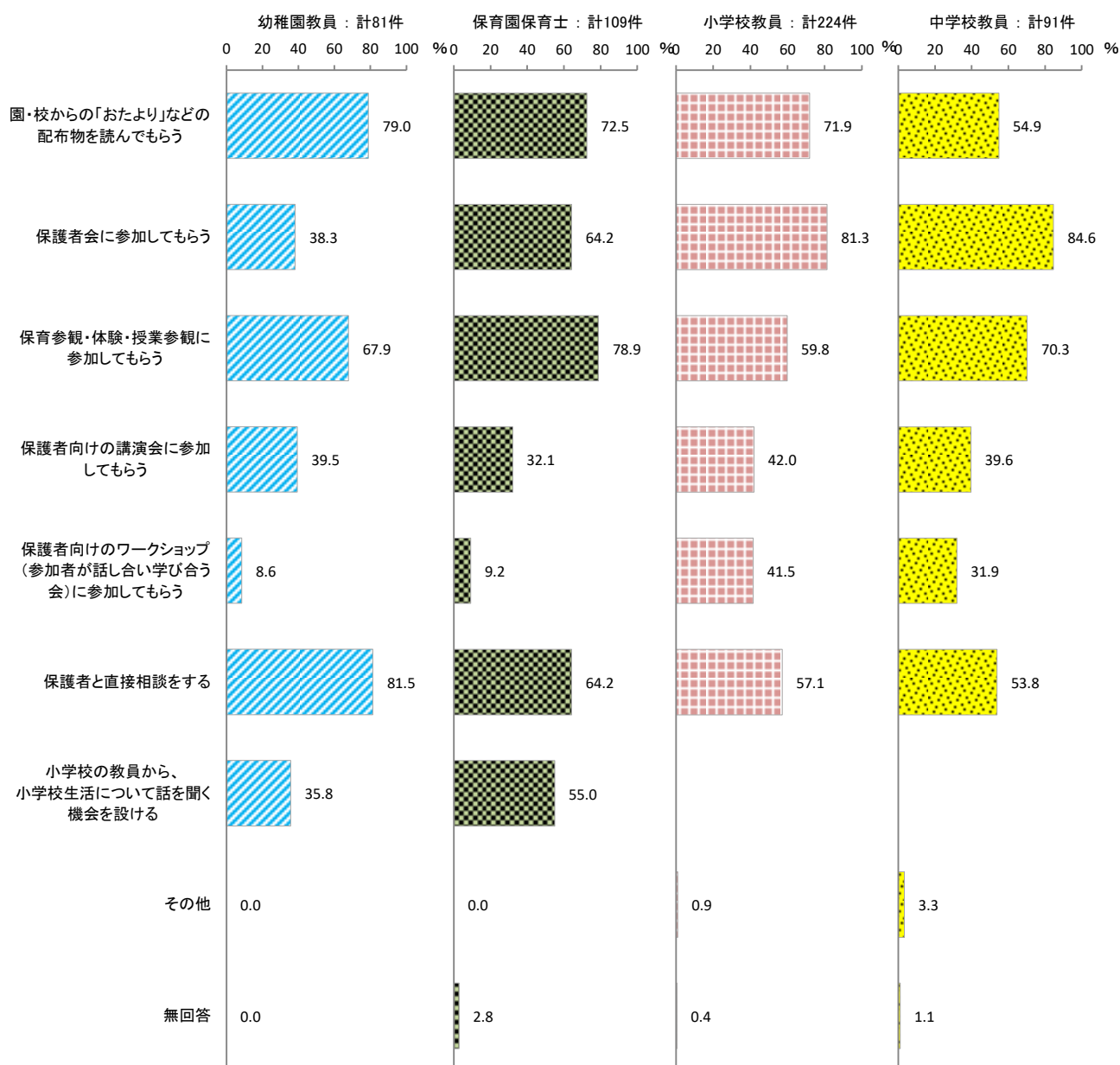
※ 幼稚園教員、保育園保育士は「薬物などの危険性」の項目なし。

（４）家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法

家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法について回答結果をみると、幼稚園では「保護者と直接相談をする」の割合が最も高くなっており、保護者への直接のアプローチが有効という回答となっています。

保育園では「保育参観・体験・授業参観に参加してもらう」の割合が最も高く、小学校、中学校では「保護者会に参加してもらう」の割合が最も高くなっており、保護者に園や学校の活動へ参加してもらう機会を提供することが有効という回答となっています。

図 X-14 家庭との連携・家庭教育への支援のために有効な機会・方法
(教員・保育士比較)



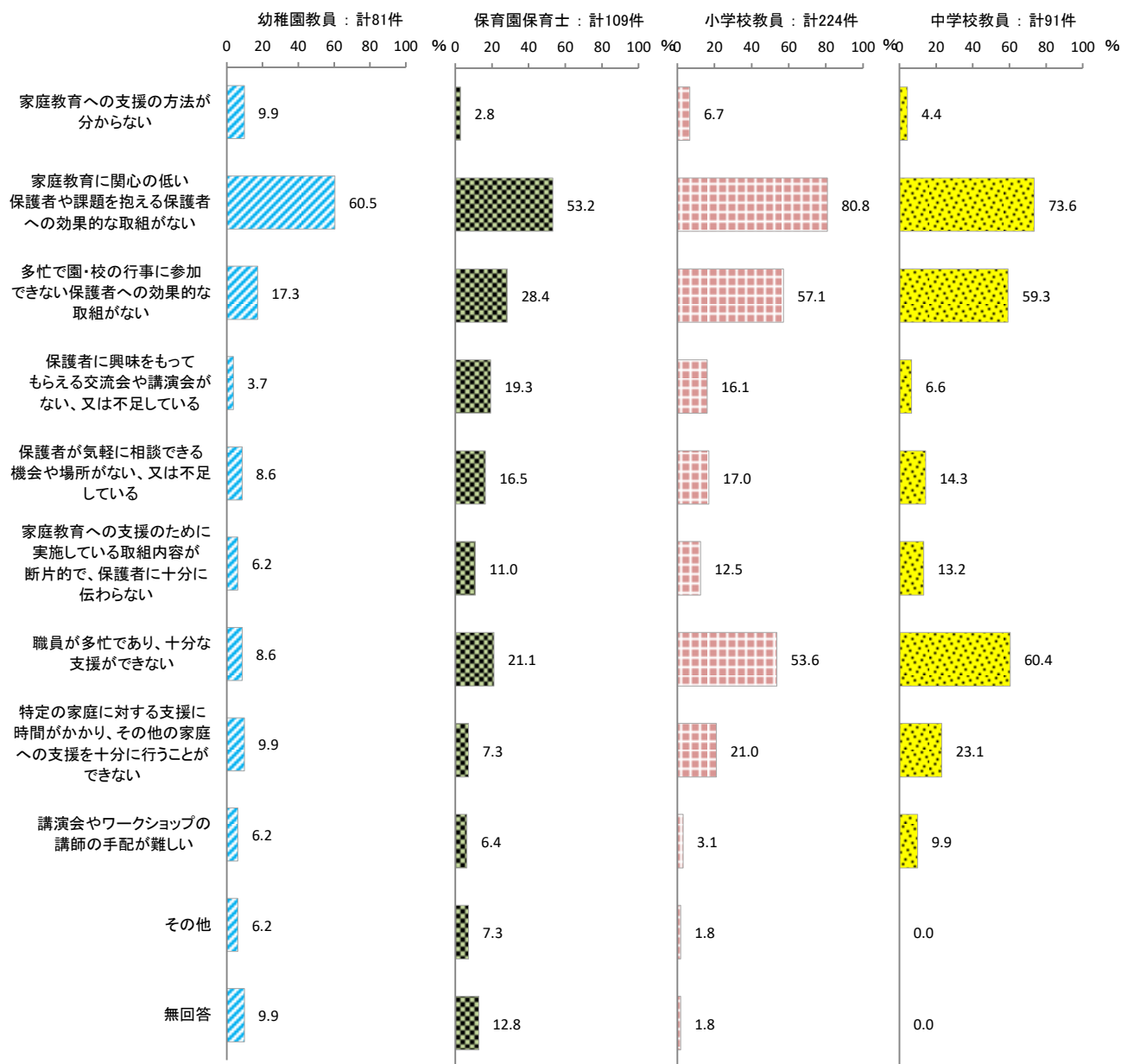
※ 小学校教員、中学校教員は「小学校の教員から、小学校生活について話を聞く機会を設ける」の項目なし。

(5) 家庭との連携・家庭教育への支援での課題

家庭との連携・家庭教育への支援での課題について回答結果をみると、どの校種でも「家庭教育に関心の低い保護者や課題を抱える保護者への効果的な取組がない」の割合が最も高くなっています。

また、「多忙で園・校の行事に参加できない保護者への効果的な取組がない」、「職員が多忙であり、十分な支援ができない」の割合が、小学校、中学校は幼稚園、保育園より高くなっています。

図 X-15 家庭との連携・家庭教育への支援での課題
(教員・保育士比較)



資料編

草加市子ども教育の連携に関する 保護者アンケートのお願い

向夏の間、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
日頃から草加市の教育行政にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、草加市教育委員会では、草加市教育振興基本計画『笑顔かがやく草加教育プラン』に基づき、子ども教育の連携を推進しています。
子ども教育の連携とは、幼児期の教育、小学校教育、中学校教育を連続した教育期間ととらえ、草加の子どもたちが安心して学び、一人ひとりの力を伸ばすことができる環境を整備し、「自ら学び 心豊かに たくましく生きる」草加っ子の育成を推進するものです。

本調査は、市内の子ども教育の連携について、実態等を把握し、今後の子ども教育の連携の推進に関する第2次基本方針の策定に際し、基礎資料となる重要な調査です。

お忙しい中、お手数をおかけいたしますが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成27年6月 草加市教育委員会

「ご回答をお願いしたい保護者の方」
幼稚園・保育園・認定こども園：年長児・5歳児の保護者の方
小学校：1年生、6年生の保護者の方
中学校：1年生、3年生の保護者の方

「アンケートのご回答にあたって」

- 集計結果は統計的に処理されますので、個人のお名前が特定されることはありません。また、アンケート用紙には、お名前などの個人情報を書かないでください。
- 質問のご回答として、あてはまる番号に○をつけてください。また、「その他」を選択した場合は、その内容を（ ）内に記入してください。
- 対象となるお子さんが2人以上いらっしゃる場合は、複数のアンケート用紙が備えます。誠にお手数をおかけいたしますが、それぞれのお子さんについてご回答ください。
- ご回答いただきましたら、お子さんの担任の先生にご提出ください。
- お問い合わせ先 草加市教育委員会 子ども教育連携推進室
電話 02-2-3494

家庭での教育について

問2 あなたは、家庭で教育やしつけを行うことは、子どもが健全に育つために、重要だと思いますか。 (○は1つだけ)

- 1 重要である 2 重要ではない (理由)

問3へお進みください

問3へお進みください

問3 あなたが、家庭でのしつけや教育で特に重視していることは何ですか。 (○は5つまで)

- 1 早起早起や、朝ごはんを食べるなどの規則正しい生活習慣
- 2 あいさつ、言葉づかいなどの礼儀作法
- 3 園や家庭でのルールやマナーを守ること
- 4 相手のことを思いやる心
- 5 忍耐、我慢すること。あきらめのない心
- 6 親子のコミュニケーション
- 7 健康、体力の向上などのために運動させること
- 8 自分でできることば自分でやらせたり、家の手伝いをさせたりすること
- 9 近所の人と関わり、地域の行事へ参加させること
- 10 勉強する習慣を身に付け、必要時は勉強を教えること
- 11 言い事など、園や家庭以外で学ぶ機会を設けること
- 12 読書をもつてテレビ（ビデオ、ゲーム）を見ること
- 13 その他 ()

問4 家庭でのしつけや教育で特に重視していることを、お子さんは、実際にできていると思いますか。 (○は1つだけ)

- 1 そう思う 2 どちらかと言えそう思う
3 どちらかと言えそう思わない 4 思わない
5 わからない

小学校入学にあたっての期待や不安について

問5 お子さんが、小学校入学後の生活について、楽しみにしていることや期待していることは何ですか。 (あてはまるものすべてに○) 【必要に応じてお子さんに聞いてください】

- 1 勉強 2 運動 3 小学校の先生
- 4 新しい友達 5 上級生との交流 6 給食
- 7 休み時間 8 当番活動 9 クラブ活動
- 10 広い校庭や大きな体育館 11 学校行事
- 12 その他 ()
- 13 特になし

問6 あなたが、お子さんの小学校入学後の生活について、不安に感じていることは何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

- 1 起床時間 2 勉強についていけるか
- 3 運動についていけるか 4 45分授業を聞いていられるか
- 5 学校のきまりを守るか 6 給食
- 7 学校行事 8 学級等の集団への適応
- 9 お子さんと先生との関係 10 お子さんと友だちとの関係
- 11 登下校の安全 12 学校の防犯・防災対策
- 13 保護者と先生・学校との関係 14 保護者どうしの関係
- 15 その他 ()
- 16 特になし ⇒問8へお進みください

あてはまる番号に○をつけてご回答ください。また、() の記述欄については、記入をお願いします。

お子さんについての基本情報など

園の名前 () 園 () お子さんの性別 1 男 2 女
対象のお子さんを育てた兄弟姉妹の人数 () 人 祖父母との同居 1 有 2 無
お子さんからみた、このアンケートに回答いただく方の続柄
1 父親 2 母親 3 祖父 4 祖母 5 その他 ()

お子さんの生活の様子について

問1 お子さんの生活の様子を教えてください。それぞれあてはまる欄に○を1つだけつけてください。

	ある／ できる／ できる／	ややある／ ややできる／ ややできる／	あまりない／ あまりできない／ あまりできない／	ない／ できない／ できない／
早起早起を朝ごはんなど、規則正しい生活を送ることはできますか。				
外出先や食事前に、手洗い・うがいを自分からすることはできますか。				
自分の物を整理整頓する、適切に身づくろいをするなど、身の回りのことを自分ですることはできますか。				
危ないことをしない、交通ルールを守るなど、安全に行動することはできますか。				
友達と一緒に遊ぶ、自分の気持ちを伝えるなど、周囲の人とコミュニケーションをとることはできますか。				
しつこりとしたあいさつや返事はできますか。				
順番を待つ、友達に譲るなど、我慢をすることはできますか。				
きまりや約束を守ることはできますか。				
学習への意欲や、生活・習い事などのさまざまな物事への関心がありますか。				
文章を読もうとする、計算や数量について理解しようとするなど、文字や数への関心がありますか。				
人の話を静かに聞く、物事にじっくり取り組むなど、集中して何かにやることはできますか。				

問7 あなたは、お子さんの小学校入学後の生活に関する不安や心配に対して、どのように対応されますか (指定されましたら)。(あてはまるものすべてに○)

- 1 園や先生に相談する
- 2 公的機関・医療機関に相談する
- 3 家庭中心に対応する
- 4 保護者どうしで相談する
- 5 その他 ()
- 6 特に対応しない

問8 問6で14の「特になし」に○をつけた場合に基えてください

あなたが、お子さんの小学校入学後の生活に関して不安を感じていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 幼稚園・保育園で、小学校との交流が行われているから
- 2 幼稚園・保育園で、小学校の話を聞いているから
- 3 幼稚園・保育園で、小学校入学にあたっての準備や練習を行っているから
- 4 今後、小学校の入学説明会や健康診断で、小学校生活について話を聞く機会があるから
- 5 お子さんの兄や姉が小学校に通っている（通っていた）から
- 6 自分の子どもには、十分な適応力があるから
- 7 その他 ()

「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる」草加っ子を育てるため、のびのびと育ちを促す
幼稚園・保育園等、小学校、中学校（幼稚園）の連携について

問9 あなたは、草加市の幼稚園・小学校の連携に力を入れて取り組んでいることを、知っていましたか。 (○は1つだけ)

- 1 知っていた 2 少し知っていた 3 全く知らなかった

問10 あなたは、草加市の幼稚園・小学校の連携に力を入れることは、子どもが健全に育つために、重要だと思いますか。 (○は1つだけ)

- 1 重要である 2 やや重要である 3 あまり重要ではない 4 重要ではない

理由をお答えください

問11 あなたは、幼稚園・保育園等で、子どもが小学校に安心して入学できるようにする活動に取り組んでほしいと思いますか。 (○は1つだけ)

- 1 はい 2 いいえ

問12へお進みください

問13へお進みください

問1-2 あなたは、小学校入学に向けて、幼稚園や保育園等でのようなことに取り組みでほしいですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---|--|
| 1 基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせること（登園時間を早める、昼寝の時間をなくすなど） | 2 戸外での遊びや運動などによる体力増進や健康づくり |
| 3 ルールを守ることの大切さを教えること | 4 友だちとかわる中で思いやりや優しきをもつこと |
| 5 友達と一緒に、同じ目的をもって1つのことに取り組むこと | 6 言葉を通して先生や友達と心を通わせたり、大勢の前で発表したりする機会を設けること |
| 7 芸術活動などを行うこと | 8 絵や工作、歌や楽器などによる創作的な活動 |
| 9 文字や数に興味をもたせること | 10 集中して1つのことに取り組む時間を設けること |
| 11 小学校以降の育ちの連続性を意識した教育活動の実施 | 12 その他（ ） |

お子さんの得意なことについて

問1-3 将来の社会の担い手として、中学校を卒業するまでに、お子さんに身に付けてほしい能力や考え方のうち、特に重要だと思うことは何ですか。（○は5つまで）

- | | |
|-----------------------------|----------------------------------|
| 1 学力 | 2 運動能力 |
| 3 生活していく上での常識、礼儀作法 | 4 きまりや約束を守る規範意識 |
| 5 他人を大切に、思いやる心 | 6 あきらめず、おぼろしく挑戦することができる、たくましい心 |
| 7 悔の意を克服する心 | 8 自分を大切に存在だと認めることが出来る自己肯定感の育成 |
| 9 自分で考え、自分で学び、自分の判断で行動する自立心 | 10 他人との関係を円滑に築くコミュニケーション能力と自己表現力 |
| 11 あらゆる環境変化に対応できる柔軟性と豊かな発想力 | 12 集団を率いるリーダーシップ |
| 13 犯罪、災害から身を守る注意力 | 14 助動意欲や社会の役に立ちたいと思う心 |
| 15 伝統や文化を重んじ、地域を大切にすること | 16 異文化を理解し、国際人として活動しようとする力 |
| 17 地球環境や自然を大切にすること | 18 その他（ ） |

最後に、子ども教育の連携や草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
お手数ですが、担任の先生へご提出ください。

保護者用（小学校1年生）

家庭での教育について

問2 あなたは、家庭で教育やしつけを行うことは、子どもが健全に育つために、重要だと思いますか。（○は1つだけ）

- | | |
|---------|----------------|
| 1 重要である | 2 重要ではない（理由： ） |
|---------|----------------|

問3へお進みください

問3へお進みください

問3 あなたが、家庭でのしつけや教育で特に重視していることは何ですか。（○は5つまで）

- | | |
|------------------------------|------------------------------------|
| 1 早寝早起き、朝ごはんを食べるなどの規則正しい生活習慣 | 2 あいさつ、言葉づかいなどの礼儀作法 |
| 3 学校や家庭でのルールやマナーを覚えること | 4 相手のことを思いやる心 |
| 5 忍耐力、我慢すること、あきらめない心 | 6 親子のコミュニケーション |
| 7 健康、体力の向上などのために運動させること | 8 自分でできることは自分でやらせたり、家の手伝いをさせたりすること |
| 9 近所の人と関わり、地域の行事へ参加させること | 10 勉強する習慣を身に付け、必要な時は勉強を教えること |
| 11 言い事など、学校や家庭以外で学ぶ機会を設けること | 12 厚度をもってテレビ（ビデオ、ゲーム）を見ること |
| 13 その他（ ） | |

問4 家庭でのしつけや教育で特に重視していることを、お子さんは、実際にできていると思いますか。（○は1つだけ）

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 そう思う | 2 どちらかと言えば思う |
| 3 どちらかと言えば思わない | 4 思わない |
| 5 わからない | |

小学校入学後のお子さんの様子について

問5 お子さんが現在、小学校入学後の日々の生活で楽しみにしていることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）【必要に応じてお子さんに聞いてください】

- | | | |
|----------------|-----------|-----------|
| 1 勉強 | 2 運動 | 3 先生 |
| 4 友達 | 5 上級生との交流 | 6 給食 |
| 7 休み時間 | 8 海苔活動 | 9 クラブ活動 |
| 10 広い校庭や大きな体育館 | 11 学校行事 | 12 その他（ ） |
| 13 特にない | | |

問6 あなたが現在、お子さんの小学校入学後の生活で、不安に感じていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 起床時間 | 2 勉強についていけるか |
| 3 運動についていけるか | 4 45分授業を聞いていられるか |
| 5 学校のきまりを守れるか | 6 給食 |
| 7 学校行事 | 8 学校等の施設への適応 |
| 9 お子さんと先生との関係 | 10 お子さんと友だちとの関係 |
| 11 全学級の安全 | 12 学校の防災、防災対策 |
| 13 保護者と先生・学校との関係 | 14 保護者どうしの関係 |
| 15 その他（ ） | 16 特にない →問8へお進みください |

保護者用（中学校1年生）

問7 あなたは、お子さんの小学校入学後の生活に関する不安や心配に対して、どのように対応されますか（対応されましたが）。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------|------------------|
| 1 学校や先生に相談する | 2 公的機関・医療機関に相談する |
| 3 家庭中心に対応する | 4 保護者どうしで相談する |
| 5 その他（ ） | 6 特に対応しない |

問8 問7で16の「特にない」に○をつけた場合に答えてください

あなたが、お子さんの小学校入学後の生活に関して不安を感じていない理由は何ですか（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1 幼稚園・保育園で、小学校との交流が行われていたから | 2 幼稚園・保育園で、小学校の話を聞いていたから |
| 3 幼稚園・保育園で、小学校入学に向けた準備や練習を行っていたから | 4 小学校の入学説明会や健康診断で、小学生生活について話を聞いたから |
| 5 （お子さんの）兄や姉が小学校に通っている、通っていたから | 6 自分自身には、十分な語力があるから |
| 7 子どもが楽しそうに学校に通っているから | 8 その他（ ） |

「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる」夢加っ子を育てるため、のびのびと育ちを促す幼稚園・保育園等、小学校、中学校（幼稚園・保育園）の連携について

問9 あなたは、草加市が幼稚園・保育園との連携に力を入れて取り組んでいることを、知っていましたか。（○は1つだけ）

- | | | |
|---------|-----------|------------|
| 1 知っていた | 2 少し知っていた | 3 全く知らなかった |
|---------|-----------|------------|

問10 あなたは、草加市が幼稚園・中学校との連携に力を入れて取り組んでいることを、知っていましたか。（○は1つだけ）

- | | | | |
|---------|-----------|-------------|----------|
| 1 重要である | 2 やや重要である | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
|---------|-----------|-------------|----------|

理由をお答えください

問11 あなたは、子どもたちが幼稚園や保育園等で身に付けた力を生かすような教育活動を、小学校で行ってほしいと思いますか。（○は1つだけ）

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問12へお進みください

問13へお進みください

問12 小学校で、幼稚園や保育園等の教育と連携するために、どのようなことに取り組んでほしいですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1 基本的な生活指導を幼稚園・保育園等から継続して行うこと | 2 小学校入学後の環境変化に対応して対応すること |
| 3 幼稚園・保育園等と情報を共有し、学校の運営に生かすこと | 4 幼稚園や保育園での学びや育ちを、学習活動に生かすこと |
| 5 幼稚園・保育園との交流や連携を充実させること | 6 その他（ ） |

お子さんの将来像について

図1-3 将来の社会の担い手として、中学校を卒業するまでに、お子さんに身に付けてほしい能力や考え方のうち、特に重要だと思うことは何ですか。（〇は1つまで）

- 1 学力
- 2 運動能力
- 3 生きていく上での常識、礼儀作法
- 4 きまりや約束を守る規範意識
- 5 他人を大切に、思いやる心
- 6 あきらめず、ねばり強く挑戦することができる、たくましい心
- 7 夢の夢を實現する心
- 8 自分を大きな存在だと思える自己肯定感の育成
- 9 自分で考え、自分で学び、自分の判断で行動する自立心
- 10 他人との関係を円滑に築くコミュニケーション能力と自己表現力
- 11 あらゆる環境変化に対応できる柔軟性と豊かな発想力
- 12 集団を率いるリーダーシップ
- 13 犯罪、災害から身を守る意識力
- 14 勤労意欲や社会の役に立ちたいと思う心
- 15 伝統や文化を重んじ、地域を大切にすること
- 16 異文化を理解し、国際人として活動しようとする心
- 17 地球環境や自然を大切にすること
- 18 その他（ ）

最後に、子ども教育の連携や草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
お手数ですが、担任の先生へご提出ください。

草加市子ども教育の連携に関する 保護者アンケートのお願い

向原の純。ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
日頃から草加市の教育行政にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、草加市教育委員会では、草加市教育振興基本計画『笑顔がやぐ草加教育プラン』に基づき、子ども教育の連携を推進しています。
子ども教育の連携とは、幼児期の教育、小学校教育、中学校教育を連続した教育期間ととらえ、草加の子どもたちが安心して学び、一人ひとりの力を伸ばすことができる環境を整備し、「自ら学び 心豊かに たくましく生きる」草加っ子の育成を推進するものです。

本調査は、市内の子ども教育の連携について、実態等を把握し、今後の子ども教育の連携の推進に関する第2次基本方針の策定に際し、基礎資料となる重要な調査です。

お忙しい中、お手数をおかけいたしますが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成27年6月 草加市教育委員会

＜ご回答をお願いしたい保護者の方＞
幼稚園・保育園・認定こども園・年長児・5歳児の保護者の方
小学校：1年生、6年生の保護者の方
中学校：1年生、3年生の保護者の方

＜アンケートのご回答にあたって＞

- 1 集計結果は統計的に処理されますので、個人のお名前が特定されることはありません。また、アンケート用紙には、お名前などの個人情報を書かないでください。
- 2 質問にご回答として、あてはまる番号に○をつけてください。また、『その他』を選択した場合などは、その内容を（ ）内に記入してください。
- 3 対象となるお子さんが2人以上いらっしゃる場合は、複数のアンケート用紙が帰ります。誠に勝手をおかけいたしますが、それぞれのお子さんについてご回答ください。
- 4 ご回答いただきましたら、お子さんの担任の先生にご提出ください。
- 5 お問い合わせ先 草加市教育委員会 子ども教育連携推進室
電話 922-3494

あてはまる番号に○をつけてご回答ください。また、『（ ）』の記述欄については、記入をお願いします。

お子さんについての基本情報など

学校のお名前（ ） 小学校 1 学年 2 学年 3 学年 4 学年 5 学年 6 学年
対象のお子さんを含めた兄弟姉妹の人数（ ）人 祖父祖母との同居 1 有 2 無
お子さんからみた、このアンケートに回答いただく方の続柄
1 父親 2 母親 3 祖父 4 祖母 5 その他（ ）

お子さんの生活の様子について

図1-1 お子さんの生活の様子を教えてください。それぞれあてはまる欄に○を1つだけつけてください。

	ある・ できる・ やがてある・ あきらめない・ できない・ やがてない・	ある・ できる・ やがてある・ あきらめない・ できない・ やがてない・	ある・ できる・ やがてある・ あきらめない・ できない・ やがてない・	ある・ できる・ やがてある・ あきらめない・ できない・ やがてない・
学習や読書など、規則正しい生活を送ることはできますか。				
外出先や食事場、子供い・うがいを自分からすることはできますか。				
自分の物を整理整頓し、周囲に身についておくなど、身の回りのことを自分ですることばできますか。				
教えないことをしない、交際ルールを守るなど、安全に行動することばできますか。				
友達と 一緒に遊ぶ、自分の気持ちを伝えるなど、周囲の人とコミュニケーションをとることばできますか。				
しっかりとしたあいさつや返事はできますか。				
順番を待つ、友達に譲るなど、我慢をすることはできますか。				
きまりや約束を守ることはできますか。				
学習への意欲や、生活・周囲のさまざまな物事への関心がありますか。				
算数や理科、計算や数量について理解しようとするなど、文字や数への関心がありますか。				
人の話を静かに聞く、物事にじっくり取り組むなど、集中して何かをすることばできますか。				

お子さんの学習の様子について

図2-1 お子さんは、学校での授業を理解している様子ですか。（〇は1つだけ）
1 理解している 2 はほぼ理解している 3 あまり理解していない
4 全く理解していない 5 理解しようとしていない 6 わからない
7 その他（ ）

問3 問2で3、4、5に○をつけた場合に答えてください

お子さんが、学校の授業を理解していない理由や原因は何だと思われますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|------------|---------------|--------------|
| 1 学習内容が難しい | 2 授業に集中できていない | 3 教え方が適切ではない |
| 4 わからない | 5 その他（ ） | |

問4 お子さんの、学校以外での1日の平均学習時間（塾などでの学習の時間を含む）は、どのくらいですか。（○は1つだけ）

- | | | |
|---------|---------|-------------------|
| 1 30分以内 | 2 1時間以内 | 3 2時間以内 |
| 4 3時間以内 | 5 4時間以内 | 6 5時間以内 |
| 7 6時間以内 | 8 8時間超 | 9 学校以外ではほとんど勉強しない |

家庭での教育について

問5 あなたは、家庭で教育やしつけを行うことは、子どもが健全に育つために、重要だと思うと思いますか。（○は1つだけ）

- | | |
|---------|----------|
| 1 重要である | 2 重要ではない |
| | (理由) |

問6へお進みください

問8へお進みください

問6 あなたが、家庭でのしつけや教育で特に重視していることは何ですか。（○は5つまで）

- 1 基礎学習、朝ごはんを食べるなどの規則正しい生活習慣
- 2 あいさつ、言葉づかいなどの礼儀作法
- 3 学校や家庭でのルールやマナーを守ること
- 4 知手のことを思いやる心
- 5 忍耐力、我慢すること、あきらめない心
- 6 親子のコミュニケーション
- 7 健康、体力の向上などのために運動させること
- 8 自分でできることは自分で行わせたり、家の手伝いをさせたりすること
- 9 近所の人と関わり、地域の行事へ参加させること
- 10 勉強する習慣を身に付け、必要な時は勉強を教えること
- 11 面白い事など、学校や家庭以外でやる機会を設けること
- 12 読書をもってテレビを見たりゲームをしったりすること
- 13 携帯電話・スマートフォンをルールやマナーを守って使うこと
- 14 その他（ ）

問7 家庭でのしつけや教育で、特に重視していることを、お子さんは、実際にできていると思えますか。（○は1つだけ）

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 そう思う | 2 どちらかと言えば思う |
| 3 どちらかと言えば思わない | 4 思わない |
| 5 わからない | |

中学校入学にあたっての期待や不安について

問8 お子さんが、中学校入学後の生活について、楽しみにしていることや期待していることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）【必要に応じてお子さんに聞いてください】

- | | | |
|----------------|------------|---------|
| 1 勉強 | 2 運動 | 3 新しい先生 |
| 4 新しい友達 | 5 上級生との交流 | 6 給食 |
| 7 休み時間 | 8 部活・委員会活動 | 9 部活動 |
| 10 広い校庭や大きな体育館 | 11 学校行事 | |
| 12 その他（ ） | 13 特にない | |

問14 あなたは、小学校で、子どもが中学校に安心して入学できるようにする教育活動に取り組んでほしいと思いますか。（○は1つだけ）

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問15 あなたは、中学校入学に向けて、小学校でどのようなことに取り組んでほしいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 小・中学校で教育の目標を共有し、一体となって教育活動に取り組むこと
- 2 中学校での学習に生き生きと参画して、小学校で学習指導を行うこと
- 3 小・中学校で「生活のきまり」と規則に一貫性をもたせることで、子どもが戸惑うことなく、きまりを守って生活できるようにすること
- 4 小学校の授業に、中学校の教員も参加し、子どもが、中学校の先生や、その学習指導に早く慣れることができるようにすること
- 5 中学校での教科担任制に慣れるために、小学校の一部教科で教科担任制を行うこと
- 6 中学生と交流する機会を増やして、子どもたちが上級生とのよい人間関係をつくれるようにすること
- 7 その他（ ）

お子さんの得意なことについて

問16 将来の社会の担い手として、中学校を卒業するまでに、お子さんに身に付けてほしい能力や考え方のうち、特に重要だと思うことは何ですか。（○は5つまで）

- 1 学力
- 2 運動能力
- 3 生き生きとやるべき態度、礼儀作法
- 4 きまりや約束を守る規範意識
- 5 他人を大切に、思いやる心
- 6 あきらめず、ねばり強く挑戦することができる、たくましい心
- 7 命の尊さを理解する心
- 8 自分を大切に存在だと思うことが出来る自己肯定感の育成
- 9 自分で考え、自分で学び、自分の判断で行動する自立心
- 10 他人との関係を円滑に築くコミュニケーション能力と自己表現力
- 11 あらゆる環境変化に対応できる柔軟性と豊かな発想力
- 12 集団を率いるリーダーシップ
- 13 犯罪、災害から身を守る注意力
- 14 勤労意欲や社会の役に立ちたいと思う心
- 15 伝統や文化を重んじ、地域を大切にすること
- 16 異文化を理解し、国際人として活動しようとする力
- 17 地球環境や自然を大切にすること
- 18 その他（ ）

最後に、子ども教育の連携や草加市の教育についてご意見などがあれば、自由に記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
お手数ですが、担任の先生へご提出ください。

問9 あなたが、お子さんの中学校入学後の生活について、不安に感じていることや心配していることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1 生活時間の変化 | 2 勉強についていけるか |
| 3 運動についていけるか | 4 50分間授業を聞いていられるか |
| 5 校則を守れるか | 6 給食 |
| 7 部活動 | 8 学校行事 |
| 9 学級等の集団への適応 | 10 お子さんと先生との関係 |
| 11 お子さんと友だちとの関係 | 12 お子さんと上級生との関係 |
| 13 登下校の安全 | 14 学校の防犯・防災対策 |
| 15 保護者と先生・学校との関係 | 16 保護者どうしの関係 |
| 17 その他（ ） | 18 特にない → 問11へお進みください |

問10 あなたは、お子さんの中学校入学後の生活に関する不安や心配に対して、どのように対応されますか（対応されましたか）。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------|------------------|
| 1 学校や先生に相談する | 2 公的機関・関係機関に相談する |
| 3 家庭中心に対応する | 4 保護者どうしで相談する |
| 5 その他（ ） | 6 特に対応しない |

問11 問9で18の「特にない」に○をつけた場合に答えてください

あなたが、お子さんの中学校入学後の生活に関して不安を感じていない理由は何かですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 小学校で、中学校との交流が行われているから
- 2 小学校で、中学校の話を聞いているから
- 3 小学校で、中学校入学に向けた準備に取り組んでいるから
- 4 今後、中学校の入学説明会や健康診断で中学校生活について話を聞く機会があるから
- 5 お子さんの兄や姉が中学校に通っている（通っていた）から
- 6 自分の子どもには、十分な適応力があると思うから
- 7 その他（ ）

「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる」草加っ子を育むため、0歳から18歳の育ちを支える活動課・教育課等、小学校、中学校、幼稚園（幼稚園・保育園）の連携について

問12 あなたは、草加市が幼稚園・小中の連携に力を入れて取り組んでいることを、知っていましたか。（○は1つだけ）

- | | | |
|---------|-----------|------------|
| 1 知っていた | 2 少し知っていた | 3 全く知らなかった |
|---------|-----------|------------|

問13 あなたは、草加市が幼稚園・小中の連携に力を入れることは、子どもが健全に育つために、重要だと思いますか。（○は1つだけ）

- | | | | |
|---------|-----------|-------------|----------|
| 1 重要である | 2 やや重要である | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
|---------|-----------|-------------|----------|

理由をお答えください

草加市子ども教育の連携に関する 保護者アンケートのお願い

向夏の間、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
日頃から草加市の教育行政にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、草加市教育委員会では、草加市教育振興基本計画『笑顔がや
く草加教育プラン』に基づき、子ども教育の連携を推進しています。
子ども教育の連携とは、幼児期の教育、小学校教育、中学校教育を連
続した教育期間ととらえ、草加の子どもたちが安心して学び、一人ひと
りの力を伸ばすことができる環境を整備し、「自ら学び 心豊かに た
くましく生きる」草加っ子の育成を推進するものです。

本調査は、市内の子ども教育の連携について、実態等を把握し、今後の
子ども教育の連携の推進に関する第2次基本方針の策定に際し、基礎
資料となる重要な調査です。

お忙しい中、お手数をおかけいたしますが、本アンケートの趣旨をご
理解いただき、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成27年6月 草加市教育委員会

「ご回答をお願いしたい保護者の方」
幼稚園・保育園・認定こども園：年長児・5歳児の保護者の方
小学校：1年生、6年生の保護者の方
中学校：1年生、3年生の保護者の方

「アンケートのご回答にあたって」

- 1 集計結果は統計的に処理されますので、個人のお名前が特定されることは
ありません。また、アンケート用紙には、お名前などの個人情報を書かない
でください。
- 2 質問のご回答として、あてはまる番号に○をつけてください。また、「そ
の他」を選択した場合などは、その内容を（ ）内に記入してください。
- 3 対象となるお子さんが2人以上いらっしゃる場合は、複数のアンケート用
紙が帰ります。誠にお手数をおかけいたしますが、それぞれのお子さんにつ
いてご回答ください。
- 4 ご回答いただきましたら、お子さんの担任の先生にご提出ください。
- 5 お問い合わせ先 草加市教育委員会 子ども教育連携推進室
電話 022-3494

問1 問2で3、4、5に○をつけた場合に答えてください

「お子さんが、学校の授業を理解していない理由や原因は何だと思いますか。（あてはま
るものすべてに○）」

- | | | |
|------------|---------------|--------------|
| 1 学習内容が難しい | 2 授業に集中できていない | 3 教え方が適当ではない |
| 4 わからない | 5 その他（ ） | |

問4 お子さんの、学校以外での1日の平均学習時間（1日あたりの学習の時間を食ひ）は、ど のくらいですか。（○は1つだけ）

- | | | |
|---------|---------|-------------------|
| 1 30分以内 | 2 1時間以内 | 3 2時間以内 |
| 4 3時間以内 | 5 4時間以内 | 6 5時間以内 |
| 7 6時間以内 | 8 6時間超 | 9 学校以外ではほとんど勉強しない |

家庭での教育について

問5 あなたは、家庭で教育やしつけを行うことは、子どもが健全に育つために、重要だと思 いますか。（○は1つだけ）

- | | |
|---------|----------|
| 1 重要である | 2 重要ではない |
| 理由（ ） | |

問6へお進みください 問8へお進みください

問6 あなたが、家庭でのしつけや教育で特に重視していることは何ですか。（○は5つまで）

- 1 早起早起、朝ごはんを食べるなどの規則正しい生活習慣
- 2 あいさつ、言葉づかいなどの礼儀作法
- 3 学校や家庭でのルールやマナーを守ること
- 4 相手のことを思いやる心
- 5 忍耐力、我慢すること、あきらめない心
- 6 親子のコミュニケーション
- 7 健康、体力の向上などのために運動させること
- 8 自分でできることは自分でやらせたり、家の手伝いをさせたりすること
- 9 近所の人と関わり、地域の行事へ参加させること
- 10 勉強する習慣を身に付け、必要な時は勉強を教えること
- 11 習い事など、学校や家庭以外で学ぶ機会を設けること
- 12 読書をもってテレビを見たりゲームをしたりすること
- 13 携帯電話・スマートフォンをルールやマナーを守って使うこと
- 14 その他（ ）

問7 家庭でのしつけや教育で、特に重視していることを、お子さんは、実際にできていると 思いますか。（○は1つだけ）

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 そう思う | 2 どちらかと言えば思う |
| 3 どちらかと言えば思わない | 4 思わない |
| 5 わからない | |

中学校入学後のお子さんの様子について

問8 お子さんが現在、中学校生活で、日々楽しみにしていることは何ですか。（あてはまる ものすべてに○）【必要に応じてお子さんに聞いてください】

- | | | |
|----------------|------------|---------|
| 1 勉強 | 2 運動 | 3 新しい先生 |
| 4 新しい友達 | 5 上級生との交流 | 6 給食 |
| 7 休み時間 | 8 部活・委員会活動 | 9 部活動 |
| 10 広い校庭や大きな体育館 | 11 学校行事 | |
| 12 その他（ ） | | 13 特にない |

あてはまる番号に○を付けてご回答ください。また、「（ ）」の記述欄については、記入をお
願いします。

お子さんについての基本情報など

- | | | | | |
|-----------------------------|------|---------|------|----------|
| 学校の名前（ ） | 中学校 | お子さんの性別 | 1 男 | 2 女 |
| 対象のお子さんを含めた兄弟姉妹の人数（ ）人 | | お父様との関係 | 1 有 | 2 無 |
| お子さんからみた、このアンケートに回答いただく方の続柄 | | | | |
| 1 父親 | 2 母親 | 3 祖父 | 4 祖母 | 5 その他（ ） |

お子さんの生活の様子について

問1 お子さんの生活の様子を教えてください。それぞれあてはまる欄に○を1つだけつけて ください。

	ある （ ）	ややあ る （ ）	あまり ない （ ）	ない （ ）
早起早起と朝ごはんなど、規則正しい生活を送ることはできますか。				
外出後や食事前、手洗い・うがい・歯磨きを自分からすることはできますか。				
自分の物を整理整頓する、遅刻に身に着けるなど、身の回りのこと を自分ですることはできますか。				
教えないことをしない、交際ルールを守るなど、約束に行動することはでき ますか。				
友達と一緒に遊ぶ、自分の気持ちを伝えるなど、周囲の人とコミュニケー ションをとることはできますか。				
しっかりとしたあいさつや返事はできますか。				
順番を待つ、友達に譲るなど、我慢をすることはできますか。				
まじりや約束を守ることがあります。				
学習への意欲や、生活・周囲のさまざまな物事への関心はありますか。				
文章を読もうとする、計算や数量について理解しようとするなど、文字や 数への関心はありますか。				
人の話を静かに聞く、物事にじっくり取り組むなど、集中して何かをする ことはできますか。				

お子さんの学習の様子について

問2 お子さんは、学校での授業を理解している様子ですか。（○は1つだけ）

- | | | |
|-------------|---------------|--------------|
| 1 理解している | 2 ほぼ理解している | 3 あまり理解していない |
| 4 全く理解していない | 5 理解しようとしていない | 6 わからない |
| 7 その他（ ） | | |

問9 あなたが現在、お子さんの中学校生活について、不安を感じていることは何ですか （あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1 生活時間の変化 | 2 勉強についていけるか |
| 3 運動についていけるか | 4 50分授業を聞いていられるか |
| 5 校則を守れるか | 6 給食 |
| 7 部活動 | 8 学校行事 |
| 9 学校外の集団への適応 | 10 お子さんと先生との関係 |
| 11 お子さんと友達との関係 | 12 お子さんと上級生との関係 |
| 13 登下校の安全 | 14 学校の防犯・防災対策 |
| 15 保護者と先生・学校との関係 | 16 保護者どうしの関係 |
| 17 その他（ ） | 18 特にない（問11へお進みください） |

問10 あなたは、お子さんの中学校生活に関する不安や疑問に対して、どのように対応されて いますか（対応されたら）。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------|------------------|
| 1 学校や先生に相談する | 2 公的機関・医療機関に相談する |
| 3 家庭中心に対応する | 4 保護者どうして相談する |
| 5 その他（ ） | 6 特に対応しない |

問11 問9で18の「特にない」に○をつけた場合に答えてください

あなたが、お子さんの中学校生活に関して不安を感じていない理由は何ですか。（あては
まるものすべてに○）

- 1 小学校で、中学校との交流が行われていたから
- 2 小学校で、中学校の話を聞いていたから
- 3 小学校で、中学校入学に向けた準備に取り組みしていたから
- 4 中学校の入学説明会や健康診断で、中学校生活について話を聞いたから
- 5 お子さんの兄や姉が中学校に通っている（通っていた）から
- 6 自分自身にも、十分な適応力があると思うから
- 7 子どもが楽しそうに学校に通っているから
- 8 その他（ ）

「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる」草加の子を育むため、0歳から5歳の育ちを支える
幼稚園・保育園等、小学校、中学校（幼稚園・保育園）の連携について

問12 あなたは、草加市が幼稚園・保育園との連携に力を入れて取り組んでいることを、知っていま したか。（○は1つだけ）

- | | | |
|---------|-----------|------------|
| 1 知っていた | 2 少し知っていた | 3 全く知らなかった |
|---------|-----------|------------|

問13 あなたは、草加市が幼稚園・保育園との連携に力を入れて取り組んでいることを、子どもが健全に育つために、 重要だと思いますか。（○は1つだけ）

- | | | | |
|---------|-----------|-------------|----------|
| 1 重要である | 2 やや重要である | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
|---------|-----------|-------------|----------|

理由をお答えください

問14 あなたは、子どもたちが小学校で身に付けたことを生かすような教育活動を、中学校で行ってほしいですか。

1 はい	2 いいえ
問15へお進みください	問16へお進みください

問15 あなたは、小学校と中学校が連携して教育を行うために、中学校でどのようなことに取り組んでほしいと思いますか。（あてはまるものをすべてに○）

- 1 基本的な生活態度を小学校から教養して行うこと
- 2 中学校入学生後の環境の変化に対応して対応すること
- 3 小学校と連携を共有し、学級の運営に生かすこと
- 4 小学校での学びや育ちを、学習活動に生かすこと
- 5 幼稚園・保育園等や小学校との交流や連携を充実させること
- 6 中学校と教育の目標を共有すること
- 7 その他（ ）

お子さんの将来像について

問16 将来の社会の担い手として、中学校を卒業するまでに、お子さんに身に付けてほしい能力や考え方のうち、特に重要だと思うことは何ですか。（○は5つまで）

- 1 学力
- 2 運動能力
- 3 生活していくまでの常識、礼儀作法
- 4 きまりや約束を守る規範意識
- 5 他人を大切にし、思いやる心
- 6 あきらめず、ねばり強く挑戦することができる、たくましい心
- 7 偉の尊さを理解する心
- 8 自分を大切な存在だと認めることが出来る自己肯定感の育成
- 9 自分で考え、自分で学び、自分の判断で行動する自立心
- 10 他人との関係を円滑に築くコミュニケーション能力と自己表現力
- 11 あらゆる環境変化に対応できる柔軟性と豊かな想像力
- 12 集団を率いるリーダーシップ
- 13 犯罪、災害から身を守る注意力
- 14 勤労意欲や社会の役に立ちたいと思う心
- 15 伝統や文化を重んじ、地域を大切にすること
- 16 異文化を理解し、国際人として活動しようとする力
- 17 地球環境や自然を大切にすること
- 18 その他（ ）

最後に、子ども教育の連携や草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
お手数ですが、担任の先生へご提出ください。

草加市子ども教育の連携に関する 保護者アンケートのお願い

向夏の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
日頃から草加市の教育行政にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、草加市教育委員会では、草加市教育振興基本計画『笑顔がや
く草加教育プラン』に基づき、子ども教育の連携を推進しています。
子ども教育の連携とは、幼児期の教育、小学校教育、中学校教育を連
続した教育期間ととらえ、草加の子どもたちが安心して学び、一人ひと
りの力を伸ばすことができる環境を整備し、「自ら学び 心豊かに た
くましく生きる」草加っ子の育成を推進するものです。

本調査は、市内の子ども教育の連携について、実態等を把握し、今後
の子ども教育の連携の推進に関する第2次基本方針の策定に際し、基礎
資料となる重要な調査です。

お忙しい中、お手数をおかけいたしますが、本アンケートの趣旨をご
理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成27年6月 草加市教育委員会

＜ご回答をお願いしたい保護者の方＞
幼稚園・保育園・認定こども園：年長児・5歳児の保護者の方
小学校：1年生、6年生の保護者の方
中学校：1年生、3年生の保護者の方

＜アンケートのご回答にあたって＞

- 1 集計結果は統計的に処理されますので、個人のお名前が特定されることは
ありません。また、アンケート用紙には、お名前などの個人情報を書かない
てください。
- 2 質問のご回答として、あてはまる番号に○をつけてください。また、『そ
の他』を選択した場合などは、その内容を（ ）内に記入してください。
- 3 対象となるお子さんが2人以上いらっしゃる場合は、複数のアンケート用
紙が帰ります。誠にお手数をおかけいたしますが、それぞれのお子さんにつ
いてご回答ください。
- 4 ご回答いただきましたら、お子さんの担任の先生にご提出ください。
- 5 お問い合わせ先 草加市教育委員会 子ども教育連携推進室
電話 922-3494

あてはまる番号に○を付けてご回答ください。また、『（ ）』の記述欄については、記入をお
願いします。

お子さんについての基本情報など

学校の名前（ ） 中学校） お子さんの性別 1 男 2 女
対象のお子さんを名付けた兄弟姉妹の人数（ ）人 祖父母との同居 1 有 2 無
お子さんからみた、このアンケートに回答いただく方の続柄
1 父親 2 母親 3 祖父 4 祖母 5 その他（ ）

お子さんの生活の様子について

問1 お子さんの生活の様子を教えてください。それぞれあてはまる欄に○を1つだけつけて
ください。

	あてはまる ありません	ややあては まる	あてはまる います	ない ない
早寝早起き習慣など、規則正しい生活を送ることはできますか。				
外出後や食事時に、手洗い・うがいを自分からすることはできますか。				
自分の物を整理整頓とるなど、適切な身にたくをするなど、身の回りのこと を自分ですることばできますか。				
危ないことをしない、交通ルールを守るなど、安全に行動することはでき ますか。				
友達と一緒に遊ぶ、自分の気持ちを伝えるなど、周囲の人とコミュニケーション をとることはできますか。				
しっかりとしたあいづつや敬語はできますか。				
歯磨きや手洗い、食後に歯を磨くなど、清掃をすることはできますか。				
学習への意欲や、生活・周囲のさまざまな物事への関心はありますか。				
文章を読もうとする、計算や数値について理解しようとするなど、文字や 数への関心はありますか。				
人の顔を真顔に保つ、物事にじっくり取り組むなど、集中して何事をする ことはできますか。				

お子さんの学習の様子について

問2 お子さんは、学校での授業を理解している様子ですか。（〇は1つだけ）

- | | | |
|-------------|---------------|--------------|
| 1 理解している | 2 ほぼ理解している | 3 あまり理解していない |
| 4 全く理解していない | 5 理解しようとしていない | 6 わからない |
| 7 その他（ ） | | |

問3 問2で3、4、5に〇をつけた場合に答えてください

お子さんが、学校の授業を理解していない理由や原因は何だと思いますか。（あてはまるものをすべてに〇）

- | | | |
|------------|---------------|--------------|
| 1 学習内容が難しい | 2 授業に集中できていない | 3 教え方が適切ではない |
| 4 わからない | 5 その他（ ） | |

問4 お子さんの、学校以外での1日の平均学習時間（塾などの学習の時間を除く）は、どのくらいですか。（〇は1つだけ）

- | | | |
|---------|---------|-------------------|
| 1 30分以内 | 2 1時間以内 | 3 2時間以内 |
| 4 3時間以内 | 5 4時間以内 | 6 5時間以内 |
| 7 6時間以内 | 8 6時間超 | 9 学校以外ではほとんど勉強しない |

家庭での教育について

問5 あなたは、家庭で教育やしつけを行うことは、子どもが健全に育つために、重要だと思いますか。（〇は1つだけ）

- | | |
|---------|----------|
| 1 重要である | 2 重要ではない |
| | (理由) |

問6へお読みください

問8へお読みください

問6 家庭でのしつけや教育で、特に重視していることは何ですか。（〇は5つまで）

- 1 早寝早起き、朝ごはんを食べるなどの規則正しい生活習慣
- 2 あいさつ、言葉づかいなどの礼儀作法
- 3 学校や家庭でのルールやマナーを守ること
- 4 相手のことを思いやる心
- 5 忍耐力、我慢すること、あきらめない心
- 6 親子のコミュニケーション
- 7 健康、体力の向上などのために運動させること
- 8 自分でできることは自分でやらせたり、家の手伝いをさせたりすること
- 9 近所の人と関わり、地域の行事へ参加させること
- 10 勉強する習慣を身に付け、必要時は勉強を教えること
- 11 言い事など、学校や家庭以外で学ぶ機会を設けること
- 12 態度をもってテレビを見たりゲームをしたりすること
- 13 携帯電話・スマートフォンをルールやマナーを守って使うこと
- 14 その他（ ）

問7 家庭でのしつけや教育で、特に重視していることを、お子さんは、実際にできていると思いますか。（〇は1つだけ）

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 そう思う | 2 どちらかと言えば思う |
| 3 どちらかと言えば思わない | 4 思わない |
| 5 わからない | |

お子さんの将来について

問13 将来の社会の担い手として、中学校を卒業するまでに、お子さんに身に付けてほしい能力や考え方のうち、特に重要だと思うことは何ですか。（〇は5つまで）

- 1 学力
- 2 運動能力
- 3 生活していく上での常識、礼儀作法
- 4 きまりや約束を守る規範意識
- 5 他人を大切にし、思いやる心
- 6 あきらめず、ねばり強く挑戦することができる、たくましい心
- 7 命の尊さを理解する心
- 8 自分を大切な存在だと思うことが出来る自己肯定感の育成
- 9 自分で考え、自分で学び、自分の判断で行動する自立心
- 10 他人との関係を円滑に築くコミュニケーション能力と自己表現力
- 11 あらゆる環境変化に対応できる柔軟性と豊かな発想力
- 12 集団を率いるリーダーシップ
- 13 犯罪、災害から身を守る注意力
- 14 勤労意識や社会の役に立ちたいと思う心
- 15 伝統や文化を重んじ、地域を大切にすること
- 16 異文化を理解し、国際人として活動しようとする力
- 17 地球環境や自然を大切にすること
- 18 その他（ ）

最後に、子ども教育の課題や草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
お手数ですが、担任の先生へご提出ください。

お子さんの中学校生活の様子について

問8 お子さんが出発、中学校生活で、日々楽しみにしていることは何ですか。（あてはまるものをすべてに〇）【必要に応じてお子さんに聞いてください】

- | | | |
|----------------|------------|---------|
| 1 勉強 | 2 運動 | 3 先生 |
| 4 友達 | 5 下級生との交流 | 6 給食 |
| 7 休み時間 | 8 図書・委員会活動 | 9 部活動 |
| 10 広い校庭や大きな体育館 | 11 学校行事 | |
| 12 その他（ ） | | 13 特にない |

問9 あなたが現在、お子さんの中学校生活について、不安に感じていることは何ですか。（あてはまるものをすべてに〇）

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 生活時間の変化 | 2 勉強についていけない |
| 3 運動についていけない | 4 50分間授業を聞いていられるか |
| 5 校則を守れるか | 6 給食 |
| 7 部活動 | 8 学校行事 |
| 9 学級等の集団への適応 | 10 お子さんと先生との関係 |
| 11 お子さんと友だちとの関係 | 12 お子さんと下級生との関係 |
| 13 登下校の安全 | 14 学校の防犯、防災対策 |
| 15 保護者と先生・学校との関係 | 16 保護者どうしの関係 |
| 17 通学について | 18 その他（ ） |
| 19 特にない | |

問10 あなたは、お子さんの中学校生活に関する不安や心配に対して、どのように対応されますか（対応されました）。（あてはまるものをすべてに〇）

- | | |
|---------------|------------------|
| 1 学校（先生）に相談する | 2 公的機関・関係機関に相談する |
| 3 家庭中心に対応する | 4 保護者どうしで相談する |
| 5 その他（ ） | 6 特に対応しない |

「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる」草加っ子を目指すため、0歳から15歳の育ちを支える「幼稚園・保育園等、小学校、中学校（給保小中）」の連携について

問11 あなたは、草加市が幼稚園小中の連携に力を入れて取り組んでいることを、知っていましたか。（〇は1つだけ）

- | | | |
|---------|-----------|------------|
| 1 知っていた | 2 少し知っていた | 3 全く知らなかった |
|---------|-----------|------------|

問12 あなたは、草加市が幼稚園小中の連携に力を入れることは、子どもが健全に育つために、重要だと思いますか。（〇は1つだけ）

- | | | | |
|---------|-----------|-------------|----------|
| 1 重要である | 2 やや重要である | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
|---------|-----------|-------------|----------|

理由をお答えください

草加市子ども教育の連携に関する 教員・保育士アンケートのお願い

向夏の間、ますますご清静のこととお慶び申し上げます。
日頃から子ども教育連携推進事業にご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、市教育委員会では、平成24・25・26年度に、市内の幼稚園・保育園・小学校・中学校における子ども教育の連携の実態を把握するためのアンケート調査を実施し、その結果を基礎資料として、様々な事業を実施してまいりました。

本調査は、今年度の子どもの教育の連携について実態等を把握し、今後の子どもの教育の連携を推進するための、第2次基本方針の策定に際し、基礎資料となる重要な調査です。

お忙しい中、お手数をかけますが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成27年6月 草加市教育委員会

＜ご回答をお願いしたい先生方＞

幼稚園・保育園・認定こども園：園長、副園長又は主査、5歳児を受け持つ先生方
小学校・中学校：校長、教頭、主幹教諭、教務主任、
生徒指導主任、各学年主任、特別支援学級の担任

＜アンケートのご回答にあたって＞

- 質問の回答として、あてはまる番号に○をつけてください。また、「その他」を選択した場合など（ ）の記述欄については、その内容を（ ）内に記入してください。
- 回答が済みましたら、お手数ですが、園・学校ごとにまとめ、同封しました送付状のとおり、教育委員会にご提出ください。
- お問い合わせ先 草加市教育委員会 子ども教育連携推進室
電話 022-33404（直通）

- 【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換
- 教職員による保育参観・保育体験や授業参観
- 交流・連携について定期的に話し合うための学校・園をまわいだねづくり
- 教職員の合同研修会、授業研究会
- 連携に関するアンケートの実施
- 小学校教育への円滑な接続を支援したアプローチカリキュラムの検討、作成や実施
- その他（ ）
- ＜主に保護者が対象となる交流・連携＞
- 保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）
- 園開放、保育参観
- 保護者による保育体験
- 保護者による給食体験
- 連携に関する園だよりの作成・配付
- その他（ ）

問5 問4の選択肢に挙げられている交流・連携の内容のうち、特に重要な取組はどれだと思いますか。重要度が低いと考える前に、問4の選択肢番号及び名称と考える理由をご記入ください。（5つまで）

重要度	問4の選択肢番号（1～27）	重要と考える理由
1		
2		
3		
4		
5		

問6 交流・連携の窓口は、主にどなたが担当していますか。（○は1つだけ）

- | | | |
|-----------|--------------|----------|
| 1 園長 | 2 副園長 | 3 主査 |
| 4 教務主任・主任 | 5 年長児（5歳児）担任 | 6 その他（ ） |
| 7 決めていない | | |

問7 交流・連携の窓口の担当者は、固定して（園内で決まっています）いますか。（○は1つだけ）

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

あてはまる番号・項目に○を付けてご回答ください。また、（ ）などの記述欄については、記入をお願いします。

なお、各選択肢の回答に当たっては、園長、副園長、主査は、園全体の園況とその掌握の様子について、年長・5歳児担任は、担当する園児とその家庭の様子についてお答えください。

回答される方の基本情報

- 部名（正式名称）：（ ）
- 氏名：1 園長 2 副園長又は主査 3 年長・5歳児担任
教員・保育士：1 1～5年次 2 6～10年次
3 11～15年次 4 16年以上
- 園児の学年（平成27年3月学期、上位3校）：（園長先生のみなさんへ）
- | | | | |
|------|--------|-----|---------------------------|
| 1（ ） | 小学校（ ） | ％程度 | 事業受入れにされるおおよその割合をご記入ください。 |
| 2（ ） | 小学校（ ） | ％程度 | |
| 3（ ） | 小学校（ ） | ％程度 | |
- ※ 年長児（年長・5歳児）がいなかった場合は、1位の小学校名に「なし」とお書きください。
※ 学年が2校の場合は、2位の小学校名に「なし」とお書きください。

幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実態状況について

問1 あなたの園では、昨年度（平成26年度）に、1か所以上の幼稚園・保育園・小学校・中学校と、問4の選択肢にあるような交流・連携を行いましたか。（○は1つだけ）

- | | |
|------------|--------------------------|
| 1 はい | 2 いいえ（どことも交流・連携を行っていません） |
| 問2へお進みください | |

問2 交流・連携の相手方はどこでしたか。（あてはまるものを全てに○と相手方の数を記入）

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 幼稚園（ ）園 | 2 保育園（ ）園 |
| 3 小学校（ ）校 | 4 中学校（ ）校 |

問3 交流・連携に参画したのは、次のうち誰でしたか。（あてはまるものを全てに○）

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1 年長児（5歳児） | 2 年中児（4歳児） | 3 年少児（3歳児） |
| 4 園長 | 5 副園長又は主査 | 6 教務主任・主任 |
| 7 教員・保育士 | 8 保護者 | 9 その他（ ） |

問4 交流・連携の内容はどのようなものでしたか。（あてはまるものを全てに○）

- ＜主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携＞
- 活動や遊びを中心とした交流
 - あいさつ運動など生活面での交流
 - 運動会（体育祭）、音楽会（合唱祭）、お祭り（文化祭）などの行事交流
 - 絵画や制作などの作品交流
 - 給食交流
 - 合同での避難訓練や防災訓練
 - 学校見学、園見学、授業体験、保育体験など（職場体験などによるものを含む）
 - 校庭や敷地、施設、器具などを利用する活動
 - 園児がお散歩の途中に学校に寄って、校庭で遊んだり、トイレを借りたりする
 - その他（ ）
- ＜主に教員・保育士が中心となる交流・連携＞
- 教育方針、保育方針についての情報共有や意見交換
 - 年間行事計画についての情報共有や意見交換
 - 園だよりの企画、他校への送付
 - 連絡コーナー（掲示板）の設置
 - 【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換

問5 交流・連携を行って良かった点は何ですか。（あてはまるものを全てに○）

- 園児が小学校生活に親しみをもったり期待を寄せたりするようになった
- 園児が小学校生活にあこがれをもち、善行の活動を増強するようになった
- 教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携について話しやすくなった
- お互いの保育や教育について理解を深めることができた
- 幼児期の教育と小学校教育のつながりが見え、実践に生かすことができた
- 育ちの連続性を意識したアプローチカリキュラムづくりができてきた
- 保護者の安心につながった
- その他（ ）
- 特になし

問6 交流・連携の実施にあたって課題となる点は何ですか。（あてはまるものを全てに○）

- 連携先が多すぎて把握しにくい
- 連携の窓口となる担当者が明確でなかったり、途中で代わったりしてしまう
- 連携先が多く、全ての園・校と交流できない
- 教育・保育方針、教育・保育課程、文化の違い
- 幼稚園の（連携先との）温度差（積極性の違いや、連携先が園福利・受身の姿勢であるなど）
- 園内の教職員間の温度差
- 日程調整の難しさ
- 交流・連携する場所の確保の難しさ
- 交流・連携の準備が大変である
- 交流・連携内容の企画の難しさ
- アプローチカリキュラムにおいて連携関係を具体的にすることの難しさ
- その他（ ）
- 特になし

問7 交流・連携の実施にあたって改善したい点は何ですか。（あてはまるものを全てに○）

- 毎年、継続させていくこと
- 交流・連携の日時や時間帯を工夫すること
- 交流・連携の回数を増やすこと
- 交流・連携の内容を工夫すること
- 子どもたちの実態に合わせて交流・連携の形態を精選すること
- 交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと
- 交流・連携についての園内の温度差をなくしていくこと
- 教職員全員で取り組む体制をつくること
- 交流・連携のねらいを明確にして子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること
- 交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を生かすこと
- 円滑な接続のためにアプローチカリキュラムの内容を見直すこと
- その他（ ）
- 特になし

問11 あなたの園において、平成26年度当初と現在と比べて、他園・校との交流・連携について改善されたことはありますか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができた。連携をとりやすくなった
- 2 交流・連携の相手が増えた
- 3 交流・連携の回数が増えた
- 4 交流・連携の内容を充実することができた
- 5 子どもたちの実態に合わせて交流・連携の取組を選定することができた
- 6 交流・連携について園内の職員間の理解が深まった
- 7 事前に目標設定を行い、計画的に交流・連携ができた
- 8 その他（ ）
- 9 特になし

問12 【問12の「いいえ」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の実施が困難な理由は何ですか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 近隣に交流・連携できる園や学校がない
- 2 日程調整が難しい
- 3 交流・連携の仕方が分からない
- 4 これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない
- 5 年長児（5歳児）が少ない・いない
- 6 その他（ ）

就学に向けた取組について

問13 あなたの園では、他の幼稚園・保育園、認定こども園・小学校・中学校との交流・連携以外に、小学校教育への接続を意識した幼児期の教育を行っていますか。（○は1・2だけ）

- 1 はい
- 2 いいえ

問14へお読みください

問18へお読みください

問14 小学校教育への接続を意識した幼児期の教育として、どのようなことを行っていますか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせること【基本的な生活習慣の獲得】
- 2 戸外での遊びや運動などによる体力増進や健康づくり【運動・体力・健康づくり】
- 3 食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようという気持ちをもてること【食育】
- 4 ルールを守ることの大切さを教えること【規範意識の育成】
- 5 友だちと関わる中で思いやりや親しみをもつこと【思いやりや心の育成】
- 6 友だちと一緒に、同じ目的をもって1つのことに取り組むこと【協同的な活動】
- 7 言葉を通して先生や友達と心を通わせたり、大勢の前で発表したりする機会を設けること【表現力の育成】
- 8 当番活動などを行うこと【当番活動】
- 9 絵や工作、歌や楽器などによる創作的な活動【創作的な活動】
- 10 文字や数に興味・関心をもちさせること【文字や数への親しみ】
- 11 集中して1つのことに取り組む時間を持つこと【集中力の育成】
- 12 小学校以降の育ちの連続性を意識したカリキュラムの実施【継続的カリキュラム】
- 13 その他（ ）

問15 問14の「小学校教育への接続を意識した幼児期の教育」についての回答の中で、特に重要だと考えるものはどれですか。問14の選択肢の番号で3つまでお答えください。

- 1
- 2
- 3
- 4

問16 小学校教育への接続を意識した幼児期の教育を、いつ頃から行っていますか。（○は1・2だけ、初月頃から行っているかを記入）

- 1 年長（5歳児）の（ ）月頃から
- 2 年中（4歳児）の（ ）月頃から
- 3 年少（3歳児）の（ ）月頃から
- 4 その他（ ）

問17 あなたの園では、就学に向けた具体的な取組として、どのようなことを行っていますか。（あてはまるものを全てに○、開始時期（年長・5歳児、年中・4歳児、年少・3歳児）の初月頃から行っているかを記入）

- 1 小学校の登校時間に合わせて登園時間を早める（ ）の（ ）月頃から
- 2 登園の時刻をなくす（ ）の（ ）月頃から
- ※ 登園の時刻がない場合は、「なし」と記入してください。
- 3 子ども自身にハンカチ・ティッシュを持たせる（ ）の（ ）月頃から
- 4 上履きを履いて生活する（ ）の（ ）月頃から
- 5 立ったまま着替える練習をする（ ）の（ ）月頃から
- 6 和式トイレに慣れる練習をする（ ）の（ ）月頃から
- 7 自分の名前が読めるようになる（ ）の（ ）月頃から
- 8 決められた時間内に食事ができるようにする（ ）の（ ）月頃から
- 9 あいさつや進事がしかりできるようにする（ ）の（ ）月頃から
- ※ 就学を意識して取り組むようになる時期を記入してください。
- 10 時間を意識して活動を行う（ ）の（ ）月頃から
- 11 身の回りの物など自分から選んで持ち帰れるようにする（ ）の（ ）月頃から
- ※ 就学を意識して取り組むようになる時期を記入してください。
- 12 その他（上記1～11の他に園で取り組んでいることがある場合に取組の内容と開始時期を記入）（ ）の（ ）月頃から
- （ ）の（ ）月頃から
- （ ）の（ ）月頃から

問18 卒園児が就学する小学校に対して、どのようなことを期待しますか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 基本的な生活指導の継続
- 2 入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮
- 3 指導要録・保育記録や情報交換を生かしたクラス編成
- 4 幼稚園・保育園での学びや育ちを生かした学習活動
- 5 卒園児の入学後の状況を幼稚園・保育園が把握できる機会の提供
- 6 交流・連携の実施
- 7 卒園児がスムーズに小学校での生活や学習に適応できるようにするための、スタートカリキュラムの実施
- 8 卒園児一人ひとりの状況に応じた配慮
- 9 その他（ ）
- 10 特になし

家庭教育への支援について

問19 子どもたちの育ちを支えるために、家庭との連携や、家庭教育を支援する必要性を感じますか。（○は1・2だけ）

- 1 はい
- 2 いいえ（下に理由をご記入ください）

問20へお読みください

ご意見へお読みください

問20 家庭との連携や家庭教育を支援する必要性を感じる理由は何ですか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 園だけの活動では、子どもの発達や成長の全てにかかわることができないから
- 2 園と家庭が連携・協力し、子どもの発達や成長を支えるべきだから
- 3 子どもの発達や成長を支える、家庭の教育力が不足していると感じるから
- 4 子どもの発達や成長について、家庭が園を頼り、頼られてくるから
- 5 その他（ ）

問21 家庭教育への支援を行う場合、具体的に、特に、どのような内容について、保護者に対し支援を行いますか。（○は3つまで）

- 1 「環境早起き朝ごはん」など、基本的な生活習慣や生活リズムの身に付け方
- 2 子どもと成長に合わせた親としてのかわり方
- 3 子どものほめ方、叱り方
- 4 子どもとのやる気の伸ばし方
- 5 読み聞かせの大切さ
- 6 テレビ、ゲーム、携帯、スマートフォンなどのメディアとの上手な付き合い方
- 7 その他（ ）

問22 家庭との連携や家庭教育を支援するために有効だと考える機会や方法などは、何ですか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 園からの「おたより」などの配付物を読んでもらう
- 2 保護者会に参加してもらう
- 3 保育参観・保育体験に参加してもらう
- 4 保護者向け講座に参加してもらう
- 5 保護者向けのワークショップ（参加者が話し合い学び合う会）に参加してもらう
- 6 保護者と直接相談をする
- 7 小学校の教員から、小学校生活について話を聞く機会を設ける
- 8 その他（ ）

問23 家庭との連携や家庭教育への支援を行う上での課題は何ですか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 家庭教育への支援の方法が分からない
- 2 家庭教育に関心の低い保護者や課題を抱える保護者への効果的な取組がない
- 3 多忙で園の行事に参加できない保護者への効果的な取組がない
- 4 保護者に興味をもってもらえる交流や講演会がない、又は不足している
- 5 保護者が気軽に相談できる機会や場所がない、又は不足している
- 6 家庭教育への支援のために実施している取組内容が断片的で、保護者に十分に伝わらない
- 7 職員が多忙であり、十分な支援ができない
- 8 特定の家庭に対する支援に時間がかかり、その他の家庭への支援を十分に行うことができない
- 9 講演会やワークショップの講師の手配が難しい
- 10 その他（ ）

最後に、あなたの園や地域での交流・連携の取組状況、子ども教育の連携推進事業、草創期の教育についてご意見などがあれば、自由に記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

小学校用（校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、学年主任、特別支援学級の担任）

草加市子ども教育の連携に関する 教員・保育士アンケートのお願い

向夏の間、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
日頃から子ども教育連携推進事業にご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、市教育委員会では、平成24・25・26年度に、市内の幼稚園・保育園・小学校・中学校における子ども教育の連携の実態を把握するためのアンケート調査を実施し、その結果を基礎資料として、様々な事業を実施してまいりました。

本調査は、今年度の子どもの教育の連携について実態等を把握し、今後の子どもの教育の連携を推進するための、第2次基本方針の策定に際し、基礎資料となる重要な調査です。

お忙しい中、お手数をかけますが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成27年6月 草加市教育委員会

＜ご回答をお願いしたい先生方＞

幼稚園・保育園・認定こども園：園長、副園長又は主査、5歳児を受け持つ先生方
小学校：校長、教頭、主幹教諭・教務主任、
生徒指導主任、各学年主任、特別支援学級の担任

＜アンケートのご回答にあたって＞

- 質問の回答として、あてはまる番号に○をつけてください。また、「その他」を選択した場合など（ ）の記述欄については、その内容を（ ）内に記入してください。
- 回答が済みましたら、お手数ですが、園・学校ごとにまとめ、同封しました送付状のとおり、教育委員会にご提出ください。
- お問い合わせ先 草加市教育委員会 子ども教育連携推進室
電話 022-3494（直通）

小学校用（校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、学年主任、特別支援学級の担任）

9 校庭や敷地、施設、遊具などを利用する活動
10 園児がお散歩の途中に学校に寄って、校庭で遊んだり、トイレを借りたりする
11 その他（ ）

＜主に教員・保育士が中心となる交流・連携＞
12 中学校教員による、小学校での乗り入れ授業の実施
13 小学校教員による、中学校での乗り入れ授業の実施
14 教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換
15 年間行事計画についての情報共有や意見交換
16 学校だよりの教頭・教務主任への送付
17 連携コーディネーター（指示板）の設置
18 【入学期】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換
19 【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換
20 教職員による保育参観、体育体験や授業参観
21 交流・連携について定期的に話し合うための学校・園をまたいだ協議づくり
22 教職員の合同研修会、授業研究会
23 連携に関するアンケートの実施
24 幼児期の学びとの連続を意識したスタートカリキュラムや、小中学校9年間を貫いたカリキュラムの検討、作成や実施
25 その他（ ）

＜主に保護者が対象となる交流・連携＞
26 保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）
27 園開放・保育参観、学校公開・授業参観
28 保護者による給食体験
29 連携に関する園だより、学校だよりの作成・配付
30 その他（ ）

図5 図4の選択順位に挙げられている交流・連携の内容のうち、特に重要な数はどれかと思われるか。重要度が高いと考える順に、図4の選択順位番号及び重要と考える理由を2記入ください。（5つまで）

重要度	図4の選択順位番号（1～27）	重要と考える理由
1		
2		
3		
4		
5		

図6 交流・連携の窓口は、主にどなたが担当していますか。（○は1つだけ）

1 校長	2 教頭	3 主幹教諭・教務主任
4 生徒指導主任	5 学年主任（年）	6 担任（年生）
7 その他（ ）	8 決めていない	

小学校用（校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、学年主任、特別支援学級の担任）

あてはまる番号・項目に○を付けてご回答ください。また、（ ）などの記述欄については、記入をお願いします。

なお、各設問の回答に当たっては、校長、教頭、主幹教諭・教務主任及び生徒指導主任は、学校全体の児童とその家庭の様子について、学年主任及び特別支援学級の担任は、担当する学年の児童とその家庭の様子についてお答えください。

回答される方の基本情報

学校名（ ） 草加市立（ ） 小学校（ ）

役職名： 1 校長 2 教頭 3 主幹教諭・教務主任
4 生徒指導主任 5 学年主任（年）
6 生徒指導（副）学年主任（年生） 7 特別支援学級の担任

教員数： 1 1～5年目 2 6～10年目
3 11～15年目 4 15年以上

入学してきた児童の出身園の数（平成27年4月入学）：（校長先生のみお答えください）
幼稚園（ ） 保育園（ ）

入学してきた児童の出身園（平成27年4月入学、上校3園）：（校長先生のみお答えください）
1（ ）幼稚園・保育園（ ） %（幼児）園入学児童数に占
2（ ）幼稚園・保育園（ ） %（幼児）あるおとこの割合
3（ ）幼稚園・保育園（ ） %（幼児）を占める割合
上校3園からの入学児童数が入学児童数全体に占める割合（平成27年度）
（校長先生のみお答えください）（ ） %

幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について

図1 あなたの学校では、昨年度（平成26年度）に、1ヵ所以上の幼稚園・保育園・小学校・中学校と、図4の選択順位にあるような交流・連携を行いましたか。（○は1つだけ）

1 はい 2 いいえ（どことも交流・連携を行っていません）

図2へお読みください

図3へお読みください

図2 交流・連携の担手方はどこでしたか。（あてはまるものを全てに○と担手方の数を記入）

1 幼稚園（ ）園 2 保育園（ ）園
3 小学校（ ）校 4 中学校（ ）校

図3 交流・連携に事柄したのは次のうち選べたか。（あてはまるものを全てに○）

1 1年生 2 2年生 3 3年生
4 4年生 5 5年生 6 6年生
7 校長 8 教頭 9 主幹教諭・教務主任
10 生徒指導主任 11 学年主任（年） 12 担任（年・特別支援学級）
13 担任外 14 保護者 15 その他（ ）

図4 交流・連携の内容はどのようなものでしたか。（あてはまるものを全てに○）

- ＜主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携＞
1 運動や学習を中心とした交流
2 あいさつ運動など生活面での交流
3 運動会（体育祭）、音楽会（合唱祭）、お祭り（文化祭）などの行事交流
4 絵画や制作などの作品交流
5 給食交流
6 合同での遊戯運動や防災訓練
7 学校・園児学、授業体験・体育体験など（職場体験などによるものを含む）
8 連携に関するアンケートの実施

小学校用（校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、学年主任、特別支援学級の担任）

図7 交流・連携の窓口の担当者は、固定して（校内で決まっています）いますか。（○は1つだけ）

1 はい 2 いいえ

図8 交流・連携を行って良かった点は何か。（あてはまるものを全てに○）

- 児童が園児に親しみをもったり、園児の入学を楽しみにしたりするようになった
- 園児と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった
- 児童が中学校生活に親しみをもったり、期待を寄せたりするようになった
- 児童が中学校生活にふさわしく、適切な学習や活動の場を得るようになった
- 教職員どうしが意見交換となり、交流・連携について話ができやすくなった
- お互いの保育や教育について理解を深めることができた
- 幼児期の教育と小学校教育、小学校教育と中学校教育のつながりが見え、実際に生かすことができた
- 育ちの連続性を意識したカリキュラムづくりができてきた
- 保護者の安心につながった
- その他（ ）
- 特になし

図9 交流・連携の窓口にあたって困難となる点は何ですか。（あてはまるものを全てに○）

- 連携先が各々であり距離に違い
- 連携の窓口となる担当者が明確でなかったり、途中で代わったりしてしまう
- 連携先が多く、全ての園・校と交流できない
- 教育・保育方針、教育・保育課程、文化の違い
- 幼稚園の（連携先との）高度な（精神的）違い、連携先が精神的・資質の面で異なるなど
- 校内の教職員間の温度差
- 日程調整の難しさ
- 交流・連携する順序の確保の難しさ
- 交流・連携の準備が大変である
- 交流・連携内容の企画の難しさ
- カリキュラムにおいて経験関係を具体的にすることの難しさ
- その他（ ）
- 特になし

図10 交流・連携の実施にあたって改善したい点は何か。（あてはまるものを全てに○）

- 毎年、継続させていくこと
- 交流・連携の日程や時間帯を工夫すること
- 交流・連携の回数を増やすこと
- 交流・連携の内容を工夫すること
- 子どもたちの実態に合わせて交流・連携の取組を精選すること
- 交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと
- 交流・連携についての校内の温度差をなくしていくこと
- 教職員全員で取り組む体制をつくること
- 交流・連携のねらいを明確にして子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること
- 交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を生かすこと
- 円滑な連携のためにカリキュラムの内容を見直すこと
- その他（ ）
- 特になし

小学校用（校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、学年主任、特別支援学級の担任）

問11 あなたの学校において、平成30年度当初と現在を比べて、協働・校との交流・連携について改善されたことはありますか。（あてはまるものを全てに○）

1 近隣の幼稚園、保育園や中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった
2 交流・連携の相手が増えた
3 交流・連携の回数が増えた
4 交流・連携の内容を充実することができた
5 子どもたちの実態に合わせて交流・連携の態様を選定することができた
6 交流・連携について校内の教職員の間で理解が深まった
7 事前に目標設定を行い、計画的に交流・連携ができた
8 その他（ ）
9 特になし

問12 【問12で2の「いいえ」に口をつけた場合にお答えください】交流・連携の実践が困難な理由は何ですか。（あてはまるものを全てに○）

1 近隣に交流・連携できる園や学校がない
2 日程調整が難しい
3 交流・連携の仕方が分からない
4 これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない
5 その他（ ）

「小1プロブレム」について
問13 問13は、校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、1年生の学年主任のみ、お答えください。

問13 現在、あなたの学校に、入学してきてからずっと「集団行動がとれない、授業中に眠ってしまったり、先生の話を聞かない」など、学校生活にうまく適応できない小学校1年生の児童は、何人いらっしゃいますか。（いない場合は、0人と回答）

1 0人
2 1人
3 2人
4 3人
5 4人
6 5人
7 6人
8 7人
9 8人
10 9人
11 10人以上

問14 現在、あなたの学校では、「入学したばかりの1年生の教室において、集団行動がとれない、授業中に眠ってしまったり、先生の話を聞かない」など、学校生活にうまく適応できない状態が続き、**学級として機能しない**などの、「小1プロブレム」といわれる状況がみられますか。（○は1つだけ）

1 はい
2 いいえ

問15へお読みください

問15 「小1プロブレム」がみられた原因はどのようなことであると考えますか。（あてはまるものを全てに○）

1 児童に基本的な生活習慣が身に付いていなかったこと
2 児童に集団生活での経験が不足していたこと
3 児童に個性が身に付いていなかったこと
4 家庭の教育力が低下していること
5 担任が、個別に支援を必要としている児童への指導と、学級全体への指導の両方を適切にできなかったこと
6 担任に基本的な指導力が欠けていたこと
7 個別に支援を必要としている児童に対して、学校としての支援体制が整っていなかったこと
8 その他（ ）

小学校用（校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、学年主任、特別支援学級の担任）

中学校進学に向けた取組について
問20 問20は、校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、6年生の学年主任のみ、お答えください。

問20 あなたの学校では、中学校進学に向けて、生徒指導や教科指導などにおける具体的な取組として、どのようなことを行っていますか。（あてはまるものを全てに○）

1 中学校への1日体験入学
2 【中学校参観】による、中学校生活についての授業
3 【中 学 生】による、中学校生活についての紹介
4 教科担任制の拡大・充実
5 中学校教員による授業（乗り入れ授業）
6 体育行事へ向けた練習への、中学校運動部の参加
7 生徒指導についての、定期的な情報交換
8 中学校の校則を踏まえた「生活のきまり」づくり
9 夏季休業中などの部活見学会・体験会への参加
10 さわやか相談室との連携
11 その他（ ）

問21 あなたの学校を卒業する児童が進学する中学校に対して、どのようなことを期待しますか。（あてはまるものを全てに○）

1 基本的な生活指導の徹底
2 入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮
3 指導要領や情報交換を生かしたクラス編成
4 小学校での学習や成長を基にした中学校での学習活動
5 卒業した児童の中学校入学後の状況を小学校が把握できる機会の提供
6 交流・連携の充実
7 卒業した児童一人ひとりの状況に応じた配慮
8 その他（ ）
9 特になし

家庭教育への支援について

問22 子どもたちの育ちを支えるために、家庭との連携や、家庭教育を支援する必要性を感じますか。（○は1つだけ）

1 はい
2 いいえ（下に理由をご記入ください）

問23へお読みください

問23 家庭との連携や家庭教育を支援する必要性を感じる理由は何ですか。（あてはまるものを全てに○）

1 学校だけの活動では、子どもの発達や成長の全てにかかわることができないから
2 学校と家庭が連携・協力し、子どもの発達や成長を支えるべきだから
3 子どもたちの発達や成長を支える、家庭の教育力が不足していると感じるから
4 子どもたちの発達や成長について、家庭が学校を頼り、相談してくるから
5 その他（ ）

小学校用（校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、学年主任、特別支援学級の担任）

問16 「小1プロブレム」とみられる状況に、どのように対応していますか。（あてはまるものを全てに○）

1 担任1人で対応している
2 学年の教職員で協力体制をとっている
3 校長、教頭、主幹教諭・教務主任などと協力体制をとっている
4 保護者や地域のボランティアなどとの協力体制を取り入れている
5 学習補助員、学級支援員、小1プロブレム対応職員が補助的に支援している
6 保護室や別の教室で個別に対応している
7 公的機関・医療機関など関係機関と協力している
8 その他（ ）

問17 「小1プロブレム」の発生の予防や解消にはどのような対応策が効果的だと思えますか。（あてはまるものを全てに○）

1 幼稚園・保育園における小学校との接続を見据えた幼児期の教育の充実
2 幼稚園・保育園と小学校の教職員どうしの合同研修や意見交換などの充実
3 幼稚園・保育園と小学校の交流活動の充実
4 学級担任の補助となる補助員などの配置
5 1学級の人数の減少
6 学級担任の指導力の向上にかかわる研修
7 学校における組織的な協力体制の構築
8 保護者の協力体制の確立
9 地域の人の協力体制の確立
10 その他（ ）
11 わからない

問18 【問14の回答にかかわらず全員お答えください】あなたの学校では、入学に際し、以下のどのような配慮や準備を何らか行っていますか。（あてはまるものを全てに○）

1 教職員の配置を工夫したり協力体制を整えたりした
2 幼稚園・保育園の教職員と情報共有を行い、学級編成や支援の参考にした
3 就学支援シートを活用して、保護者と情報共有を行い、学級編成や支援の参考にした
4 幼児期からの接続を基にしたスタートカリキュラムを作成・実施し、指導内容や方法の見直しを行った
5 保護者や地域ボランティアなどとの協力体制を取り入れた
6 その他（ ）
7 特に行っていない

問19 【問14の回答にかかわらず全員お答えください】あなたの学校に入学する児童の出身園である幼稚園や保育園に対して、どのようなことを期待しますか。（あてはまるものを全てに○）

1 基本的な生活指導の徹底
2 入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮
3 指導要領、指導要領や情報交換の内容の充実
4 小学校での学習や成長を見据えた幼稚園・保育園での教育活動
5 入学してくる児童の状況を小学校が把握できる機会の提供
6 交流・連携の充実
7 幼稚園・保育園での育ちや学びを小学校につなぐためのアプローチカリキュラムの実施
8 入学してくる児童一人ひとりの状況に応じた配慮
9 その他（ ）
10 特になし

小学校用（校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、学年主任、特別支援学級の担任）

問24 家庭教育への支援を行う場合、具体的に、特に、どのような内容について、保護者に対し支援を行いたいですか。（○は3つまで）

1 「早寝早起き朝ごはん」など、基本的な生活習慣や生活リズムの身に付け方
2 子ども成長に合わせた親としての役割や役割
3 子どもとのほめ方、叱り方
4 子どもとのやる気の伸ばし方
5 読み聞かせの大切さや家庭学習の習慣づくり
6 テレビ、ゲーム、携帯、スマートフォンなどのメディアとの上手な付き合い方
7 虐待などの危険性
8 その他（ ）

問25 家庭との連携や家庭教育を支援するために有効だと考える機会や方法などは、何ですか。（あてはまるものを全てに○）

1 学校からの「おたより」などの配付物を読んでもらう
2 保護者会に参加してもらう
3 授業参観に参加してもらう
4 保護者向けの講演会に参加してもらう
5 保護者向けのワークショップ（参加者が話し合い学び合う会）に参加してもらう
6 保護者と直接相談をする
7 その他（ ）

問26 家庭との連携や家庭教育への支援を行う上での課題は何ですか。（あてはまるものを全てに○）

1 家庭教育への支援の方法が分からない
2 家庭教育に関心の低い保護者や課題を抱える保護者への効果的な取組がない
3 多忙で学校行事に参加できない保護者への効果的な取組がない
4 保護者に興味をもってもらえる交流会や講演会がない、又は不足している
5 保護者が気軽に相談できる機会や場所がない、又は不足している
6 家庭教育への支援のために実施している研修内容が断片的で、保護者に十分に伝わらない
7 職員が多忙であり、十分な支援ができない
8 特定の家庭に対する支援に時間がかかり、その他の家庭への支援を十分に行うことができない
9 講演会やワークショップの講師の手配が難しい
10 その他（ ）

最後に、あなたの学校や地域での交流・連携の取組状況、子ども教育の連携推進事業、草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

中学校用（校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、学年主任、特別支援学級の担任）

草加市子ども教育の連携に関する 教員・保育士アンケートのお願い

向夏の間、ますますご多忙のこととお察し申し上げます。
日頃から子ども教育連携推進事業にご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、市教育委員会では、平成24・25・26年度に、市内の幼稚園・保育園・小学校・中学校における子ども教育の連携の実態を把握するためのアンケート調査を実施し、その結果を基礎資料として、様々な事業を実施してまいりました。

本調査は、今年度の子ども教育の連携について実態等を把握し、今後の子ども教育の連携を推進するための、第2次基本方針の策定に際し、基礎資料となる重要な調査です。

お忙しい中、お手数をいただきますが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成27年6月 草加市教育委員会

＜ご回答をお願いしたい先生方＞

幼稚園・保育園、認定こども園：園長、副園長又は主査、5歳児を受け持つ先生方
小学校・中学校：校長、教頭、主幹教諭・教務主任、
生徒指導主任、各学年主任、特別支援学級の担任

＜アンケートのご回答にあたって＞

- 質問の回答として、あてはまる番号に○をつけてください。また、「その他」を選択した場合など（ ）の記述欄については、その内容を（ ）内に記入してください。
- 回答が済みましたら、お手数ですが、園・学校ごとにまとめ、同封しました送付状のとおり、教育委員会にご提出ください。
- お問い合わせ先 草加市教育委員会 子ども教育連携推進室
電話 022-39494（直通）

中学校用（校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、学年主任、特別支援学級の担任）

- 連携コーナー（掲示板）の設置
 - 【入学前】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換
 - 【入学後】教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換
 - 教職員による保育参観・保育体験や授業参観
 - 交流・連携について定期的に話し合うための学校・園をまわりたい連絡づくり
 - 教職員の会合研修会・授業研究会
 - 連携に関するアンケートの実施
 - 小中学校9年間を見とおしたカリキュラムの検討、作成や実施
 - その他（ ）
- ＜主に保護者が対象となる交流・連携＞
- 保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法など）
 - 学校公開・授業参観
 - 保護者による給食体験
 - 連携に関する学校だよりの作成・配付
 - その他（ ）

図5 図4の選択肢に挙げられている交流・連携の内容のうち、特に重要な取組はどれかと思われ
ますが、重要度が高いと考える際に、**図4の選択肢番号**及び重要と考える理由をご記入くださ
い。（5つまで）

重要度	図4の選択肢 番号（1～27）	重要と考える理由
1		
2		
3		
4		
5		

図6 交流・連携の窓口は、主にどなたが担当していますか。（○は1つだけ）

- | | | |
|----------|------------|-------------|
| 1 校長 | 2 教頭 | 3 主幹教諭・教務主任 |
| 4 生徒指導主任 | 5 学年主任（ 年） | 6 担任（ 年生） |
| 7 その他（ ） | 8 決めていない | |

図7 交流・連携の窓口の担当者は、固定して（校内で決まっていますか）。（○は1つだけ）

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

中学校用（校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、学年主任、特別支援学級の担任）

あてはまる番号・項目に○を付けてご回答ください。また、（ ）などの記述欄については、記入をお願いします。

なお、各設問の回答に当たっては、校長、教頭、主幹教諭・教務主任及び生徒指導主任は、学校全体の生徒とその家庭の様子について、学年主任及び特別支援学級の担任は、担当する学年の生徒とその家庭の様子についてお答えください。

図8 図9 図10 図11 図12 図13 図14 図15 図16 図17 図18 図19 図20 図21 図22 図23 図24 図25 図26 図27 図28 図29 図30 図31 図32 図33 図34 図35 図36 図37 図38 図39 図40 図41 図42 図43 図44 図45 図46 図47 図48 図49 図50 図51 図52 図53 図54 図55 図56 図57 図58 図59 図60 図61 図62 図63 図64 図65 図66 図67 図68 図69 図70 図71 図72 図73 図74 図75 図76 図77 図78 図79 図80 図81 図82 図83 図84 図85 図86 図87 図88 図89 図90 図91 図92 図93 図94 図95 図96 図97 図98 図99 図100

- 図8 図9 図10 図11 図12 図13 図14 図15 図16 図17 図18 図19 図20 図21 図22 図23 図24 図25 図26 図27 図28 図29 図30 図31 図32 図33 図34 図35 図36 図37 図38 図39 図40 図41 図42 図43 図44 図45 図46 図47 図48 図49 図50 図51 図52 図53 図54 図55 図56 図57 図58 図59 図60 図61 図62 図63 図64 図65 図66 図67 図68 図69 図70 図71 図72 図73 図74 図75 図76 図77 図78 図79 図80 図81 図82 図83 図84 図85 図86 図87 図88 図89 図90 図91 図92 図93 図94 図95 図96 図97 図98 図99 図100

幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について

図1 あなたの学校では、昨年度（平成26年度）に、1ヵ所以上の幼稚園・保育園・小学校・中学校と、**図4の選択肢**にあるような交流・連携を行いましたか。（○は1つだけ）

- | | |
|------|--------------------------|
| 1 はい | 2 いいえ（どことも交流・連携を行っていません） |
|------|--------------------------|
- 図2 交流・連携の相手方はどこでしたか。（あてはまるものを全てに○を付す方をお願いします）

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 幼稚園（ ）園 | 2 保育園（ ）園 |
| 3 小学校（ ）校 | 4 中学校（ ）校 |

図3 交流・連携に参加したのは次のうち誰でしたか。（あてはまるものを全てに○を付す方をお願いします）

- | | | |
|------------|------------|-----------------|
| 1 1年生 | 2 2年生 | 3 3年生 |
| 4 校長 | 5 教頭 | 6 主幹教諭・教務主任 |
| 7 生徒指導主任 | 8 学年主任（ 年） | 9 担任（ 年・特別支援学級） |
| 10 副担任・担任外 | 11 保護者（ ）部 | 12 保護者（ ）部 |
| 13 その他（ ） | | |

図4 交流・連携の内容はどのようなものでしたか。（あてはまるものを全てに○を付す方をお願いします）

- ＜主に園児・児童・生徒が中心となる交流・連携＞
- 運動や学習を中心とした交流
 - あいさつ運動など生活面での交流
 - 運動会（体育祭）、音楽会（合唱祭）、お祭り（文化祭）などの行事交流
 - 絵画や製作などの作品交流
 - 給食交流
 - 合同での避難訓練や防災訓練
 - 学校・園児学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）
 - 連携に関するアンケートの実施
 - 校舎や敷地、施設、遊具などを利用する活動
 - 園児がお散歩の途中に学校に寄って、校庭で遊んだり、トイレを借りたりする
 - その他（ ）
- ＜主に教員・保育士が中心となる交流・連携＞
- 中学校教員による、小学校での参り入れ授業の実施
 - 小学校教員による、中学校での参り入れ授業の実施
 - 教育方針についての情報共有や意見交換
 - 年間行事計画についての情報共有や意見交換
 - 学校だよりの他園・他校への送付

中学校用（校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、学年主任、特別支援学級の担任）

図8 交流・連携を行って良かった点は何ですか。（あてはまるものを全てに○を付す方をお願いします）

- 生徒が園児や児童に親しみをもちたり、児童の入学を楽しみにしたりするようになった
- 園児や児童と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった
- 教職員どうしが関わり合いとなり、交流・連携について話がしやすくなった
- お互いの教育や保育について理解を深めることができた
- 幼児期の教育や小学校教育とのつながりが見え、家庭に生かすことができた
- 育ちの連続性を意識したカリキュラムづくりができてきた
- 保護者の安心につながった
- その他（ ）
- 特になし

図9 交流・連携の実施にあたって課題となる点は何か。（あてはまるものを全てに○を付す方をお願いします）

- 連携先が多忙であり依頼しにくい
- 連携の窓口となる担当者が明確でなかったり、途中で代わったりしてしまう
- 連携先が多く、全ての園・校と交流できない
- 教育・保育方針、教育・保育課程、文化の違い
- 継続性の（連携先との）温度差（積極性の違い、連携先が積極的・受身の姿勢であるなど）
- 校内の教職員間の温度差
- 日程調整の難しさ
- 交流・連携する場所の確保の難しさ
- 交流・連携の準備が大変である
- 交流・連携内容の企画の難しさ
- カリキュラムにおいて継続関係を具体的にすることの難しさ
- その他（ ）
- 特になし

図10 交流・連携の実施にあたって改善したい点は何か。（あてはまるものを全てに○を付す方をお願いします）

- 毎年、継続させていくこと
- 交流・連携の日程や時間帯を工夫すること
- 交流・連携の回数を増やすこと
- 交流・連携の内容を工夫すること
- 子どもたちの実態に合わせて交流・連携の取組を精選すること
- 交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと
- 交流・連携についての校内の温度差をなくしていくこと
- 教職員全員で取り組む体制をつくること
- 交流・連携のねらいを明確にして子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること
- 交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を生かすこと
- 円滑な接続のためにカリキュラムの内容を見直すこと
- その他（ ）
- 特になし

中学校用（校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、学年主任、特別支援学級の担任）

問11 あなたの学校において、昨年度（平成26年度）当初と現在を比べて、交流・連携について改善されたことはありますか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 近隣の幼稚園、保育園や中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった
- 2 交流・連携の相手方が増えた
- 3 交流・連携の回数が増えた
- 4 交流・連携の内容を充実することができた
- 5 子どもの意思に合わせて交流・連携の取組を選択することができた
- 6 交流・連携について校内の教職員の理解が深まった
- 7 事前に日程調整を行い、計画的に交流・連携ができた
- 8 その他（ ）
- 9 特にない

問12 【問1で2の「いいえ」に○をつけた場合にお答えください】交流・連携の取組が困難な理由は何ですか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 近隣に交流・連携できる園や学校がない
- 2 日程調整が難しい
- 3 交流・連携の仕方が分からない
- 4 これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない
- 5 その他（ ）

「中1ギャップ」について
問13 問1～問12、校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、1年生の学年主任のみ、お答えください。

問13 あなたの学校では、平成27年度に「授業内容の高度化や、先輩・後輩といった上下関係など、小学校にはなかった新しい環境になじめず、不登校になったり、生活の乱れがみられたり、学習を放棄したりなどしてしまふ生徒が**中学生になって急増する**」などの、「中1ギャップ」といわれる状況がみられますか。（○は1つだけ）

- 1 はい
- 2 いいえ

問14へお読みください

問18へお読みください

問14 問13の「はい」という回答の理由として、平成27年度の中学校1年生の生徒にあてはまる（「中1ギャップ」が発生している）状況はどれですか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 小学校6年生の時よりも、暴力行為の件数が急増している
- 2 小学校6年生の時よりも、いじめの認知件数が急増している
- 3 小学校6年生の時よりも、不登校の人数が急増している
- 4 小学校6年生の時の詳しい状況が分からないので比較できない
- 5 その他（具体的な状況）

中学校用（校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、学年主任、特別支援学級の担任）

問15 問13の回答にかかわらずお答えください あなたの学校では、入学に際し、以下のような配慮や指導を何を行っていますか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 教職員の配置の工夫や協力体制を整えた
- 2 小学校の教職員と情報共有を行い、学校編成や支援の参考にした
- 3 仮学級編成（年度当初は仮の学級編成を行い、1学期中に正式な学級編成を行うこと）を取り入れた
- 4 自校に入學してくる児童が登校する小学校で授業を行った
- 5 小学校からの生徒を意図したカリキュラムを作成・実施し、指導内容や方法の見直しを図った
- 6 保護者や地域ボランティアなどの協力体制を取り入れた
- 7 その他（ ）
- 8 特に行っていない

中学校進学に向けた取組について

問16 あなたの学校では、進学してくる小学生に就する、生徒指導や教科指導などにおける具体的な取組として、どのようなことを行っていますか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 中学校における1日体験入学
- 2 【中学校教員】が小学校で行う、中学校生活についての授業
- 3 【中 学 生】が小学校で行う、中学校生活についての紹介
- 4 中学校教員による小学校での授業（乗り入れ授業）
- 5 小学校が体育行事へ向けて行う練習や、中学校運動部の参加
- 6 生徒指導についての、定期的な情報交換
- 7 夏季休業中などの制見学会・体験会の実施
- 8 きわや相談室と小中学校の連携
- 9 その他（ ）

問17 あなたの学校に入学する生徒の出身校である小学校に対して、どのようなことを期待しますか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 基本的な生活指導の徹底
- 2 入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮
- 3 指導要領や情報交換の内容の充実
- 4 中学校での学習や成長を促進した小学校での学習活動
- 5 入学してくる生徒の状況を中学校が把握できる機会の提供
- 6 交流・連携の充実
- 7 入学してくる生徒一人ひとりの状況に応じた配慮
- 8 その他（ ）
- 9 特にない

家庭教育への支援について

問18 子どもたちの育ちを支えるために、家庭との連携や、家庭教育を支援する必要性を感じますか。（○は1つだけ）

- 1 はい
- 2 いいえ（下に理由をご記入ください）

問22へお読みください

ご意見へお読みください

中学校用（校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、学年主任、特別支援学級の担任）

問15 「中1ギャップ」がみられる要因はどのようなことであると考えますか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 生徒に基本的な生活習慣が身に付いていなかったこと
- 2 生徒のコミュニケーション能力が不足していたこと
- 3 生徒に個性が身に付いていなかったこと
- 4 生徒に、自分から物事に取り組んだり、自分で善悪の判断したりできる、自主性がまだ十分に身に付いていなかったこと
- 5 家庭の教育力が低下していること
- 6 小学校での指導方法や生徒指導が不十分であったこと
- 7 担任が、個別に支援を必要としている生徒への指導と、全校全体への指導の両方を適切にできなかったこと
- 8 担任に基本的な指導力が欠けていたこと
- 9 個別に支援を必要としている生徒に対して、学校としての支援体制が整っていなかったこと
- 10 その他（ ）

問16 「中1ギャップ」とみられる状況に、どのように対応していますか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 担任1人で対応している
- 2 学年の教職員で協力体制をとっている
- 3 校長、教頭、主幹教諭・教務主任などと協力体制をとっている
- 4 保護者や地域のボランティアなどの協力体制を取り入れている
- 5 学習補助員が補助的に支援している
- 6 保護者や別の教員（きわやか相談室を含む）などで個別に対応している
- 7 公的機関、医療機関など関係機関と協力している
- 8 その他（ ）

問17 「中1ギャップ」の発生の予防や解消にどのような対応策が効果的だとお考えですか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 小学校における中学校との接点を果たした教育の充実
- 2 小学校と中学校の教職員どうしの合同研修や意見交換などの充実
- 3 小学校と中学校の交流活動の充実（授業、課外活動など）
- 4 学級担任の補助となる補助員などの配置
- 5 1学級の人数の縮小
- 6 学級担任の指導力の向上にかかわる研修
- 7 学校における継続的な協力体制の構築
- 8 保護者の協力体制の確立
- 9 地域の人の協力体制の確立
- 10 その他（ ）
- 11 わからない

中学校用（校長、教頭、主幹教諭・教務主任、生徒指導主任、学年主任、特別支援学級の担任）

問22 家庭との連携や家庭教育を支援する必要性を感じる理由は何ですか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 学校だけの活動では、子どもの発達や成長の全てにかかわることができないから
- 2 学校と家庭が連携・協力し、子どもの発達や成長を支えるべきだから
- 3 子どもの発達や成長を支える、家庭の教育力が不足していると感じるから
- 4 子どもの発達や成長について、家庭が学校を頼り、相談してくるから
- 5 その他（ ）

問23 家庭教育への支援を行う場合、具体的に、特に、どのような内容について、保護者に対し支援を行いますか。（○は3つまで）

- 1 「準備運動会前ごはん」など、基本的な生活習慣や生活リズムの身に付け方
- 2 子どもの成長に合わせた親としてのかわり方
- 3 子どものほめ方、叱り方
- 4 子どものやる気の伸ばし方
- 5 家庭学習の習慣づくり
- 6 テレビ、ゲーム、携帯、スマートフォンなどのメディアとの上手な付き合い方
- 7 運動などの危険性
- 8 その他（ ）

問24 家庭との連携や家庭教育を支援するために有効だと考える機会や方法などは、何ですか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 学校からの「おたより」などの配付物を読んでもらう
- 2 保護者会に参加してもらう
- 3 授業参観に参加してもらう
- 4 保護者向けの講演会に参加してもらう
- 5 保護者向けのワークショップ（参加者が話し合い学び合う会）に参加してもらう
- 6 保護者と直接相談をする
- 7 その他（ ）

問25 家庭との連携や家庭教育への支援を行う上での課題は何ですか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 家庭教育への支援の方法が分からない
- 2 家庭教育に関心の低い保護者や課題を抱える保護者への効果的な取組がない
- 3 多忙で学校行事に参加できない保護者への効果的な取組がない
- 4 保護者に興味をもってもらえる交流会や講演会がない、又は不足している
- 5 保護者が気軽に相談できる機会や場所がない、又は不足している
- 6 家庭教育への支援のために実施している取組内容が断片的で、保護者に十分に伝わらない
- 7 職員が多忙であり、十分な支援ができない
- 8 特定の家庭に対する支援に時間がかかり、その他の家庭への支援を十分に行うことができない
- 9 講演会やワークショップの講師の手配が難しい
- 10 その他（ ）

最後に、あなたの学校や地域での交流・連携の取組状況、子ども教育の連携推進事業、草加市の教育についてご意見などがあれば、自由に記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

草加市子ども教育の連携に関するアンケート調査報告書

発行年月 平成２８年２月
発行 草加市教育委員会 子ども教育連携推進室
〒３４０－８５５０ 埼玉県草加市高砂１丁目１番１号
電話：０４８－９２２－３４９４（直通）